市原市文作（ぶんさく）遺跡

1989

財団法人　市原市文化財センター

序　　文

千葉県のほぼ中央に位置する市原市は、市内を南北に貫流する養老川を擁し、気候温暖で自然環境に恵まれた所であります。このため市内には、上総国分寺跡や、昨年に話題となりました稲荷台１号墳出土の「王賜」銘鉄剣など多くの埋蔵文化財が散見されます。

このような中で、昭和30年代後半に始まる京葉工業地帯の造成を機に、宅地造成、交通網の整備、ゴルフ場建設などの開発事業が多く行われてまいりました。

開発に伴い、必然的に文化財との問題が発生し、その保護と開発との調和が、大きな課題の１つとなっております。

このたびの文作遺跡の調査は、社団法人千葉県農業開発公社営の草地造成の一環として昭和61年から62年にかけて実施し、この遺跡では古代の人々の生活の場であった集落がほぼ完全な形でとらえることができました。

本報告書はその調査成果をまとめたものであり、学術研究者のみならず、一般の人々にも郷土の歴史を理解するために広く活用されれば幸いに存じます。

最後に調査にあたり、ご指導、ご協力を賜りました千葉県教育庁文化課、社団法人千葉県農業開発公社をはじめ、関係諸機関に対し厚くお礼申し上げます。

平成元年３月

市原市教育委員会
教育長　星　野　一　郎

例　　言

1　本書は、千葉県市原市葉木地先の千葉県農業開発公社営の草地造成事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　本書に所収する内容は、千葉県市原市葉木字文作325番地他に所在する文作遺跡についての報告書である。

3　発掘調査は、千葉県農業開発公社ならびに市原市の委託を受け、千葉県教育委員会、市原市教育委員会の指導のもと、財団法人市原市文化財センターが実施した。

4　調査対象面積は18,500㎡であり、確認調査では10％にあたる1,850㎡について発掘調査をおこない、その結果を受け、調査対象地区全域に対して本調査を実施した。

5　調査対象面積18,500㎡のうち4,625㎡を文化庁補助事業として市原市が、13,875㎡を農林水産省の補助をうけた千葉県農業開発公社が按分し、それぞれの費用を負担した。

6　発掘調査、整理作業は、下記のとおりに行った。

確認調査	昭和62年２月１日～昭和62年３月31日	担当　大村　直
本調査	昭和62年６月１日～昭和62年12月25日	担当　加藤正信　大村　直
整理作業	昭和63年５月６日～平成元年３月20日	担当　大村　直

7　本書の執筆、作成は大村直が行ったが、写真図版については石田広美、加藤正信が担当した。またⅠ－１は市原市教育委員会文化課に原稿をお願いした。他に石器石質の同定については近藤敏の協力を得た。

8　市原市文化財センター調査コードは、（セ55）である。

市原市文化財センター組織表

昭和61年度（確認調査）

役　員

理事長	星野一郎	（教育委員会教育長）
副理事長	横濱辰夫	（教育委員会教育指導部長）
常務理事	岩見一民	（専任）
理　事	滝口　宏	（早稲田大学名誉教授）
理　事	寺村光晴	（和洋女子大学教授）
理　事	海上信久	（姉崎神社宮司）
理　事	松崎良一	（市企画部長）
理　事	斎藤栄亮	（市総務部長）
理　事	地引希壹	（市都市部長）
理　事	松下　隆	（市総務部財政課長）
監　事	白鳥一夫	（市会計課長）
監　事	斎藤崇雄	（教育委員会総務課長）

職　員

庶務課

課長	田丸萬富
主事補	大鐘光江
事務員(嘱託)	秋田晴美
事務員(嘱託)	石渡あゆみ

調査課

課長	清藤一順
主幹	石田広美
主幹	山口直樹
主任調査研究員	宮本敬一
主任調査研究員	米田耕之助
調査研究員	田中清美
調査研究員	浅利幸一
調査研究員	大村　直
調査研究員	近藤　敏
調査研究員	高橋康男
調査研究員	田所　真
調査研究員	木對和紀
調査研究員(嘱託)	田中新史
調査研究員(嘱託)	半田堅三
調査研究員(嘱託)	鈴木英啓
事務員(嘱託)	高浦貞子
事務員(嘱託)	長谷川いづみ

昭和62年度（本調査）

役　員

理事長	星野一郎	（教育委員会教育長）
副理事長	大野　皎	（教育委員会教育指導部長）
常務理事	岩見一民	（専任）
理　事	滝口　宏	（早稲田大学名誉教授）
理　事	寺村光晴	（和洋女子大学教授）
理　事	海上信久	（姉崎神社宮司）
理　事	飯山英雄	（市企画部長）
理　事	宮崎芳雄	（市総務部長）
理　事	地引希壹	（市都市部長）
理　事	安藤隆一	（市総務部財政課長）
監　事	元吉末喜	（市会計課長）
監　事	斎藤崇雄	（教育委員会総務課長）

職　員

庶務課

課　長	田丸萬富	
主事補	大鐘光江	
事務員(嘱託)	秋田晴美	
事務員(嘱託)	石渡あゆみ	

調査課

課　長	清藤一順
主　幹	石田広美
主　幹	加藤正信
主任調査研究員	宮本敬一
主任調査研究員	米田耕之助
調査研究員	田中清美
調査研究員	浅利幸一
調査研究員	大村　直
調査研究員	近藤　敏
調査研究員	高橋康男
調査研究員	田所　真
調査研究員	木對和紀
調査研究員(嘱託)	田中新史
調査研究員(嘱託)	半田堅三
事務員(嘱託)	高浦貞子
調査補助員(嘱託)	田中裕子

昭和63年度（整理）

役　員

理事長	星野一郎	（教育委員会教育長）
副理事長	大野義規	（教育委員会社会教育部長）
常務理事	須田昇三	（専任）
理　事	滝口　宏	（早稲田大学名誉教授）
理　事	寺村光晴	（和洋女子大学教授）
理　事	海上信久	（姉崎神社宮司）
理　事	根本正夫	（市企画部長）
理　事	宮崎芳雄	（市総務部長）
理　事	地引希壹	（市都市部長）
理　事	安藤隆一	（市総務部財政課長）
監　事	元吉末喜	（市会計課長）
監　事	河野徳三	（教育委員会総務課長）

職　員

庶務課

課　長	田丸萬富	
主事補	大鐘光江	
事務員(嘱託)	秋田晴美	
事務員(嘱託)	石渡あゆみ	

調査課

課　長	石田広美
主　幹	加藤正信
主任調査研究員	宮本敬一
主任調査研究員	田中清美
調査研究員	浅利幸一
調査研究員	大村　直
調査研究員	近藤　敏
調査研究員	高橋康男
調査研究員	田所　真
調査研究員	木對和紀
調査研究員(嘱託)	田中新史
調査研究員(嘱託)	半田堅三
事務員(嘱託)	高浦貞子
事務員(嘱託)	田中裕子

凡　　例

1　遺構、遺物の挿図の縮尺は、竪穴住居跡が１/80、掘立柱建物跡が１/100、土坑が１/60、土器・石器が１/３、土製支脚が１/４、鉄器が１/２を基準とした。

2　方位は、座標北である。

3　遺構断面図、水糸線上の数字は、海抜高度を示す。

4　挿図遺物番号のうち、○を付したもの(①②③…)は、床面上から出土したものである。

5　焼土については、断面図・平面図の対応が不完全であるため、断面図においてのみ図示した。

6　竪穴住居跡平面図、床面破線部分は、硬質部を示す。

7　遺構内遺物出土位置については、下記による。

床面　●土器　▲鉄器・スラグ　■土製品・石器・礫

覆土　○土器　△鉄器・スラグ　□土製品・石器・礫

8　遺構面積は、ウチダデジタルプラニメーターＫＰ－90を使用して実測図より測定した。
竪穴住居跡、確認面・床面・内区各面積測定の基準は下図の通りである。周溝部については、検出の有無の別があるため、これを基準化するうえで床面面積に含めた。内区については柱痕跡を基準としたが、不明確なものについては柱穴掘形最深部による。

9　竪穴住居跡主軸の設定については、カマドおよび梯子穴の位置を基準とした。また、主軸長についてはカマド煙道部を除いている。

10　土器表のうち、(須恵器）は「くすべ焼成」を含む非還元のものをさす。

11　土器実測図において、漆仕上・黒色処理・赤彩・須恵器・灰釉は下図により表記した。

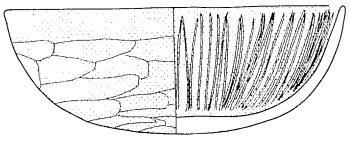
12　土器器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖　1988年版』日本色研事業株式会社発行、を基準とした。

13　土器観察表において、土器の上下、左右とは、土器を正立させ、正面から見た場合を示す。

14　土器容量について、容量Ａは実際に砂粒を入れ測定したものであり、容量Ｂは土器実測図をもとに土器内径を１cmに輪切りにし、下記の数式により算出したものである。

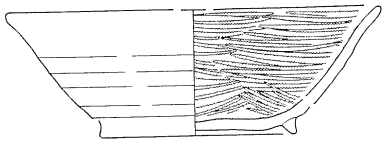
$$容量B=\pi\left\{\left(\frac{半径\ r_1+r_2}{2}\right)^2+\left(\frac{半径\ r_2+r_3}{2}\right)^2+\cdots\cdots\right\}$$

漆仕上

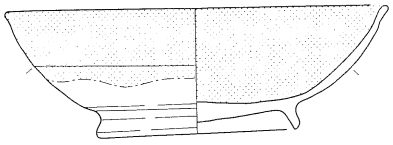


須恵器

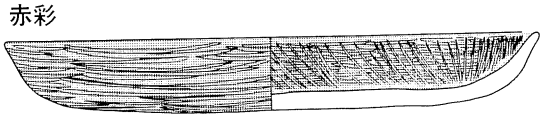
黒色処理



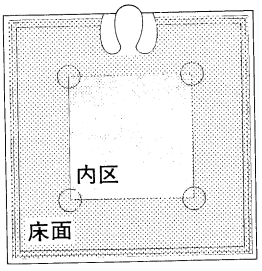
灰釉



赤彩



竪穴住居跡面積



確認面（掘り込み面）

本 文 目 次

序　文
例　言
市原市文化財センター組織表
凡　例
I　調査の経緯と概要
1　調査にいたる経緯……1
2　遺跡の立地と環境……1
3　調査の概要と結果……2
II　遺 構 と 遺 物
1　竪穴住居跡……17
2　掘立柱建物跡……174
3　掘立柱列……192
4　溝……192
5　土　坑……193
III　お　わ　り　に……262

挿 図 目 次

第 1 図　文作遺跡位置図（1/200000）……1
第 2 図　グリッドの設定……2
第 3 図　文作遺跡位置図（1/25000）……3
第 4 図　調査地と周辺の地形（1980年作成図）（1/2500）……4
第 5 図　調査地と周辺の地形（1985年作成図）（1/6000）……5
第 6 図　下ヶ谷台遺跡 3 号住居跡出土遺物 …7
第 7 図　文作遺跡全体図(1)（1/1500）……8
第 8 図　文作遺跡全体図(2)（1/1200）……9
第 9 図　文作遺跡全体図(3)（1/250）……10
第 10 図　文作遺跡全体図(4)（1/250）……11・12
第 11 図　文作遺跡全体図(5)（1/250）……13・14
第 12 図　文作遺跡全体図(6)（1/250）……15・16
第 13 図　竪穴住居01・02……19
第 14 図　竪穴住居03……20
第 15 図　竪穴住居04(1)……21
第 16 図　竪穴住居04(2)……22
第 17 図　竪穴住居05・06(1)……23
第 18 図　竪穴住居06(2)・07(1)……24
第 19 図　竪穴住居07(2)・08(1)……25
第 20 図　竪穴住居08(2)……26
第 21 図　竪穴住居09……27
第 22 図　竪穴住居10……29
第 23 図　竪穴住居11(1)……30
第 24 図　竪穴住居11(2)・12……31
第 25 図　竪穴住居13・14……33
第 26 図　竪穴住居15……34
第 27 図　竪穴住居16……35
第 28 図　竪穴住居17・18(1)……37
第 29 図　竪穴住居18(2)……38
第 30 図　竪穴住居18(3)……39
第 31 図　竪穴住居18(4)……41
第 32 図　竪穴住居18(5)……42
第 33 図　竪穴住居19・20……43
第 34 図　竪穴住居21・22……44
第 35 図　竪穴住居23(1)……45
第 36 図　竪穴住居23(2)……46
第 37 図　竪穴住居24……47
第 38 図　竪穴住居25・26……49

第 39 図　竪穴住居27・28 ……51
第 40 図　竪穴住居29(1) ……52
第 41 図　竪穴住居29(2) ……53
第 42 図　竪穴住居29(3) ……54
第 43 図　竪穴住居30 ……55
第 44 図　竪穴住居31 ……57
第 45 図　竪穴住居32(1) ……58
第 46 図　竪穴住居32(2) ……59
第 47 図　竪穴住居33 ……60
第 48 図　竪穴住居34 ……61
第 49 図　竪穴住居35 ……62
第 50 図　竪穴住居36 ……63
第 51 図　竪穴住居37 ……64
第 52 図　竪穴住居38(1) ……65
第 53 図　竪穴住居38(2) ……66
第 54 図　竪穴住居39 ……67
第 55 図　竪穴住居40(1) ……68
第 56 図　竪穴住居40(2) ……69
第 57 図　竪穴住居41 ……70
第 58 図　竪穴住居42・43(1) ……71
第 59 図　竪穴住居43(2) ……72
第 60 図　竪穴住居44(1)・45(1) ……73
第 61 図　竪穴住居44(2)・45(2) ……75
第 62 図　竪穴住居46(1)・47(1) ……76
第 63 図　竪穴住居46(2)・47(2) ……77
第 64 図　竪穴住居48(1) ……79
第 65 図　竪穴住居48(2) ……80
第 66 図　竪穴住居48(3)・49(1) ……81
第 67 図　竪穴住居49(2) ……82
第 68 図　竪穴住居50(1)・51(1) ……83
第 69 図　竪穴住居50(2)・51(2) ……85
第 70 図　竪穴住居52(1) ……87
第 71 図　竪穴住居52(2) ……88
第 72 図　竪穴住居53(1)・54(1) ……89
第 73 図　竪穴住居53(2)・54(2) ……90
第 74 図　竪穴住居54(3)・55(1) ……91
第 75 図　竪穴住居55(2) ……93
第 76 図　竪穴住居56・57 ……94
第 77 図　竪穴住居58 ……95
第 78 図　竪穴住居59・60(1) ……97
第 79 図　竪穴住居60(2)・61(1) ……98
第 80 図　竪穴住居61(2) ……99
第 81 図　竪穴住居62(1)……101
第 82 図　竪穴住居62(2)……102
第 83 図　竪穴住居62(3)……103
第 84 図　竪穴住居63・64(1)……104
第 85 図　竪穴住居64(2)……105
第 86 図　竪穴住居65・66……107
第 87 図　竪穴住居67・68・69・70……108
第 88 図　竪穴住居71・72……109
第 89 図　竪穴住居73……111
第 90 図　竪穴住居74(1)……113
第 91 図　竪穴住居74(2)……114
第 92 図　竪穴住居74(3)・75(1)……115
第 93 図　竪穴住居75(2)・76(1)……116
第 94 図　竪穴住居76(2)・77……117
第 95 図　竪穴住居78(1)……119
第 96 図　竪穴住居78(2)・79(1)……120
第 97 図　竪穴住居79(2)……121
第 98 図　竪穴住居80・81……123
第 99 図　竪穴住居82……124
第100図　竪穴住居83・84……125
第101図　竪穴住居85(1)……127
第102図　竪穴住居85(2)・86……128
第103図　竪穴住居87(1)……129
第104図　竪穴住居87(2)……130
第105図　竪穴住居87(3)……131
第106図　竪穴住居87(4)……132
第107図　竪穴住居88(1)……133
第108図　竪穴住居88(2)……134
第109図　竪穴住居89・90……135
第110図　竪穴住居91(1)……137
第111図　竪穴住居91(2)……138
第112図　竪穴住居91(3)……139
第113図　竪穴住居91(4)・92(1)……140
第114図　竪穴住居92(2)……141
第115図　竪穴住居93・94……143
第116図　竪穴住居95……145
第117図　竪穴住居96・97……146
第118図　竪穴住居98・99……147
第119図　竪穴住居100(1) ……149
第120図　竪穴住居100(2) ……150

第121図　竪穴住居101(1) ……151
第122図　竪穴住居101(2)・102・103 ……152
第123図　竪穴住居104(1) ……153
第124図　竪穴住居104(2) ……155
第125図　竪穴住居105(1) ……156
第126図　竪穴住居105(2)・106……157
第127図　竪穴住居107 ……158
第128図　竪穴住居108(1) ……159
第129図　竪穴住居108(2)・109・110 ……161
第130図　竪穴住居111・112・113 ……162
第131図　竪穴住居114 ……163
第132図　竪穴住居115 ……165
第133図　竪穴住居116 ……166
第134図　竪穴住居117 ……167
第135図　竪穴住居118(1) ……168
第136図　竪穴住居118(2) ……169
第137図　掘立柱建物(1)……175
第138図　掘立柱建物(2)……177
第139図　掘立柱建物(3)・塀 ……179・180
第140図　掘立柱建物(4) ……181・182
第141図　掘立柱建物(5) ……183・184
第142図　掘立柱建物対応図……185
第143図　掘立柱建物(6)……187
第144図　掘立柱建物(7)……188
第145図　掘立柱建物(8)・塀……189
第146図　掘立柱建物06・07・12・16……190
第147図　溝01……192
第148図　土坑(1)……194
第149図　土坑(2)……195
第150図　土坑(3)……197
第151図　文作遺跡Ⅰ期竪穴住居跡……263
第152図　文作遺跡II期竪穴住居跡……265
第153図　文作遺跡III期竪穴住居跡……267
第154図　竪穴住居・掘立柱建物規模構成……268
第155図　文作遺跡IV期竪穴住居跡……269
第156図　文作遺跡Ⅴ・VI期竪穴住居跡……271
第157図　建替住居模式図……272
第158図　掘立柱建物跡規模構成……273
第159図　文作遺跡土器容量……274

表　目　次

第１表　新旧遺構番号対照表…… 6
第２表　竪穴住居跡一覧 ……170
第３表　掘立柱建物一覧 ……191
第４表　土器観察表 ……200
第５表　竪穴住居跡規模・建替 ……272

巻　頭　図　版

(1)　文作遺跡全景（南より）
(2)　文作遺跡全景（東より）

写　真　図　版

図版１　文作遺跡遠景（南より）
文作遺跡遠景（西より）
図版２　文作遺跡空中写真（北より）
図版３　竪穴住居群　掘立柱建物群
図版４　竪穴住居01　竪穴住居02　竪穴住居03
竪穴住居04　竪穴住居05　竪穴住居06
竪穴住居07　竪穴住居08
図版５　竪穴住居09　竪穴住居10　竪穴住居11
竪穴住居12　竪穴住居13　竪穴住居14
竪穴住居15　竪穴住居16
図版６　竪穴住居17、18　竪穴住居18遺物出土状況　竪穴住居18遺物出土状況　竪穴住居19　竪穴住居20　竪穴住居21　竪穴住居22　竪穴住居22カマド
図版７　竪穴住居群(22、23、24、25、30)　竪穴住居23　竪穴住居23カマド　竪穴住居24　竪穴住居25
図版８　竪穴住居26　竪穴住居27　竪穴住居28　竪穴住居群(29、28、27)　竪穴住居29　竪穴住居29カマド　竪穴住居30　竪穴住居31
図版９　竪穴住居32　竪穴住居32カマド　竪穴住

居33　竪穴住居35　竪穴住居36　竪穴住居37　竪穴住居38　竪穴住居38カマド
図版10　竪穴住居39、40　竪穴住居39　竪穴住居40　竪穴住居40遺物出土状況　竪穴住居41　竪穴住居42、43　竪穴住居42　竪穴住居43
図版11　竪穴住居44(45)　竪穴住居45　竪穴住居46　竪穴住居47　竪穴住居48　竪穴住居49　竪穴住居49カマド　竪穴住居50、51
図版12　竪穴住居51　竪穴住居52　竪穴住居52掘形　竪穴住居53、54、55　竪穴住居55　竪穴住居57、56　竪穴住居58　竪穴住居59
図版13　竪穴住居60　竪穴住居61　竪穴住居62　竪穴住居62カマド　竪穴住居63　竪穴住居64　竪穴住居65　竪穴住居66
図版14　竪穴住居67、68、69　竪穴住居70　竪穴住居71　竪穴住居72　竪穴住居73
図版15　竪穴住居74　竪穴住居74カマド周辺遺物出土状況　竪穴住居74カマド　竪穴住居74カマド　竪穴住居75　竪穴住居76　竪穴住居77　竪穴住居78
図版16　竪穴住居79　竪穴住居80　竪穴住居81　竪穴住居82　竪穴住居85、83(84)　竪穴住居83　竪穴住居85　竪穴住居86
図版17　竪穴住居87　竪穴住居87カマド周辺遺物出土状況　竪穴住居87カマド周辺遺物出土状況　竪穴住居88　竪穴住居88カマド　竪穴住居90、89　竪穴住居91　竪穴住居91遺物・山砂出土状況
図版18　竪穴住居92　竪穴住居93　竪穴住居94　竪穴住居95　竪穴住居96　竪穴住居97　竪穴住居100　竪穴住居101
図版19　竪穴住居102(103)　竪穴住居103(102)　竪穴住居104　竪穴住居105　竪穴住居105遺物出土状況　竪穴住居106　竪穴住居108　竪穴住居109
図版20　竪穴住居110　竪穴住居111　竪穴住居112　竪穴住居113　竪穴住居114　竪穴住居115　竪穴住居116　竪穴住居116カマド
図版21　掘立柱建物01　掘立柱建物02　掘立柱建物04　掘立柱建物05　掘立柱建物06　掘立柱建物07　掘立柱建物11　掘立柱建物12
図版22　掘立柱建物13　掘立柱建物14　掘立柱建物15　掘立柱建物16　掘立柱建物17　掘立柱建物18　掘立柱建物群　掘立柱建物群
図版23　掘立柱建物群　掘立柱建物群
図版24　土坑03、04、05、06、07、08　土坑01　土坑02　土坑14　土坑15
図版25　竪穴住居117　竪穴住居118遺物出土状況　竪穴住居118　土坑16　土坑17　土坑18　土坑19　土坑20
図版26　土坑22　土坑25　土坑34　土坑35　土坑27、28、29、30、31(左から)
図版27　出土遺物　竪穴住居04－1、4、10、11、12　竪穴住居06－5、20　竪穴住居07－8
図版28　出土遺物　竪穴住居07－6　竪穴住居08－1、7　竪穴住居09－2、5　竪穴住居10－2、4　竪穴住居11－3、5
図版29　出土遺物　竪穴住居11－4、7、8、13　竪穴住居12－2、3　竪穴住居13－1　竪穴住居14－3　竪穴住居15－6　竪穴住居16－2
図版30　出土遺物　竪穴住居17－1　竪穴住居18－7、15、20、21、22、24、25
図版31　出土遺物　竪穴住居18－5、6、8、12　竪穴住居20－2、3、4、5、8　竪穴住居22－3　竪穴住居23－6
図版32　出土遺物　竪穴住居23－8、17　竪穴住居48－19　竪穴住居28－6　竪穴住居29－1、5、9
図版33　出土遺物　竪穴住居29－6、7、11、15、16　竪穴住居30－3、4、9
図版34　出土遺物　竪穴住居31－1、4、5　竪穴住居32－2、3、5、7、9
図版35　出土遺物　竪穴住居33－6、7　竪穴住居35－4　竪穴住居36－11　竪穴住居37－10、12　竪穴住居38－6、7、8、9
図版36　出土遺物　竪穴住居39－1、4、7、8、

9　竪穴住居40－8、12、13　竪穴住居47－5

図版37　出土遺物　竪穴住居43－3　竪穴住居44－19　竪穴住居45－1　竪穴住居46－1、3、5　竪穴住居48－4、16、17　竪穴住居51－4

図版38　出土遺物　竪穴住居49－1　竪穴住居51－5、7　竪穴住居52－5　竪穴住居54－2、5、14、15　竪穴住居55－4

図版39　出土遺物　竪穴住居55－6、12　竪穴住居56－5、6　竪穴住居58－8、9　竪穴住居59－2、4　竪穴住居62－11、29

図版40　出土遺物　竪穴住居62－22、23、25、27、30、33　竪穴住居64－1、3

図版41　出土遺物　竪穴住居72－4　竪穴住居74－4、5、6、7、13、19

図版42　出土遺物　竪穴住居72－27　竪穴住居74－1、3、9、16、20、21、22、23、26

図版43　出土遺物　竪穴住居74－12、14、17、18、25、28、29　竪穴住居75－4　竪穴住居76－4　竪穴住居78－1

図版44　出土遺物　竪穴住居78－9　竪穴住居79－7　竪穴住居82－2　竪穴住居83－1　竪穴住居84－9　竪穴住居85－3、6、10、11、12　竪穴住居87－33

図版45　出土遺物　竪穴住居87－5、6、10、11、12、26、28

図版46　出土遺物　竪穴住居87－14、15、16、30　竪穴住居88－1、2、3、8

図版47　出土遺物　竪穴住居89－6　竪穴住居90－1　竪穴住居91－3、9、10、12、16、20、24

図版48　出土遺物　竪穴住居91－6、22、23、25　竪穴住居92－1、5、7、8、12、13

図版49　出土遺物　竪穴住居94－5　竪穴住居95－2、4、5　竪穴住居98－4　竪穴住居99－3、4　竪穴住居101－3　竪穴住居104－10、13、14、18

図版50　出土遺物　竪穴住居104－23　竪穴住居105－1、2、3、7、8

図版51　出土遺物　竪穴住居105－3、5、9　竪穴住居108－3、4、5、7、8

図版52　出土遺物　竪穴住居108－8　竪穴住居115－2、4、5、6　竪穴住居116－1　土坑14－2　土坑15－1、3

図版53　出土遺物　竪穴住居117－1、2、4、5、7、8、12、13　竪穴住居118－6、7

図版54　出土遺物　竪穴住居18－31、39、40、41　竪穴住居21－2　竪穴住居26－5　竪穴住居30－10　竪穴住居38－2　竪穴住居39－10　竪穴住居55－16　竪穴住居67－3　竪穴住居76－11、12　竪穴住居87－42

図版55　出土遺物　竪穴住居01－1　竪穴住居15－9　竪穴住居18－32、33、34　竪穴住居29－19　竪穴住居50－6　竪穴住居55－15　竪穴住居56－9　竪穴住居61－18　竪穴住居62－34　竪穴住居64－15　竪穴住居79－17　竪穴住居87－45　竪穴住居98－11　竪穴住居100－10　竪穴住居104－29

図版56　出土遺物　竪穴住居09－6　竪穴住居10－5　竪穴住居14　竪穴住居14－9　竪穴住居15－8　竪穴住居18－43　竪穴住居31－10　竪穴住居35－10　竪穴住居43－5　竪穴住居48－26　竪穴住居49－9　竪穴住居53－9　竪穴住居55－19　竪穴住居58－11　竪穴住居68－2　竪穴住居73－8　竪穴住居75－7、8　竪穴住居76－14　竪穴住居85－22　竪穴住居91－31　竪穴住居93－3　竪穴住居95－9　建物05

図版57　出土遺物　竪穴住居04－14　竪穴住居11　竪穴住居11－19　竪穴住居18　竪穴住居29－22　竪穴住居33－10　竪穴住居54－19　竪穴住居74－31　竪穴住居85

Ⅰ　調査の経緯と概要

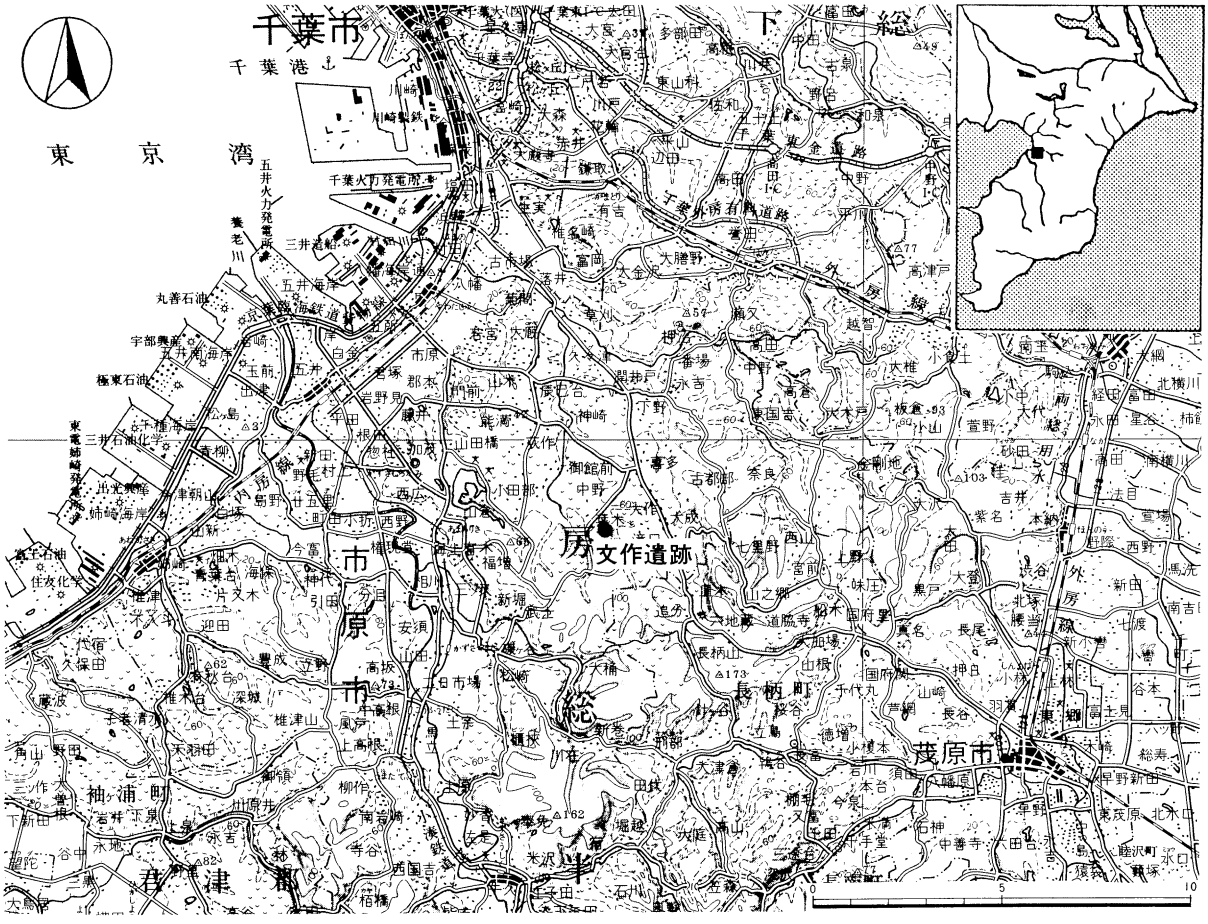
1　調査にいたる経緯

市原市葉木地先における千葉県農業開発公社営の草地造成事業の着工にさきがけ、昭和60年９月18日付けで千葉県農業開発公社理事長宮地寛より「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会が、千葉県教育委員会教育長及び市原市教育委員会教育長宛に提出された。これを受けて現地踏査等を行ったところ、昭和61年３月31日付けで千葉県教育委員会教育長より「古墳・歴史時代集落跡１ヶ所」の回答がなされた。このことから、千葉県教育庁文化課、千葉県農業開発公社、市原市教育委員会文化課の３者は埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、地区内に所在する埋蔵文化財については発掘調査を実施し記録保存とすることで結論づけられた。　　（市原市委員会文化課）

2　遺跡の立地と環境

本遺跡は、千葉県市原市葉木字文作325番地他に所在する。

市原市は、房総半島の中央部より東京湾岸にいたる南北35kmの細長い市域をもち、本遺跡はその北辺部にあたる。市原市北辺部には、別名境川と称され、古くは上総と下総を区分し、また現在も市原市と千葉市の市域を分ける一つの境界でもある村田川が西流する。その最大の支流である神崎川は、長生郡長柄町より北流し、村田川にいたる。本遺跡は、この神崎川上流の小支谷に挟まれた標高62～67



第１図　文作遺跡位置図（1/200000）（国土地理院発行地形図より）

mの台地上に位置している。水田面からの比高差は約25mを測る。

遺跡は、今回の調査対象地東側支谷を挟み南東部へ展開すると考えられ、土師器の散布が確認できる。市遺跡台帳(1)では、今回の調査対象地区を文作遺跡(遺跡番号651－1)、隣接地区を葉木台遺跡(遺跡番号651)として登録している。また千葉県作成の遺跡分布地図(2)では、一括文作遺跡(遺跡番号271)として記載されている(第3図)。なお本調査区東側支谷は、今回に先だつ草地造成により、埋めたてられている(第4・5図)。

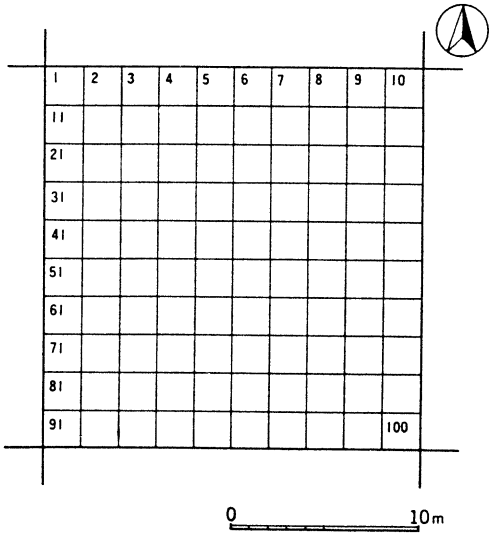
神崎川を含む村田川流域では、その北岸において、千葉東南部ニュータウン、千原台ニュータウンなど、大規模な土地区画整理事業が実施され、これに伴う発掘調査によって、草刈遺跡(第3図－20)ほか、当該地域において、いわば拠点的とも考えられるような遺跡群の内容が明らかになってきている。これに対して、村田川南岸では、辰巳台、若宮地区など、はやくから宅地開発がおこなわれているものの、全体としてはいまだ都市化の波にさらされてはいない。この村田川南岸地域では、姫宮古墳、東関山古墳などの菊間古墳群が古くより著名であり、また大厩二子塚古墳、大厩浅間様古墳、長者塚古墳群、三夜塚古墳、杉山古墳群、山王後古墳群など、全長50mをこえる前方後円墳を含む大形の古墳が各所に点在している。また神崎川流域においても、天王台古墳群、荻作古墳群などの古墳群が形成されているが、その他集落跡を含め、その内容が判明しているものはほとんど限られてしまう。過去調査が実施された遺跡は、下ヶ谷台遺跡(第3図－1)(3)、建市廃寺に隣接する勝間、武士遺跡(第3図－5)(4)、小田部古墳(墳丘墓)を含む小田部向原遺跡(第3図－6)(5)、小田部新地遺跡(第3図－7)(6)、小田部小谷吹上遺跡(第3図－8)(7)、烏堀込貝塚(第3図－9)(8)、荻作1号墳(第3図－10)(9)、祭り野遺跡(第3図－11)(10)、下鈴野遺跡(第3図－12)(11)、中潤ヶ広遺跡(円墳)(第3図－13)(12)、天王台遺跡(第3図－14)(12)、居鞍遺跡(第3図－15)(13)、山王後1号墳(第3図－16)(14)、小谷1号墳(第3図－17)(15)、大厩遺跡(第3図－18)(16)、西山遺跡(第3図－19)(17)などである。

文作遺跡周辺では、前方後円墳を含む葉木舞台古墳群(通称七塚古墳群)(第3図－2)、葉木堰ノ谷古墳群(第3図－3)、十人寄合横穴群(第3図－4)などがあり、またこの上流域には、滝口広ノ台遺跡、落井遺跡、穴ノ山遺跡など、土師器散布地が確認されている。とくに文作遺跡との関連が問題となるのは下ヶ谷台遺跡である。本調査範囲が800m²と限られているが、五領式期1軒、鬼高式期6軒の竪穴住居跡が検出されており、鬼高式期のものは、文作遺跡と時期的にほぼ連続し、今後遺跡群としての動態を問題とする上で重要であろう(第6図)。

3　調査の概要と結果

調査範囲は、造成計画地内に限られているが、遺跡としての範囲は、南側および緩斜面が連続する北側におよぶ可能性が考えられる。

調査区は公共座標を使用し、20×20mの方眼網を設定、これを大グリッドとした。確認調査ではさらに10m方眼に分割し、これを基点に2×4mのグリッドを

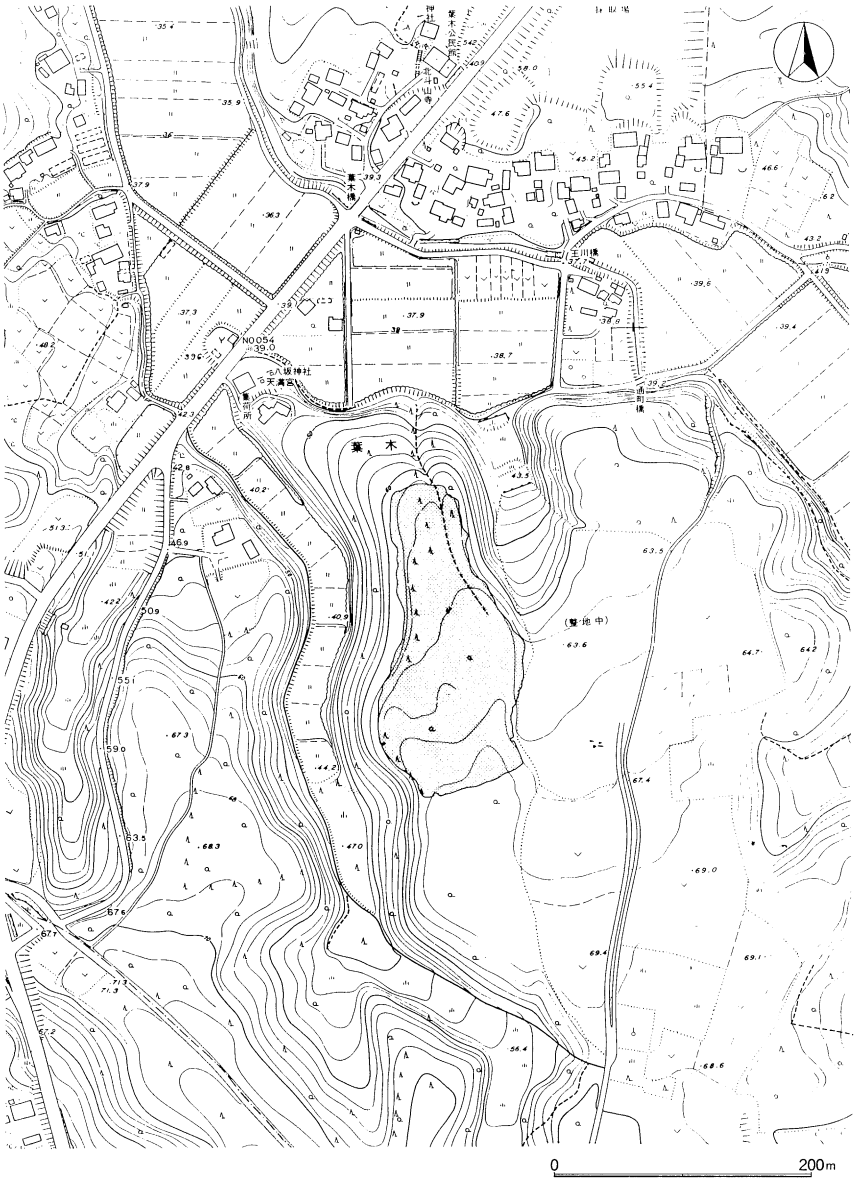


第2図　グリッドの設定

第3図　文作遺跡位置図（1/25000）

（国土地理院発行地形図より）

第4図　調査地と周辺の地形（1980年作成図）(1/2500)



第5図　調査地と周辺の地形（1985年作成図）（1/6000）

設定した。グリッドは状況に応じ拡張し、調査対象範囲の10％にあたる1,850㎡について発掘調査を実施した。確認調査の結果、全域本調査となった。

本調査における発掘区（第8図）は、大グリッドを基準とし、その呼称は西から東へA・B・B…北から南へ1・2・3…を付した。またさらにこの大グリッドを2m単位の小グリッドに分割し、北西隅から01・02・03と順に付し、南東の隅を100とした（第2図）。グリッドの呼称は、「A19－01」のようにした。これは挿図各遺構図に記し、その位置を示してある。

遺跡は雑木林を含む雑地であり、確認面までの層厚は60～110cmであった。表土層の除去はバックホウを使用した。なお調査期間等も限られ、縄文時代の遺構の存在も考慮されたため、重機により可能な限り深く掘り下げた。この結果、本来遺跡としての遺存状態は良好であったものの、一部竪穴住居跡は床面まで削平することになってしまった。

今回の発掘調査により、竪穴住居跡118軒、建替を含めた総数で149軒、掘立柱建物跡34棟、建替を含め35棟、掘立柱列1列、溝1条、土坑35基が検出された。

なお、遺構番号は、調査時では各遺構連番としていたものを、本報告では遺構の種別ごとに直している。遺物の注記等は旧番号のままであり、その対照表を下に示しておく。

(1)　市原市教育委員会　1988『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図　――北部編――』

(2)　千葉県教育委員会　1987『千葉県埋蔵文化財分布地図(3)　――市原市・君津・長生地区――』

(3)　浅利幸一　1987『下ヶ谷台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第18集

(4)　半田堅三　1976『武士遺跡』武士遺跡発掘調査団

千葉県文化財センター　1988「武士遺跡」『昭和63年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』

(5)　杉山晋作ほか　1972『古墳時代研究Ⅰ　――千葉県市原市小田部古墳の調査――』古墳時代研究会

1988年、小田部向原遺跡として周辺部を含め、市原市文化財センター再調査。

(6)　山口直樹　1985「小田部新地遺跡」『市原市文化財センター年報　昭和57・58年度』

(7)　田中清美　1979『小田部小谷吹上遺跡』能満小田部線埋蔵文化財発掘調査団

(8)　高橋康男　1986「烏堀込貝塚」『市原市文化財センター年報　昭和60年度』

(9)　1973年、市毛勲氏ほか調査。

(10)　1977年、田中清美氏調査。

(11)　大村　直　1987『下鈴野遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第16集

(12)　木對和紀　1988『中潤ヶ広遺跡・天王台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第27集

(13)　1988年、市原市文化財センター調査。

(14)　1977年、田中清美氏調査。

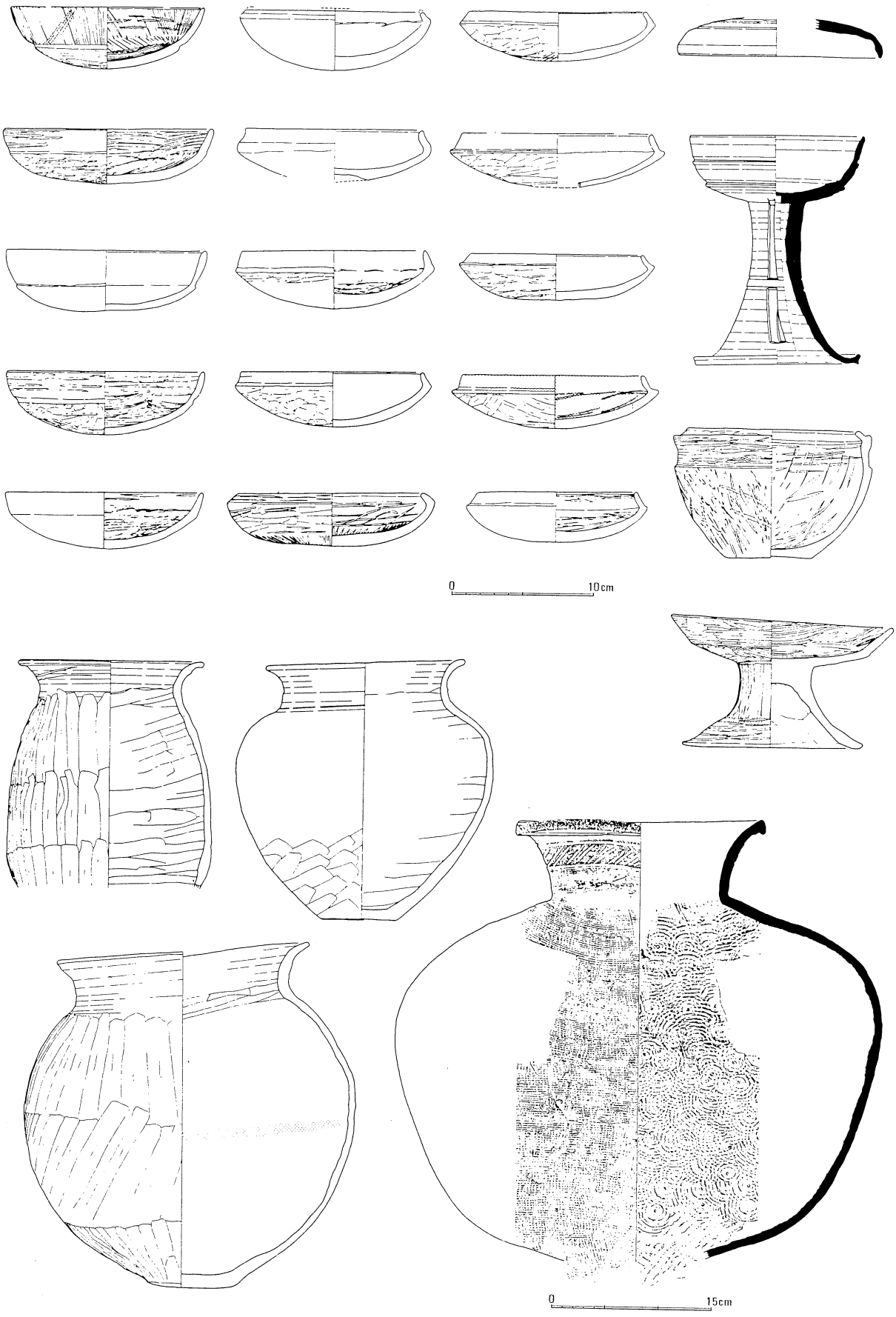
(15)　1988年、市原市文化財センター調査。

(16)　三森俊彦ほか　1974『市原市大厩遺跡』財団法人千葉県都市公社

(17)　鈴木英啓　1986『潤井戸西山遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第９集

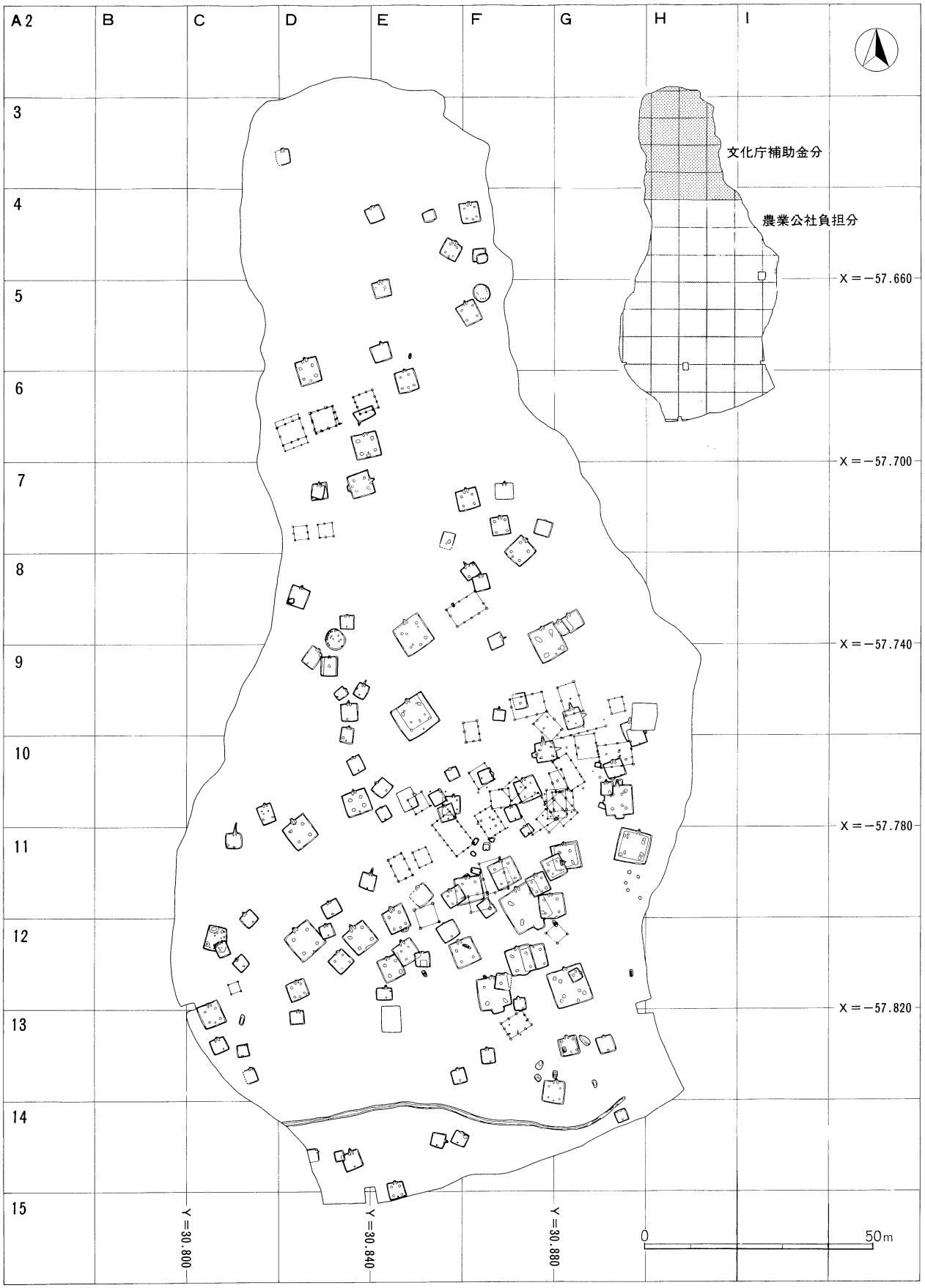
新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
竪穴住居跡		25B	42	48B	59	65	89	91A	131	114	156	23	173	17	10
01	6	26	39	48C	59	66	99	91B	131	115	157	24	174	18	11
02	7	27	46	49A	78	67	72	91C	131	116	158	25	175	19	12
03A	8	28	45	49B	78	68	71	92	140	117	163	26	176	20	13
03B	8	29A	44	50A	82	69	73	93	139	118	164	27	178	21	21
04A	14	29B	44	50B	82	70	84	94	107	掘立柱建物跡		28	179	22	22
04B	14	30	43	51A	83	71	70	95A	134	01	20	29	181	23	62
05	23	31A	48	51B	83	72	76	95B	134	02	35	30	182	24	90
06	24	31B	48	52A	1	73A	86	96	135	03	141	31	184	25	57
07A	18	32	50	52B	1	73B	86	97	136	04	160	32	185	26	77
07B	18	33	3	52C	1	74	87	98	137	05	161	33	186	27	94
08	19	34	52	53	119	75	69	99	142	06	167	34	189	28	95
09	17	35A	53	54A	120	76	88	100A	138	07A	168	土	坑	29	96
10	15	35B	53	54B	120	77	85	100B	138	07B	169	01	34	30	97
11	26	36A	51	54C	120	78A	92	101A	146	08	162	02	48	31	98
12	33	36B	51	54D	120	78B	92	101B	146	09	63	03	112	22	159
13	27	37	49	55	118	79	91	102	145	10	93	04	111	33	165
14	28	38	64	56	171A	80	104	103	145	11	126	05	110	34	16
15	29	39	65	57	171B	81	103	104A	147	12	67	06	108	35	154
16	32	40	66	58	79	82	102	104B	147	13	68	07	109	溝	
17	30	41	58	59	80	83	101A	105	148	14	74	08	113	01	5
18	31	42	54	60	81	84	101B	106	150	15	75	09	190	塀	
19	41	43	55	61A	114	85	100	107	151	16	115	10	144	01	183
20	25	44A	2	61B	114	86	106	108	149	17	127	11	188	欠	番
21	38	44B	2	61C	114	87A	105	109	153	18	128	12	130	36	
22	40	45	4	62A	121	87B	105	110	152	19	123	13	143	56	
23	37	46	60	62B	121	88	124	111	154	20	116	14	122	180	
24	47	47	61	63	170	89	133	112	155	21	117	15	125		
25A	42	48A	59	64	129	90	132	113	166	22	172	16	9		

第１表　新旧遺構番号対照表

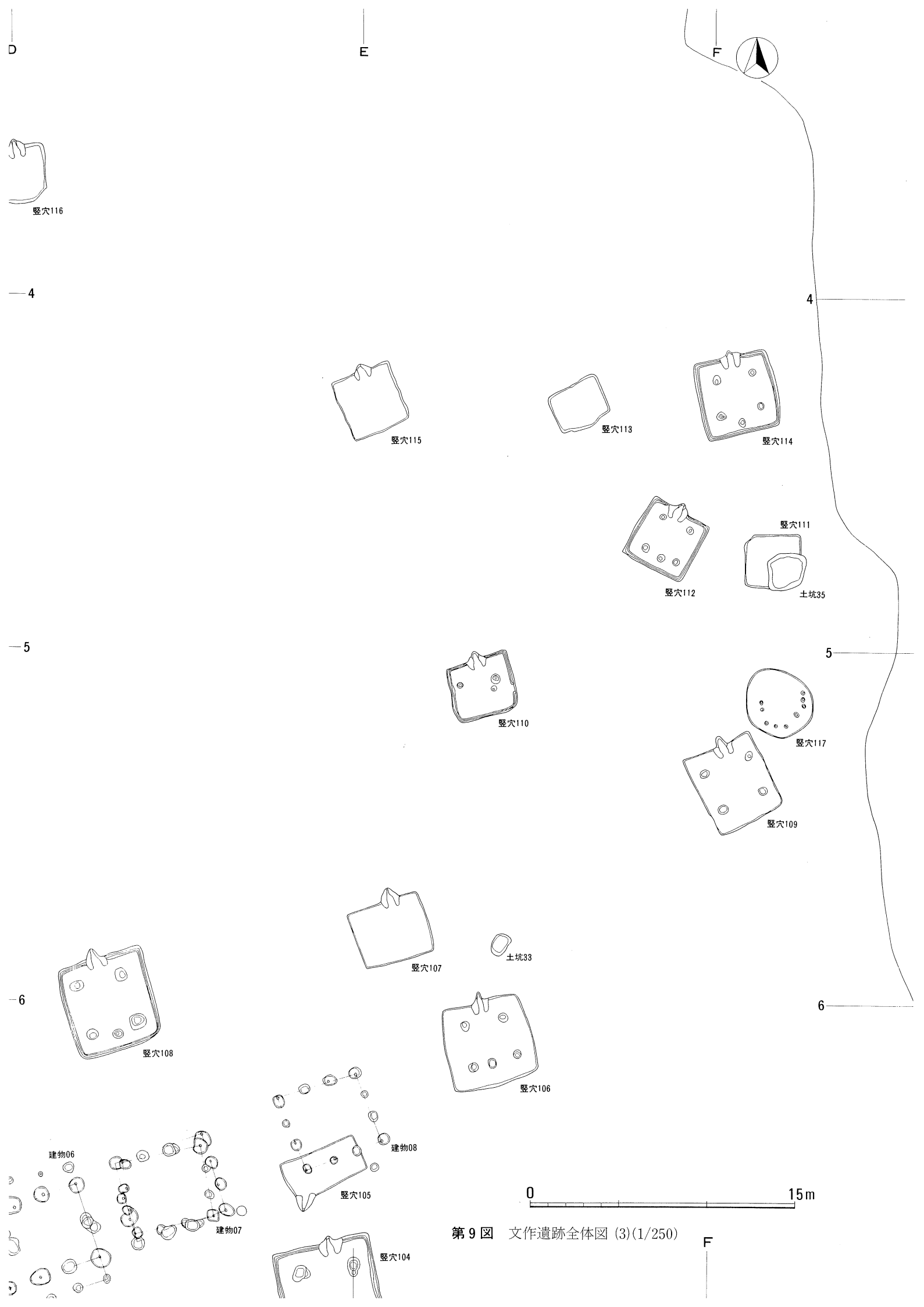


第 6 図　下ヶ谷台遺跡 3 号住居跡出土遺物

第 7 図　文作遺跡全体図(1)（1/1500）



第8図　文作遺跡全体図 (2)(1/1200)



第9図　文作遺跡全体図 (3)(1/250)

第10図　文作遺跡全体図 (4)(1/250)

第11図　文作遺跡全体図 (5)(1/250)

第12図　文作遺跡全体図 (6)(1/250)

II　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

今回の調査で検出された竪穴住居跡は118軒、建替を含めた総数で149軒を数える。建替住居については、新しいものからＡＢＣ…を付した。建替の認定については、主柱穴、梯子穴、カマド、周溝、貼り床面等の重複に基ずくものであるが、主柱穴を欠くものについては、確実であるとはいいがたい。「建替」と「重複」の相違について、「重複」は、住居間に埋没に伴う間層が認められる場合、両者の構築になんらの規則性がみられない場合、出土土器に明らかな時期差が存在する場合をさす。ただし、これはあくまでも便宜上の区分である。

本遺跡で主体となる時期は、古墳時代終末期（飛鳥時代）～平安時代であり、竪穴住居跡147軒がこの時期の所産である。この間継続的に経営されたことが考えられ、また現状では各時代の接点をすべての遺構を対象として認定することは困難であり、２軒の縄文時代の竪穴住居跡（117･118）を含め、以下一括して記述する。

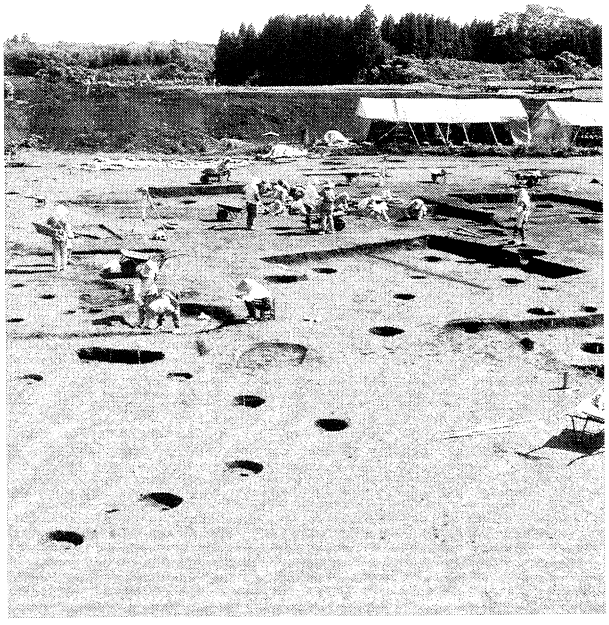
なお、全住居跡の概要については、第２表に一括まとめてある。また土器の詳細については第４表の土器観察表を参照していただきたい。

竪穴住居01（第13図）　Ｇ14区

建替　なし　　**規模**　2.54（主軸）×2.46m　確認面6.38㎡　床面5.39㎡　　**主軸方位**　Ｎ－21°－Ｗ

残存壁高　７～14cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）23cm　　**カマド**　北壁。基部のみ遺存。山砂･粘土混合土を構築材とする。煙道部未確認　　**周溝**　未検出　　**土層**　貼り床は明黒褐色土、床面上に焼土

遺物　土器は若干量であり、実測可能個体はない。１は鉄鏃であり４点が付着している。うち２点は



柳葉式であり、茎を欠く。篦被部との境界は不明瞭である。他は長頸式であるが鏃身部を欠く。棘部は認められない。長頸式としたもののうち１点は鉄鏃以外の可能性もある。Ａは現存長7.85cm、身幅1.8cm、厚さ0.25～0.3cmを測る。Ｂは現存長5.95cm、身幅1.5cm、厚さ0.2～0.25cm、Ｃは現存長13.6cm、最大幅0.8cm、厚さ0.6cmを測る。Ｄは現存長13.1cm、最大幅0.75cm、厚さ0.7cmを測る。総重量は72.1ｇである。２は刀子である。両関であり、切先部、茎を欠く。現存長8.5cm、最大身幅1.4cm、厚さ0.35cmを測る。重量は8.3ｇである。１は床面、２は覆土より出土。

備考　床面中央部周辺に焼土、炭化物の堆積が認められ、一部床面も赤化している。火災が想定される。床面は比較的硬質であったが、床面、掘形面はロームに達していない。時期不明。

竪穴住居02（第13図）　Ｇ13区

建替　なし　**規模**　3.84(主軸)×3.27m　確認面12.62㎡　床面10.57㎡　**主軸方位**　Ｎ－11°－Ｗ　**残存壁高**　０～10cm　**Pit**　P_1（梯子穴）36cm　他は本遺構とは無関係か　**カマド**　北壁。黒褐色土を基礎とし、山砂を主体とする砂質粘土を用材とする。煙道部長27cm　**周溝**　全周　**土層**　貼り床は黒褐色土を主体

遺物　土師器甕２点、須恵器杯１点が出土。２・３が床面上より出土している。

備考　掘形面においてソフトロームを若干掘り込む程度。表土を除去した段階で床面一部が露呈してしまった。床面遺存部はきわめて硬質であった。IIIｂ期。

竪穴住居03（第14図）　Ｇ13区

建替　１回。Ａ・Ｂ。周溝・床面重複　**規模**　Ａ3.80（主軸）×4.08m　Ｂ3.47(主軸)×3.53m　確認面Ａ15.77㎡　Ｂ(12.19)㎡　床面Ａ14.26㎡　内区Ａ5.72㎡　**主軸方位**　ＡＮ－12°－Ｗ　ＢＮ－12°－Ｗ　**残存壁高**　Ａ０～５cm　Ｂ５～17cm　**Pit**　ＡP_1～P_5　ＢP_6　Ｂは主柱穴を欠く。P_1 65cm　$P_2$60cm　$P_3$69cm　$P_4$54cm　P_5（梯子穴）25cm　P_6（梯子穴）23cm　**カマド**　北壁。袖は壁外に張り出す。山砂・粘土を構築材とする。煙道長67cm　**周溝**　Ａ・Ｂ全周　**土層**　１層、黒褐色土を地層としロームブロック大小を混合　２層、黒褐色土層　３層、暗黄褐色土層であり山砂を混合　４層、暗黄褐色土層、しまりなし　５層、黒褐色土層を地層としローム混合

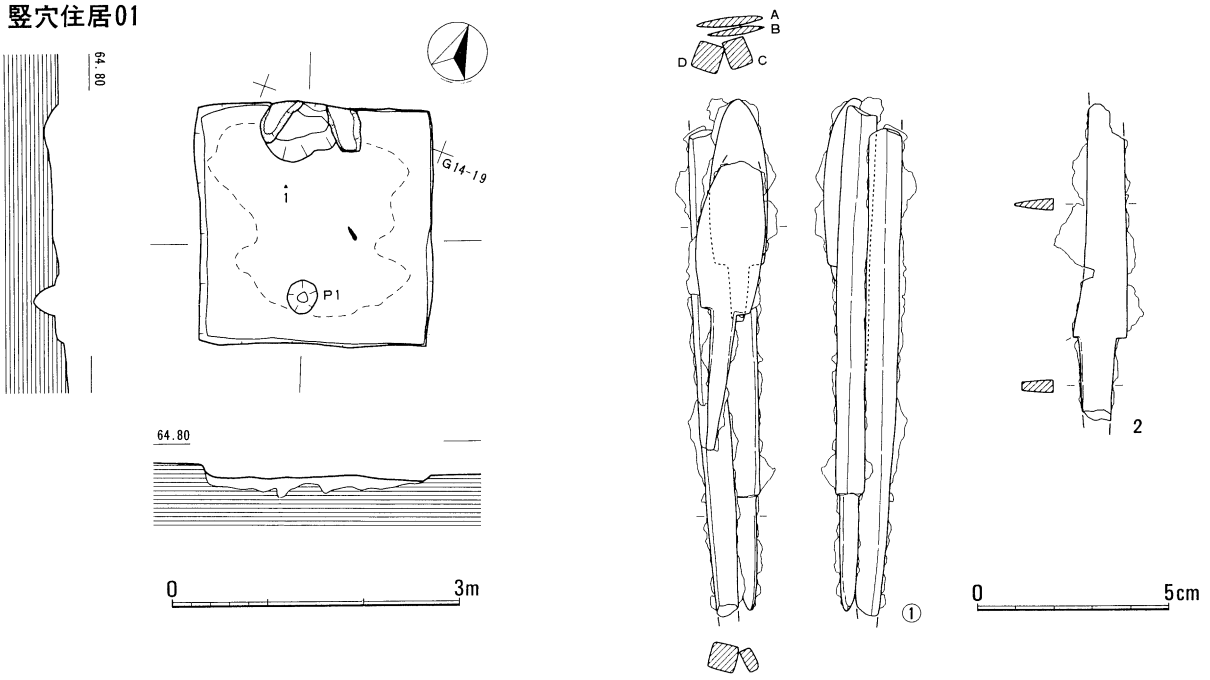
遺物　Ａ床面上より土師器甕出土。

備考　Ａ・Ｂに対応して床面２枚。間層は認められない。掘形面においてソフトロームを若干掘り込む程度であり、表土を除去した段階で床面がほぼ露呈した。床下に土坑22（縄文時代）。III期か。

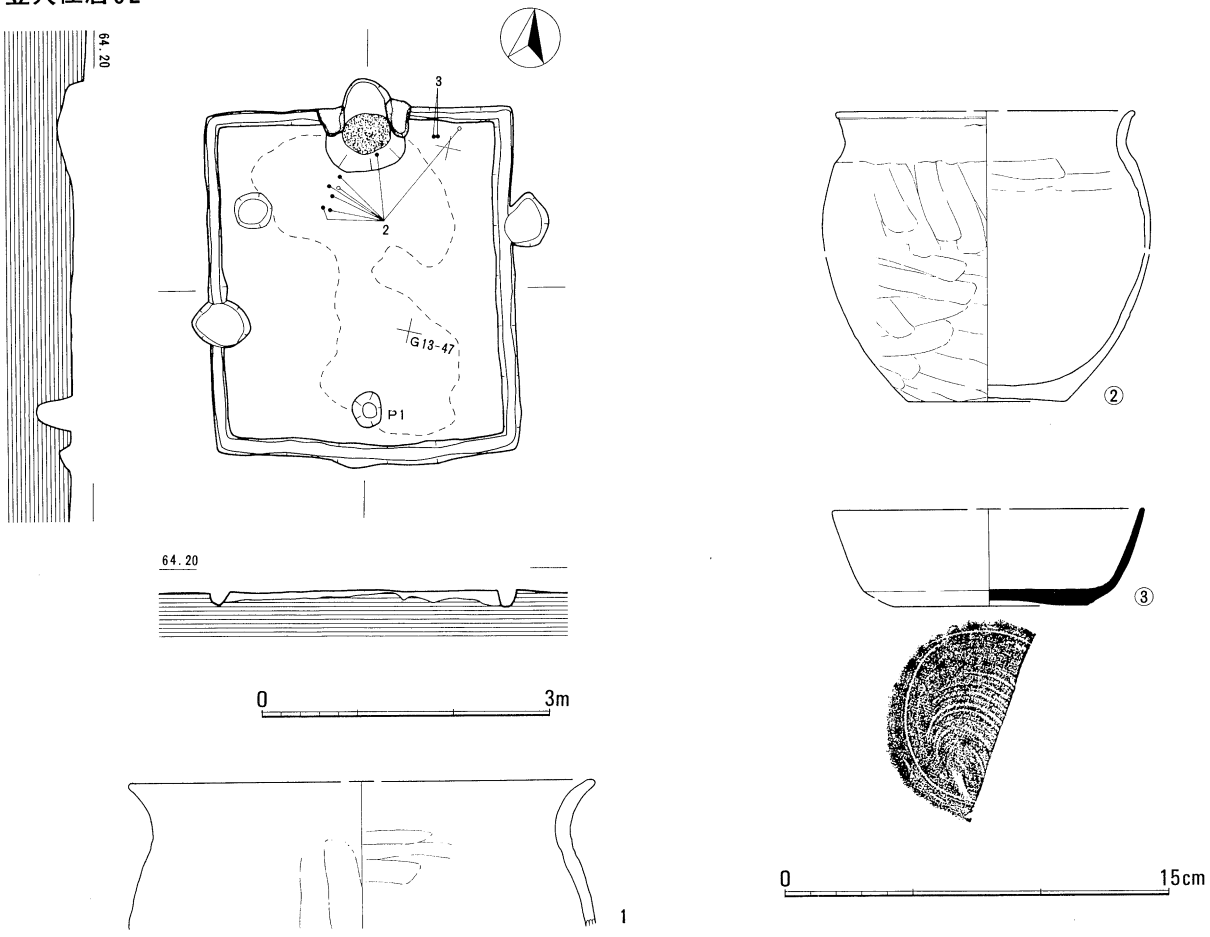
竪穴住居04（第15・16図）　Ｇ13区

建替　１回。Ａ・Ｂ。主柱穴・掘形面重複　**規模**　Ａ4.88（主軸）×4.83m　Ｂ(3.80)(主軸)×4.33m　確認面Ａ23.08㎡　Ｂ(16.00)㎡　床面Ａ21.40㎡　内区Ａ5.51㎡　Ｂ4.21㎡　**主軸方位**　ＡＮ－7°－Ｅ　ＢＮ－7°－Ｅ　**残存壁高**　２～32cm　**Pit**　ＡP_1～P_5・P_7　ＢP_3～P_6　$P_1$53cm　$P_2$51cm　$P_3$47cm　$P_4$53cm　$P_5$39cm　$P_6$40cm　P_7(梯子穴)32cm　P_8(貯蔵穴)20～31cm　P_9(Ｂカマド掘形)43cm　**カマド**　北壁。黒褐色土を基礎とし、その上部は山砂・粘土主体。煙道長37cm　**周溝**　なし　**土層**　１層、カクラン　２層、明黒褐色土　３層、大小ロームブロック多、埋めもどし？　４層、暗黄褐色土、褐色土混合、スコリア大小多　５層、明黒褐色土、スコリア多　６層、黒褐色均質土　７層、黒褐色均質土、スコリア多　８層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　９層、焼土混合　10層、黒褐色土層　11層、黒褐色土、硬質（Ａ床面）　12層、黒褐色土、局部的に大小ロームブロック

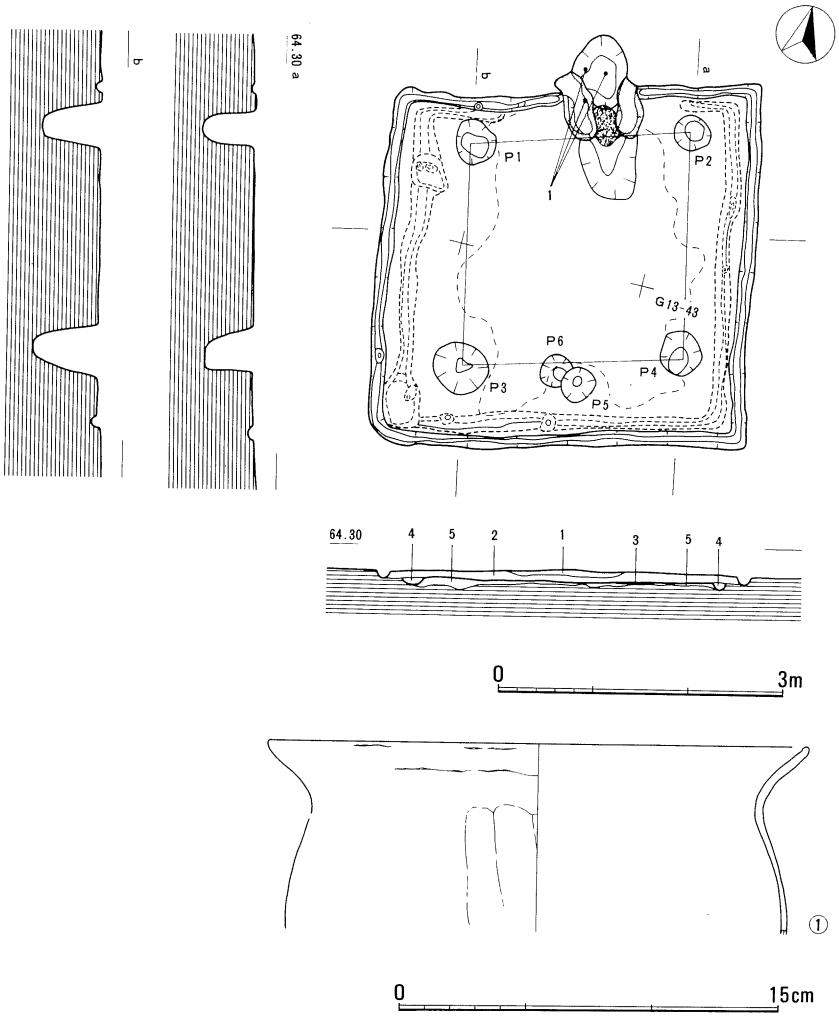
竪穴住居01



竪穴住居02



第13図　竪穴住居01・02



第14図　竪穴住居03

遺物　土師器甕７点、土師器杯６点が出土。13は砥石であり、各面に線条痕がみられる。石質は砂岩であり、重量は309ｇを測る。一部に打痕がみられる。14は土製支脚であり、頭部・基部表面を欠損する。にぶい橙色を呈し、胎土は砂状である。表面はナデ調整による。１・４・10・11・12が床面より出土した。Ｂに対応する遺物は検出されていない。

備考　建替住居であり、中央部では２枚の貼り床がみとめられた。ただし掘形自体の掘り直しは認められない。掘形面がほぼローム面直上に対応する。覆土中焼土層が認められたが、床面上では焼土・炭化物の堆積はみられなかった。通常の「貯蔵穴」は本遺構のみより検出された。Ｉａ期。

竪穴住居05（第17図）　Ｆ13区

建替　なし　　**規模**　3.16（主軸）×3.05m　確認面9.49㎡　床面8.19㎡　　**主軸方位**　Ｎ－９°－Ｗ

残存壁高　０～31cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）28cm　　**カマド**　北壁。袖は壁外に張り出す。構築材は山砂を主体とし砂状。火床面はよくやけていた。煙道長73cm　　**周溝**　一部を除き全周。壁柱穴　　**土層**　貼り床土は黒褐色土を地層とし、褐色土を混合

遺物　土師器甕２点、須恵器甕、須恵器高台付杯各１点が出土。カマド焚口部を中心とする。

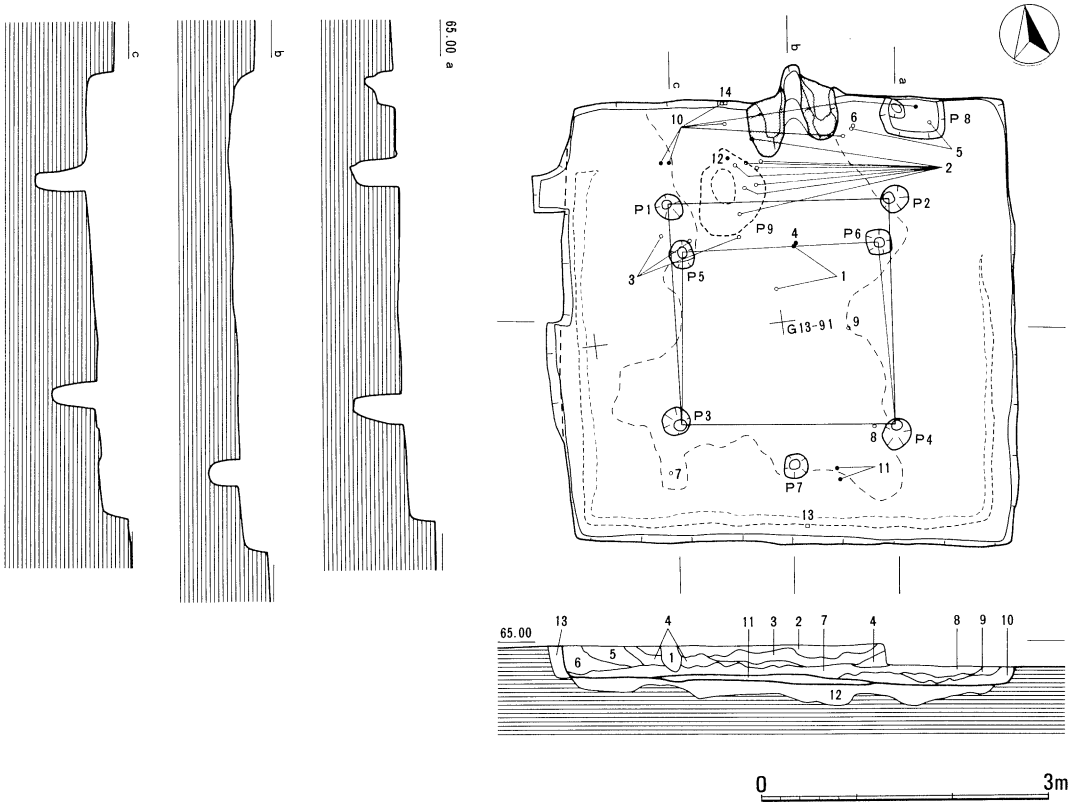
備考　確認時に床面がほぼ露呈。掘形面もロームに達していない。IIIｂ期。

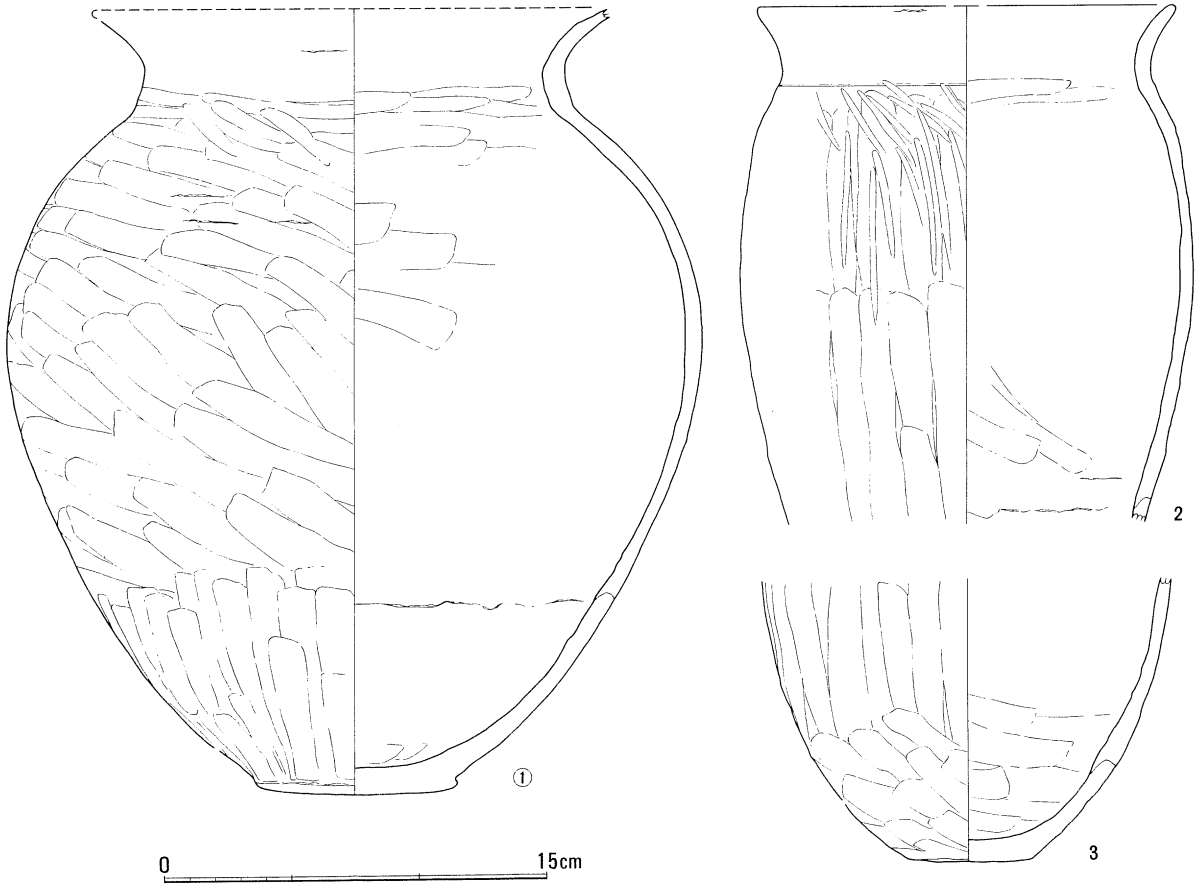
竪穴住居06（第17・18図）

建替　なし　　**規模**　3.07（主軸）×3.05m　確認面9.54㎡　床面8.24㎡　　**主軸方位**　Ｎ－18°－Ｗ

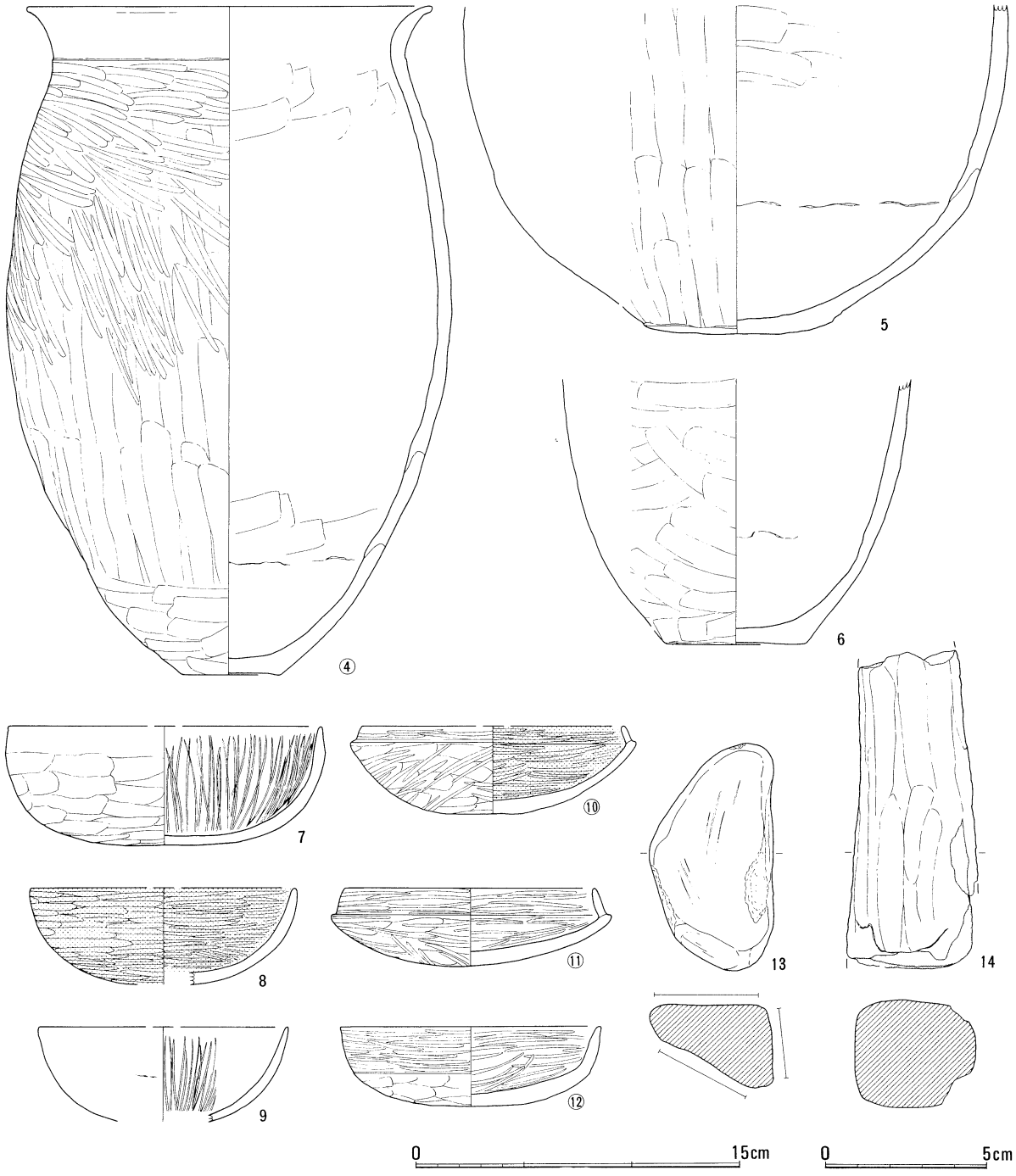
残存壁高　０～29cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）35cm　　**カマド**　北壁。基部は黒褐色土、その上部は山砂を用材とする。火床面はよくやけていた。煙道長36cm　　**周溝**　南壁側未検出　　**土層**　１層、黒褐色土を地層とし斑状に褐色土混合　２層、明黒褐色土層　３層、黒褐色均質土　４層、焼土ブロック５層、暗黄褐色土、粒状　６層、黒褐色土　７層　黄褐色土、黒色土をブロック状に混合

遺物　カマド周辺部を中心として、８を除き床面より出土している。７は砥石であり、石質は軽石である。使用面は表面のみであり、横方向の線条痕を残す。右側面はにぎり部分と考えられる凹部をつ





第15図　竪穴住居04(1)



第16図　竪穴住居04(2)

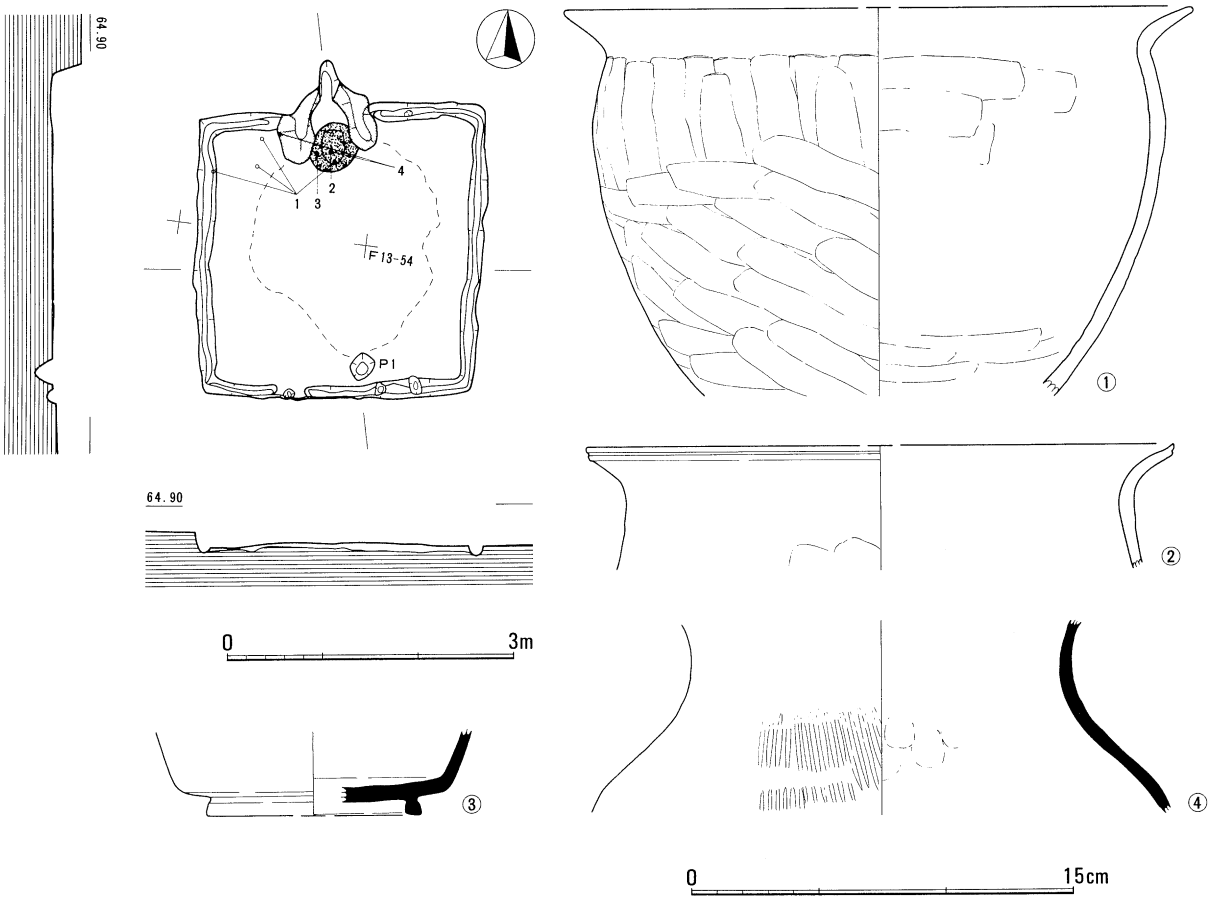
くりだしている。重量は147ｇである。８は鉄製手鎌である。半損し釘も遺存しない。現存長3.9cm、幅1.7cm、厚さ0.2cm、重量2.7ｇを測る。他に支脚片が覆土より出土している。

備考　東側は確認調査坑であり、ローム上面に達している。ほぼ床面レベルに対応する。床面上に若干の焼土が認められたが、ブロック状であり、火災に関連するものとは判断しなかった。IIｂ期。

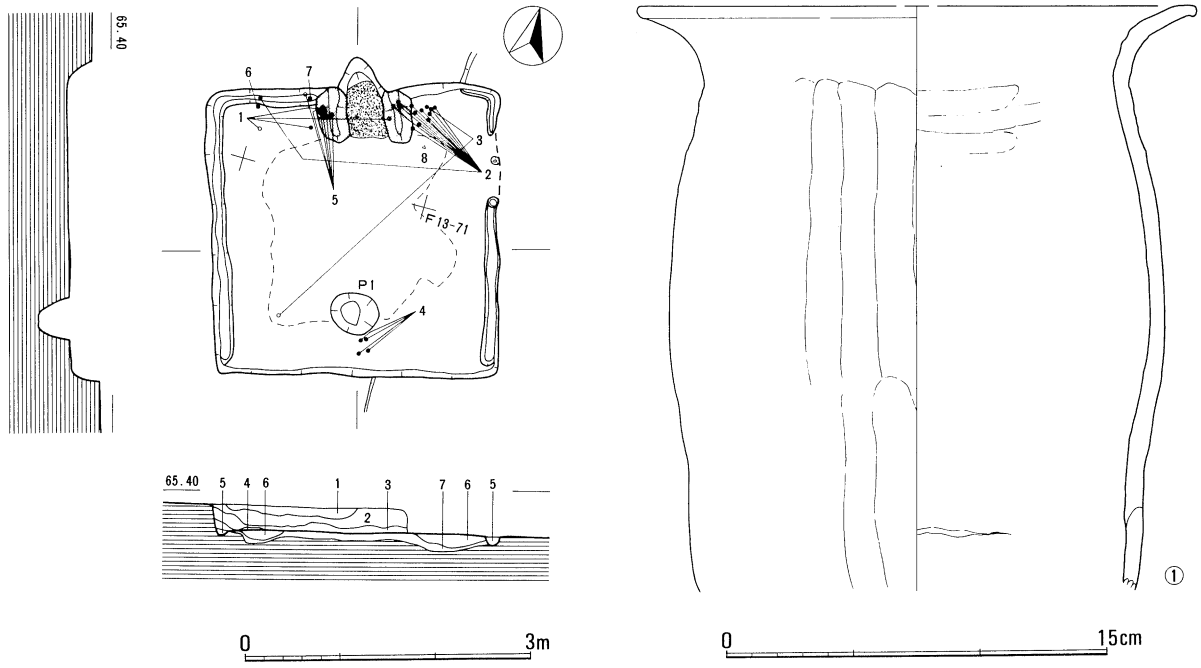
竪穴住居07（第18・19図）　F14区

建替　１回。A・B。カマド新旧２基　**規模**　A3.36(主軸)×3.37m　確認面A11.15㎡　床面9.90㎡　**主軸方位**　AN－26°－E　B(N－116°－E)　**残存壁高**　６～29cm　**Pit**　P_1(A梯子穴)38cm　P_2(貯蔵穴？)34cm　**カマド**　A北壁。構築材は山砂を主体とする。各面ともあまりやけて

竪穴住居05

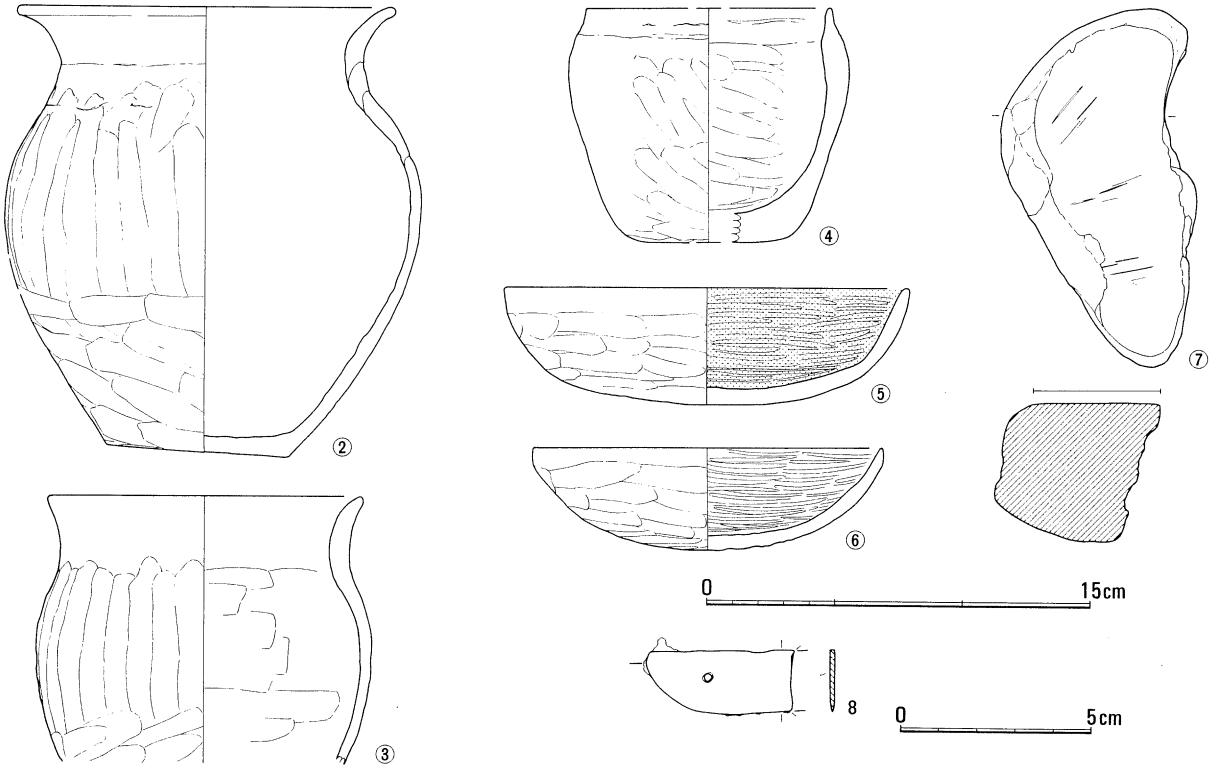


竪穴住居06

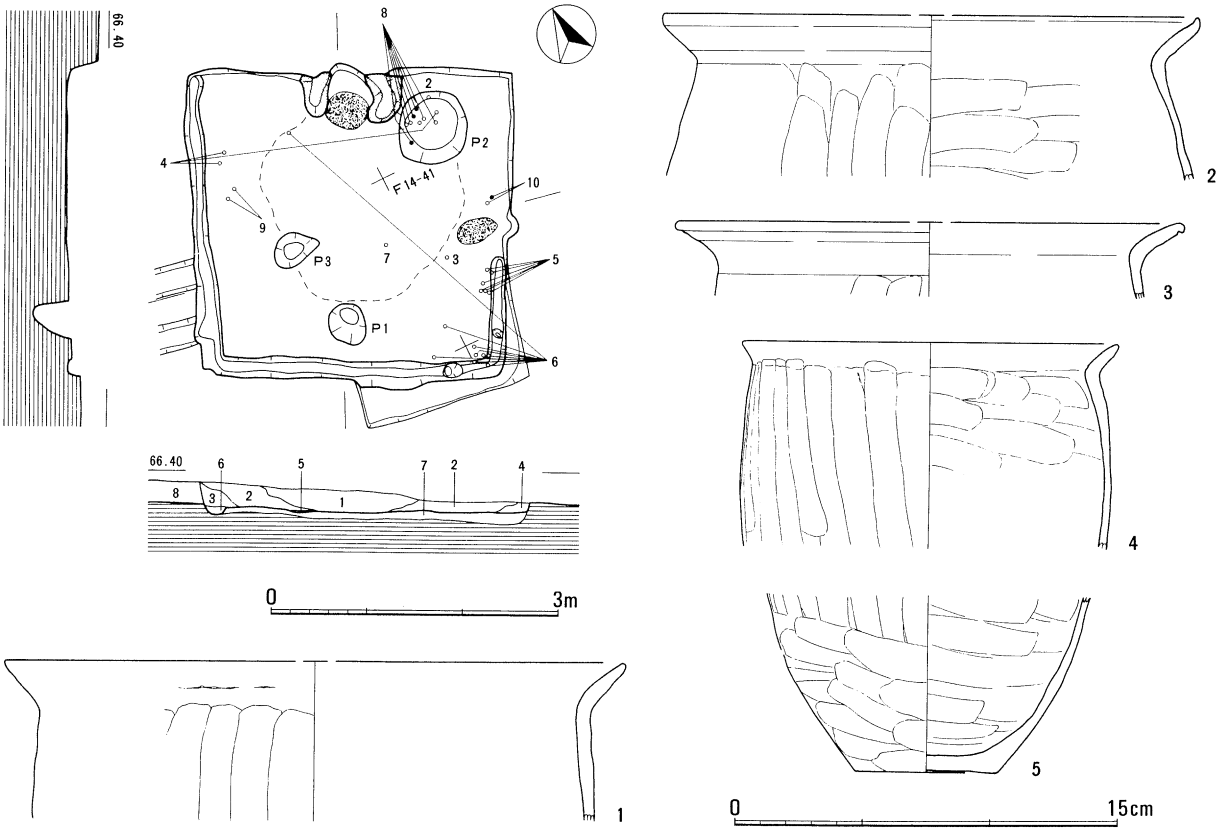


第17図　竪穴住居05・06(1)

竪穴住居06

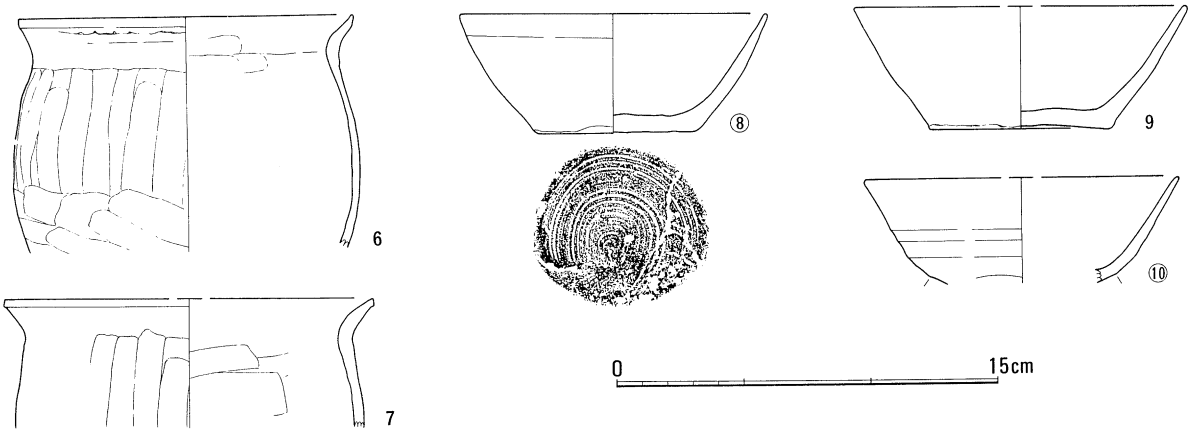


竪穴住居07

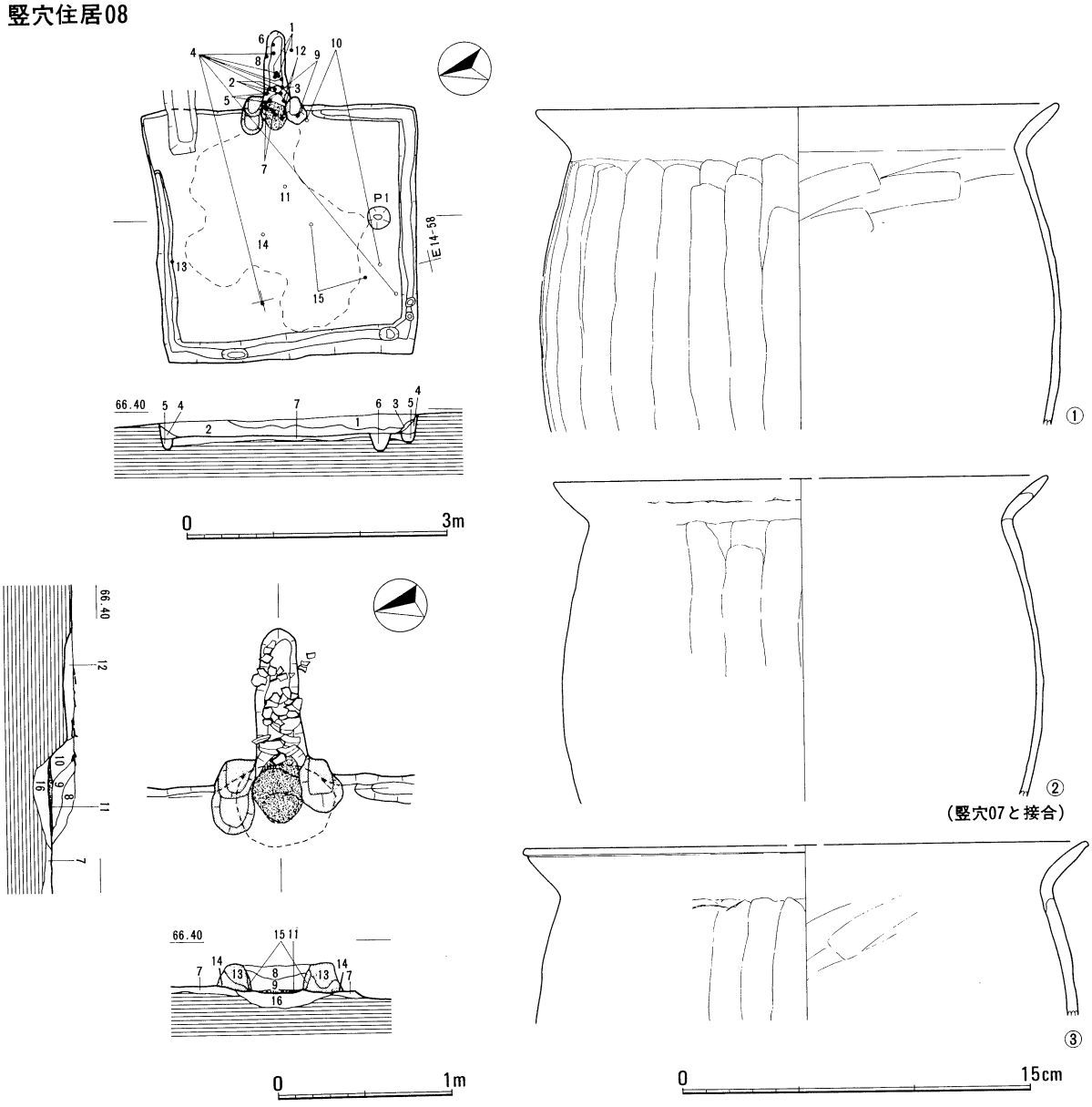


第18図　竪穴住居06(2)・07(1)

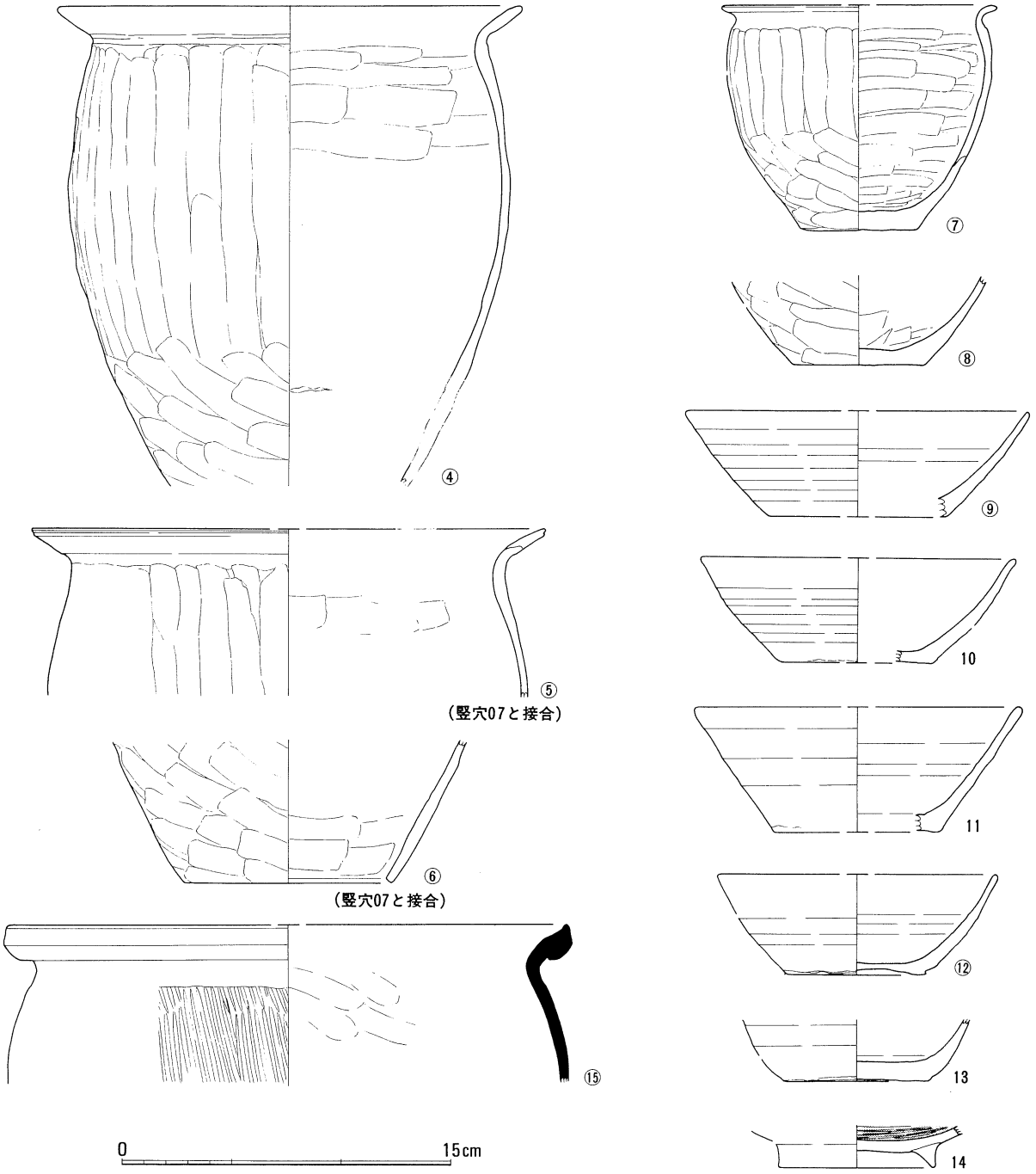
竪穴住居07



竪穴住居08



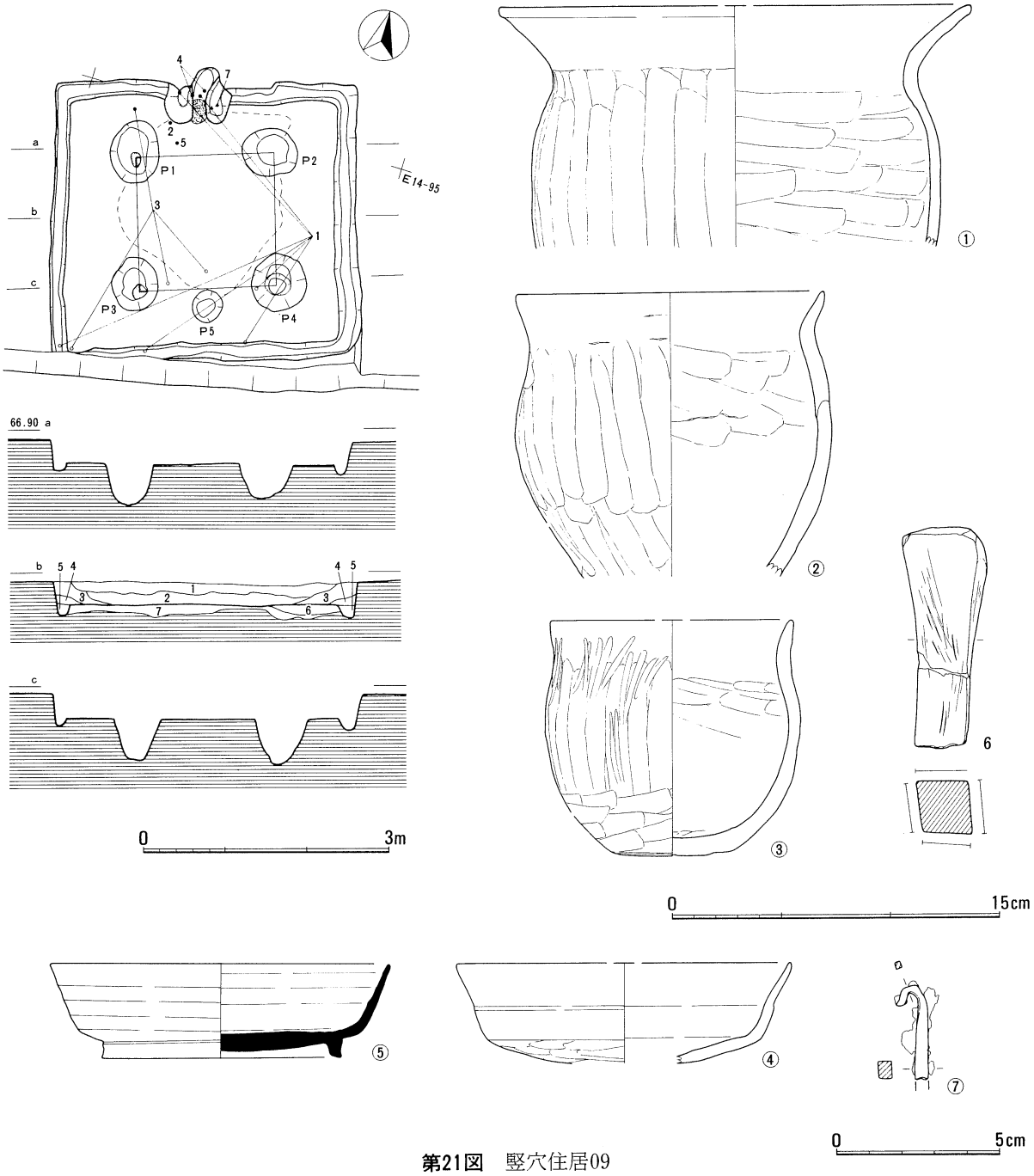
第19図　竪穴住居07(2)・08(1)



第20図　竪穴住居08(2)

いない。煙道長15cm。B東壁。火床面のみを残す　**炉**　P_3底面が焼け焼土の堆積がみられる。焼土上面は踏み固められ硬化　**周溝**　北壁、東壁際未検出　**土層**　1層、黒褐色土を地層とし斑状に褐色土を混合　2層、明黒褐色土、褐色土強　3層、暗黄褐色土、粒状　4層、3層に対応するが若干の山砂粒混合　5層、焼土　6層、明黒褐色土、粒状　7層、黒褐色土、ローム混合　8層、黒褐色土層

遺物　土師器甕7点、土師器杯3点が出土しており、うち8・10が床面上より出土したものである。なお、覆土上層より出土したものが、竪穴住居08－2・5・6と接合している。他に土製の羽口と考えられるものが覆土より出土している。



第21図　竪穴住居09

備考　カマドに新旧が認められ、この点より上屋の建替を想定した。同位置、同規模での建替か。Bの主軸方位に関しては、Bに対応する梯子穴は検出されなかったが、カマド位置を基準として設定した。なお本遺構も黒褐色土（IIc層）中に床面をつくっている。西・南側はサブトレンチである。IVb期。

竪穴住居08（第19・20図）　E14区

建替　なし　　**規模**　2.92(主軸)×3.03m　確認面9.26㎡　床面8.10㎡　　**主軸方位**　（N－12°－E）ただしカマド位置を基準とした場合N－101°－E　　**残存壁高**　11～30cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）21cm　　**カマド**　東壁。袖は壁外側へ張り出し、山砂・粘土を用材とする。煙道は土器を使用してい

る。煙道長は壁より88cmを測る　**周溝**　北東隅を除き全周。壁柱穴　**土層**　1層、明黒褐色土を地層とし斑状に褐色土を混合　2層、黒褐色均質土　3層、焼土と褐色土を混合、粒状　4層、暗黄褐色均質土　5層、暗黄褐色均質土、粒状　6層、柱穴、未実測　7層、黒褐色土を地層とし若干のローム混合　8層、山砂・粘土と焼土ブロックを全体に混合　9層、粒状の黒褐色土、焼土、山砂・粘土を全体に混合　10層、9層に似るが焼土強　11層、焼土層、ブロック状　12層、明黒褐色土、粒状しまりなし　13層、山砂・粘土混合、白色粘土強　14層、黒褐色土を地層とし山砂・粘土をブロック状に混合　15層、13・14層赤化部分　16層、明黒褐色土、山砂・粘土ブロック、若干の焼土粒を混合する。

遺物　カマド煙道部使用土器を主体とする。1～6がこれに該当する。他に7～9・12・15が床面、カマド焚口内より出土したものである。2・5・6は竪穴住居07、他に破片資料では溝01と接合する。

備考　掘形面がローム上面に対応する。覆土中焼土層が認められたが、局部的であり、また床面上では検出されていない。東壁北側はサブトレンチである。IVb期。

竪穴住居09（第21図）　F14区

建替　なし　**規模**　3.48(主軸)×3.77m　確認面(13.05)m²　床面(11.90)m²　内区　2.83m²　**主軸方位**　N－17°－W　**残存壁高**　27～32cm　**Pit**　$P_1$51cm　$P_2$42cm　$P_3$50cm　$P_4$58cm　P_5(梯子穴)26cm　**カマド**　北壁。裾は山砂を主体として硬質。火床面、裾両側面はよくやけている。煙道長24cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状に褐色土を混合　2層、黒褐色土　3層、暗黄褐色土、スコリア多　4層、3層に似るがやや暗　5層　暗黄褐色土層、粒状　6層、明黒褐色土　7層、暗黄褐色均質土

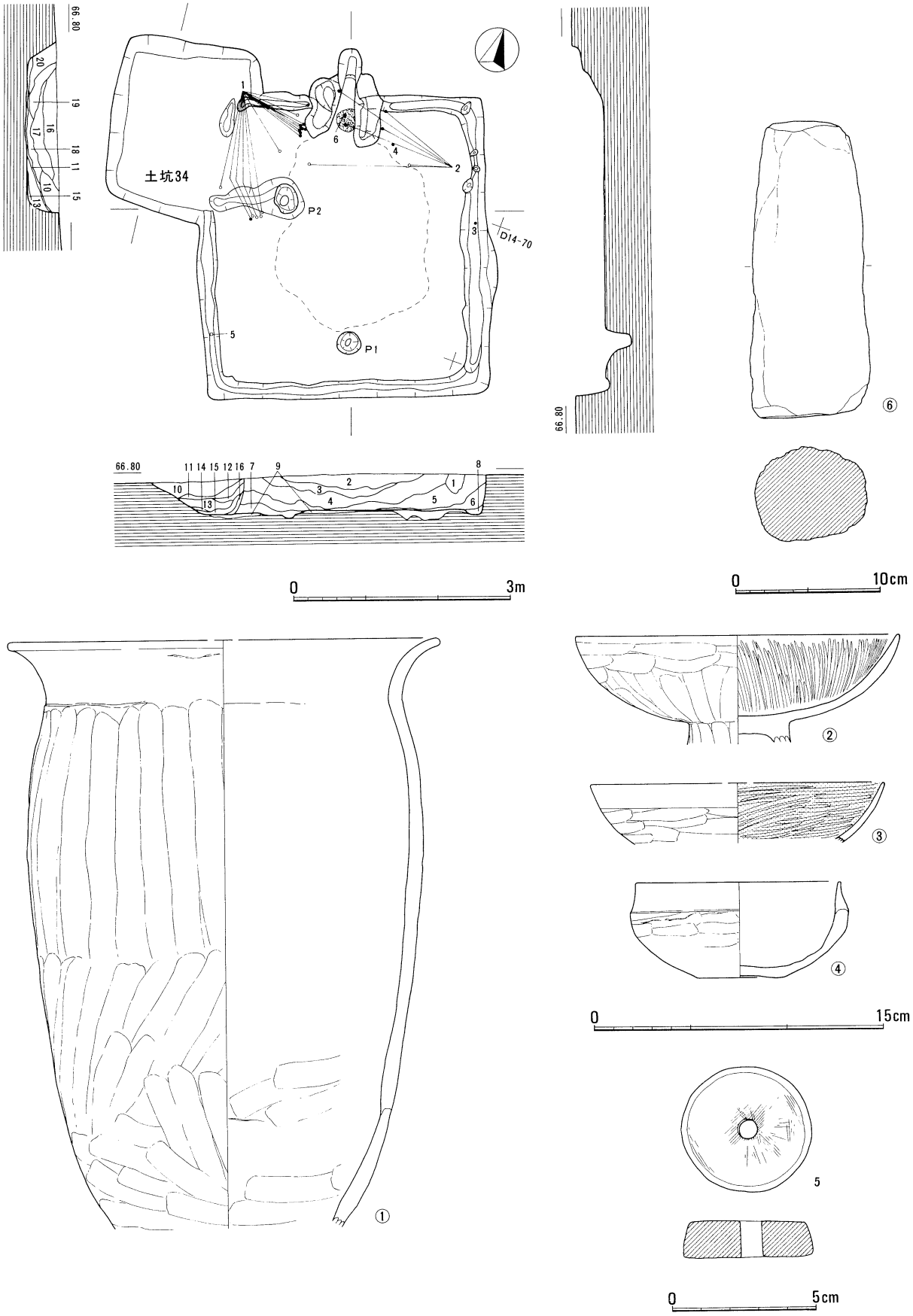
遺物　土器は土師器甕3点、土師器杯1点、須恵器杯1点であり、いずれもカマド焚口部、床面より出土している。6は砥石であり、石質は凝灰岩である。4面使用されており、若干の線条痕を残す。重量は161gを測る。7は紡錘車軸先端の鉤部分と考えられる。現存長2.95cm、幅・厚さは0.4～0.55cm、重量1.7gを測る。鉄器は他に1点棒状の小片がカマド焚口内より出土している。6は覆土、7はカマド袖内より出土している。

備考　一部調査区外におよぶものの、ほぼ完掘されている。本遺構はロームを若干掘りこんで構築されている。IIIa期。

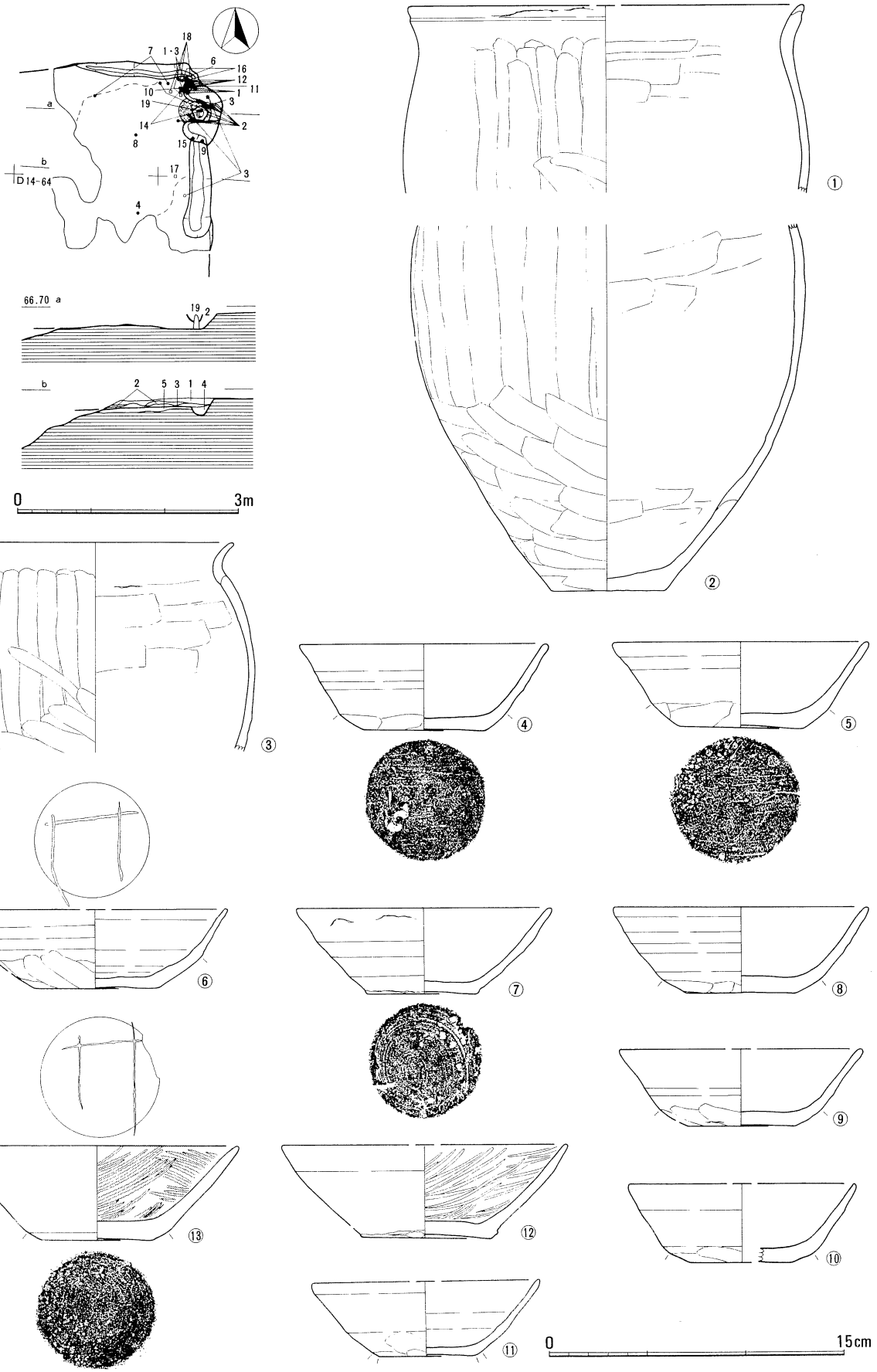
竪穴住居10（第22図）　D14区

建替　なし　**規模**　4.27(主軸)×4.07m　確認面(17.74)m²　床面(15.27)m²　**主軸方位**　N－21°－W　**残存壁高**　39～57cm　**Pit**　P_1(梯子穴)36cm　$P_2$23cm　**カマド**　北壁。袖は壁外に張り出している。構築材は山砂・粘土を混合する。火床は若干焼けている程度で、焼土の堆積も認められなかった。左袖は一部カクランをうけている。煙道長壁より58cm　**周溝**　全周。壁柱穴　**土層**　1層、カクラン　2層、明黒褐色土、大小スコリア、斑状の褐色土含　3層、暗黄褐色土、まだら状　4層、2層に似る　5層、暗黄褐色土、大小スコリア多　6層、黒褐色均質土　7層、明黒褐色土　8層、ロームブロック主体　9層、暗黄褐色均質土。10～16層は土坑35に対応する

遺物　出土土器4点はいずれもカマド焚口部、床面より出土したものである。5は石製の紡錘車であり、石質は蛇紋岩である。外径4.53～4.59cm、厚さ1.31cm、孔径0.69cm、重量50.8gを測る。全面に整形痕と考えられる擦痕を残す。西壁際覆土より出土した。6は石製の支脚であり、焚口部、ほぼ原

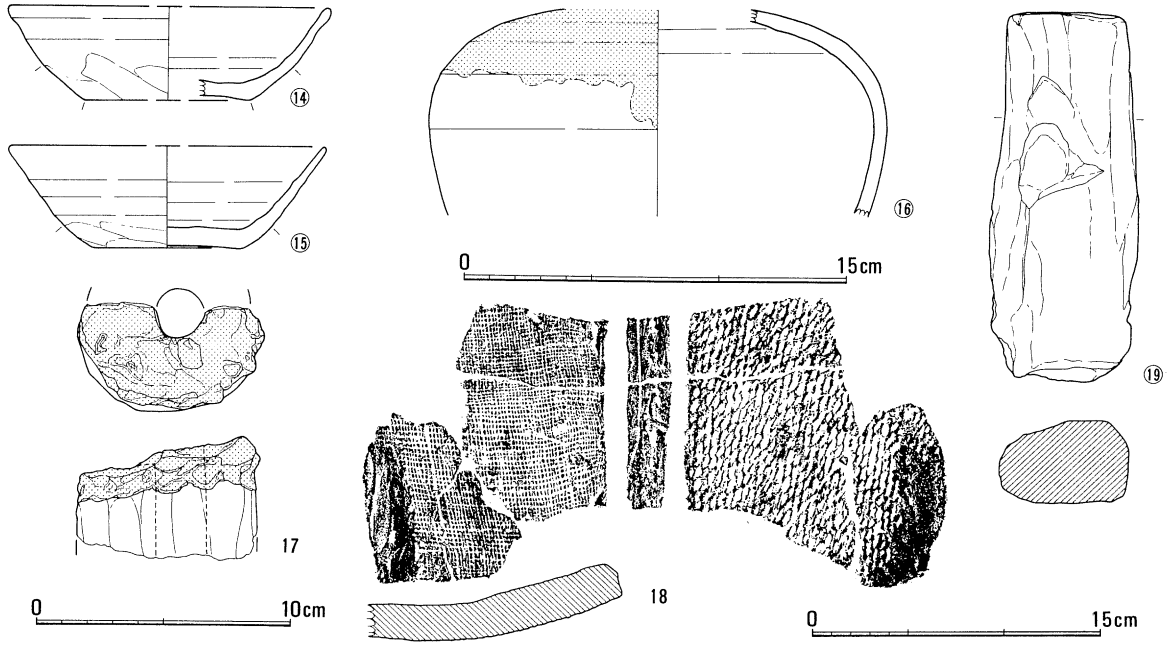


第22図　竪穴住居10

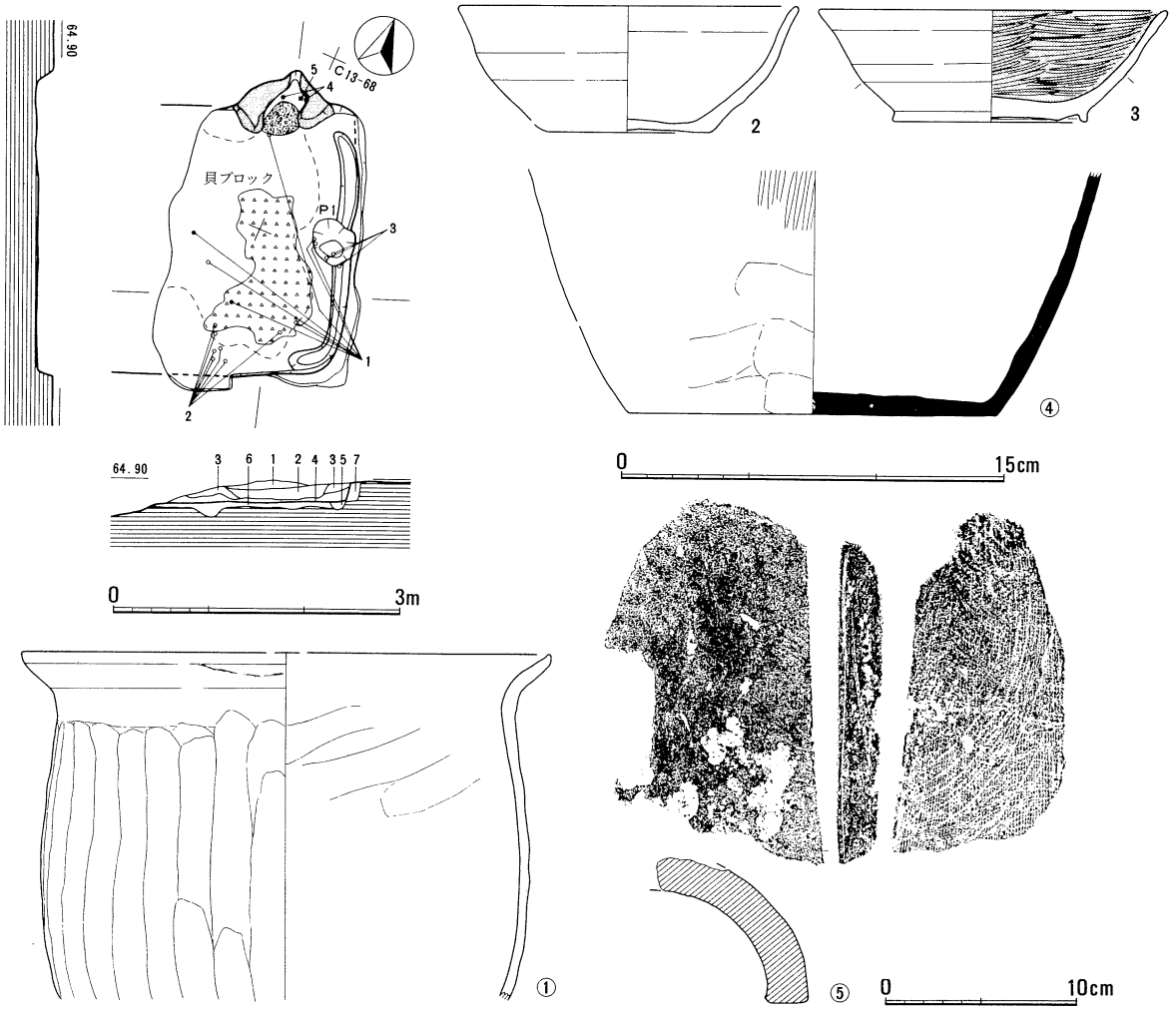


第23図　竪穴住居11(1)

竪穴住居11



竪穴住居12



第24図　竪穴住居11(2)・12

位置と考えられるところより出土した。軟質砂岩製であり、完存しているものの、表面は全体に剝落している。重量は1190ｇを測る。

備考　土坑34と重複しており、これにより北西隅部が破壊されている。II期か。

竪穴住居11（第23・24図）　D14区

建替　なし　**規模**　(2.24)×(2.60)ｍ現存値　**主軸方位**　(N－89°－E)　**残存壁高**　0～22cm　**Pit**　不明、主柱穴なしか　**カマド**　東壁、北東隅脇、袖は白色粘土を主体とし、壁外に張り出す　**周溝**　一部検出　**土層**　1層、明黒褐色土　2層、焼土層　3層、焼土・粒状ローム混合土　4層、暗黄褐色土　5層、暗黄褐色土、ブロック状

遺物　土器は土師器甕3点、土師器杯12点、灰釉長頸壺1点が出土している。カマド周辺部に集中し、いずれも本遺構に伴うものと考えられる。17は土製の羽口であり、径7.2cm、孔径2.05cm、重量114ｇを測る。溶解物の付着がみられる。18は平瓦であり、縄タタキ目、布圧痕がみられる。19は土製支脚であり、カマド内に正立し、2が底部がぬけた状態ではまっていた。現存長19.5cm、重量は640ｇを測る。淡橙色を呈し、器面はナデ整形による。スラグがカマド上より2点出土（図版57）。

備考　傾斜変換点にあたり、住居全体は遺存していない。ただし主柱穴は検出しておらず、小形の住居とあったと推定される。火災をうけたものと考えられる。V期。

竪穴住居12（第24図）　C13区

建替　なし　**規模**　2.88(主軸)×(2.04)ｍ現存値　**主軸方位**　N－20°－W　**残存壁高**　0～23cm　**Pit**　$P_1$31cm　**カマド**　北壁、北東隅脇。袖は山砂・粘土による。壁外に張り出す　**周溝**　東壁際のみ検出　**土層**　1層、貝層、ハマグリを主として、イボキサゴ、アサリ、シオフキを含む　2層、暗黄褐色土　3層、暗黄褐色土、若干の焼土粒を含み粒状　4層、明黒褐色土　5層、黄褐色土、しまりがなく粒状　6層、暗黄褐色均質土　7層、明黒褐色土

遺物　土師器甕1点、須恵器甕1点、土師器杯2点が出土している。カマド焚口内・床面より出土したものは1・4である。また5は丸瓦であり、カマド内袖側面より検出された。ただし火をうけた痕跡は不明確である。

備考　斜面部にあたり、西側は検出することができなかった。また掘形面が若干ロームを掘りこんでいる程度であり、竪穴範囲を確実にとらえることができなかったため、一部掘りすぎがみられる。IVｂ期。

竪穴住居13（第25図）　C13区

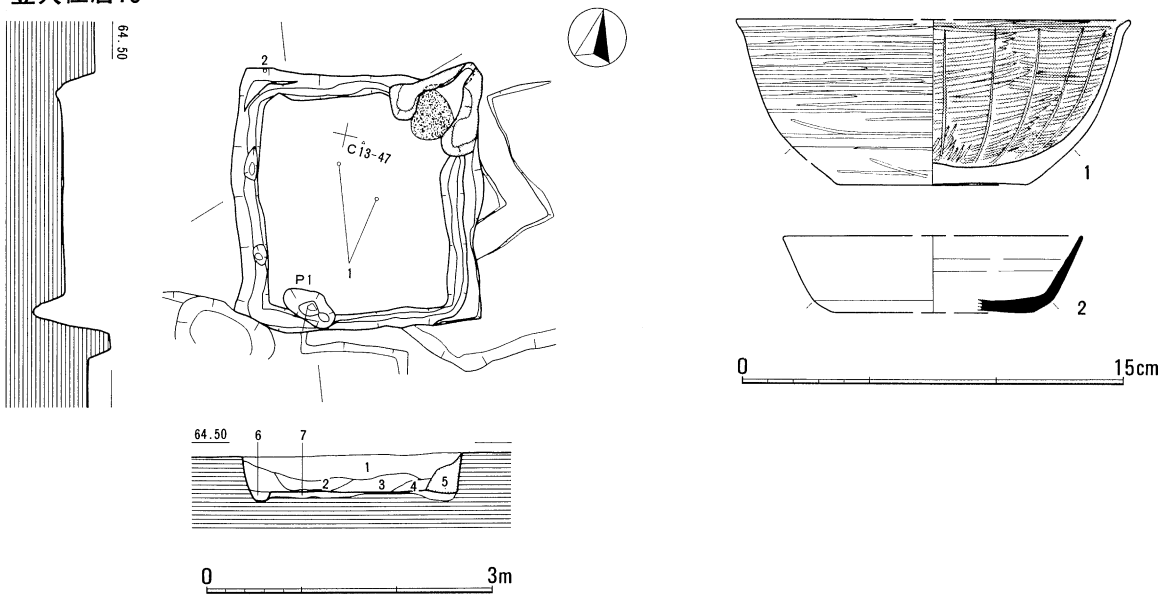
建替　なし　**規模**　2.72(主軸)×2.65m　確認面7.00㎡　床面5.59㎡　**主軸方位**　(N－18°－W)　**残存壁高**　33～53cm　**Pit**　P_1（梯子穴？）33cm　**カマド**　北東隅。山砂を主体とし、火床面・袖側面はよくやけている　**周溝**　全周、壁柱穴　**土層**　1層、テフラを主体とする褐色土層　2層、明黒褐色土、大小スコリア多　3層、暗黄褐色土層　4層、山砂を多量と含む　5層、カマド袖、山砂主体、硬質　6層、暗黄褐色土、ブロック状　7層、暗黄褐色均質土、硬質

遺物　土師器椀、須恵器杯各1点である。他にスラグ1点があるが、いずれも覆土より出土。

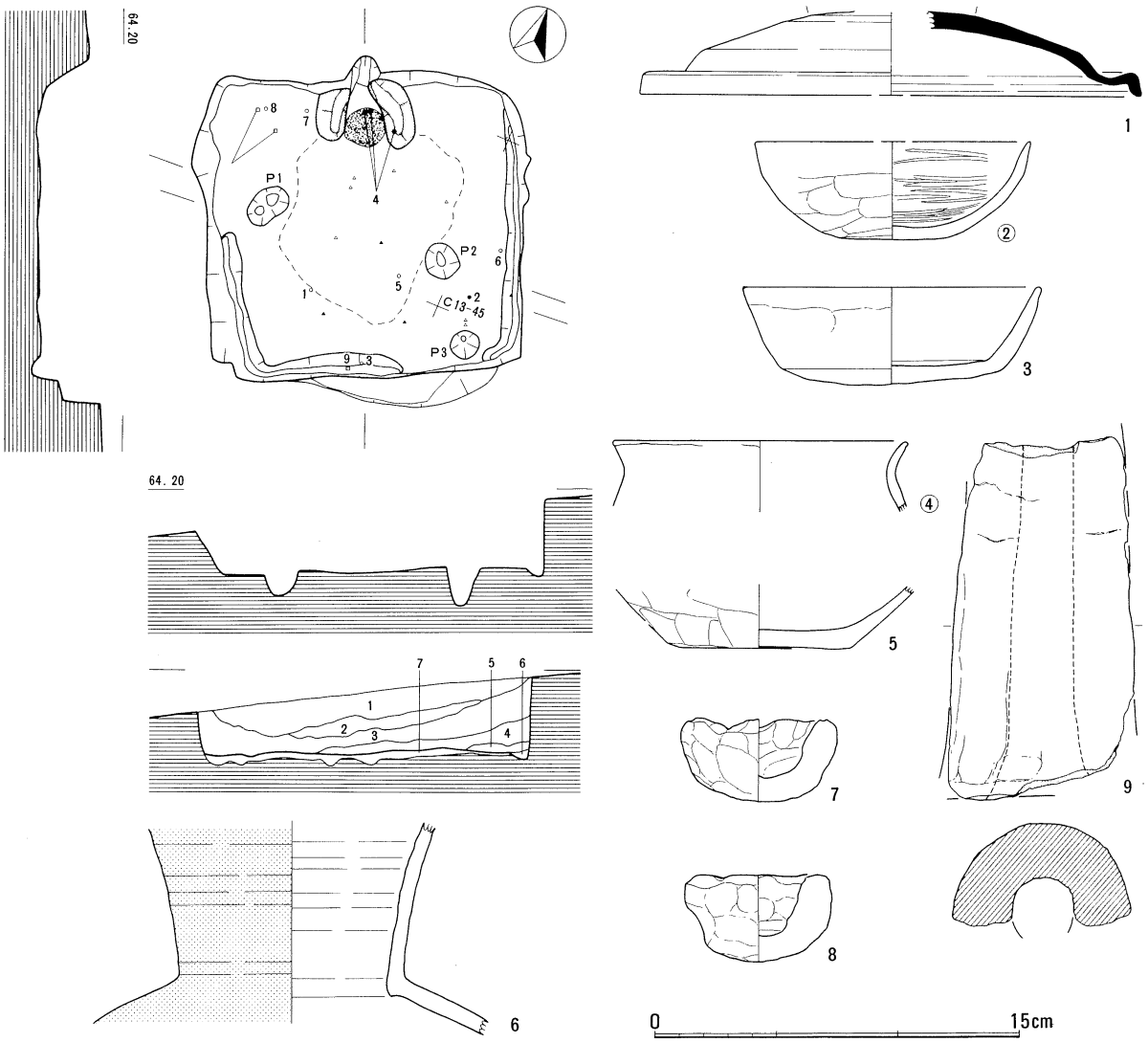
備考　確認時、竪穴範囲は明確ではなかった。周囲の落ちこみはサブトレンチ、カクランである。床面は全体に硬質であった。主軸方位については、P_1を梯子穴と想定した場合である。IIIｂ期か。

竪穴住居14（第25図）　C13区

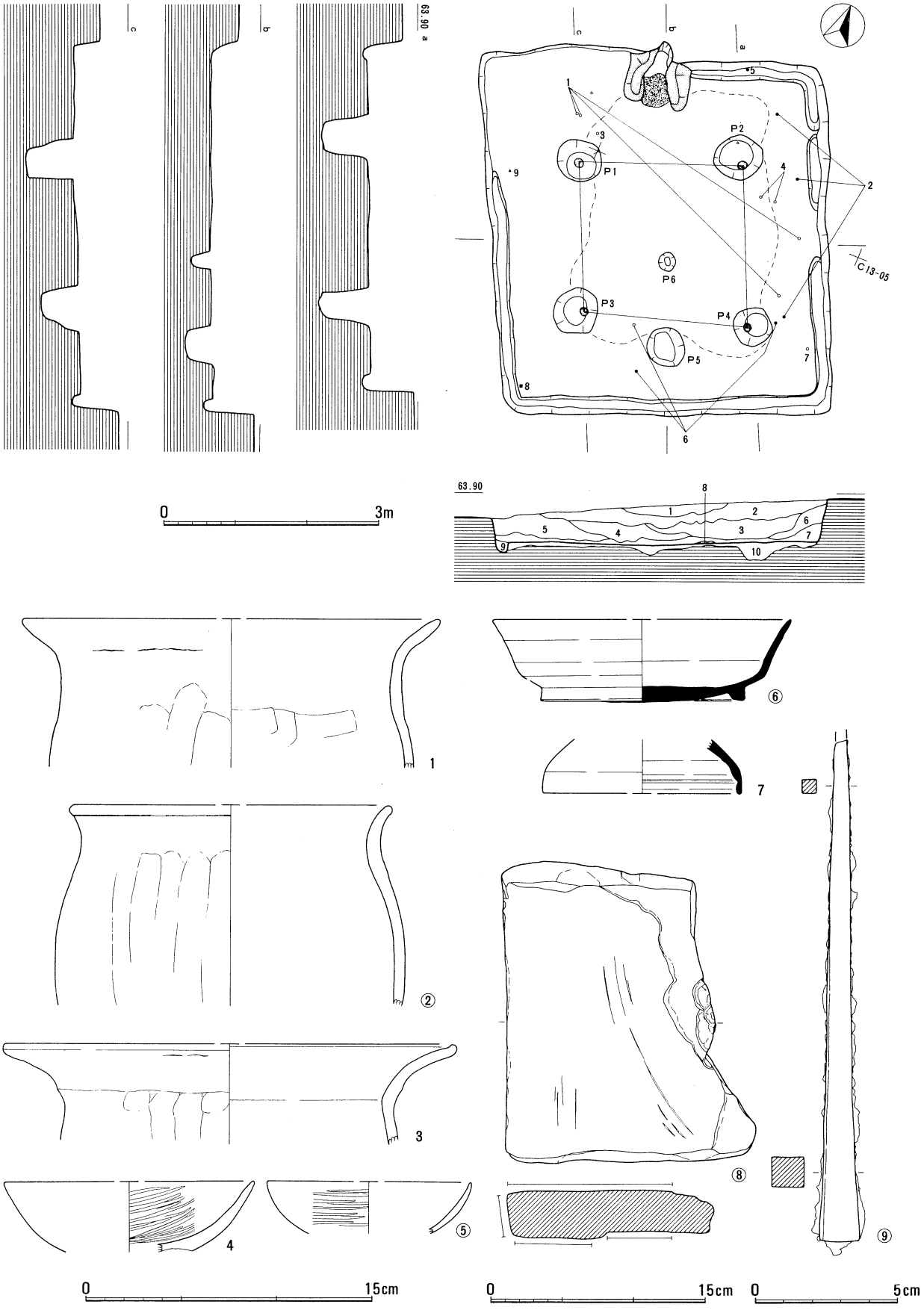
竪穴住居13



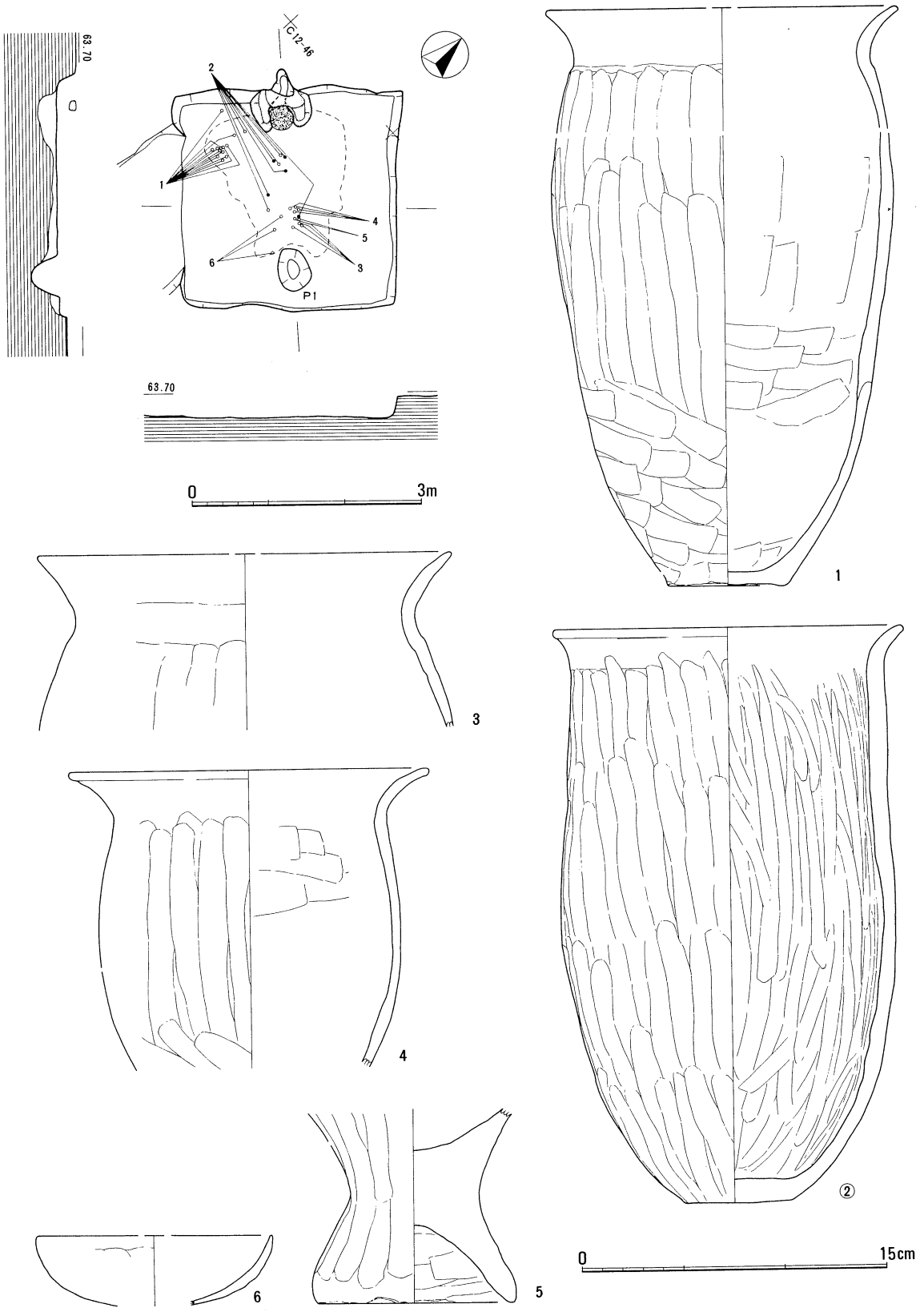
竪穴住居14



第25図　竪穴住居13・14



第26図　竪穴住居15



第27図　竪穴住居16

建替　なし　　**規模**　3.41(主軸)×3.52m　確認面11.77m²　床面9.73m²　　**主軸方位**　N－23°－W　**残存壁高**　43～86cm　　**Pit**　$P_1$27～32cm　$P_2$42cm　$P_3$29cm　いずれも性格不明　　**カマド**　北壁。袖基部はロームブロック、山砂、粘土を混合する。上部は白色粘土主体。煙道長29cm　　**周溝**　断続的に検出　　**土層**　1層、暗黄褐色土、まだら状であり、テフラ主体　2層、明黒褐色土　3層、1層に似る　4層、明黒褐色土、大小スコリア多　5層、ハードローム主、ブロック状　6層、暗黄褐色土、粒状　7層、ロームブロック主体

遺物　土器は、土師器甕2点、土師器杯2点、須恵器蓋1点、灰釉長頸壺1点であり、時期的に混在する。7・8は椀状の土製品である。鋳造作業に伴う「トリベ」にも類するが、溶解物等の付着はまったくみられない。器面は指ナデによる調整を施す。9は土製の羽口である。現存長15.3cm、重量372gを測る。器面整形痕を明瞭ではない。床面上より出土したものは2・4である。他に3層から床面上にかけて、土製羽口1点、スラグ9点、棒状の鉄製品小片が3点出土している。9の出土位置は3層にあたる。

備考　確認時、竪穴範囲が明確ではなかったため、南・西壁は一部掘りすぎている。ただし掘形面については、ハードローム上面に達している。時期は、2および1を基準とするならばII b期である。

竪穴住居15（第26図）　C13区

建替　なし　　**規模**　5.24(主軸)×4.73m　確認面24.70m²　床面22.44m²　内区5.19m²　　**主軸方位**　N－23°－W　　**残存壁高**　35～67cm　　**Pit**　$P_1$66cm　$P_2$61cm　$P_3$52cm　$P_4$71cm　P_5(梯子穴)29cm　$P_6$25cm　　**カマド**　北壁。袖基部はロームブロック、山砂、粘土を混合する。上部は白色粘土主体。煙道長34cm。竪穴住居14と類似する構造　　**周溝**　断続的に検出。北西隅は不明瞭。　　**土層**　1層、明黒褐色土を地層とし斑状に褐色ブロック混合　2層、黒褐色土　焼土粒を若干含む　3層、暗黄褐色土で、全体にまだら状　4層、暗黄褐色土、3層よりやや明　5層、褐色土、粒状　6層、4層に似る　7層、明黒褐色均質土　8層、焼土ブロック　9層、黄褐色土、粒状ローム主　10層、暗黄褐色土、ブロック状、ハードローム主体

遺物　出土土器は土師器甕3点、土師器杯・高杯2点、須恵器杯1点、須恵器蓋1点である。8は砥石であり、石質は砂岩である。表・裏面を使用面とし、左側面も平滑化している。21.5×17.7cm、厚さ3.8cm、重量2050gを測る。9は現存長18.2cmを測る鉄製の棒状具である。先端を欠損するため、製品名を特定することができない。重量は51.7gを測る。2・5・6・8・9が床面上より出土している。他に鉄小片2点が覆土より出土している。

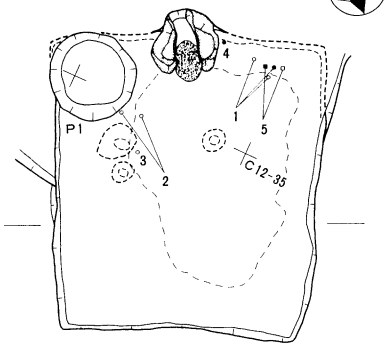
備考　北東隅部の平面形はやや明確ではない。床面上局部的に焼土が認められたが、火災とは考えられない。また炉として把えることもできなかった。II b期。

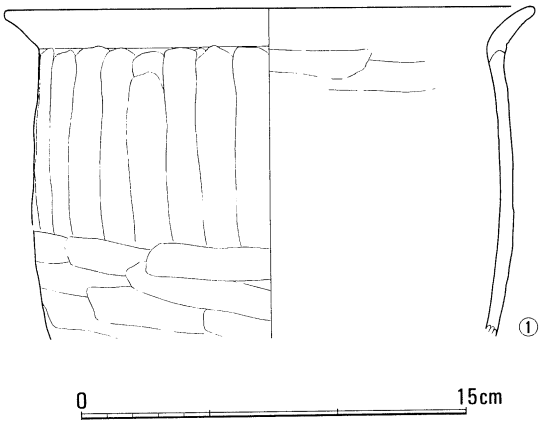
竪穴住居16（第27図）　C12区

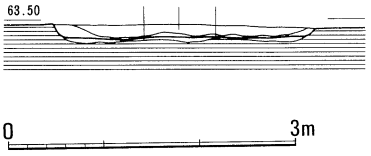
建替　なし　　**規模**　3.00(主軸)×3.04m　確認面8.45m²　床面7.31m²　　**主軸方位**　N－46°－W　**残存壁高**　0～27cm　　**Pit**　P_1(梯子穴)36cm　　**カマド**　北壁。天井部が若干遺存している。山砂・粘土を主体とする。煙道長は29cm　　**周溝**　なし　　**土層**　覆土は黒褐色土からなる。貼り床部は黒褐色土を主体とし、まだら状にソフトロームを混合する。

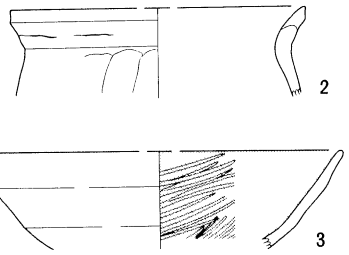
遺物　土師器甕5点、うち1点は脚台部をもつ、土師器杯1点である。床面上から出土したものは2のみである。

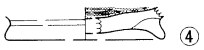
竪穴住居17

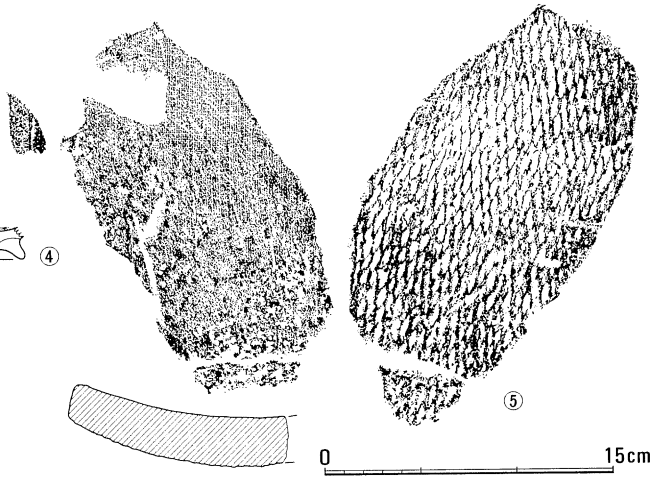




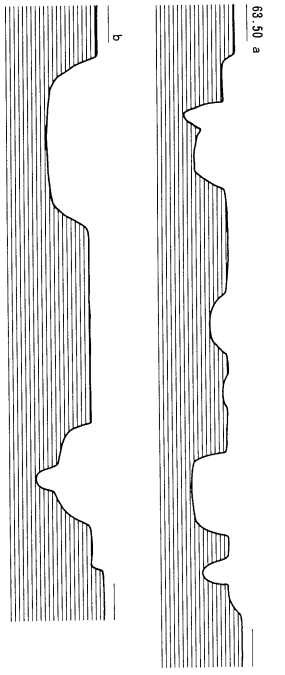


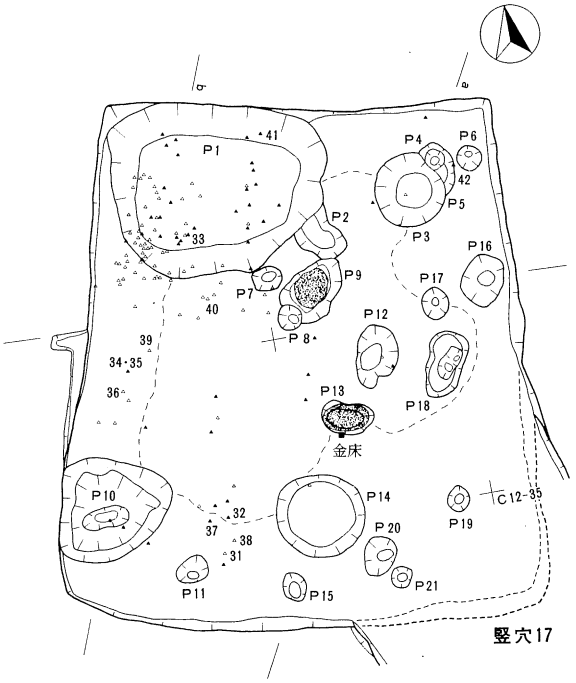


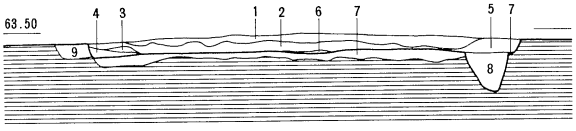


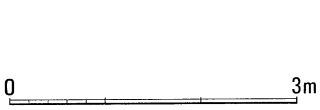


竪穴住居18

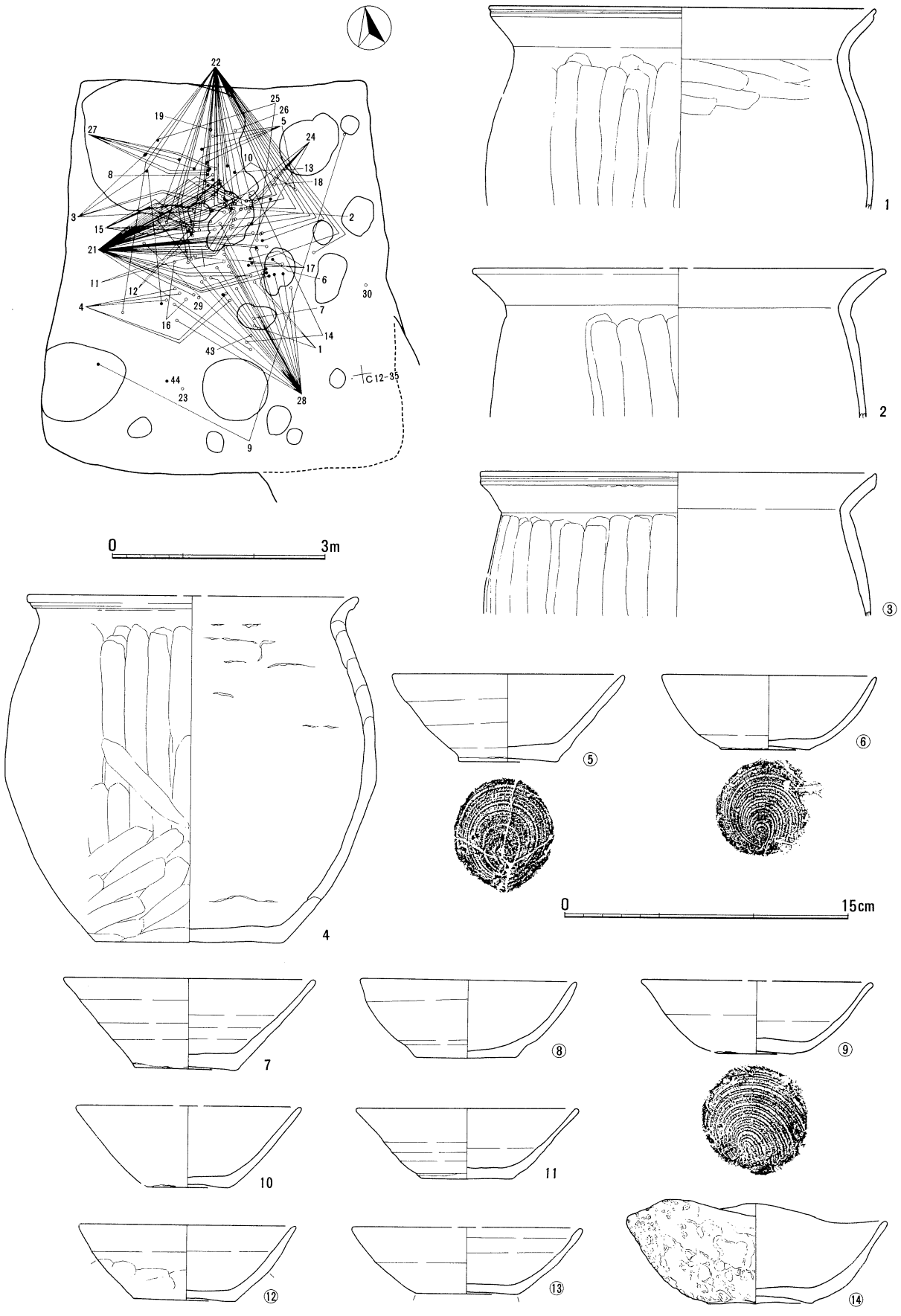




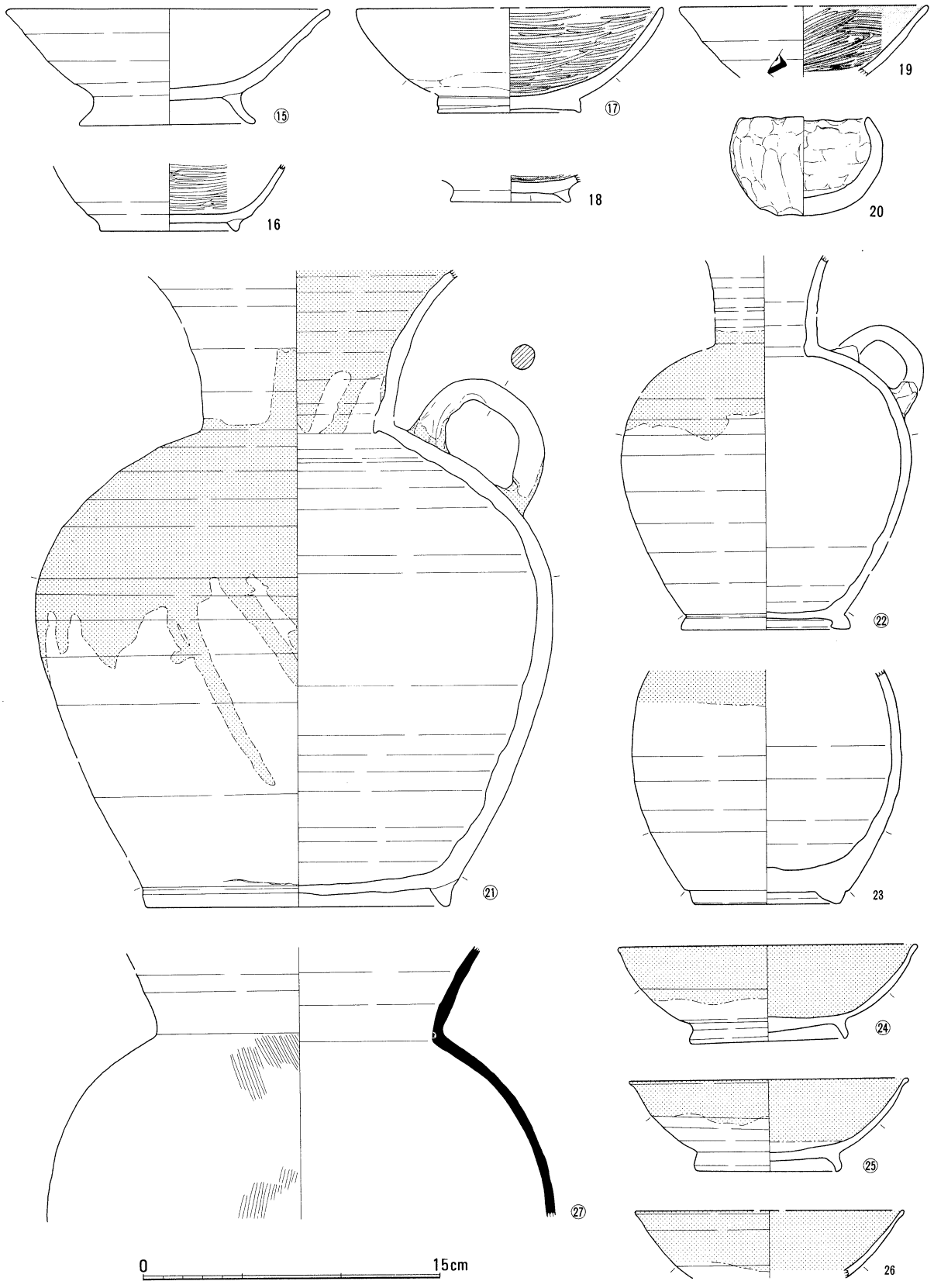




第28図　竪穴住居17・18(1)



第29図　竪穴住居18(2)



第30図　竪穴住居18(3)

備考　掘形面がほぼローム面に達する。西側壁は、確認坑により床面まで掘り下げてしまっている。Ⅰb期。

竪穴住居17（第28図）　C12区

建替　なし　**規模**　3.25(主軸)×2.87m　確認面(8.99)㎡　床面(7.95)㎡　**主軸方位**　N－24°－W　**残存壁高**　10～19cm　**Pit**　$P_1$41cm　$P_2$57cm　$P_3$45cm　$P_4$44cm　P_1は床面において、他は掘形面で確認した。いずれも竪穴住居18との帰属関係は不明　**カマド**　北壁。山砂・粘土を用材とする。煙道長は壁より20cmを測る　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　2層、暗黄褐色土　3層、黒褐色土を主体としソフトロームを混合

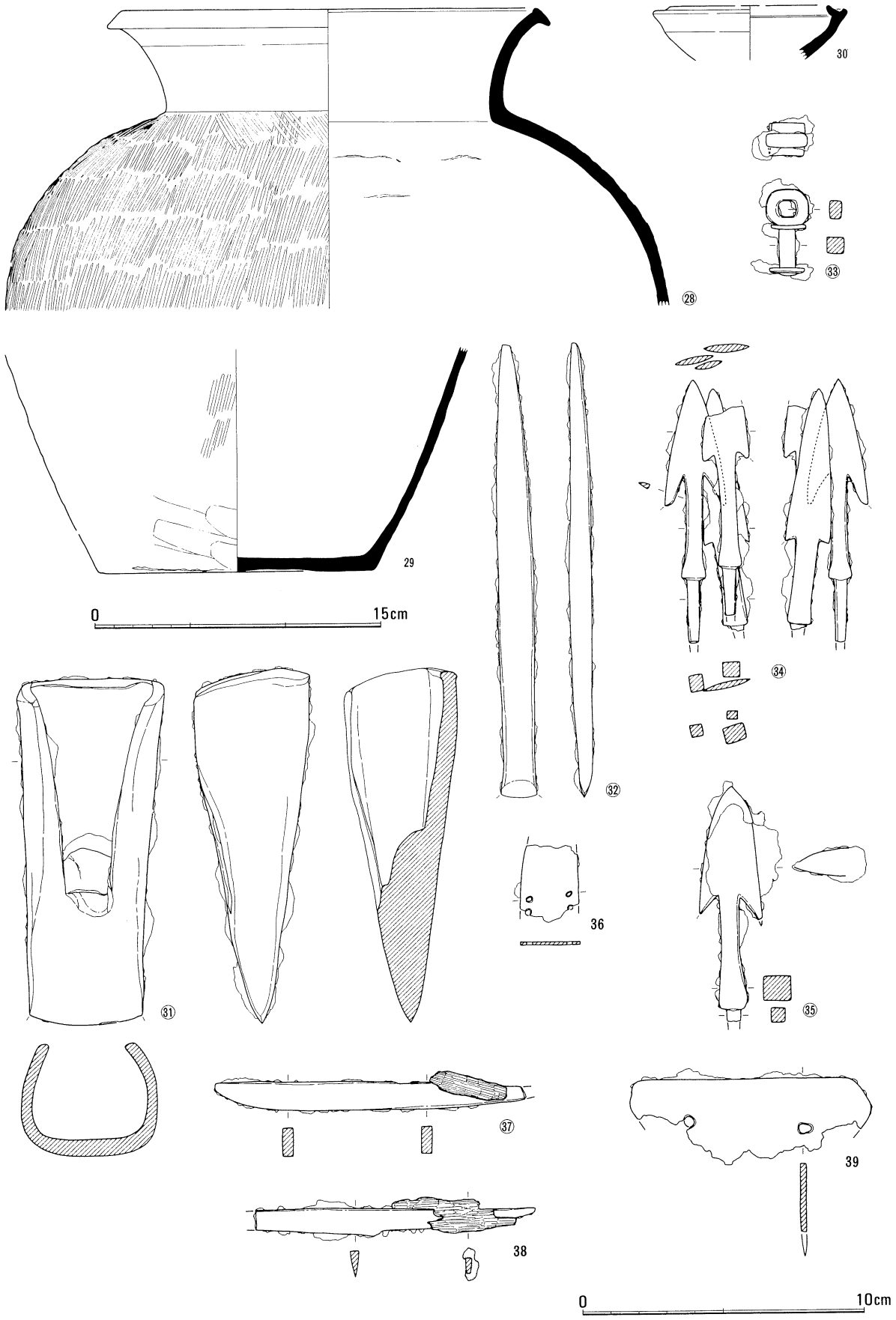
遺物　土師器甕2点、土師器杯2点、平瓦1点である。1・4・5が床面上より出土している。

備考　竪穴住居18に重複、本遺構が新。北壁については、掘形面において確認した。掘形面はローム面にほぼ対応する。Ⅴ期。

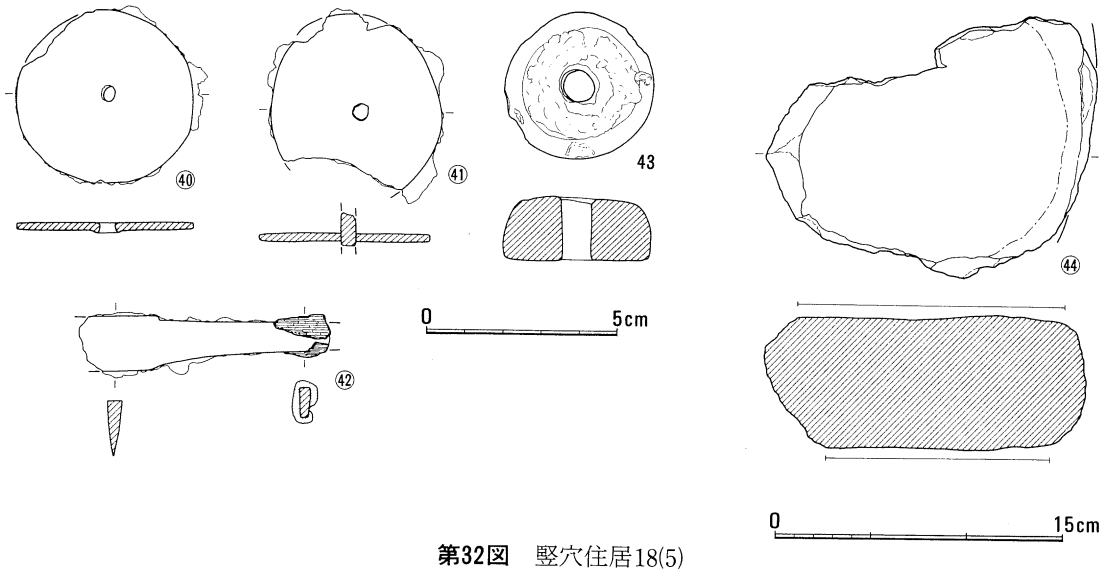
竪穴住居18（第28～32図）　C12区

建替　不明　**規模**　5.60(長軸)×4.16～5.20m　確認面(26.10)㎡　床面(24.63)㎡　**長軸方位**　N－13°－E　**残存壁高**　0～18cm　**Pit**　$P_1$47cm　$P_2$27cm　$P_3$37cm　$P_4$51cm　$P_5$30cm　$P_6$57cm　$P_7$43cm　$P_8$46cm　P_9(炉)　P_{10}44cm　P_{11}59cm　P_{12}(炉)　P_{13}(炉)　P_{14}41cm　P_{15}36cm　P_{16}39cm　P_{17}39cm　P_{18}36cm　P_{19}44cm　P_{20}57cm　P_{21}45cm　このうちP_{14}・P_{17}・P_{20}・P_{21}は帰属不明　**炉**　竪穴中央部より3基検出されている。P_9は63×53cm、深さ15cm、P_{12}は68×45cm、深さ25cm、P_{13}は56×33cm、深さ14cmである。P_9、P_{13}は焼土の堆積は明確ではなかったものの、床面はよくやけていた。P_{12}については、若干の焼土を伴うものである　**周溝**　なし　**土層**　1層、黒褐色土　2層、明黒褐色土であり、床面全体に焼土、若干の炭化物を含む　3層、純焼土層　4層、明黒褐色土であり、焼土を多量に混合　5層、暗黄褐色、焼土、ローム粒を全体に粒状に混合　6層、炉跡に対応　7層、黒褐色土を地層とし、ロームブロックを局部的に混合　8層、Pit、未実測　9層、黒褐色土

遺物　土器は、竪穴中央部、床面から覆土にかけて多量に出土している。状況からは廃棄とも考えられるが、覆土が全体に薄いこともあり、遺存遺物と層位的に明確に区分することができない。覆土資料のみで接合しているものは1・2・4・7・10・11・16・18～20・23・26・29・30であるが、30などを除き時期差は明瞭ではない。19は墨書土器であるが、判読できない。他に多量のスラグ、鉄製品が出土している。実測可能個体は31～42である。31は鉄斧であり、全長12.45cm、最大幅5.2cm、刃部幅4.0cm、最大厚4.15cm、重量480gを測る。32は両刃のノミである。全長16.3cm、最大幅（刃部幅）1.30cm、厚さ0.6cm、重量57.6gを測る。33は、なんらかの留金具と考えられ、方形の鉄板をはさみ環状の頭部をもつ。軸棒逆側は打ちつぶされている。全長3.1cm、方形の留板は1.25×1.2cmを測る。重量は6.8gである。34は、長頸式の腸抉長三角形式であり、形状の異なる3点が付着している。Aは頭部、茎を欠損し、現存長7.4cmを測る。Bは深い逆刺をもつものであり、茎を欠損する。現存長9.4cmである。Cは茎を欠損し、現存長8.7cmを測る。総重量は42.4gである。35は長頸腸抉長三角式であり、身は錆により分離している。現存長8.4cm、重量15.7gを測る。36は小札状を呈し、4孔を穿つ。現存長2.75cm、最大幅2.1cm、厚さ0.1cm、重さ2.6gを測る。37は刀子状の形状をもつが、刃部・関部が認められない。付着する木質は、伴うものではない。現存長11.2cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重量20.6g



第31図　竪穴住居18(4)



第32図　竪穴住居18(5)

を測る。38は刀子であり、刃部側にのみ関をつくる。現存長10.1cm、最大幅1.0cm、厚さ0.3cm、重量7.28ｇを測る。39は手鎌と考えられる。２孔をもつが釘は遺存しない。全長8.7cm、幅3.0cm、厚さ0.2cm、重さ26.8ｇを測る。40･41は紡錘車紡輪部分である。40は最大径4.65cm、孔径0.35cm、厚さ0.2cm、重量15.4ｇを測る。41は径4.6cm、厚さ0.2cmである。軸が遺存しており、径0.4cmを測る。重量は17.2ｇである。42は両関の刀子である。現存長6.7cm、最大幅1.45cm、厚さ0.4cm、重量10.8ｇを測る。他に製品と考えられるものは９点あるが、いずれも細片である。スラグについては、総計121点出土しており、最大750ｇ、総重量は2286ｇになる。しかしこれは調査時に確認できたもののみであり、覆土の洗浄等は実施できなかった（図版57)。他に石製品として43･44がある。43は紡錘車であり、表面に打痕を残す。石質は蛇紋岩であり、重量は46.3ｇを測る。44は、縄文時代の石皿ないしはその再利用と考えられる。表裏面は平滑化している。石質は安山岩であり、重量は2290ｇを測る。他に金床ではないかと考えられる安山岩製の台石がP_{13}の脇床面上より検出されたが、火をうけ細片化していたため図示できない。重量3000ｇ以上を測る。

備考　竪穴住居17と重複し、南東隅が破壊されている。南東隅範囲は掘形面により確認。本遺構は鍛冶工房跡と考えられる。この場合P_9･P_{12}･P_{13}は鍛冶炉と推定されるが、鍛冶滓の堆積は明瞭ではなかった。スラグは竪穴全体、床面上から覆土におよぶ。第28図は、床面レベルを基準として図化したものである。Pit 内については、P_1内覆土より若干量出土した程度である。各 Pit の性格については不明確であり、開口していたものかどうかについても判断することはできなかった。ただし、主柱穴と考えられるものはない。なお本遺構は火災をうけたものと推定される。Ⅴ期。

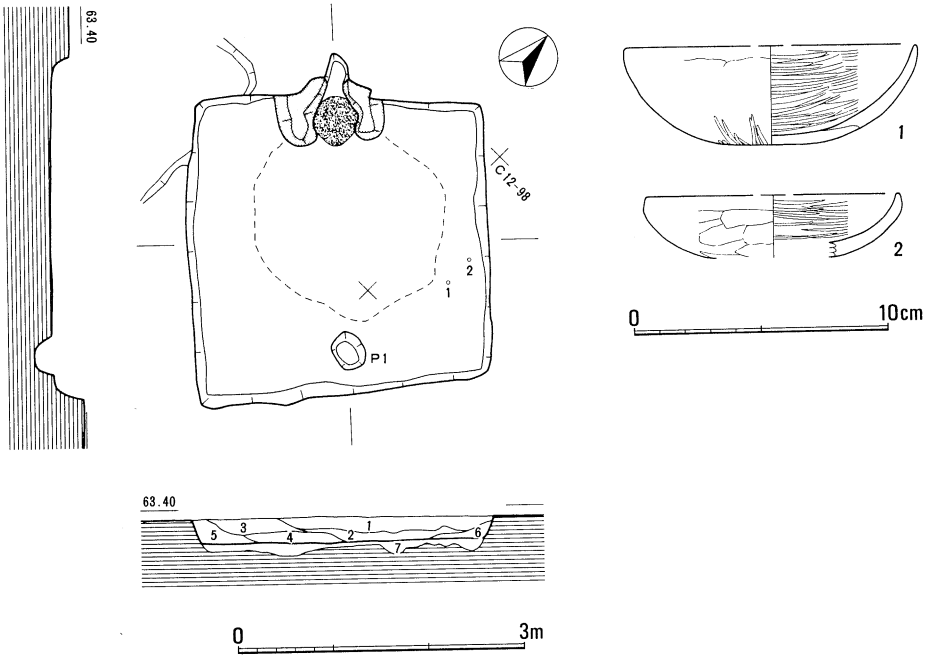
竪穴住居19（第33図）　C12区

建替　なし　　**規模**　3.24（主軸）×3.21m　確認面10.14㎡　床面8.47㎡　　**主軸方位**　N－47°－W

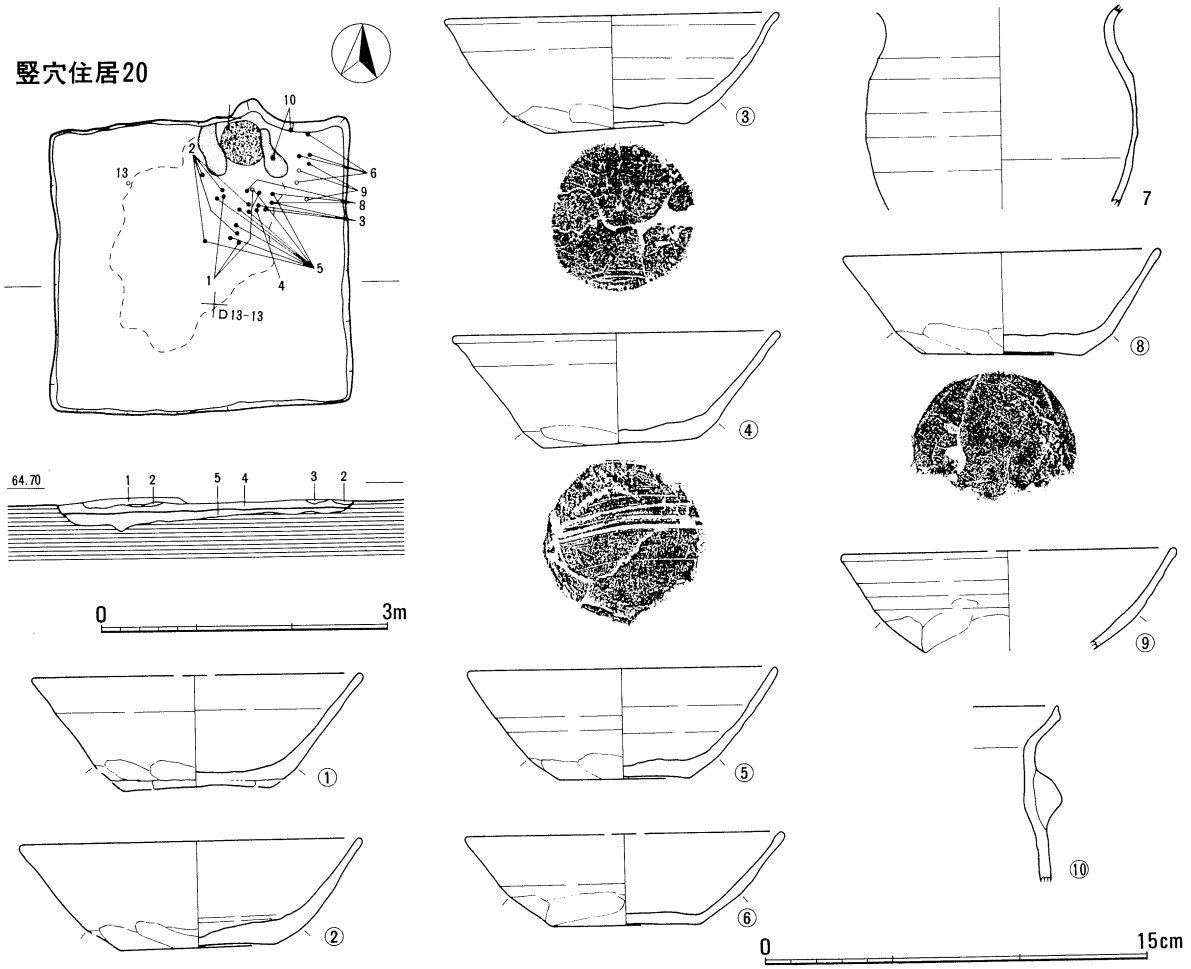
残存壁高　６～33cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）20cm　　**カマド**　北壁。袖は壁外へ張り出す。白色粒土を用材とする。煙道長壁より48cm　　**周溝**　なし　　**土層**　１層、明黒褐色土、斑状に褐色土を混合　２層、黒褐色均質土　３層、１層に似るが明　４層、黒褐色土、スコリア、斑状に褐色土を混合　５層、暗黄褐色土、粒状　６層、黒褐色土、若干のローム混合　７層、明黒褐色土、しみ状にソフトローム混合

遺物　土師器杯２点が覆土下層より出土している。

竪穴住居19

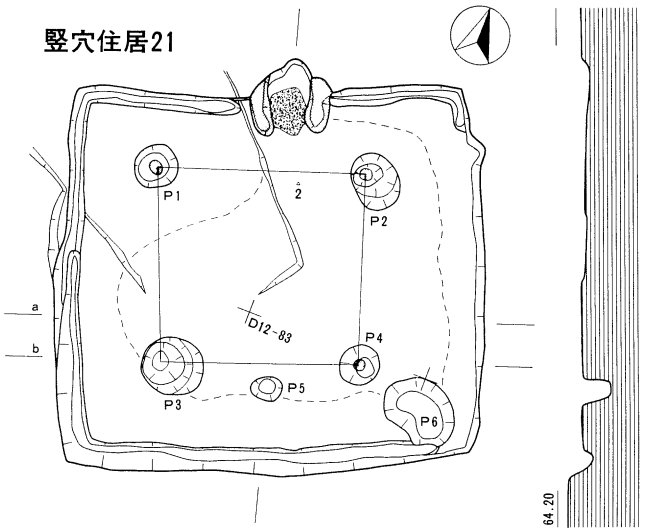


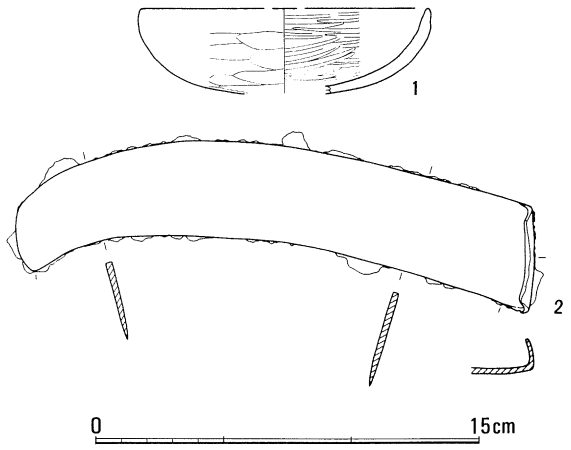
竪穴住居20

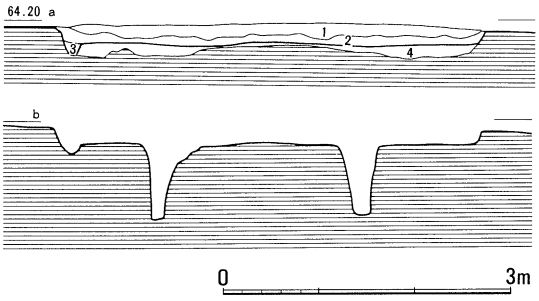


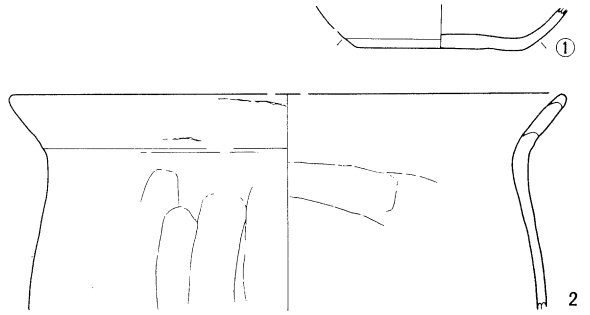
第33図　竪穴住居19・20

竪穴住居21

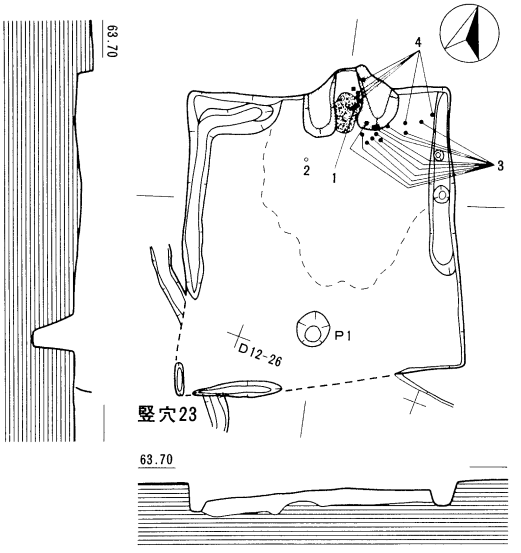


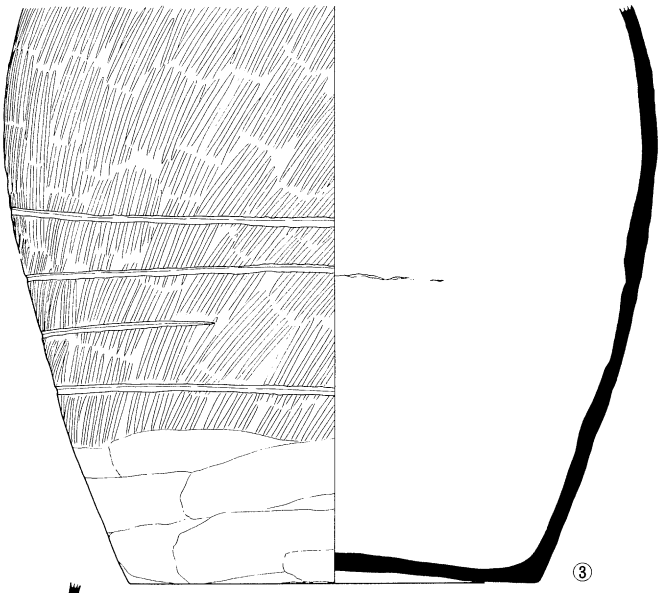


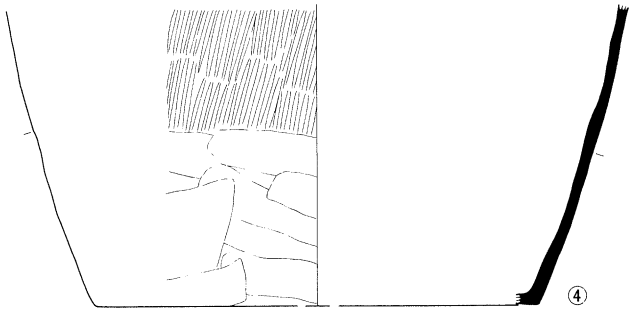


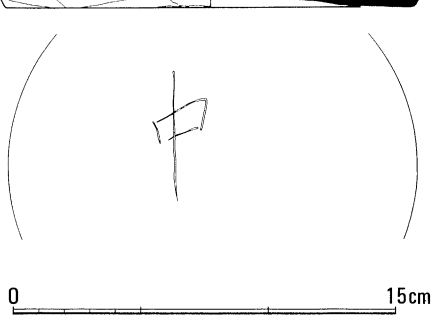


竪穴住居22

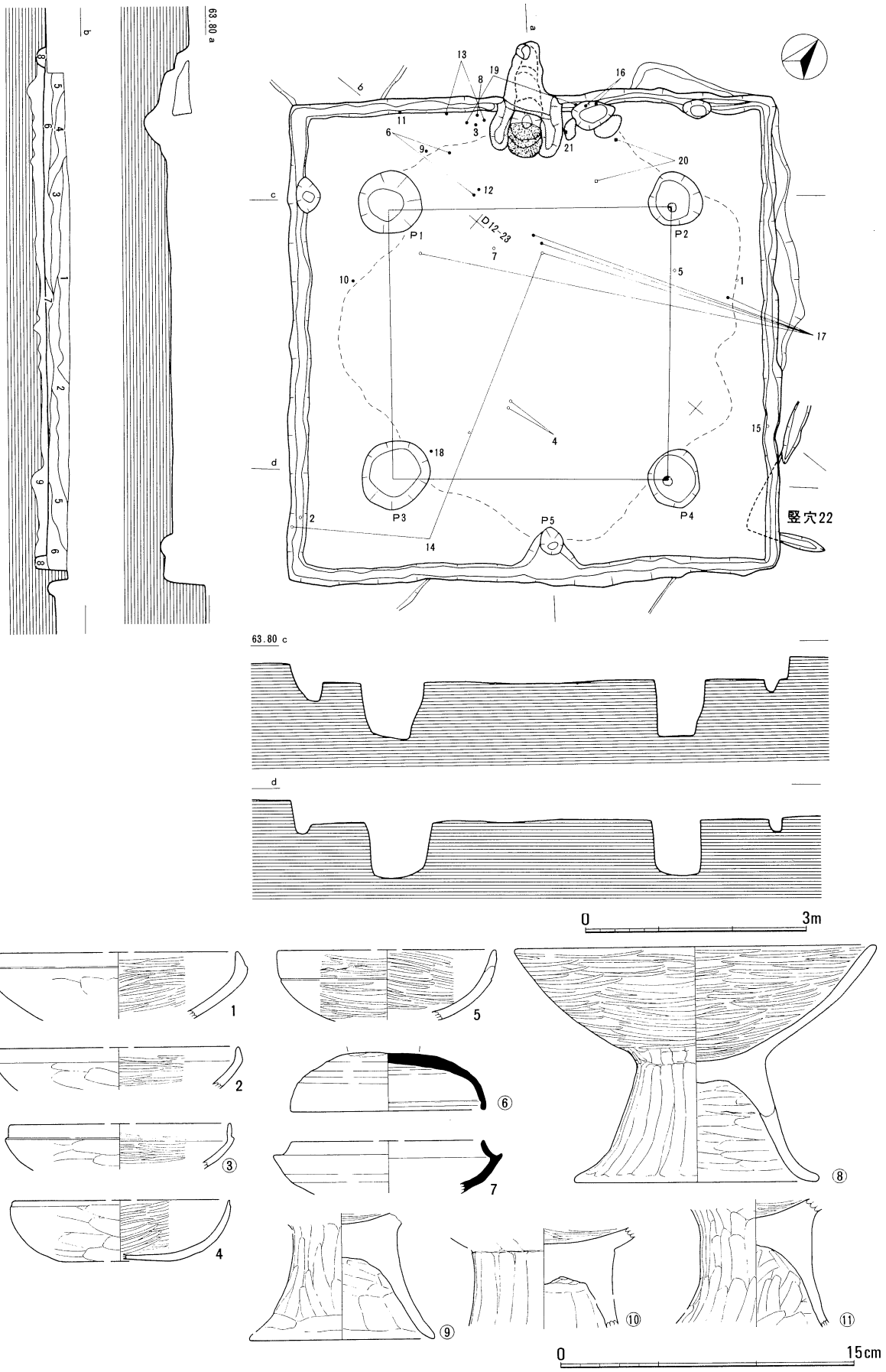




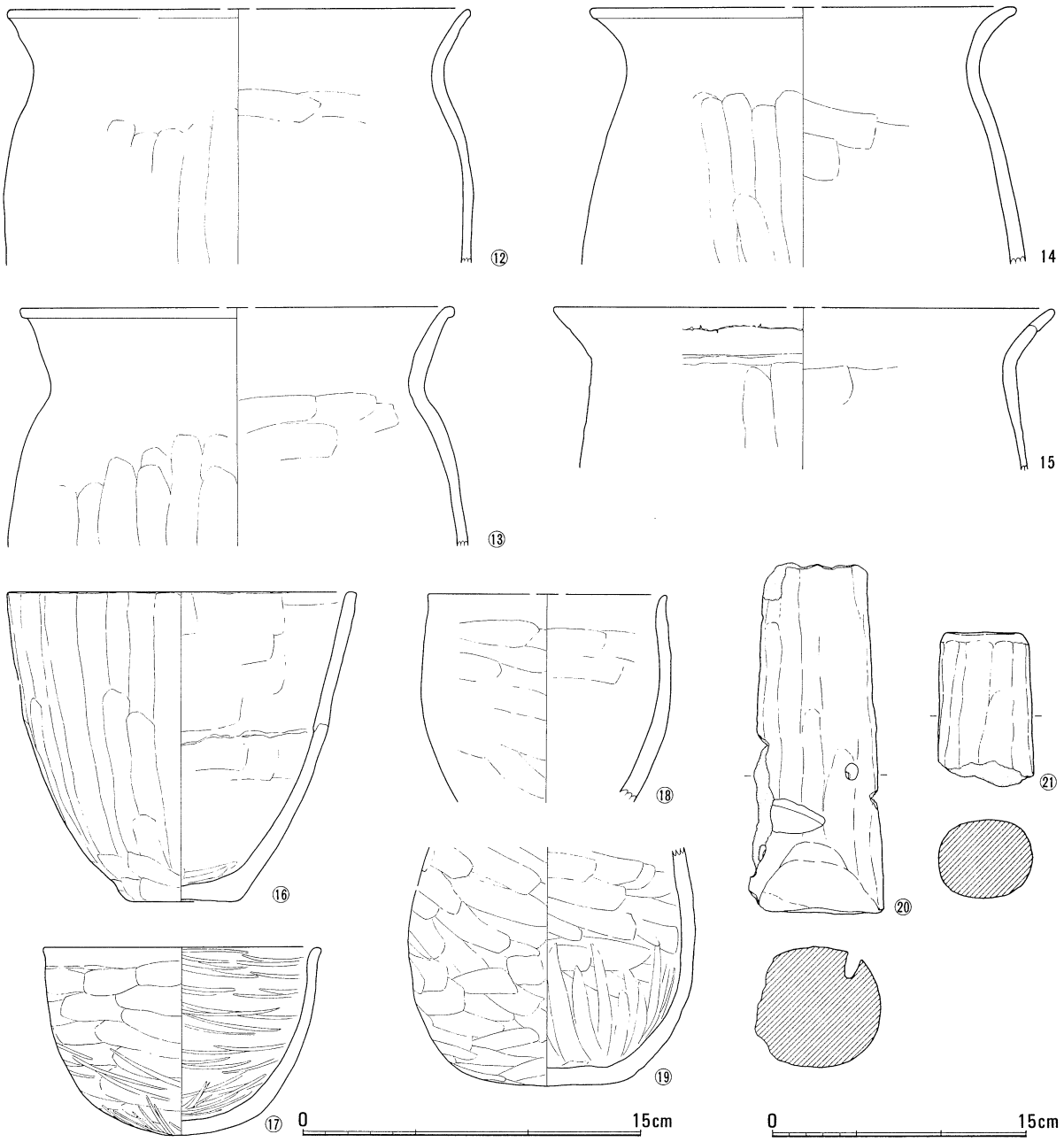




第34図　竪穴住居21・22



第35図　竪穴住居23(1)



第36図　竪穴住居23(2)

備考　北西隅は確認坑である。Ｉｂ期か。

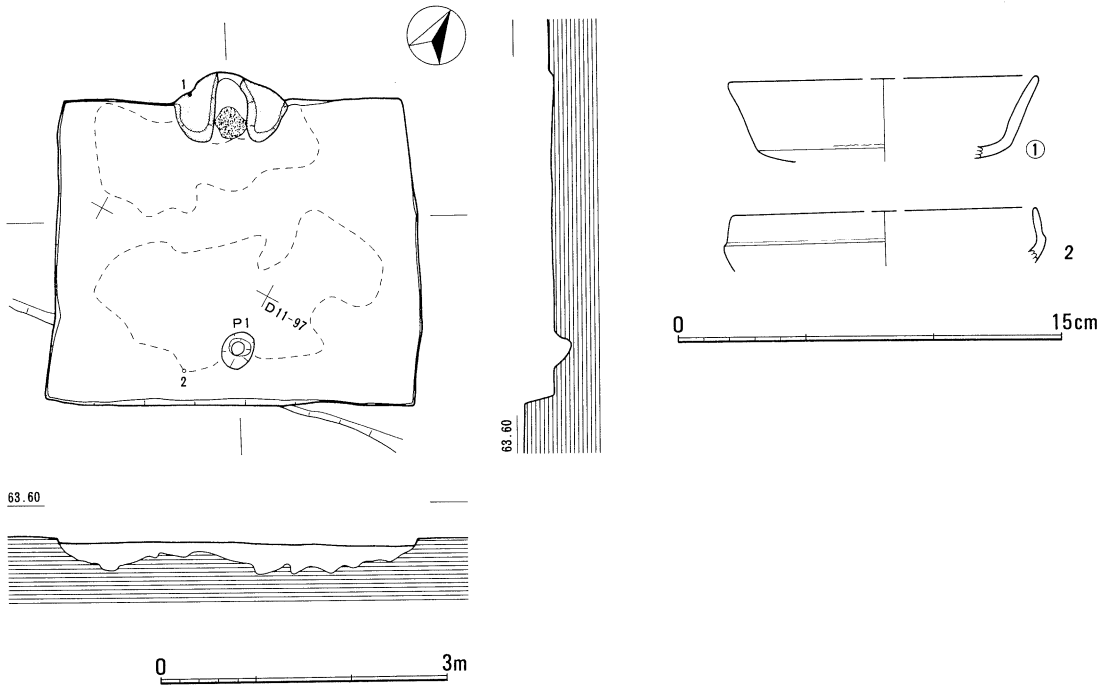
竪穴住居20（第33図）　D13区

建替　なし　　**規模**　3.13(主軸)×3.15m　確認面9.81㎡　床面8.73㎡　　**主軸方位**　Ｎ－8°－Ｗ

残存壁高　4～12cm　　**Pit**　なし　　**カマド**　北壁。明瞭にとらえることができなかった。床面上粘土残存範囲のみを図示。煙道長20cm　　**周溝**　なし　　**土層**　1層、明黒褐色土、焼土粒、炭化物を混合　2層、焼土層　3層、炭化物層　4層、黒褐色土　5層、暗黄褐色均質土

遺物　土師器杯8点、土師器甕1点、土師器甑1点が出土している。7を除きいずれも床面上より出土したものである。

備考　火災をうけたものと考えるが、焼土・炭化物層は4層上面に認められており、床面とは若干の間層をはさむ。Ⅴ期。



第37図　竪穴住居24

竪穴住居21（第34図）　D12区

建替　なし　　**規模**　4.09(主軸)×4.55m　確認面18.15m²　床面16.21m²　内区4.44m²　　**主軸方位**　N－20°－W　　**残存壁高**　0～38cm　　**Pit**　$P_1$52cm　$P_2$50cm　$P_3$73cm　$P_4$70cm　P_5（梯子穴）26cm　$P_6$23cm　　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を用材とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より42cm　　**周溝**　東壁際不明瞭　　**土層**　1層、明黒褐色土、褐色土および若干の焼土粒混合　2層、黒褐色土　3層、明黒褐色土　4層、黒褐色土を地層とし、若干のロームを局部的に混合

遺物　土師器杯1点、鉄製鎌1点である。いずれも覆土下層より出土している。この鎌は、基部一部を除き完存している。全長20.7cm、最大幅4.0cm、厚さ0.2～0.25cm、重さ97.7gを測る。柄の装着角度は94°であり、ほぼ直交する。

備考　掘形面がほぼローム面と対応する。北西隅は確認調査坑であり、床面に達している。P_6の性格については不明であり、伴うものであるかどうかも明らかではない。IIa期か。

竪穴住居22（第34図）　D12区

建替　なし　　**規模**　3.12(主軸)×2.88m　確認面9.24m²　床面8.13m²　　**主軸方位**　N－22°－W　　**残存壁高**　0～18cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）44cm　　**カマド**　北壁。袖は白色粘土を主体とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より43cm　　**周溝**　断続的に検出。壁柱穴　　**土層**　覆土は黒褐色土、掘形は深く、黒褐色土を主体とし、若干のロームを混合

遺物　土師器甕1点、土師器杯1点、須恵器甕2点が出土している。このうちカマド焚口内、床面上から出土したものは1・3・4である。他に土製支脚がカマド内より出土しているが、遺存状態が不良であった。

備考　竪穴住居23と重複、本遺構が新。南壁側は確認調査坑であり、一部床面をけずっている。本遺構も、掘形面がローム面にほぼ対応する。IVa期。

竪穴住居23（第35・36図）　D12区

建替　なし　　**規模**　6.76（主軸）×6.80m　確認面46.09m²　床面43.06m²　内区14.67m²　　**主軸方**

位　N－41°－W　**残存壁高**　0～44cm　**Pit**　$P_1$79cm　$P_2$77cm　$P_3$79cm　$P_4$77cm　P_5(梯子穴)29cm　**カマド**　北壁。遺存状態が良好であり、一部天井部が遺存している。　焚口から奥が深くなり、火床面はその底面におよぶ、袖用材は、下部は山砂を主体とするが、天井部は白色粘土からなる。煙道は階段状となり、壁から74cmを測る。その東側に別のカマドの痕跡がみられる　**周溝**　全周　**土層**　1層、黒褐色均質土　2層、明黒褐色土、大小スコリアを多量に含む　3層、1層に似るがやや明　4層、明黒褐色均質土　5層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　6層、5層に比してやや明、ローム若干混合　7層、ロームブロック多　8層、暗褐色土を呈し粒状　9層、黄褐色土、粒状　10層、黒褐色土を主体とし、ソフトロームをしみ状に混合

遺物　土師器甕4点、土師器椀・鉢4点、土師器杯5点、土師器杯4点、須恵器杯身1点、須恵器杯蓋1点、土製支脚2点である。1・2・4・5・7・14・15を除き床面上より出土している。土製支脚20は、頭部を欠損する。基部は斜めにつくられている。器面はにぶい橙色を呈し、胎土は砂状である。現存長21.2cm、重量866gを測る。21は頭部であるが、20とは接合しない。胎土等は20に似る。現存長9.3cm、重さ233gを測る。他にスラグが覆土より1点出土する。

備考　竪穴住居22と重複、本遺構が古。カマドに新旧が認められるものの、上屋の建替痕跡は認められない。ただし無柱穴であった場合、可能性がないわけではない。北東隅については、風倒木跡を切っており、竪穴範囲の確認にてまどった。Ⅰb期。

竪穴住居24（第37図）　D11区

建替　なし　**規模**　3.27(主軸)×3.85m　確認面12.70m²　床面11.62m²　**主軸方位**　N－30°－W　**残存壁高**　0～32cm　**Pit**　P_1（梯子穴)20cm　**カマド**　北壁。袖は黒褐色土を基礎とし、山砂・粘土を積み上げ、壁外へ張り出す　**周溝**　なし　**土層**　覆土は明黒褐色土を主とし、褐色の斑状ブロックを含む。貼り床は黒褐色土にロームを混合

遺物　土師器杯2点が出土している。1は袖内より、2は覆土上層より出土したものである。

備考　Ⅲb期を上限とする。

竪穴住居25（第38図）　D12区

建替　1回？。A・B。カマド2基、床面2枚　**規模**　4.03(主軸)×4.08m　確認面A16.65m²　床面A14.93m²　内区A5.09m²　**主軸方位**　AN－44°－W　**残存壁高**　4～18cm　**Pit**　$P_1$44cm　$P_2$61cm　$P_3$20cm　$P_4$20cm　$P_5$63cm　**カマド**　北壁東より。2基か。袖位置、火床面など、明確にとらえることができなかった。山砂範囲のみ図示　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土　2層、黒褐色土、硬質（A床？）　3層、黒褐色土を地層としローム混合、硬質（B床？）

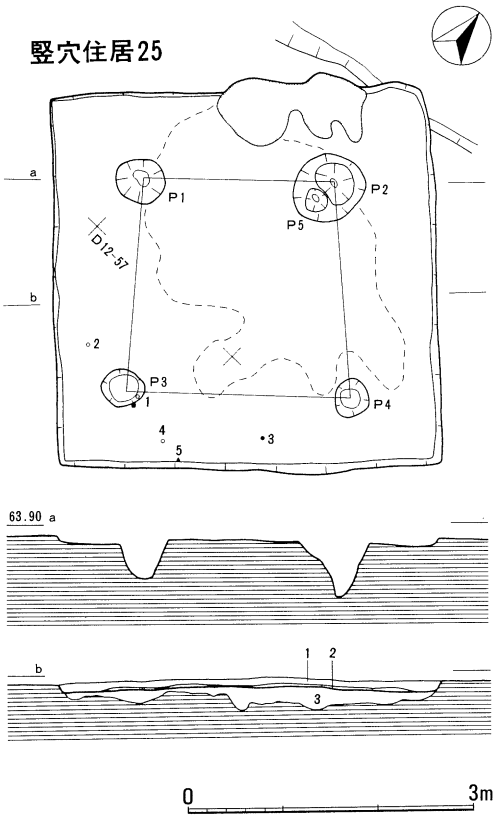
遺物　土器は1・2・4が覆土より、3がA床面上より検出された。5は鉄製の刀子である。接合していないものの、同一地点から出土しており、また身幅より同じ個体と考えられる。両関であり、最大幅1.35cm、重量5.0gを測る。

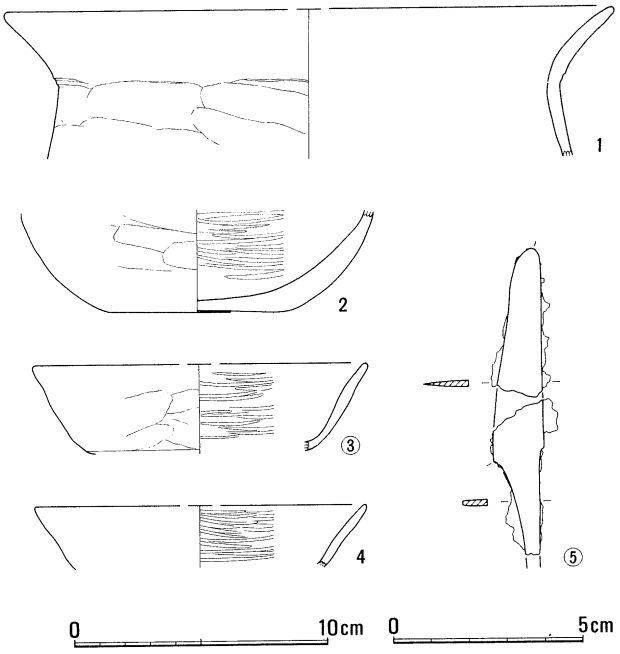
備考　カマド、床面が重複すると考えられる点より、建替を想定した。ただし掘形面の調査においても、B住居範囲、主柱穴等確認することができなかった。同位置、同規模での建替か。主柱穴については、無柱穴ないしはP_1・P_3・P_4の共有が考えられる。Ⅲb期。B不明。

竪穴住居26（第38図）　E12区

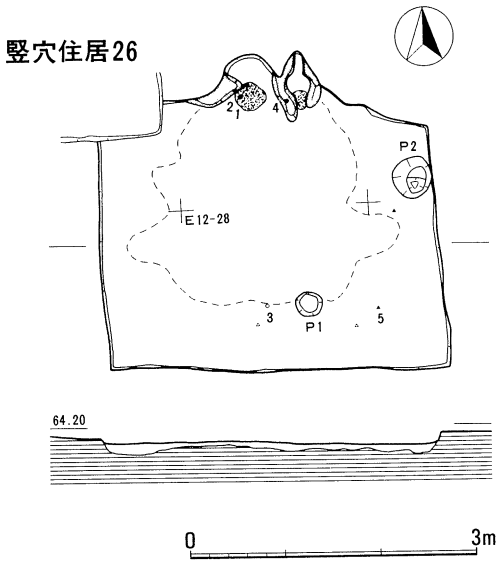
建替　なし　**規模**　2.92（主軸)×3.60m　確認面(10.79)m²　床面(9.86)m²　**主軸方位**　N－

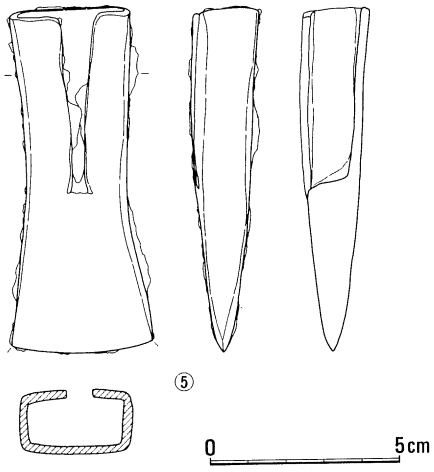
竪穴住居25

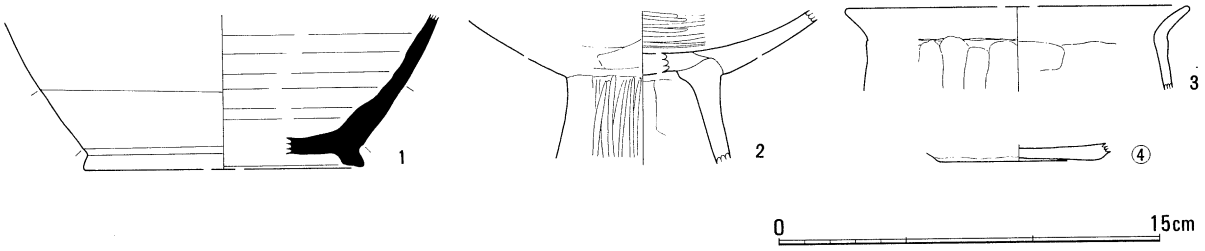




竪穴住居26







第38図　竪穴住居25・26

3°－W　**残存壁高**　0～12cm　**Pit**　P_1（梯子穴）22cm　$P_2$24cm　**カマド**　北壁。2基。東側が新期のものと考えられる。両者とも山砂・粘土を主体とし、袖は壁外へ張り出す　**周溝**　なし　**土層**　貼り床は黒褐色土を主体とし硬質

遺物　土器は、土師器甕1点、土師器杯1点、土師器高杯1点、須恵器長頸壺1点である。4が袖に密着して出土している。5は鉄製斧であり完存する。全長9.3cm、最大幅（刃部幅）3.75cm、厚さ1.8cm、重量133gを測る。床面上より出土している。他に棒状の鉄製品小片が覆土より2点、床面より1点出土している。

備考　カマドはつくりかえが認められるものの、上屋の建替を想定できる点がなく、一応建替とはしなかった。本遺構は黒褐色土中に床面があり、竪穴範囲はかならずしも確実ではない。北西隅は確認調査坑であり、確認調査時には検出することができなかった。4を基準とするならばV期か。

竪穴住居27（第39図）　E12区

建替　なし　**規模**　3.57(主軸)×3.52m　確認面12.18m²　床面10.96m²　**主軸方位**　N－3°－W　**残存壁高**　0～28cm　**Pit**　P_1平面1.76×1.73m、深さ53cm　P_2平面2.04×0.97m、深さ42cm　**カマド**　北壁。袖基部は白色粘土を構築材とする。火床面、袖側面ともあまりやけていない　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、しみ状にローム混合、若干の焼土粒　2層、明黒褐色土を地層とし大小スコリアを多量に含む　3層、黒褐色均質土　4層、2層と同質　5層、黒褐色土、有機性が強つ粘性強　6層、ローム崩落土　7層、暗黒褐色土、ブロック状、硬質　8層、明黒褐色土を地層とし大小ロームブロック多　9層、黒褐色均質土　10層、暗黄褐色土、ロームブロック大小多

遺物　出土土器は、土師器甕1点、土師器杯2点、土師器高台付杯1点、須恵器甕1点であり、1～3・5が床面、カマド焚口内より出土している。他にスラグが3点カマド内および竪穴覆土より出土している。

備考　竪穴住居28と重複。本遺構が新。P_1・P_2については、その性格は明らかではない。一応竪穴に対して規則的な位置にあることから本遺構に伴うものと考えておく。P_1・P_2には新旧関係があり、P_2→P_1である。P_1については、他の部分の貼り床面が全体に硬質であったことから、同時期のものとするならば開口していたことになる。またP_1内覆土と竪穴床面上の土器が接合関係をもつ。P_2については、貼り床下に位置しているが、覆土の状況から縄文時代の落し穴ではない。なお、P_1内よりは若干量の土器が、P_2からは遺物は出土していない。V期。

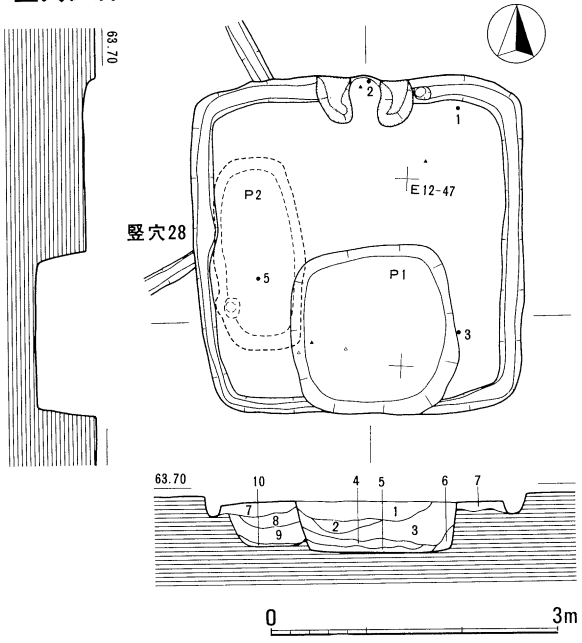
竪穴住居28（第39図）　E12区

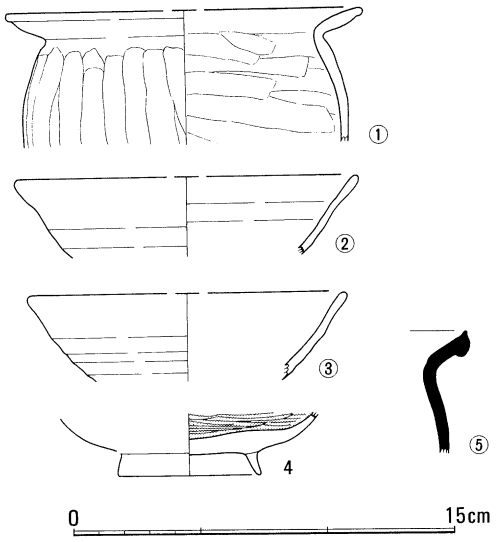
建替　なし　**規模**　4.84(主軸)×4.92m　確認面24.28m²　床面21.83m²　内区4.28m²　**主軸方位**　N－33°－W　**残存壁高**　0～27cm　**Pit**　$P_1$68cm　$P_2$54cm　$P_3$76cm　$P_4$63cm　**カマド**　北壁。全体に遺存状態が不良であり、山砂を主とする基部のみ検出。煙道長68cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、黒褐色土を地層とし、大小スコリア粒を多量に含む　2層、1層に似るが、斑状に褐色土の混合多　3層、暗黄褐色土、粒状　4層、黒褐色土を主体とし、若干のロームをしみ状に混合

遺物　土師器甕4点、須恵器壺1点が出土している。覆土より出土したものは4・5であり、他はカマド周辺部より出土している。

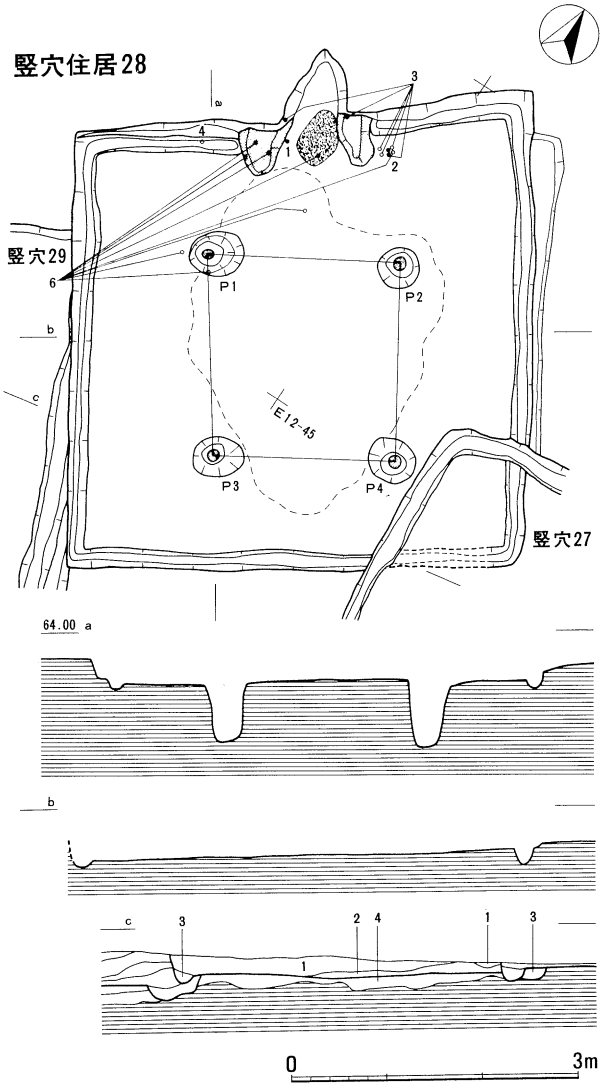
備考　竪穴住居27・29と重複関係をもつ。順序は古い方から29→28→27となる。東壁側については、若干掘りすぎがみられる。IVa期か。

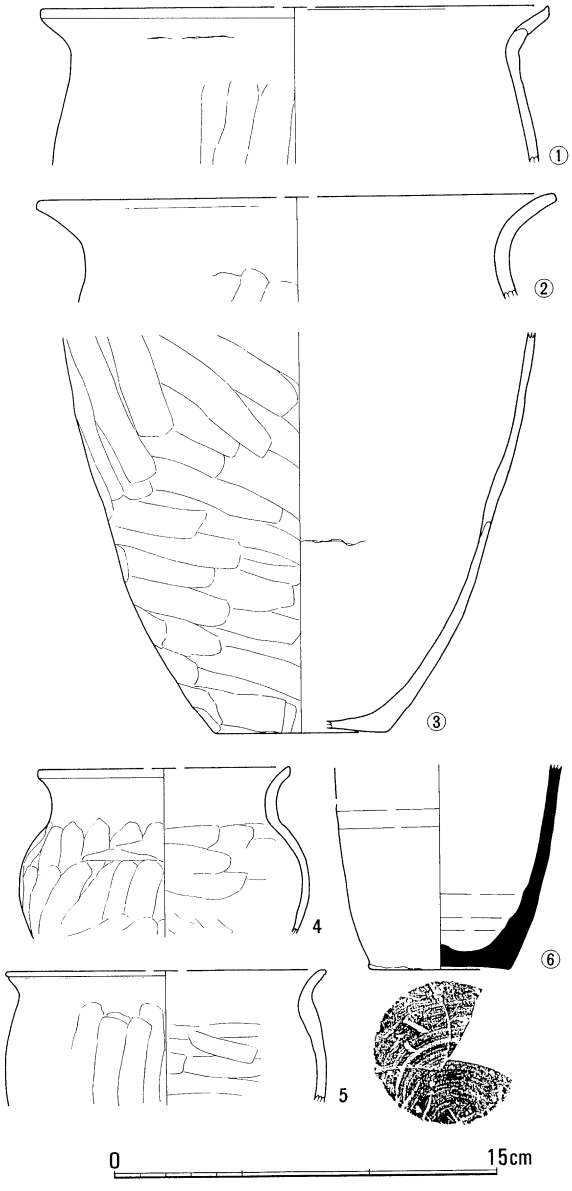
竪穴住居27



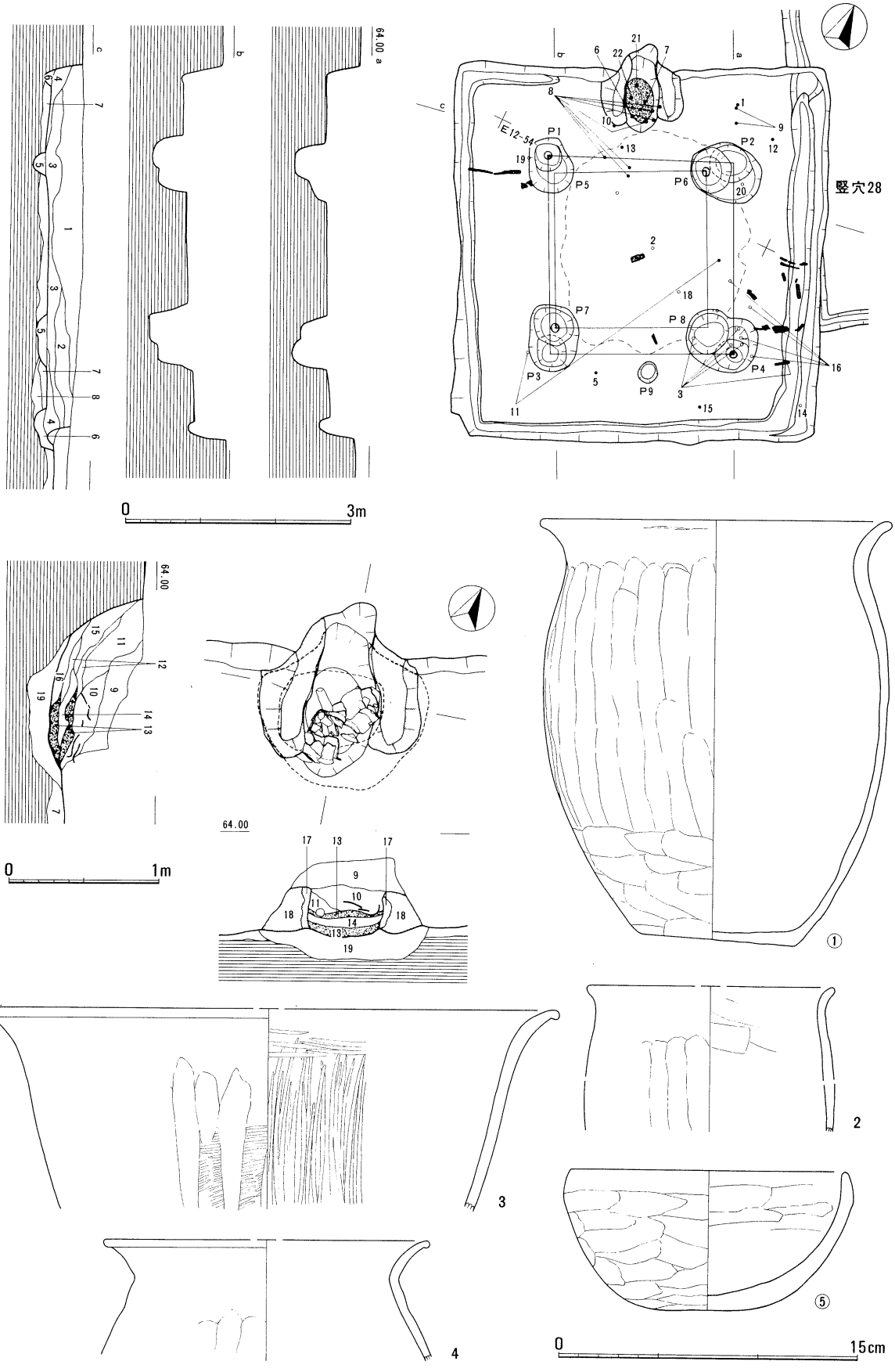


竪穴住居28

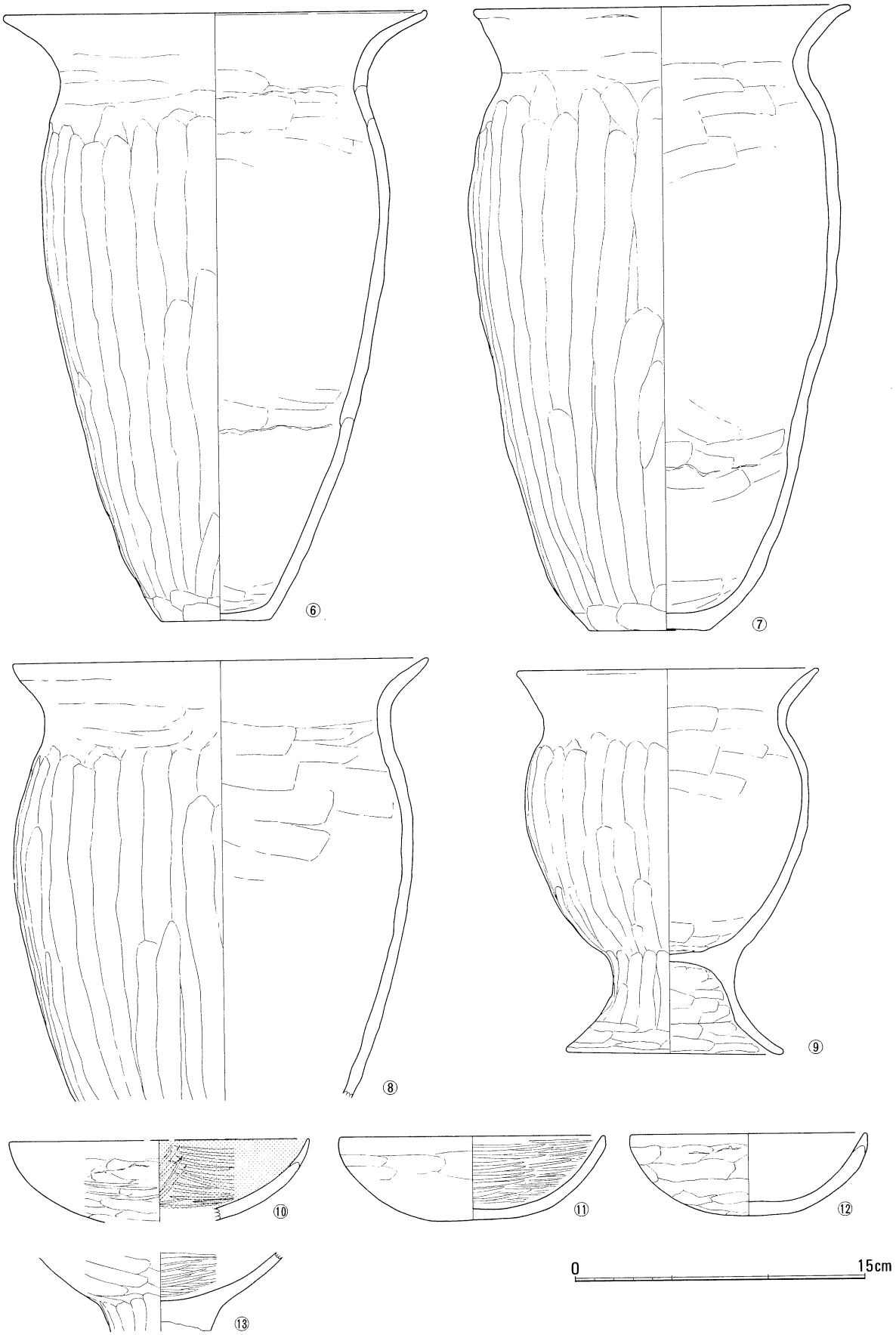




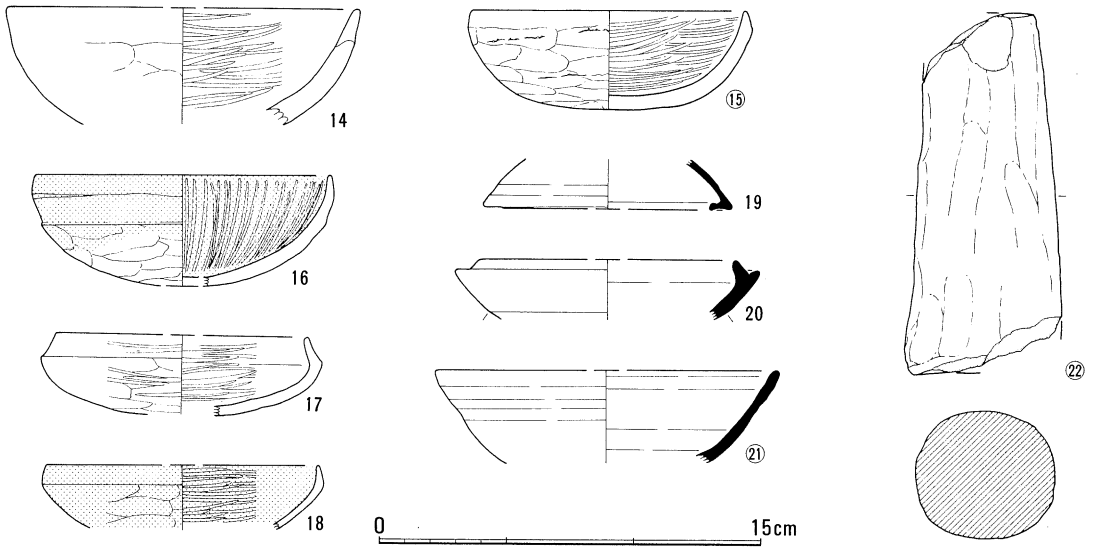
第39図　竪穴住居27・28



第40図　竪穴住居29(1)



第41図　竪穴住居29(2)



第42図　竪穴住居29(3)

竪穴住居29（第40～42図）　E12区

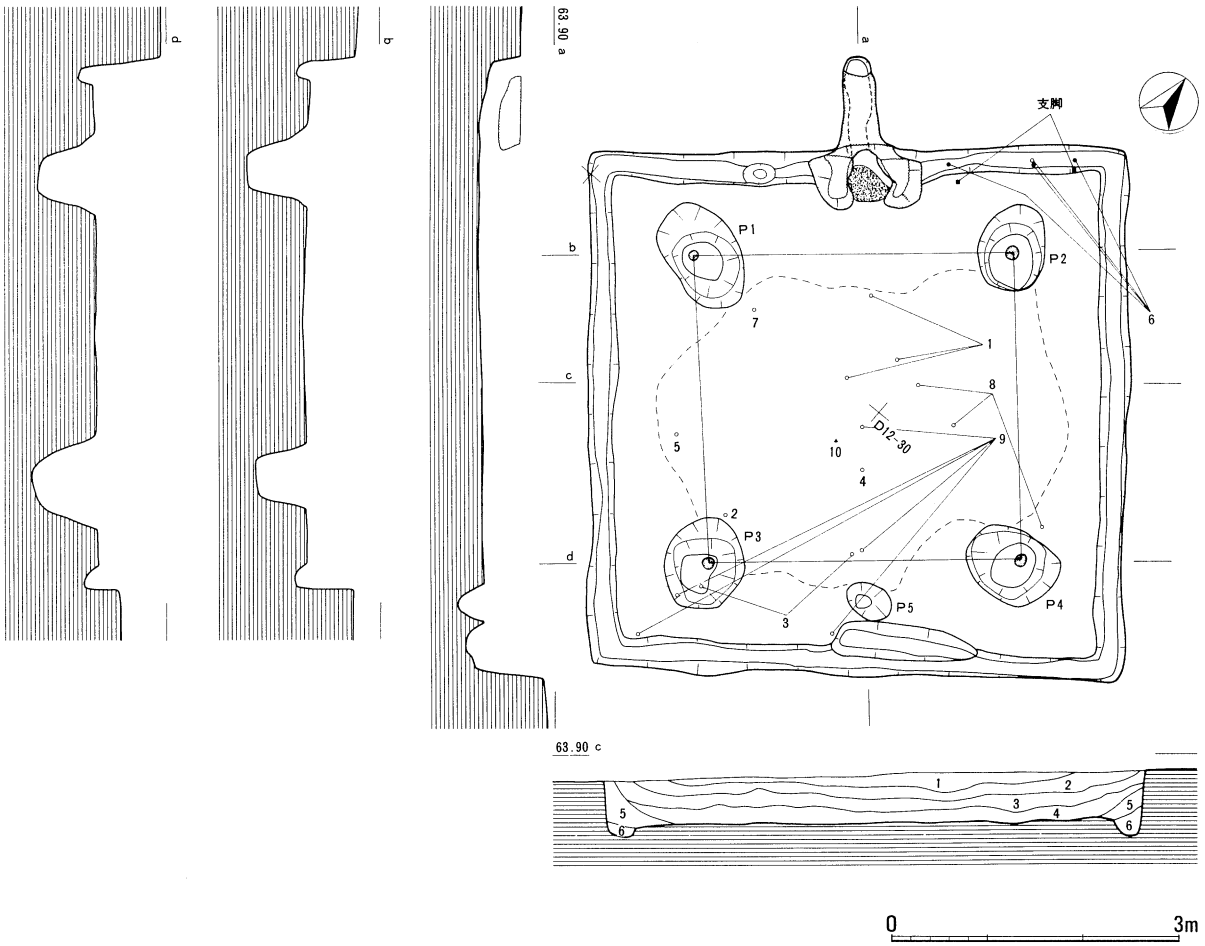
建替　1回。A・B。主柱穴重複　**規模**　A5.11(主軸)×4.97m　A確認面25.54m²　A床面22.63m²　内区A6.69m²　B4.43m²　**主軸方位**　AN－25°－W　**残存壁高**　24～53cm　**Pit**　AP_1～P_4　BP_5～P_8　$P_1$37cm、$P_2$42cm、$P_3$41cm、$P_4$43cm、$P_5$47cm、$P_6$51cm、$P_7$53cm、$P_8$54cm、$P_9$11cm　**カマド**　北壁。袖は壁外へ張り出す。火床面は2面あり、上面上より支脚、土器がまとまって出土している。煙道長は壁より35cm　**周溝**　ほぼ全周。北壁側やや不明確　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　2層、黒褐色土、スコリア多、山砂粒を若干混合　3層、黒褐色土であり、焼土・炭化物を多量に混合　4層、暗黒褐色土、焼土・炭化物・ロームを粒状に混合　5層、柱穴、未実測　6層、明黒褐色土、ロームブロックを若干混合する　7層、暗黄褐色土、ブロック状のロームからなる　8層、明黒褐色土　9層、1層に似るが、焼土・山砂粒多含　10層、黒褐色土、焼土・山砂多、粒状、しまりなし　11層、明黒褐色土、ブロック状に焼土・山砂混合　12層、褐色土、黒色粒、焼土粒を全体に混合、砂状　13層、火床面、ブロック状の焼土　14層、明褐色土、焼土ブロック、山砂主体、粒状　15層、黒褐色土、しまりなし、粒状　16層、ロームブロック、山砂・焼土混合　17層、18層赤化部分　18層、山砂主体、若干の黒褐色土をブロック状に混合　19層、黒褐色土、山砂・焼土ブロック若干混合

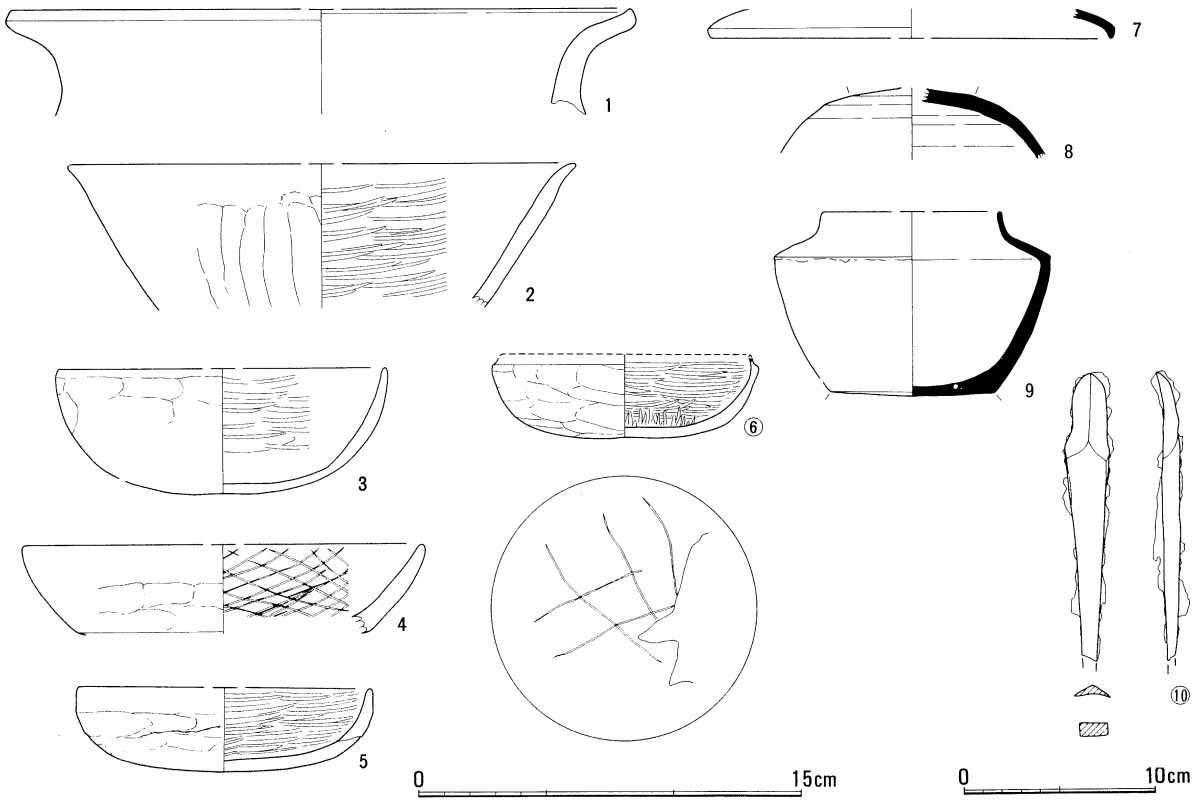
遺物　土師器甕7点、土師器甑1点、土師器椀1点、土師器杯8点、土師器高杯1点、須恵器杯蓋1点、須恵器杯2点が出土している。このうちカマド焚口内、床面上より出土したものは、1・5～13・15・21である。22は土製支脚である。完存していたが、取り上げ時に基部、頭部を一部欠く。全長19.3cm、重さ1010gを測る。器面は浅黄褐色を呈し、整形はナデによる。胎土は砂状を呈す。カマド内より出土した。

備考　竪穴住居28と重複。本遺構が古。東壁については、若干掘りすぎの可能性がある。床面上より多量の焼土・炭化物が認められており、火災をうけたと考えられる。IIa期。

竪穴住居30（第43図）　D12区

建替　なし　**規模**　5.64（主軸）×5.76m　確認面32.23m²　床面29.81m²　内区10.99m²　**主軸方**





第43図　竪穴住居30

位　N－40°－W　**残存壁高**　20～71cm　**Pit**　$P_1$68cm　$P_2$52cm　$P_3$59cm　$P_4$66cm　P_5（梯子穴）26cm　**カマド**　北壁。遺存状態が良好であり、天井部を残す。袖、天井部は山砂・粘土を構築材とする。煙道長97cm、径約23cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、黒褐色土、斑状に褐色土混合　2層、1層からの漸移層、褐色土強　3層、明黒褐色土　4層、黒褐色均質土　5層、暗褐色土　6層、明黒褐色土、粒状

遺物　出土土器は、土師器甕1点、土師器鉢1点、土師器杯4点、須恵器蓋2点、須恵器短頸壺1点である。床面上から出土したものは6のみである。10は鉄製の鉈であり、基部を欠損する。現存長7.7cm、重量8.3gを測る。床面上より出土している。

備考　床面はソフトローム面にあり、これを削り出し床面としている。貼り床は認められなかった。Ⅰb期か。

竪穴住居31（第44図）　E12区

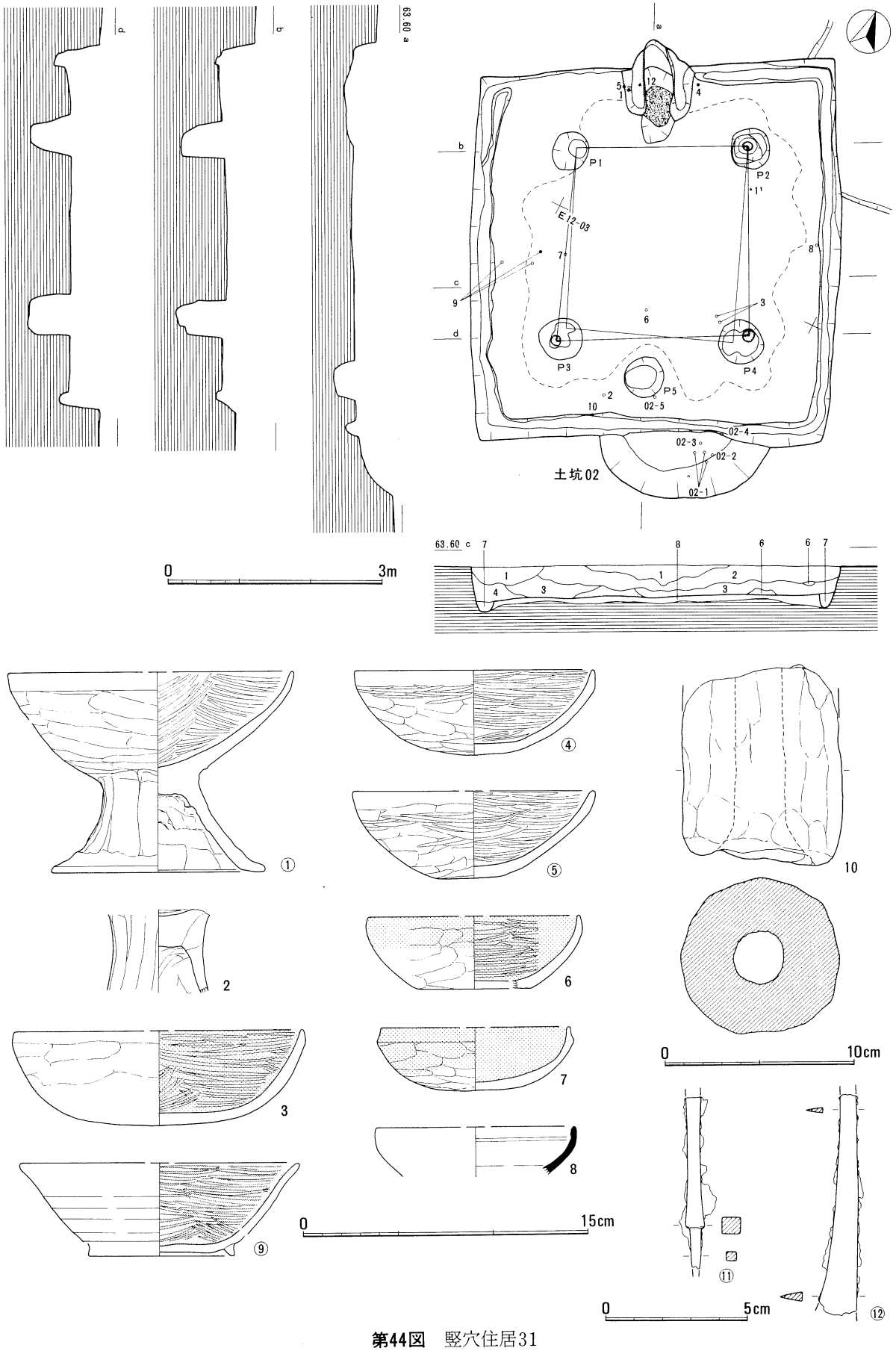
建替　1回。A・B。主柱穴重複　**規模**　A5.27(主軸)×5.27m　確認面A27.67㎡　床面A24.74㎡　内区A7.13㎡　B6.55㎡　**主軸方位**　AN－28°－W　**残存壁高**　7～49cm　**Pit**　$P_1$66cm　$P_2$58～74cm　$P_3$52cm　$P_4$57cm　P_5(梯子穴)30cm　**カマド**　北壁。山砂・粘土・ローム混合土を用材とする。袖は壁外に張り出す。煙道長は壁より42.7cm　**周溝**　北壁西側を除き全周　**土層**　1層、黒褐色土、スコリア多　2層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　3層、2層と同質であるが、褐色土強　4層、暗黄褐色土、山砂混合、砂状　5層、焼土、山砂・粘土混合土　6層、焼土層　7層、暗黄褐色土、粒状　8層、暗黄褐色土、ロームブロック大小多

遺物　出土土器は、土師器高杯2点、土師器杯6点、須恵器杯1点である。床面から出土したものは1・4・5・9であるが、9は混在であろう。10は土製の羽口基部である。現存長10.3cm、重さ710gを測る。外面色調はにぶい黄橙色、内面は橙色を呈す。覆土から出土した。11は鉄鏃であり、長頸式に分類される。棘部は認められない。現存長6.25cm、重量6.4gである。12は刀子であり、現存長8.0cm、幅0.85cm、厚さ0.3cm、重量7.6gを測る。11・12は床面上より出土している。他にスラグ1点が覆土より出土している。

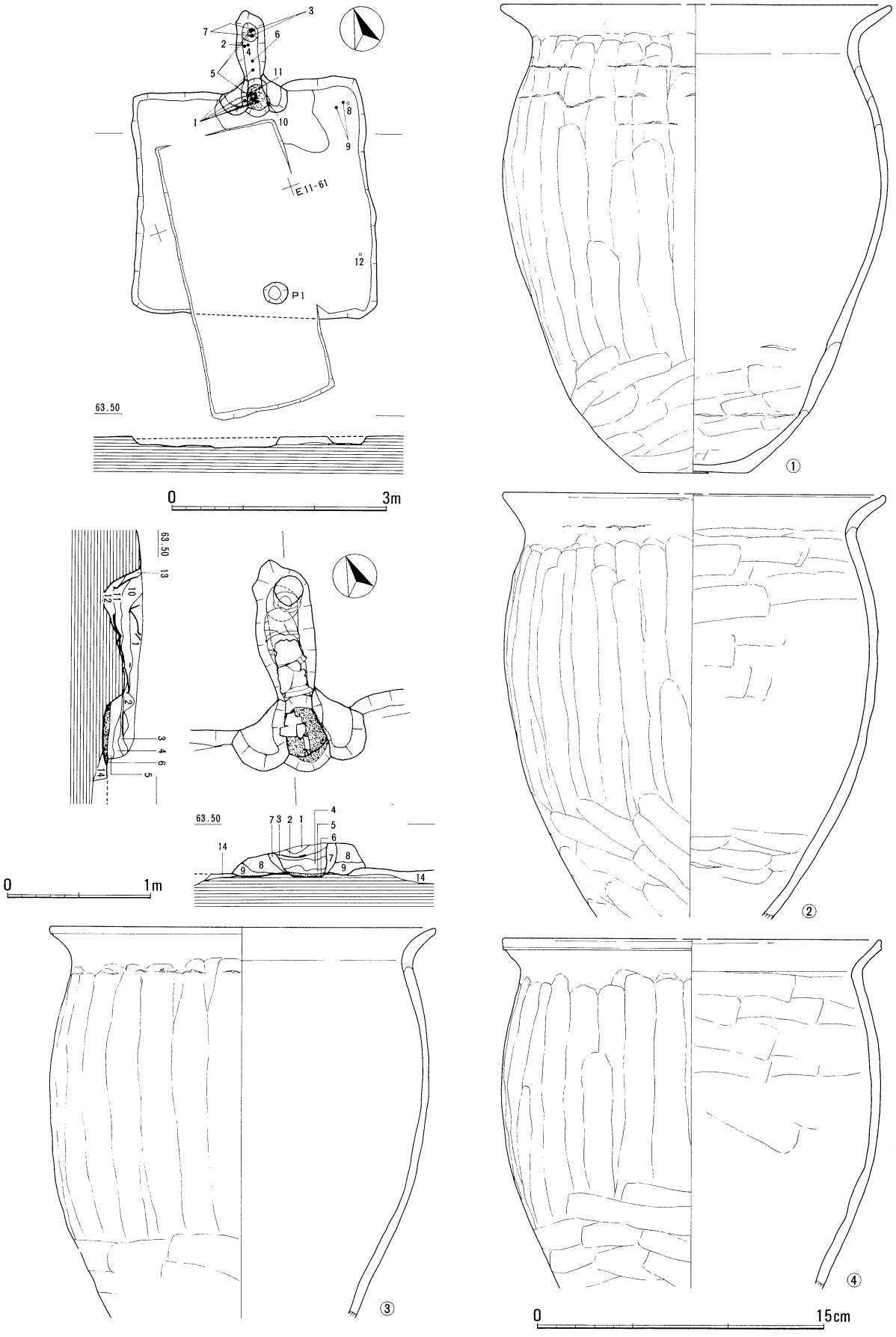
備考　土坑02と重複する。当初住居張り出し部と考えたため、土坑範囲を明らかにすることはできなかった。出土土器（第147図）より、土坑が新しい時期の所産と考えられる。竪穴覆土より床面にかけて、局部的に焼土が認められたものの、火災とは判断しなかった。建替については、同位置、同規模か。なお北東隅は、確認坑である。Ⅱa期。

竪穴住居32（第45・46図）　D11区

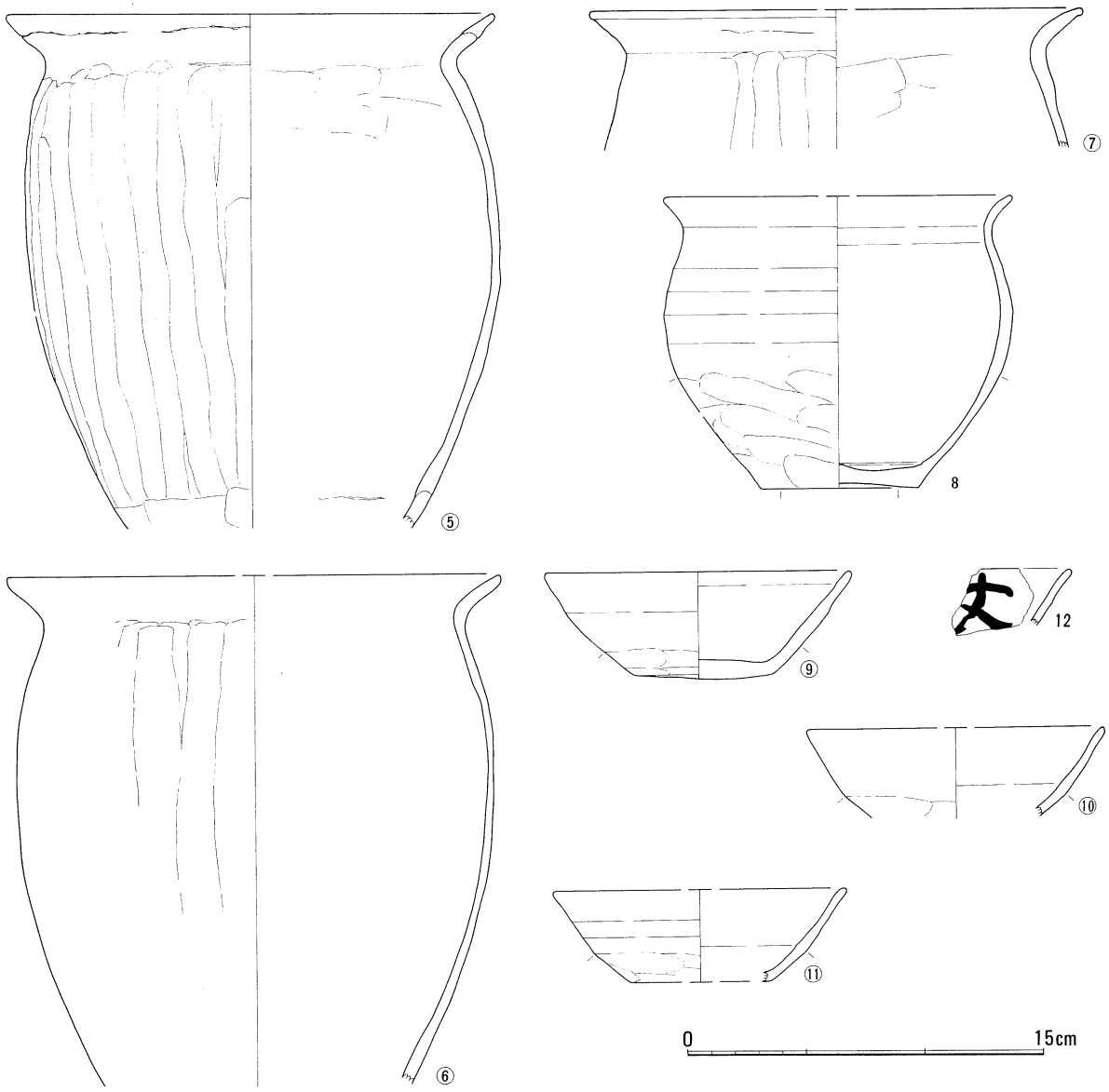
建替　なし　**規模**　3.40(主軸)×3.40m　確認面11.37㎡　床面(9.54)㎡　**主軸方位**　N－18°－E　**残存壁高**　0～22cm　**Pit**　P_1(梯子穴)16cm(現存部)　**カマド**　北壁。袖は壁外へ張り出す。煙道は土器を現状で5個体使用している。北側のものは上方に開口している。煙道長1.17m　**周溝**　なし　**土層**　1層、黒褐色均質土　2層、褐色土であり、ローム粒・焼土からなる　3層、黄褐色土、2層に似るが山砂強　4層、明黒褐色土、ブロック状に焼土、山砂混合　5層、4層に似るが焼土粒、焼土ブロック強　6層、焼土ブロック層、火床面　7層、8・9層の赤化した部分　8層、山砂主体、硬質　9層、黒褐色土　10層、明黒褐色土、焼土ブロック混合、粒状　11層、黒褐色土　12層、明黒褐色土、山砂、焼土混合　13層、ロームブロック　14層、暗黄褐色土、黒褐色土にソフトロ


63.60 a
63.60 c
P1
P2
P3
P4
P5
E12-03
土坑02
02-1
02-2
02-3
02-4
02-5
0
3m
0
15cm
0
10cm
0
5cm

第44図　竪穴住居31



第45図　竪穴住居32(1)



第46図　竪穴住居32(2)

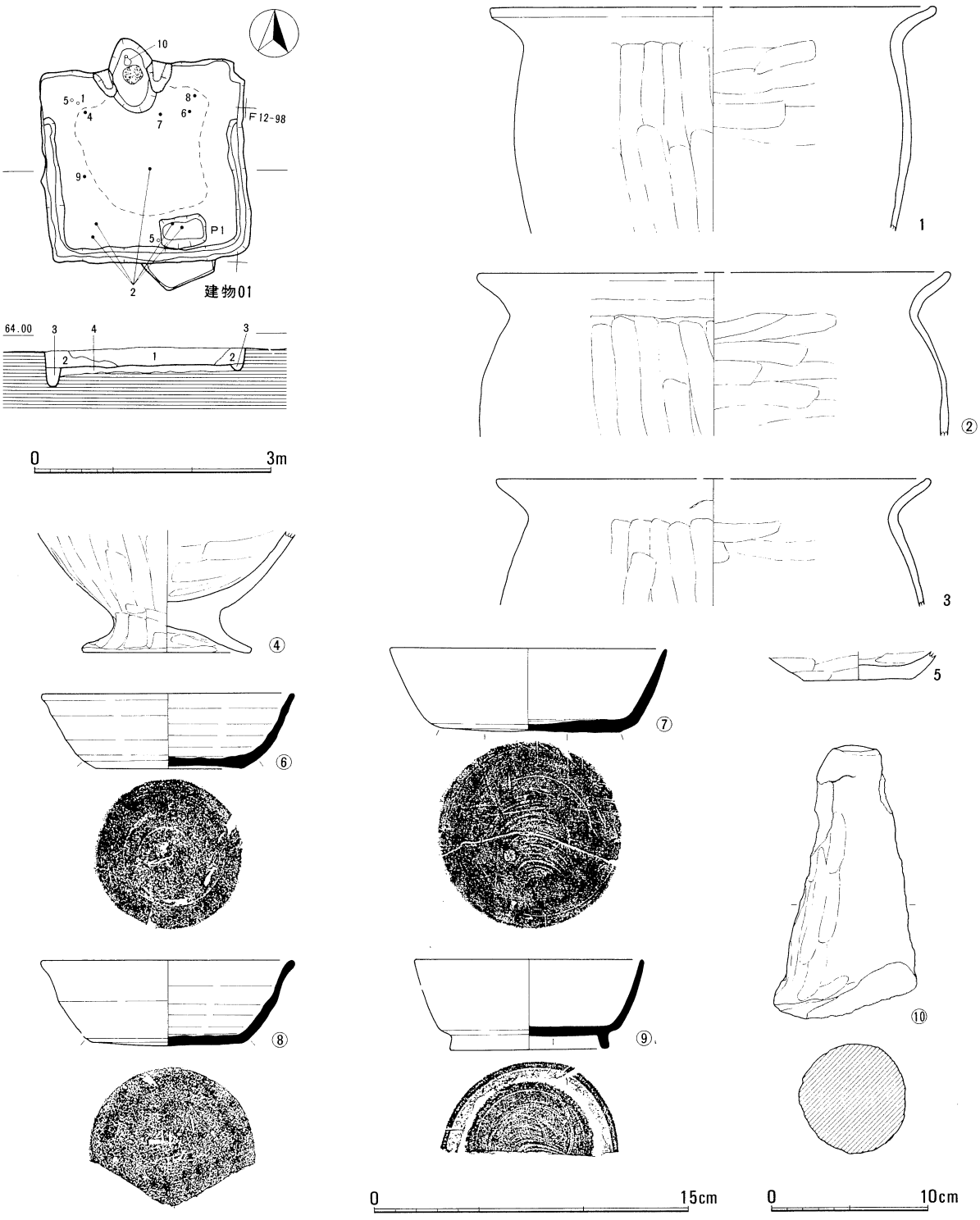
ーム混合

遺物　カマド煙道部使用土器を主体とする。2～6がこれに該当する。他に、1・7・9～11が床面ないしはカマド内より検出された。

備考　掘形面がほぼローム面直上に対応する。中央部は確認調査坑である。確認調査時では、遺構自体の存在は確認していたものの、床面は若干掘りこんでしまっていた。床硬質面がカマド周囲のみでしか検出されなかったこともあり、竪穴範囲は掘形面において検出した。Ⅴ期。

竪穴住居33（第47図）　F12区

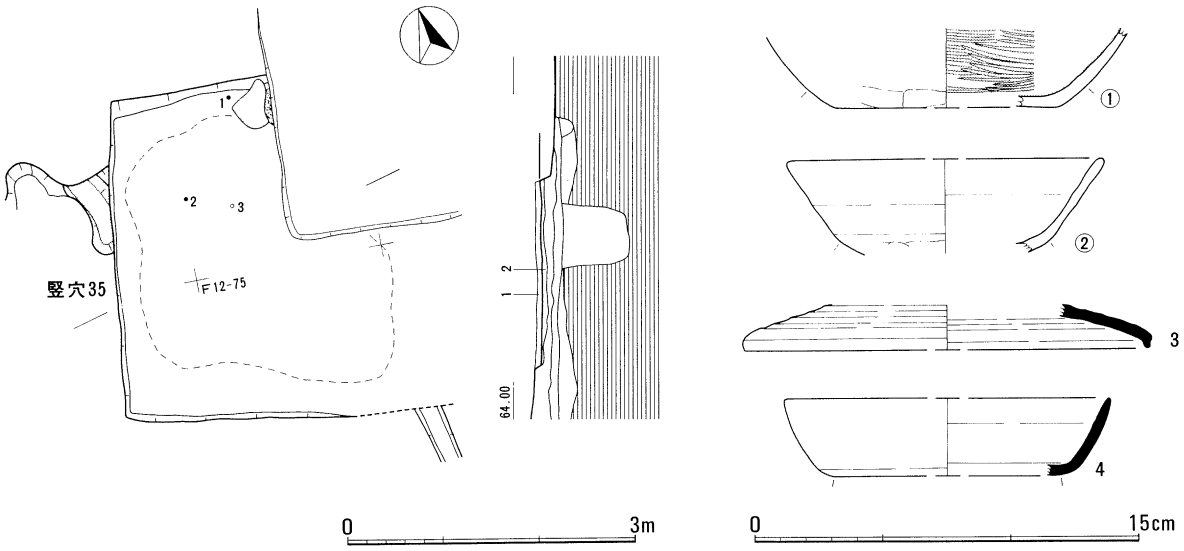
建替　なし　**規模**　2.59(主軸)×2.63m　確認面6.78m²　床面5.71m²　**主軸方位**　N－7°－W　**残存壁高**　18～24cm　**Pit**　$P_1$21cm　**カマド**　北壁。山砂・粘土を構築材とする。火床面には炭化物が多量に堆積していた。煙道長41cm　**周溝**　掘形面において検出。全周していた可能性あり　**土層**　1層、明黒褐色土、スコリア多、斑状に褐色土混合　2層、1層に似るがローム混合　3層、暗黄褐色土、粒状でしまりなし　4層、黒褐色土を地層とし、ロームをブロック状に混合する



第47図　竪穴住居33

遺物　土器は、土師器甕５点、須恵器杯４点である。このうち２・４・６～９が床面上より出土している。10は土製支脚であり、カマド火床面奥に正立していた。完存していたが、取り上げ時に基部を欠損してしまった。全長17.7cm、重量840ｇを測る。器面はナデ調整による。色調は明褐灰色を呈し、胎土は砂状であった。

備考　本遺構は、確認調査段階に一部調査を実施したため、本調査時に検出された掘立柱建物01との重複関係は不明である。P_1については、「貯蔵穴」状ではあるが性格は不明である。２の土器は、P_1



第48図　竪穴住居34

上床面レベルより検出されたものであり、開口していたものではない可能性も考えられる。III b 期。

竪穴住居34（第48図）　F12区

建替　なし　**規模**　3.65(主軸)×――m　**主軸方位**　N－6°－E　**残存壁高**　0～14cm　**Pit**　なし　**カマド**　確認調査坑により半壊。左袖は山砂・粘土基部範囲を図示　**周溝**　なし　**土層**　1層、黒褐色土　2層、明黒褐色土、硬質

遺物　土師器椀1点、土師器杯1点、須恵器蓋1点、須恵器杯1点であり、1・2が床面上より出土している。

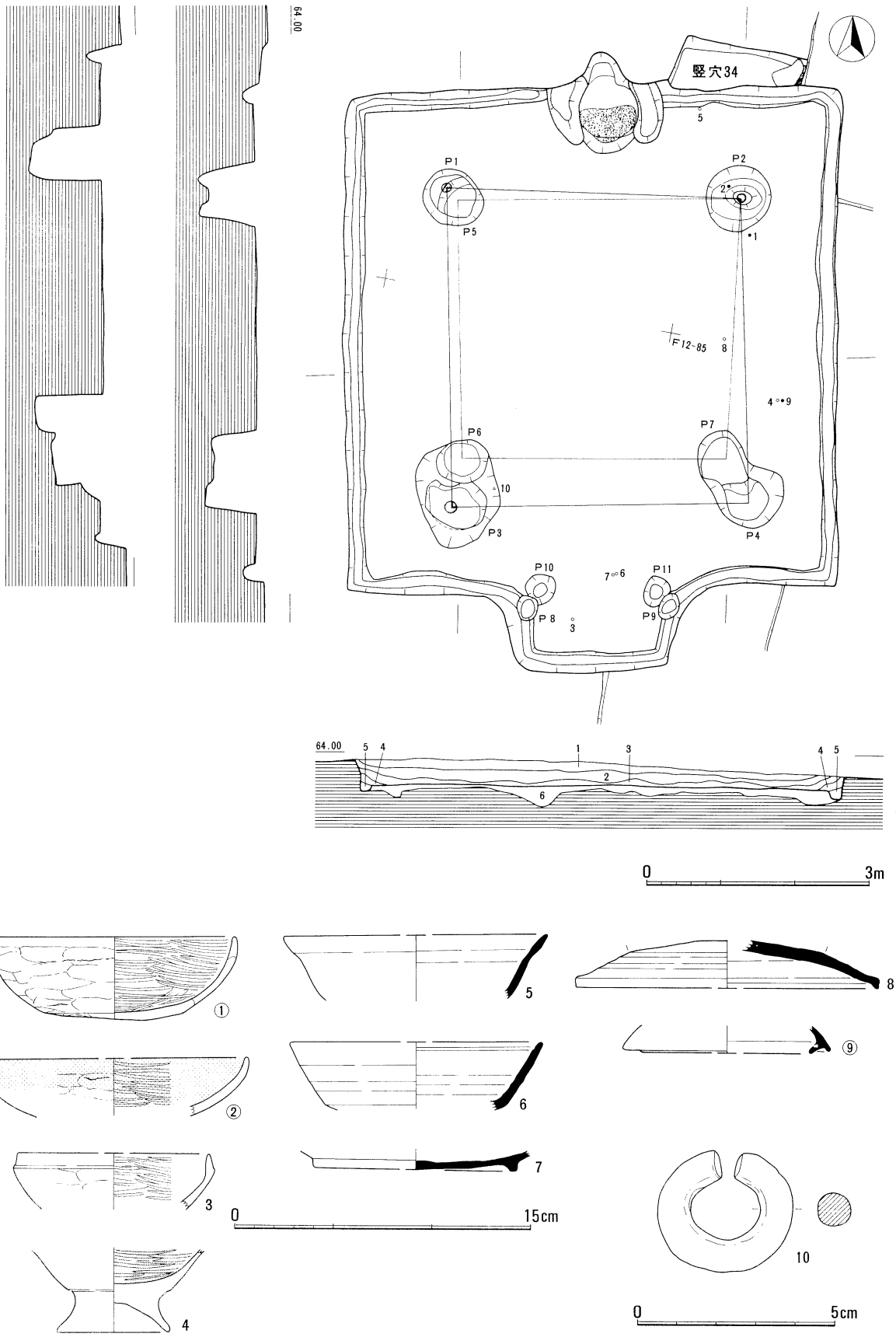
備考　竪穴住居35覆土、黒褐色土中にあり、明確に竪穴範囲を検出することができなかった。北東部は確認調査坑であり、その時点では竪穴住居35の範囲確認を主眼として掘り下げたため、結果として掘りすぎてしまった。V期。

竪穴住居35（第49図）　F12区

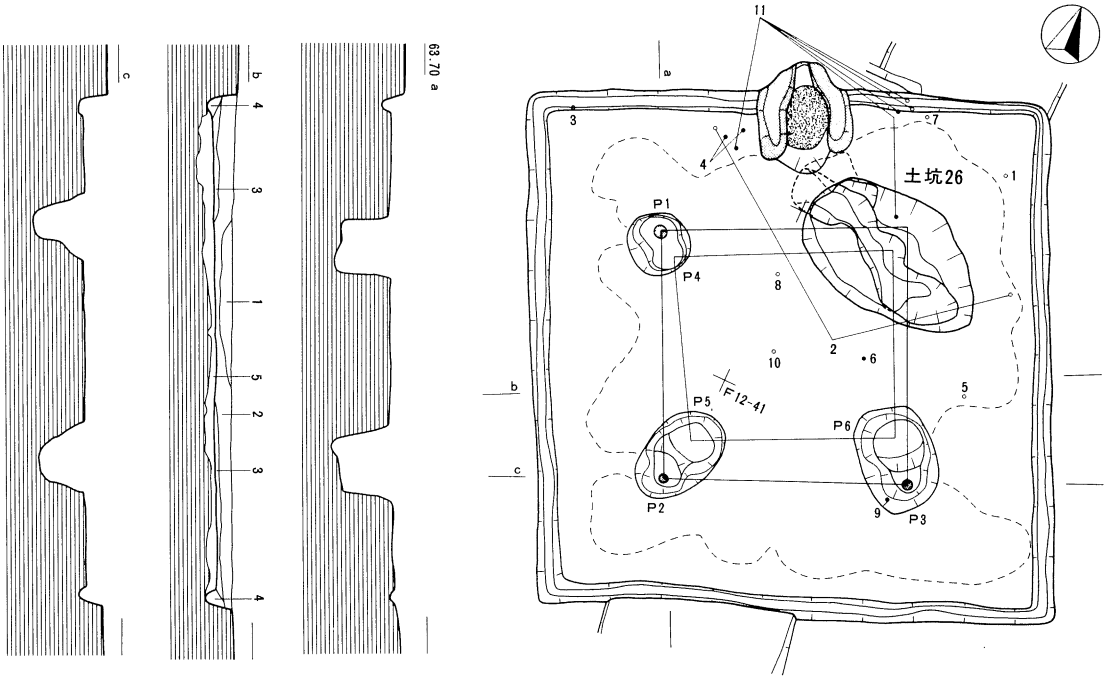
建替　1回。A・B。主柱穴重複　**規模**　A6.93(主軸)、8.04(張り出し部含)×6.77m　確認面A 49.31m²　床面A45.71m²　内区A17.40m²　B13.42m²　**主軸方位**　AN－10°－W　**残存壁高**　7～40cm　**Pit**　A P_1～P_4・P_8・P_9　B P_2・P_5～P_7・P_{10}・P_{11}　$P_1$105cm　$P_2$67～79cm　P_3 91cm　$P_4$68cm　$P_5$77cm　$P_6$71cm　$P_7$64cm　$P_8$38cm　$P_9$50cm　P_{10}38cm　P_{11}37cm　**カマド**　北壁。袖は、山砂・粘土を用材とする。煙道長52cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、大小スコリア多、若干の焼土粒　2層、黒褐色土を地層とし、若干の褐色土ブロック　3層、明黒褐色土、斑状に褐色土を混合　4層、黒褐色均質土　5層、暗黄褐色土、ブロック状　6層、ロームブロックを主体とし、黒色土をブロック状に混合

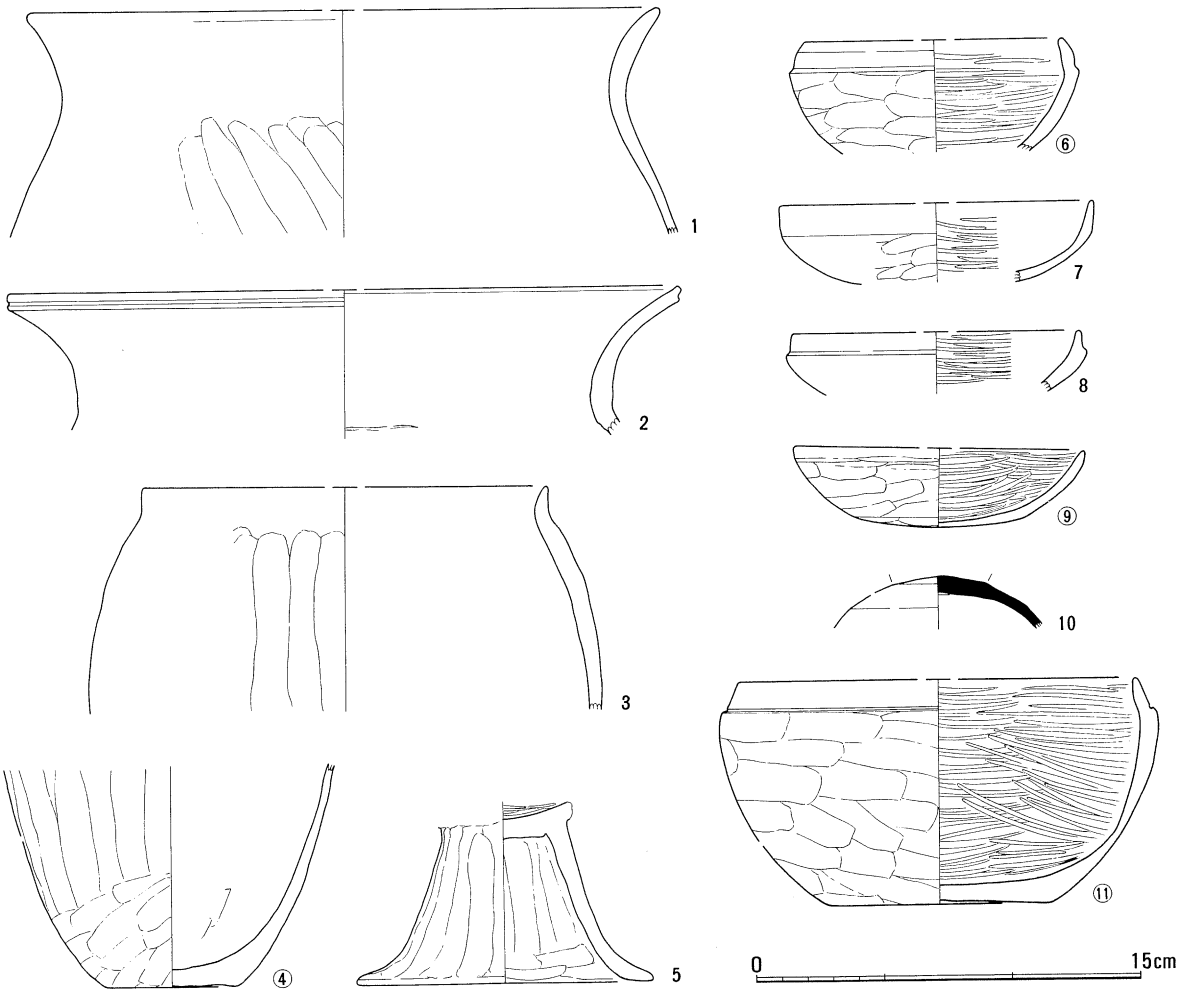
遺物　土器は、土師器杯4点、須恵器杯3点、須恵器蓋2点である。このうち床面上より出土したものは1・2・9である。10は、青銅製の耳環である。鍍金は現状では認められない。最大径で3.4cm、幅0.81cm、重量28.5gを測る。覆土上層より出土した。

備考　竪穴住居34、土坑24と重複する。建替については、掘形面においてBの範囲を確認することはできなかった。P_8～P_{11}の状況から、同様に張り出し部をもつ、同位置、同規模での建替が想定される。床面は、全体的にきわめて硬質であった。II a 期か。

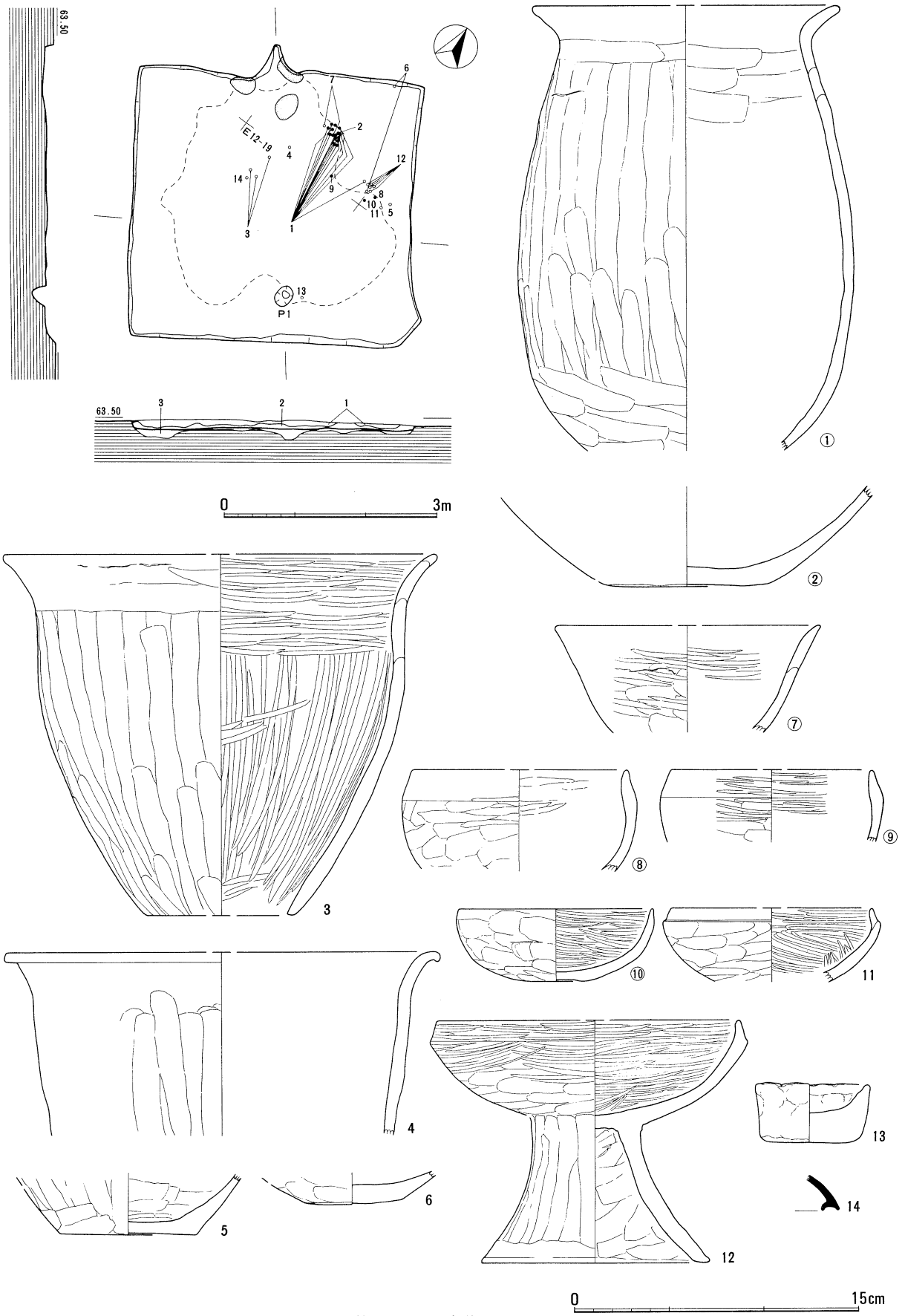

64.00
竪穴34
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
F12-85
64.00
0
3m
0
15cm
0
5cm

第49図　竪穴住居35

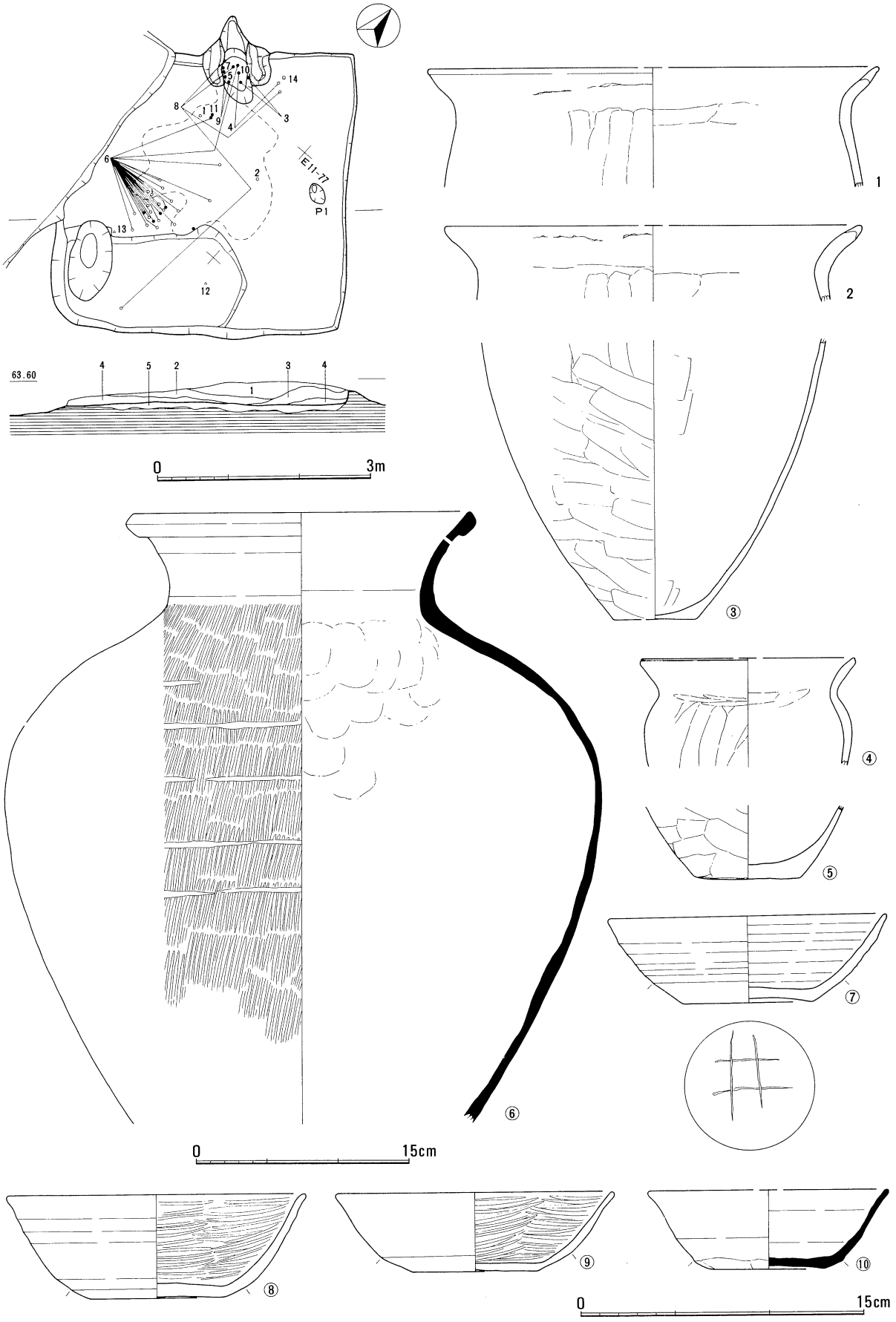




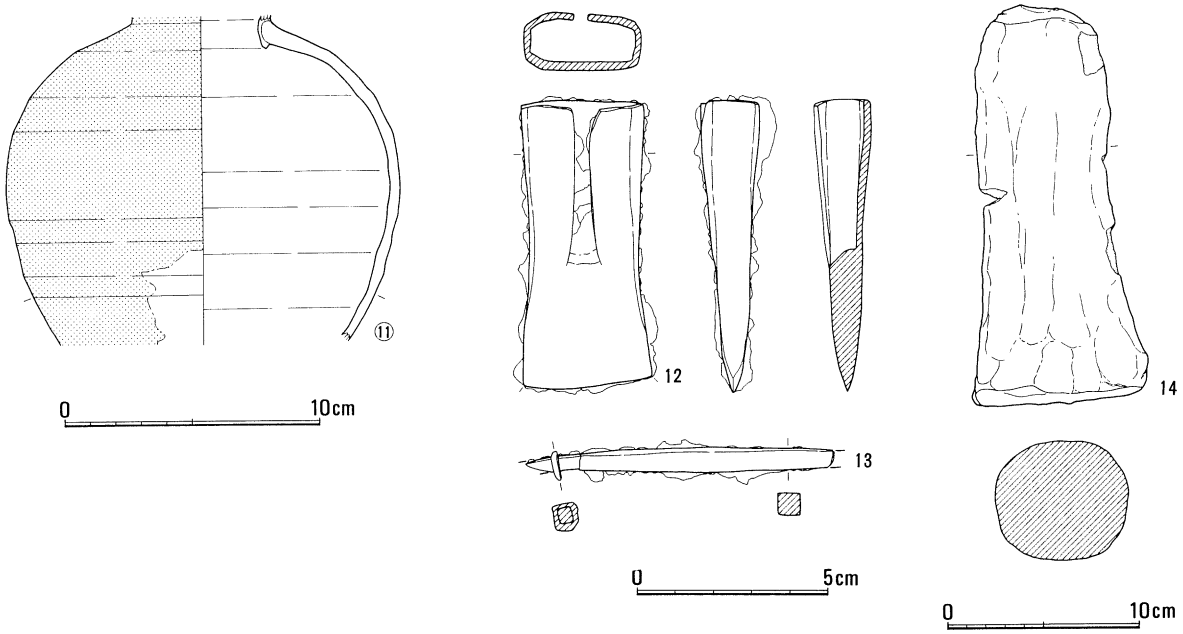
第50図　竪穴住居36



第51図　竪穴住居37



第52図　竪穴住居38(1)



第53図　竪穴住居38(2)

竪穴住居36（第50図）　F12区

建替　1回。A・B。主柱穴重複　**規模**　A5.67(主軸)×5.51m　確認面A30.78m²　床面A28.58m²　内区A(7.01)m²　B(4.45)m²　**主軸方位**　AN－24°－W　**残存壁高**　4～36cm　**Pit**　A P_1～P_3　B P_4～P_6　$P_1$47cm　$P_2$59cm　$P_3$49cm　$P_4$56cm　$P_5$65cm　$P_6$54cm　**カマド**　北壁。袖は、白色粘土を用材とし、壁外へ張り出す。煙道長25cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　2層、黒褐色土、焼土少含　3層、焼土層、ローム粒を全体に混合　4層、暗黄褐色土、ブロック状　5層、黒褐色土、しみ状にローム混合

遺物　土師器甕4点、土師器椀・杯5点、土師器高杯3点、須恵器蓋1点が出土している。床面上より出土したものは4・6・9・11である。

備考　落し穴と考えられる土坑26と重複。土坑覆土内柱穴柱位置が不明確であったため、全体を掘り下げた結果検出された。火災をうけたと考えられる。Ⅰb期。

竪穴住居37（第51図）　E12区

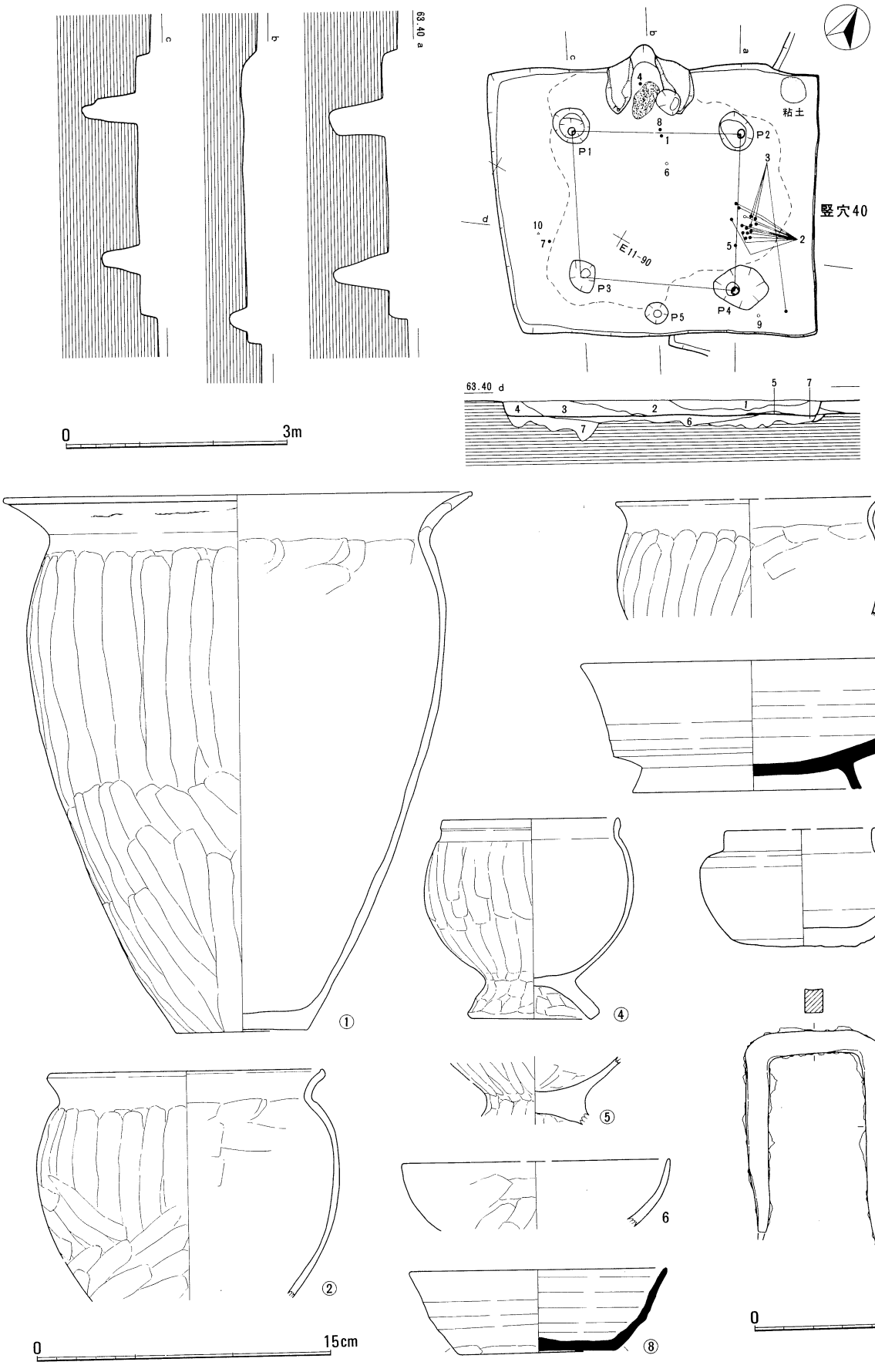
建替　なし　**規模**　3.93(主軸)×3.99m　確認面15.90m²　床面(14.76)m²　**主軸方位**　N－33°－W　**残存壁高**　9～15cm　**Pit**　P_1(梯子穴)20cm　**カマド**　北壁。全体に遺存状態不良。床面上山砂・粘土範囲を図示。煙道長48cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、粘土粒混合　2層、黒褐色土、焼土粒、炭化物を多量に混合　3層、暗黄褐色土、ブロック状

遺物　土師器甕4点、土師器甑2点、土師器鉢1点、土師器椀・杯4点、土師器高杯1点、土師器ミニチュア土器1点、須恵器蓋1点出土。床面上より出土したものは1・2・7～10である。

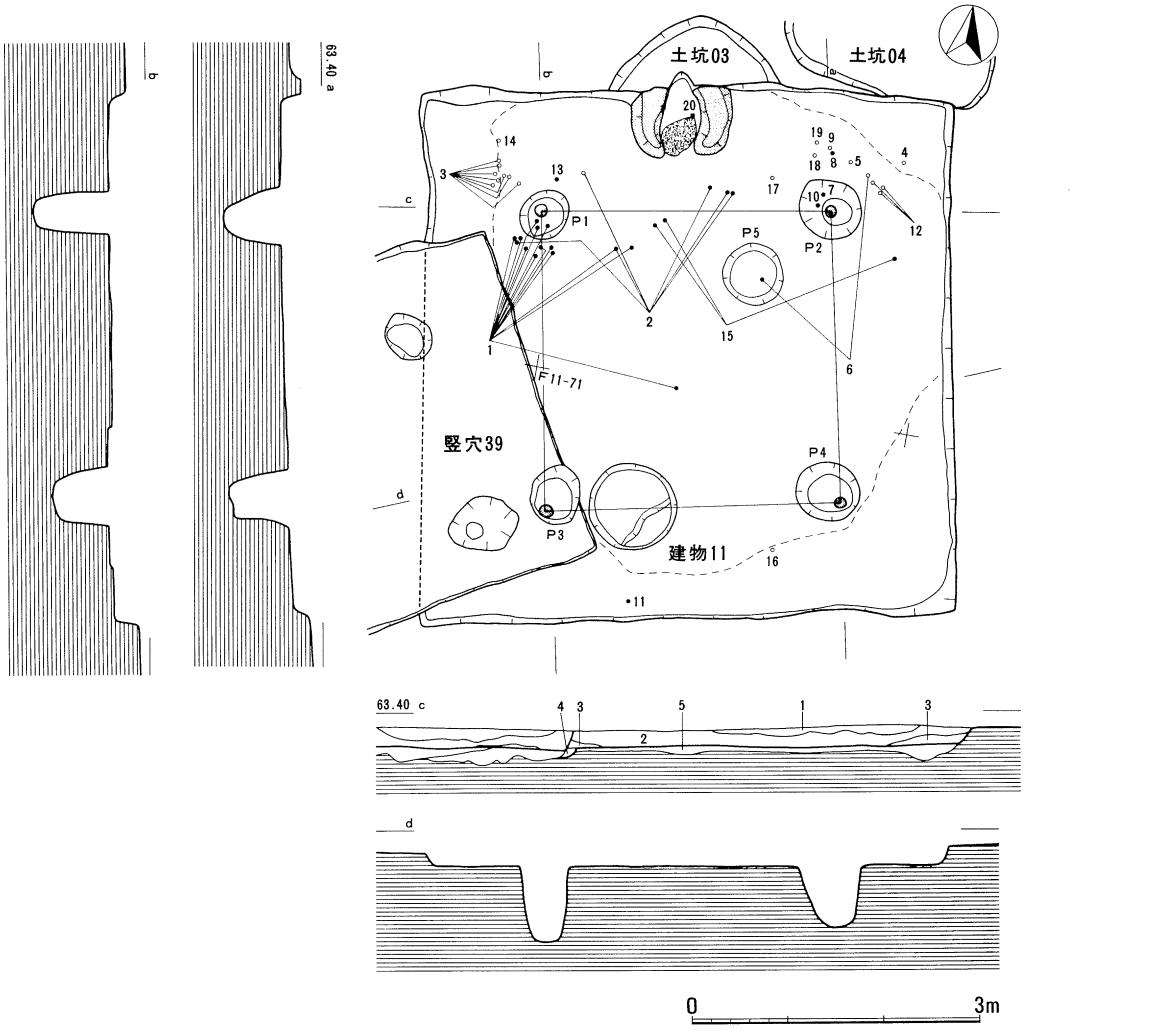
備考　火災をうけたと考えられる。Ⅰb期。

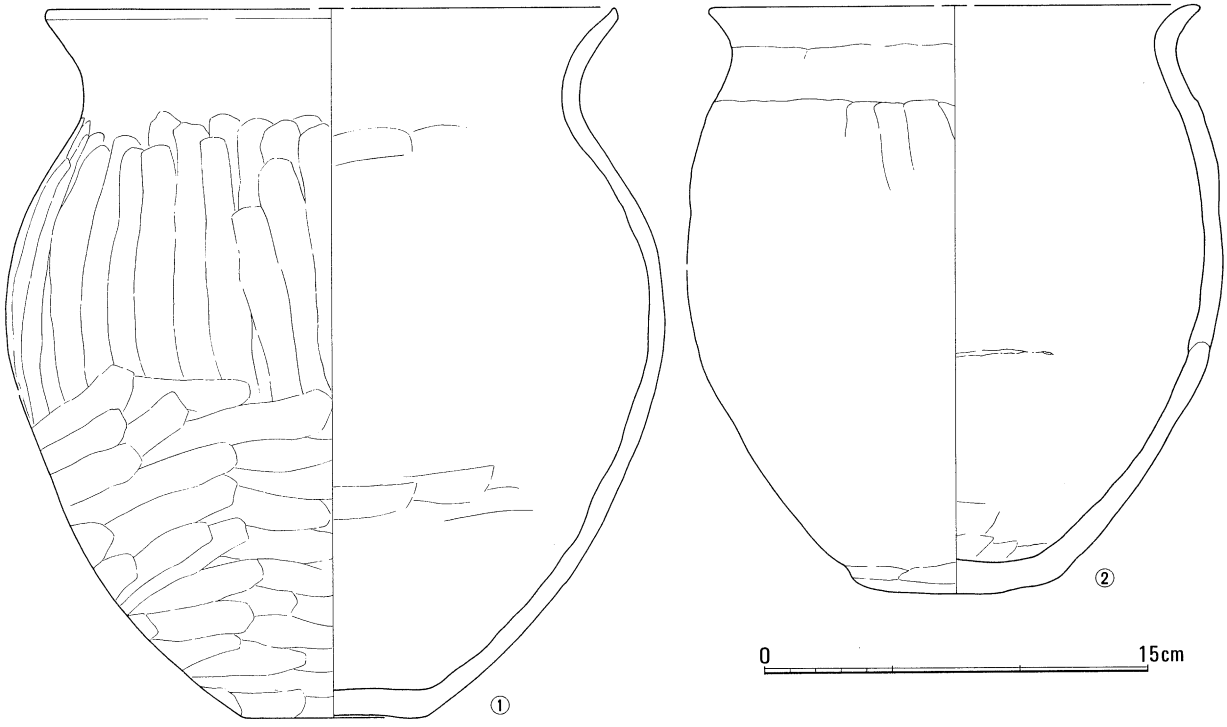
竪穴住居38（第52・53図）　E11区

建替　なし　**規模**　4.01(主軸)×4.19m　確認面(17.14)m²　床面(15.01)m²　**主軸方位**　N－37°－W　**残存壁高**　0～22cm　**Pit**　$P_1$38cm　$P_2$42cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を用材とし、壁外へ張り出す。煙道長は壁より57cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土を地層とし、斑状に褐色土混合　2層、黒褐色土　3層、明黒褐色土、スコリア多、若干のロームブロック　4層、

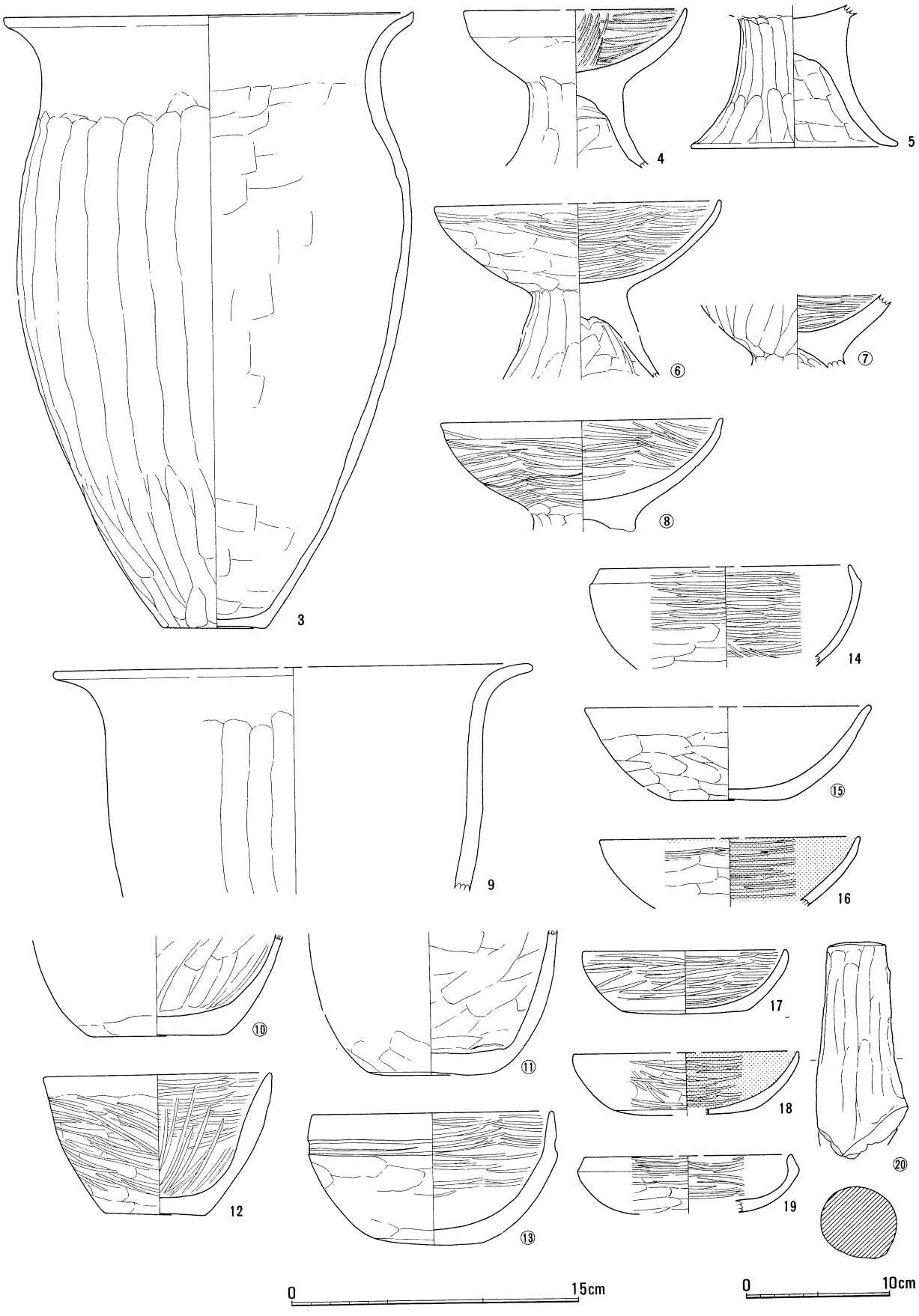


第54図　竪穴住居39

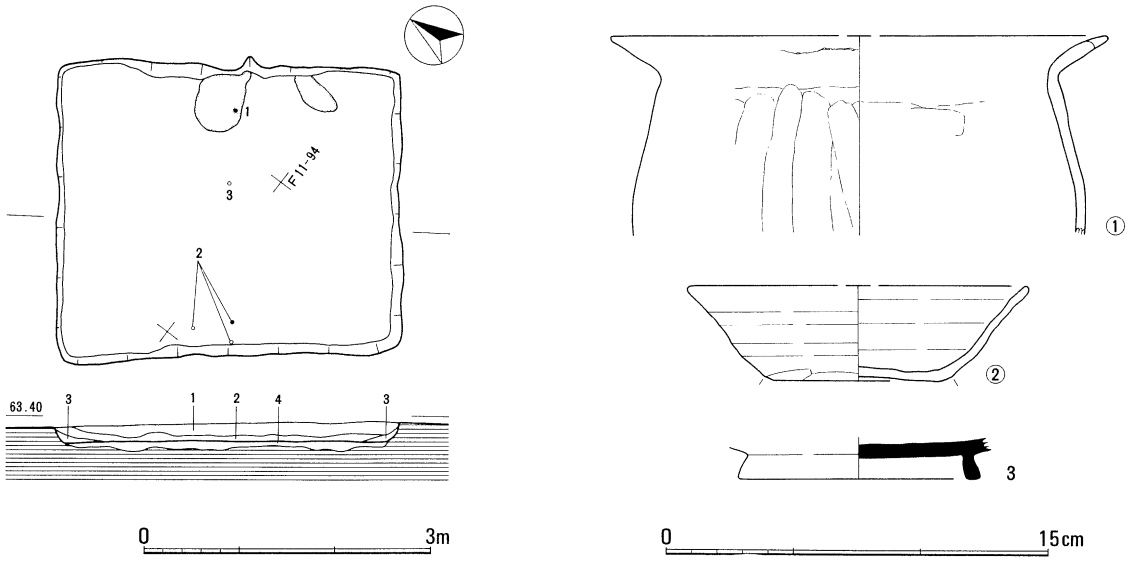




第55図　竪穴住居40(1)



第56図　竪穴住居40(2)



第57図　竪穴住居41

暗黄褐色土、粒状　5層、黒褐色土、しみ状にローム混合

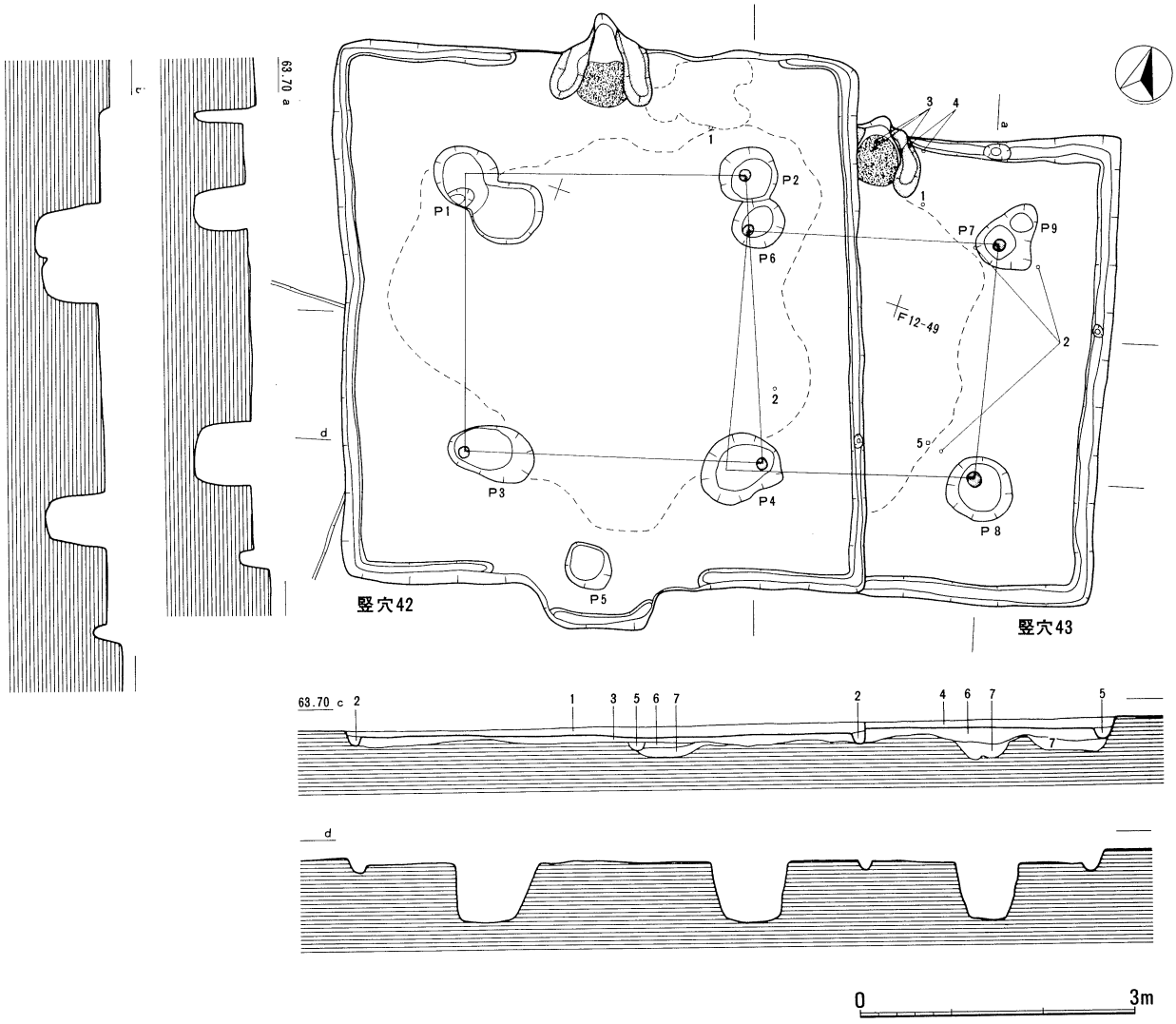
遺物　確認調査時を含め、比較的多量の土器を出土している。図示可能な出土土器は、土師器甕5点、須恵器甕1点、須恵器甕1点、土師器杯2点、須恵器杯1点、灰釉長頸壺1点である。このうち3～11がカマド焚口内、床面上より出土している。12は鉄製斧であり、全長7.65cm、最大幅(刃部幅)3.5cm、厚さ1.55cm、重量101.2gを測る。13の棒状の鉄製品については、製品名は特定できない。周囲を欠損する鉄板に挿入されている。現存長8.25cm、重量9.6gを測る。14は土製支脚であり、ほぼ完存する。全長21.4cm、基部径9.4cm、重さ1265gを測る。器面はナデ整形により、浅黄橙色を呈す。胎土は砂状である。12～14は覆土より出土している。

備考　北西部は確認調査坑により破壊されている。南側については、床が全体に軟弱であったため掘りすぎた部分であり、本来の形状を示すものではない。P_2については本遺構に伴うものではないと判断した。確認面、床面面積については、推定値を示している。なお掘立柱建物跡10と南側を接している。IVa期。

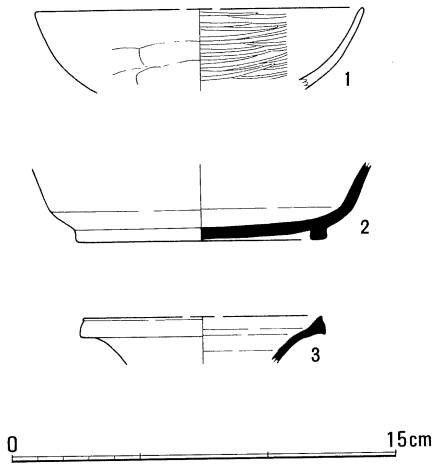
竪穴住居39（第54図）　E11区

建替　なし　**規模**　3.68(主軸)×4.45m　確認面(16.38)m²　床面(14.67)m²　内区4.69m²　**主軸方位**　N－34°－W　**残存壁高**　18～29cm　**Pit**　$P_1$72cm　$P_2$74cm　$P_3$52cm　$P_4$67cm　P_5(梯子穴)23cm　**カマド**　北壁。袖の構築材は白色粘土を主体とし、硬質。煙道長31cm。右袖はカクランをうけている　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土であり、大小スコリア多含　2層、黒褐色土　3層、明黒褐色均質土　4層、褐色均質土　5層、炭化物層、若干の焼土　6層、黄褐色土、ブロック状　7層、黒褐色土

遺物　出土土器は土師器甕3点、土師器台付甕2点、土師器杯1点、土師器短頸壺1点、須恵器高台付杯1点、須恵器杯1点である。このうち1～5・7・8がカマド内焚口部、床面上より出土している。4については、逆位にカマド内におかれており、支脚に転用されたものと考えられる。10は、カスガイ状の鉄製品である。全長8.4cm、全幅4.8cm、重量24.1gを測る。木質は認められない。覆土より出土している。

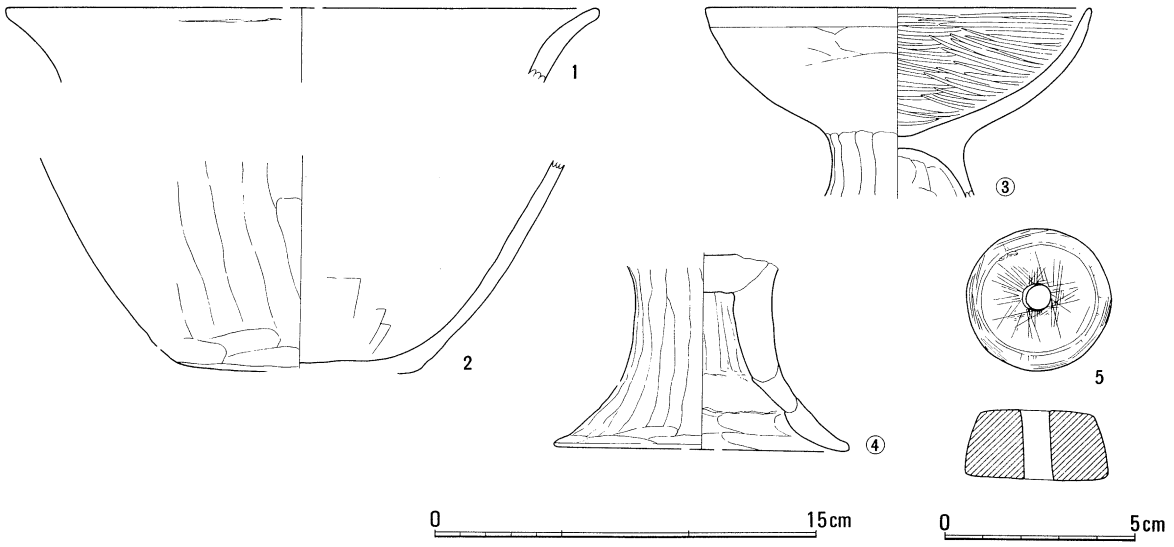


竪穴住居42



竪穴住居43

第58図　竪穴住居42・43(1)



第59図　竪穴住居43(2)

備考　竪穴住居40と重複。本遺構が新。北東隅床面上に約2.3kgの白色粘土塊が認められた。炭化物・焼土が床面から覆土にかけて若干認められたが、火災とは判断しなかった。IIIb期。

竪穴住居40（第55・56図）　F11区

建替　なし　**規模**　5.67(主軸)×5.61m　確認面31.90m²　床面29.52m²　内区9.82m²　**主軸方位**　N－12°－W　**残存壁高**　0～34cm　**カマド**　北壁。遺存状態良好。袖は白色粘土を主とし、硬質。火床面、袖側面ともよく焼けている。煙道長20cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、黒褐色土、大小スコリア多　2層、明黒褐色土、褐色土を全体に混合　3層、黒褐色均質土　4層、柱穴部、未実測　5層、暗黄褐色土、ローム混合

遺物　土器は、土師器甕5点、土師器甑1点、土師器椀・鉢4点、土師器高杯5点、土師器杯3点である。床面上より出土したものは1・2・6～8・10・11・13・15である。20は土製支脚であり、カマド内に横転していた。基部は斜めにつくられている。器面はナデ調整であり、色調はにぶい赤褐色を呈す。現存長15.6cm、重さ466gを測る。

備考　竪穴住居39、掘立柱建物11、土坑03・04と重複している。竪穴39、建物11は本遺構が古。土坑03は本遺構が新。土坑04との関係は不明である。Ib期。

竪穴住居41（第57図）　F11区

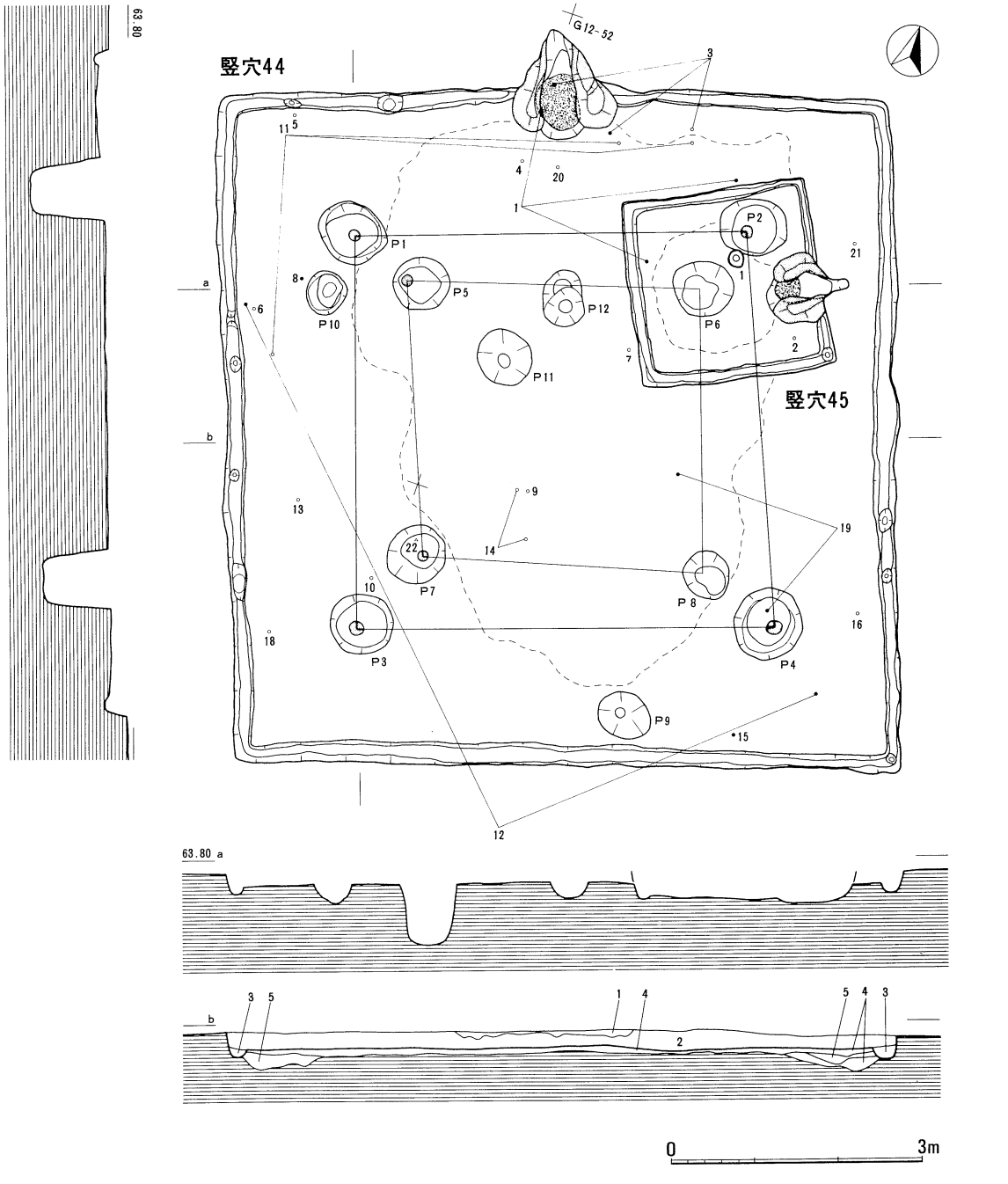
建替　なし　**規模**　3.05(主軸)×3.66m　確認面11.45m²　床面(9.64)m²　**主軸方位**　N－53°－E　**残存壁高**　16～22cm　**Pit**　なし　**カマド**　東壁。　遺存状態不良。袖、火床面ともあまり明確ではない。床面上山砂範囲を図示。煙道長13cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、黒褐色土　2層、明黒褐色土、斑状に褐色混合　3層、明黒褐色土、ロームブロックを局部的に含む　4層、黒褐色土、硬質

遺物　土師器甕1点、土師器杯1点、須恵器高台付杯1点が出土している。3は硯に転用したものと考えられる。1・2が床面上より出土している。

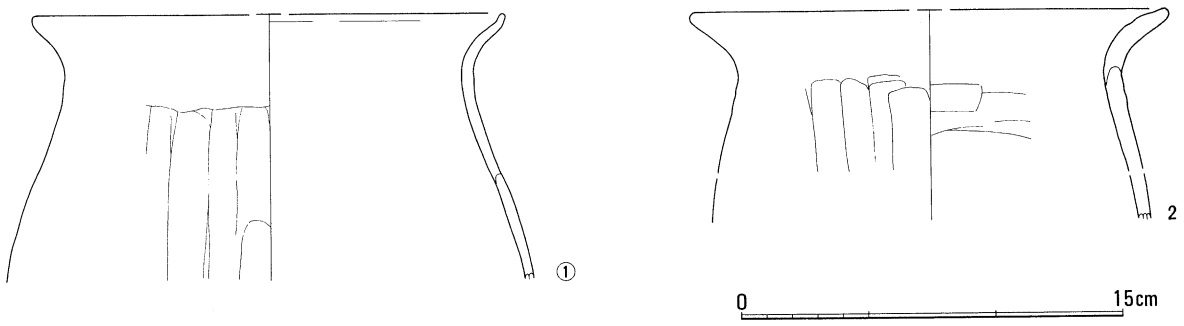
備考　掘立柱建物11と重複。貼り床下より検出。床面は全体に硬質であった。IVa期。

竪穴住居42（第58図）　F12区

建替　なし　**規模**　5.97(主軸)、6.48(張り出し部分含)×5.81m　確認面35.79m²　床面33.39m²



竪穴住居44



第60図　竪穴住居44(1)・45(1)

内区10.26m²　**主軸方位**　N－19°－W　**残存壁高**　6～33cm　**Pit**　$P_1$80cm　$P_2$73cm　$P_3$64cm　$P_4$65cm　P_5（梯子穴）28cm　**カマド**　北壁。袖は山砂を主体とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より47cm。なおカマド東側破線範囲は、焼土・炭化物の分布が認められた　**周溝**　ほぼ全周　**土層**　1層、黒褐色土、焼土を若干含む　2層、暗黄褐色土、粒状　3層、暗黄褐色土、ロームブロックを主体とする

遺物　土師器杯1点、須恵器高台付杯1点、須恵器壺1点が出土している。いずれも覆土より出土したものである。

備考　竪穴住居43と重複。本遺構が新。IIb期か。

竪穴住居43（第58・59図）　F12区

建替　なし　**規模**　5.16（主軸）×5.47m　確認面（28.42）m²　内区7.41m²　**主軸方位**　N－14°－W　**残存壁高**　0～17cm　**Pit**　$P_6$82cm　$P_7$63cm　$P_8$65cm　$P_9$47cm　**カマド**　北壁。右袖のみ遺存。山砂を用材とする。煙道長20cm　**周溝**　全周か。壁柱穴　**土層**　4層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合、焼土を局部的に含む　5層、暗黄褐色土、粒状　6層、暗黄褐色土、ロームブロック大小主体　7層、黒褐色土

遺物　土器は、土師器甕2点、土師器高杯2点である。3・4が床面上より出土している。5は石製の紡錘車である。丁寧に研磨されているが、全体に整形時の擦痕を残す。径3.83cm、厚さ1.87cm、孔径0.78cm、重量49.2gを測る。石質は蛇紋岩である。覆土より出土している。他に板状の鉄器小片が覆土より出土している。

備考　竪穴住居42と重複。本遺構が古。西側竪穴範囲については、掘形面において検出した。掘形面は周囲が溝状に深くなる。Ib期か。

竪穴住居44（第60・61図）　G12区

建替　1回。A・B。主柱穴重複　**規模**　A8.21（主軸）×8.12m　確認面A67.29m²　床面A64.57m²　内区A13.63m²　B11.84m²　**主軸方位**　AN－19°－W　**残存壁高**　12～32cm　**Pit**　AP_1～P_4・P_9　BP_5～P_8　$P_1$90cm　$P_2$92cm　$P_3$80cm　$P_4$81cm　$P_5$74cm　$P_6$86cm　$P_7$101cm　$P_8$86cm　P_9（梯子穴）29cm　P_{10}23cm　P_{11}25cm　P_{12}25cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を主体とし、ロームブロック、若干の焼土粒を混合する。壁外へ張り出す。火床面、袖両側面よく焼けこんでいる。煙道長は壁より65cm　**周溝**　全周、壁柱穴　**土層**　1層、黒褐色土を地層とし、焼土多含　2層、明黒褐色土斑状に褐色ブロック混合　3層、暗黄褐色土、ブロック状　4層、暗黄褐色土、ロームブロック主体　5層、黒褐色土、局部的にロームブロック混合

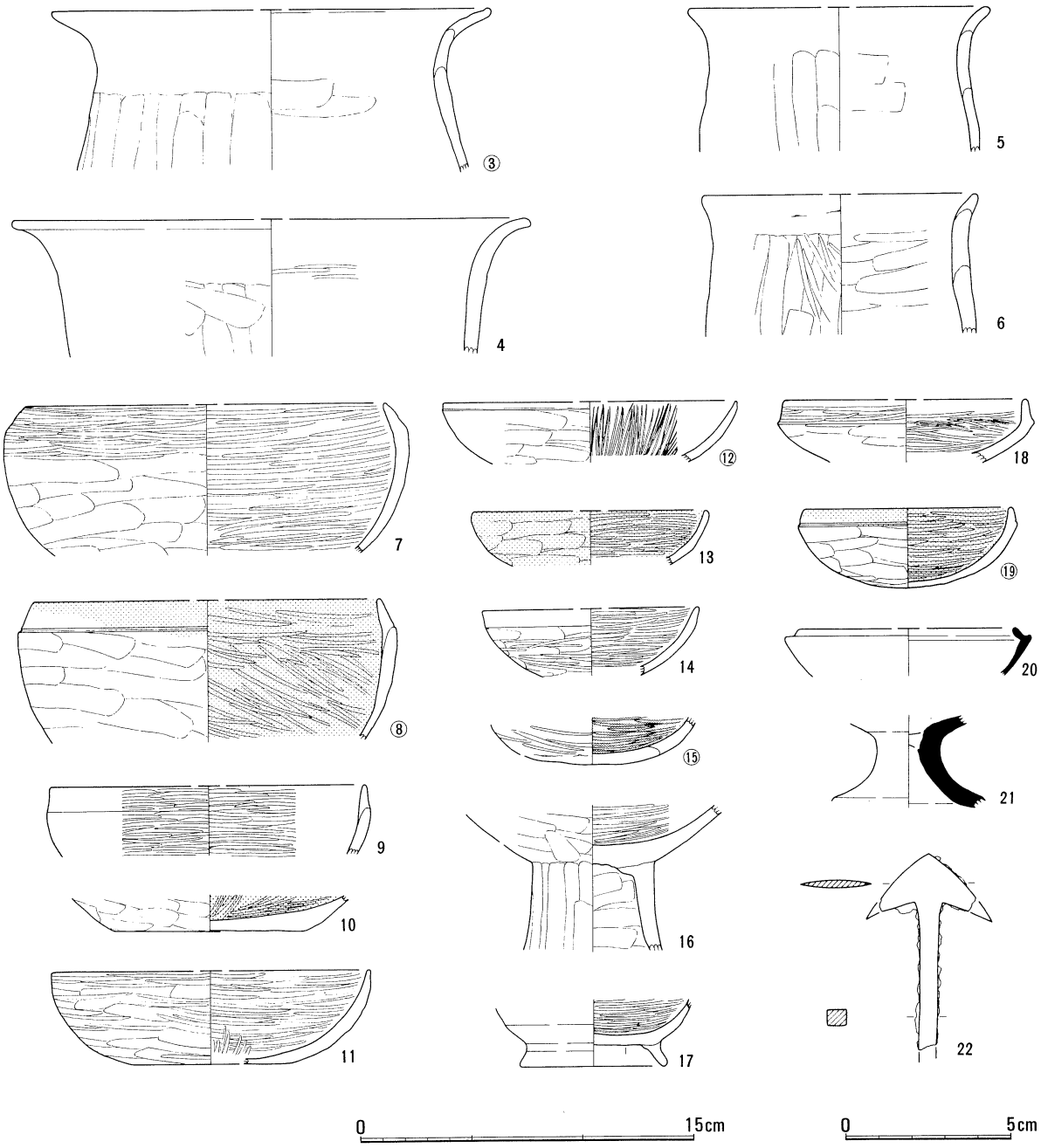
遺物　土器は、土師器甕5点、土師器甑1点、土師器椀4点、土師器杯7点、土師器高台付杯1点、土師器高杯1点、須恵器杯1点、須恵器高杯1点である。このうち床面上から出土したものは、1・3・8・12・15・19である。22は鉄鏃である。長頸式の腸抉三角形式であり、現存長6.05cm、重さ6.7gを測る。覆土より出土した。

備考　竪穴住居45と重複。本遺構が古。焼土は覆土上層に限られており、火災は想定できない。P_{10}～P_{12}は性格不明であり、本住居に伴うものではないと考えられる。Ib期。

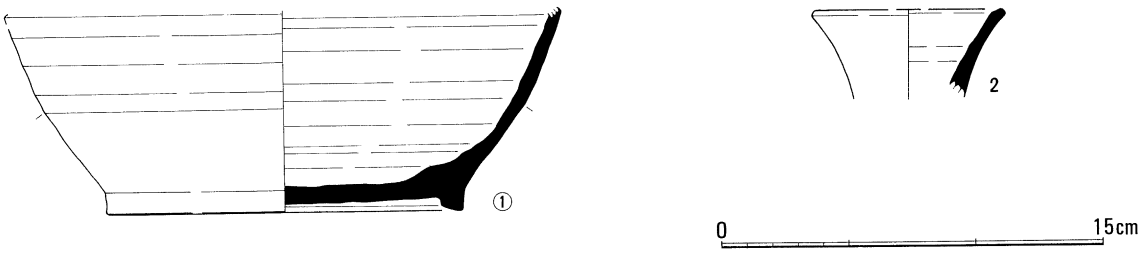
竪穴住居45（第60・61図）　F11区

建替　なし　**規模**　2.32（主軸）×2.31m　確認面5.43m²　床面4.59m²　**主軸方位**　N－64°－E

竪穴住居44

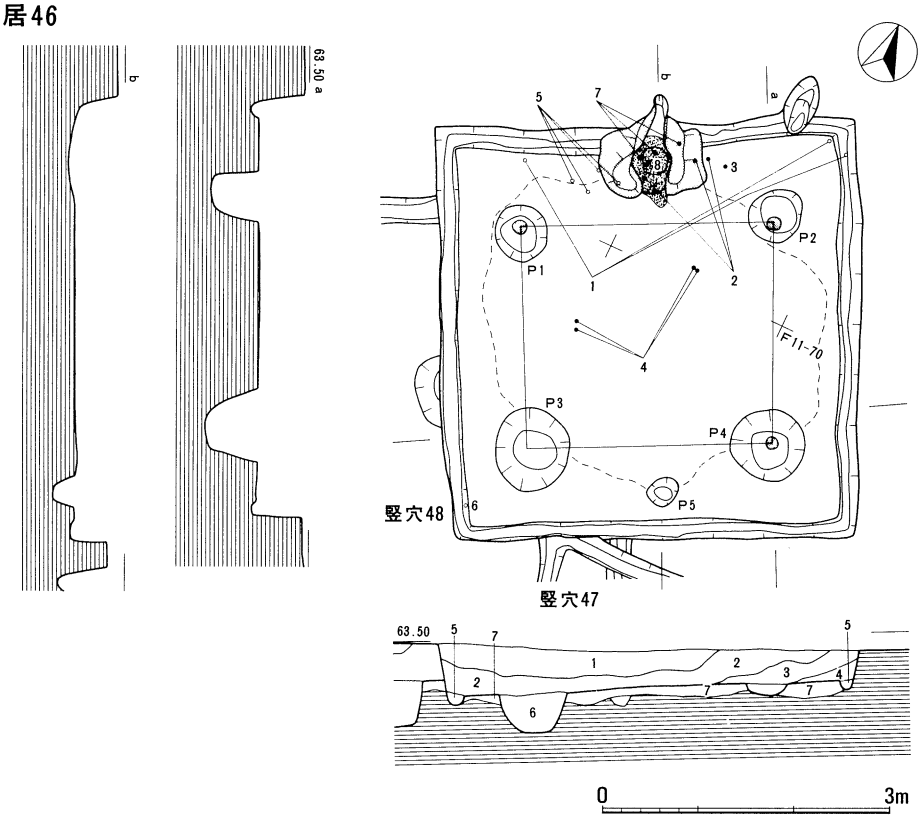


竪穴住居45

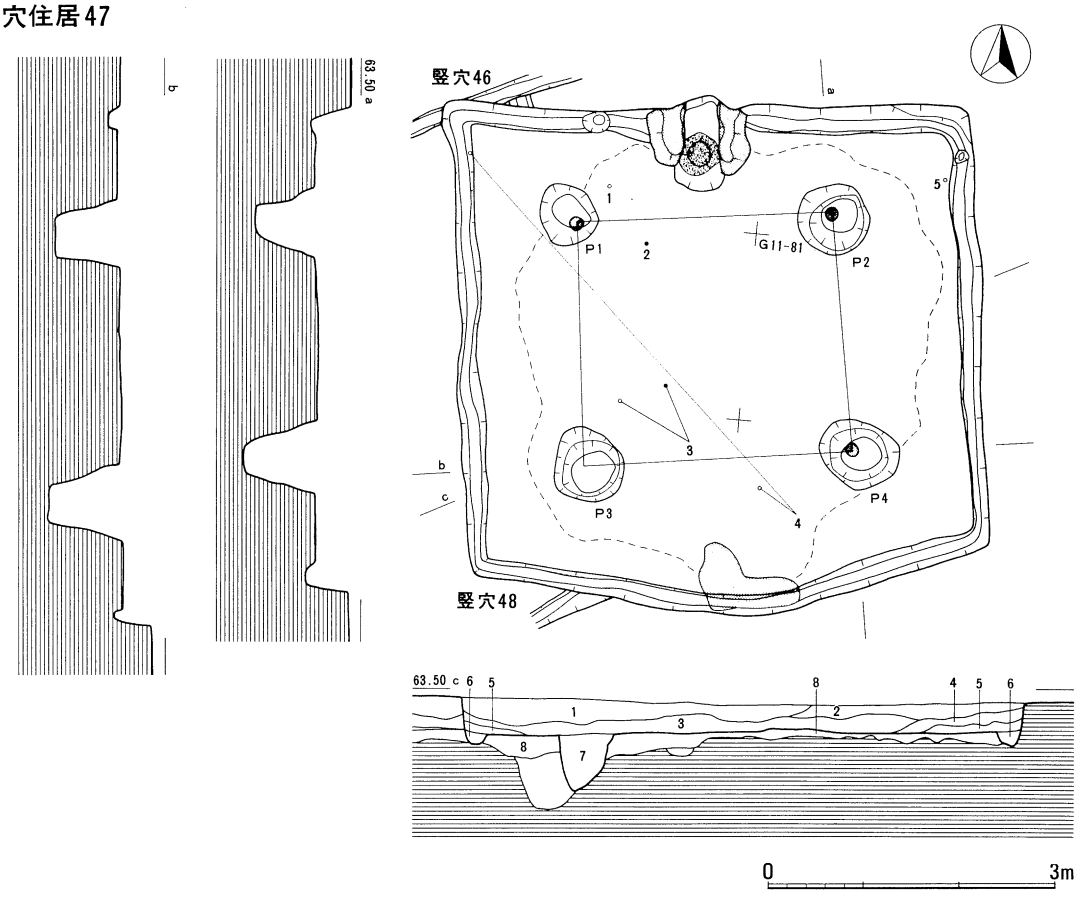


第61図　竪穴住居44(2)・45(2)

竪穴住居46

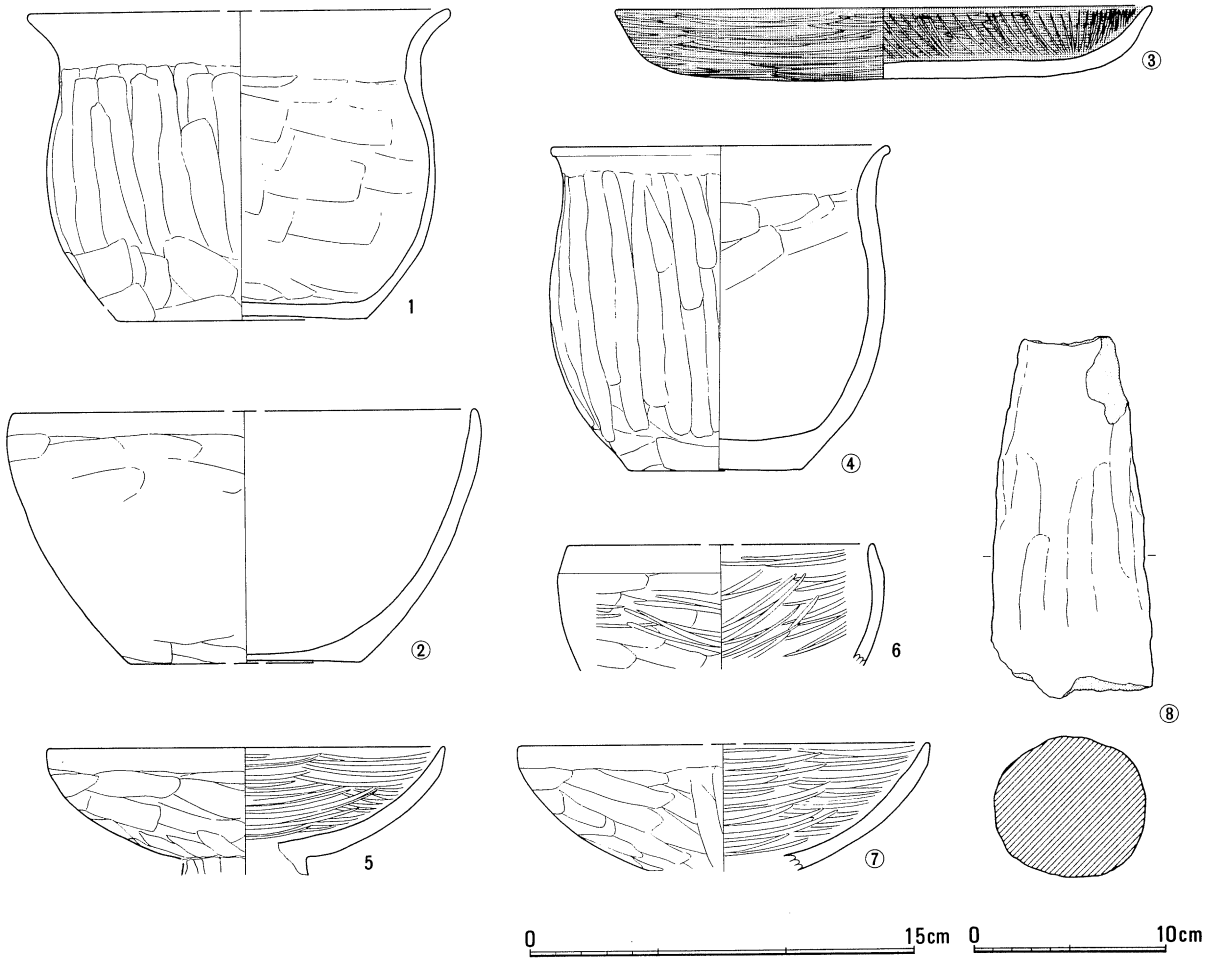


竪穴住居47

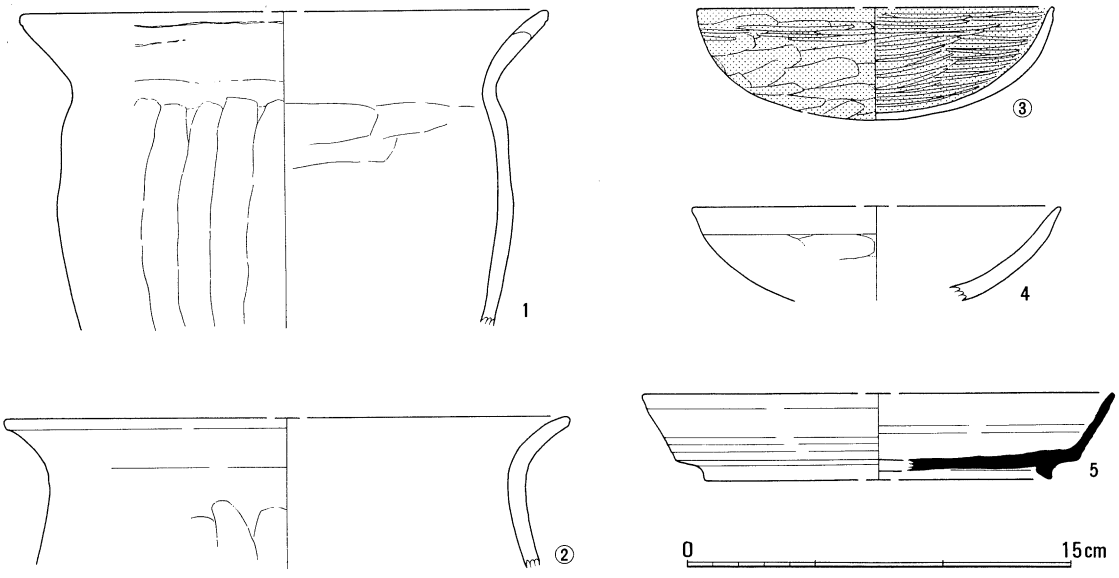


第62図　竪穴住居46(1)・47(1)

竪穴住居46



竪穴住居47



第63図　竪穴住居46(2)・47(2)

残存壁高　竪穴住居44床面より、8～16cm　**Pit**　なし　**カマド**　東壁。袖は黒褐色土に山砂・粘土をブロック状に混合。火床面には焼土、炭化物が多量に堆積。煙道長33cm　**周溝**　全周　**土層**　覆土は黒褐色土を主体とし、褐色ブロックを混合

遺物　須恵器2点のみであり、1が床面上から出土したものである。

備考　竪穴住居44を掘りこんでつくられている。床面はソフトローム面にあたり、貼り床は認められなかった。III期か。

竪穴住居46（第62・63図）　F11区

建替　なし　**規模**　4.40(主軸)×4.49m　確認面19.81m²　床面17.72m²　内区6.27m²　**主軸方位**　N－27°－W　**残存壁高**　4～42cm　**Pit**　$P_1$58cm　$P_2$53cm　$P_3$50cm　$P_4$59cm　P_5(梯子穴)24cm　**カマド**　北壁。袖は山砂を主体とするが、基部はロームブロック混合をする。煙道長36cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　2層、黒褐色均質土　3層、明黒褐色土、褐色土混合強　4層、黒褐色均質土　5層、ロームブロック主体　6層、柱穴部、未実測　7層、明黒褐色土、ロームブロック大小多

遺物　出土土器は、土師器甕2点、土師器椀2点、土師器盤1点、土師器高杯2点であり、2～4・7が床面上より出土している。8は土製支脚であり、カマド内にほぼ正立していた。遺存状態は不良であり、取り上げ時に両端部を欠損した。現存長19.3cm、重量690gを測る。色調はにぶい橙色を呈す。

備考　竪穴住居47・48と重複。本遺構が新。ただし竪穴46との関係は確実であるとはいいがたい。IIb期。

竪穴住居47（第62・63図）　F11区

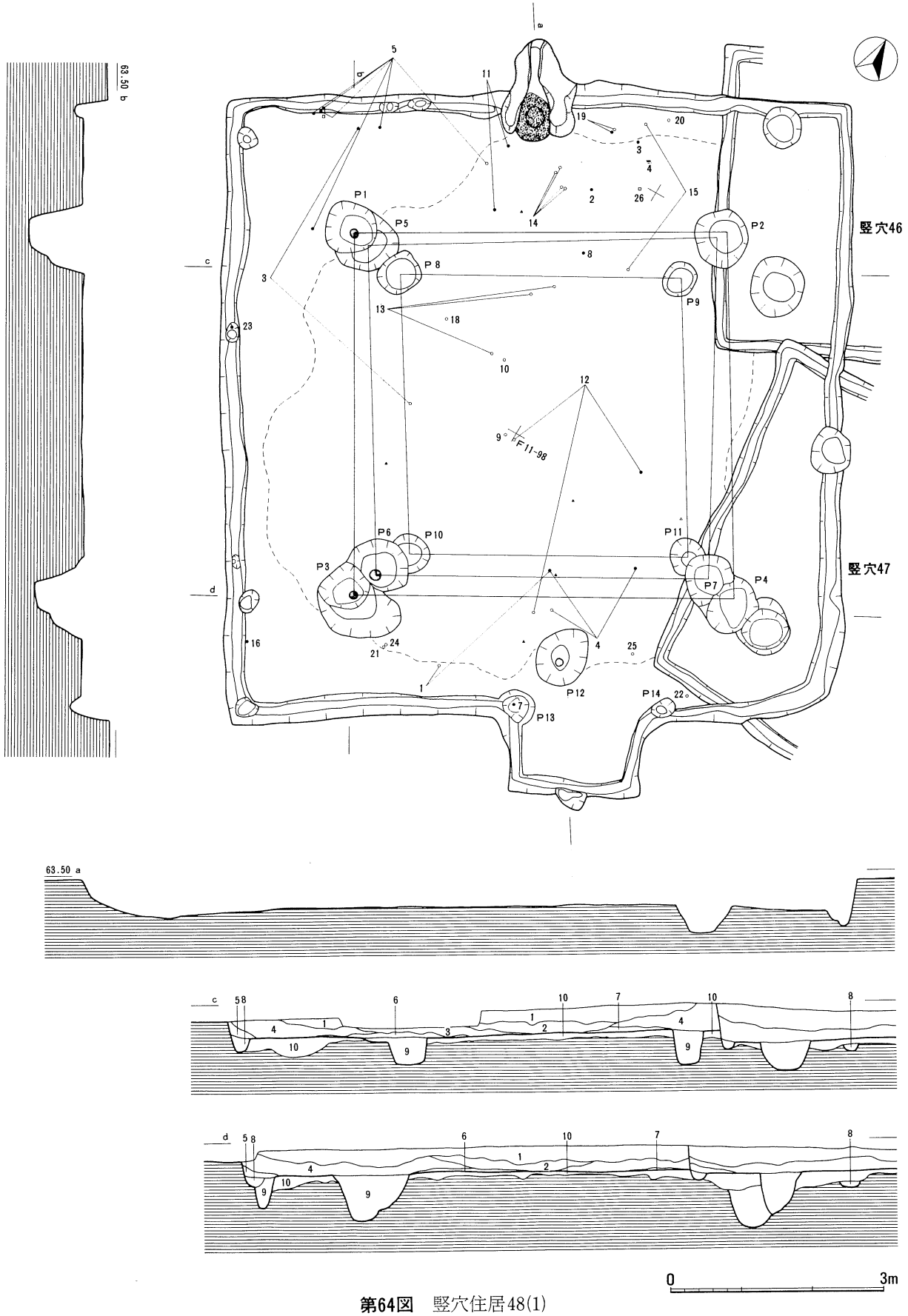
建替　なし　**規模**　5.51(主軸)×5.55m　確認面28.37m²　床面26.34m²　内区7.22m²　**主軸方位**　N－6°－W　**残存壁高**　0～41cm　**Pit**　$P_1$57cm　$P_2$66cm　$P_3$72cm　$P_4$76cm　**カマド**　北壁。　袖は焼土を若干混合する山砂を構築材とする。南壁中央の突出部にも、山砂と焼土ブロックを混合する範囲が認められた。ただし火床面等明瞭ではなかった　**周溝**　全周。壁柱穴　**土層**　1層、明黒褐色土を地層とし、斑状に褐色土を混合する　2層、明黒褐色土、1層に比して均質的　3層、褐色土、粒状　4層、明黒褐色土　5層、暗黄褐色土、ロームブロック主体とし粒状　6層、黄褐色土、ブロック状　7層、柱穴部、未実測　8層、黄褐色土、ハードロームブロック主体

遺物　土器は、土師器甕2点、土師器杯2点、須恵器高台付杯1点である。2・3が床面上より出土している。他に、スラグが1点覆土より出土している。

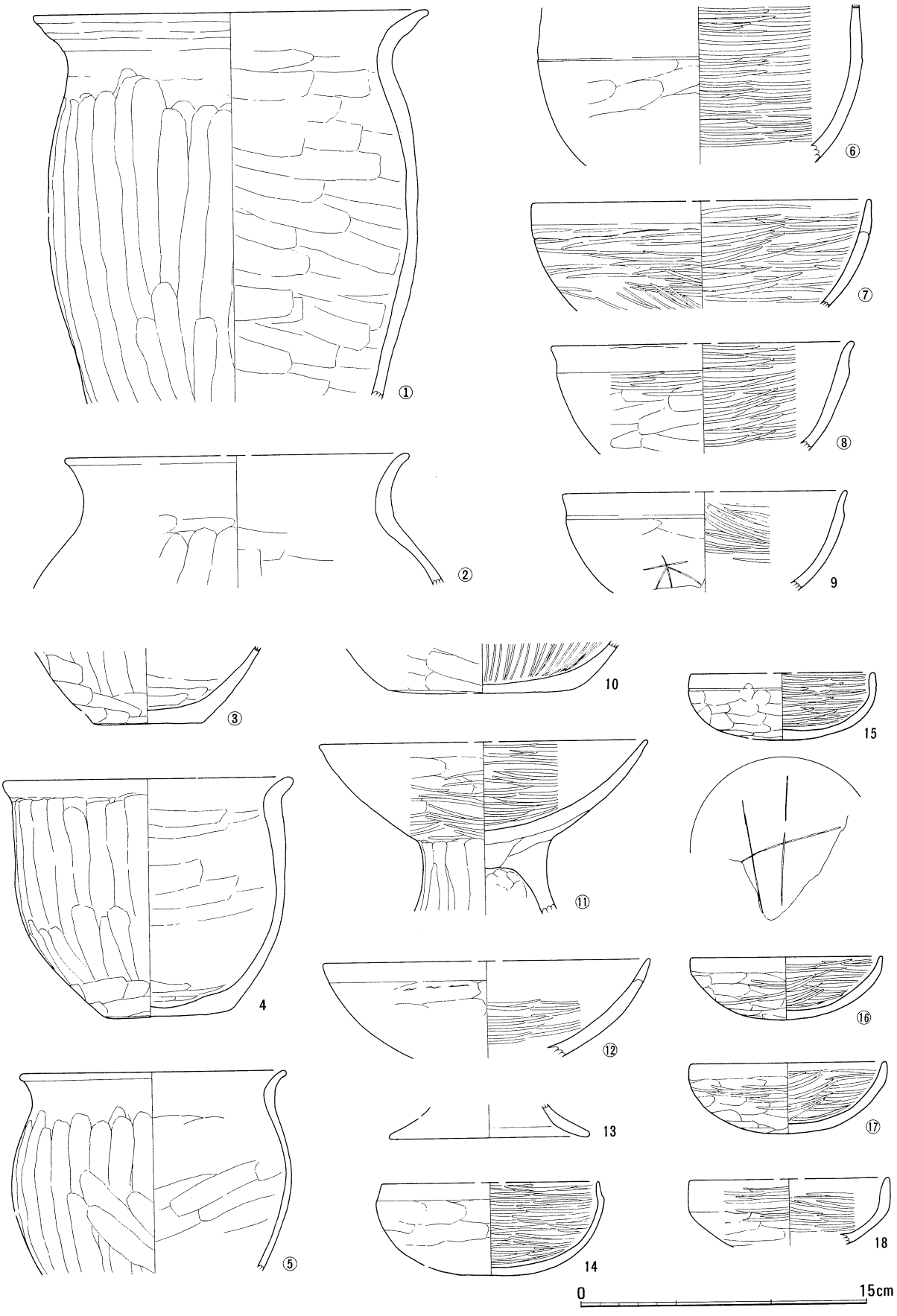
備考　竪穴住居46・48と重複。竪穴48より新、竪穴46より古と判断したが、竪穴46との関係は明瞭ではない。竪穴平面形は五角形を呈す。床面は全体的に硬質であった。II期か。

竪穴住居48（第64～66図）　F11区

建替　2回。A・B・C。主柱穴重複　**規模**　A8.93(主軸)、10.08(張り出し部含)×8.92m　確認面A82.74m²　床面A78.41m²　内区A28.31m²　B23.63m²　C16.14m²　**主軸方位**　AN－30°－W　**残存壁高**　0～43cm　**Pit**　AP_1～P_4　BP_2・P_5～P_7　CP_8～P_{11}　$P_1$77cm　$P_2$76cm　$P_3$70cm　$P_4$80cm　$P_5$44cm　$P_6$49cm　$P_7$48cm　$P_8$45cm　$P_9$43cm　P_{10}39cm　P_{11}43cm　P_{12}(梯子穴)42cm　P_{13}37cm　**カマド**　北壁。袖は山砂を主体とし、焼土ブロック混合。袖は壁外へ張り出し、山砂構築材は煙道部におよぶ。煙道長壁より72cm　**周溝**　全周。壁柱穴　**土層**　1層、明黒褐色土を土層

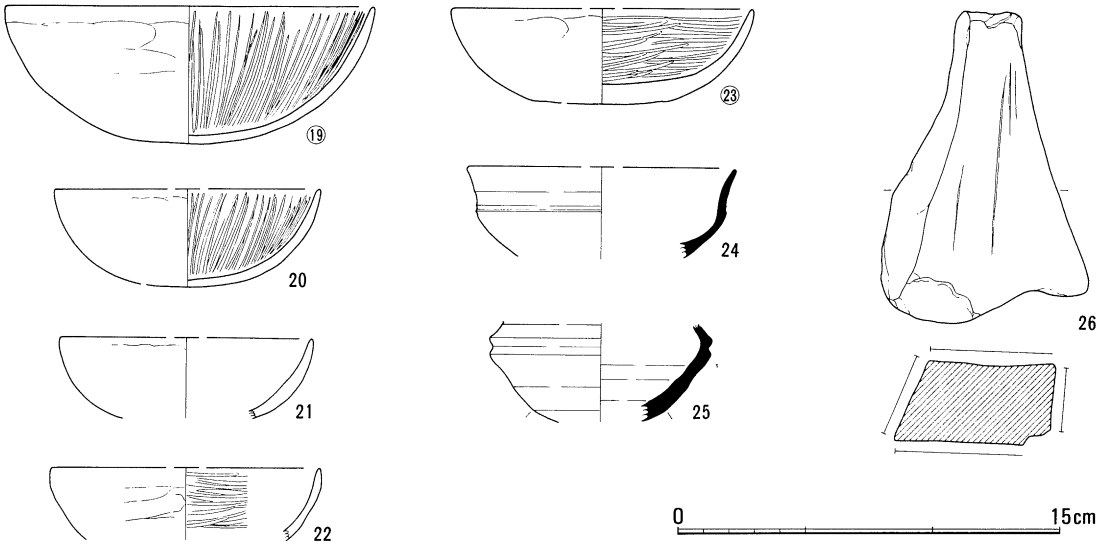


第64図　竪穴住居48(1)

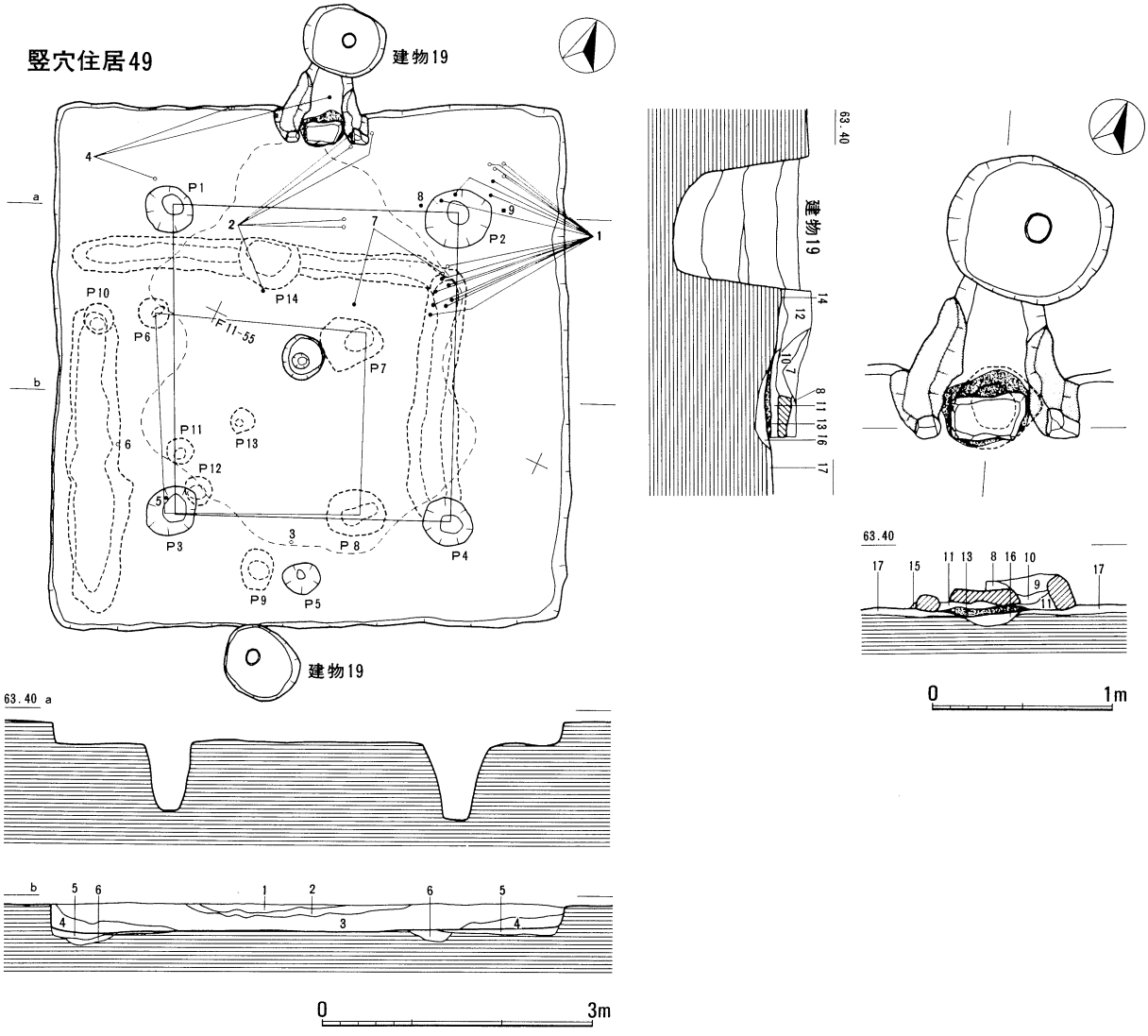


第65図　竪穴住居48(2)

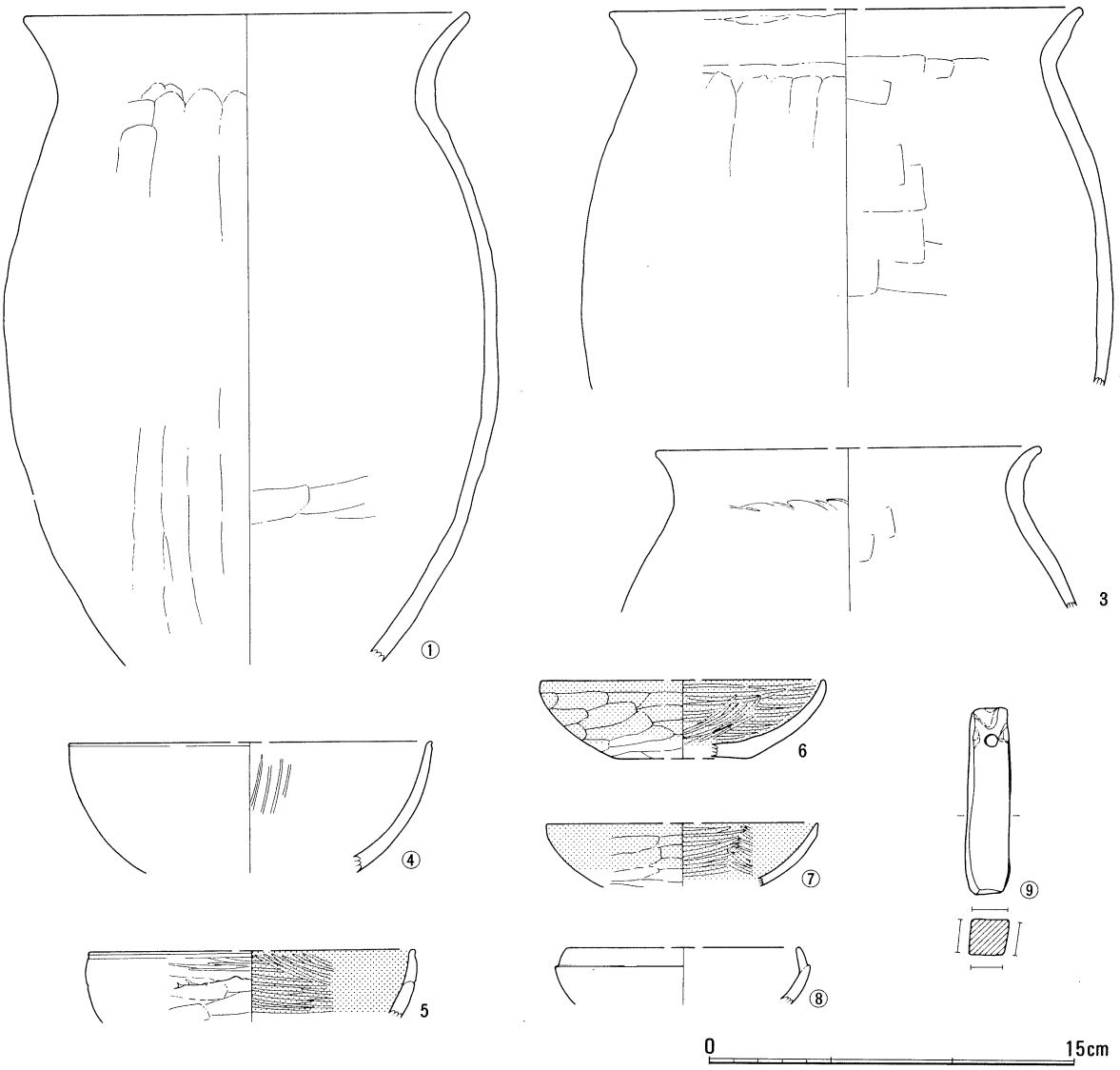
竪穴住居48



竪穴住居49



第66図　竪穴住居48(3)・49(1)



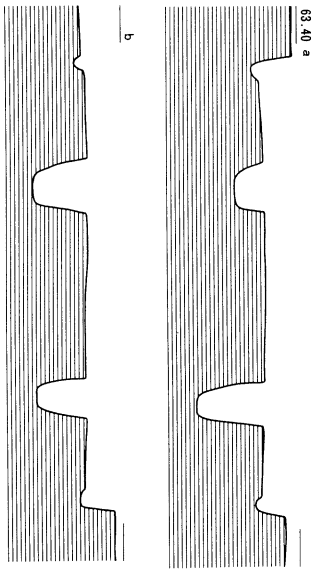
第67図　竪穴住居49(2)

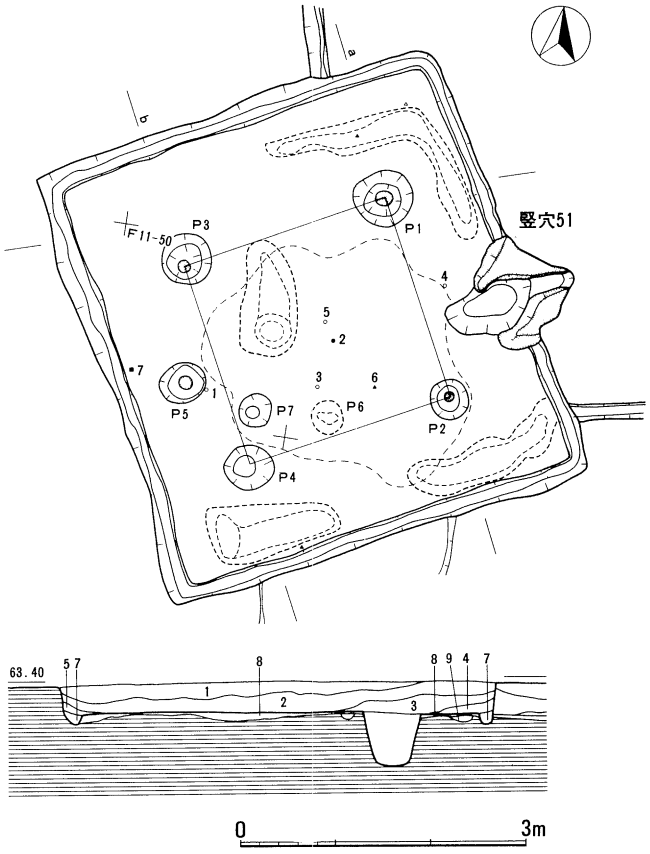
とし、ロームブロック、焼土等を混合する。埋めもどしの可能性あり　2層、黒褐色均質土　3層、山砂・焼土ブロック混合土　4層、明黒褐色土、焼土多　5層、暗黄褐色土　6層、ロームブロック7層、焼土層　8層、暗黄褐色土、黒色土、ロームを粒状に混合　9層、柱穴部、未実測　10層、暗黄褐色土、ロームブロック主体、硬質

遺物　出土土器は、土師器甕5点、土師器鉢・椀5点、土師器杯10点、土師器高杯3点、須恵器高杯1点、須恵器瓶1点であり、1・2・3・5～8・11・12・16・17・19・23が床面上より出土している。26は砥石であり、石質は細粒砂岩である。4面に使用痕をもち、一部鉄分の付着がみられる。全長12.5cm、重量383gを測る。他に、鉄器小片が床面から覆土にかけて7点出土している。一部はスラグの可能性がある。

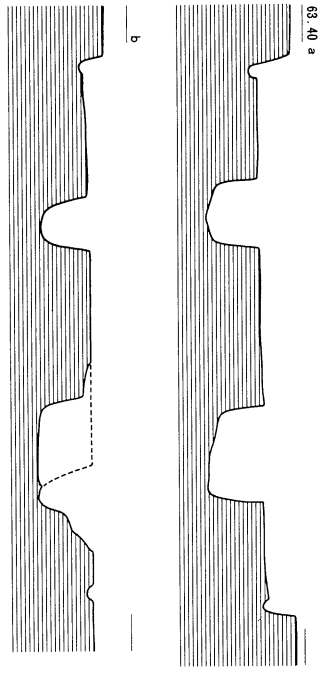
備考　竪穴住居46・47と重複。本遺構が最も古い。建替は主柱穴の重複によって確認できるだけであり、掘形面の調査では、竪穴範囲を示す痕跡は認められなかった。ただし、張り出し部に伴うPitは一対であり、B・Cでは張り出し部をもたなかった可能性も考えられる。火災をうけたと考えられるが、焼土はとくに東側床面にかたよっていた。IIa期。

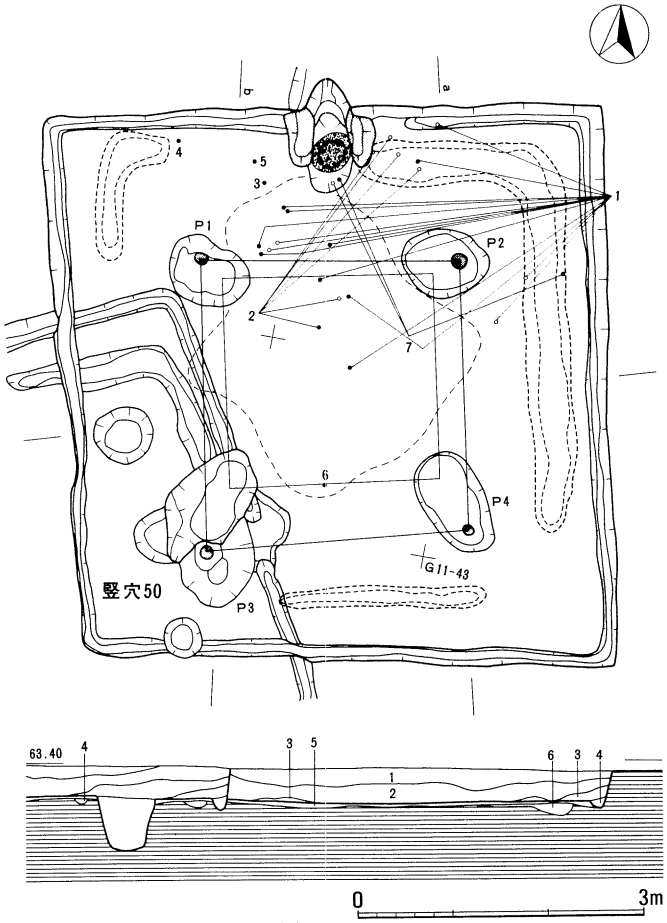
竪穴住居50





竪穴住居51





第68図　竪穴住居50(1)・51(1)

竪穴住居49（第66・67図）　F11区

建替　1回。A・B　**規模**　A5.91(主軸)×5.79m　B4.40(主軸)×4.40m　確認面A34.62㎡　B(18.89)㎡　床面A32.42㎡　内区A11.18㎡　B4.90㎡　**主軸方位**　AN－26°－W　BN－25°－W　**残存壁高**　18～43cm　**Pit**　AP$_1$～P$_5$　BP$_3$・P$_6$～P$_9$　P$_1$75cm　P$_2$83cm　P$_3$73cm　P$_4$78cm　P$_5$（梯子穴）27cm　P$_6$20cm　P$_7$45cm　P$_8$53cm　P$_9$（梯子穴）21cm　P$_{10}$65cm　P$_{11}$34cm　P$_{12}$28cm　P$_{13}$34cm　P$_{14}$（Bカマド掘形）15cm　**カマド**　A北壁。構築材は、山砂および軟質砂岩である。両袖先端部に切石砂岩を固定する。火床面上の切石は、現状では下面が焼けており、構架したものかあるいは前面を囲ったものと考えられる。ただし構架したものとするには幅がたりない。煙道長不明。Bカマドについては、P$_{14}$カマド掘形のみ確認　**周溝**　Aなし　**土層**　1層、黒褐色土、スコリア多　2層、暗褐色土　3層、明黒褐色土、若干の炭化物　4層、黒褐色土、ロームブロック小含　5層、明黒褐色土　6層、暗黄褐色土、ブロック状　7層、山砂と焼土ブロック・焼土粒混合　8層、山砂層　9層、明黒褐色土、山砂・焼土粒混合　10層、黒褐色土、粒状　11層、明黒褐色土を地層とし、焼土、焼土ブロック多含　12層、黒褐色土、焼土粒少　13層、火床面、焼土ブロック　14層、黒褐色均質土、粒状　15層、山砂主体　16層、明黒褐色土土地層とし、山砂、焼土をブロック状に混合　17層、暗黄褐色土

遺物　土器は、土師器甕3点、土師器杯5点であり、1・2・4・7・8が床面上より出土している。9は砥石であり、凝灰岩を石材とする。小孔を穿つ。4面とも使用痕を残す。全長7.9cm、重量45gを測る。

備考　掘立柱建物19と重複。本遺構が古。建替については、方位が若干ずれる点などやや疑問もあるが、南西隅をほぼ共有する点から判断した。A・Bともローム面を床とする。P$_{10}$～P$_{13}$については性格不明である。Ⅰb期。

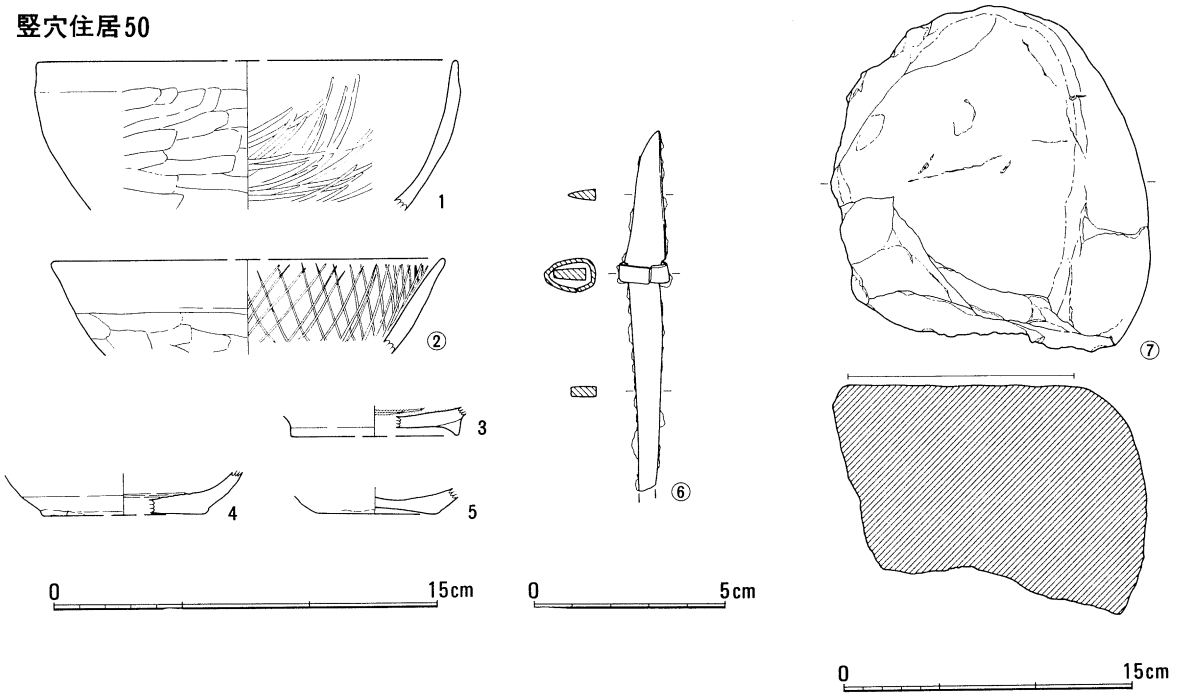
竪穴住居50（第68・69図）　G11区

建替　1回。A・B。掘形　**規模**　A4.53(主軸)×4.92m　B(3.90)×(4.20)m　確認面A22.60㎡　B(16.00)㎡　床面A20.39㎡　内区A5.06㎡　**主軸方位**　N－62°－E　**残存壁高**　17～35cm　**Pit**　P$_1$56cm　P$_2$58cm　P$_3$28cm　P$_4$71cm　P$_5$（梯子穴）47cm　P$_6$35cm　P$_7$22cm　**カマド**　東壁。袖は山砂を主体とし、壁外へ張り出す。火床面はあまり焼けていない。煙道長壁より53cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、黒褐色土、しみ状に褐色土混合、若干の焼土　2層、明黒褐色土、褐色土強　3層、2層と同質であるが、山砂を混合　4層、暗褐色土、粒状、若干の山砂粒　5層、暗黄褐色土　6層、柱穴部、未実測　7層、暗黄褐色土　8層、ロームブロック主体　9層、8層よりやや暗

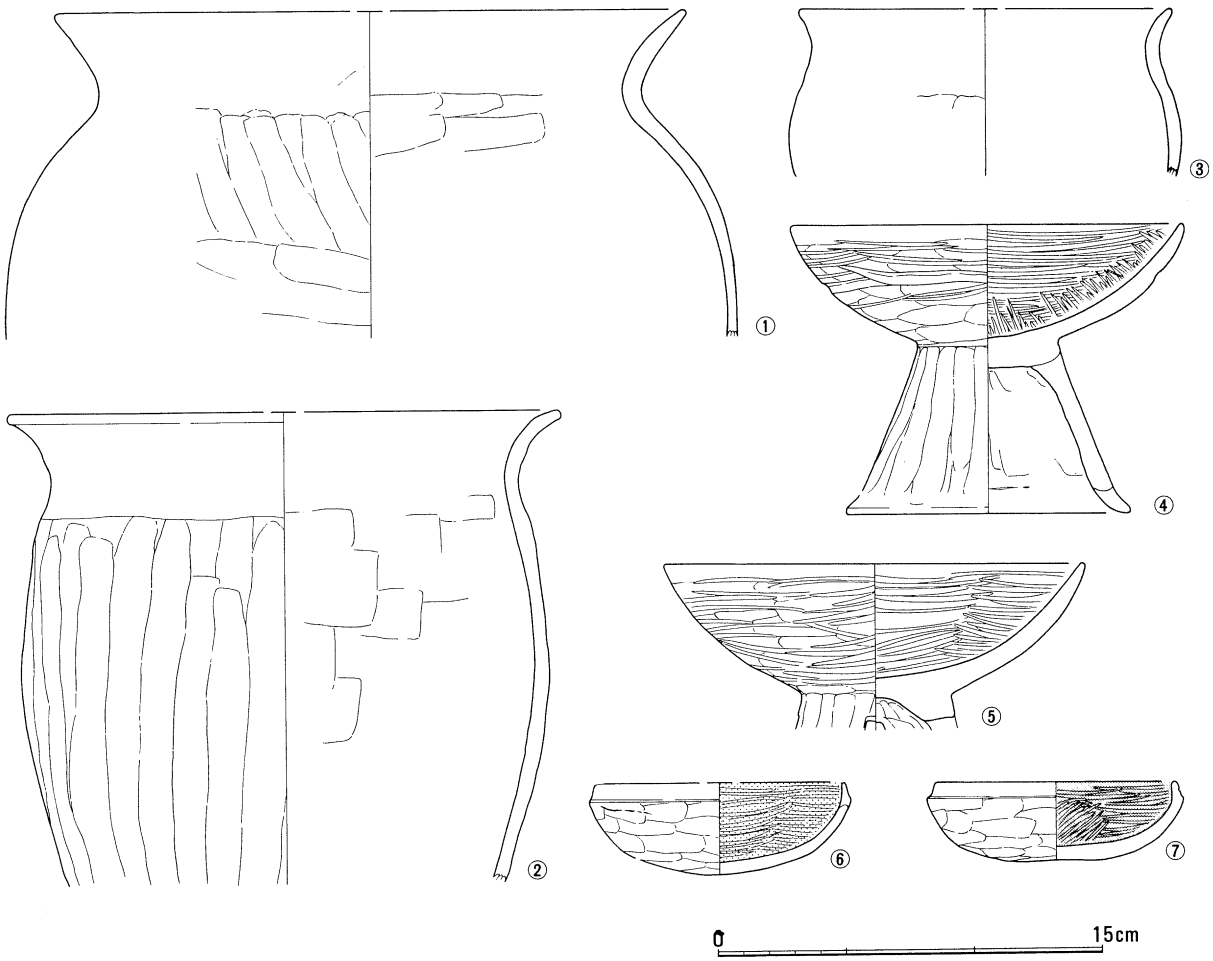
遺物　土器は土師器椀1点、土師器杯4点であり、2が床面上より出土している。6は鉄製の刀子であり、茎を欠損する。関部には鉏を残す。現存長9.7cm、重さ10.3gである。7は、なんらかの作業台であると考えられる。石質は砂岩である。表面のみを使用面とし、平滑化している。18.5×16.7cm、厚さ12.2cm、重量5060gを測る。6・7は床面上より出土している。他に床面上より2点、覆土中より1点、鉄小片が出土している。

備考　竪穴住居51と重複。本遺構より古。B住居については、主柱穴を欠く。カマド位置についてはほぼAと同位置であると考えられるが不明である。土層の観察によるならば、建替時に全体に掘り直されている。9層がB貼り床埋土に対応する。Ⅲa期。

竪穴住居50



竪穴住居51



第69図　竪穴住居50(2)・51(2)

竪穴住居51（第68・69）　G11区

建替　1回。A・B。主柱穴重複、掘形　**規模**　A5.85（主軸）×5.91m　B(4.90)×(5.00)m　確認面A34.72㎡　B（24.60）㎡　床面A32.20㎡　内区A8.35㎡　B（5.04）㎡　**主軸方位**　AN－13°－W　BN－14°－W　**残存壁高**　0～42cm　**Pit**　$P_1$48cm　$P_2$55cm　$P_3$74cm　$P_4$58cm　**カマド**　北壁。袖は山砂を主体とする。火床面は2枚あり、焼土が多量に堆積する。煙道長37cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、全体に褐色土混合　2層、明黒褐色土、1層より暗、斑状に褐色土混合　3層、焼土層　4層、暗黄褐色土、粒状　5層、黄褐色土、ロームを主体としブロック状　6層、5層より暗、黒褐色土混合

遺物　土師器甕3点、土師器高杯2点、土師器杯2点が出土している。いずれも床面上より出土している。

備考　竪穴住居50と重複。竪穴50は本遺構より新。Bは掘形によりその範囲を確認したが、土層の観察によるならば、建替時に全体に掘り直されている。6層がB貼り床埋土に対応する。火災。Ⅰb期。

竪穴住居52（第70・71図）　G11区

建替　2回。A・B・C。主柱穴、掘形、カマド重複　**規模**　A7.17（主軸）×7.07m　C5.88（主軸）×5.99m　確認面A52.09㎡　C(32.88)㎡　床面A49.17㎡　内区A16.71㎡　B11.71㎡　C9.81㎡　**主軸方位**　A・CN－15°－E　**残存壁高**　4～40cm　**Pit**　AP_1～P_4・P_{13}　BP_5～P_8　CP_9～P_{12}　$P_1$70cm　$P_2$81cm　$P_3$76cm　$P_4$79cm　$P_5$66cm　$P_6$69cm　$P_7$55cm　$P_8$60cm　$P_9$58cm　P_{10}58cm　P_{11}48cm　P_{12}54cm　P_{13}（梯子穴）18cm　P_{14}（梯子穴）28cm　P_{15}33cm　**カマド**　北壁。袖は白色粘土を主とし、ローム粒、黒色粒混合。煙道2基分が確認できる。A・Bに対応か。A煙道長34cm。カマド掘形に重複がみられるが、A～Cを特定することはできなかった　**周溝**　全周。壁柱穴　**土層**　1層、黒褐色均質土　2層、1層と同質であるが焼土混合　3層、明黒褐色土、褐色の斑状ブロック、スコリア多　4層、黒褐色土、大小スコリア多　5層、暗黄褐色土、ロームブロック、粘土粒他全体に粒状　6層、暗黄褐色土、ブロック状　7層、黒褐色土を地層とし、大小ロームブロック多　8層、ロームブロック主体　9層、8層に比べてやや粒状

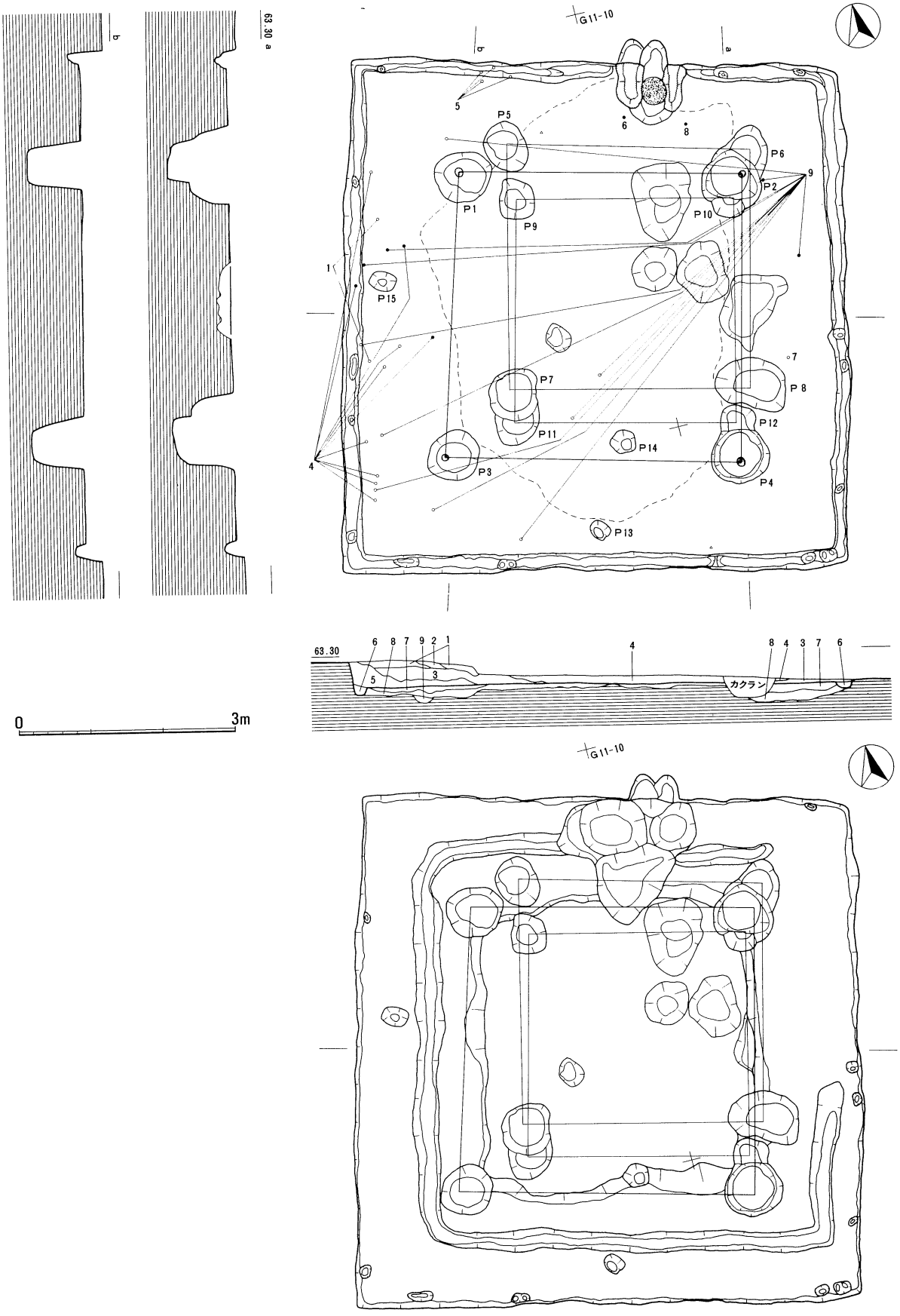
遺物　土器は、覆土を中心として多量に出土しているものの、いずれも小破片であり接合しない。実測可能個体は、土師器甕4点、土師器鉢1点、土師器杯4点であり、4・6・8・9が床面、カマドより出土している。9は口縁部が傾斜する。他にスラグが覆土より2点出土している。

備考　建替は2回であり、C→B→Aの順序となる。床下周溝はCに対応するものと考えられ、またBは、北壁をほぼAと共有することが想定される。P_{15}は梯子穴とも考えられるが、カマドはA～Cとも北壁である。床面中央部北東側のPitはいずれもカクランによるものである。Ⅰb期。4はその大半が床下より出土したものであるが、時期は特定できない。

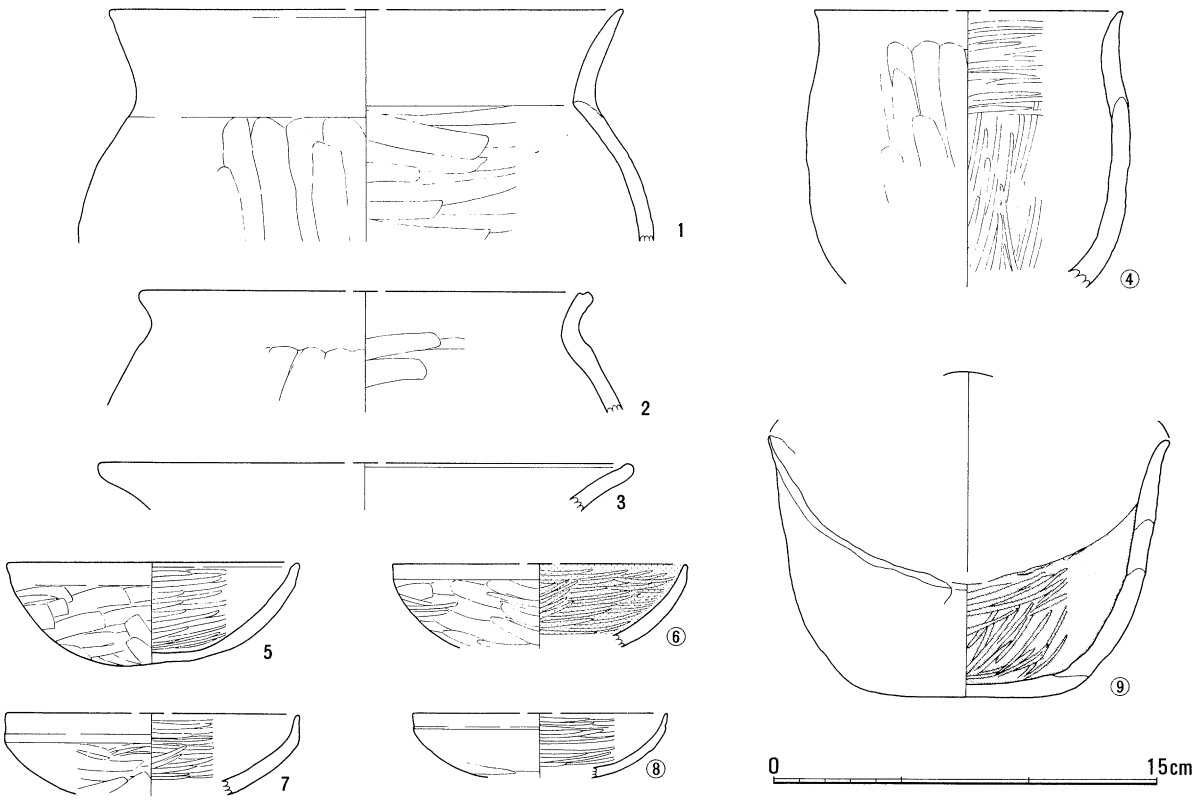
竪穴住居53（第72・73図）　G10区

建替　なし　**規模**　2.91(主軸)×3.16m　確認面8.95㎡　床面7.83㎡　**主軸方位**　N－2°－W　**残存壁高**　8～28cm　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。袖は山砂を主体とするが軟質。焚口もあまり焼けていなかった。煙道長35cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、大小スコリア多　2層、黒褐色土　3層、明黒褐色土、褐色土混合強　4層、黒褐色土、硬質

遺物　土器は、土師器甕4点、土師器杯4点、であり、2・3・5～7が床面上より出土している。9は土



第70図　竪穴住居52(1)



第71図　竪穴住居52(2)

製の羽口であり、溶解物がみられる。現存長10.1cm、重量174ｇを測る。10は板状の鉄器であり、刃部をもたない。現存長5.75cm、幅2.75cm、厚さ0.2cm、重量15.8ｇを測る。9・10は覆土より出土している。

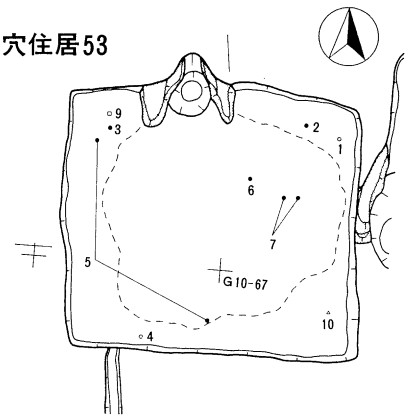
備考　竪穴住居54と重複し、一部その覆土上に床をつくる。Ⅴ期。

竪穴住居54（第72～74図）　G10区

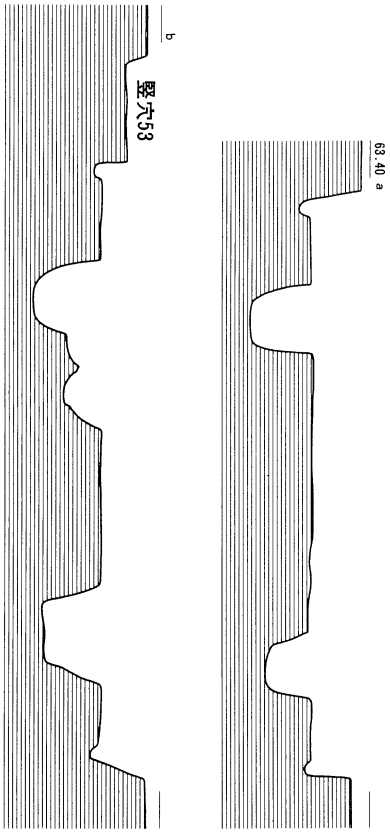
建替　3回。A・B・C・D。主柱穴重複　**規模**　A6.44(主軸)、7.24(張り出し部含)×6.08、6.53(張り出し部含)m　確認面A41.99㎡　床面A38.94㎡　内区A14.64㎡　B9.74㎡　C7.05㎡　D4.98㎡　**主軸方位**　AN－4°－W　**残存壁高**　36～54cm　**Pit**　A P_1～P_4・P_{12}・P_{13}　B P_3～P_6　C P_3・P_7・P_9・P_{10}　D P_3・P_8・P_9・P_{10}・P_{11}　$P_1$69cm　$P_2$63cm　$P_3$47cm　$P_4$44cm　$P_5$47cm　$P_6$43cm　$P_7$51cm　$P_8$51cm　$P_9$56cm　P_{10}69cm　P_{11}57cm　P_{12}27cm　P_{13}28cm　P_{14}19cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を構築材とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より1.46m。P_{14}は旧カマド掘形であり、C・Dに対応するものと考えられる　**周溝**　ほぼ全周　**土層**　5層、明黒褐色土を地層として斑状に褐色土混合　6層、暗黄褐色土、山砂、焼土混合　7層、明黒褐色土、5層と同質であるがやや明　8層、黄褐色土、ロームブロック　9層、明黒褐色土、ローム多含　10層、黒褐色均質土　11層、暗黄褐色土、粒状　12層、黄褐色土、ローム主体、ブロック状

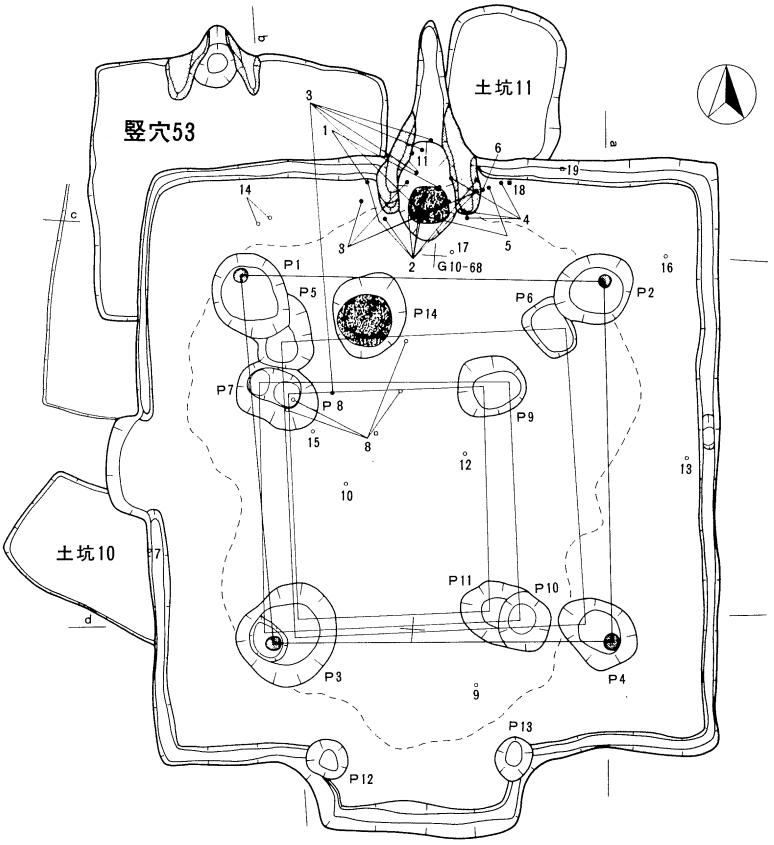
遺物　出土土器は、土師器甕6点、土師器高杯3点、土師器杯2点、土師器高台付杯1点、土師器小皿2点、須恵器蓋1点、須恵器高台付杯1点他である。床面上およびカマド焚口内より出土したものは1～6・11である。18・19は土製支脚である。18は頭部、基部とも欠損する。現存長16.2cm、重さ610ｇを測る。器面は橙色を呈し、胎土は大小砂粒を多量に含む。19はほぼ完存している。全長21.5cm、重さ910ｇを測る。器面は赤橙色からにぶい橙色を呈し、胎土は白色粒を多量に含む。他にも土製支脚片が1点出土しているが、18とは接合しない。18は床面上より、19は覆土より出土した。

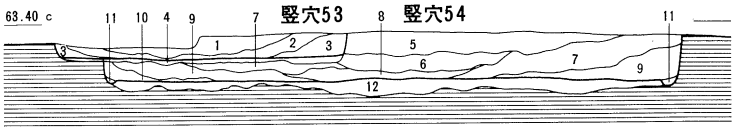
竪穴住居53

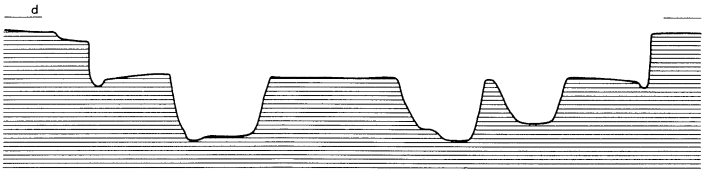


竪穴住居54





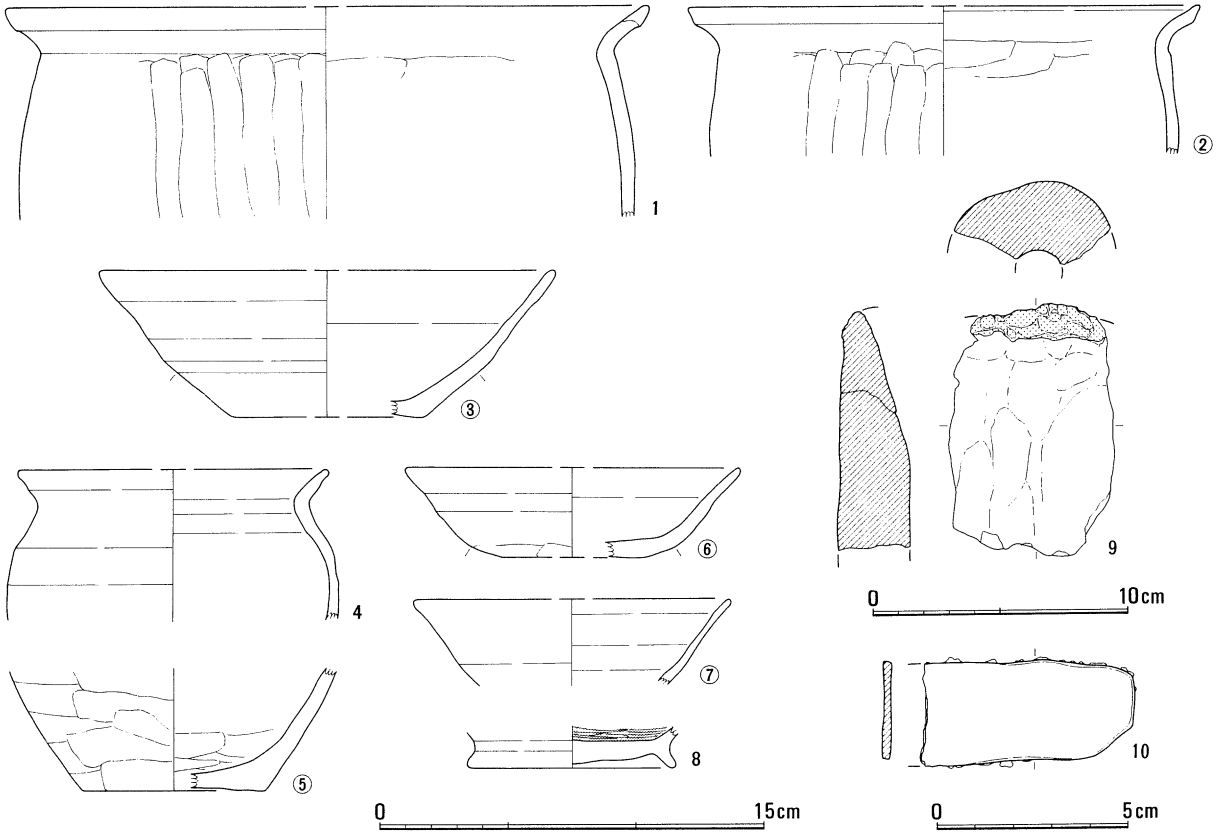




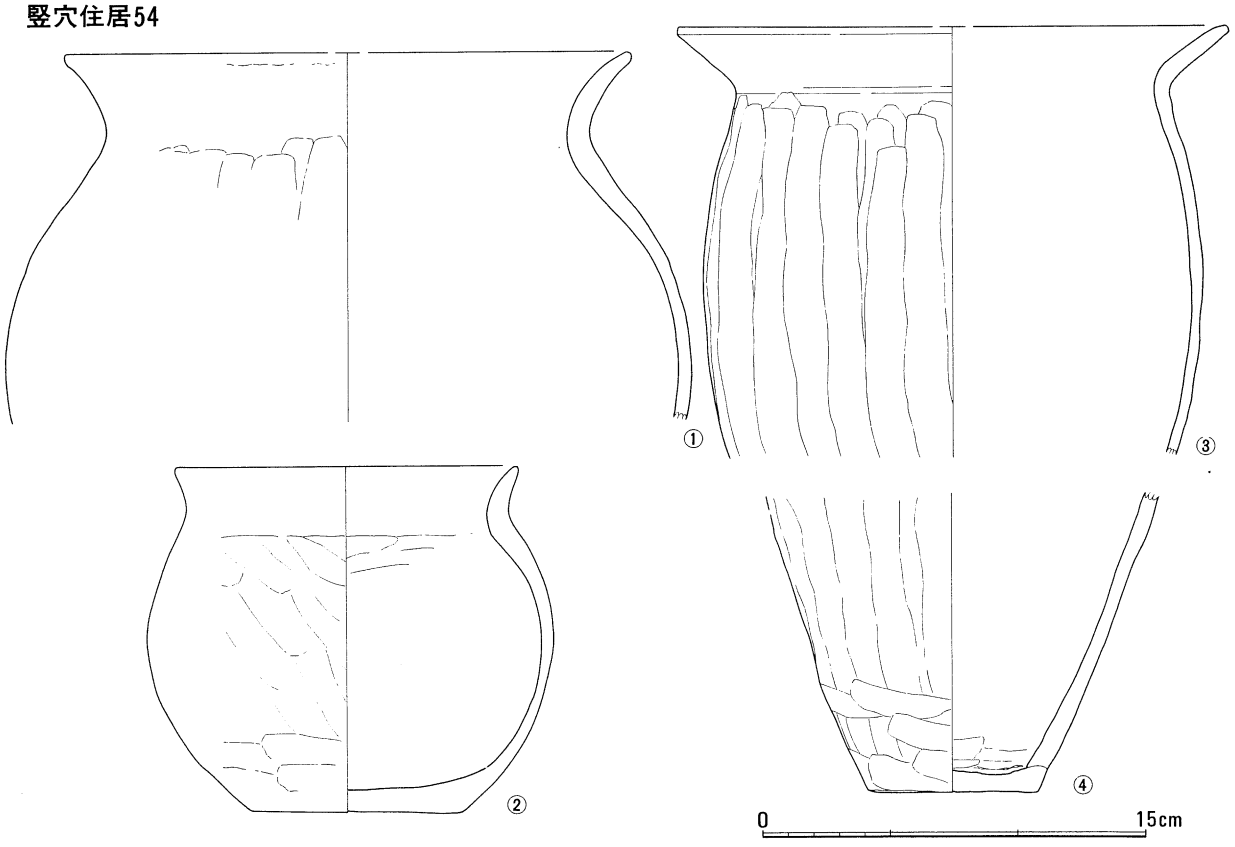
0 3m

第72図　竪穴住居53(1)・54(1)

竪穴住居53

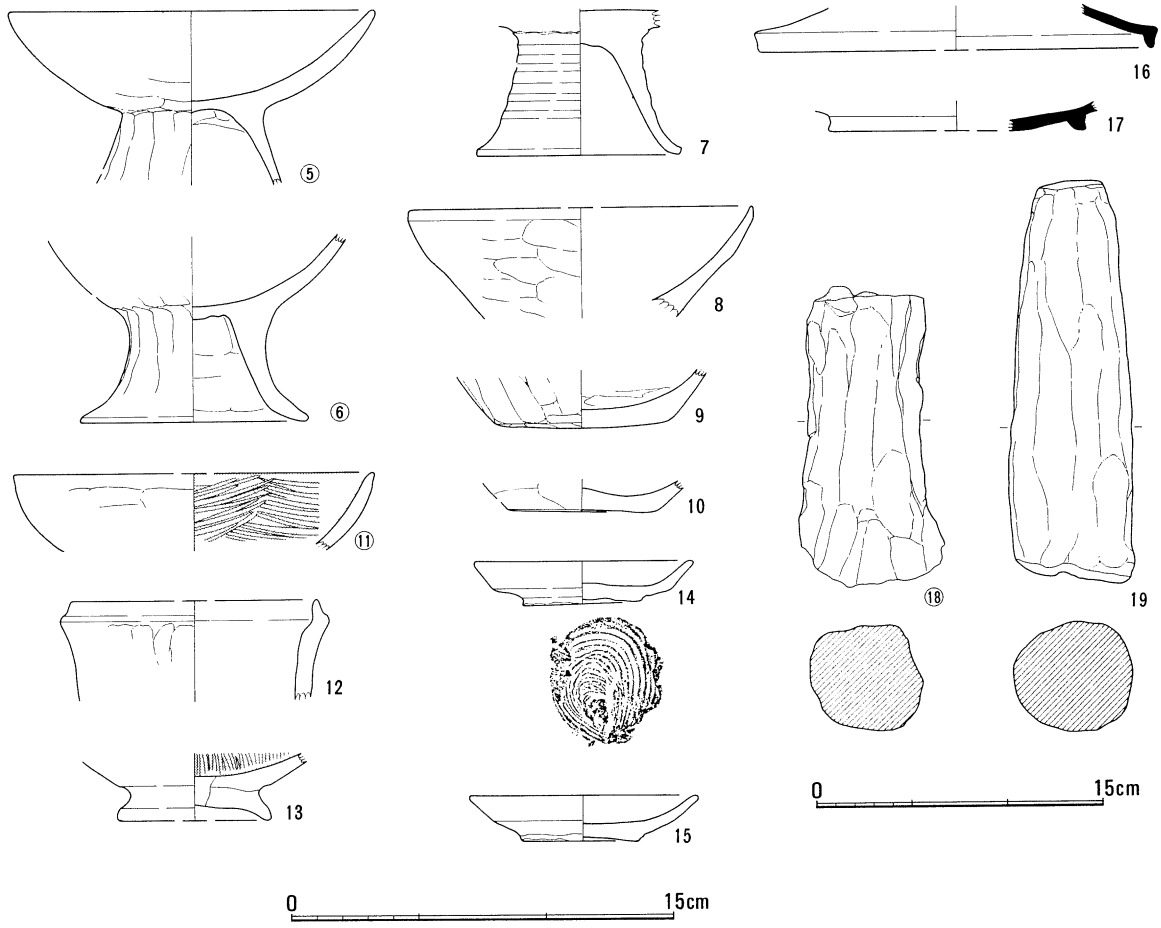


竪穴住居54

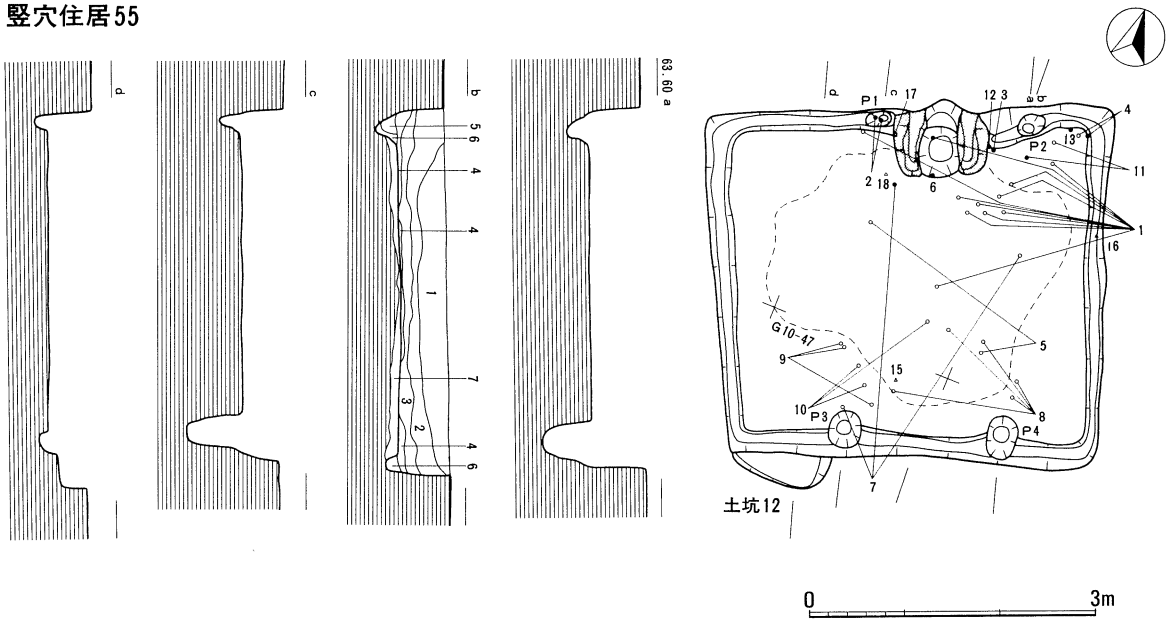


第73図　竪穴住居53(2)・54(2)

竪穴住居54



竪穴住居55



第74図　竪穴住居54(3)・55(1)

備考　竪穴住居53、土坑10・11と重複する。竪穴53は本遺構より新。土坑10は古である。土坑11との関係は不明。4小期があり、主柱穴重複関係により、漸次大形化していくことがわかる。南張り出し部については、これに伴うPit（P_{12}・P_{13}）が一対のみであり、A住居にのみ付属する可能性も考えられる。張り出し部は西側にも存在するが、その位置関係から、Aに付属するものであろうか。周溝は断続し、床は同レベルであり、土坑とも考えられない。またその対面東壁側にはカマドの痕跡は認められない。IIb期

竪穴住居55（第74・75図）　G10区

建替　なし　**規模**　3.86(主軸)×4.16m　確認面15.28m²　床面13.35m²　**主軸方位**　N－22°－W　**残存壁高**　37～52cm　**Pit**　$P_1$26cm　$P_2$26cm　$P_3$56cm　$P_4$52cm　**カマド**　北壁。基部は黒褐色土であり、その上に山砂・粘土を積み上げる。両側面、火床面ともあまり焼けていない。煙道長16cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、2層、黒褐色土を地層とし、斑状に褐色土を混合　3層、黒褐色土、炭化粒、焼土を多量に混合　4層、ロームブロック　5層、黒褐色土、粒状　6層、暗黄褐色土、粒状　7層、ロームブロック主体

遺物　土器は、土師器甕6点、土師器杯6点、須恵器甕1点、須恵器杯2点であり、2～4・6・7・11・12・13がカマド焚口内、床面上より出土している。15は鉄製刀子であり、刃先、茎を欠損する。現存長11.95cm、身幅1.2cm、厚さ0.3cm、重さ14.6gを測る。16は鉄製紡錘車であり、軸下端、紡輪⅓を欠損する。軸棒先端は鉤状になり、篠竹状の木質を残す。現存長27.4cm、紡輪径5.2cm、重量28.1gを測る。17は凝灰岩製の砥石であり、表裏面に使用痕を残す。一方に小孔を穿つ。現存長5.6cm、重量42gを測る。19は金銅製の耳環である。内側に金薄板を残す。径2.0cm、重さ9.3gを測る。15・17・19は覆土中より、16は床面上より出土した。

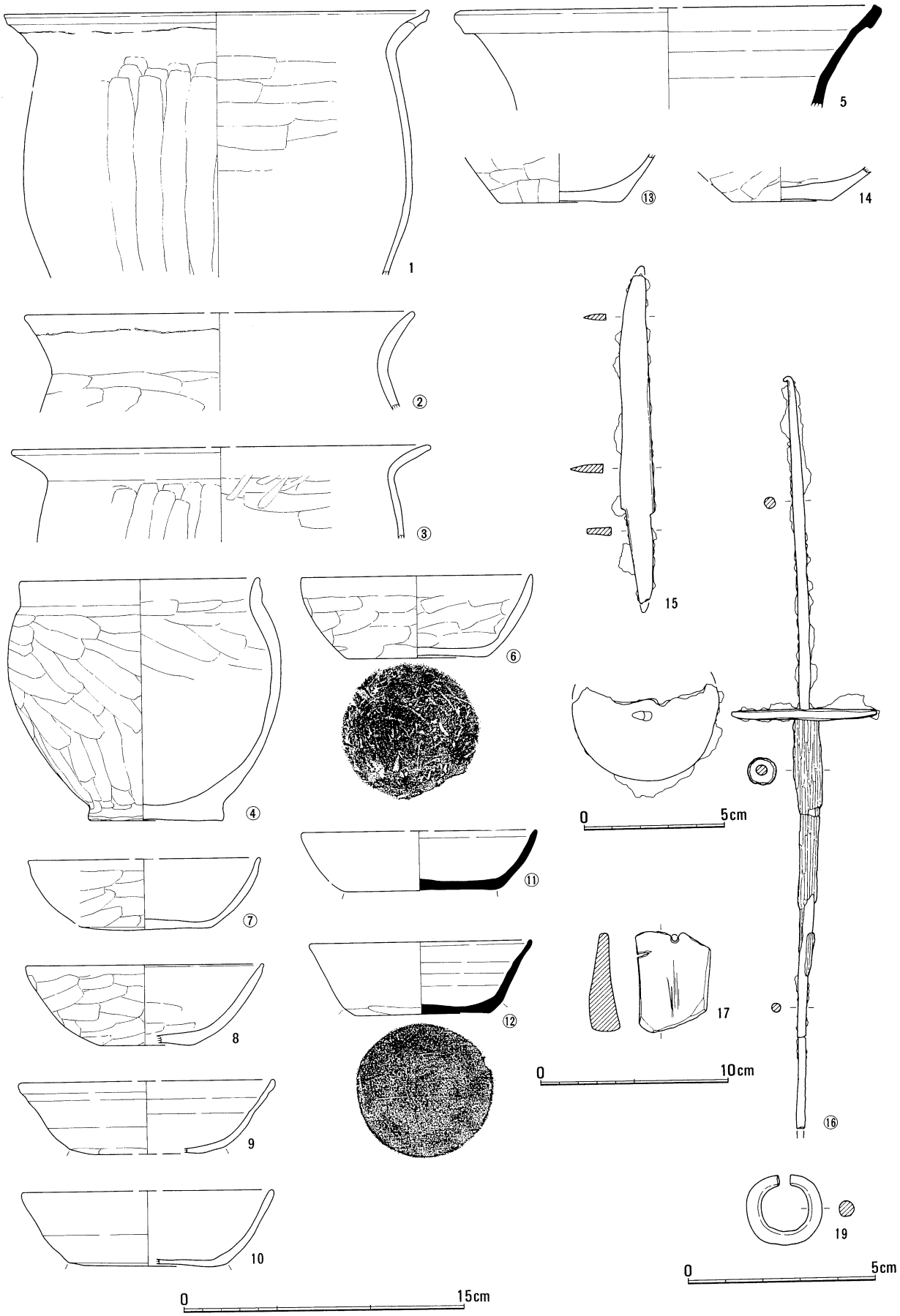
備考　掘立柱建物30、土坑12と重複。建物30掘形は、住居床下より検出した。土坑12との重複関係は不明である。火災をうけたと考えられるが、壁際の焼土は若干の間層をはさむ。IIIb期。

竪穴住居56（第76図）　G10区

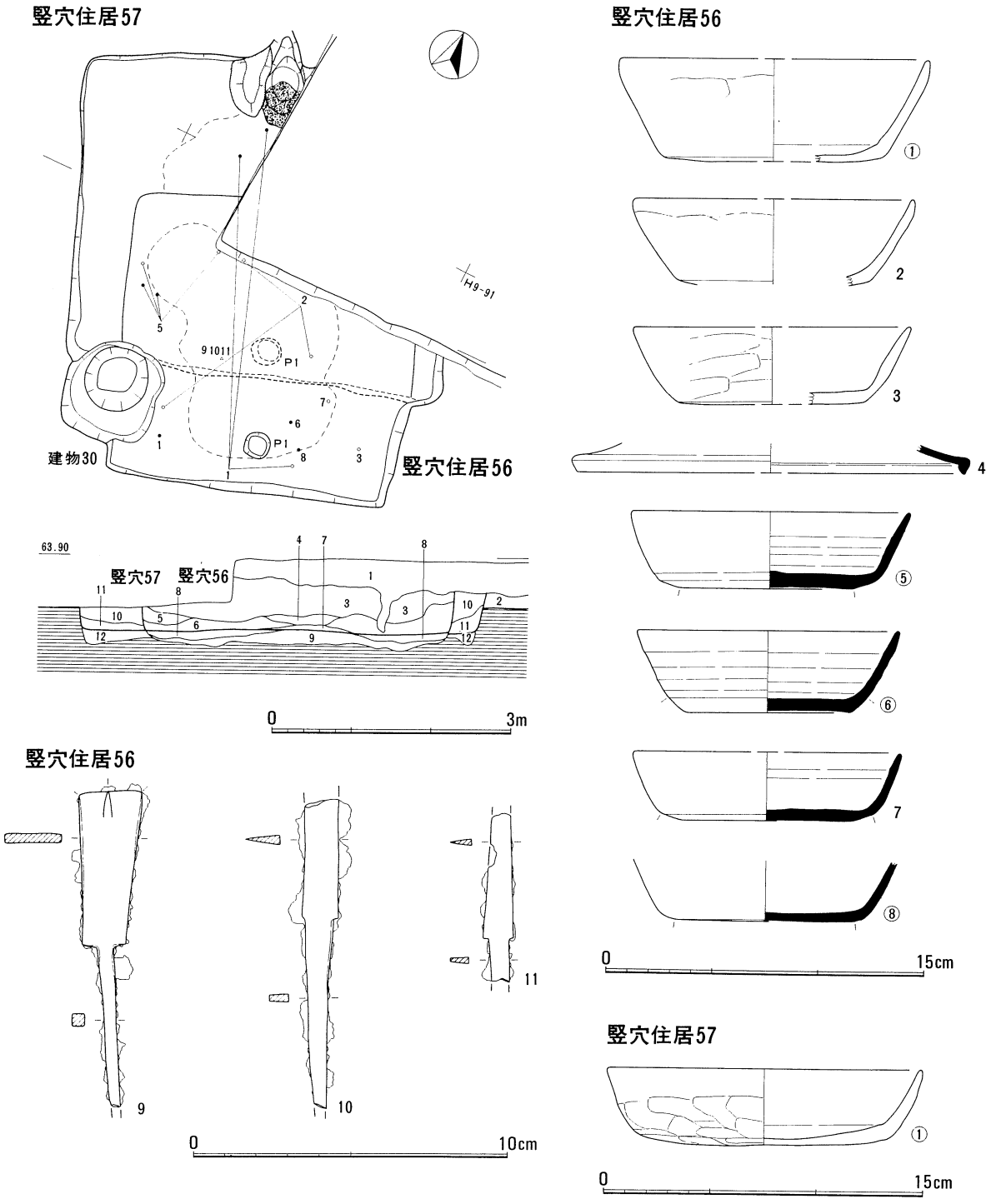
建替　なし　**規模**　3.73(主軸)×3.74m　確認面(14.00)m²　**主軸方位**　N－19°－W　**残存壁高**　0～24cm　**Pit**　P_1（梯子穴）23cm　**カマド**　北壁か。山砂・粘土の分布から、その存在は確実であると推定されるが、未調査区内　**周溝**　なし　**土層**　1層、表土層　2層、黒褐色土　3層、明黒褐色土、まだら状に褐色土混合　4層、暗黄褐色土、大小スコリア多量、全体に粒状　5層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　6層、黒褐色土　7層、山砂・粘土層、焼土を含む　8層、黒褐色土主体　9層、暗黄褐色土、ローム主体、ブロック状

遺物　土器は、土師器杯3点、須恵器蓋1点、須恵器杯4点であり、1・5・6・8が床面上より出土している。9～11は鉄器であり、まとまって覆土内より出土した。9は鑿頭式の鉄鏃であり、茎を欠く。現存長10.05cm、刃幅1.95cm、厚さ0.4cm、重量17.3gを測る。10は両関の刀子である。現存長9.85cm、幅1.05cm、厚さ0.35cm、重さ12.0gを測る。11は両関の刀子である。現存長5.4cm、幅0.95cm、厚さ0.25cm、重さ4.6gを測る。

備考　竪穴住居57と重複。本遺構が新。掘立柱建物30との重複関係は明らかにできなかった。一部未調査区におよぶ。北壁側は、掘形面により確認した。確認面面積は推定値である。IIIb期。



第75図　竪穴住居55(2)



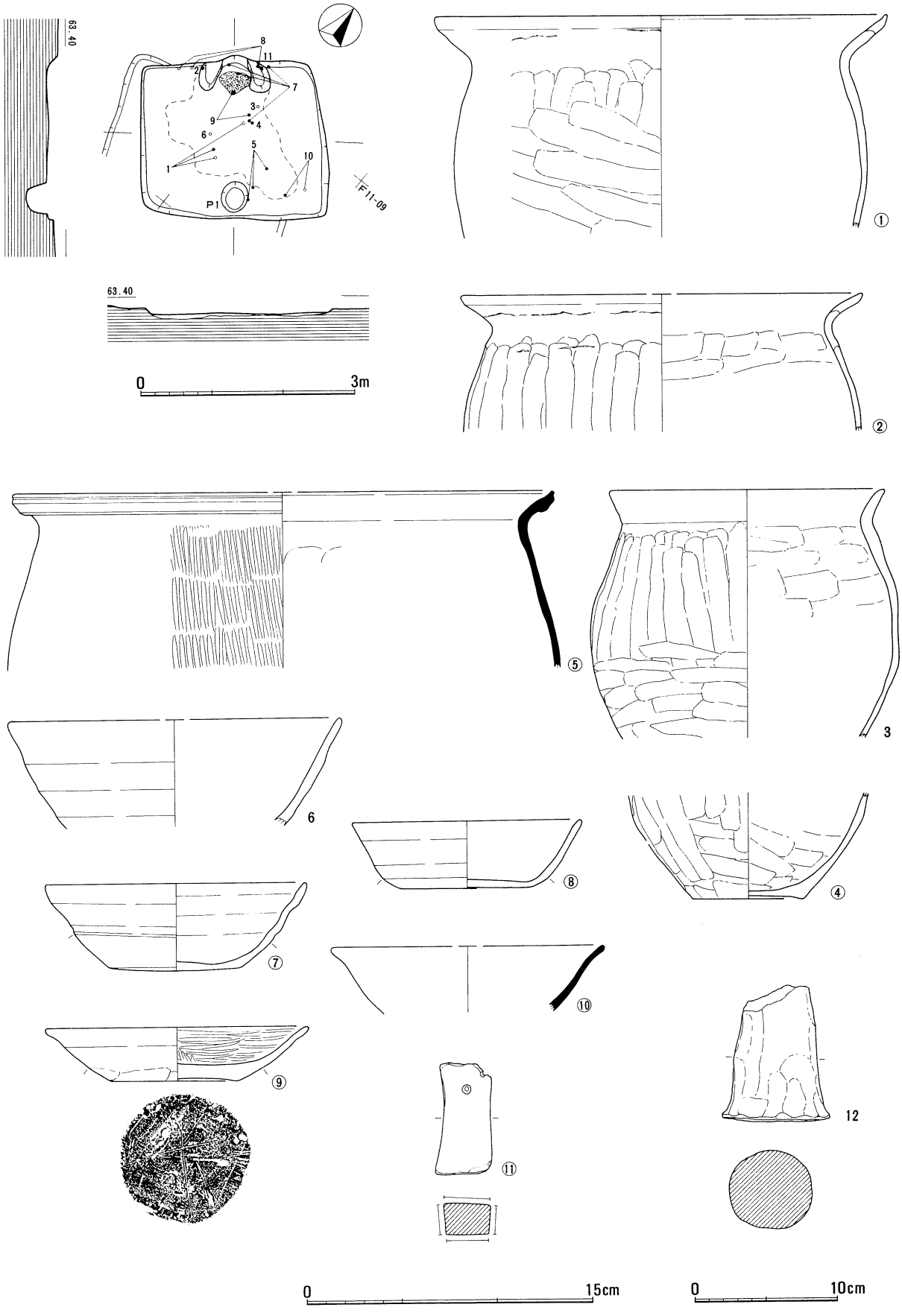
第76図　竪穴住居56・57

竪穴住居57（第76図）　G９区

建替　なし　　**規模**　4.11(主軸)×4.80m　確認面(19.00)㎡　　**主軸方位**　N－22°－W　　**残存壁高**　4～49cm　　**Pit**　P_1(梯子穴)33cm　　**カマド**　北壁。左袖のみ検出。山砂を主体とし、焼土ブロック、ローム等を若干混合する。硬質。煙道長49cm　　**周溝**　なし　　**土層**　10層、明黒褐色土、斑状に褐色土を混合　11層、黒褐色均質土　12層、暗黄褐色土、ブロック状

遺物　土師器杯１点のみ床面上より出土した。破片は竪穴56覆土から出土したものと接合する。

備考　竪穴住居56と重複。本遺構が古。掘立柱建物30との関係は不明。竪穴範囲は一部未調査区にお



第77図　竪穴住居58

よぶ。確認面面積は推定値である。III a 期。

竪穴住居58（第77図）　F11区

建替　なし　　**規模**　2.29（主軸）×2.64m　確認面5.80㎡　床面4.82㎡　　**主軸方位**　N－39°－W

残存壁高　8～19cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）25cm　　**カマド**　北壁か。袖は山砂・粘土を主体とする。煙道長11cm　　**周溝**　なし　　**土層**　床面上に炭化物、焼土層。貼り床部は黒褐色土

遺物　土器は、土師器甕4点、土師器杯3点、土師器皿1点、須恵器甕1点、須恵器杯1点であり、1・2・4・5・7～10がカマド焚口内、床面上より出土している。11は砥石であり、石質は凝灰岩である。2孔を穿ち、4面を使用面とする。ただし線条痕は不明確である。現存長6.1cm、重量66gである。12は土製の支脚である。頭部を欠損し、現存長9.8cm、重量336gを測る。器面はナデ調整であり、にぶい橙色を呈す。胎土は密であるが細粒を含む。11は床面上より、12は覆土より出土した。

備考　掘立柱建物22と重複。柱掘形は床下より検出された。当初竪穴範囲を誤認したため、南側は掘りすぎの部分である。火災をうけたと考えられる。なお掘形面がほぼローム上面に対応する。IV a 期。

竪穴住居59（第78図）　F10区

建替　なし　　**規模**　3.36（主軸）×3.25m　確認面10.72㎡　床面9.10㎡　　**主軸方位**　N－22°－W

残存壁高　6～17cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）20cm　　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を主体とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より64cm　　**周溝**　なし　　**土層**　1層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　2層、黒褐色均質土　3層、黒褐色土を主体としローム混合

遺物　土師器甕1点、土師器台付甕1点、土師器杯1点、須恵器高盤1点、須恵器甕1点が出土している。いずれもカマド焚口内、床面上より出土している。

備考　掘立柱建物20・22と重複。床面下、カマド火床面下より柱掘形を検出。本遺構が新。竪穴掘形面がほぼローム上面に対応する。III b 期。

竪穴住居60（第78・79図）　F10区

建替　なし　　**規模**　5.21（主軸）×5.29m　確認面27.21㎡　床面25.10㎡　内区5.32㎡　**主軸方位**　N－22°－W　　**残存壁高**　20～34cm　　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を主体とし、小礫、ロームブロックを混合する。煙道長40cm　　**周溝**　全周　　**土層**　1層、黒褐色土、斑状に褐色土混合　2層、明黒褐色土、褐色土強　3層、暗黄褐色土、粒状　4層、暗黄褐色土であり、しみ状のローム主

遺物　出土土器は、土師器甕2点、土師器杯1点、須恵器高台付杯1点、須恵器蓋1点であり、4がカマド袖に密着して出土した。6は棒状の鉄製品である。現存長5.15cm、重量4.6gを測る。覆土より出土。他に土製支脚小片が覆土より出土している。

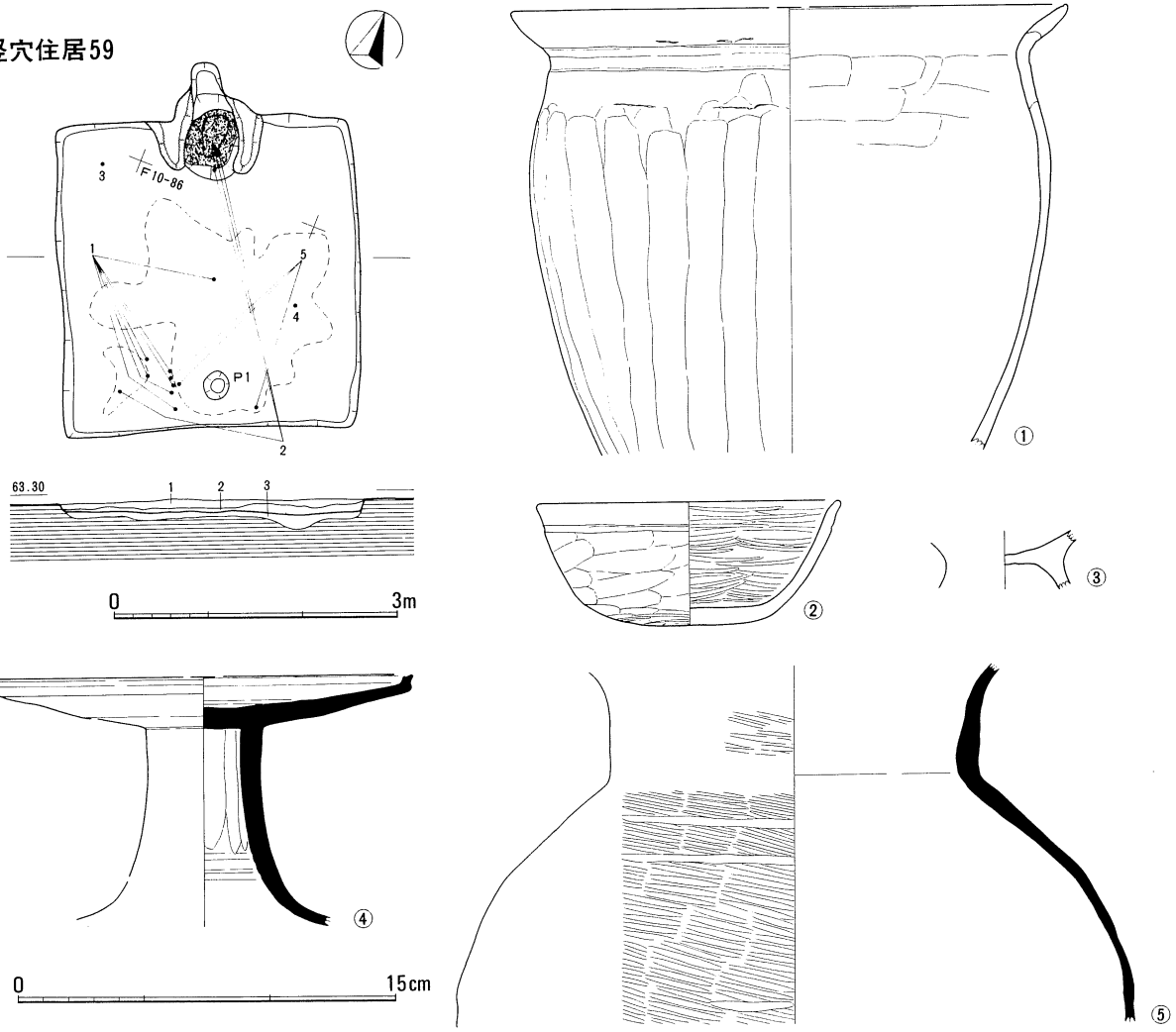
備考　掘立柱建物21・22と重複。本遺構に対して建物21が新、22が古と判断したが、やや不明確であった。II b 期か。

竪穴住居61（第79・80図）　F10区

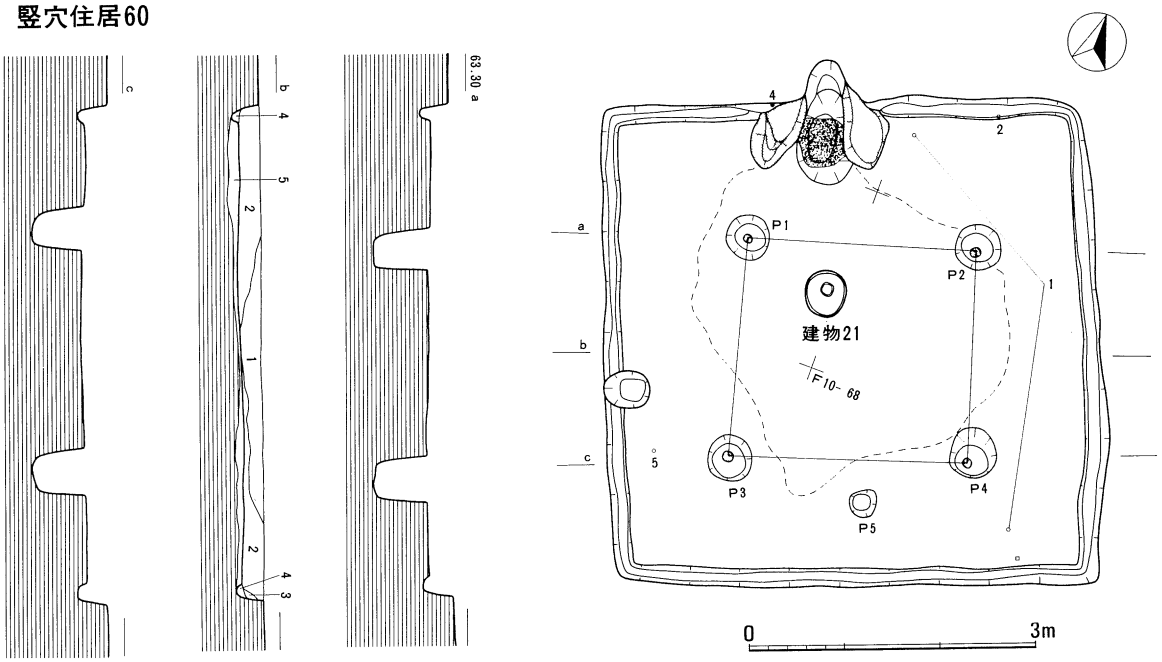
建替　2回。A・B・C。主柱穴、カマド重複　　**規模**　A4.27（主軸）×4.68m　確認面A20.84㎡　床面18.62㎡　内区A4.33㎡　B3.43㎡　C5.36㎡　　**主軸方位**　AN－16°－W　B・C？N－75°－E

残存壁高　20～35cm　　**Pit**　A P_1～P_4・P_{14}　B P_3・P_5～P_7　C P_8～P_{11}　$P_1$49cm　$P_2$58cm　$P_3$56cm　$P_4$61cm　$P_5$51cm　$P_6$39cm　$P_7$45cm　$P_8$46cm　$P_9$61cm　P_{10}31cm　P_{11}39cm　P_{12}28cm　P_{13}31cm　P_{14}（梯子穴）35cm　　**カマド**　A北壁。袖は、山砂・粘土を構築材とし、壁外煙道部へ張り

竪穴住居59

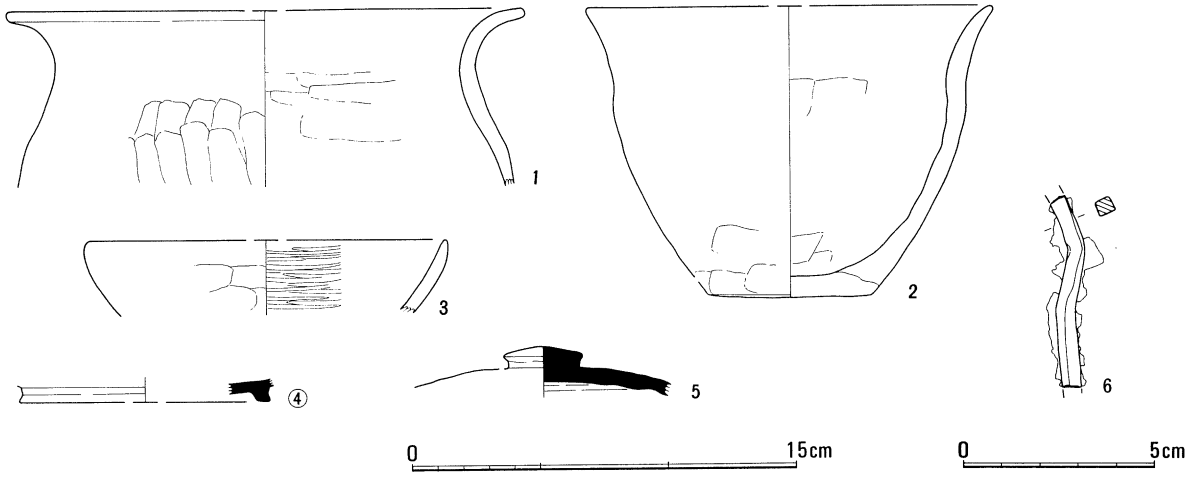


竪穴住居60

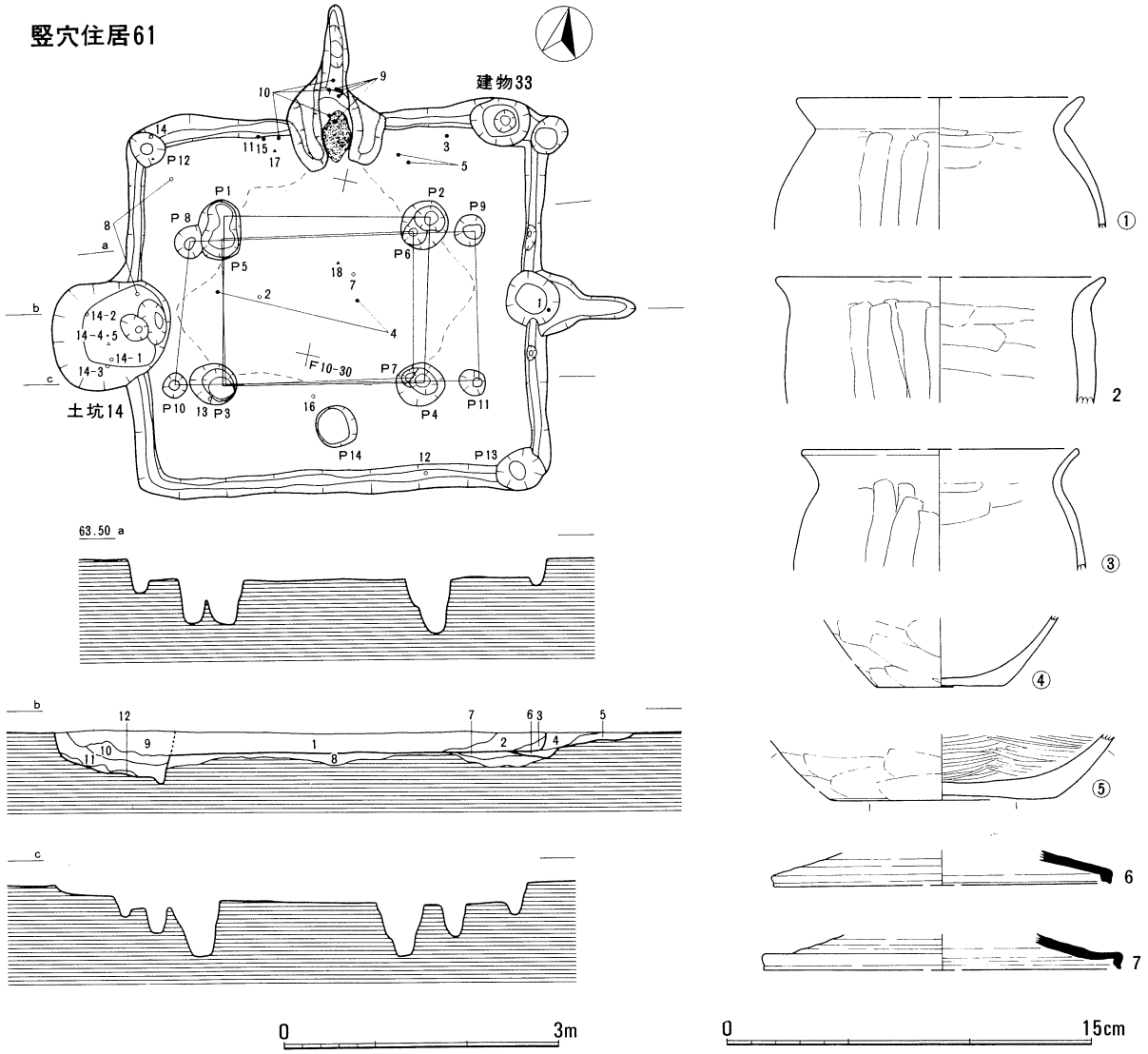


第78図　竪穴住居59・60(1)

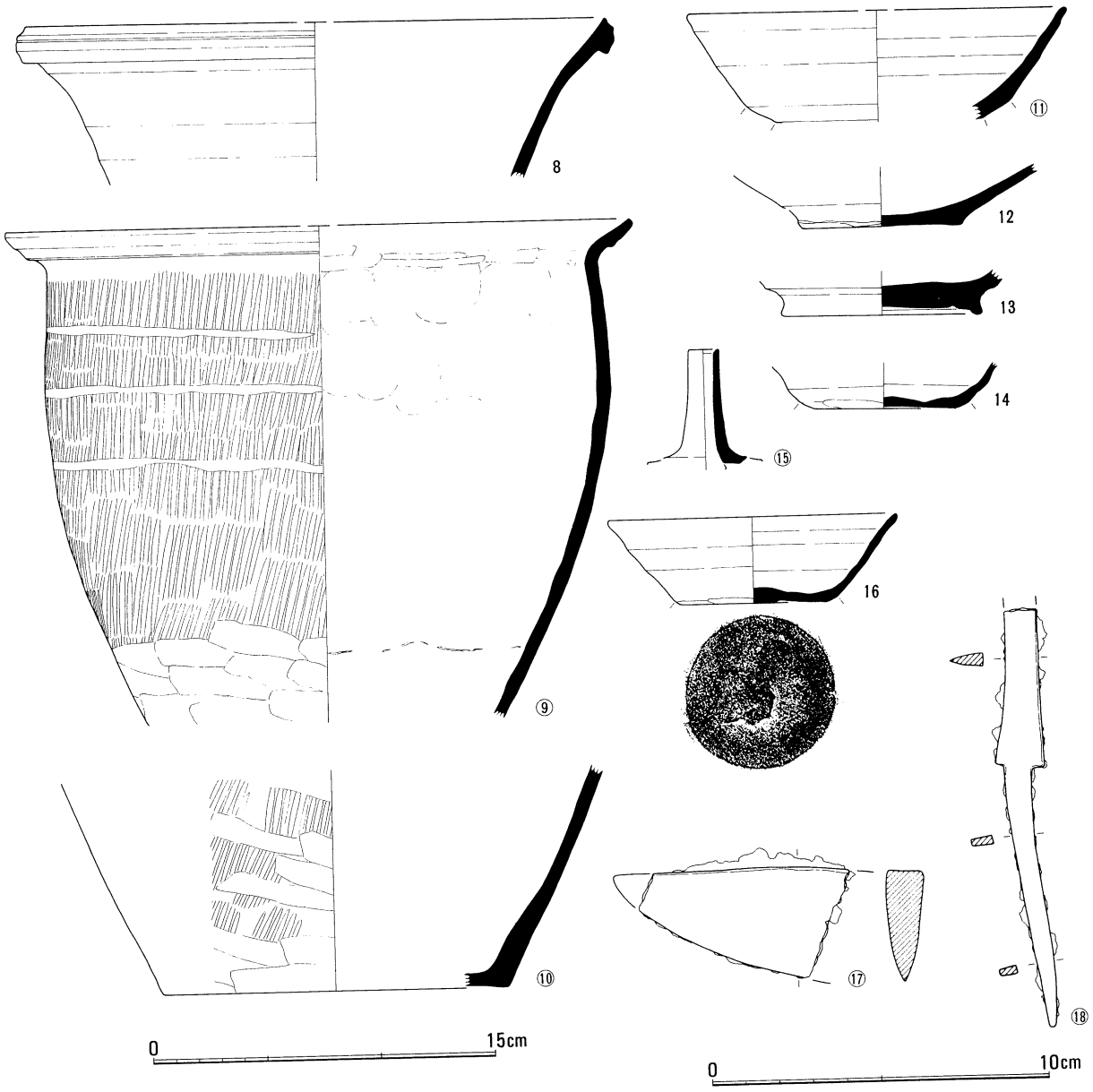
竪穴住居60



竪穴住居61



第79図　竪穴住居60(2)・61(1)



第80図　竪穴住居61(2)

出す。煙道長1.30m。煙道は土器を使用していたと推定され、9・10が遺存していた。東壁に旧カマドが検出された。袖はまったく遺存していない。火床面も明確にとらえることはできなかった。煙道長98cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状に褐色土を混合　2層、黒褐色土　3層、暗黄褐色土、山砂混合　4層、焼土、焼土ブロック、山砂を全体に混合　5層、明黒褐色土　6層、黒褐色土、焼土、焼土ブロック混合　7層、焼土ブロック主体　8層、明黄褐色土

遺物　土器は、土師器甕4点、土師器椀1点、須恵器蓋2点、須恵器甕1点、須恵器甑1点、須恵器高台付杯2点、須恵器杯2点他である。15は水瓶か。このうちカマド煙道部に使用されていたものが9・10であり、他に1・3～5・11・15が床面上より出土している。17・18は鉄器であり、17は大刀切先とも考えられる片刃の利器である。現存長6.1cm、幅3.3cm、厚さ1.1cm、重量65.9gを測る。18は刀子であり、残存長12.55cm、幅1.45cm、厚さ0.4cm、重量13.3gを測る。他に1点刀子の茎の考えられる小片が出土している。17・18は床面上より出土。

備考　掘立柱建物33、土坑14と重複。建物33との新旧関係は明らかにすることができなかった。土坑14については、当初張り出し部と考えたが、床面が連続しない点などから土坑と判断した。ただし土層断面１、９層の相違は明確ではなかった。建替は２回であるが、主柱穴を基準とするA～Cと、旧カマドとの関係は明らかではない。同位置、同規模での建替か。Ⅳb期。

竪穴住居62（第81～83図）　G９区

建替　１回。A・B。カマド２基　**規模**　A3.97(主軸)×4.04m　B(4.04)(主軸)×(3.97)m　確認面A16.10㎡　B16.06㎡　床面A14.21㎡　**主軸方位**　AN－18°－W　B(N－73°－E)　**残存壁高**　28～39cm　**Pit**　P_1(A梯子穴)38cm　P_2(B梯子穴)39cm　**カマド**　A北壁。袖は、山砂・粘土を主体としローム粒を混合する。煙道は土器を現状では６個体使用する。煙道長1.51m。B東壁。袖は遺存せず、また火床面も明瞭ではなかったことから掘形を図示。煙道は土器を使用していた可能性があり、３個体が確認できる。煙道長1.33m　**周溝**　全周　**土層**　１層、明黒褐色土、まだら状に褐色土混合　２層、黒褐色土を地層とし、焼土、炭化物を多量に混合する　３層、暗黄褐色土、粒状　４層、暗黄褐色土、山砂混合、粒状　５層、明黒褐色土、山砂、焼土を混合し、全体に粒状　６層、暗黄褐色土、焼土、山砂、ローム混合　７層、黒褐色土、焼土ブロック混合、硬質　８層、明黒褐色土、焼土少含、粒状　９層、明黒褐色土、しみ状にソフトローム混合　10層、柱穴部、未実測　11層、山砂・粘土主体、ローム混合　12層、11層赤化部分　13層、山砂・粘土主体　14層、明黒褐色土、山砂、焼土混合、全体に粒状　15層、焼土主体、黒褐色土を粒状に混合　16層、焼土ブロック　17層、黒褐色土　18層、明黒褐色土、ロームブロック混合

遺物　出土土器は、土師器甕13点、土師器椀・杯15点、土師器高台付杯１点、須恵器杯１点、須恵器甕２点、灰釉手付瓶１点である。このうち１～３・８・10・11がAカマド煙道部に使用されていたものであり、他に６・33が出土している。Bカマド煙道部土器は４・９・12である。床面上より出土したものは７・20・22・23・31である。34～36は鉄製品である。34は刀子であり、茎を欠損する。背側の関は大きくつくられ、背は全体として内湾する。現存長18.5cm、身幅2.55cm、厚さ0.4cm、重量39.8ｇを測る。35は飾金具であろうか。全体が内湾し、鉤状部に小孔を穿つ。現存長4.8cm、幅2.7cm、厚さ0.2cm　重さ10.2ｇを測る。36は長頸式の鉄鏃であり、棘部はみられない。現存長7.0cm、幅厚さは0.7～0.75cm、重さ8.3ｇを測る。35は床面上より、34、36は覆土中より出土している。他にスラグが覆土より６点出土している。

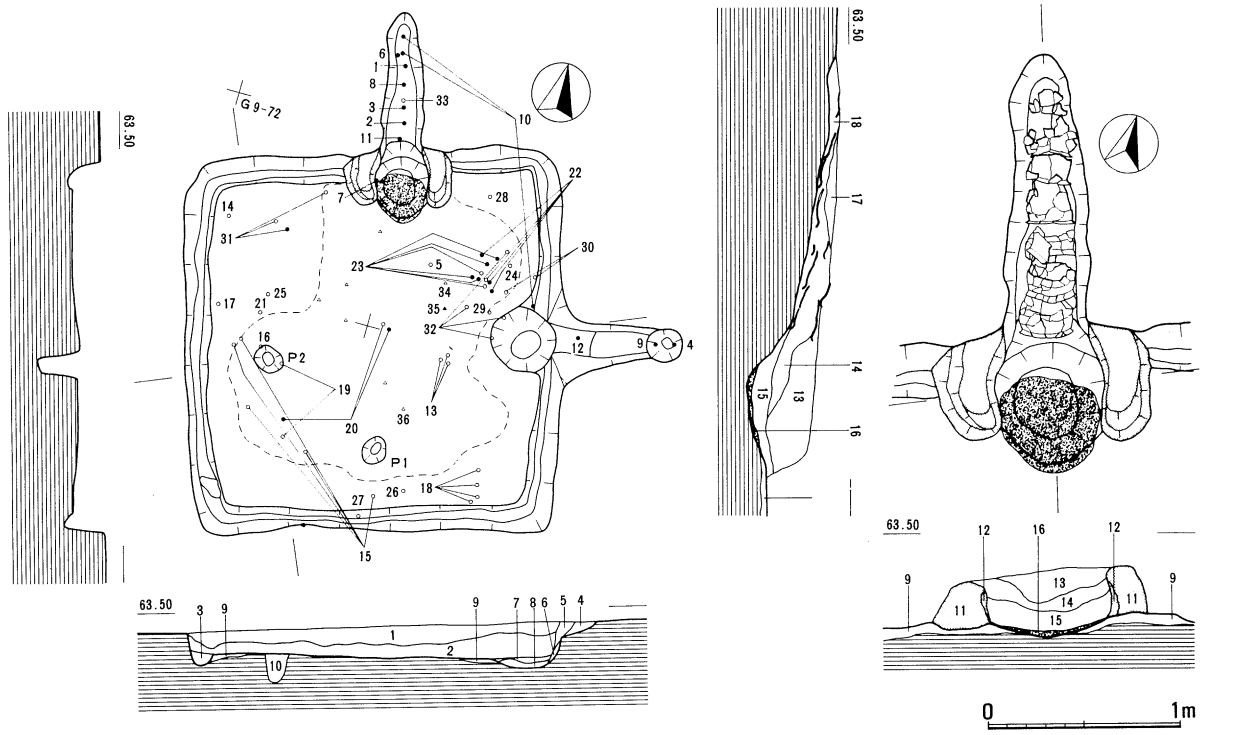
備考　掘立柱建物32と重複。柱掘形は床下より検出。建替は１回であり、主軸方位を直交させるが、基本的に同位置、同規模か。火災をうけた可能性がある。Ⅳb期。

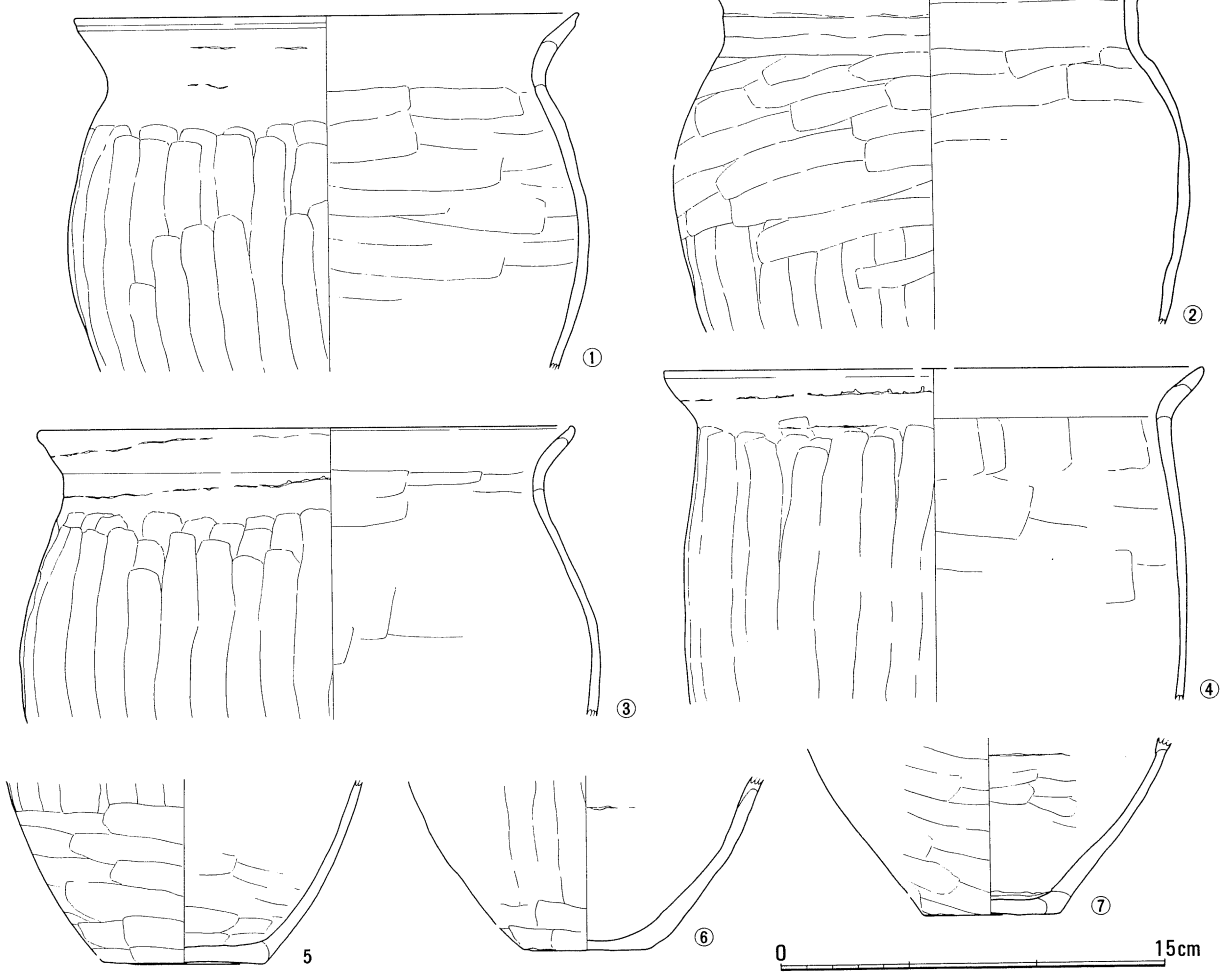
竪穴住居63（第84図）　F９区

建替　なし　**規模**　3.73(長軸)×3.27m　確認面(12.00)㎡　**長軸方位**　N－14°－E　**残存壁高**　３～９cm　**Pit**　なし　**カマド**　なし　**炉**　44×37cmの楕円形、深さ５cm。ただし火床面、焼土は掘形外におよぶ　**周溝**　なし　**土層**　貼り床部は黒褐色土主体

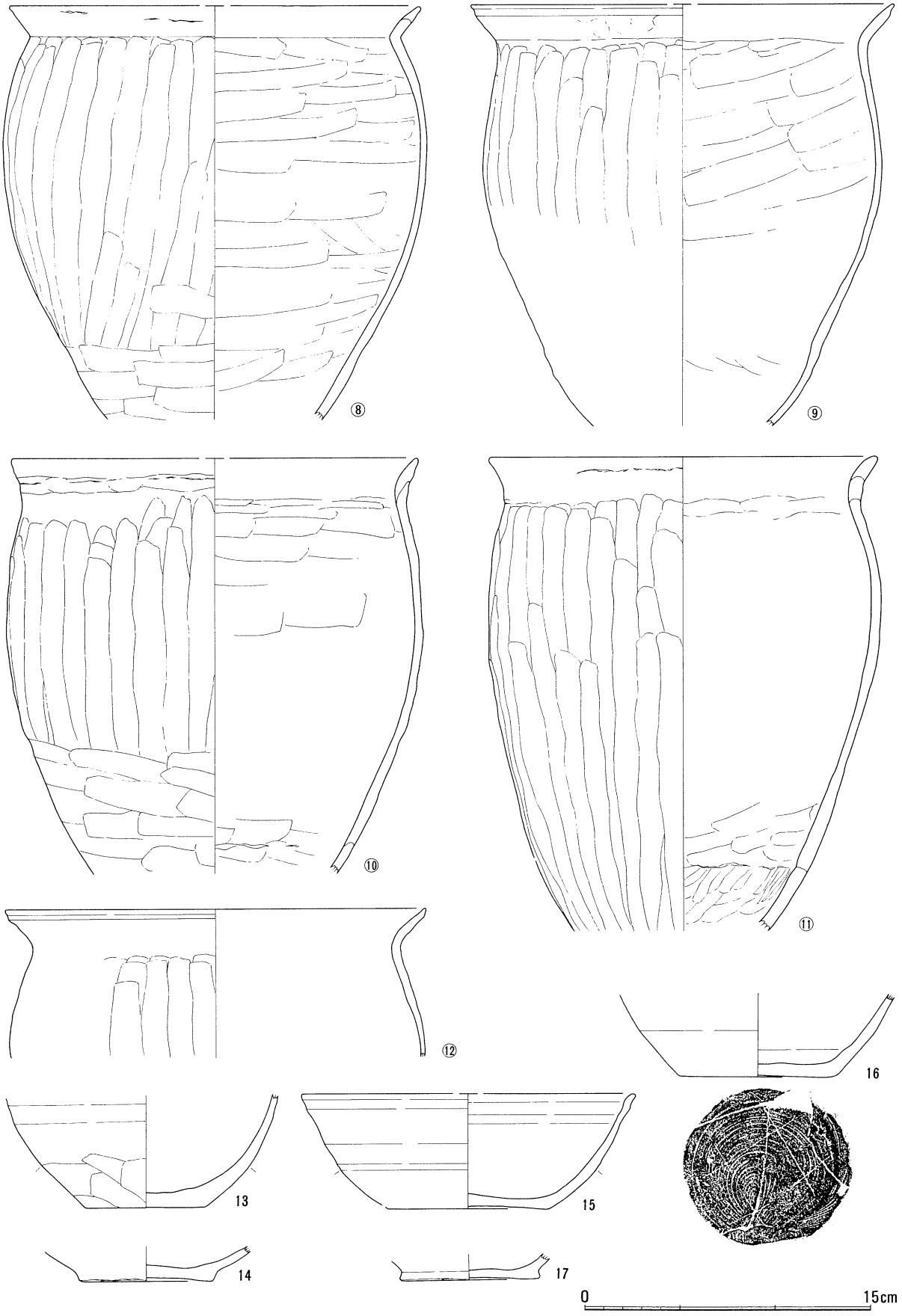
遺物　土師器甕１点、土師器杯１点、土師器高台付杯３点が出土している。このうち１が床面上より出土している。他も床＋３～５cm程度である。

備考　掘立柱建物32と重複、本遺構が新。西側は、確認調査坑により破壊。床面は黒褐色土中にある。確認面面積は推定値である。Ⅴ期。

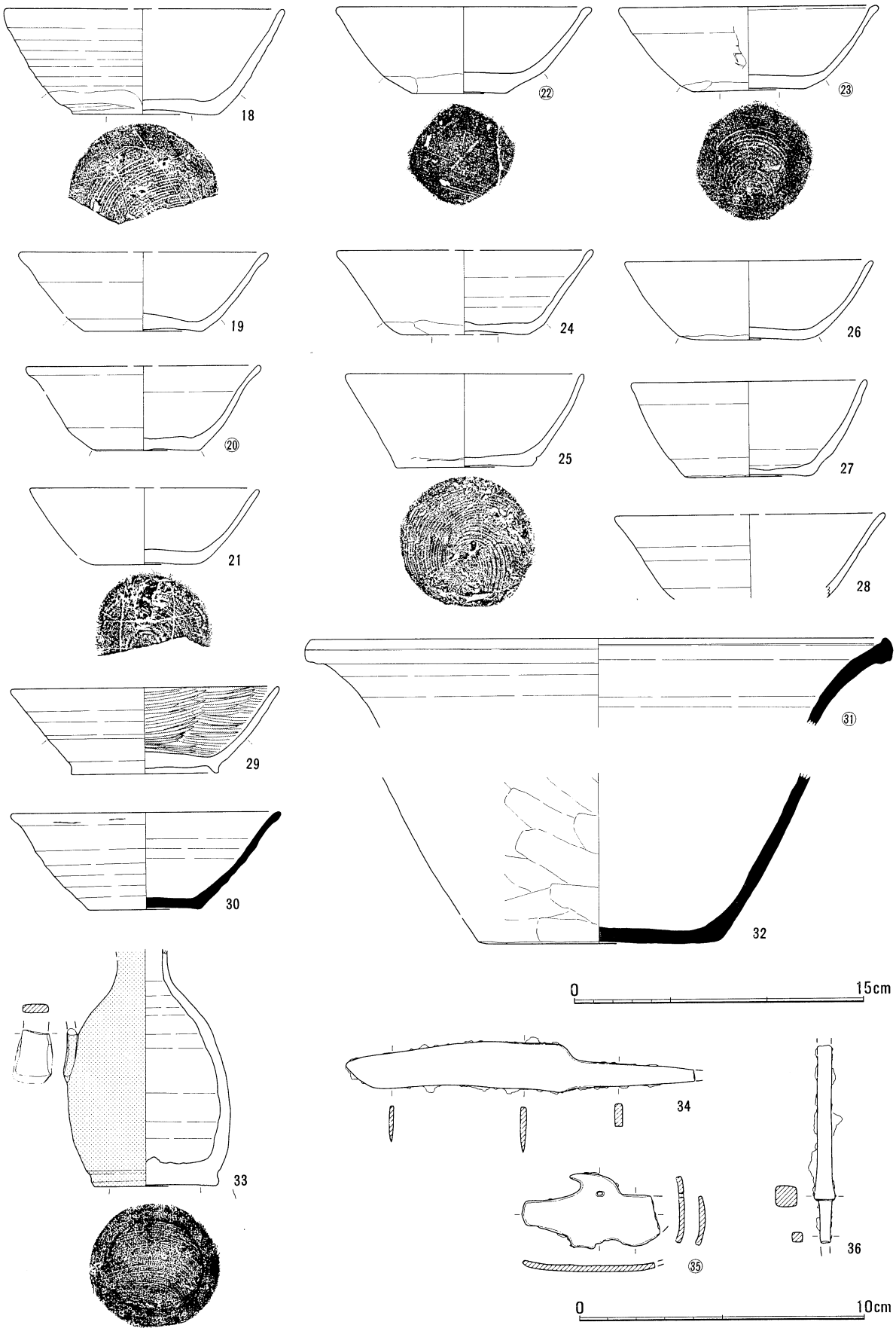




第81図　竪穴住居62(1)

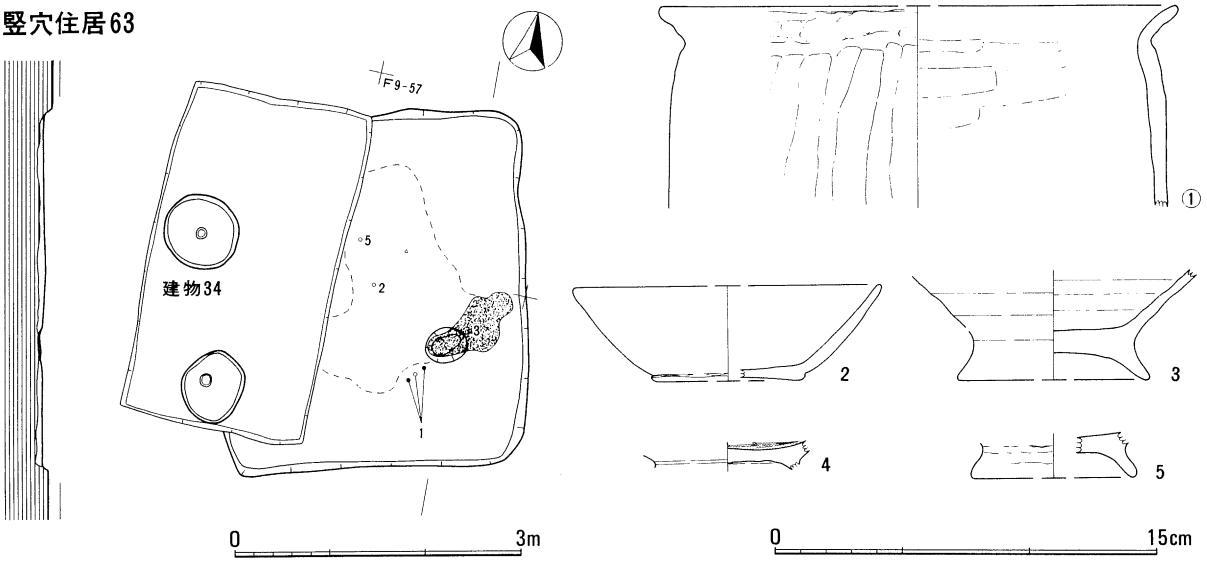


第82図　竪穴住居62(2)

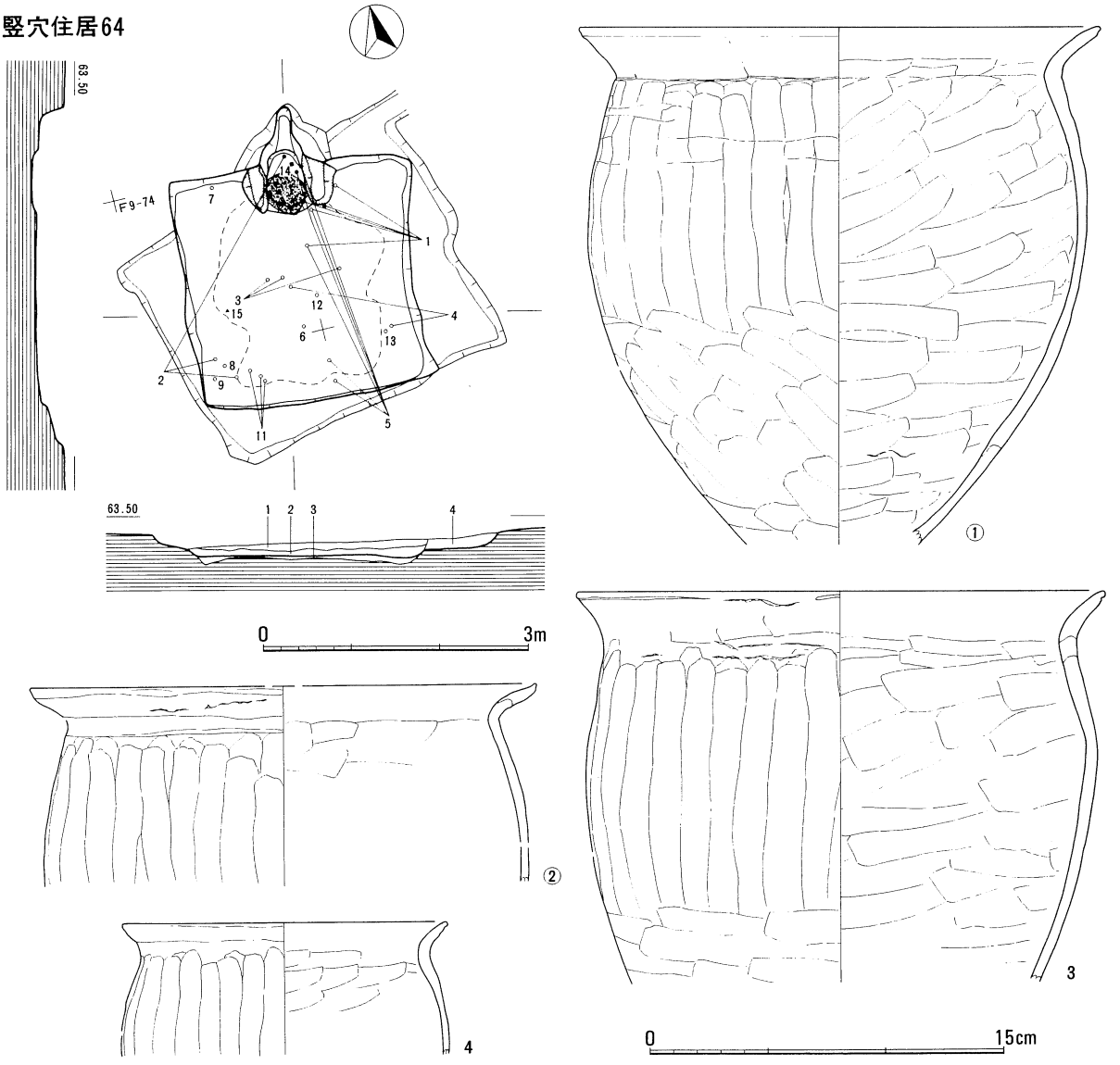


第83図　竪穴住居62(3)

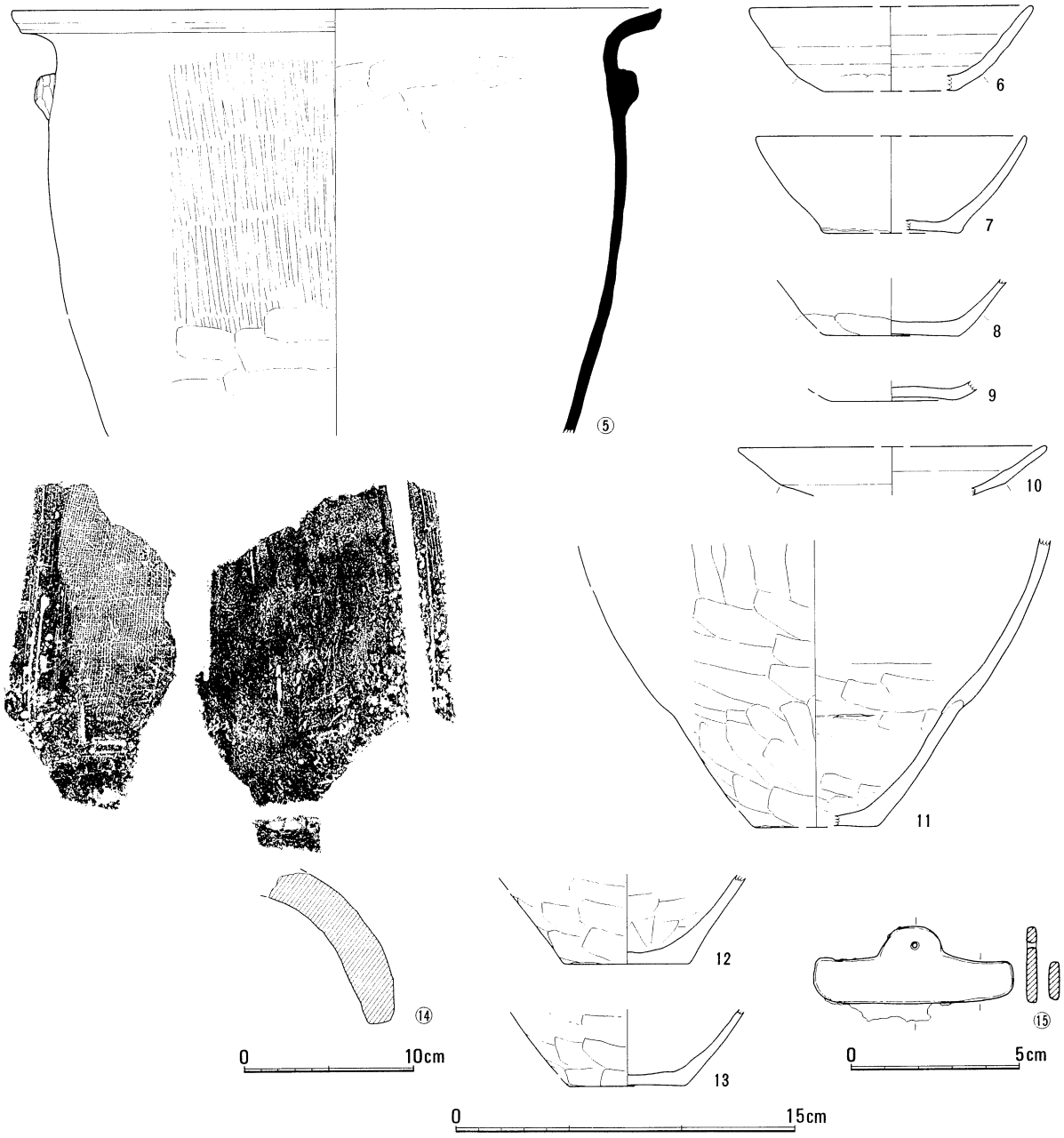
竪穴住居63



竪穴住居64



第84図　竪穴住居63・64(1)



第85図　竪穴住居64(2)

竪穴住居64（第84・85図）　Ｆ９区

建替　なし　　**規模**　2.73(主軸)×2.67m　確認面7.47㎡　床面6.13㎡　　**主軸方位**　Ｎ－12°－Ｅ　**残存壁高**　２～36cm　　**Pit**　なし　　**カマド**　北壁。山砂・粘土を構築材とする。煙道長67cm　　**周溝**　なし　　**土層**　１層、黒褐色土、焼土粒を若干混合　２層、暗黄褐色土、褐色土強　３層、明黒褐色土　４層、黒褐色土

遺物　土器は、土師器甕７点、土師器杯４点、土師器皿１点、須恵器甑１点であり、１・２・５が床面上より出土している。14は丸瓦である。15は鉄製品であり、燧金か。両端突出部はやや不明確であった。現存長6.0cm、幅2.3cm、厚さ0.3cm、重量15.2ｇを測る。床面上、カマド焚口内より出土している。他に床面および覆土中より２点、鉄小片が出土している。

備考　床面は黒褐色土中にあり、確認時竪穴範囲は不明確であった。周囲の落ちこみは、当初の竪穴想定範囲である。Ⅳｂ期か。

竪穴住居65（第86図）　F10区

建替　なし　**規模**　3.27(主軸)×3.49m　確認面11.26m²　床面9.88m²　**主軸方位**　N－68°－E　**残存壁高**　14～18cm　**Pit**　P_1(梯子穴)27cm　**カマド**　東壁。袖基部を黒褐色土、その上部に山砂・粘土を積み上げる。煙道長28cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、褐色土混合　2層、焼土層　3層、暗黄褐色土、粒状、若干の焼土　4層、炭化物・焼土層　5層、暗黄褐色土、しみ状にソフトローム混合

遺物　土師器甕1点、土師器1点である。1が床面上より出土している。

備考　掘立柱建物19と重複。本遺構が古。火災をうけたと考えられ、とくに竪穴中央部に多量の炭化物、焼土が堆積していた。Ⅰb期か。

竪穴住居66（第86図）　E10区

建替　なし　**規模**　2.63(主軸)×2.91m　確認面7.75m²　床面6.78m²　**主軸方位**　N－28°－W　**残存壁高**　10～15cm　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。白色粘土を主体とするが、袖範囲はやや不明瞭であった。火床面に焼土が厚く堆積　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、褐色土をしみ状に全体に混合　2層、暗黄褐均質土　3層、明黒褐色土、ローム混合

遺物　土師器甕1点、須恵器甕2点、須恵器杯3点であり、1・2・5がカマド焚口内、床面上より出土している。

備考　掘形面がほぼローム面に対応する。Ⅳa期。

竪穴住居67（第87図）　E10区

建替　なし　**規模**　3.69(主軸)×3.55m　確認面13.25m²　床面12.15m²　**主軸方位**　N－18°－W　**残存壁高**　5～21cm　**Pit**　P_1(梯子穴)30cm　**カマド**　北壁。袖は山砂、白色粘土、黒褐色土をブロック状に混合する。左袖はカクランを若干うけている。煙道長15cm　**周溝**　なし　**土層**　14層、暗黄褐色土、スコリア多、粒状　15層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合、スコリア多　16層、暗黄褐色土、ロームブロック主体　17層、黒褐色土

遺物　土器は、須恵器1点、土師器杯1点であり、床面上より出土している。3は鉄製鎌である。現存長8.75cm、身幅2.8cm、厚さ0.2cm、重量19.2gを測る。床面上より出土している。

備考　竪穴住居69、掘立柱建物14と重複する。本遺構は竪穴69より新。建物14より古である。また南東部は風倒木痕と重複している。本遺構より古。Ⅰb期。

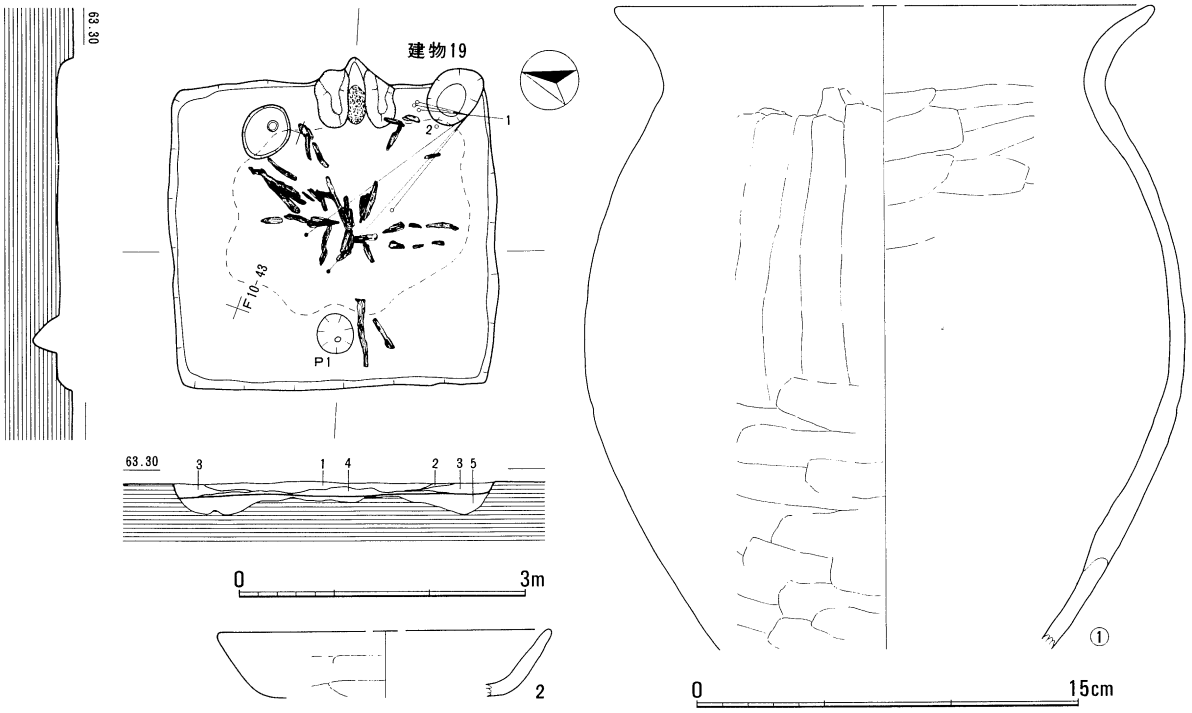
竪穴住居68（第87図）　E10区

建替　なし　**規模**　3.17(主軸)×3.09m　確認面9.58m²　床面8.40m²　**主軸方位**　N－32°－W　**残存壁高**　22～28cm　**Pit**　P_1(梯子穴)24cm　**カマド**　北東隅東壁側。袖は、白色粘土とロームブロック、粘土ブロックを含む黒褐色土を互層に積み上げている。煙道部は突出していない　**周溝**　北壁を除き全周　**土層**　1層、暗黄褐色土、スコリア多、粒状　2層、明黒褐色土、褐色土混合強　3層、黒褐色均質土、焼土、炭化物を混合　4層、炭化物層、粘土若干混合、炭化物は形状をなしていない　5層、ロームブロック主体　6層、ローム均質土　7層、黒褐色土、ロームブロック混合

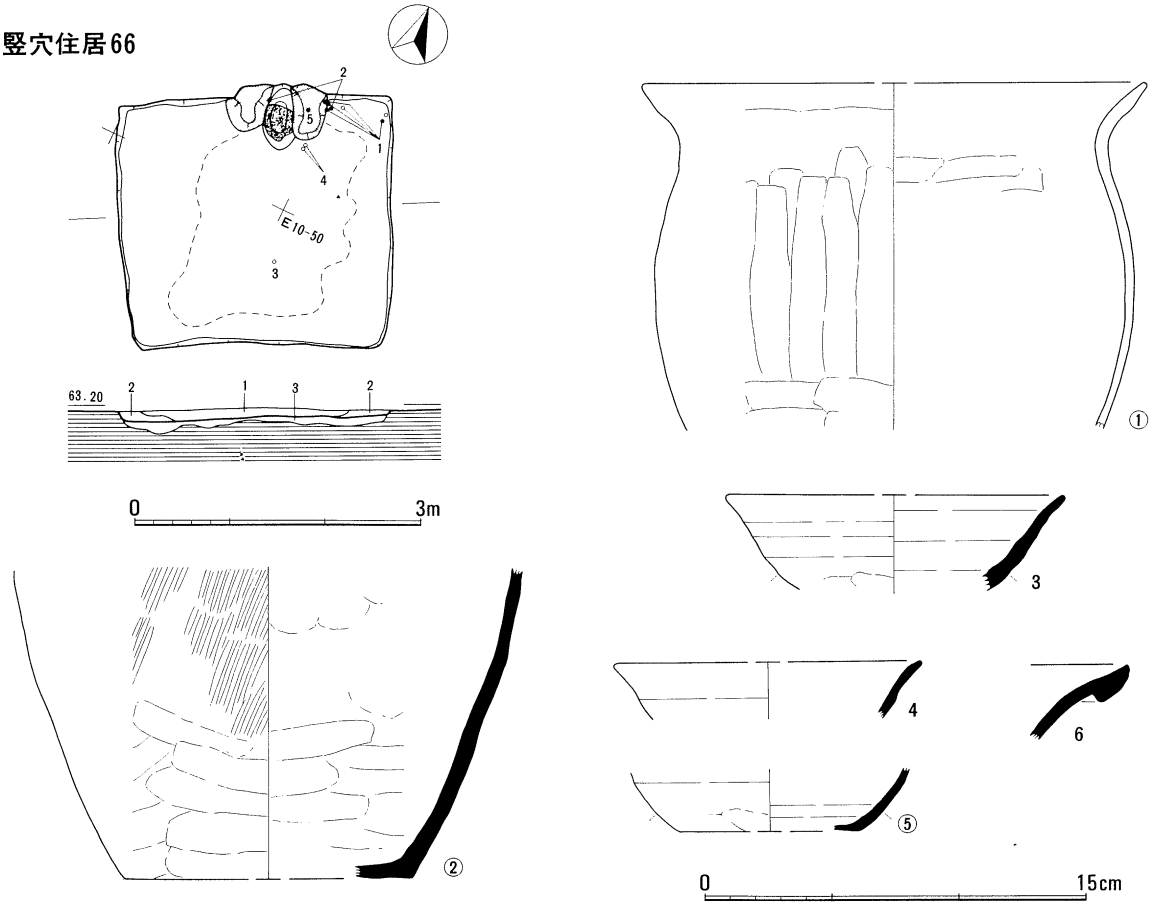
遺物　土師器杯1点、床面上より出土。2は蛇紋岩製の紡錘車である。径3.40cm、厚さ1.51cm、孔径1.66cm、重さ28.3gを測る。他に鉄小片が4点出土している。

備考　竪穴住居69と重複。本遺構が新。火災が想定される。主軸方位については、P_1を梯子穴と推定

竪穴住居65



竪穴住居66



第86図　竪穴住居65・66

竪穴住居68

竪穴住居69

竪穴住居67

竪穴住居67

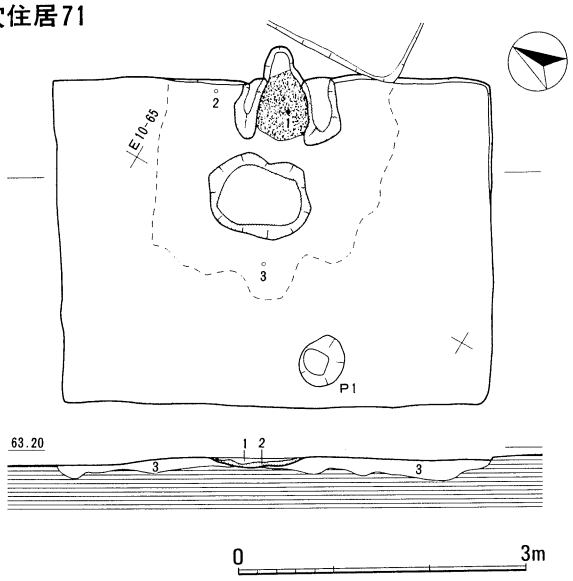
竪穴住居68

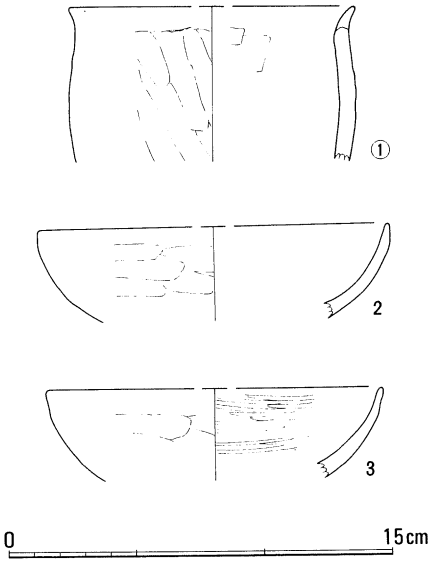
竪穴住居69

竪穴住居70

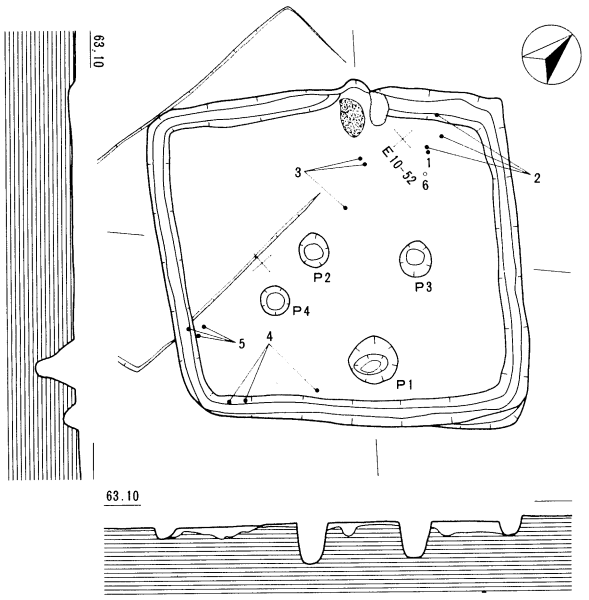
第87図　竪穴住居67・68・69・70

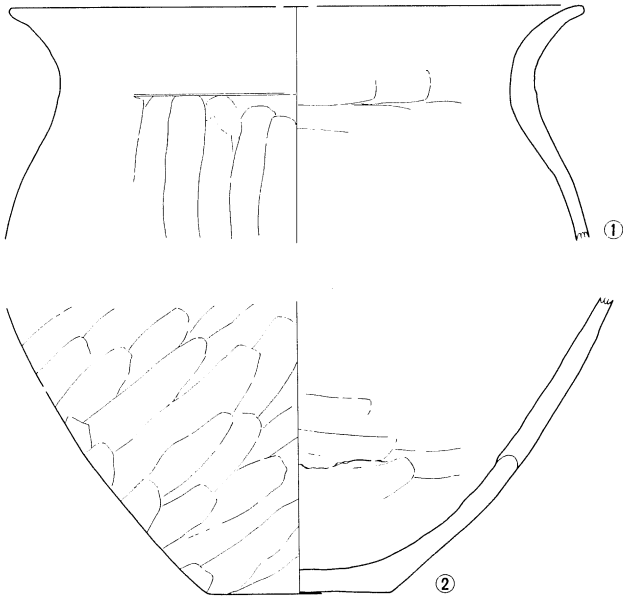
竪穴住居71

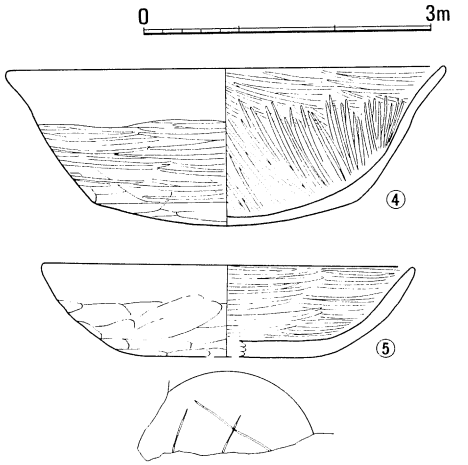


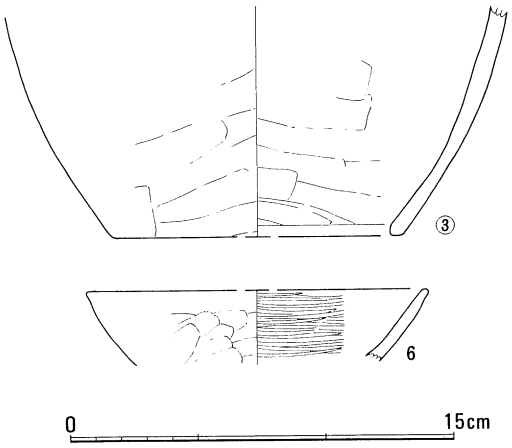


竪穴住居72









第88図　竪穴住居71・72

し、これを基準とした。II期か。

竪穴住居69（第87図）　E10区

建替　なし　　**規模**　4.31（主軸）×4.20m　確認面（13.20）㎡　床面（12.10）㎡　内区4.08㎡　　**主軸方位**　N－1°－E　　**残存壁高**　0～21cm　　**Pit**　$P_1$60cm　$P_2$70cm　$P_3$46cm　$P_4$49cm　　**カマド**　北壁。袖は、黒褐色土と山砂を混合土であり軟弱。煙道長37cm。カマド掘形は2時期あり、新カマド左袖壁外突出部が旧カマド煙道にあたると考えられる　　**周溝**　なし　　**土層**　8層、黒褐色土を地層とし、斑状に褐色土混合　9層、8層と同質であるが、山砂混合　10層、黒褐色均質土　11層、柱穴部、未実測　12層、黒褐色土、山砂混合　13層、黒褐色土を地層とし、大小ロームブロック混合

遺物　土師器杯2点であり、床面から出土した。他に土製支脚小片が覆土より出土している。

備考　竪穴住居67・68と重複。本遺構が古。カマドに重複が認められるものの、上屋の建替とは一応判断しなかった。面積は推定値を示している。Ⅰb期。

竪穴住居70（第87図）　E10区

建替　なし　　**規模**　3.00（主軸）×2.88m　確認面8.73㎡　床面（7.90）㎡　　**主軸方位**　N－30°－W　　**残存壁高**　4～16cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）24cm　　**カマド**　北壁。遺存状態不良。右袖については、基部のみ検出　　**周溝**　なし　　**土層**　1層、黒褐色土　2層、明黒褐色土、若干のローム混合　3層、黒褐色土

遺物　若干の土師器小片が出土したのみである。

備考　時期不明。

竪穴住居71（第88図）　E10区

建替　なし　　**規模**　3.48（主軸）×4.60m　確認面16.20㎡　床面15.24㎡　　**主軸方位**　N－60°－E　　**残存壁高**　0～12cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）64cm　　**カマド**　東壁。袖は山砂を主体とし、小礫を混合する。煙道長36cm　　**周溝**　なし　　**土層**　3層、掘形は黒褐色土を主体とし、硬質。覆土の状態不明。ただし焼土等は検出されていない。1層、黒褐色土　2層、白色粘土

遺物　土師器甕1点、土師器杯2点が出土している。1はカマド内より出土。2・3は確認作業時に出土。

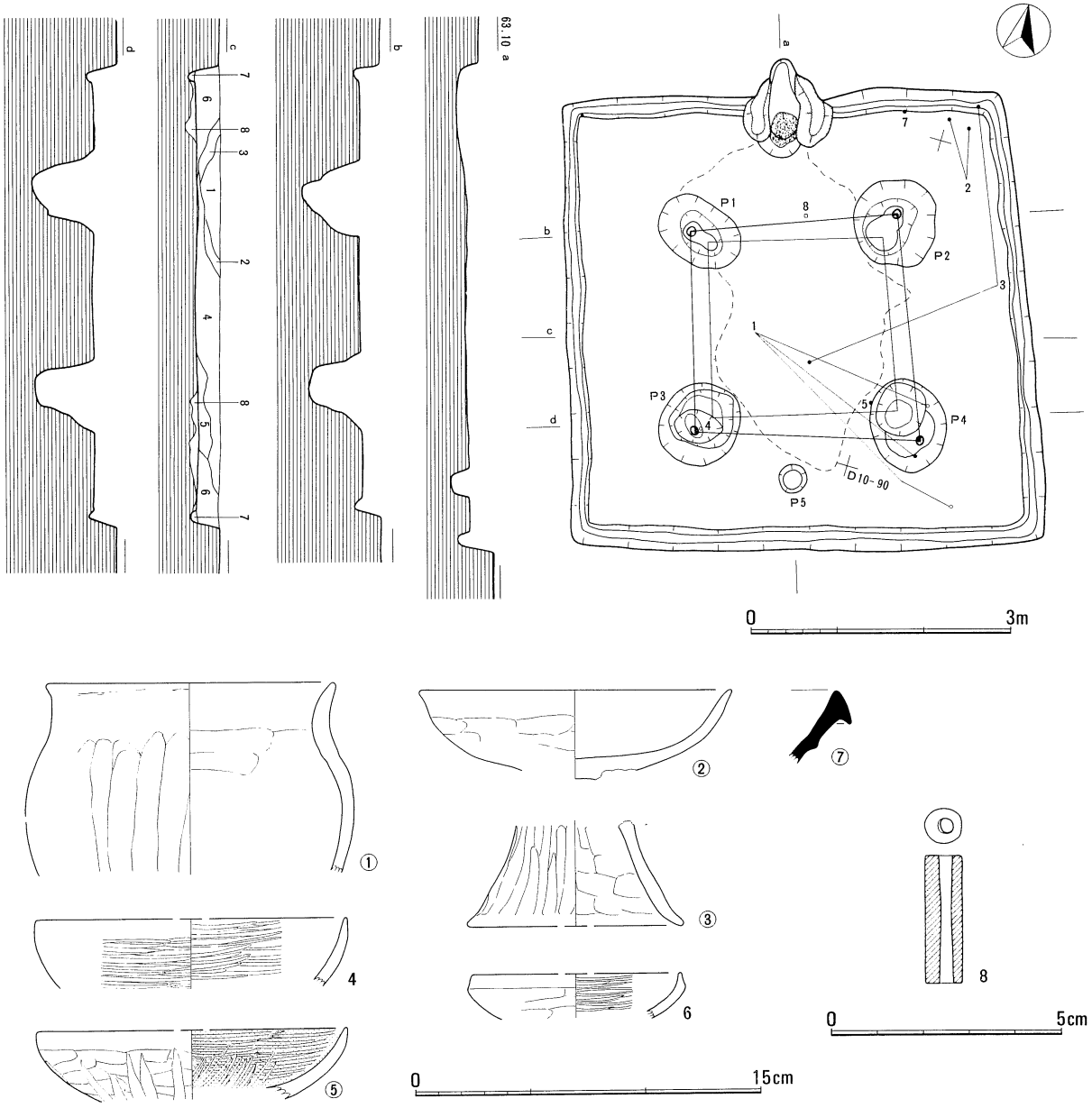
備考　掘立柱建物15と重複。柱掘形は、カマド、床面下より検出された。本遺構が新。床面は黒褐色土中にあり、西側は一部確認作業段階で削ってしまった。竪穴範囲は掘形面により検出。中央土坑は床面に白色粘土をもつ。カマド構築材とは異なる。一応本遺構に伴うものとしたが性格等を含め、不明確。II期か。

竪穴住居72（第88図）　E10区

建替　なし　　**規模**　3.60（主軸）×3.84m　確認面13.33㎡　床面（12.00）㎡　　**主軸方位**　N－53°－W　　**残存壁高**　0～11cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）41cm　$P_2$45cm　$P_3$43cm　$P_4$21cm　　**カマド**　西壁。遺存状態不良。火床面は明瞭ではあったが、袖は、床面山砂範囲を図示。煙道長9cm　　**周溝**　全周　　**土層**　貼り床は、黒褐色土を主体とするが、硬質面は明瞭に認められない

遺物　土師器甕3点、土師器杯3点出土。1～5が床面上より出土している。

備考　ロームを明瞭に掘り込んでいない。西側は確認調査坑である。P_2～P_4の性格不明。Ⅲa期。



第89図　竪穴住居73

竪穴住居73（第89図）　D10区

建替　1回。A・B。主柱穴重複　**規模**　A5.37(主軸)×5.47m　確認面A29.46m²　床面A26.76m²　内区A6.45m²　B4.42m²　**主軸方位**　N－18°－W　**残存壁高**　21～35cm　**Pit**　A P_1～P_5　B P_1・P_2・P_6・P_7　$P_1$66cm　$P_2$59cm　$P_3$60cm　$P_4$60cm　$P_5$21cm　$P_6$51cm　$P_7$65cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を用材とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より41cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、スコリア多　2層、1層と同質であるが、山砂多　3層、2層ににるが山砂強、ローム混合　4層、黒褐色土、斑状に褐色土混合　5層、黒褐色土、ロームブロック混合　6層、黒褐色均質土　7層、暗黄褐色土、粒状　8層、明黒褐色土、ロームブロック大小多

遺物　出土土器は、土師器甕1点、土師器杯3点、土師器高杯2点、須恵器甕1点であり、1～3・5・7が床面上より出土している。8は管玉であり、覆土より出土している。緑色凝灰岩製であり、両面より穿孔している。全長2.78cm、径0.71cm、孔径0.30～0.37cm、重量2.9gを測る。他に鉄小片が

床面より出土している。

備考　建替は主柱穴により確認できるが、B範囲は明確ではない。貼り床は周辺部のみであり、中央はローム面を床とする。II a 期か。

竪穴住居74（第90～92図）　D11区

建替　なし　**規模**　5.91(主軸)×6.03m　確認面36.80m²　床面34.74m²　内区9.11m²　**主軸方位**　N－40°－W　**残存壁高**　5～35cm　**Pit**　$P_1$63cm　$P_2$59cm　$P_3$69cm　$P_4$58cm　**カマド**　北壁。構築材は、山砂および軟質砂岩である。両袖先端部に切石砂岩を固定する。また正面に板状の切石をおく。火床面は2面であり、正面切石上面および同レベルがよく焼け、焼土の堆積がみられる。またその下面8層が火床面と考えられるが、上面に比べて、焼土等の堆積は明瞭ではない。正面切石の本来の状態は不明である。煙道長49cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　2層、褐色土、粒状　3層、暗黄褐色土、ブロック状　4層、黒褐色土を地層とし、ロームブロックを局部的に混合　5層、暗黄褐色土、山砂を多量に混合、焼土ブロック少　6層、粒状の山砂、焼土混土層　7層、焼土、焼土ブロック　8層、焼土を主体とするが、山砂を多量に全体に混合　9層、黄褐色土、ソフトローム主体、焼土ブロック少　10層、山砂、硬質　11層、ロームブロック主体、焼土少含　12層、黒褐色土、粒状

遺物　出土土器は、土師器甕8点、土師器椀1点、土師器高杯2点、土師器杯16点、須恵器長頸壺1点、須恵器平瓶1点である。主にカマド周辺部よりまとまって出土した。主に床面上より出土。30は蛇紋岩製の有孔円盤である。径3.24×3.02cm、厚さ0.36cm、重さ6.6gであり、表面には整形時の擦痕を残す。床面上より出土。31は土製支脚であり、カマド内正面切石上より出土。両端部を若干欠損し、現存長30.1cm、重量860gを測る。表面は橙色を呈し、赤色酸化粒を多量に含む。他に、覆土中より6点、床面上より4点、スラグが出土している。

備考　P_1にのみ建替痕跡が認められたが、竪穴自体の建替とはしなかった。北壁側は全体に掘りすぎてしまった。周溝により確定。II a 期。

竪穴住居75（第92・93図）　C10区

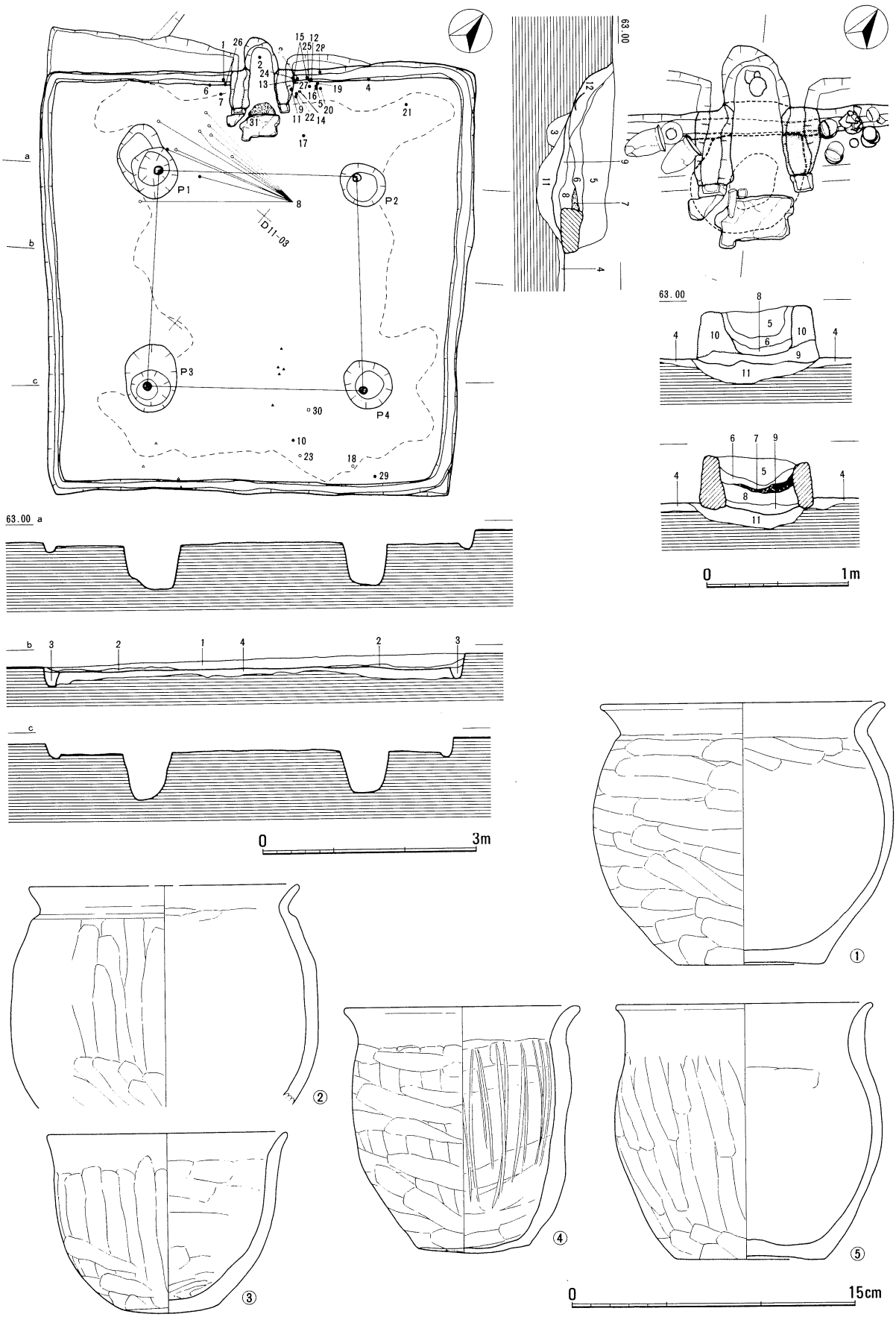
建替　なし　**規模**　4.07(主軸)×3.45m　確認面13.89m²　床面12.50m²　**主軸方位**　N－24°－W　**残存壁高**　24～36cm　**Pit**　$P_1$61cm　$P_2$45cm　$P_3$60cm　$P_4$64cm　$P_5$59cm　**カマド**　北壁。遺存状態不良。袖は、山砂・粘土主体。煙道長32cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状の褐色土混合強　2層、黒褐色土、斑状の褐色土　3層、黒褐色土、焼土、炭化物を多量に含む　4層、黒褐色土を主体とし、ロームブロックを局部的に混合

遺物　土器は、土師器甕3点、土師器杯1点、須恵器杯2点が出土。5を除き、カマド焚口内、床面上より出土している。7は砥石と考えられるが、表面が摩耗し、粗い条線を残す。緑泥片岩製であり、現存長12.9cm、重量311gを測る。8は細粒砂岩製の砥石である。線条痕は明瞭ではないが、各側面が平滑化している。7・8とも床面上より出土している。

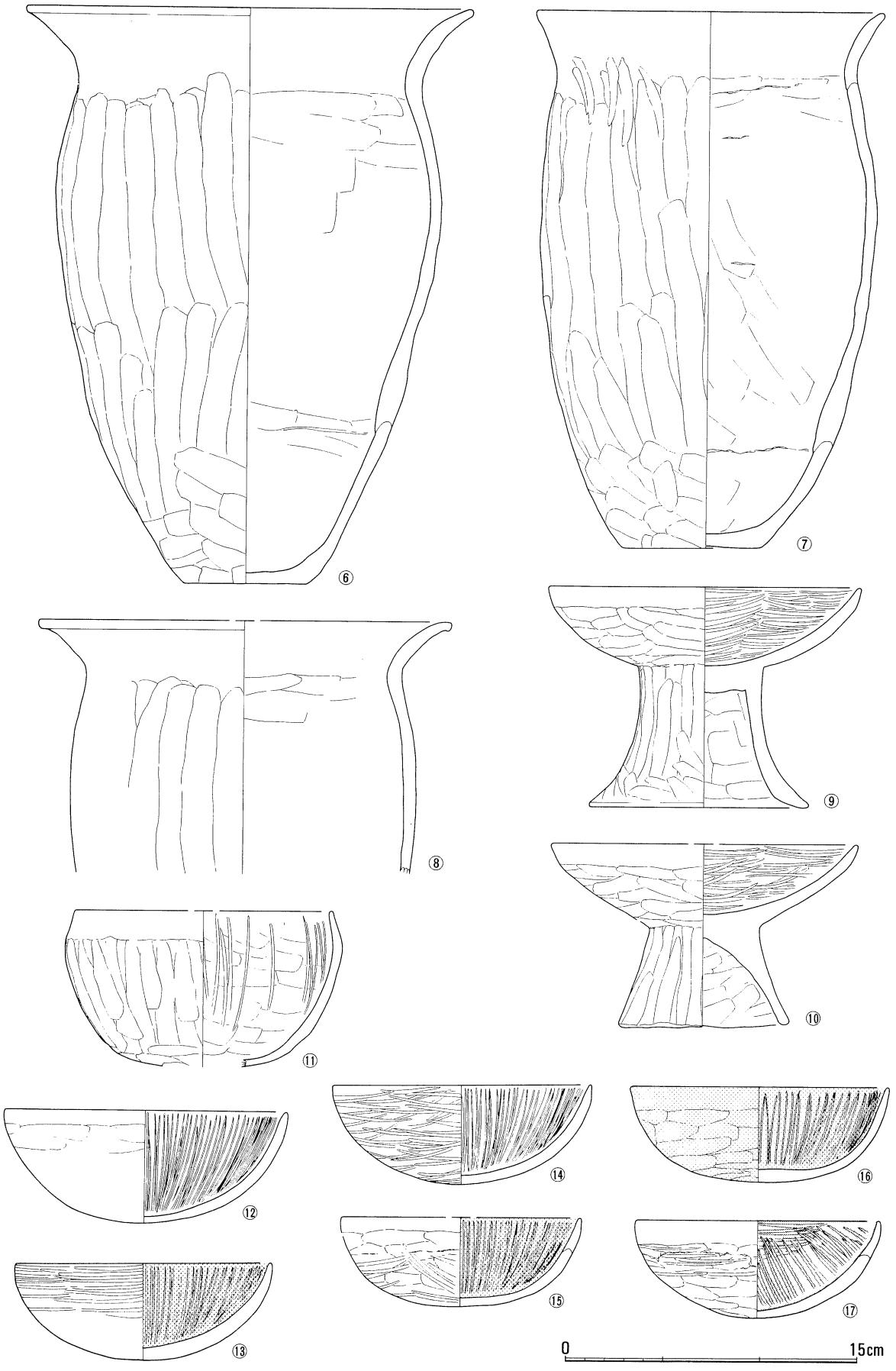
備考　Pitについては、いずれもその性格は不明。火災をうけたと考えられ、とくに南壁側には多量の炭化物、焼土が検出された。III b 期。

竪穴住居76（第93・94図）　C11区

建替　なし　**規模**　3.60(主軸)×3.93m　確認面13.32m²　床面11.40m²　**主軸方位**　N－3°－

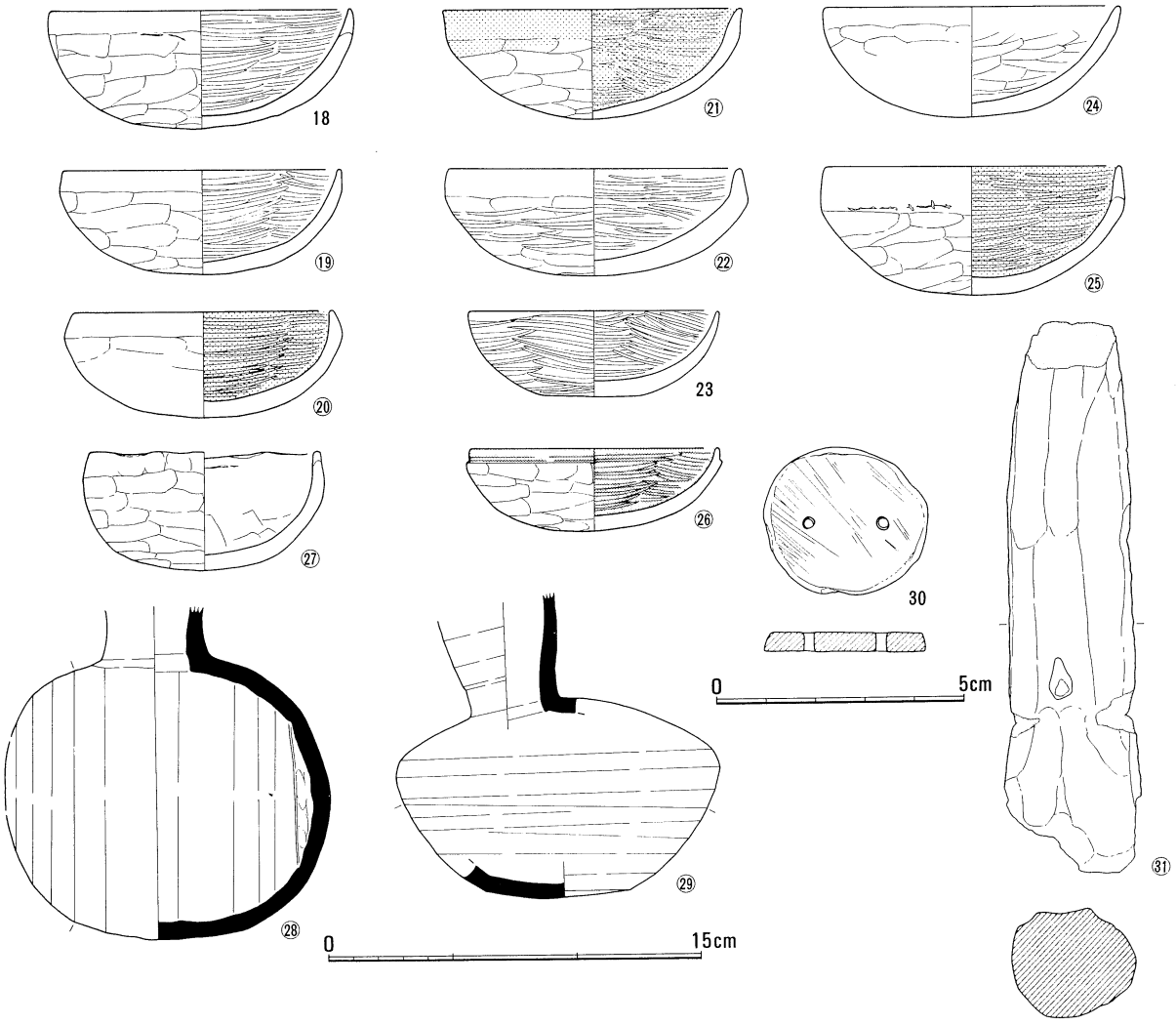


第90図　竪穴住居74(1)

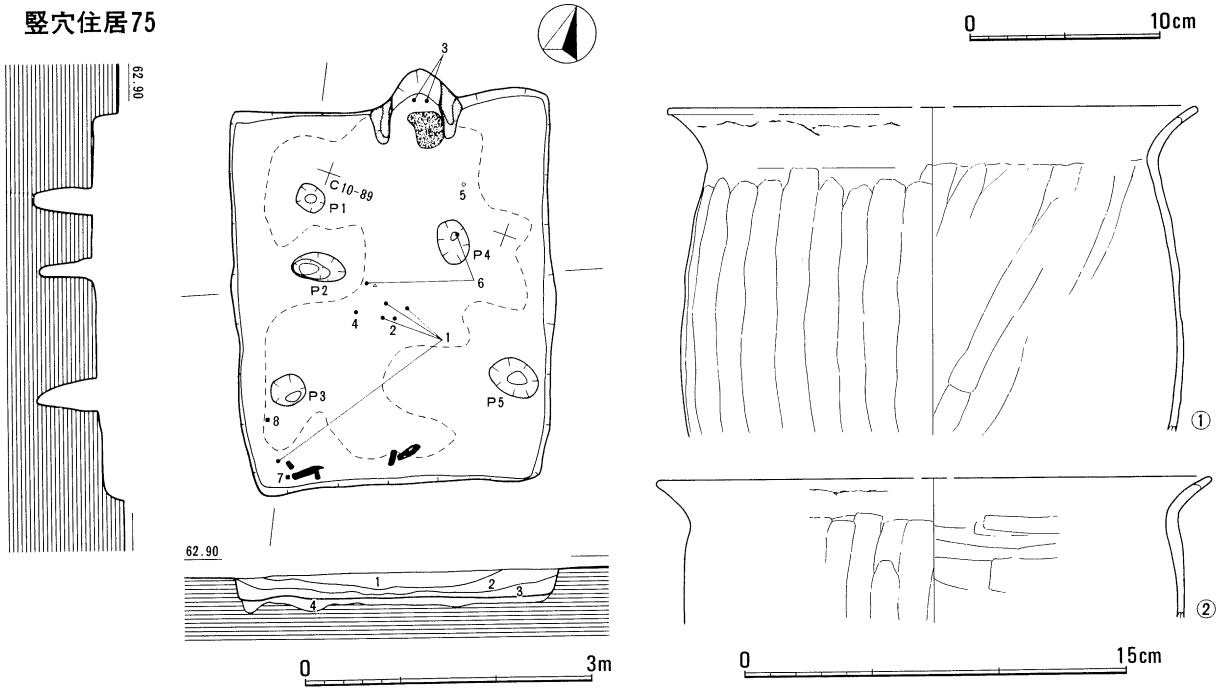


第91図　竪穴住居74(2)

竪穴住居74

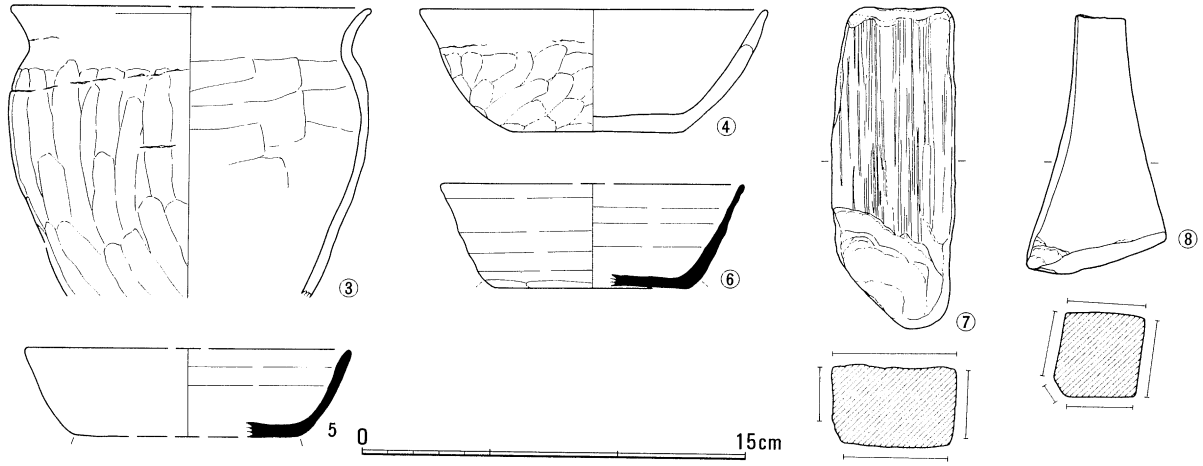


竪穴住居75

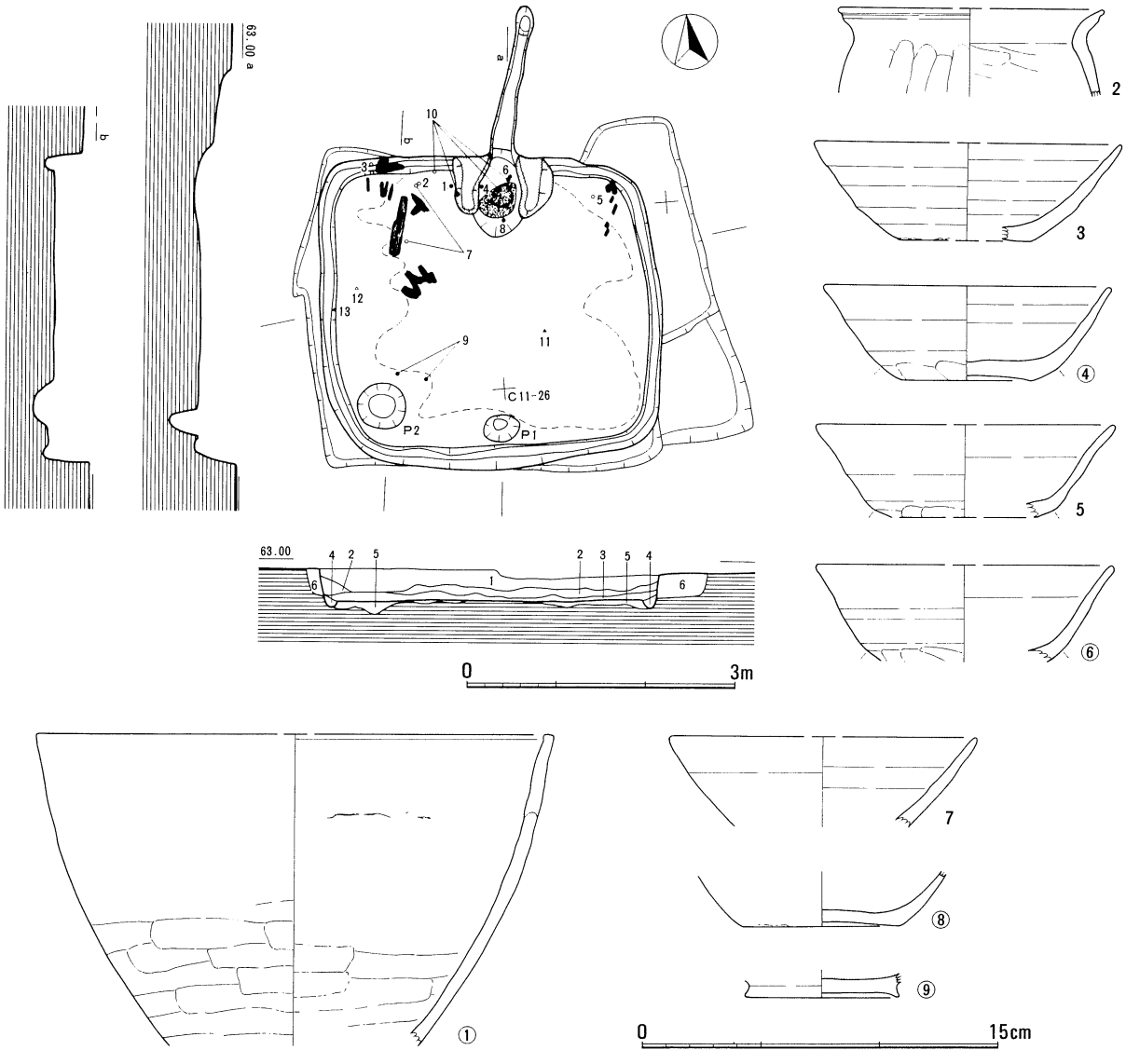


第92図　竪穴住居74(3)・75(1)

竪穴住居75

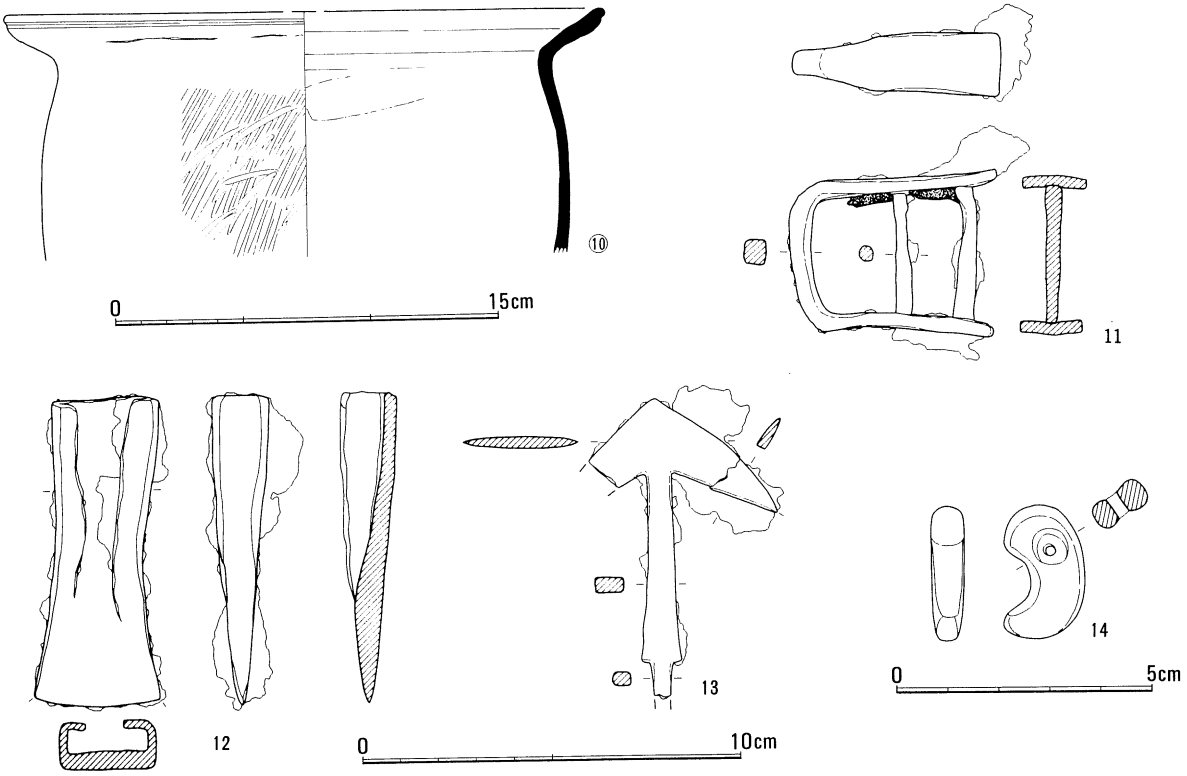


竪穴住居76

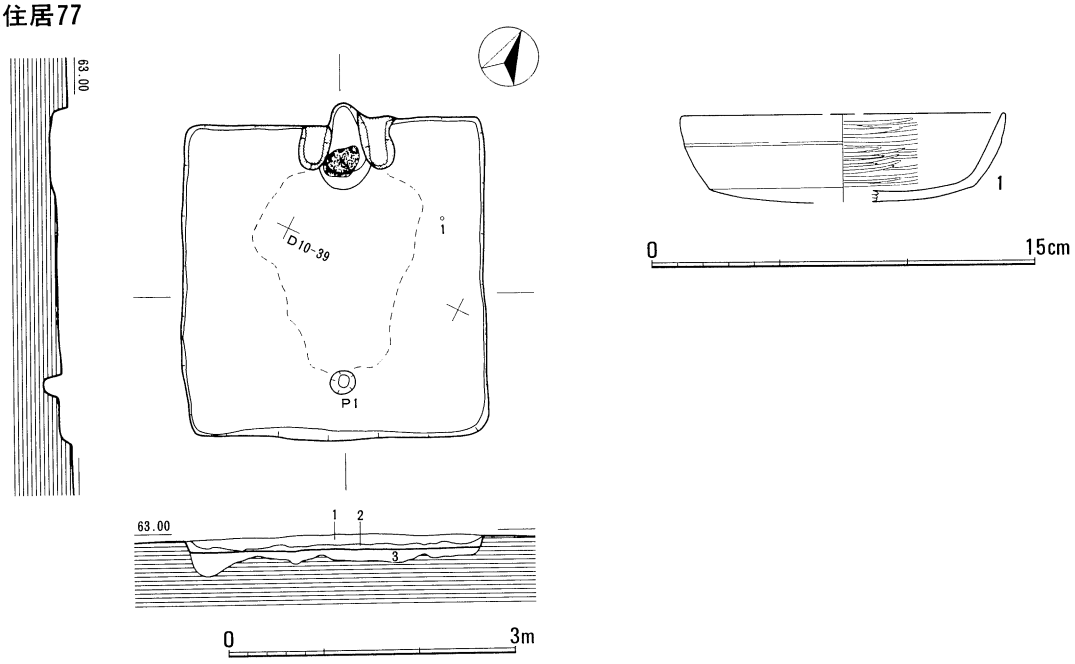


第93図　竪穴住 居75(2)・76(1)

竪穴住居76



竪穴住居77



第94図　竪穴住居76(2)・77

E　**残存壁高**　0～45cm　**Pit**　P_1（梯子穴）35cm　$P_2$22cm　**カマド**　北壁。袖は、山砂・粘土を主体とし、ロームブロック、小礫をとくに基部に混合する。火床面は2面と考えられ、山砂を主体とする間層をはさむ。土器は上面上より出土している。煙道長1.71m　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　2層、黒褐色土、焼土、炭化物を多量に含む　3層、黒褐色均質土、焼土含　4層、暗黄褐色土、粒状、　5層、明黒褐色土、ロームブロック混合　6層、明黒

褐色土

遺物　出土土器は、土師器甕１点、土師器鉢１点、土師器杯６点、土師器高台付杯１点、須恵器甕１である。１・４・６・８・９・10がカマド焚口内、床面上より出土している。11～13は鉄製品である。11は鉸具である。刺金を欠く。２本の軸を板状の輪金がはさむ。内側に皮？状の炭化した有機物が付着する。重量35.0ｇを測る。12は、斧であり、完存する。全長8.25cm、刃部幅3.25cm、厚さ1.5cm、重量79.9ｇを測る。13は、飛燕式とも称される長頸式鏃である。現存長8.1cm、重さ21.5ｇを測る。いずれも覆土中より出土している。14は蛇紋岩製の勾玉である。全長1.54cm、幅1.54cm、厚さ6.5cm、重量4.2ｇを測る。両面からの穿孔か。床面上より出土。

備考　掘形において若干ローム面を掘り込んでいる程度であり、確認段階ではその範囲が明瞭ではなかった。東西両側は掘りすぎである。火災をうけたと推定されるが、床面上よりやや上面において焼土、炭化物がみられる。住居自体が焼失したものではない。Ⅴ期。

竪穴住居77（第94図）　D10区

建替　なし　　**規模**　3.40（主軸）×3.20m　確認面10.92㎡　床面9.71㎡　　**主軸方位**　N－27°－W

残存壁高　14～19cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）18cm　　**カマド**　北壁。山砂・粘土を構築材とし、硬質。煙道長23cm　　**周溝**　なし　　**土層**　１層、明黒褐色土、褐色土混合強　２層、黒褐色土、スコリア多、粒状　３層、黒褐色土

遺物　土師器杯が１点覆土中より出土している。

備考　Ⅲａ期か。

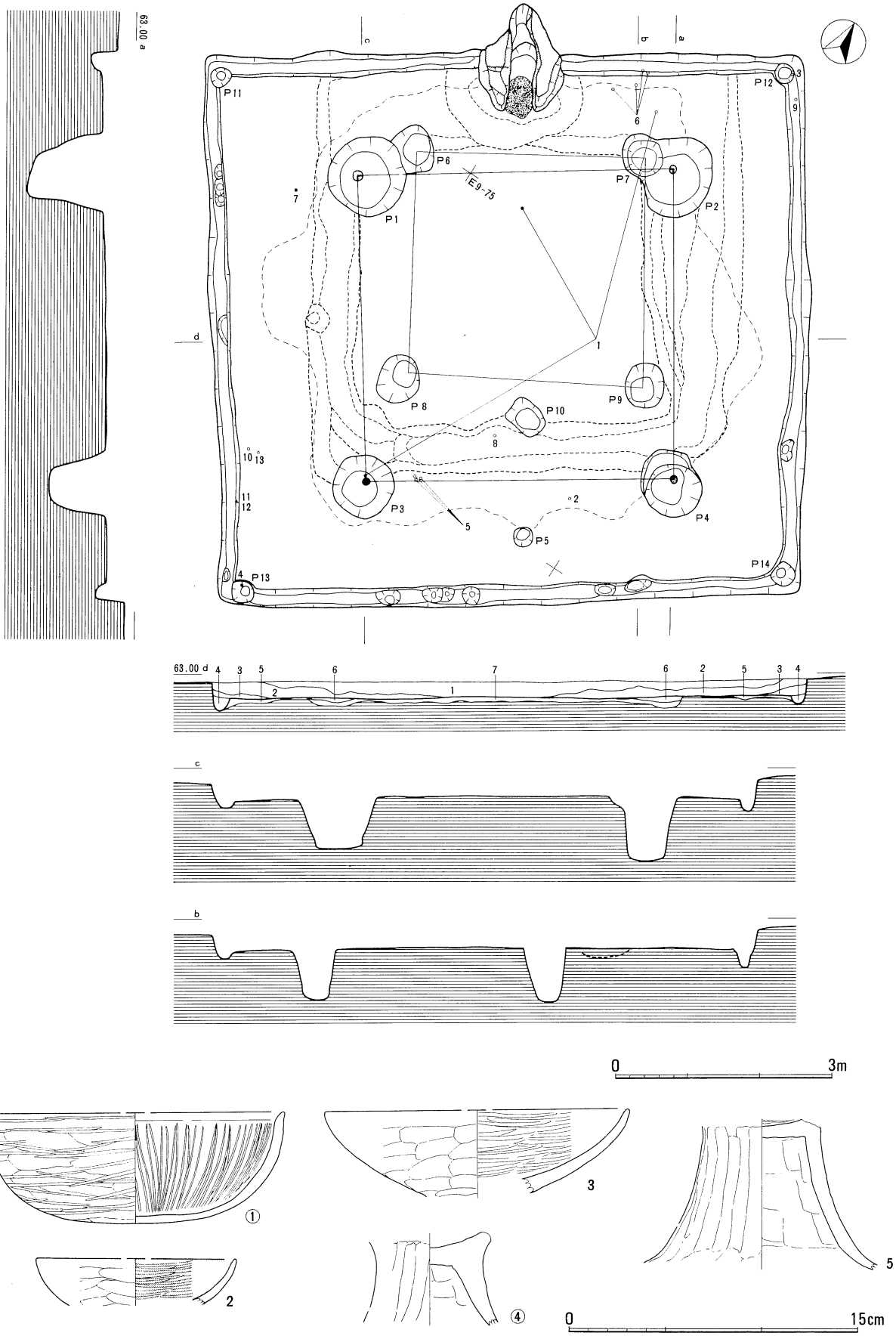
竪穴住居78（第95・96図）　E９区

建替　１回。A・B。主柱穴、掘形　　**規模**　A7.72（主軸）×8.44m　B5.93×6.08m　確認面A65.07㎡　B（34.58）㎡　床面A61.52㎡　内区A19.10㎡　B10.39㎡　　**主軸方位**　A・B N－34°－W

残存壁高　16～43cm　　**Pit**　A P_1～P_5・P_{11}～P_{14}　B P_6～P_{10}　$P_1$110cm　$P_2$78cm　$P_3$111cm　$P_4$86cm　$P_5$23cm　$P_6$73cm　$P_7$79cm　$P_8$98cm　$P_9$111cm　P_{10}17cm　P_{11}33cm　P_{12}36cm　P_{13}27cm　P_{14}22cm　　**カマド**　A北壁。袖基部は明黒褐色土層であり、若干の山砂をブロック状に混合する。上部は山砂・粘土主体。袖両側面、火床面はよく焼けていた。カマド掘形によるならば、Bも基本的に同位置　　**周溝**　全周。各隅に壁柱穴　　**土層**　１層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合、スコリア多　２層、褐色土、スコリア多　３層、明黒褐色土、ロームブロック局部的に混合　４層、黄褐色土、ロームブロック主体　５層、黒褐色土、ロームブロック混合　６層、明黒褐色土、硬質　７層、暗黄褐色土、粒状

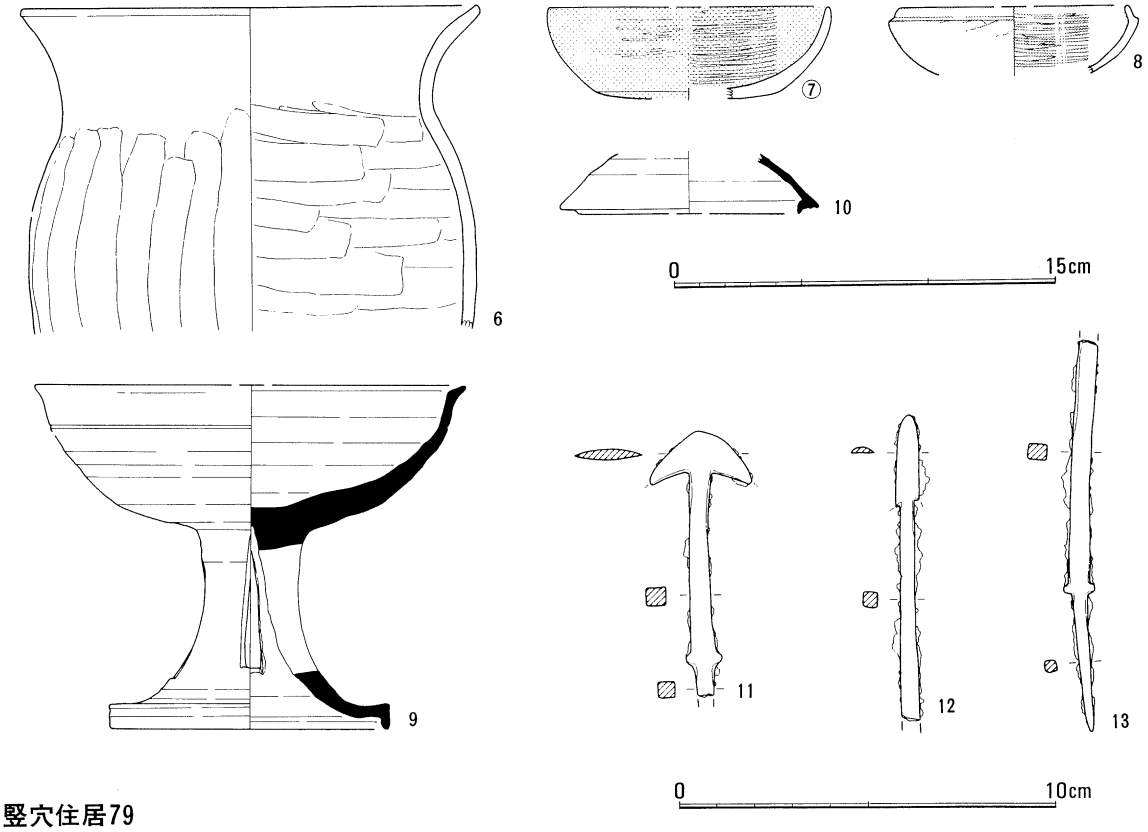
遺物　出土土器は、土師器椀１点、土師器杯３点、土師器高杯３点、土師器甕１点、須恵器高杯１点、須恵器蓋１点であり、１・４・７が床面上より出土した。１は畿内系の模倣品である。11～13は長頸式の鉄鏃である。１は腸抉三角ないしは飛燕式である。棘部をもつ。現存長7.1cm、幅2.65cm、厚さ0.5cm、重量8.4ｇを測る。12は腸抉柳葉式である。現存長8.15cm、幅0.6cm、厚さ0.4cm、重さ4.8ｇを測る。13は鏃身部を欠く。現存長10.45cm、幅、厚さ0.4～0.5cm、重量7.5ｇを測る。いずれも覆土中より出土している。他に２点、棒状の鉄器小片が出土している。

備考　建替が明瞭にうかがえる。カマド、北壁を同位置とし、東・西・南壁を拡張する。床面は同レベルであり、周囲のみを掘り下げる。したがって、A床面からB竪穴範囲は確認できた。灰、焼土は

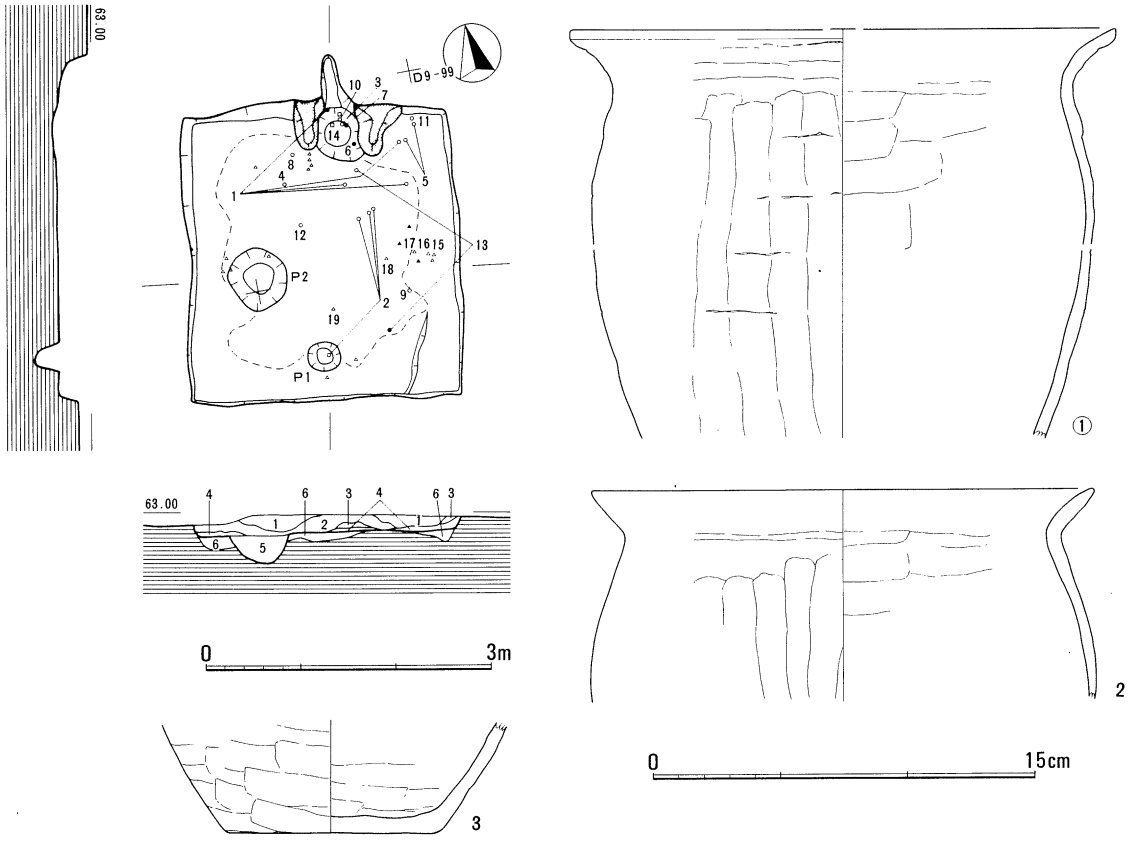


第95図　竪穴住居78(1)

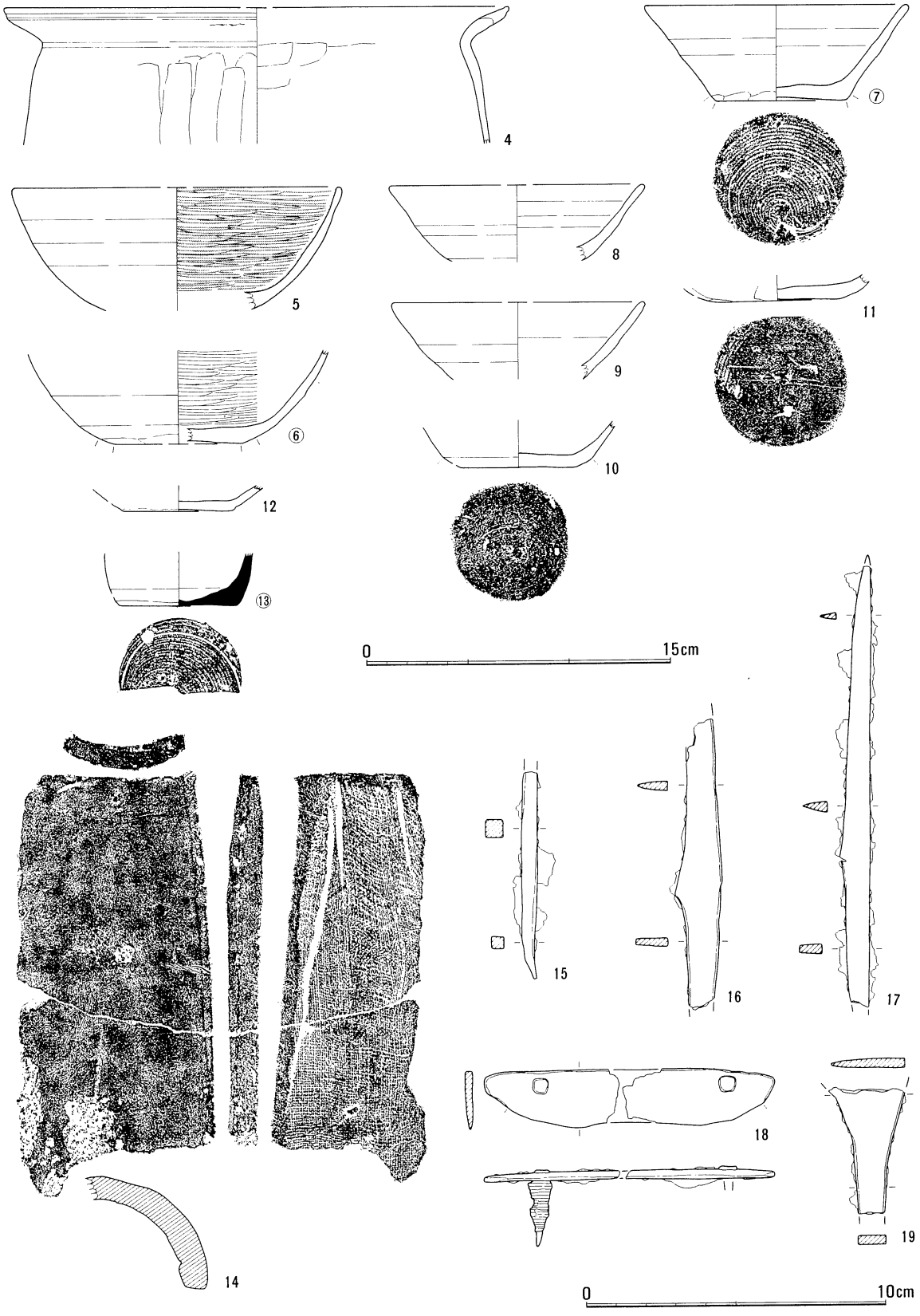
竪穴住居78



竪穴住居79



第96図　竪穴住居78(2)・79(1)



第97図　竪穴住居79(2)

覆土中より、局部的に検出されたが、火災をうけたとは判断しなかった。Ⅰb期。

竪穴住居79（第96・97図）　D9区

建替　なし　**規模**　3.21(主軸)×2.93m　確認面9.29m²　床面7.93m²　**主軸方位**　N－11°－E　**残存壁高**　10～16cm　**Pit**　P_1(梯子穴)42cm　$P_2$36cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を主体とする。焚口火床面、袖両側面ともあまり焼けていない。煙道長53cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土　2層、黒褐色均質土　3層、焼土層　4層、明黒褐色土、多量の焼土を全体に混合　5層、Pit 部分、未実測　6層、黒褐色土を地層とし、ソフトローム混合

遺物　出土土器は、土師器甕4点、土師器椀・杯8点、須恵器1点であり、1・6・7・13が床面上より出土している。14は丸瓦であり、カマド上、覆土確認面より出土。15～19は鉄器であり、いずれも覆土より出土。15は棒状品であり、基部は尖る。現存長6.9cm、幅、厚さ0.5cm、重量6.5gを測る。16は刀子である。現存長9.75cm、幅1.55cm、厚さ0.35cm、重量14.4gを測る。17は刀子であり、背部には明瞭な関をつくらない。現存長14.75cm、幅1.0cm、厚さ0.35cm、重量12.8gを測る。18は手鎌である。一方の釘は木質部を残す。もう一方は頭部のみである。重量は13gを測る。19は刀子であろうか。現存長4.3cm、幅2.55cm、厚さ0.3cm、重量8.7gを測る。他に棒状の鉄製品が3点覆土より、また覆土中より11点、床面より2点スラグが出土している。

備考　火災をうけたと推定されるが、焼土は床面上よりやや上層部が濃い。P_2の性格、本遺構との関連は明確ではない。なお南東隅部床面は約7cm低くなるが、掘りすぎか。Ⅴ期。

竪穴住居80（第98図）　D9区

建替　なし　**規模**　3.64(主軸)×3.77m　確認面14.22m²　床面12.31m²　**主軸方位**　N－6°－W　**残存壁高**　16～32cm　**Pit**　P_1(梯子穴)29cm　**カマド**　北壁。袖は山砂を主体とし、とくに基部には小礫を多量に混合する。煙道長83cm　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、スコリア多、斑状に褐色土混合　2層、黒褐色土、褐色土混合少　3層、暗褐色土　4層、黒褐色土主体、若干のローム

遺物　土器は、土師器甕1点、土師器杯1点、須恵器長頸壺1点、須恵器高盤1点であり、1・3が床面上より出土している。他に覆土より2点スラグが出土している。

備考　ロームを掘りこんでいなかったため、竪穴範囲は明確さを欠く。北西壁は掘りすぎか。Ⅲ期であろうか。

竪穴住居81（第98図）　D9区

建替　なし　**規模**　3.03（主軸）×2.97m　確認面9.19m²　床面7.38m²　**主軸方位**　N－27°－E　**残存壁高**　2～22cm　**Pit**　P_1（梯子穴）21cm　$P_2$41cm　**カマド**　北壁。袖は山砂を主体とし、白色粘土をブロック状に混合。煙道長は1.04m　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　2層、黒褐色土　3層、黒褐色土、若干の焼土粒混合

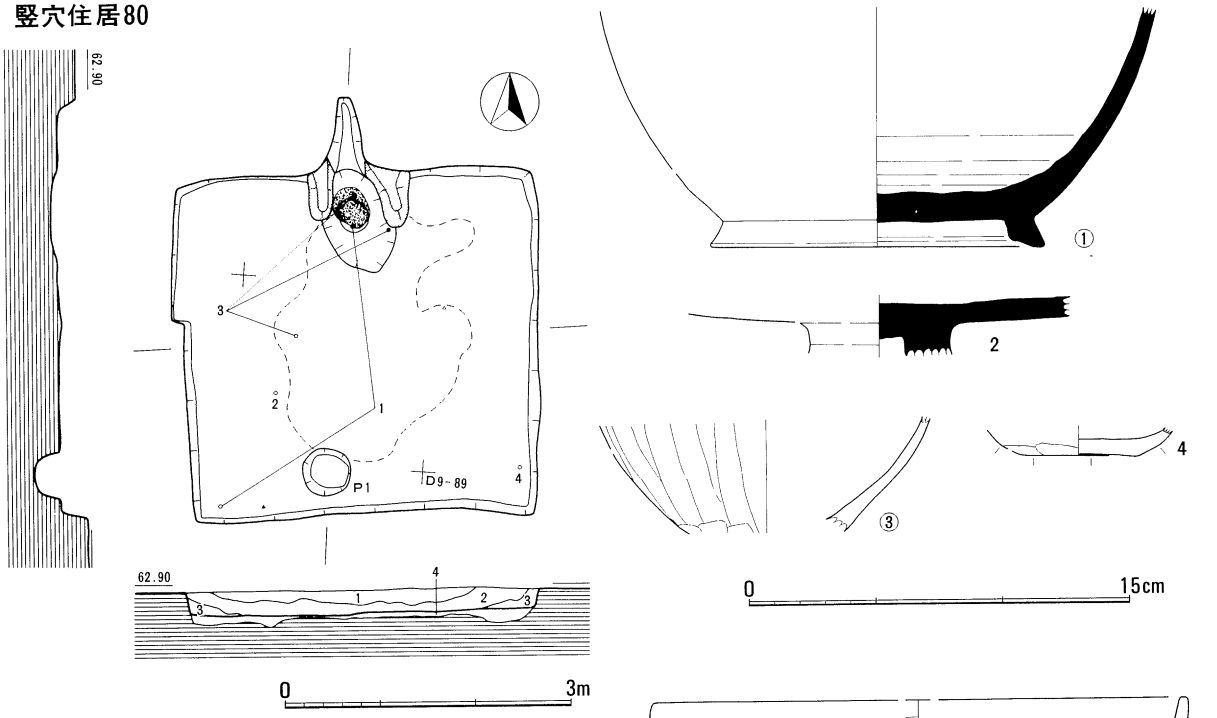
遺物　土器は、土師器鉢1点、土師器甕2点、土師器杯・椀6点であり、1・3～9がカマド焚口内、床面上より出土。

備考　掘形面がほぼローム上面に対応。北壁は掘りすぎ。Ⅳb期。

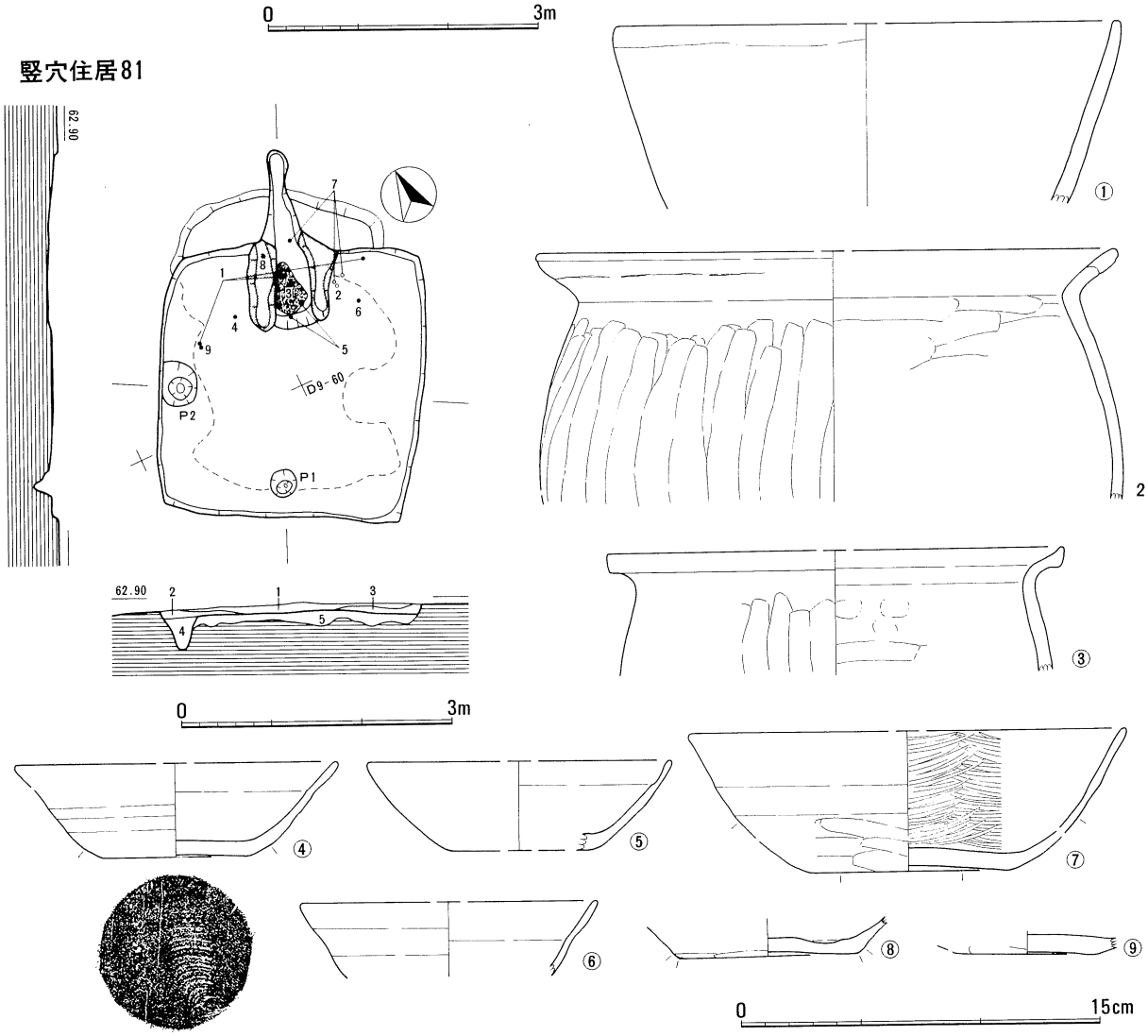
竪穴住居82（第99図）　D9区

建替　なし　**規模**　2.66（主軸）×2.33m　確認面6.12m²　床面5.21m²　**主軸方位**　N－48°－E

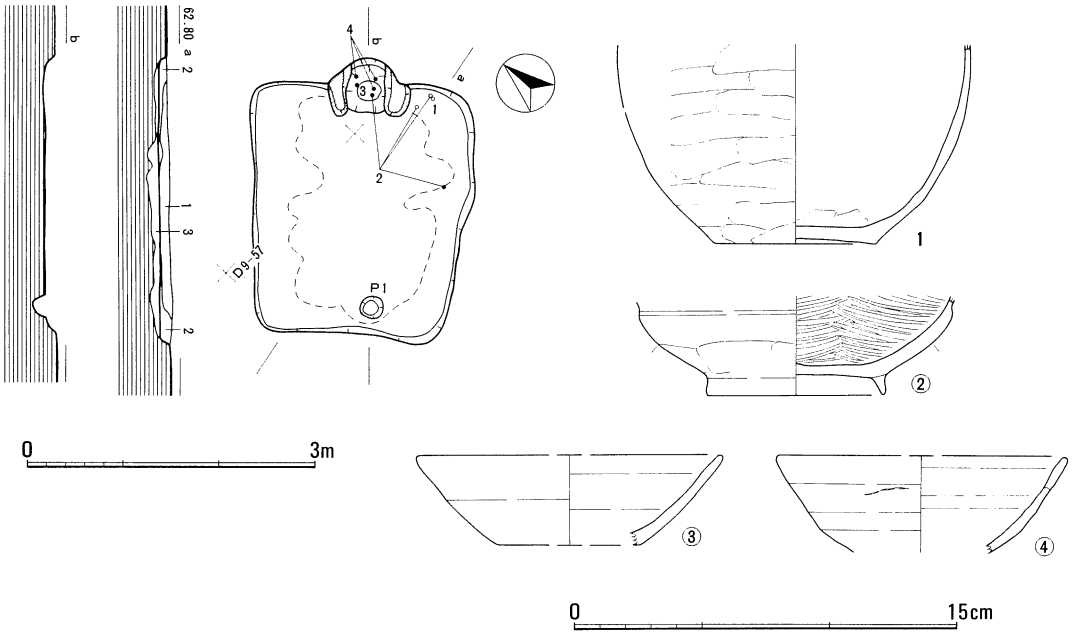
竪穴住居80



竪穴住居81



第98図　竪穴住居80・81



第99図　竪穴住居82

残存壁高　4～14cm　　**Pit**　P_1(梯子穴)14cm　　**カマド**　東壁。袖は、山砂・粘土を構築材とする。火床面、袖両側面ともあまり焼けていない。焼土も若干検出されたのみ　　**周溝**　なし　　**土層**　1層、黒褐色土、焼土混合　2層、黒褐色土と焼土を全体に粒状に混合　3層、明黒褐色土、硬質

遺物　土師器甕1点、土師器高台付杯1点、土師器杯2点が出土している。2～4が主にカマド焚口内より出土。

備考　掘形面がほぼローム上面に対応。竪穴範囲はやや不確実。火災をうけた可能性が高い。V期。

竪穴住居83（第100図）　D9区

建替　なし　　**規模**　4.17（主軸）×3.26m　確認面13.24m²　床面12.70m²　　**長軸方位**　N－1°－W　　**残存壁高**　2～8cm　　**Pit**　なし　　**炉**　ほぼ竪穴中央部。34×26cm、深さ6cm。焼土が厚く堆積　　**周溝**　なし　　**土層**　1層、貼り床部であり、黒褐色土、硬質

遺物　土師器杯3点であり、いずれも床面上より検出。

備考　竪穴住居84の覆土上に床面をつくる。ロームも明確に掘りこんでいないため、やや竪穴範囲は不確実である。中央部床面は硬質であった。V期。

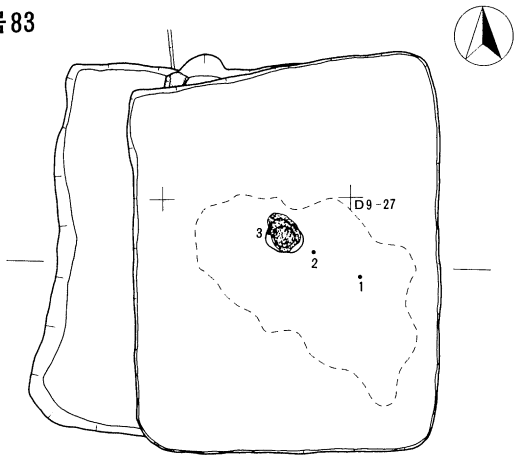
竪穴住居84（第100図）　D9区

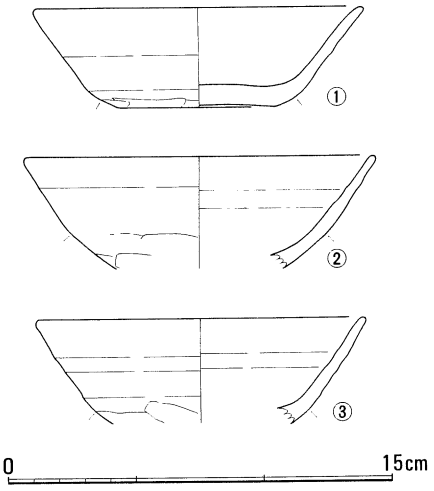
建替　なし　　**規模**　4.07(主軸)×3.55m　確認面14.47m²　床面12.13m²　　**主軸方位**　N－3°－E　　**残存壁高**　24～36cm　　**Pit**　なし　　**カマド**　北壁。基部のみ検出。袖は山砂を主体とする。煙道長17cm　　**周溝**　なし　**土層**　2層、明黒褐色土、焼土、炭化物を多量に混合する　3層、黒褐色土、褐色土をしみ状に混合　4層、明黒褐色土、ロームブロック大小混合　5層、黒褐色土、ロームブロック局部的に混合

遺物　土器は、土師器甕3点、土師器杯1点、須恵器杯3点、須恵器蓋1点、須恵器甕1点であり、1～4・7が、カマド焚口内、床面上より出土。10は鉄製刀子であり、形状は全体が内湾する。現存長15.9cm、幅1.25cm、厚さ0.2cm、重量14.0gを測る。床面上より出土。他に棒状の鉄製品小片が床面より2点、覆土より1点出土。

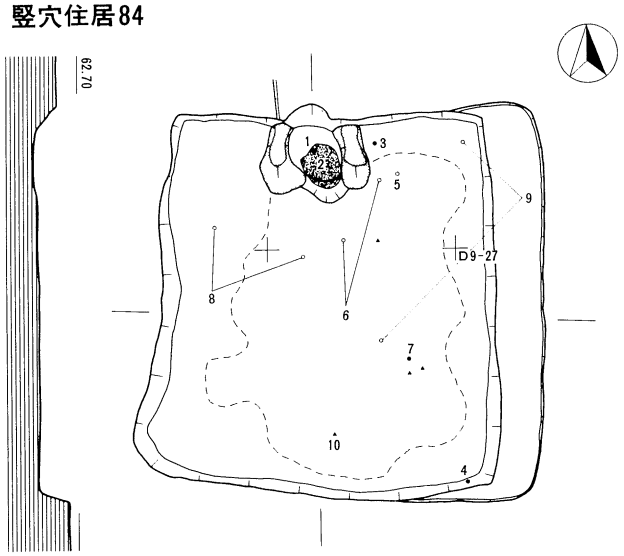
備考　竪穴住居83と重複。覆土2層は火災面であり、竪穴83直下にあたることから、竪穴83構築時に

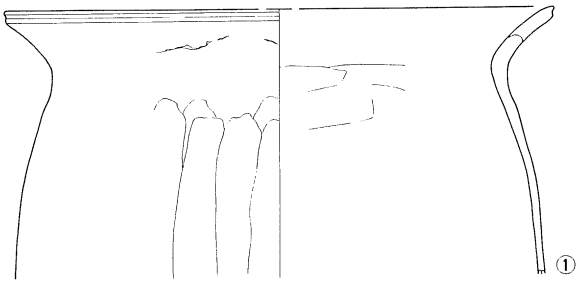
竪穴住居83

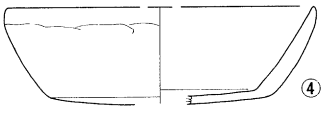


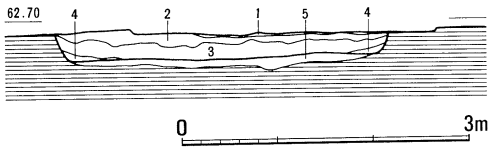


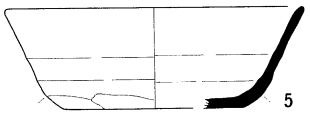
竪穴住居84

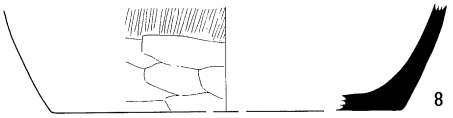


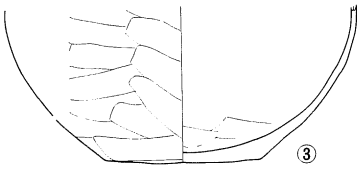


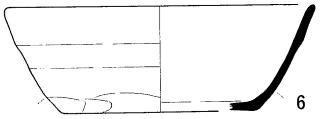


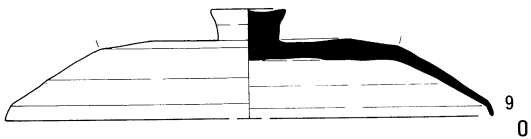


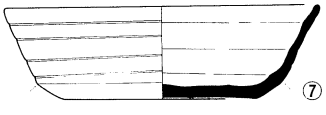


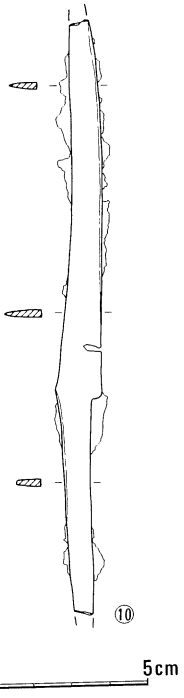












第100図　竪穴住居83・84

堆積物を焼いたものか。本遺構とは直接関係しない。IIIb期。

竪穴住居85（第101・102図）　D9区

建替　なし　　**規模**　4.64（主軸）×3.72m　確認面16.98m²　床面15.00m²　　**主軸方位**　N－40°－E　　**残存壁高**　12～45cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）27cm　$P_2$60cm　　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を構築材とする。煙道長37cm　　**周溝**　全周　　**土層**　1層、暗褐色土、粒状　2層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　3層、黒褐色土、斑状に褐色土混合　4層、ロームブロック主体　5層、明黒褐色土、ロームブロックを局部的に混合

遺物　土器は、土師器甕2点、土師器高台付杯4点、土師器杯10点、須恵器甑1点、須恵器甕1点であり、1・5～10・12～18が、カマド焚口内、P_2覆土、床直上より出土している。19は鉄器であり、刀子茎部分と推定される。現存長7.1cm、幅1.25cm、厚さ0.2cm、重量8.0gを測る。床面上より出土している。20・21は磨石と考えられる。21は石英斑岩製であり、全長9.9cm、幅7.5cm、厚さ6.5cm、重量640gを測る。全体的に平滑化している。20は砂岩製であり、全長7.1cm、幅6.6cm、厚さ7.4cm、重量410gを測る。側面を調整し、握り部分としている。両者とも覆土より出土している。22は土製の羽口であり、ほぼ完存している。溶解物が付着している。全長15.7cm、最大径7.8cm、孔径1.8～4.5cm、重量760gを測る。器面はヘラ調整され、橙色を呈す。床面上より出土している。他に、棒状の鉄器小片が覆土より1点、またスラグ8点がP_2内および覆土より出土している（図版57）。

備考　斜面部に位置しているが、ロームを10cm程度は掘りこんでいる。P_2は、その位置および土器の接合関係より本遺構に伴うと判断した。貯蔵穴様ではあるが、その性格は明らかではない。V期。

竪穴住居86（第102図）　D8区

建替　なし　　**規模**　2.73（主軸）×3.24m　確認面8.94m²　床面7.76m²　**主軸方位**　N－2°－E　**残存壁高**　4～16cm　　**Pit**　P_1（梯子穴）28cm　　**カマド**　北壁。袖基部は黒褐色土、上部に山砂・粘土を積み上げる。煙道長34cm　　**周溝**　なし　　**土層**　貼り床部は、黒褐色土を主とし、若干のロームを混合

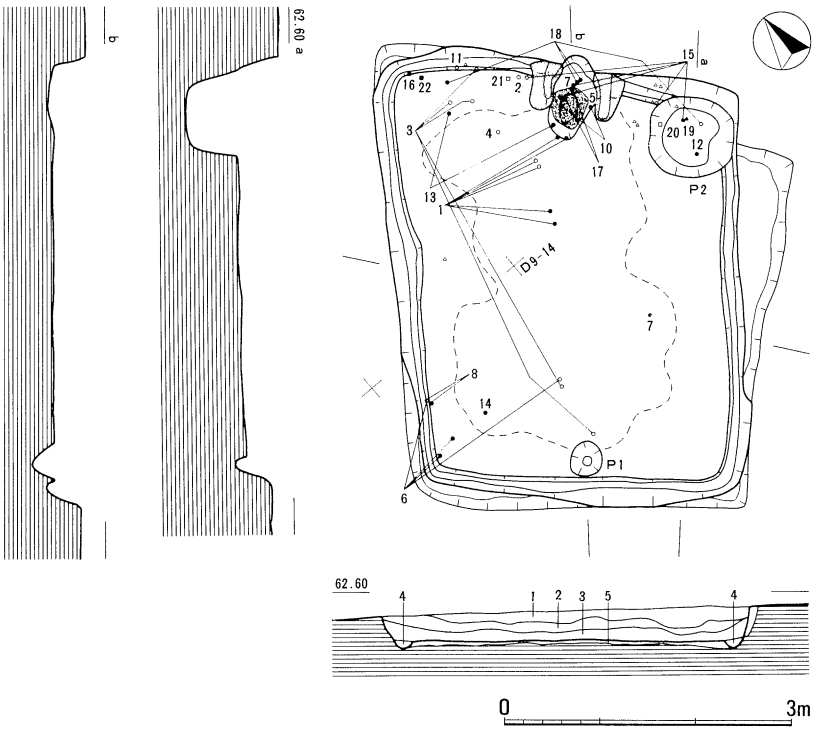
遺物　土師器小片が数点出土したのみ。

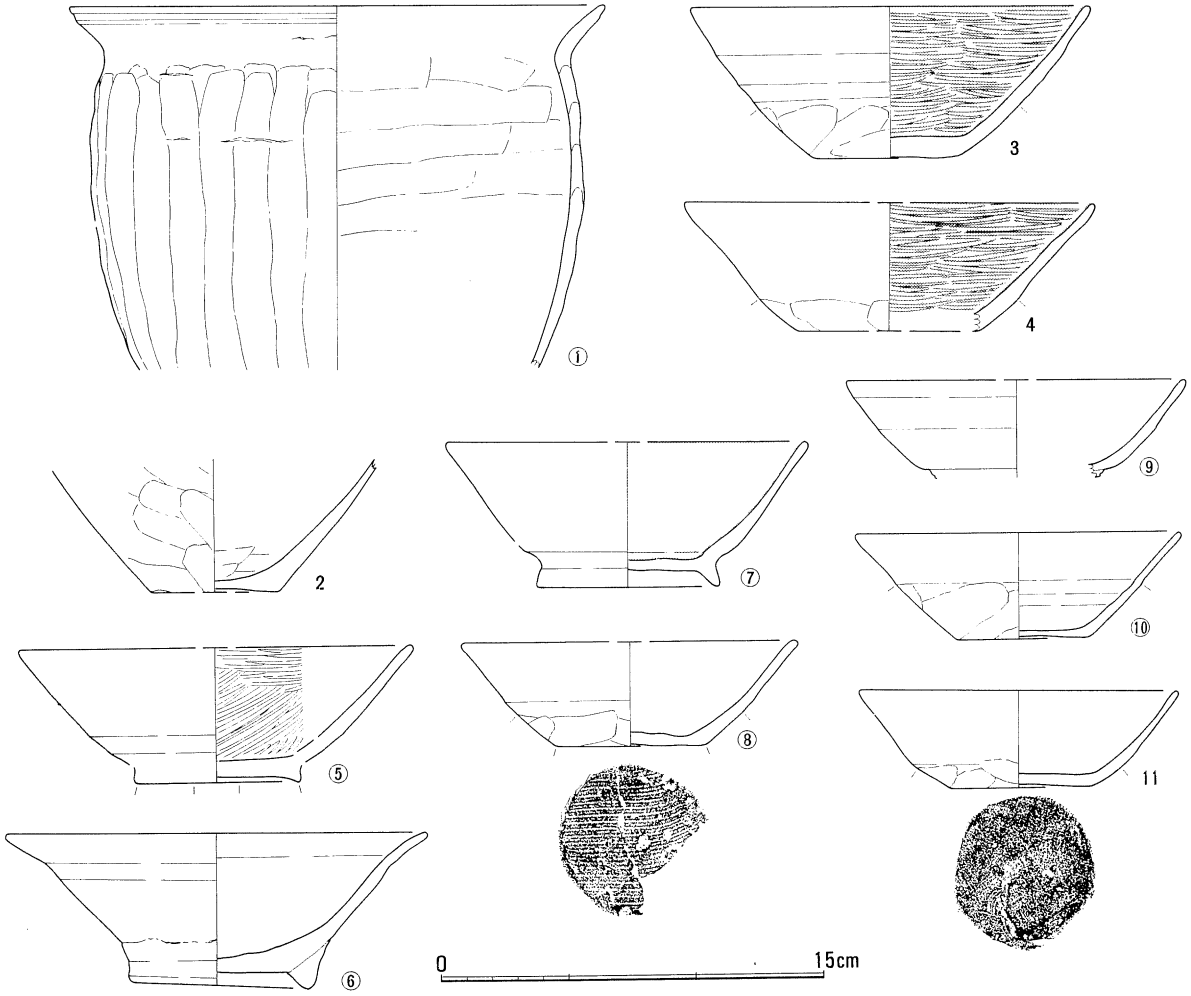
備考　時期不明。

竪穴住居87（第103～106図）

建替　1回。A・B。主柱穴重複　　**規模**　6.76（主軸）×7.13m　確認面A47.81m²　床面A43.91m²　内区A14.36m²　B8.44m²　　**主軸方位**　AN－34°－W　　**残存壁高**　19～59cm　　**Pit**　AP_1～P_5　BP_4・P_6～P_8　$P_1$80cm　$P_2$83cm　$P_3$80cm　$P_4$77cm　$P_5$26cm　$P_6$50cm　$P_7$49cm　$P_8$50cm　$P_9$51cm　P_{10}51cm　P_{11}37cm　P_{12}37cm　P_{13}46cm　P_{14}23cm　　**カマド**　A北壁。袖は基部を黒褐色土、上部は山砂・粘土を構築材とし、若干の小礫を混合する。壁外へ張り出す。煙道長は壁より59cm　　**周溝**　全周。壁柱穴　　**土層**　1層は、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　2層、黒褐色土、スコリア、焼土混合　3層、黒褐色土、焼土、炭化物を多量に含む　4層、暗黄褐色土、粒状　5層、ロームブロック主体　6層、黒褐色土を地層とし、若干のロームブロック混合　7層、5層と同質　8層、柱穴部、未実測

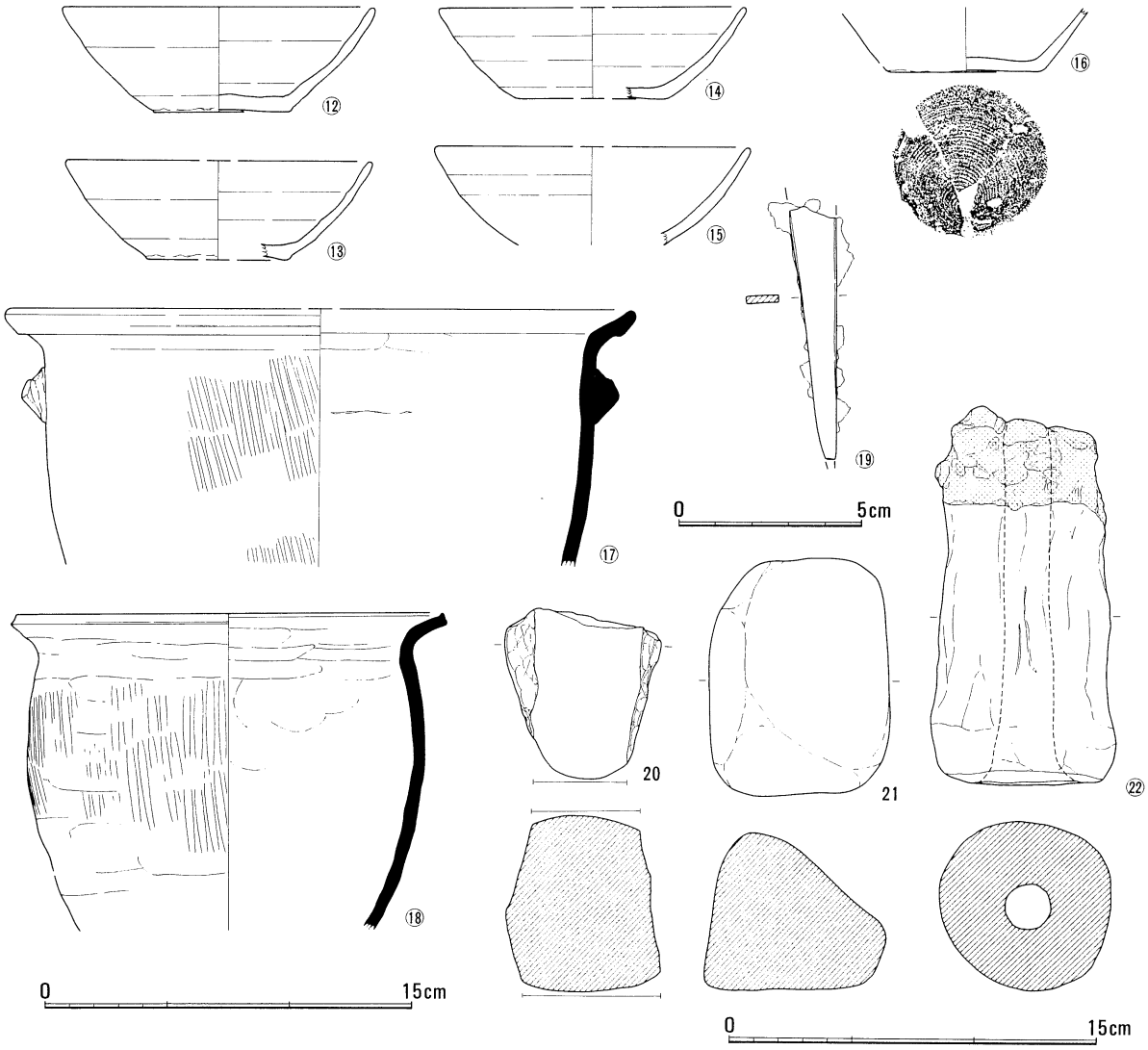
遺物　土器は、土師器甕13点、土師器甑1点、土師器高杯8点、土師器椀3点、土師器杯8点、須恵器蓋2点、須恵器甑1点、須恵器甕などであり、2・4・5・7～11・14～17・24～26・28・33・38



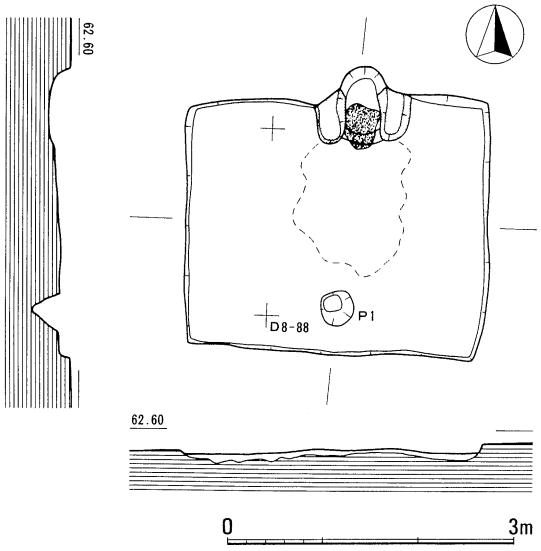


第101図　竪穴住居85(1)

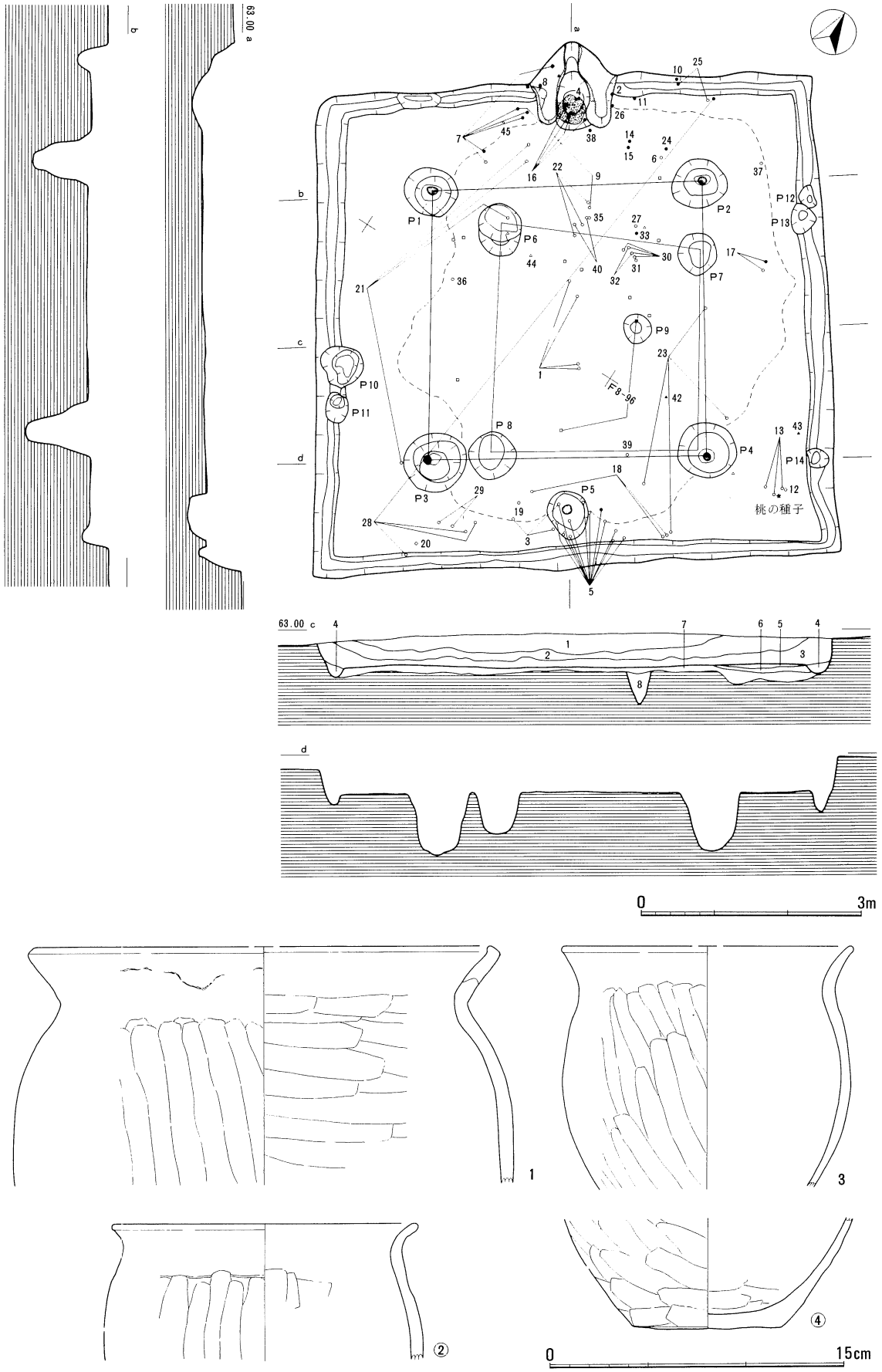
竪穴住居85



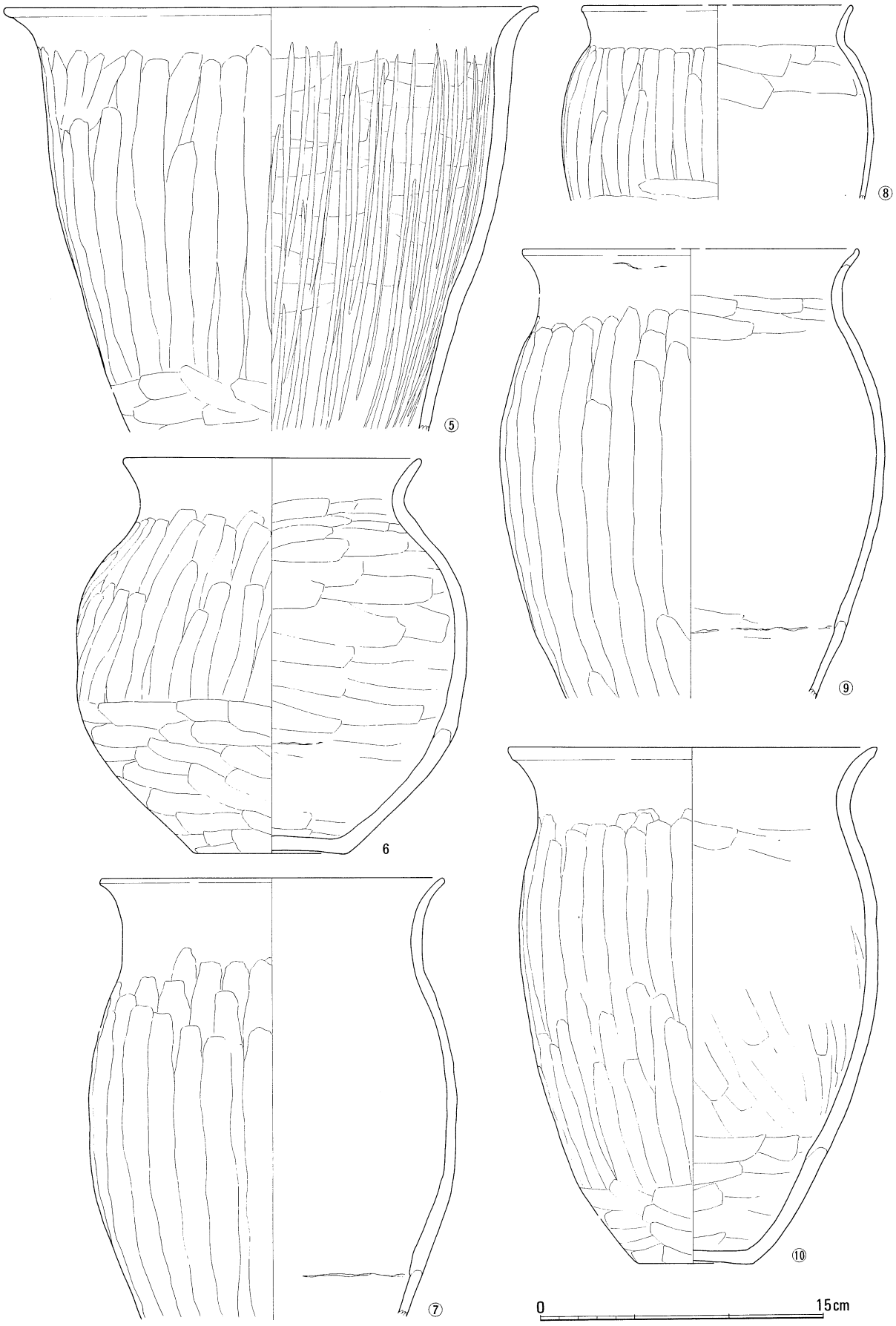
竪穴住居86



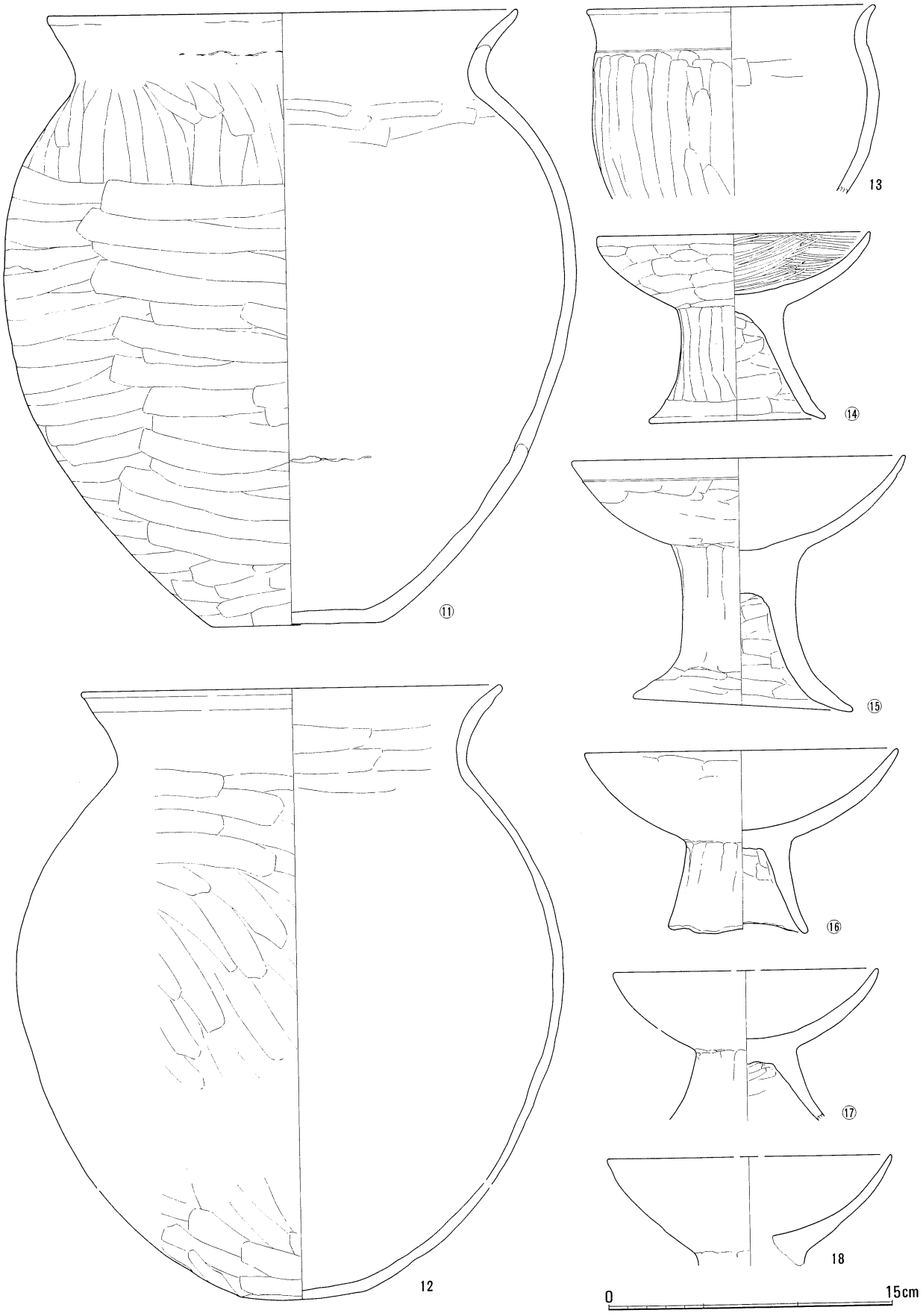
第102図　竪穴住居85(2)・86



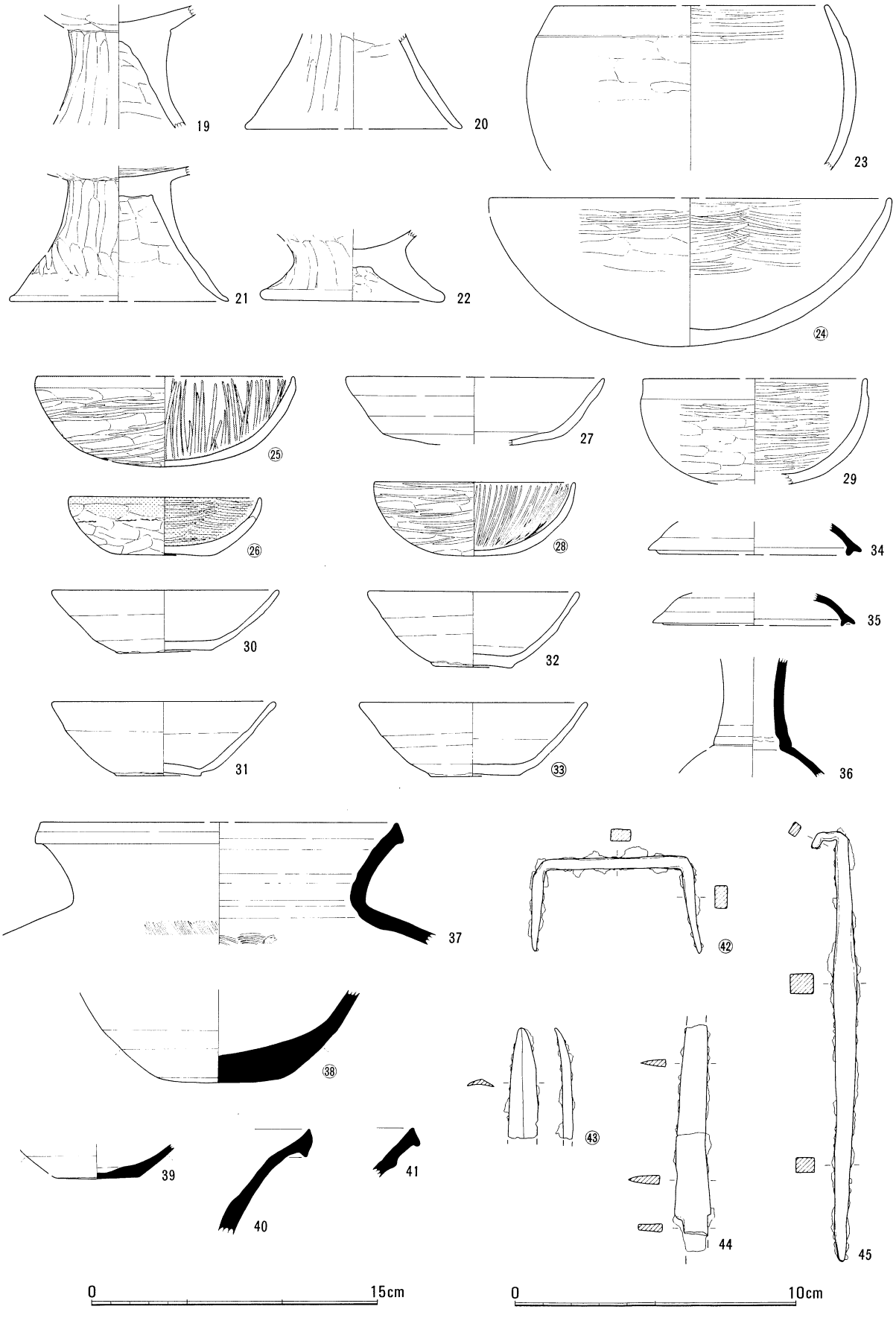
第103図　竪穴住居87(1)



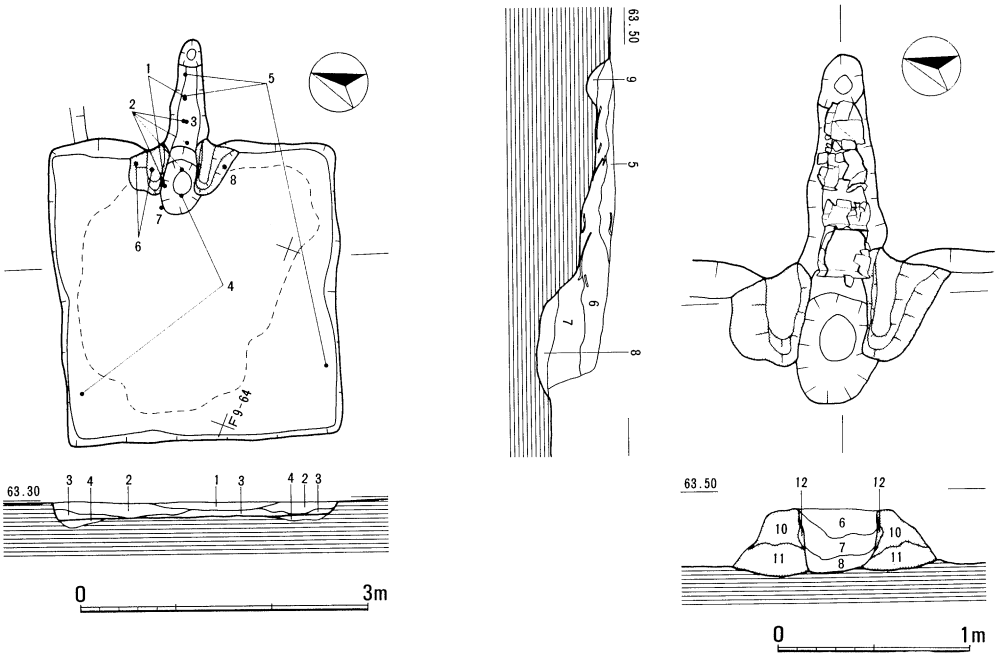
第104図　竪穴住居87(2)

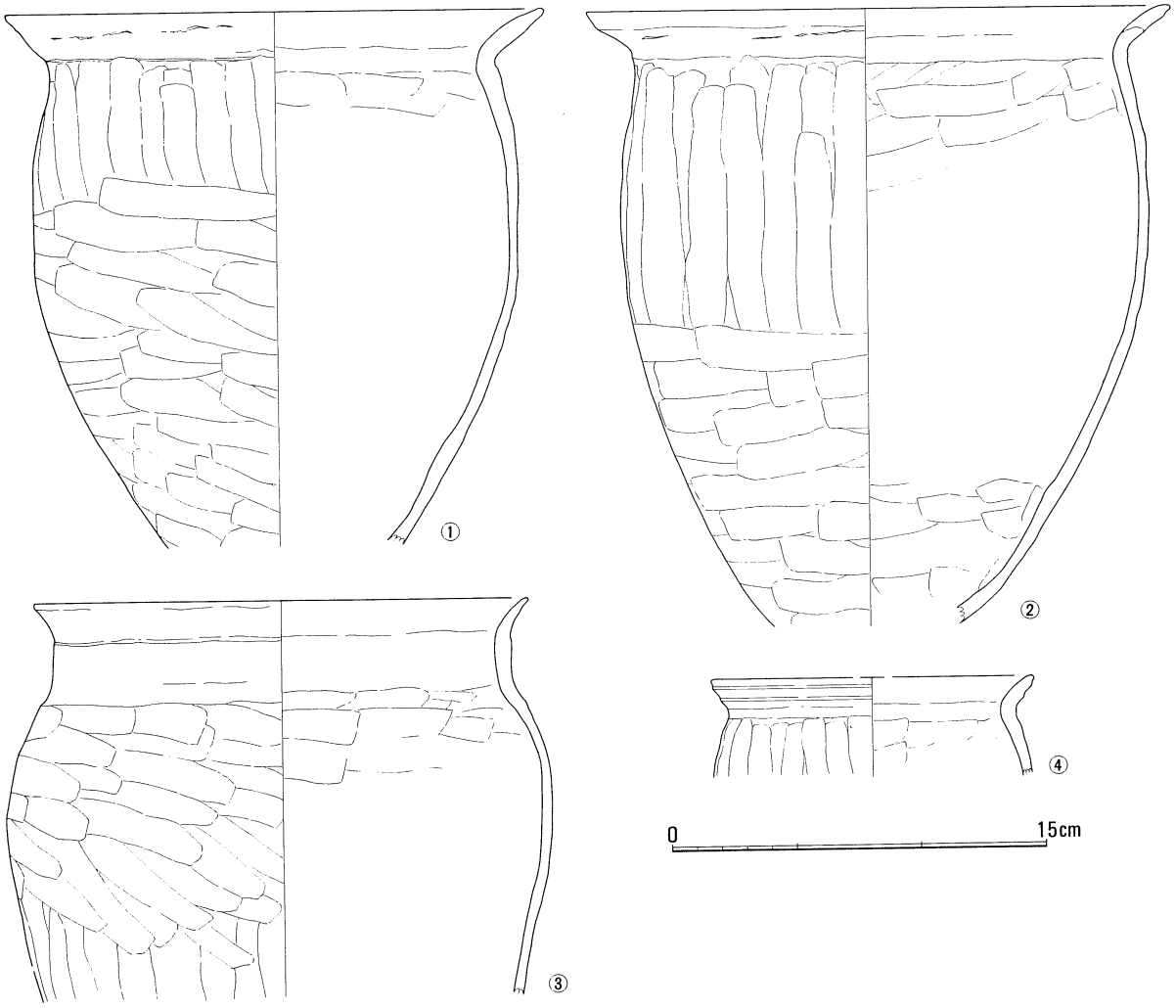


第105図　竪穴住居87(3)

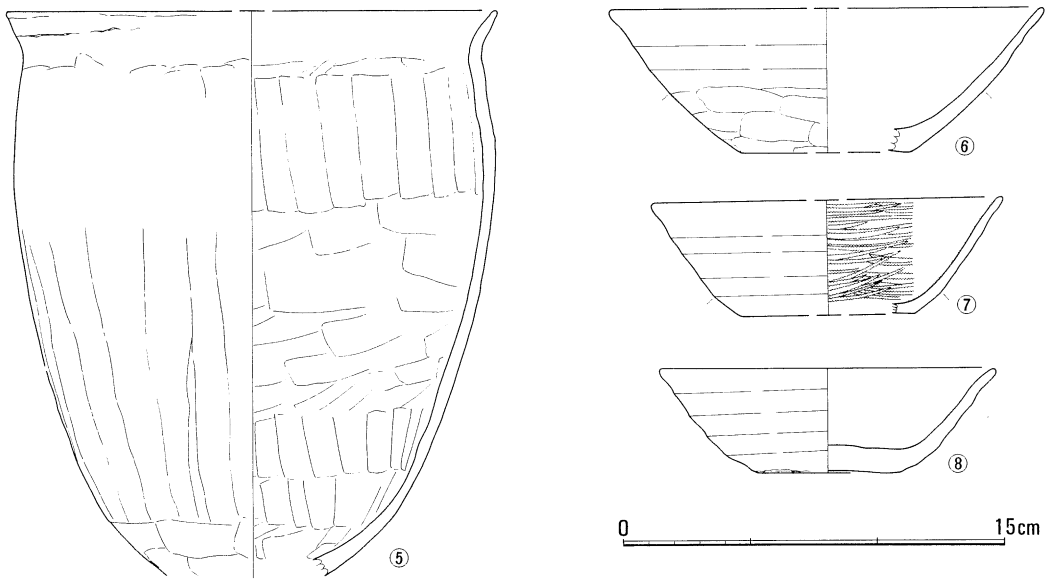


第106図　竪穴住居87(4)





第107図　竪穴住居88(1)



第108図　竪穴住居88(2)

がカマド焚口内、床面上より出土している。42～45は鉄製品であり、42・43が床面上より出土している。42は、カスガイ状の鉄器である。全長6.0cm、全幅3.5cm、重量14.7ｇを測る。43は鉈である。現存長4.0cm、幅1.0cm、厚さ0.25cm、重量2.5ｇを測る。44は刀子である。現存長7.6cm、幅1.25cm、厚さ0.3cm、重量8.8ｇを測る。45は、先端を鉤状につくる棒状品である。断面は方形ないしは長方形をなし、中央部が肥厚する。紡錘車軸棒とは考えられない。現存長15.5cm、重量33.1ｇを測る。他に、カマド内、覆土中より平瓦小片が９点、覆土中より炭化した桃の種子１点、鉄小片が覆土より４点、カマド内より１点、床面上より１点出土している。

備考　建替はP_4を軸として北西側へ拡張。旧竪穴範囲、カマド掘形は確認できなかった。全体を掘り直している可能性がある。Ｂ主軸方位は若干東へ振れる。焼土は、全体量としては少なかったが、床面ほぼ全体より検出された。火災。ＩＩａ期。

竪穴住居88（第107・108図）　Ｆ９区

建替　なし　　**規模**　3.20(主軸)×3.08m　確認面9.83㎡　床面8.09㎡　　**主軸方位**　Ｎ－67°－Ｅ

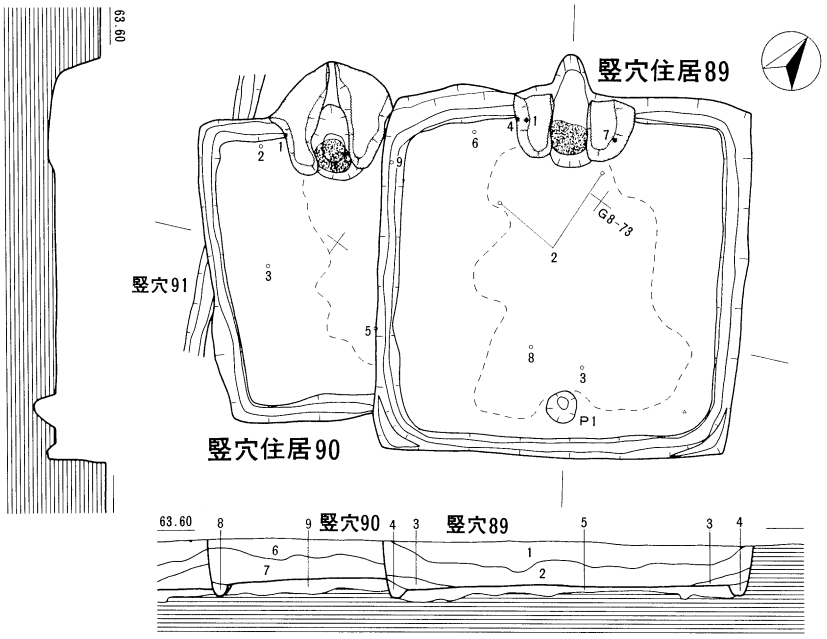
残存壁高11～30cm　　**Pit**　なし　　**カマド**　東壁。袖は、黒褐色土、山砂・粘土を構築材とする。煙道は土器を使用する。煙道長1.09m　　**周溝**　なし　　**土層**　１層、黒褐色均質土　２層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　３層、黒褐色土、斑状に褐色土混合　４層、黒褐色土、若干のロームブロック混合　５層、黒褐色均質土　６層、黄褐色土、山砂を主体とし、若干の焼土混合　７層、暗黄褐色土、６層に対して焼土強、黒褐色土混合　８層、黒褐色土、焼土、山砂を混合　９層、黒褐色土、粒状　10層、山砂主体　11層、黒褐色土を主とし、山砂をブロック状に混合　12層、10・11層の赤化部分

遺物　土師器甕５点、土師器杯３点出土。１～５は煙道部使用土器、他はカマド周辺部床面上より出土。

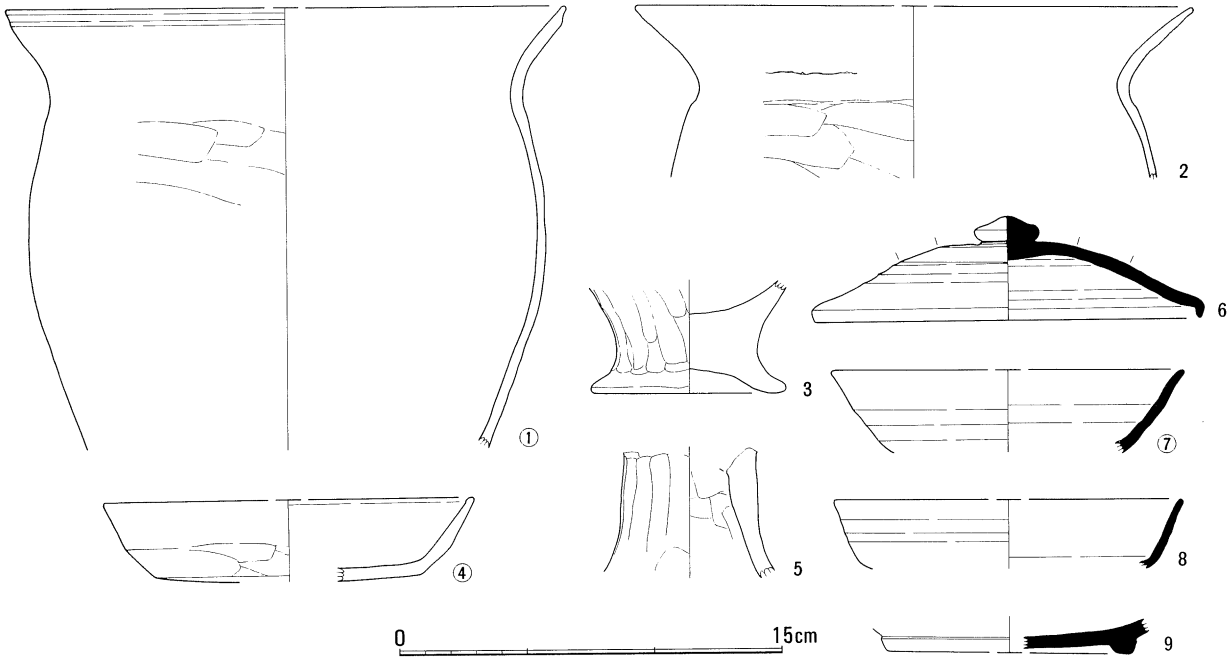
備考　ⅣＢ期。

竪穴住居89（第109図）　Ｇ８区

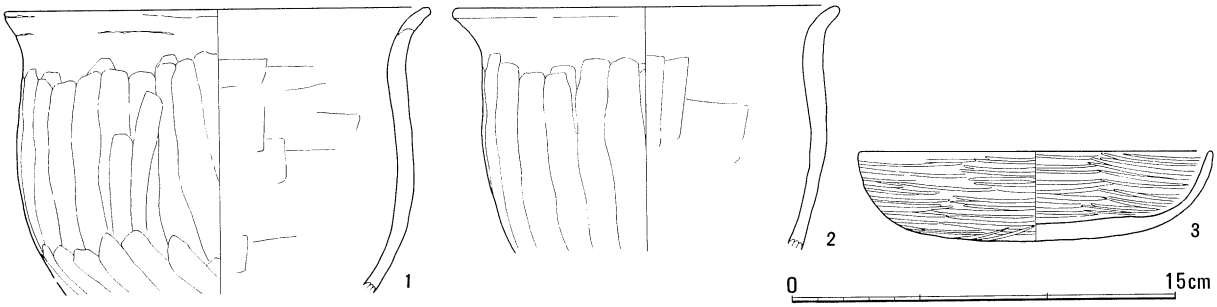
建替　なし　　**規模**　3.87（主軸）×3.91m　確認面15.09㎡　床面12.34㎡　　**主軸方位**　Ｎ－35°－



竪穴住居89



竪穴住居90



第109図　竪穴住居89・90

W　**残存壁高**　35～56cm　**Pit**　P_1（梯子穴）21cm　**カマド**　北壁。袖は、基部が黒褐色土、その上部に山砂・粘土を積み上げる。煙道長37cm　**周溝**　全周　**土層**　1層は、黒褐色土を地層とし、山砂、焼土、炭化物を混合　2層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　3層、暗黄褐色土、ロームブロック主体　4層、暗黄褐色土、粒状　5層、黒褐色土、若干のロームを局部的に混合

遺物　土器は、土師器甕3点、土師器杯1点、土師器高杯1点、須恵器蓋1点、須恵器杯3点であり、1・4・7がカマド脇より出土している。他に鉄小片が覆土中より出土。

備考　竪穴住居90と重複。本遺構が新。上層に焼土がみとめられたものの、床面上では検出されなかった。III a 期。

竪穴住居90（第109図）G8区

建替　なし　**規模**　3.25（主軸）×－m　**主軸方位**　N－41°－W　**残存壁高**　0～43cm　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。山砂・粘土にロームブロックを構築材とする。袖は壁外へ張り出す　**周溝**　全周　**土層**　6層、褐色土、粒状　7層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合、スコリア多　8層、暗黄褐色土、粒状　9層、明黒褐色土、ロームブロック混合

遺物　土師器甕2点、土師器杯1点のみである。いずれも覆土下層より出土。

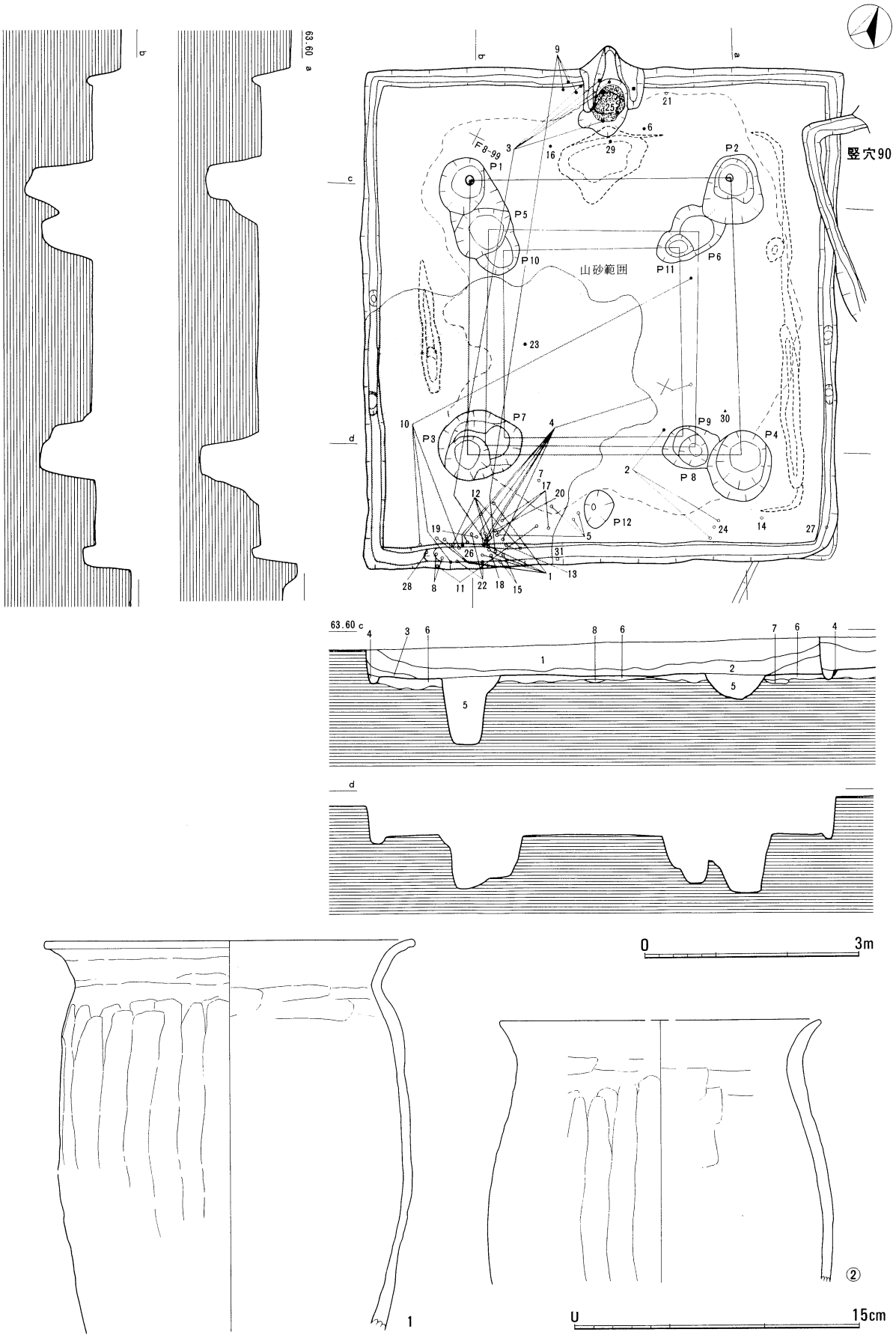
備考　竪穴住居89・91と重複。竪穴89より古、竪穴91より新。竪穴東側範囲については、竪穴89掘形面においても明瞭に検出することができなかった。II b 期。

竪穴住居91（第110～113図）F8区

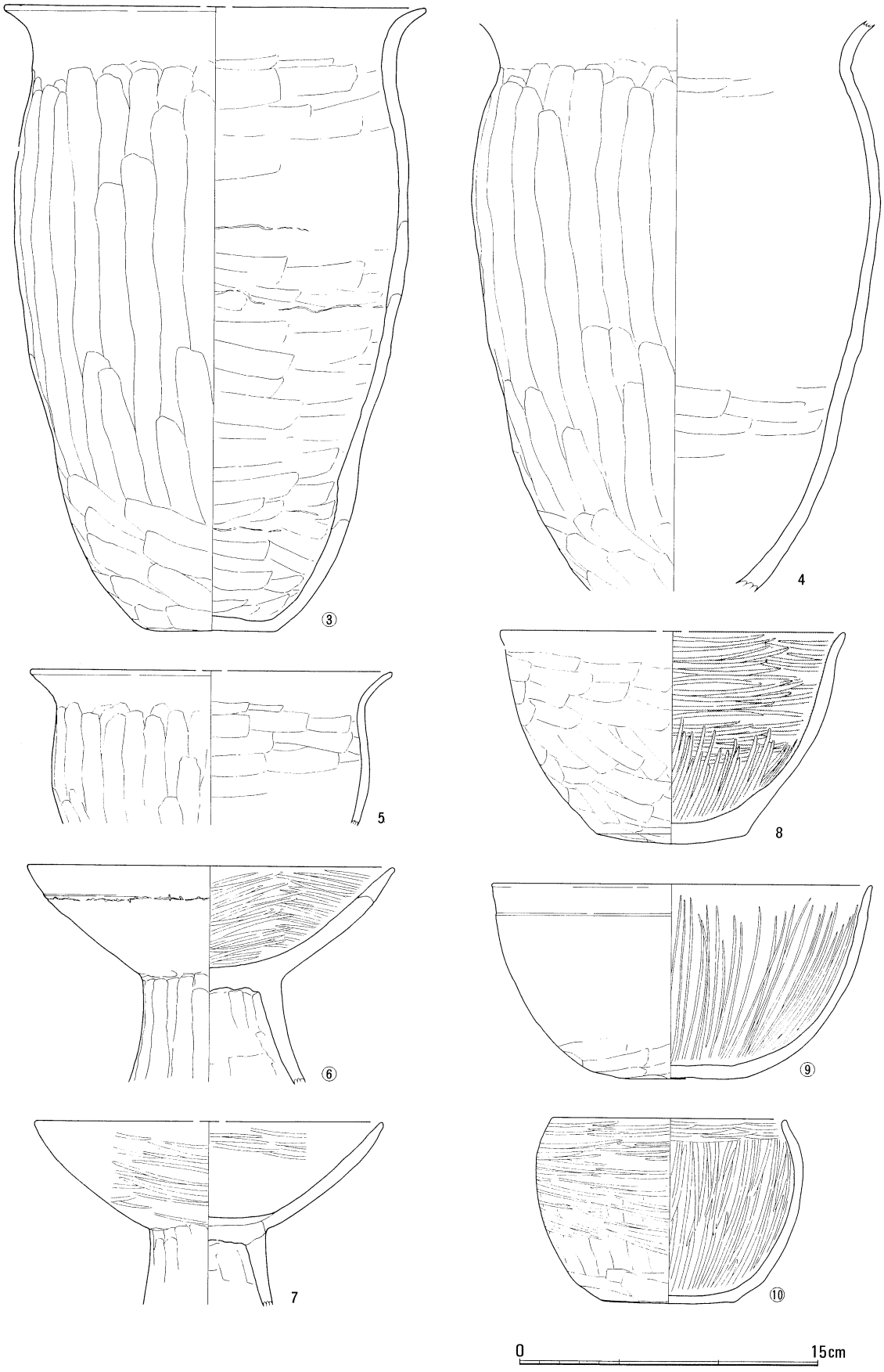
建替　2回。A・B・C。主柱穴、竪穴掘形重複　**規模**　A7.07（主軸）×6.73m　B（5.40）（主軸）×（5.30）m　確認面A47.83㎡　B（28.00）㎡　床面A44.97㎡　内区A14.99㎡　B9.26㎡　C6.77㎡　**主軸方位**　AN－28°－W　BN－30°－W　**残存壁高**　3～58cm　**Pit**　A P_1～P_4・P_{12}　B P_5～P_8　C P_7・P_9・P_{10}・P_{11}　$P_1$91cm　$P_2$72cm　$P_3$79cm　$P_4$81cm　$P_5$64cm　$P_6$62cm　$P_7$60cm　$P_8$67cm　$P_9$44cm　P_{10}48cm　P_{11}49cm　P_{12}31cm　**カマド**　北壁。袖は、基部が塊状の山砂ブロック、上部は山砂とロームブロック、黒褐色土の混合土を構築材とする。全体に壁外へ張り出す。火床面は、山砂を主とする間層をはさみ、2面認められた。Aカマド南側に、Bカマド掘形。CはBと重複か　**周溝**　全周。壁柱穴　**土層**　1層、明黒褐色土、山砂、焼土混合　2層、明黒褐色土、スコリア多、山砂、焼土混合　3層、暗黄褐色土、ロームブロック主体　4層、黄褐色土、粒状　5層、柱穴部、未実測　6層、黒褐色土を主とし、ロームブロック大小混合　7層、6層に比してロームブロック多、ブロック状　8層、焼土ブロック（B・Cカマド）。なお南西隅挿図上網部は山砂層である。壁際は確認面より堆積が認められる。その下面、ほぼ床面上に焼土、炭化物層

遺物　土器は、土師器甕5点、土師器甑2点、土師器椀・鉢4点、土師器高杯5点、土師器杯13点であり、2・3・6・9・10・16・23・25・29が、カマド内焚口部、床面上より出土した。なお竪穴南西隅焼土層上面から山砂層下部にかけて、多量の土器が出土している。これは床面出土土器と接合関係があり、本来本遺構と伴うものが、一括投棄されたと考えられる。30は鉄製品であり、床面上より出土している。現存長5.5cm、重量3.3gを測る。31は石英斑岩質の砥石であり、表裏面を使用面とする。線条痕はやや不明瞭であった。全長19.2cm、幅8.2cm、厚さ4.8cm、重量1030gを測る。覆土より出土。他にカマドより土製支脚が出土しているが、遺存状態は不良であった。

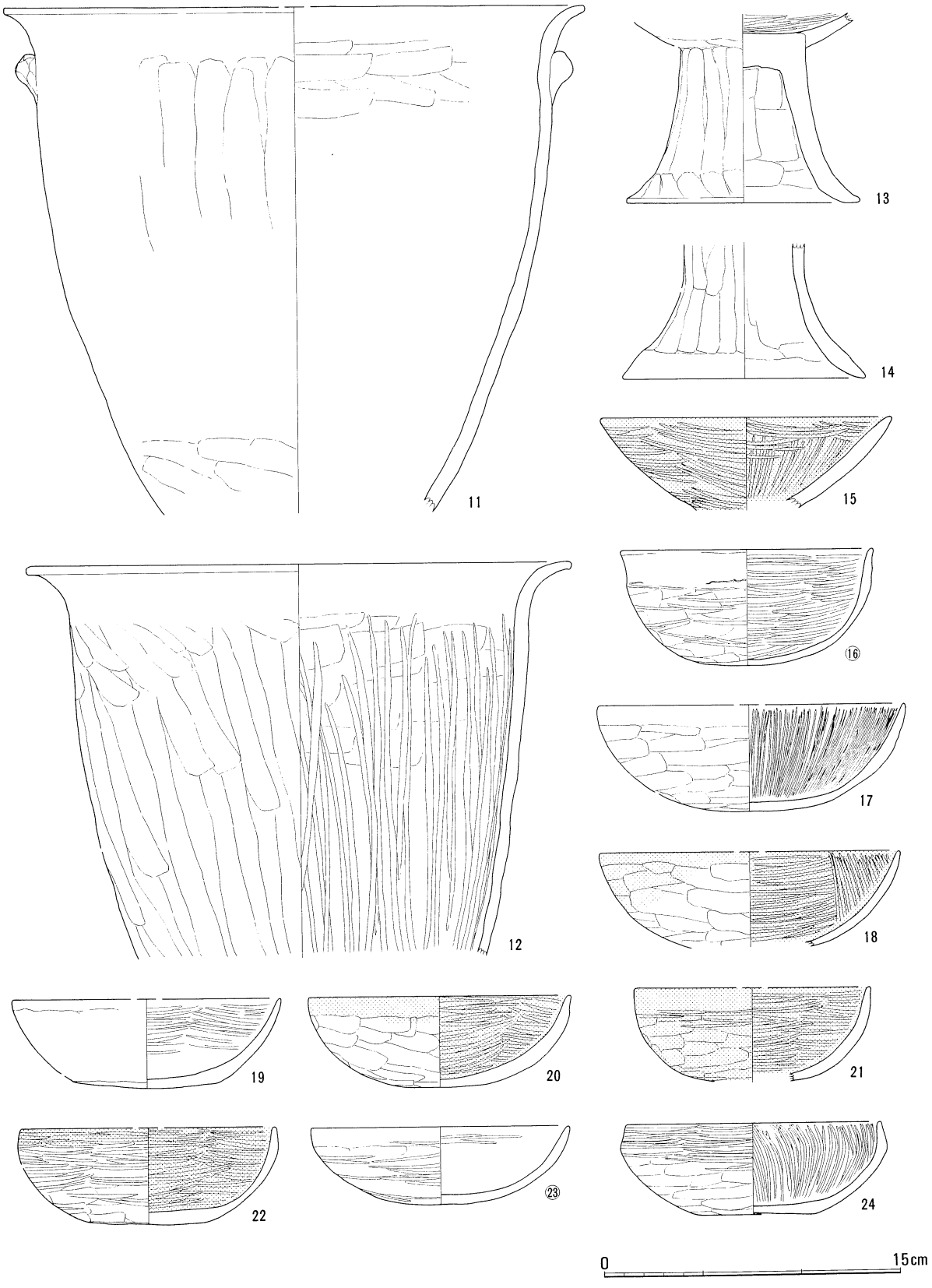
備考　竪穴住居90と重複。本遺構が古。建替は2回であるが、Cに対応する竪穴範囲は不明確であっ



第110図　竪穴住居91(1)

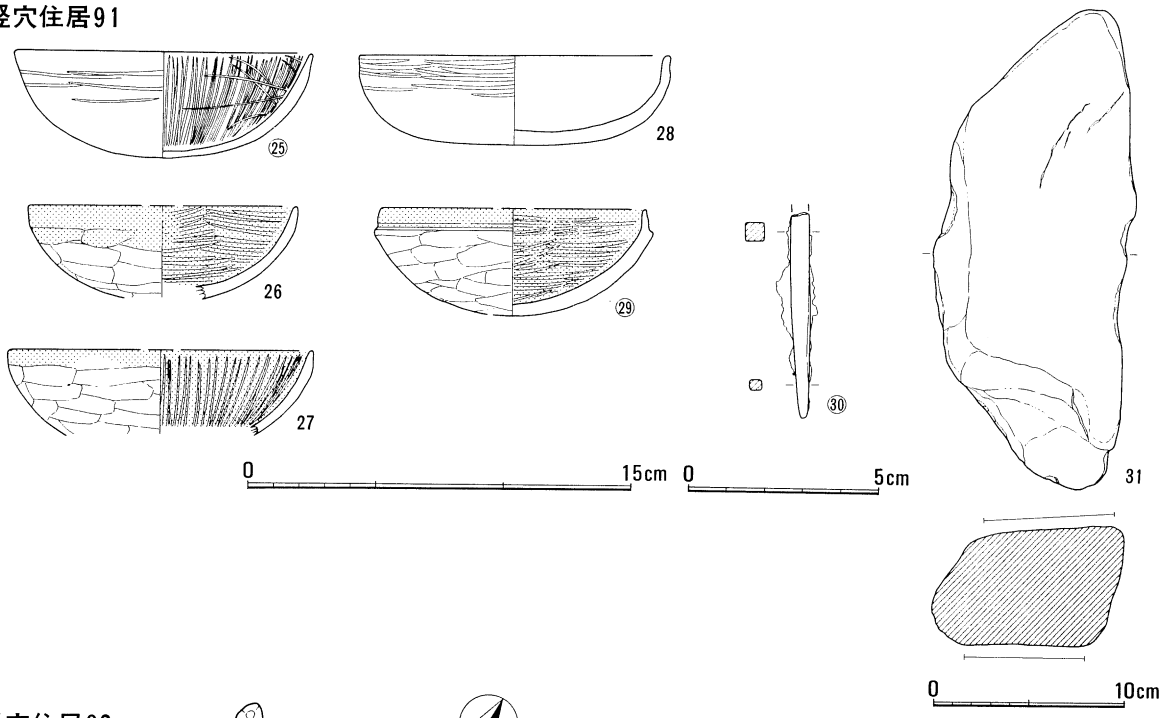


第111図　竪穴住居91(2)

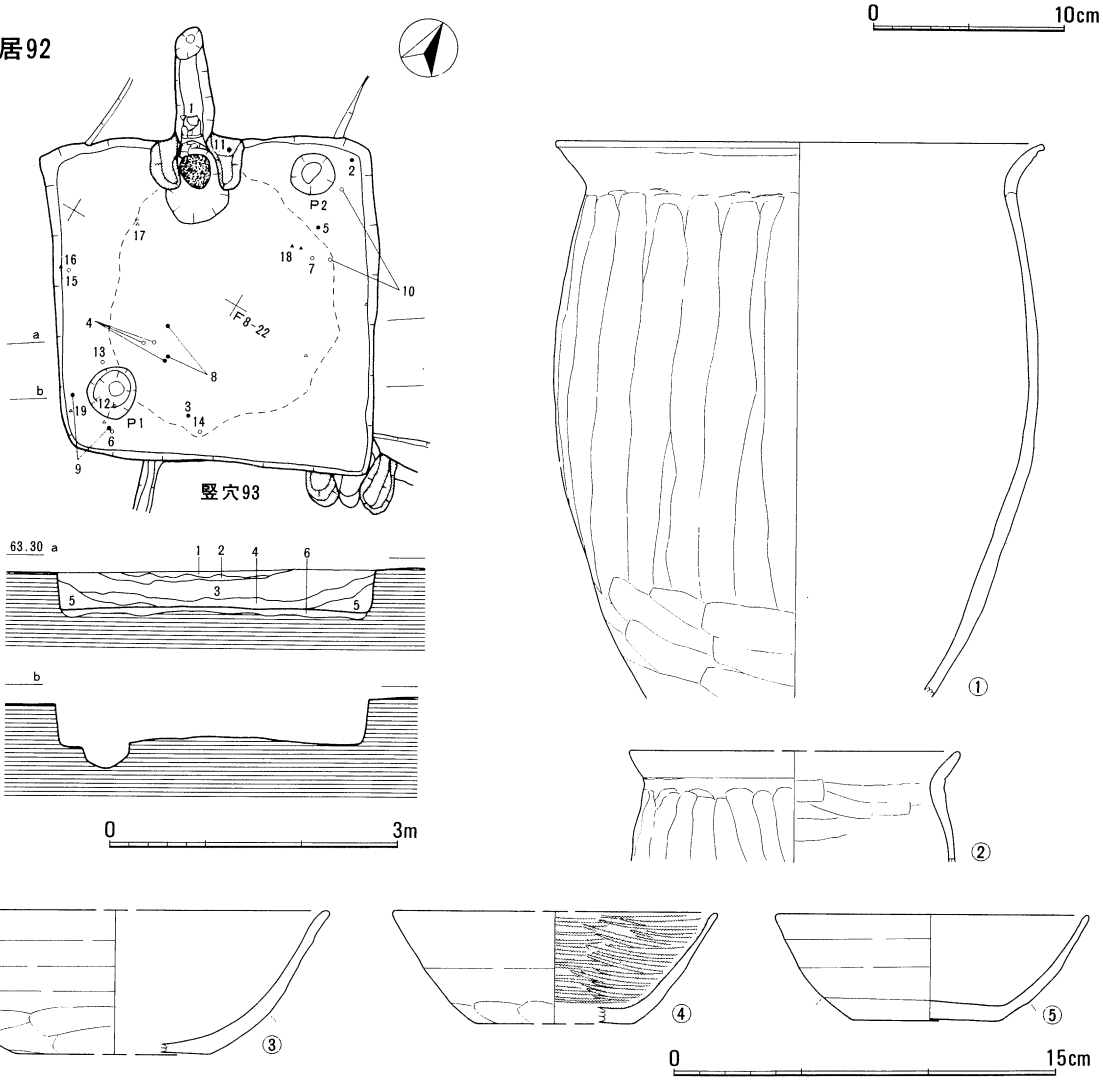


第112図　竪穴住居91(3)

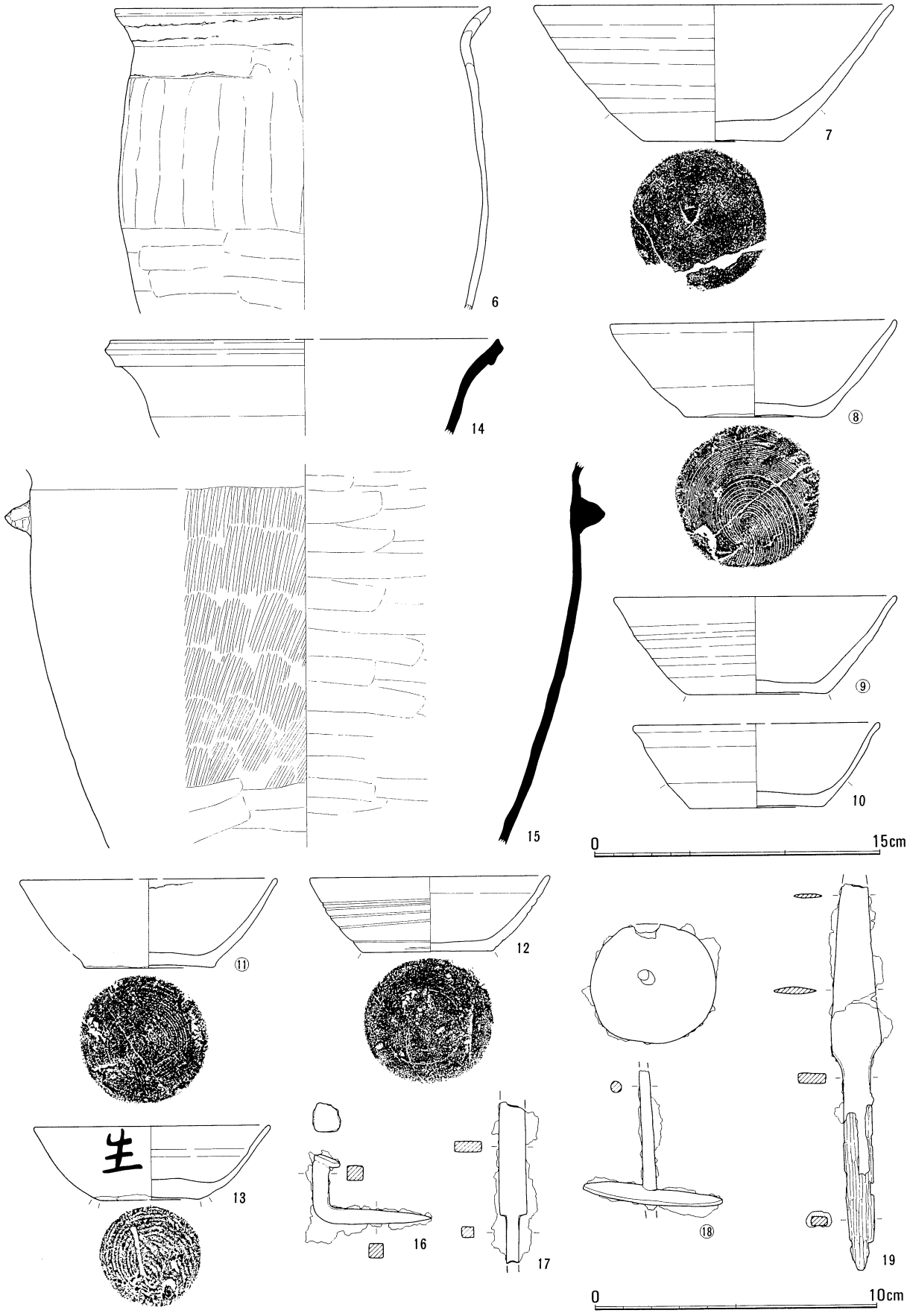
竪穴住居91



竪穴住居92



第113図　竪穴住居91(4)・92(1)



第114図　竪穴住居92(2)

た。ただし、P_3・P_7を基軸として拡張されており、南・西壁については、B・Cは共有すると考えられる。A段階では、全体に掘り直されている。山砂層については、性格不明である。最も厚い部分で30cmを測る。焼土層は南西側に偏在する傾向があるが、一応火災を想定しておく。II a 期。

竪穴住居92（第113・114図） F 8区

建替 なし **規模** 3.47(主軸)×3.47m 確認面12.24m² 床面10.27m² **主軸方位** N－32°－W **残存壁高** 28～43cm **Pit** $P_1$31cm $P_2$22cm **カマド** 北壁。袖は、山砂・粘土を用材とする。煙道入口部に土器使用。煙道長1.21m **周溝** なし **土層** 1層、褐色土、粒状 2層、山砂、焼土層 3層、1層に似る、やや暗 4層、明黒褐色土、全体にしみ状に褐色土混合 5層、暗黄褐色土、ローム主体、粒状 6層、ロームブロック、黒褐色土を全体に混合

遺物 土器は、土師器甕3点、土師器椀2点、土師器杯8点、須恵器甕1点、須恵器甑1点であり、1～5・8・9・11がカマド内および床面上より出土している。このうち1が煙道部に使用されていたものである。16～17は鉄製品である。16は釘であり、屈曲しているもののほぼ完存する。皿部は打ちのばされてつくられており、1辺1.0cmほどの方形を呈す。重量6.3gを測る。17は鉄鏃とも考えられるが、やや篦被部が幅広である。現存長5.8cm、重量7.6gを測る。18は紡錘車であり、紡輪径4.4cm、現存軸長5.0cm、重量15.3gを測る。19は両刃の剣状の製品である。現存長13.9cm、幅1.75cm、厚さ0.35cm、重量19.3gを測る。18が床面上より出土している。他に棒状の鉄小片が床面上より1点、覆土より4点出土しているものの、接合しない。

備考 竪穴住居93と重複。本遺構が新。P_1・P_2の性格は不明。IV a 期。

竪穴住居93（第115図） F 8区

建替 なし **規模** 3.53(主軸)×3.53m 確認面11.53m² 床面9.88m² **主軸方位** N－30°－W **残存壁高** 0～60cm **Pit** P_1(梯子穴)26cm **カマド** 北壁。左袖は一部竪穴住居92に切られる。袖構築材を山砂を主体とする。焚口前面に深さ10cm程度の浅い掘りこみ **周溝** 全周 **土層** 1層、黒褐色土、褐色土若干混合 2層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合 3層、暗褐色土、粒状 4層、黒褐色土、粒状、若干のロームブロック 5層、ロームブロック主体 6層、黒褐色土を主体とし、局部的にロームブロック混合 7層、黒褐色土

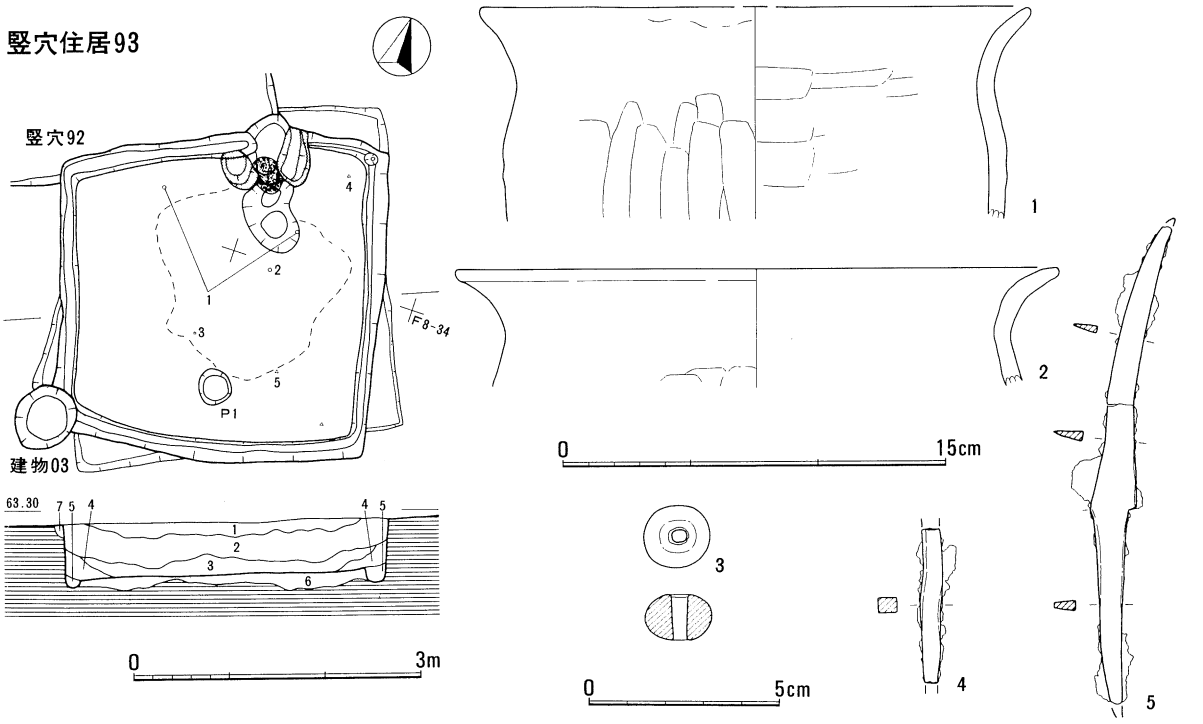
遺物 土器は、土師器甕2点であり、覆土より出土している。3はガラス玉である。濃青色を呈し、径1.25cm、高さ0.91cm、孔径0.31～0.25cm、重さ1.9gを測る。4は棒状の鉄製品であり、現存長4.15cm、重さ2.4gを測る。5は鉄製刀子であり、身中央で折れまがっている。現存長12.85cm、幅1.15cm、厚さ0.25cm、重量9.5gを測る。3～4も覆土中より出土している。なお、竪穴住居100と覆土出土土器が接合している（第119図）。

備考 竪穴住居92、掘立柱建物03と重複。竪穴92が新。建物03との関係は明らかにできなかった。なお外周部は、当初竪穴範囲を想定した、掘りすぎである。III期。

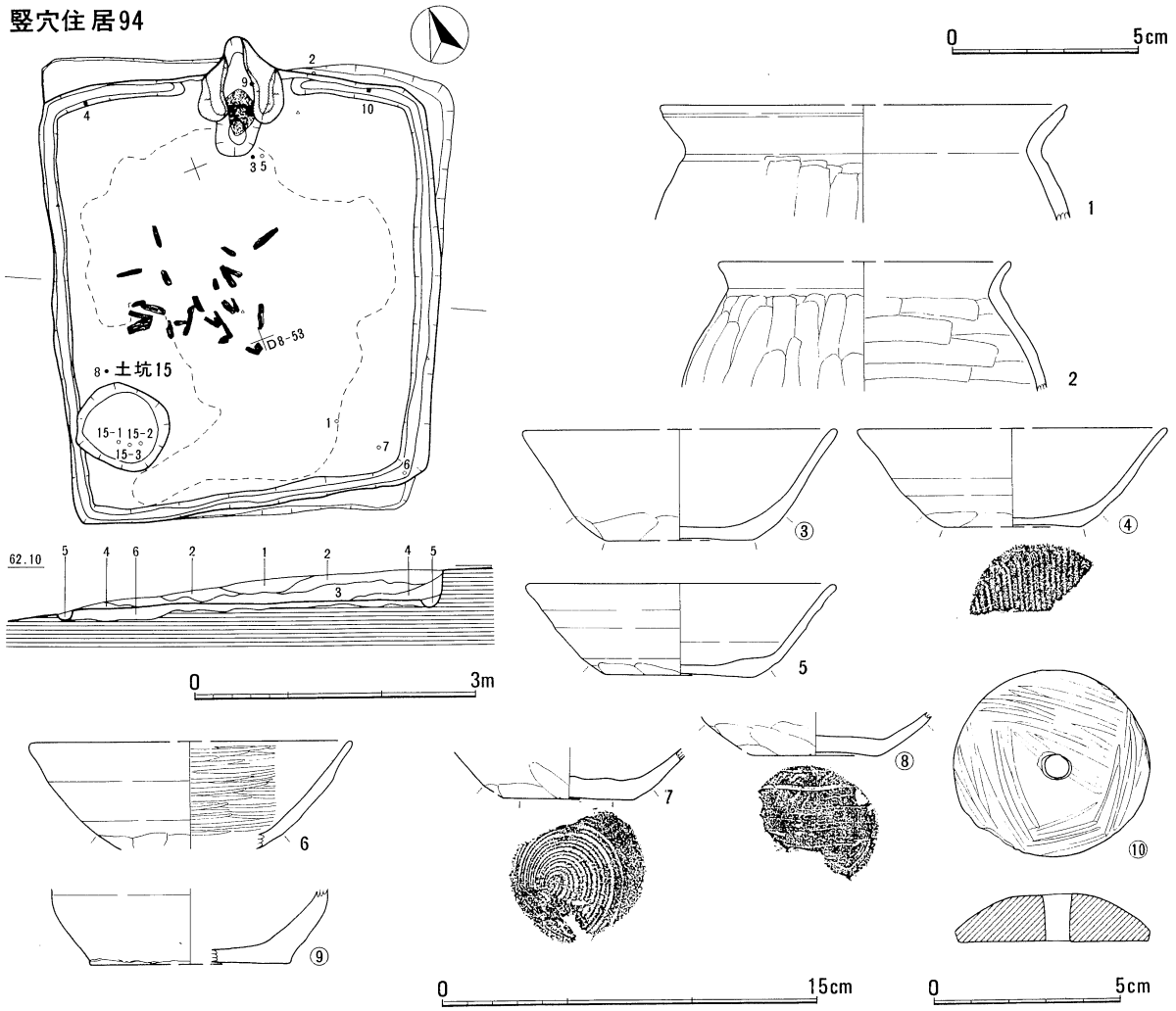
竪穴住居94（第115図） D 8区

建替 なし **規模** 4.91（主軸)×4.21m 確認面19.24m² 床面17.66m² **主軸方位** N－20°－E **残存壁高** 0～39cm **Pit** なし **カマド** 北壁。袖は、基部を黒褐色土とし、その上部に粘土を主体とする構築材を積み上げる。壁外へ張り出す。煙道長壁より33cm **周溝** 全周 **土層** 1層、黒褐色土、スコリア多 2層、褐色土 3層、黒褐色土、炭化物多、焼土少 4層、暗黄褐色

竪穴住居93



竪穴住居94



第115図　竪穴住居93・94

土、ローム主体、粒状　5層、黄褐色土、ロームブロック主体　6層、黒褐色土、ロームブロックを混合

遺物　土器は、土師器甕2点、土師器杯7点であり、3・4・8・9が床面上およびカマド内焚口部より出土。10は土製の紡錘車であり、器面は粗くミガキが施される。径5.2cm、高さ1.3cm、孔径0.7～0.85cm、重さ35gを測る。にぶい橙色を呈す。他に床面より1点、覆土より3点スラグが検出されている。

備考　土坑15と重複。重複関係不明。土器からも時期差は明瞭ではなく、本遺構に伴う可能性もある。本遺構は斜面部にあたり、確認時範囲は明瞭ではなかった。北・南側壁は若干掘りすぎている。最終的には周溝によって範囲を確定。V期。

竪穴住居95（第116図）　F7区

建替　1回。A・B。主柱穴重複　**規模**　A5.00(主軸)×5.32m　確認面A26.86m²　床面A24.36m²　内区A6.67m²　B5.45m²　**主軸方位**　AN－50°－E　**残存壁高**　3～48cm　**Pit**　AP_1～P_5　BP_1・P_3・P_6・P_7　$P_1$45cm　$P_2$75cm　$P_3$61cm　$P_4$66cm　$P_5$23cm　$P_6$47cm　$P_7$34cm　**カマド**　東壁。袖は、山砂・粘土を構築材とする。煙道長53cm。Bカマドについては不明確であるが、東壁中央部床面に焼土ブロック、山砂が若干認められたことから、Aカマド南側にあった可能性が考えられる　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、2層、明黒褐色土、焼土、炭化物多含　3層、黄褐色土、焼土若干　4層、黒褐色土、しみ状にソフトローム混合

遺物　土器は、土師器甕1点、土師器杯4点、須恵器蓋2点であり、1・2・5が床面上より出土している。8は鉄製刀子であり、現存長13.1cm、幅1.55cm、厚さ0.35cm、重量11.5gを測る。9は磨石あるいは石臼としての利用が想定され、全面が平滑化している。安山岩製であり、15.6×10.4cm、厚さ4.2cm、重量1390gを測る。8・9とも覆土より出土している。他に覆土より2点スラグが出土している。

備考　西側は確認調査坑である。火災をうけたと推定される。IIIa期。

竪穴住居96（第117図）　F7区

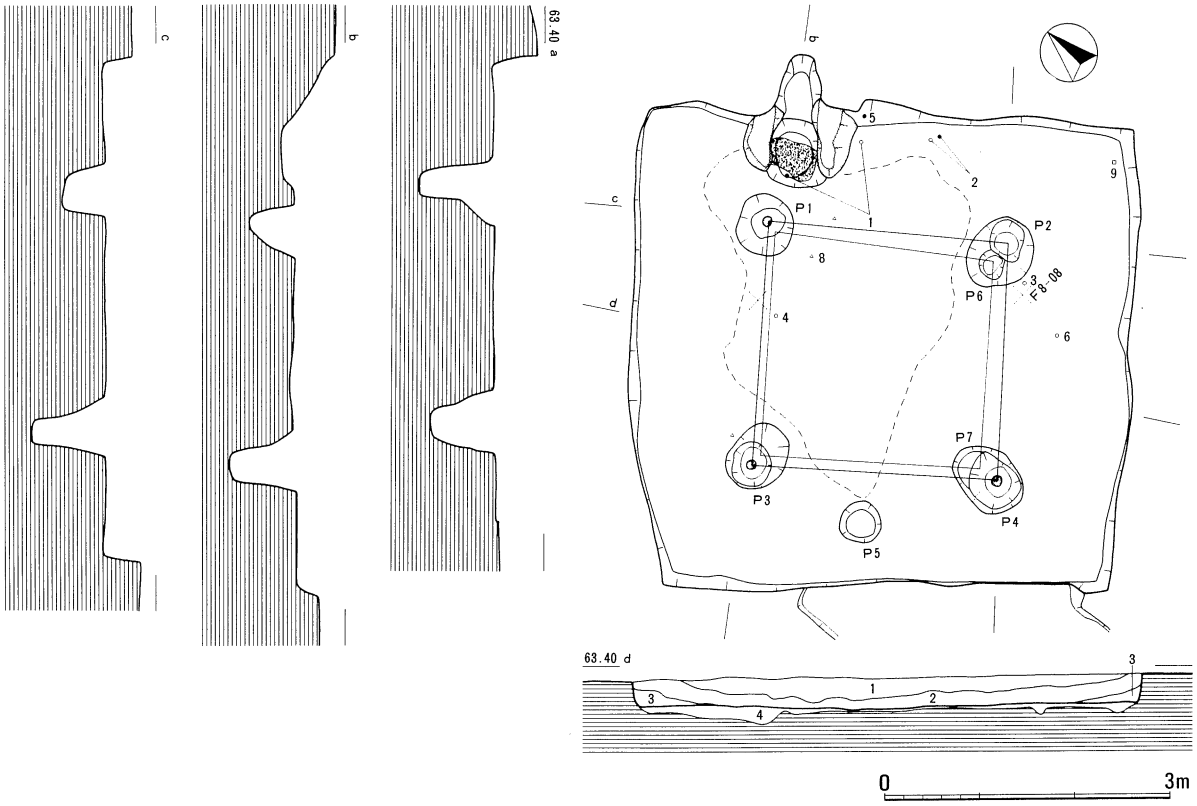
建替　なし　**規模**　3.49(主軸)×3.87m　確認面13.32m²　床面(10.98)m²　**主軸方位**　N－19°－E　**残存壁高**　28～34cm　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。焼土を含む山砂範囲が認められたが、袖、火床面とも不明瞭　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土を地層とし、大小ロームブロック多含　2層、黒褐色土、山砂、大小ロームブロックなど全体にブロック状に混合　3層、黒褐色均質土　4層、暗黄褐色土　5層、ロームブロック主体　1・2層は埋めもどしか

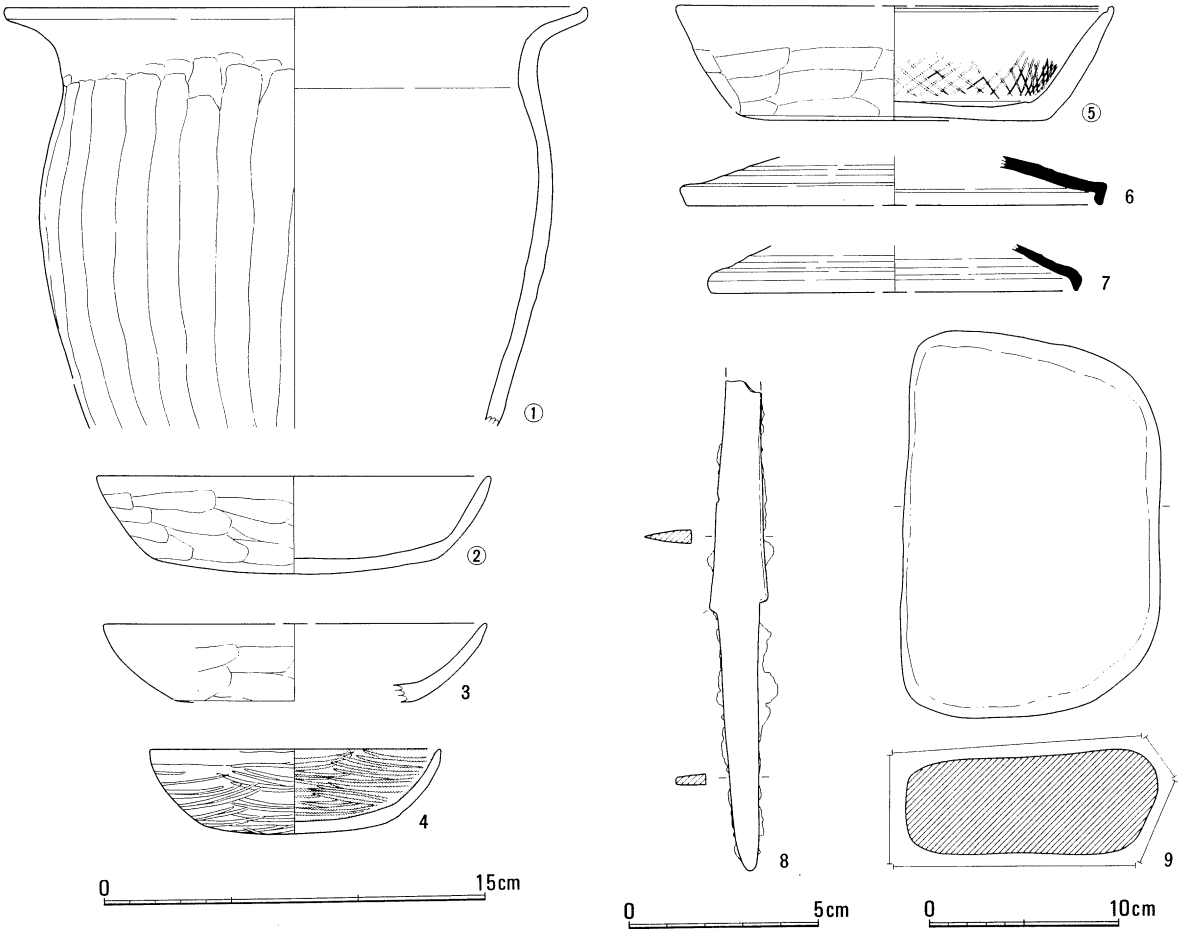
遺物　土師器椀・高杯各1点のみである。覆土上層より出土。

備考　全体として生活痕に乏しい。床面も中央部がやや硬質であったものの、全体として軟質であった。時期不明。

竪穴住居97（第117図）　F7区

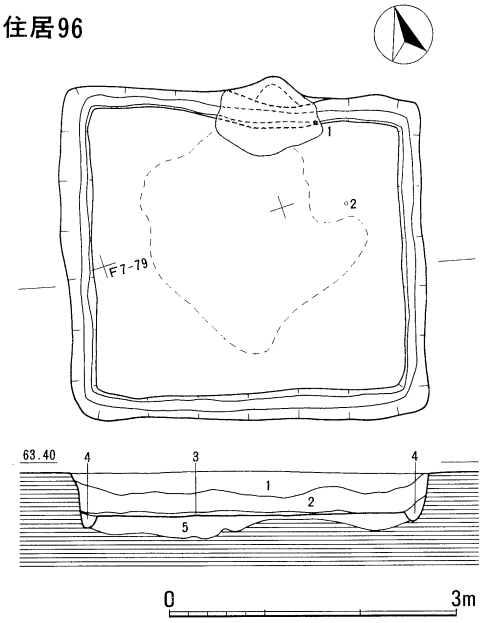
建替　なし　**規模**　4.08(主軸)×4.17m　確認面17.18m²　床面14.80m²　内区5.98m²　**主軸方位**　N－9°－W　**残存壁高**　26～54cm　**Pit**　$P_1$44cm　$P_2$39cm　$P_3$35cm　$P_4$44cm　**カマド**　北壁。袖は山砂を用材とし、壁外へ張り出す。煙道長は壁より47cm　**周溝**　全周　**土層**　1層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　2層、褐色土　3層、2層に似るがロームブロック混合　4層、黒褐

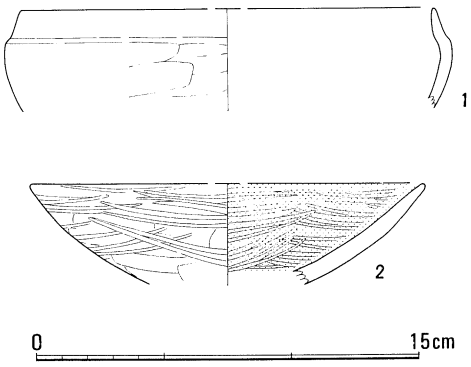




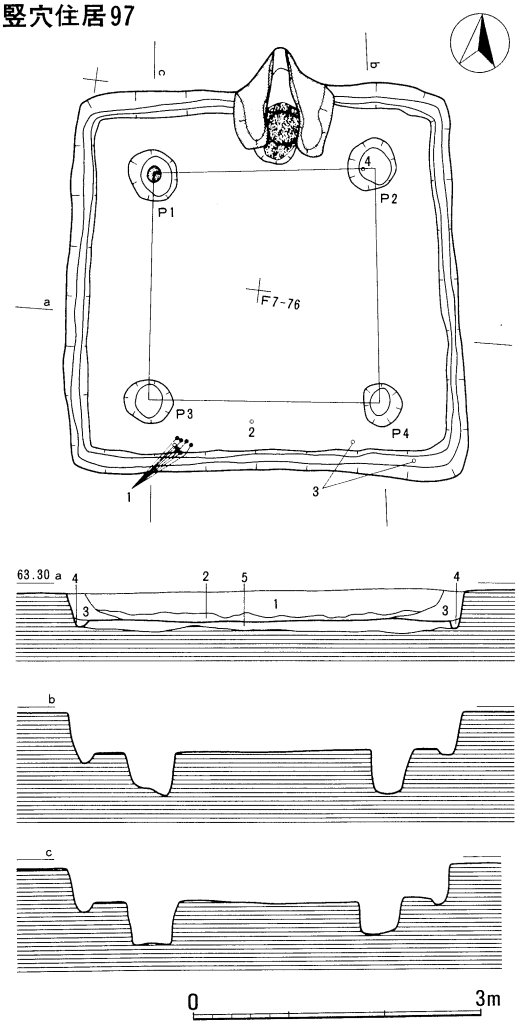
第116図　竪穴住居95

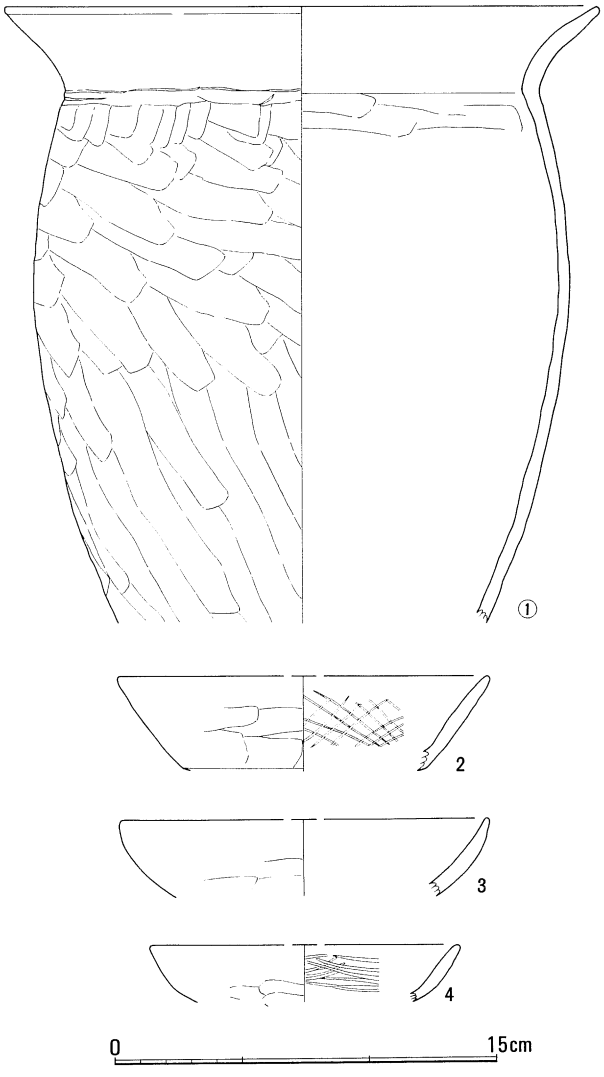
竪穴住居96





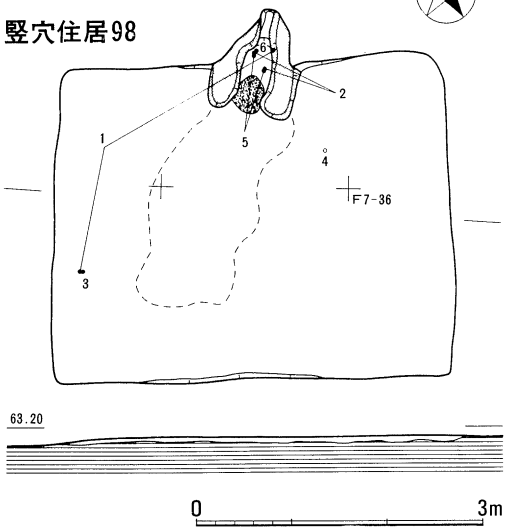
竪穴住居97

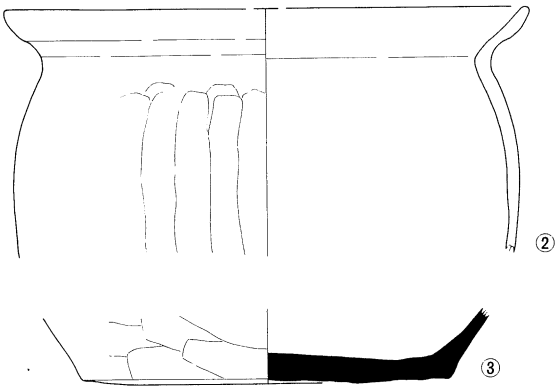


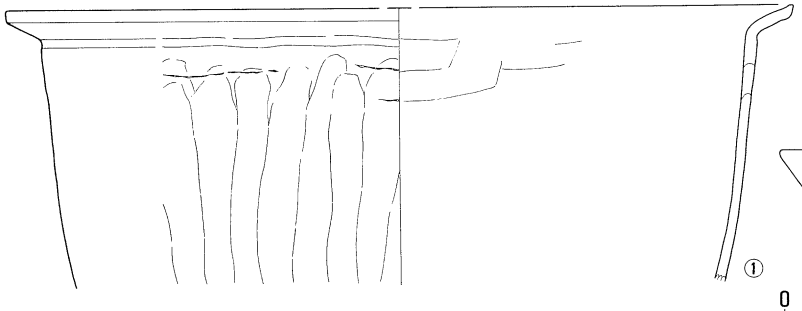


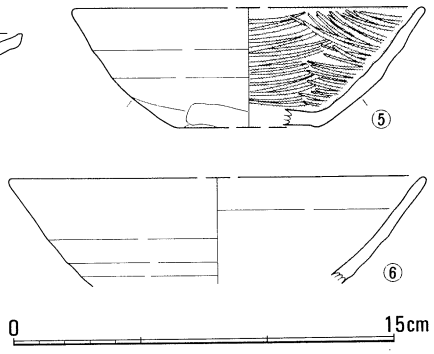
第117図　竪穴住居96・97

竪穴住居98

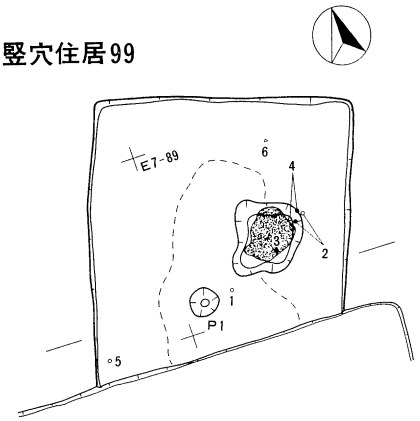


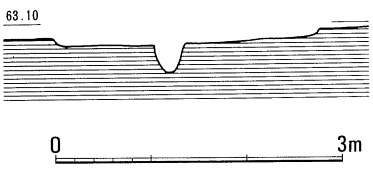


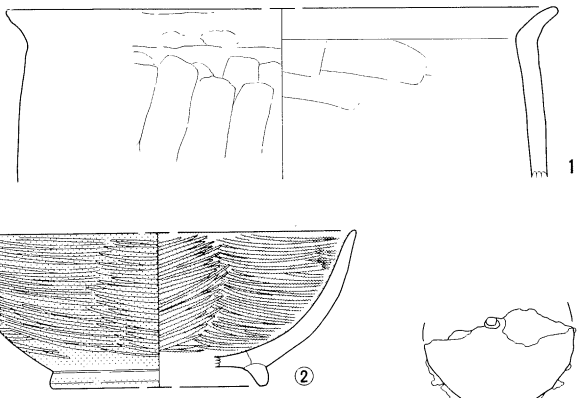


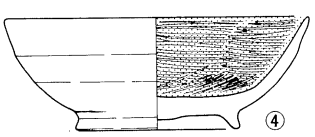


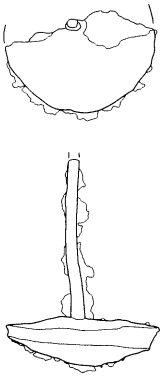
竪穴住居99











第118図　竪穴住居98・99

色土、ロームを粒状に混合　5層、黒褐色土、ローム混合

遺物　土器は、土師器甕1点、土師器杯3点であり、1が床面上より出土している。

備考　床は全体に硬質であった。III a 期。

竪穴住居98（第118図）　F 7区

建替　なし　　**規模**　(3.40)(主軸)×(4.23)m　確認面(14.60)㎡　床面(13.62)㎡　　**主軸方位**　N－1°－E　　**残存壁高**　0～12cm　　**Pit**　なし　　**カマド**　北壁。袖は山砂を主とし、壁外へ張り出す。煙道長は壁より60cm。火床面、袖側面ともよく焼けていた　　**周溝**　なし　　**土層**　貼り床部は黒褐色土を主体とする

遺物　土師器甕1点、土師器甑1点、土師器杯3点、須恵器1点であり、1～3・5・6がカマド焚口内より出土している。

備考　周辺他住居に比べて掘りこみが浅く、確認時に床面がほぼ露呈してしまった。また竪穴範囲も掘形において推定したものであるが、確実性を欠く。カマドを基準とするならば、主軸は東側へ振れる。V期。

竪穴住居99（第118図）　E 7区

建替　なし　　**規模**　3.11以上(長軸)×2.76m　　**長軸方位**　N－19°－E　　**残存壁高**　3～16cm　**Pit**　$P_1$31cm　　**カマド**　なし　　**炉**　74×73cm、深さ5cm、底面はよく焼けている　　**周溝**　なし　**土層**　床面上、炭化物、焼土堆積

遺物　土器は土師器甕1点、土師器高台付椀4点であり、2～4が床面上より出土。6は鉄製紡錘車である。紡輪径3.95cmであり、錆により肥厚する。現存長5.5cm、重量11.1gを測る。覆土より出土。

備考　南側は確認調査坑である。確認調査段階では検出することができなかったため、掘り下げてしまった。床面はロームに達していない。貼り床は認められなかった。火災をうけたことが想定される。IV期。

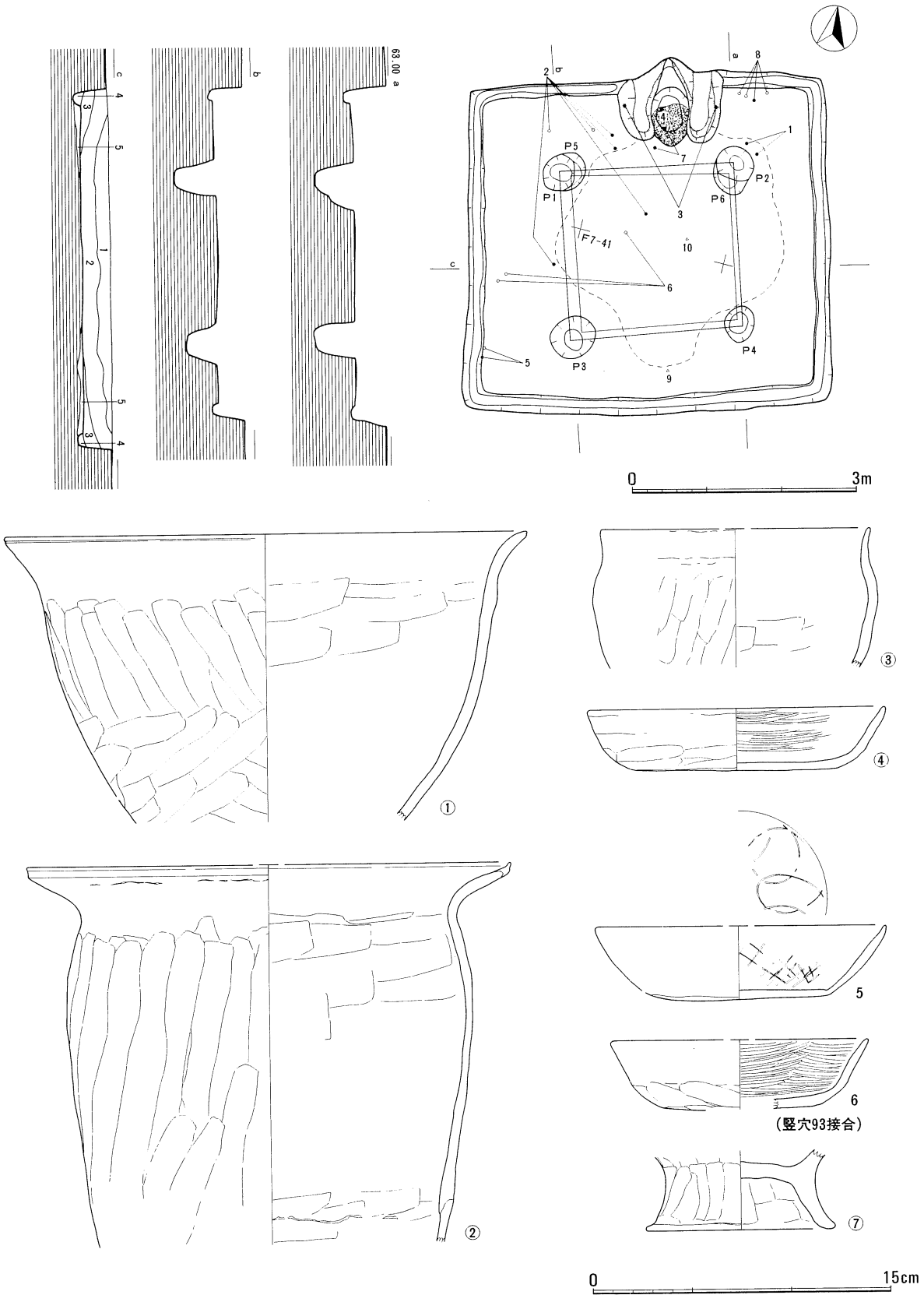
竪穴住居100（第119・120図）　F 7区

建替　1回。A・B。主柱穴重複　　**規模**　A4.57(主軸)×4.95m　確認面A22.67㎡　床面A20.05㎡　内区A5.49㎡　B4.51㎡　　**主軸方位**　AN－15°－W　　**残存壁高**　33～46cm　　**Pit**　A P_1～P_4　B P_3～P_6　$P_1$59cm　$P_2$54cm　$P_3$44cm　$P_4$57cm　$P_5$37cm　$P_6$32cm　　**カマド**　A北壁。袖は山砂を主とし、小礫、ロームブロック等を構築材とする。Bカマドは痕跡として不明確であった。

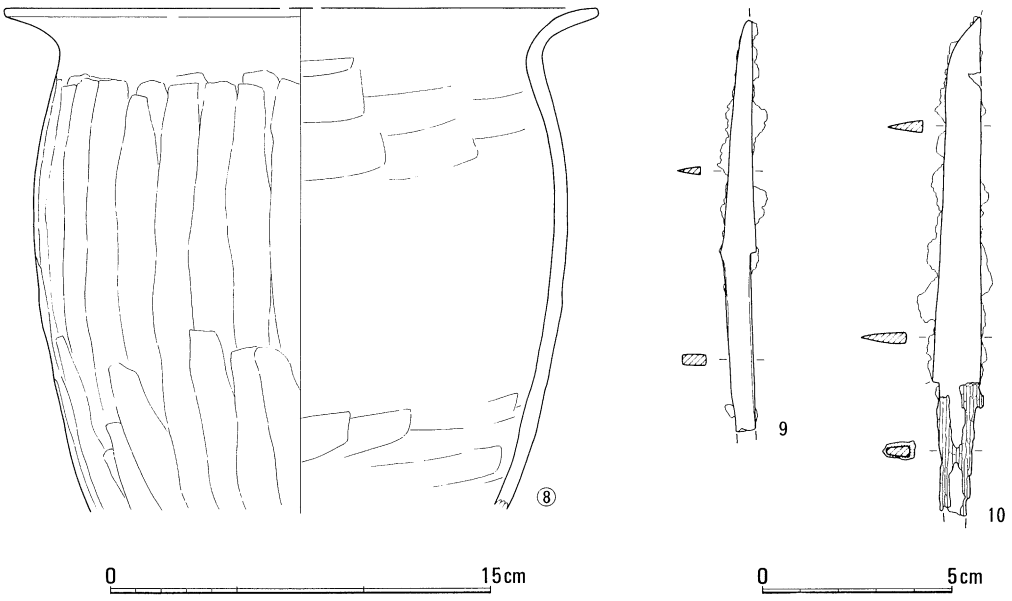
周溝　全周　　**土層**　1層、明黒褐色土、褐色土混合強　2層、黒褐色土を地層とし、焼土、炭化物を多量に混合する　3層、暗黄褐色土、粒状、焼土少　4層、ロームブロック主体　5層、黒褐色土、ロームをブロック状に混合

遺物　土器は土師器鉢・甕4点、土師器杯3点他である。床面上およびカマド焚口内より出土したものは、1～4・7・8である。なお覆土下層より出土した6は、竪穴住居93と接合関係をもつ。9・10は鉄製刀子である。9は茎を欠損する。現存長10.9cm、幅0.95cm、厚さ0.35cm、重量8.2gを測る。10は茎を欠損する。木質を遺存する。両関であり、現存長13.2cm、幅1.3cm、厚さ0.35cm、重量13.6gを測る。9・10は覆土より出土。

備考　火災をうけたと考えられるが、壁側では間層をはさむ。床面中央部はロームを削りだして床とし、周辺部のみ若干掘り下げる。III a 期。



第119図　竪穴住居100(1)



第120図　竪穴住居100(2)

竪穴住居101（第121・122図）Ｄ７区

建替　１回。Ａ・Ｂ。主柱穴重複。旧周溝　**規模**　Ａ4.91(主軸)×5.43m　Ｂ4.91(主軸)、5.37(張り出し部含)×5.25m　確認面Ａ26.94㎡　Ｂ26.91㎡　床面Ａ24.53㎡　内区Ａ6.71㎡　Ｂ4.35㎡　**主軸方位**　ＡＮ－71°－Ｅ　ＢＮ－71°－Ｅ　**残存壁高**　12～36cm　**Pit**　$A P_1 \sim P_4$　$B P_5 \sim P_8$　$P_1$55cm　$P_2$52cm　$P_3$51cm　$P_4$55cm　$P_5$59cm　$P_6$56cm　$P_7$62cm　$P_8$59cm　$P_9$41cm　**カマド**　東壁。袖は山砂・粘土を主体とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より80cm。カマド掘形は大きく、Ａ・Ｂの重複関係は明瞭に認められなかった。同位置か　**周溝**　Ｂ全周　**土層**　１層、黒褐色土、褐色土、スコリア混合　２層、黒褐色土、１層に似るがやや明、褐色土少　３層、明黒褐色土、山砂、ロームブロックを局部的に含む　４層、２層に似る　５層、黒褐色均質土　６層、ロームブロック主体　７層、明黒褐色土、しみ状にソフトローム混合

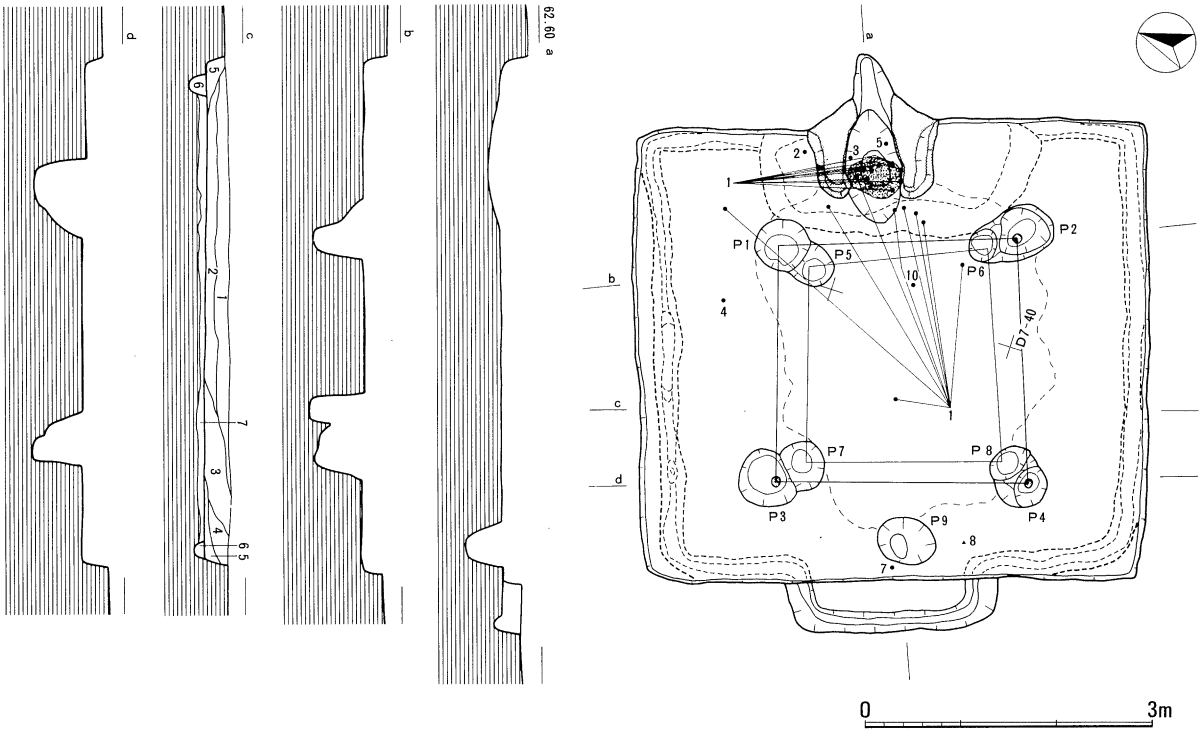
遺物　土器は、土師器甕４点、土師器杯３点、須恵器杯２点であり、６を除きカマド焚口部、床面上より出土している。８は鉄製品であり鎌か。現存長5.4cm、幅1.95cm、厚さ0.2cm、重量7.7ｇを測る。なおスラグ小片が床面上より1点出土している。

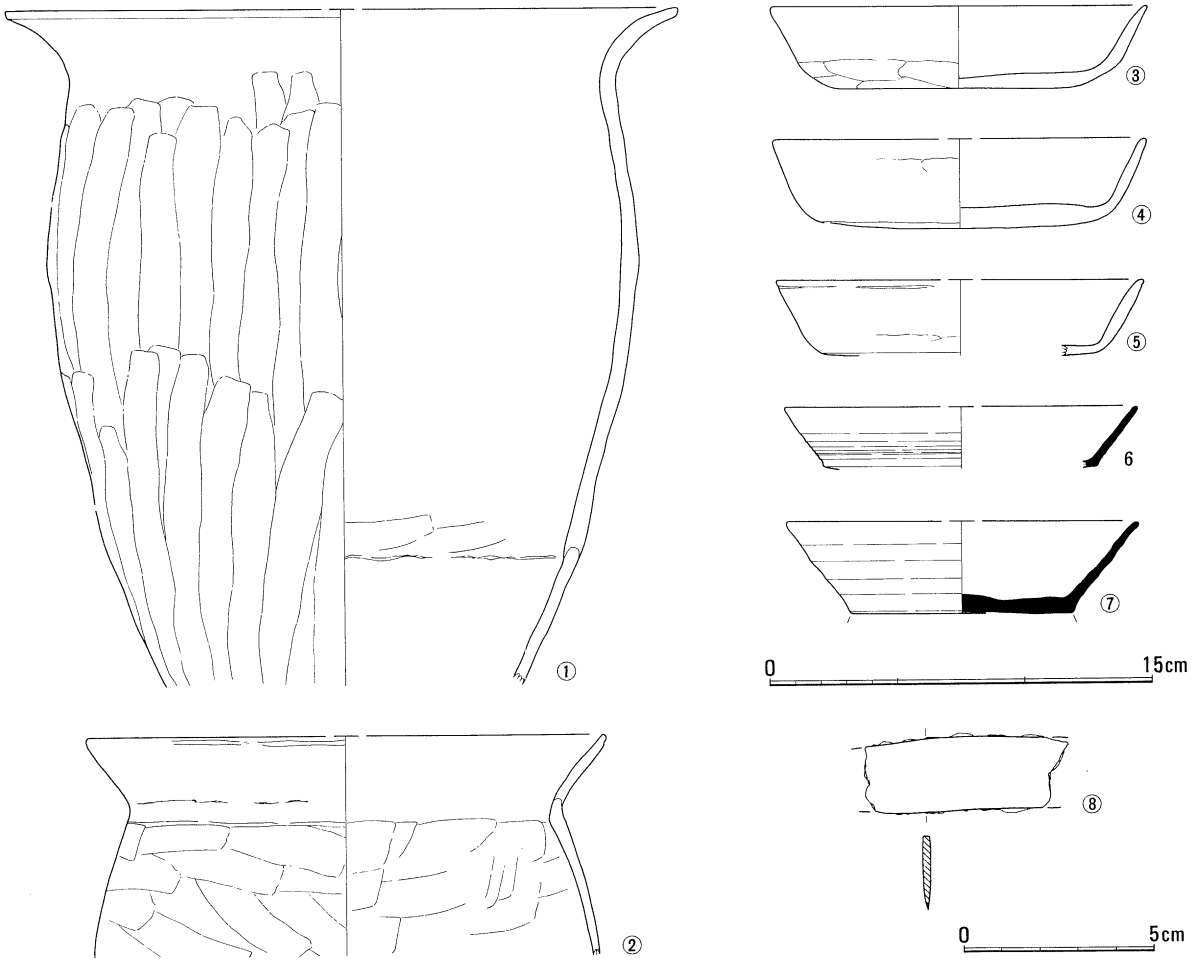
備考　床は、全体的に硬質であった。周溝はＡ住居には対応しない。張り出し部は周溝が連結しＢにのみ伴うものと判断した。ただし張り出し部覆土の状況等を観察することができなかったため、不確実である。なおＡ段階において全体の掘り直しは認められず、床面はＡ・Ｂ共通するものと考えられる。Ⅲａ期。

竪穴住居102（第122図）Ｄ７区

建替　なし　**規模**　3.69(主軸)×3.84m　確認面13.94㎡　床面11.87㎡　**主軸方位**　Ｎ－8°－Ｗ　**残存壁高**　20～45cm　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。袖は、山砂・粘土を構築材とする。煙道長40cm　**周溝**　全周　**土層**　１層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　２層、黒褐色土　３層、黒褐色土を地層とし、焼土、炭化物を多量に混合する　４層、暗黄褐色、粒状　５層、４層に似るがブロック状　６層、暗黄褐色土、ソフトローム主体

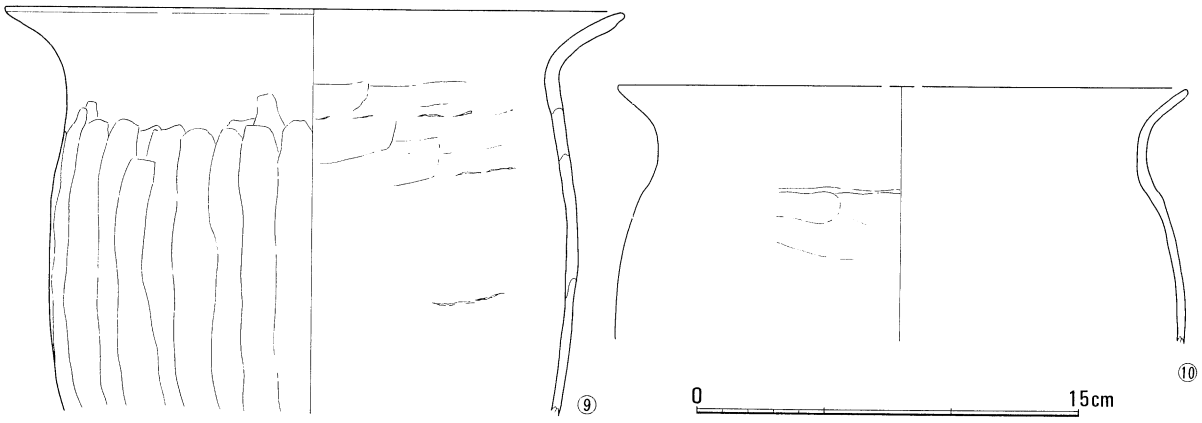
遺物　土器は、土師器甕１点、土師器杯２点、須恵器杯１点、須恵器高盤１点であり、１・３～５が



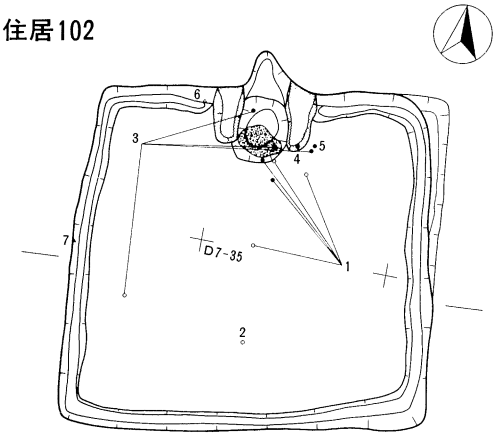


第121図　竪穴住居101(1)

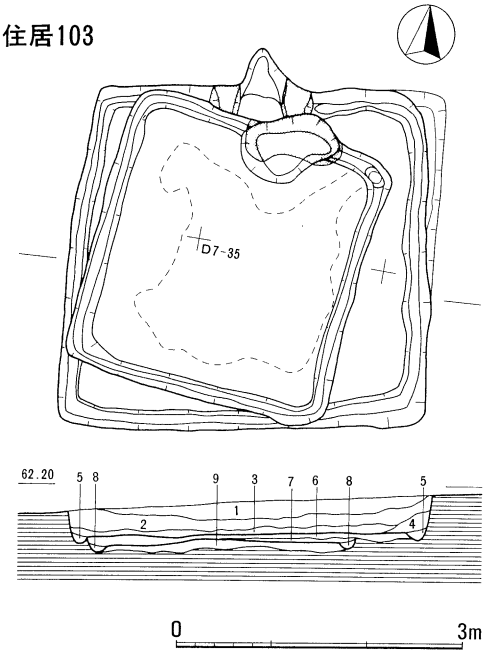
竪穴住居101

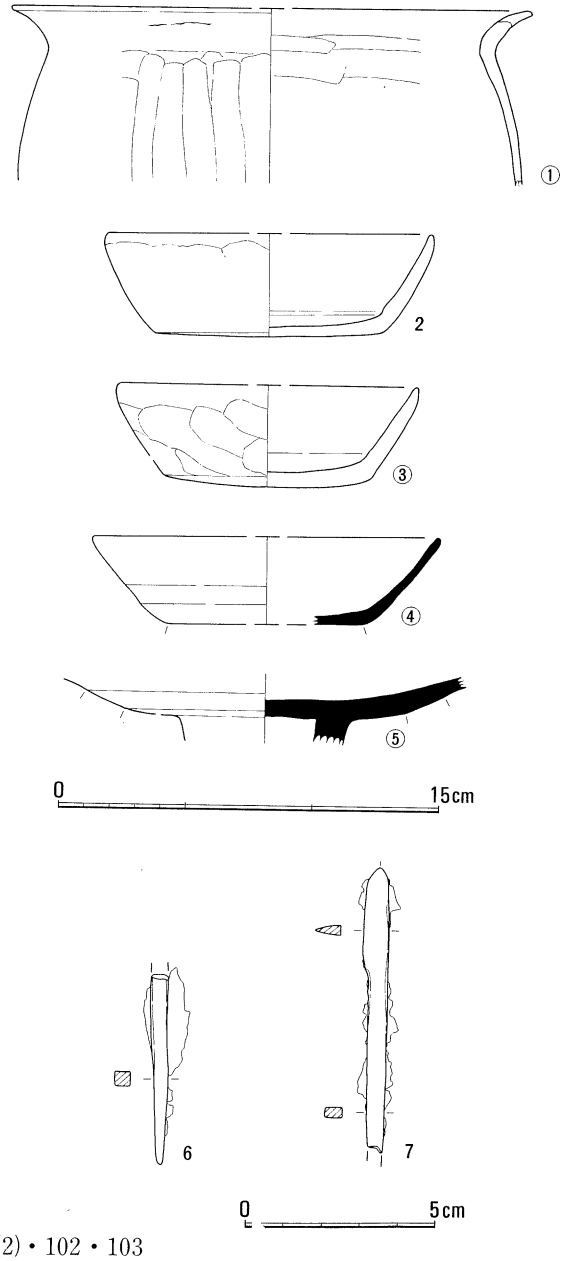


竪穴住居102

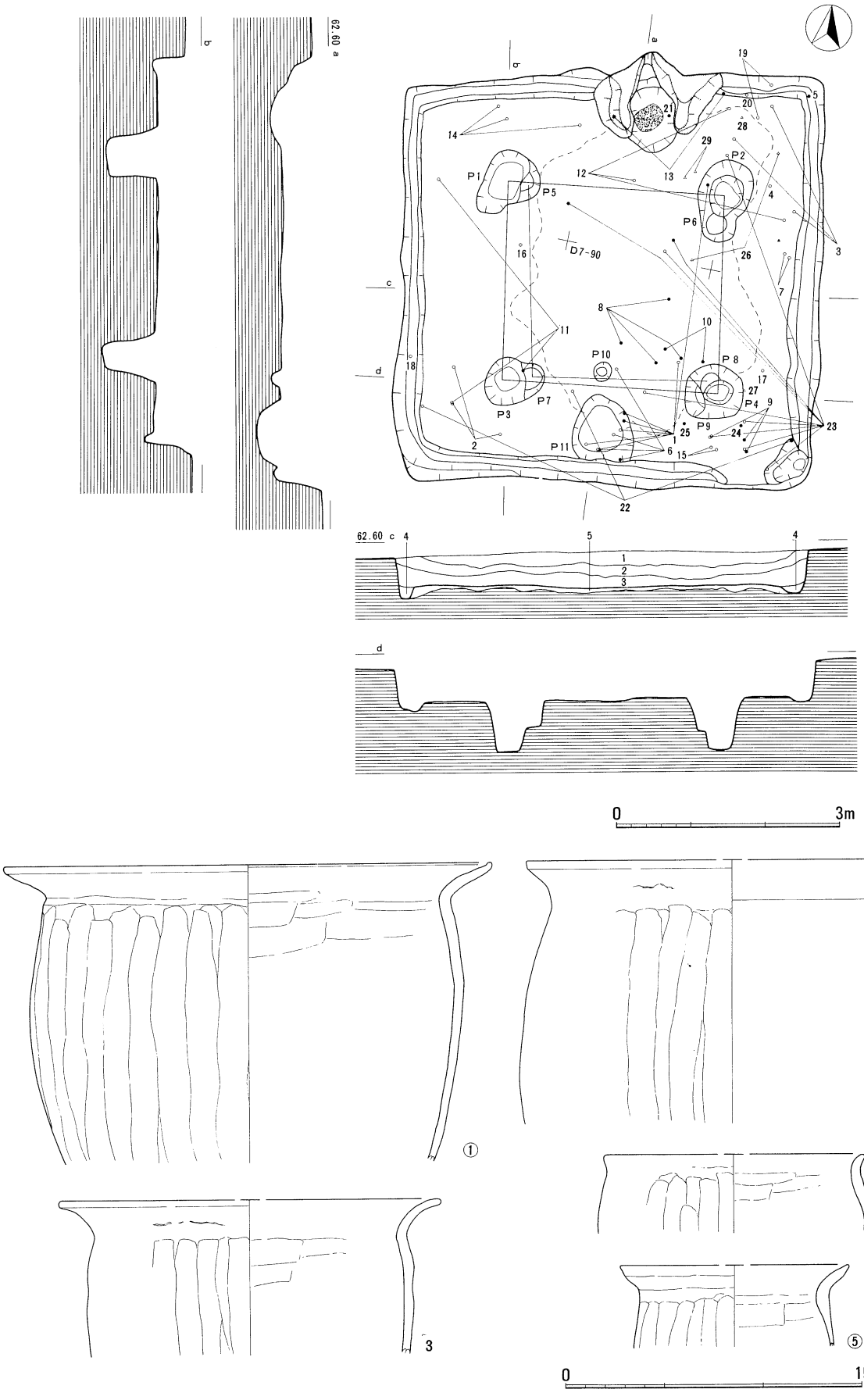


竪穴住居103





第122図　竪穴住居101(2)・102・103



第123図　竪穴住居104(1)

カマド焚口内、床面上より出土。6は鉄鏃茎か。現存長5.1cm、幅、厚さ0.5cm、重量3.1gを測る。7は長頸の片刃箭形式鏃であり、現存長7.6cm、幅0.7cm、厚さ0.3cm、重量4.8gを測る。

備考　竪穴住居103と重複。本遺構が新。床は全体的に硬質であった。火災。IIIb期。

竪穴住居103（第122図）D7区

建替　なし　**規模**　3.04(主軸)×2.84m　確認面8.75m²　床面7.62m²　**主軸方位**　N－7°－E　**残存壁高**　5～12cm(竪穴住居102床面との比高)　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。袖範囲、火床面等明確に検出することができなかった。山砂・粘土範囲、カマド掘形を図示　**周溝**　全周　**土層**　7層、黒褐色均質土　8層、暗黄褐色土、粒状　9層、ローム主体

遺物　土師器細片数片のみ

備考　竪穴住居102と重複。竪穴102掘形面と本遺構床面は間層をはさむ(7層)。時期不明。

竪穴住居104（第123・124図）D7区

建替　1回(以上)。A・B。主柱穴重複　**規模**　A5.51(主軸)×5.76m　確認面A32.02m²　床面A28.21m²　内区A8.02m²　**主軸方位**　AN－10°－W　**残存壁高**　39～54cm　**Pit**　AP_1～P_4・P_{11}　B対応不明　$P_1$66cm　$P_2$67cm　$P_3$69cm　$P_4$69cm　$P_5$46cm　$P_6$42cm　$P_7$41cm　$P_8$62cm　$P_9$40cm　P_{10}21cm　P_{11}31cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土主体。やや範囲は不明確。壁外へ張り出す　**周溝**　全周　**土層**　1層、黒褐色土、しみ状に褐色土混合、スコリア多　2層、明黒褐色土、褐色土混合強、焼土　3層、黒褐色土、焼土、炭化物多量に混合　4層、暗黄褐色土　粒状5層、黒褐色土、ロームブロックを全体に混合

遺物　土器は、土師器甕7点、土師器杯8点、須恵器甕5点、須恵器蓋1点、須恵器杯3点、須恵器長頸壺1点であり、1・5・6・8～11・13・21～25が床面上ないしはカマド焚口部内より出土している。26～29は鉄製品であり、覆土より出土している。26は刀子である。現存長8.7cm、幅1.05cm、厚さ0.3cm、重量6.2gを測る。27は長頸腸抉三角形式である。茎を欠く。現存長7.1cm、幅3.65cm、厚さ0.4cm、重量19.6gを測る。28は鉇である。現存長4.65cm、幅0.85cm、厚さ0.3cm、重量3.8gを測る。29は長頸腸抉三角形式であり、茎先端を欠く。現存長13.2cm、幅4.75cm、厚さ0.4cm、重量21.5gを測る。他に不明鉄製品小片が床面上より1点、覆土より3点出土している。

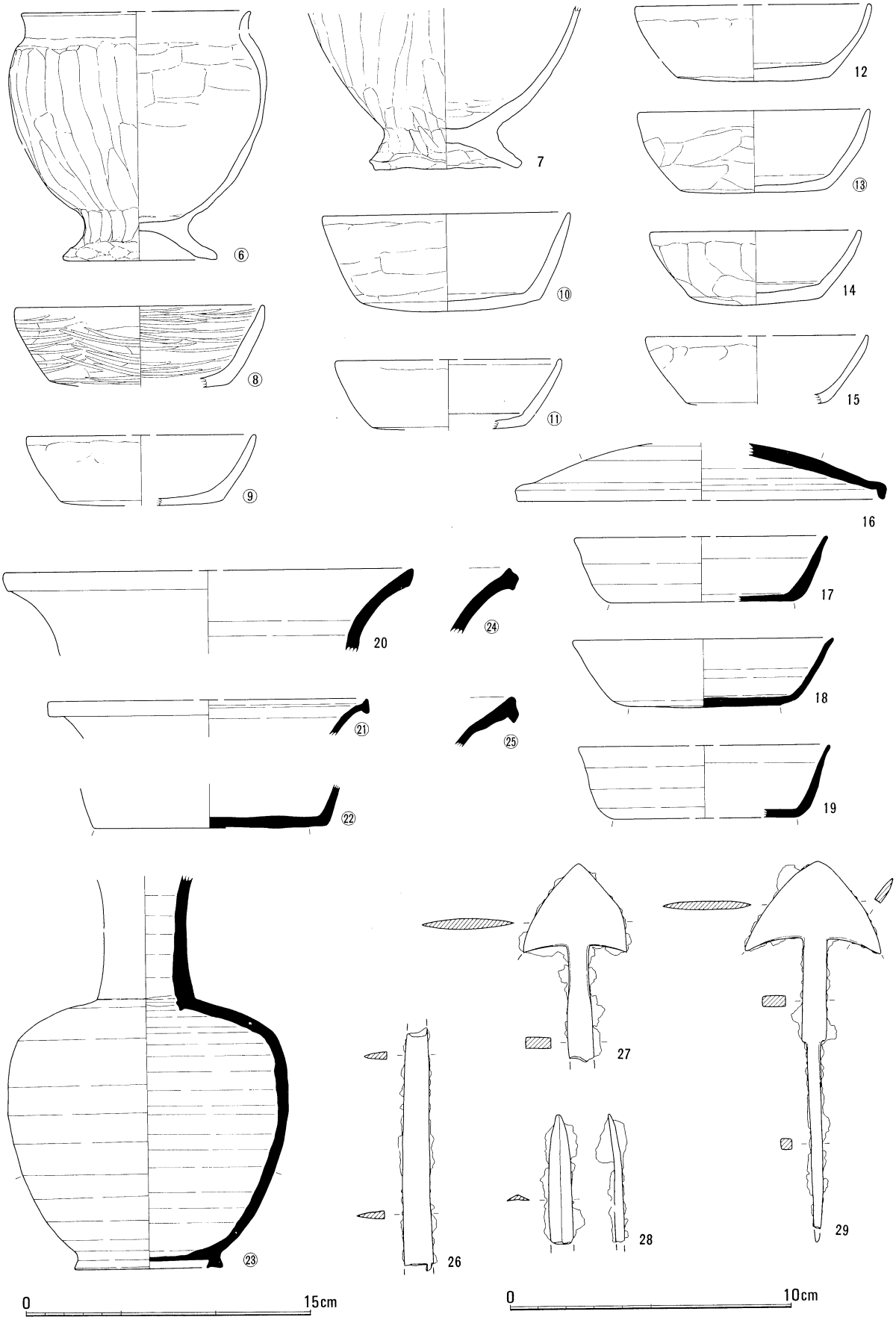
備考　建替は一応1回と考えたが、B主掘穴は不ぞろいであり特定できない。またP_4・P_8・P_9をみるかぎり建替2回の可能性も考えられる。基本的には、いずれの主柱穴もほぼ同位置において建替えられている。なお竪穴掘形では建替は判断できない。火災をうけたと考えられる。IIIb期。

竪穴住居105（第125・126図）E6区

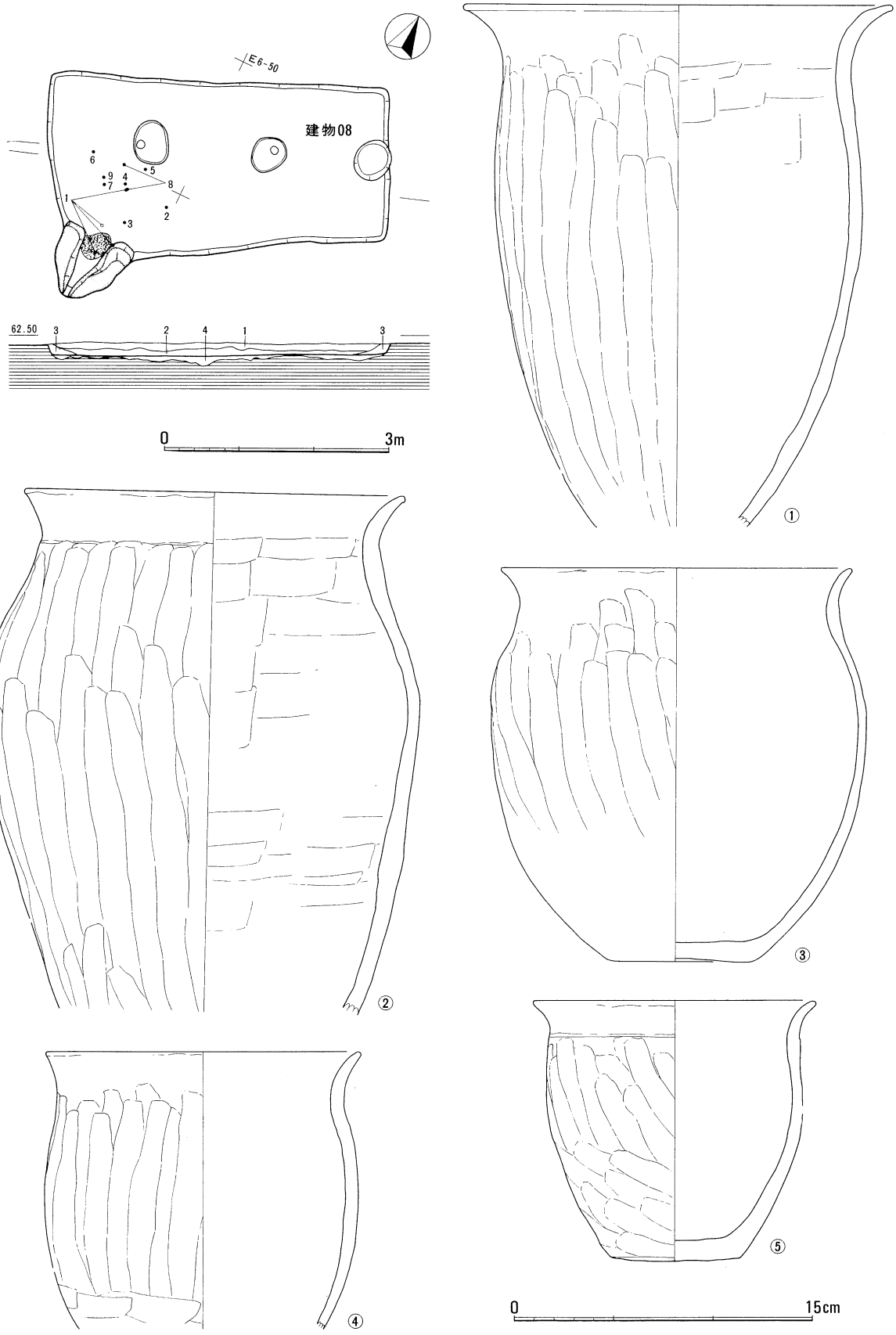
建替　なし　**規模**　4.59（長軸)×2.30（短軸中央）m　確認面9.94m²　床面8.63m²　**長軸方位**　N－63°－E　**残存壁高**　14～37cm　**Pit**　なし　**カマド**　南西隅。北面する。袖は山砂・粘土を主体とし、壁外へ張り出す　**周溝**　なし　**土層**　1層、明黒褐色土、褐色土を全体に混合する　2層、黒褐色均質土、焼土がブロック状に局部的に認められた　3層、明黒褐色土、やや粒状、しまりなし　4層、ソフトローム主体、黒褐色土をブロック状に混合

遺物　土器は、土師器甕6点(6は転用甑か)、土師器椀・杯3点である。カマド前面を中心として出土し、いずれも本遺構に伴うものと考えられる。他に1点、確認面レベルより、鉄器小片が出土している。

備考　掘立柱建物08と重複。本遺構が古。平面形態については、長台形を呈し、カマドはほぼ北面す

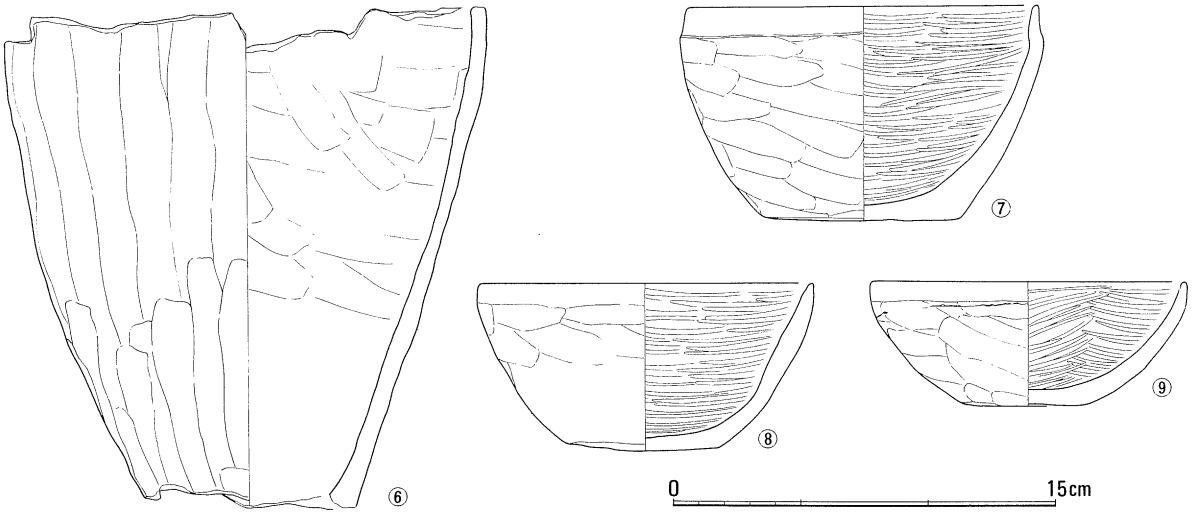


第124図　竪穴住居104(2)

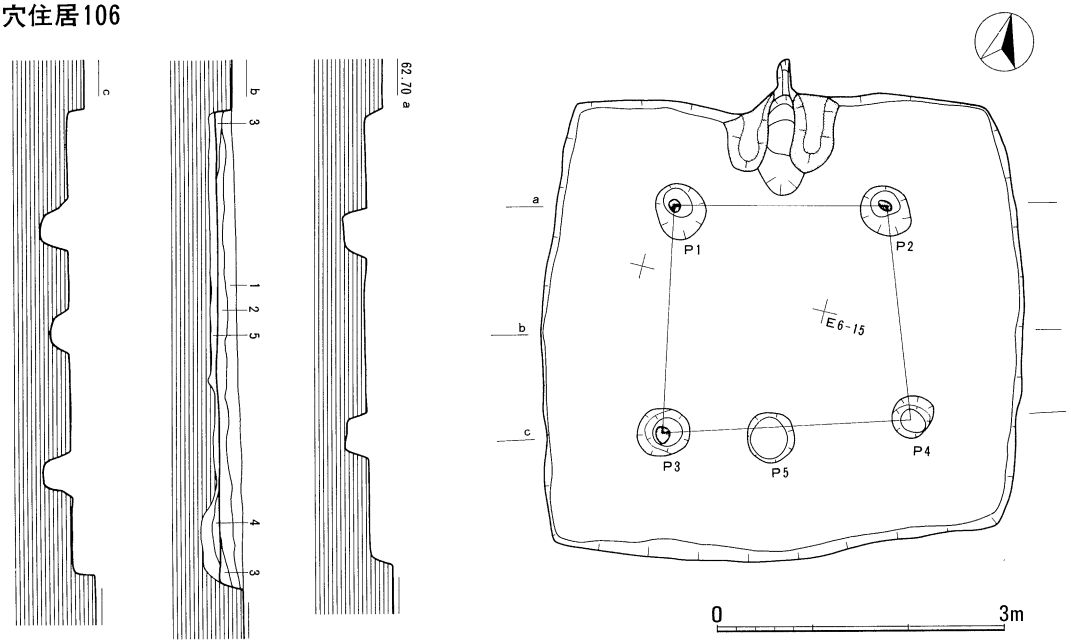


第125図　竪穴住居105(1)

竪穴住居105



竪穴住居106



第126図　竪穴住居105(2)・106

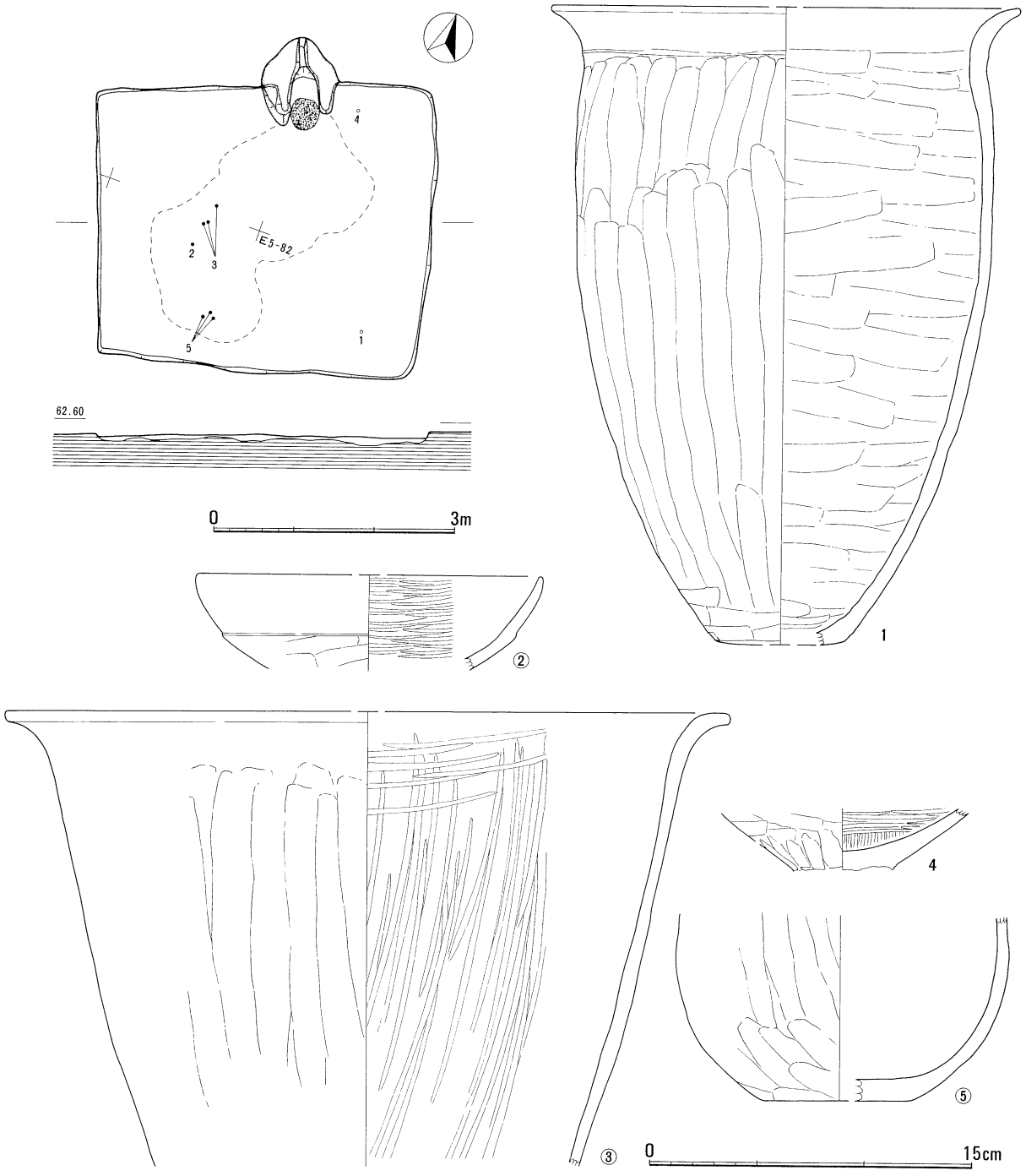
る。床は全体として軟質である。IIａ期。

竪穴住居106（第126図）Ｅ６区

建替　なし　　**規模**　4.87(主軸)×5.13m　確認面23.73m²　床面21.40m²　内区5.87m²　　**主軸方位**　Ｎ－11°－Ｗ　　**残存壁高**　16～31cm　　**Pit**　$P_1$26cm　$P_2$22cm　$P_3$27cm　$P_4$26cm　P_5（梯子穴）19cm　　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土主体。火床面、袖両側面ともあまり焼けてはおらず、焼土の堆積もほとんど認められなかった。煙道長40cm　　**周溝**　なし　　**土層**　１層、黒褐色土、スコリア多　２層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　３層、ロームブロック主体　４層、黒褐色土　５層、暗黄褐色土、ローム主体

遺物　土師器甕小片が若干量出土しているのみ。

備考　床面は全体的に軟質であった。生活痕に乏しい。時期は特定できない。

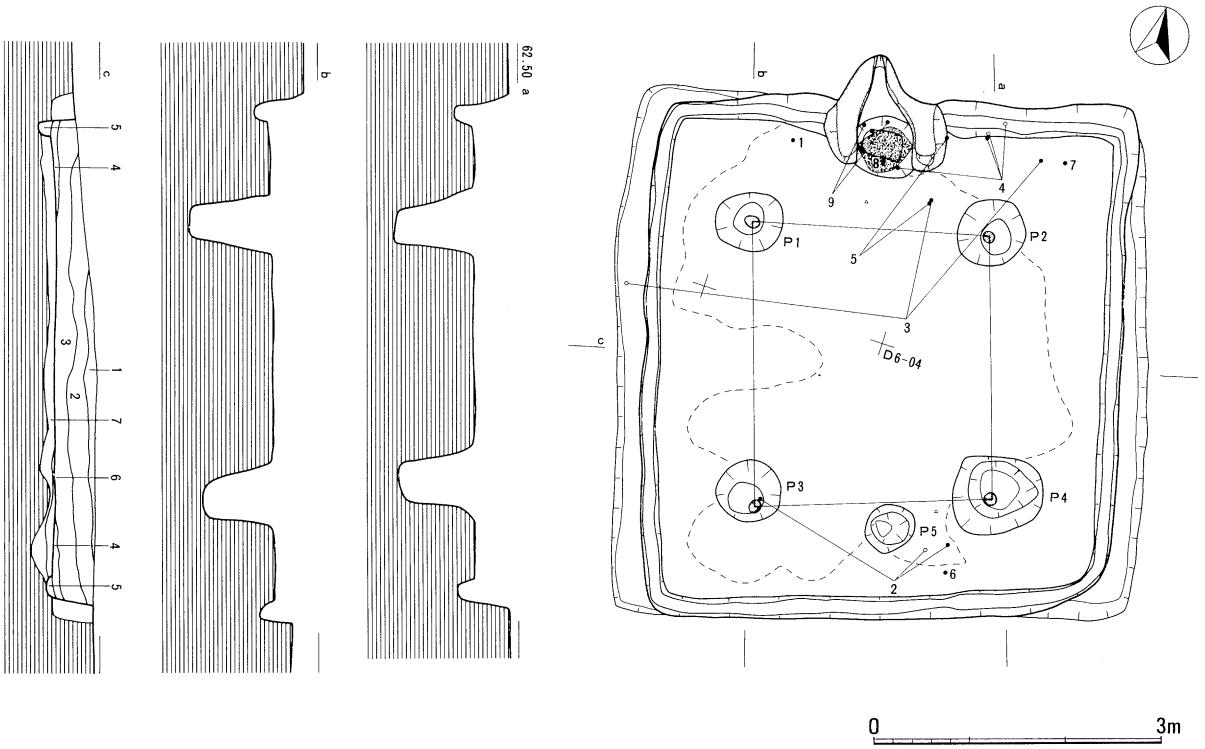


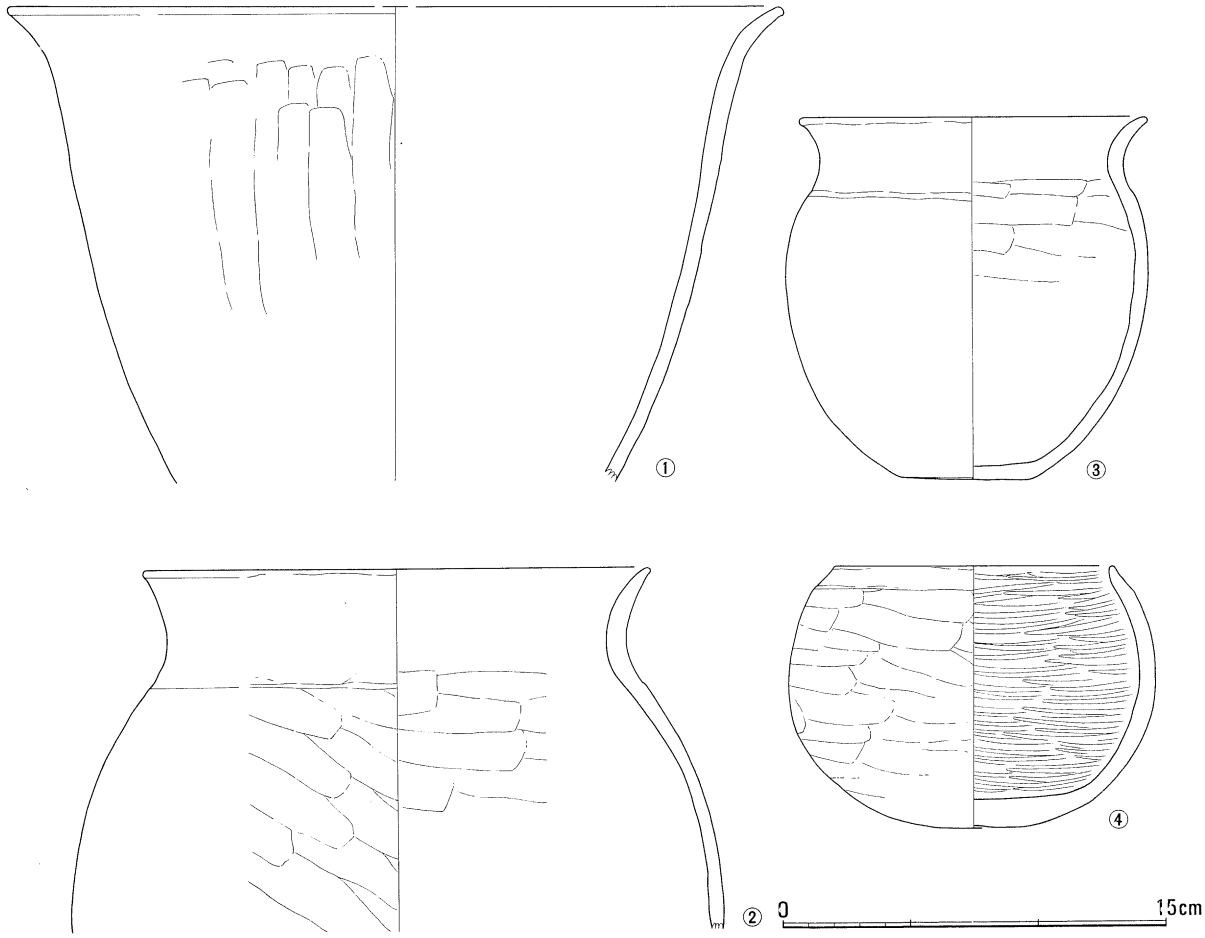
第127図　竪穴住居107

竪穴住居107（第127図）　Ｅ５区

建替　なし　　**規模**　3.64(主軸)×4.21m　確認面15.51㎡　床面14.07㎡　　**主軸方位**　Ｎ－21°－Ｗ　　**残存壁高**　２～12cm　　**Pit**　なし　　**カマド**　北壁。基部のみ遺存。全体の形状はやや不明瞭ではあるが、壁外へ大きく張り出す　　**周溝**　なし　　**土層**　床面上に焼土・炭化物層。床は黒褐色土主体

遺物　土器は、土師器甕２点、土師器甑１点、土師器椀１点、土師器高杯１点であり、２・３・５が床面上より出土している。





第128図　竪穴住居108 (1)

備考　確認作業時に一部床面露呈。掘形面がほぼローム上面に対応する。火災をうけたものと考えられる。IIａ期か。

竪穴住居108（第128・129図）　Ｄ５区

建替　なし　**規模**　5.55(主軸)×5.66m　確認面28.02㎡　床面25.64㎡　内区7.42㎡　**主軸方位**　Ｎ－18°－Ｗ　**残存壁高**　15～47cm　**Pit**　$P_1$86cm　$P_2$80cm　$P_3$72cm　$P_4$77cm　P_5（梯子穴）49cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を構築材とし、壁外へ張り出す。煙道部壁より43cm　**周溝**　全周　**土層**　１層、褐色土、山砂混合、若干の焼土粒　２層、黒褐色土、褐色土しみ状に混合　３層、明黒褐色土、焼土、炭化物多含　４層、暗黄褐色土、粒状、若干の焼土　５層、明黒褐色土、ローム混合、粒状　６層、黒褐色土　７層、ロームブロック主体　８層、暗褐色土

遺物　土器は、土師器甑１点、土師器甕２点、土師器椀１点、土師器高杯１点、土師器杯４点であり、いずれもカマド焚口内、床面上より出土している。他に支脚が３点出土しているが、いずれも遺存状態が不良で、未実測。また覆土より鉄器小片が出土している。

備考　テフラ層を確認面としたため、竪穴範囲は当初不明確であった。東西壁は掘りすぎ。周溝により竪穴範囲を確定した。火災が想定される。Ｉｂ期。

竪穴住居109（第129図）　Ｆ５区

建替　なし　**規模**　4.67(主軸)×4.21m　確認面19.62㎡　床面17.58㎡　内区5.90㎡　**主軸方位**　Ｎ－27°－Ｗ　**残存壁高**　９～24cm　**Pit**　$P_1$41cm　$P_2$52cm　$P_3$37cm　$P_4$53cm　**カマド**　北壁。袖基部は黒褐色土、その上部は山砂・粘土を構築材とする。硬質。煙道長61cm　**周溝**　なし　**土層**　１層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　２層、黒褐色均質土、スコリア多　３層、明黒褐色土、局部的にローム混合

遺物　土師器杯３点、ミニチュア土器１点であり、２が床面上より出土した。

備考　覆土局部的に焼土が認められたが、火災とは判断しなかった。主柱穴はやや不ぞろい。Ｉｂ期。

竪穴住居110（第129図）　Ｅ５区

建替　なし　**規模**　3.49(主軸)×3.75m　確認面12.64㎡　床面11.26㎡　**主軸方位**　Ｎ－15°－Ｗ　**残存壁高**　21～36cm　**Pit**　$P_1$45～69cm　$P_2$57cm　$P_3$31cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を構築材とする。火床面には若干の焼土の堆積が認められたものの、全体としてあまり焼けていない。煙道長32cm　**周溝**　ほぼ全周　**土層**　１層、明黒褐色土、焼土ブロックを若干含む　２層、黒褐色土、褐色土混合　３層、明黒褐色土、ロームブロック含　４層、暗黄褐色土、ロームブロック多　５層、黒褐色土主体

遺物　土師器杯３点。いずれも２層より出土。他に凝灰岩製の砥石小片１点床面上より出土。

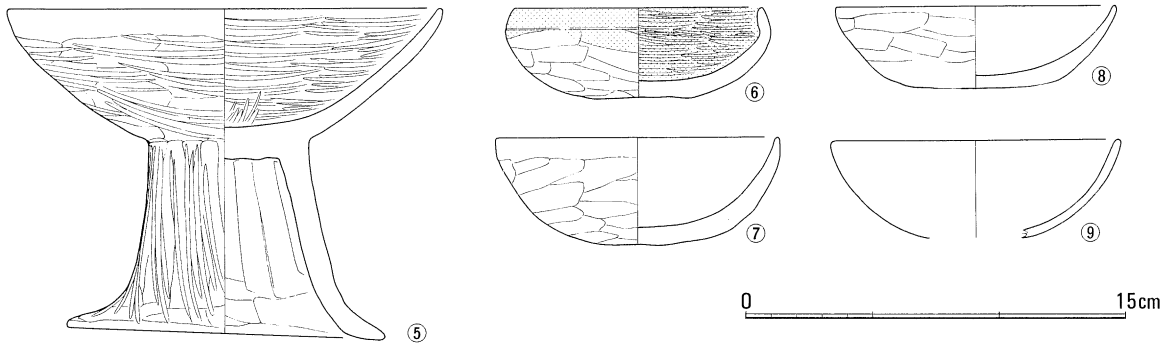
備考　２本主柱穴（P_1・P_2）か。北西隅、南東隅は若干掘りすぎている。覆土上層では焼土が若干認められるものの、床面上では検出されていない。IIａ期か。

竪穴住居111（第130図）　Ｆ４区

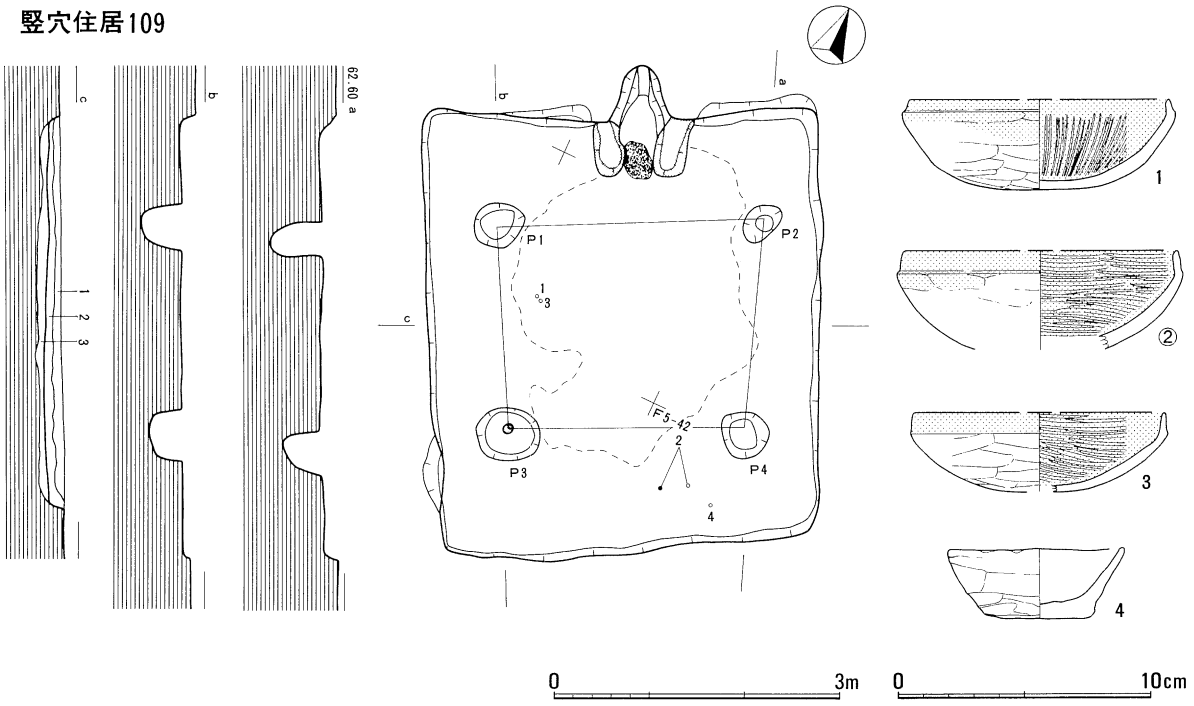
建替　なし　**規模**　3.13(長軸)×3.03m　**長軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ　**残存壁高**　２～14cm　**Pit**　なし　**カマド・炉**　なし　**周溝**　なし　**土層**　４層、黒褐色土、スコリア多　５層、暗黄褐色均質土

遺物　覆土より土師器杯２点出土。

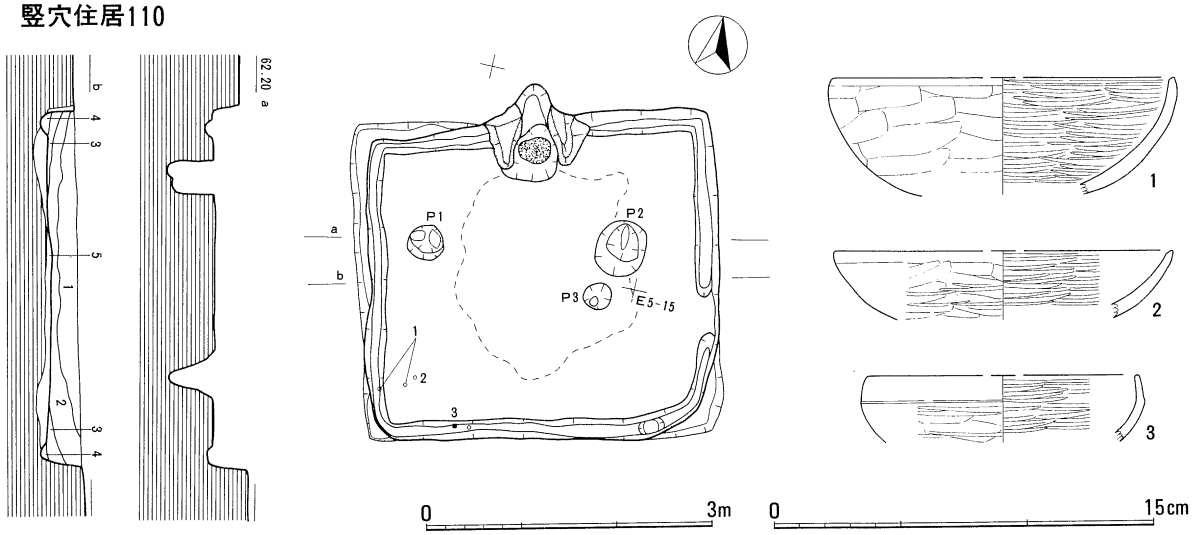
竪穴住居108



竪穴住居109

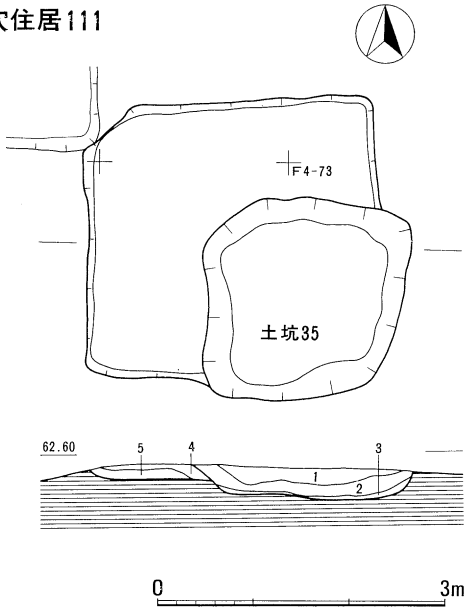


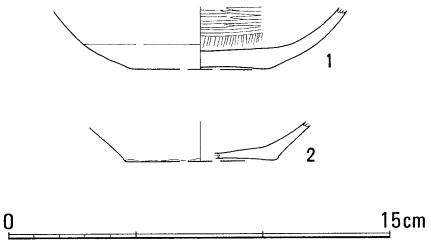
竪穴住居110



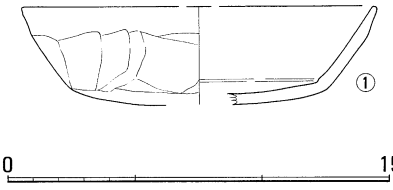
第129図　竪穴住居108(2)・109・110

竪穴住居111

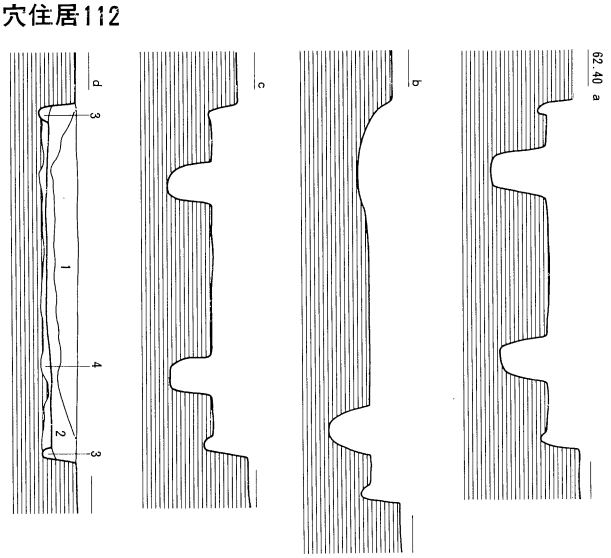


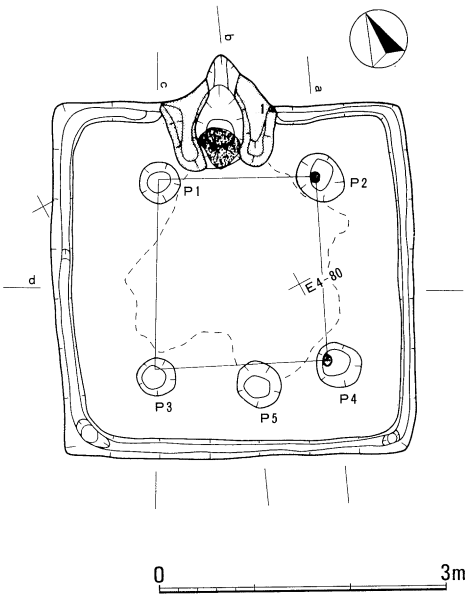


竪穴住居112

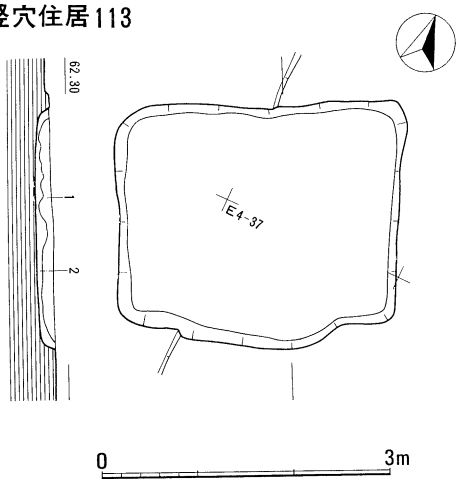


竪穴住居112

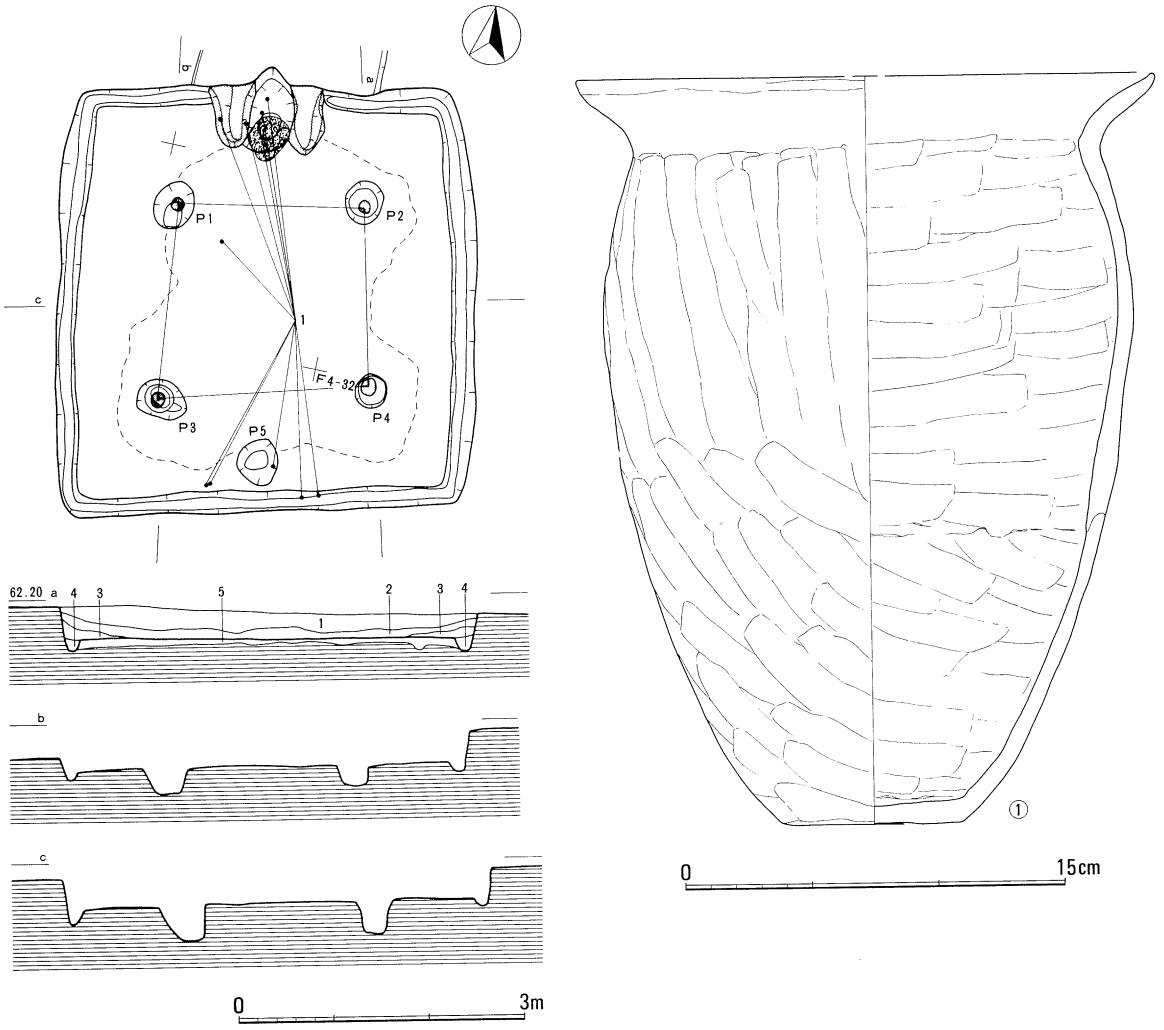




竪穴住居113



第130図　竪穴住居111・112・113



第131図　竪穴住居114

備考　住居としての機能は明確ではない。ただし底面に床状の硬質部分が若干認められたことから、一応上屋を伴う建物と判断した。土坑35と重複。本遺構が古。北西側は、確認調査坑である。覆土出土土器を基準にするならばⅤ期か。

竪穴住居112（第130図）　E４区

建替　なし　**規模**　3.81(主軸)×3.87m　確認面14.65㎡　床面12.60㎡　内区3.56㎡　**主軸方位**　N－27°－E　**残存壁高**　27～36cm　**Pit**　$P_1$45cm　$P_2$57cm　$P_3$45cm　$P_4$47cm　$P_5$47cm　**カマド**　北壁。袖は、小礫を含む山砂・粘土を主体とし、壁外へ張り出す。煙道長壁より47cm　**周溝**　全周、壁隅柱穴　**土層**　１層、暗褐色土、粒状　２層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　３層、暗黄褐色土、粒状、ローム主体　４層、黒褐色土主体、ロームブロック混合

遺物　土師器１点。右袖脇より出土。

備考　Ⅲａ期

竪穴住居113（第130図）　E４区

建替　なし　**規模**　2.97(長軸)×2.57m　確認面6.98㎡　床面6.40㎡　**主軸方位**　N－65°－W　**残存壁高**　４～20cm　**Pit**　なし　**カマド・炉**　なし　**周溝**　なし　**土層**　１層、明黒褐色土　２層、明黒褐色土、スコリア多、やや粒状

遺物　土師器細片のみ。

備考　竪穴住居111と同様、住居としての機能を欠く。ただし底面に床状の硬質部分が若干認められたことから、一応上屋を伴う建物と判断した。時期不明。

竪穴住居114（第131図）　Ｆ４区

建替　なし　**規模**　4.53(主軸)×4.48m　確認面19.94m²　床面17.72m²　内区4.25m²　**主軸方位**　Ｎ－11°－Ｗ　**残存壁高**　19～43cm　**Pit**　$P_1$37cm　$P_2$28cm　$P_3$34cm　$P_4$23cm　P_5(梯子穴)16cm　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を主とし、ロームブロックを混合したものを構築材とする。硬質。煙道長22cm　**周溝**　全周　**土層**　１層、暗褐色土、粒状　２層、明黒暗褐色土、褐色土を全体に混合、粒状　３層、黒褐色均質土、ロームブロック混合　４層、暗黄褐色土、ロームブロック多含　５層、黒褐色土を地層とし、ロームブロック混合

遺物　土師器１点のみであり、カマドから床面上に散在していた。他にスラグ１点が覆土上層より出土している。

備考　IIIａ期か。

竪穴住居115（第132図）　Ｅ４区

建替　なし　**規模**　3.87(主軸)×3.76m　確認面14.00m²　床面12.21m²　**主軸方位**　Ｎ－25°－Ｗ　**残存壁高**　24～48cm　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土を構築材とするが、遺存状態が不良であり、範囲は不確実である。火床面もあまり焼けていなかった　**周溝**　なし　**土層**　１層、暗褐色土、粒状　２層、明黒褐色土を地層とし、褐色土をしみ状に混合する　３層、黒褐色土、褐色混合、スコリア多　４層、暗黄褐色土、黒褐色土とロームの混合土、粒状　５層、黒褐色土主体、ローム混合６層、褐色土

遺物　土師器甕４点、土師器杯２点が出土している。２・４・６が床面上より出土している。

備考　テフラが全体に厚い地区であり、確認時、竪穴範囲は明瞭に確認できなかった。外周部掘りこみは、当初想定した竪穴範囲であり、掘りすぎ。IIｂ期。

竪穴住居116（第133図）　Ｄ３区

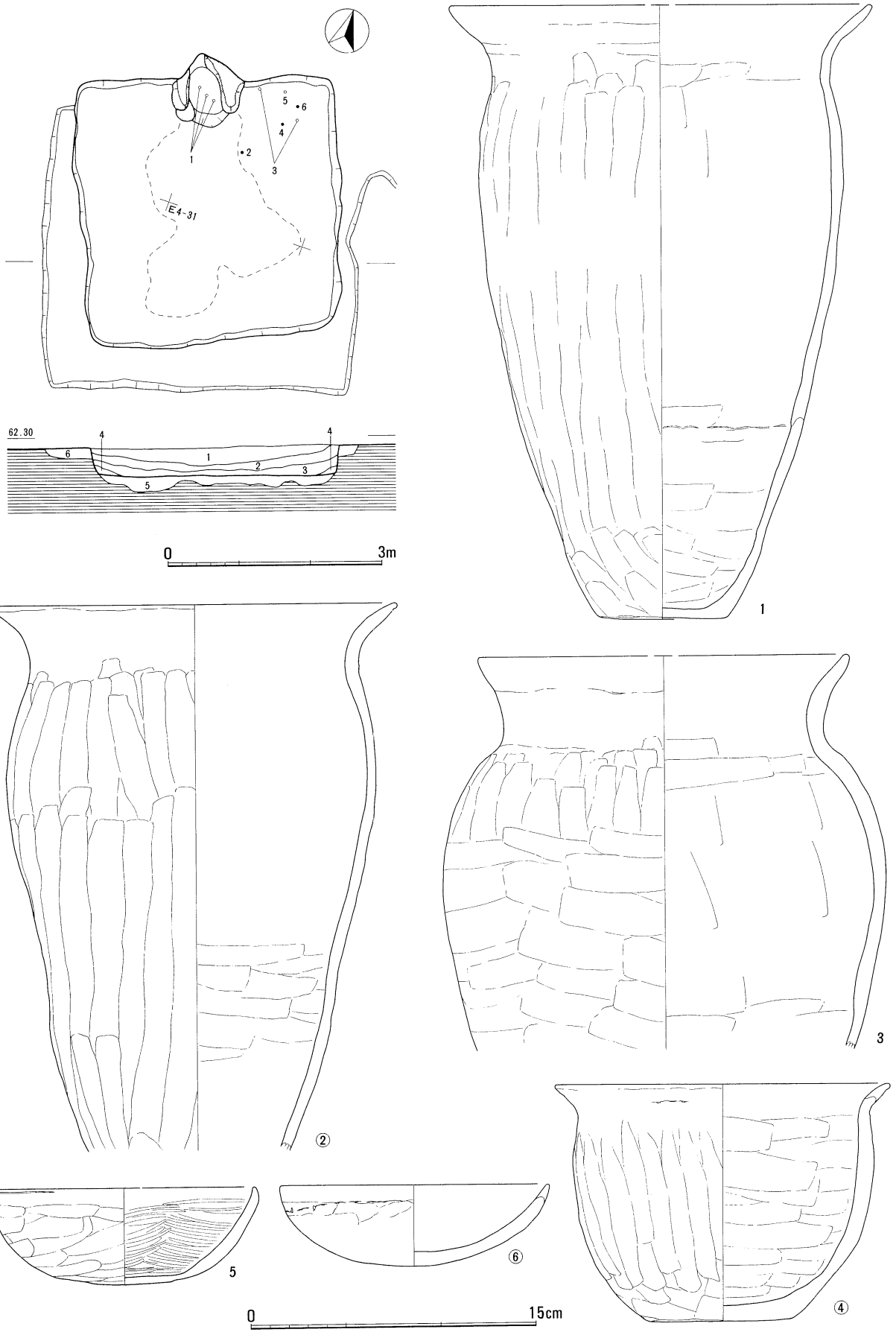
建替　なし　**規模**　3.33(主軸)×2.96m　確認面9.24m²　床面7.43m²　**主軸方位**　Ｎ－3°－Ｗ　**残存壁高**　０～42cm　**Pit**　なし　**カマド**　北壁。袖は山砂・粘土と黒褐色土の混合土を構築材とし、壁外へ張り出す　**周溝**　なし　**土層**　１層、黒褐色土、カクラン層　２層、暗褐色土、炭化物少含、粒状　３層、明黒褐色土、褐色土をしみ状に全体に混合　４層、明黒褐色土、ロームブロックを若干混合する、硬質　５層、暗黄褐色土、ハードロームブロックを主体とし、黒色土混合　６層、暗褐色土

遺物　出土土器は、土師器甕２点、土師器杯１点、須恵器１点であり、１～３が床面上より出土している。鉄小片が確認作業時に出土。

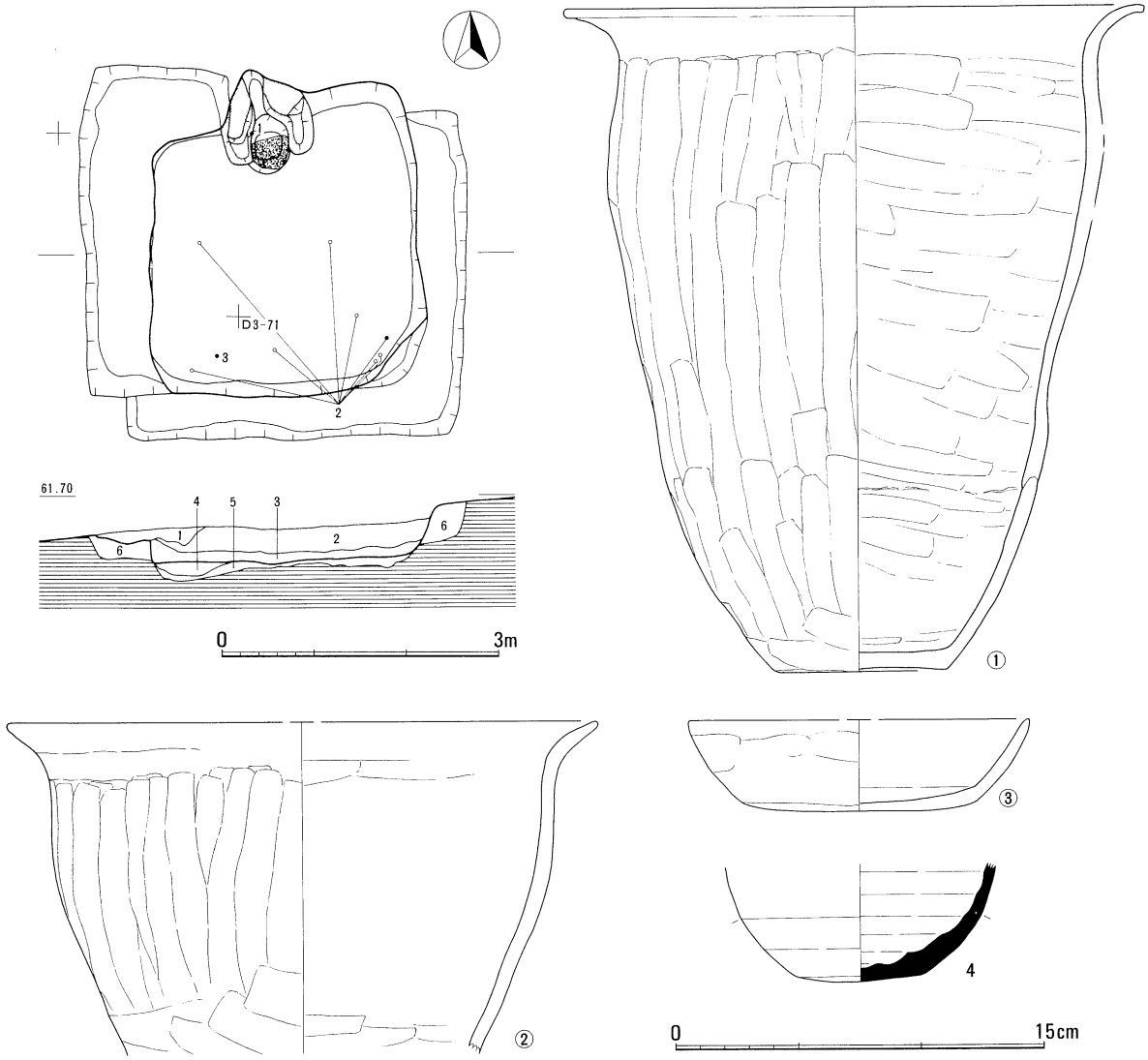
備考　平面形は不整形を呈す。テフラ面を確認面としたが、覆土との相違が明瞭ではなかった。周囲掘りこみは掘りすぎである。ローム掘りこみにより確定したが、竪穴範囲はやや不確実。床は全体に軟質であった。IIIａ期。

竪穴住居117（第134図）　Ｆ５区

建替　なし　**規模**　4.20(長軸)×3.76m　確認面12.29m²　床面11.41m²　**主軸方位**　不明　**残存壁高**　８～22cm　**Pit**　$P_1$21cm　$P_2$19cm　$P_3$20cm　$P_4$24cm　$P_5$22cm　$P_6$22cm　$P_7$32cm　P_8



第132図　竪穴住居115

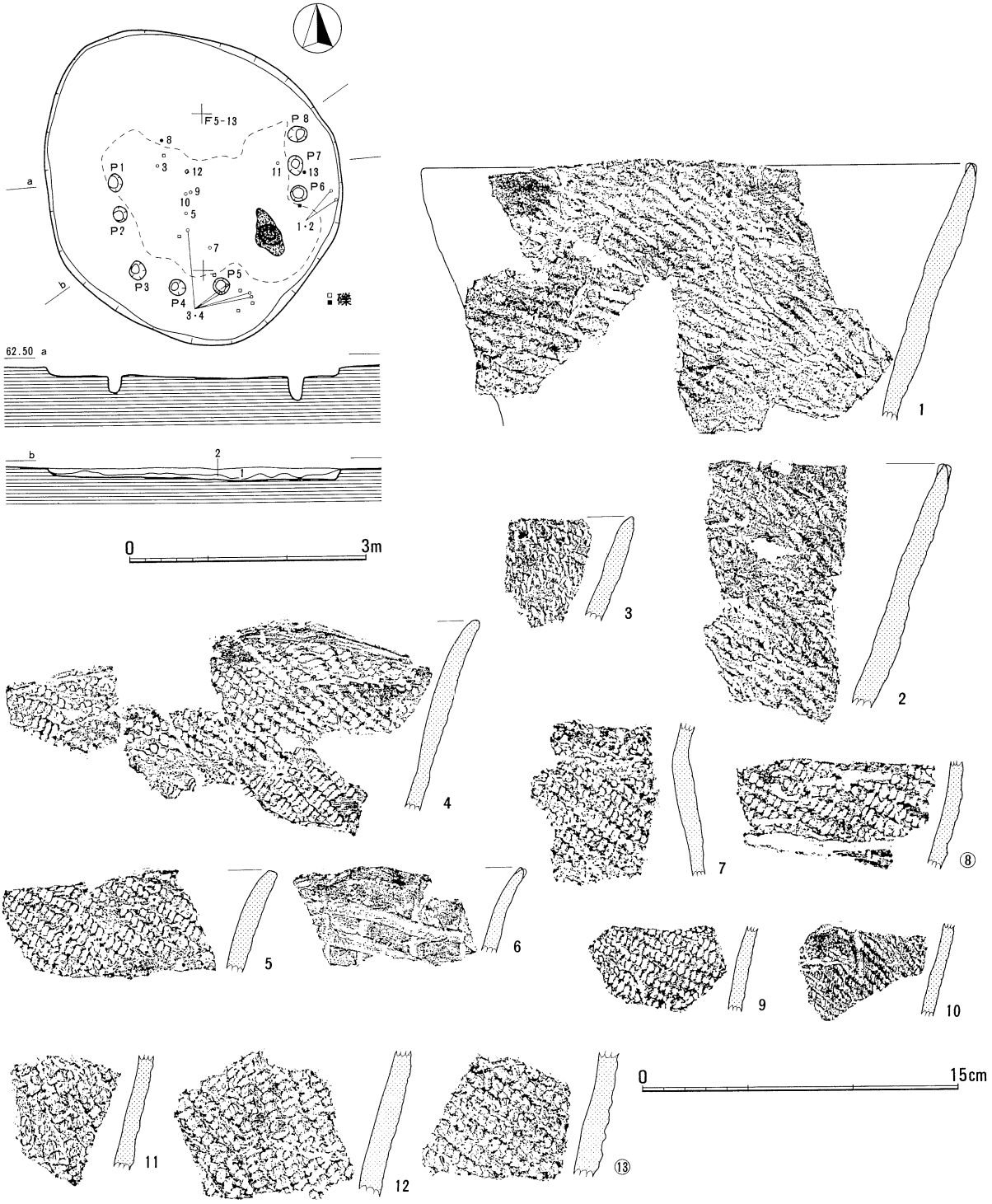


第133図　竪穴住居116

23cm　　**炉**　竪穴南東側、壁際近く。掘りこみは、31×24cm、深さ6cmを測る。ただし焼土、火床面はこれよりやや広い　　**周溝**　なし　　**土層**　1層、明黒褐色土　2層、暗黄褐色均質土

遺物　繊維土器および焼けた径2～5cm程度の礫が出土している。1、2は同一個体と考えられる。口縁部は約3cm程度の幅で若干波状を呈し、器面には原体無節Lの単斜縄文が施される。内面は擦痕を残すナデ調整ののち、粗いミガキを加える。器面色調はにぶい赤褐色を呈す。3は、口唇部が尖り、器面には細い擦痕を残す。焼成は良好であり、色調は橙色。3・4は同一個体と考えられる。口縁部は4単位と考えられる波状を呈し、器面は原体単節RLの単斜縄文が施される。内面に丁寧にミガキを施す。焼成は良好。器面色調は橙色を呈す。6は、口唇部が指頭圧痕による小波状を呈し、器面には沈線風格子状の条線を残す。器面色調はにぶい橙色を呈す。7は屈曲部にあたる。器面には原体単節RLの単斜縄文が施される。内面は丁寧にミガキがなされる。器面色調はにぶい橙色を呈す。8～13は胴部破片資料であり、8・9・11～13は単節単斜縄文、10は無節縄文が施されている。羽状縄文、縄文以外の施文が認められるものは1点も出土していない。8・13が床面上より出土しているが、床面レベル自体がやや不確実であった。

備考　竪穴範囲とくに北側については不確実である。床硬質部は、中央部では検出されたものの、全

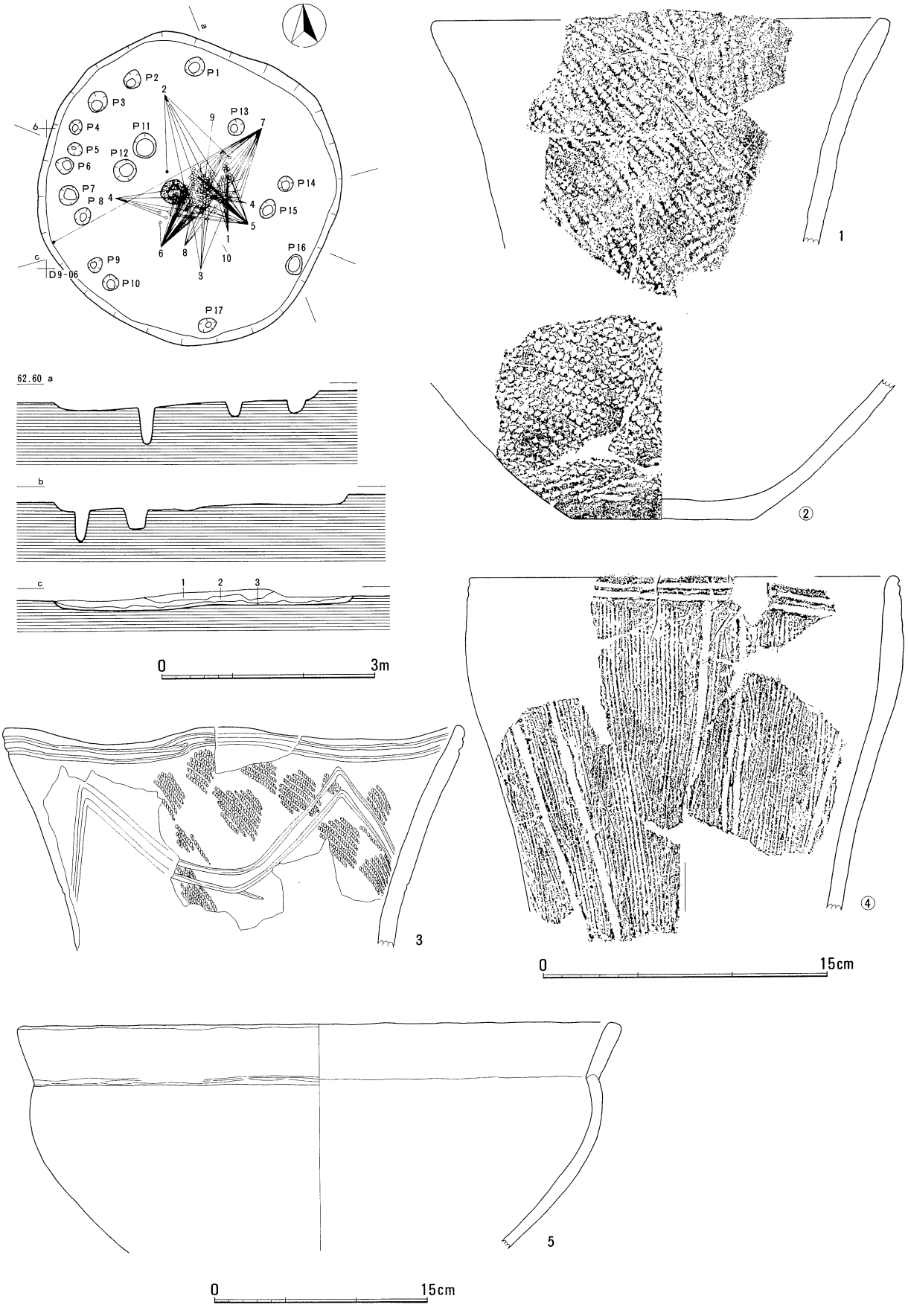


第134図　竪穴住居117

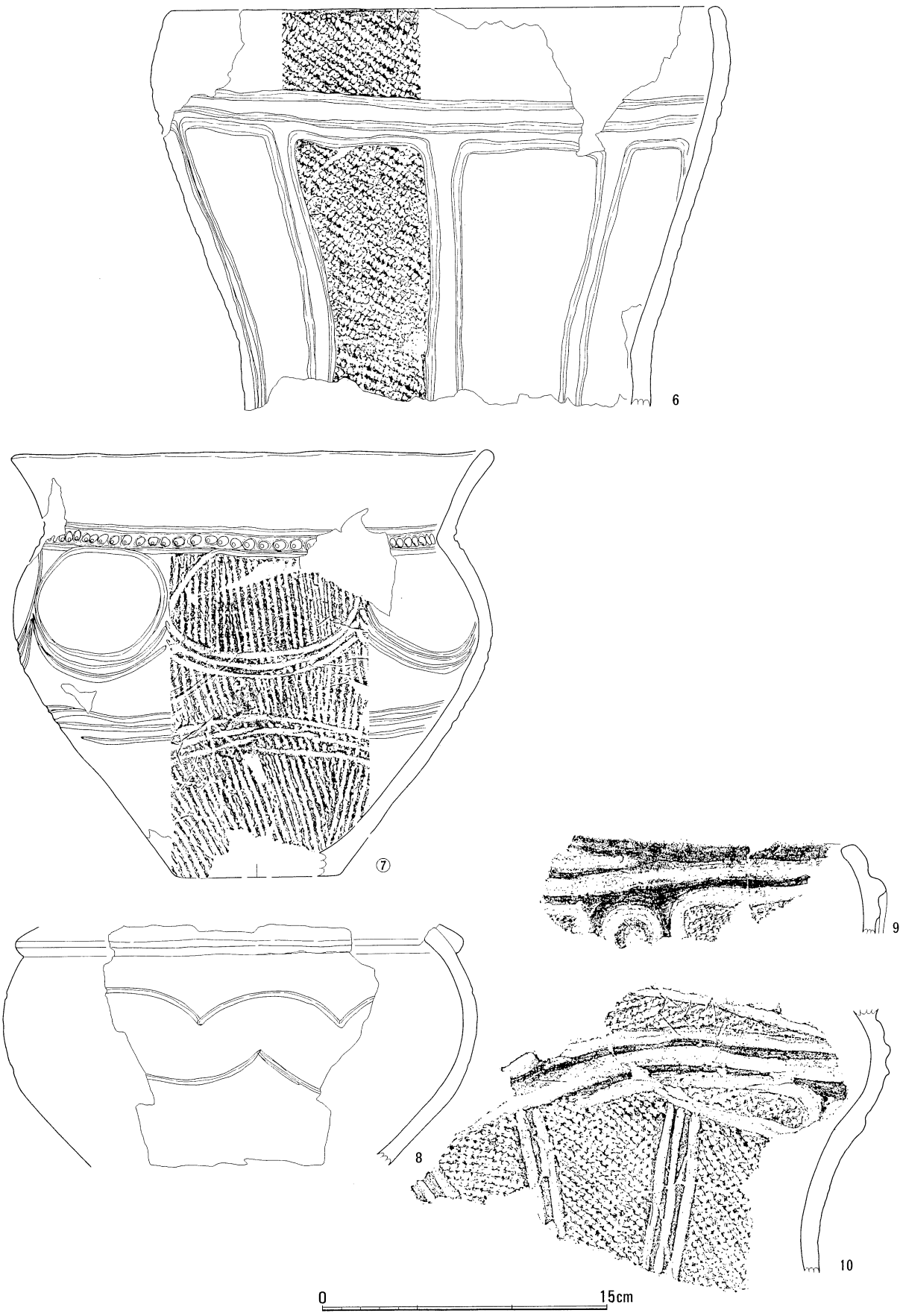
体におよんでいない。また柱穴も不ぞろいである。床面はソフトロームを若干掘りこんだ程度であった。

竪穴住居118（第135・136図）　D８区

建替　不明　　**規模**　4.32(長径)×4.21m　確認面15.07㎡　床面13.47㎡　　**主軸方位**　不明　　**残存壁高**　８～22cm　　**Pit**　$P_1$16cm　$P_2$12cm　$P_3$34cm　$P_4$52cm　$P_5$39cm　$P_6$42cm　$P_7$35cm　$P_8$23cm　$P_9$21cm　P_{10}53cm　P_{11}20cm　P_{12}27cm　P_{13}51cm　P_{14}26cm　P_{15}19cm　P_{16}17cm　P_{17}18cm　**炉**　竪穴中央部に位置する。径36cm、深さ６cm程度を測る。底面が若干焼けているのみ　　**周溝**　な



第135図　竪穴住居118(1)



第136図　竪穴住居118 (2)

し　**土層**　1層、明黒褐色土　2層、黒褐色土　3層、暗黄褐色土

遺物　1は、器面全体に単節縄文を施文する深鉢である。胴下部において一部羽状を呈す。口径24.7cm、現存高12.3cmを測る。2は浅鉢である。単節縄文を施文する。現存高9.7cmを測る。3は、深鉢である。波状を呈する口縁部下に沈線2条、胴部上半に山形の沈線文。口径24.9cm、現存高12.0cmを測る。4は、深鉢であり、ハケ状の粗い条線を地文とし、口縁部下に2条、および懸垂文。口径23.1cm、現存高18.0cmを測る。5は、浅鉢であり、全面に丁寧なミガキを施す。口径は、43.2cmを測り、体部上半½を遺存する。6は、大形の深鉢であり、胴部上半¾を遺存する。横方向の沈線文と磨消懸垂文。地文は単節ＲＬ縄文が縦方向に施文される。口径29.3cm、現存高21.7cmを測る。7は、屈曲する無文の口縁部をもつ鉢であり、口径25.8cm、器高22.8cmを測る。頸部2本の沈線間に、竹管刺突文を充填する。胴部は撚糸文を地文とし、8単位の楕円連結区画文、横沈線を施文する。8は、有孔鍔付土器と考えられる。胴部とは孤線文を描く。9・10は同一個体と考えられる。口縁部は、隆帯、沈線により、渦巻文、楕円形の区画をつくる。胴部はＬＲ縄文を地文とし、3本組の沈線が垂下する。これらの土器は竪穴中央部覆土よりまとまって出土しており、一括廃棄されたものと考えられる。石器等は出土していない。

備考　ローム面を若干掘り込んでいる程度であり、竪穴範囲、床面ともやや不明確であった。柱穴も西側は連続して配列されているものの全体的には規則性に乏しい。

縄文時代における竪穴住居跡は、竪穴住居117・118の2軒のみであり、また時期的に相違する。とくに覆土内に一括投棄されたと考えられる土器を伴う竪穴住居118については、周辺に同時期ないしは後続する住居が存在する可能性は当然考慮されなければならないが、検出することはできなかった。土器の分布については、重機により確認面まで掘り下げたため明瞭に捉えることができなかったものの、他に集中範囲は認められなかった。

第2表　竪穴住居跡一覧

遺構	位置	時期	主軸×副軸 (m)	面積 (㎡) 確認面	床	内区	主軸方位	柱穴	カマド	炉	張出	備考 ※重複(新・古)は対象竪穴に対して
01	G14	—	2.54 × 2.46	6.38	5.39	—	N−21°−W	×	○	×	×	火災。
02	G13	IIIb	3.84 × 3.27	12.62	10.57	—	N−11°−W	×	○	×	×	
03A	G13	(III)	3.80 × 4.08	15.77	14.26	5.72	N−12°−W	○	○	×	×	建替。土坑22(古)と重複。
B		—	3.47 × 3.53	(12.19)	—	—	N−12°−W	×	△	×	×	
04A	G13	Ia	4.88 × 4.83	23.08	21.40	5.51	N−7°−E	○	○	×	×	建替。
B		—	(3.80)× 4.33	(16.00)	—	4.21	N−7°−E	○	○	×	×	
05	F13	IIIb	3.16 × 3.05	9.49	8.19	—	N−9°−W	×	○	×	×	
06	E13	IIb	3.07 × 3.05	9.54	8.24	—	N−18°−W	×	○	×	×	
07A	F14	IVb	3.36 × 3.37	11.15	9.90	—	N−26°−E	×	○	△	×	建替か。
B		—	—	—	—	—	N−116°−E	×	○	△	×	
08	E14	IVb	2.92 × 3.03	9.26	8.10	—	(N−12°−E)	×	○	×	×	
09	E14	IIIa	3.48 × 3.77	(13.05)	(11.90)	2.83	N−17°−W	○	○	×	×	
10	D14	(II)	4.27 × 4.07	(17.74)	(15.27)	—	N−21°−W	×	○	×	×	土坑34(新)と重複。
11	D14	V	(2.24 × 2.60)	—	—	—	(N−89°−E)	×	○	×	×	火災。

遺構	位置	時期	主軸×副軸 (m)	面積 (㎡) 確認面	床	内区	主軸方位	柱穴	カマド	炉	張出	備考 ※重複(新・古)は対象竪穴に対して
12	C13	IVb	2.88 ×(2.04)	—	—	—	(N−20°−W)	×	○	×	×	
13	C13	(IIIb)	2.72 × 2.65	7.00	5.59	—	(N−18°−W)	×	○	×	×	
14	C13	IIb	3.41 × 3.52	11.77	9.73	—	N−23°−W	×	○	×	×	
15	C13	IIb	5.24 × 4.73	24.70	22.44	5.19	N−23°−W	○	○	×	×	
16	C12	Ib	3.00 × 3.04	8.45	7.31	—	N−46°−W	×	○	×	×	
17	C12	V	3.25 × 2.87	(8.99)	(7.95)	—	N−24°−W	×	○	×	×	竪穴18(古)と重複。
18	C12	V	5.60 ×(4.68)	(26.10)	(24.63)	—	(N−13°−E)	×	×	○	×	竪穴19(新)と重複。鍛冶工房跡。火災。
19	C12	(Ib)	3.24 × 3.21	10.14	8.47	—	N−47°−W	×	○	×	×	
20	D13	V	3.13 × 3.15	9.81	8.73	—	N− 8°−W	×	○	×	×	火災。
21	D12	(IIa)	4.09 × 4.55	18.15	16.21	4.44	N−20°−W	○	○	×	×	
22	D12	IVa	3.12 × 2.88	9.24	8.13	—	N−22°−W	×	○	×	×	竪穴23(古)と重複。
23	D12	Ib	6.76 × 6.80	46.09	43.06	14.67	N−41°−W	○	○	×	×	竪穴22(新)と重複。
24	D11	(IIIb)	3.27 × 3.85	12.70	11.62	—	N−30°−W	×	○	×	×	
25A	D12	IIIb	4.03 × 4.08	16.65	14.93	5.09	N−44°−W	○	○	×	×	建替か。
B		—	—	—	—	—	—	×	○	×	×	
26	E12	(V)	2.92 × 3.60	(10.79)	(9.86)	—	N− 3°−W	×	○	×	×	カマド2基、建替可能性あり。
27	E12	V	3.57 × 3.52	12.18	10.96	—	N− 3°−W	×	○	×	×	竪穴28(古)と重複。
28	E12	IVa	4.84 × 4.92	24.28	21.83	4.28	N−33°−W	○	○	×	×	竪穴27(新)・29(古)と重複。
29A	E12	IIa	5.11 × 4.97	25.54	22.63	6.69	N−25°−W	○	○	×	×	建替。竪穴28(新)と重複。火災。
B		—	—	—	—	4.43	—	○	△	×	×	
30	D12	(Ib)	5.64 × 5.76	32.23	29.81	10.99	N−40°−W	○	○	×	×	
31A	E12	IIa	5.27 × 5.27	27.67	24.74	7.13	N−28°−W	○	○	×	×	建替。土坑02(新)と重複。
B		—	—	—	—	6.55	—	○	△	×	×	
32	D11	V	3.40 × 3.40	11.37	(9.54)	—	N−18°−E	×	○	×	×	
33	F12	IIIb	2.59 × 2.63	6.78	5.71	—	N− 7°−W	×	○	×	×	建物01(不明)と重複。
34	F12	V	3.65 × −	—	—	—	N− 6°−E	×	○	×	×	竪穴35(古)と重複。
35A	F12	(IIa)	6.93 × 6.77	49.31	45.71	17.40	N−10°−W	○	○	×	○	建替。竪穴34(新)、土坑24(古)と重複。
B		—	—	—	—	13.42	—	○	△	×	○	
36A	F12	Ib	5.67 × 5.51	30.78	28.58	(7.01)	N−24°−W	○	○	×	×	建替。土坑26(古)と重複。火災。
B		—	—	—	—	(4.45)	—	○	△	×	×	
37	E12	Ib	3.93 × 3.99	15.90	(14.76)	—	N−33°−W	×	○	×	×	火災。
38	E11	IVa	4.01 × 4.19	(17.14)	(15.01)	—	N−37°−W	×	○	×	×	
39	E11	IIIb	3.68 × 4.45	(16.38)	(14.67)	4.69	N−34°−W	○	○	×	×	竪穴40(古)と重複。
40	F11	Ib	5.67 × 5.61	31.90	29.52	9.82	N−12°−W	○	○	×	×	竪穴39(新)、土坑03(古)、04(不明)、建物11(新)と重複。
41	F11	IVa	3.05 × 3.66	11.45	(9.64)	—	N−53°−E	×	○	×	×	建物11(古)と重複。
42	F12	IIb	5.97 × 5.81	35.79	33.39	10.26	N−19°−W	○	○	×	○	竪穴43(古)と重複。
43	F12	(Ib)	5.16 × 5.47	(28.42)	—	7.41	N−14°−W	○	○	×	×	竪穴42(新)と重複。
44A	G12	Ib	8.21 × 8.12	67.29	64.57	13.63	N−19°−W	○	○	×	×	建替。竪穴45(新)と重複。
B		—	—	—	—	11.84	—	○	△	×	×	
45	G12	(III)	2.32 × 2.31	5.43	4.59	—	N−64°−E	×	○	×	×	竪穴44(古)と重複。
46	F11	IIb	4.40 × 4.49	19.81	17.72	6.27	N−27°−W	○	○	×	×	竪穴47・48(古)と重複。
47	F11	(II)	5.51 × 5.55	28.37	26.34	7.22	N− 6°−W	○	○	×	△	竪穴46(新)・48(古)と重複。
48A	F11	IIa	8.93 × 8.92	82.74	78.41	28.31	N−30°−W	○	○	×	○	建替。竪穴46・47(新)と重複。
B		—	—	—	—	23.63	—	○	○	×	△	
C		—	—	—	—	16.14	—	○	△	×	△	

遺構	位置	時期	主軸×副軸 (m)	面積 (㎡) 確認面	床	内区	主軸方位	柱穴	カマド	炉	張出	備考 ※重複(新・古)は対象竪穴に対して
49A	F11	Ⅰb	5.91 × 5.79	34.62	32.42	11.18	N−26°−W	○	○	×	×	建替？。建物19(新)と重複。
B		—	4.40 × 4.40	(18.89)	—	4.90	N−25°−W	○	○	×	×	
50A	G11	Ⅲa	4.53 × 4.92	22.60	20.39	5.06	N−62°−E	○	○	×	×	建替。竪穴51(古)と重複。
B		—	(3.90 × 4.20)	(16.00)	—	—	—	×	△	×	×	
51A	G11	Ⅰb	5.85 × 5.91	34.72	32.20	8.35	N−13°−W	○	○	×	×	建替。竪穴50(新)と重複。火災。
B		—	(4.90 × 5.00)	(24.60)	—	(5.04)	N−14°−W	○	△	×	×	
52A	G11	Ⅰb	7.17 × 7.07	52.09	49.17	16.71	N−15°−E	○	○	×	×	建替。
B		—	—	—	—	11.71	—	○	○	×	×	
C		—	5.88 × 5.99	(32.88)	—	9.81	N−15°−E	○	○	×	×	
53	G10	Ⅴ	2.91 × 3.16	8.95	7.83	—	N− 2°−W	×	○	×	×	竪穴54(古)と重複。
54A	G10	Ⅱb	6.44 × 6.08	41.99	38.94	14.64	N− 4°−W	○	○	×	○	建替。竪穴53(新)土坑11(古)、土坑10(不明)と重複。
B		—	—	—	—	9.74	—	○	△	×	△	
C		—	—	—	—	7.05	—	○	○	×	△	
D		—	—	—	—	4.98	—	○	○	×	△	
55	G10	Ⅲb	3.86 × 4.16	15.28	13.35	—	N−22°−W	×	○	×	×	建物30(古)、土坑12(不明)と重複。火災。
56	G10	Ⅲb	3.73 × 3.74	(14.00)	—	—	N−19°−W	×	△	×	×	竪穴57(古)、建物30(不明)と重複。一部未調査。
57	G 9	Ⅲa	4.11 × 4.80	(19.00)	—	—	N−22°−W	×	○	×	×	竪穴56(新)、建物30(不明)と重複。一部未調査。
58	F11	Ⅳa	2.29 × 2.64	5.80	4.82	—	N−39°−W	×	○	×	×	建物22(古)と重複。火災。
59	F10	Ⅲb	3.36 × 3.25	10.72	9.10	—	N−22°−W	×	○	×	×	建物20・22(古)と重複。
60	F10	(Ⅱb)	5.21 × 5.29	27.21	25.10	5.32	N−22°−W	○	○	×	×	建物21(新)・22(古)と重複。
61A	F10	Ⅳb	4.27 × 4.68	20.84	18.62	4.33	N−16°−W	○	○	×	×	建替。建物33(不明)、土坑14(新)と重複。
B		—	—	—	—	3.43	(N−75°−E)	○	△	×	×	
C		—	—	—	—	5.36	(N−75°−E)	○	○	×	×	
62A	G 9	Ⅳb	3.97 × 4.04	16.10	14.21	—	N−18°−W	×	○	×	×	建替。建物32(古)と重複。火災。
B		—	(4.04 × 3.97)	(16.06)	—	—	N−73°−E	×	○	×	×	
63	F 9	Ⅴ	3.73 × 3.27	(12.00)	—	—	(N−14°−E)	×	×	○	×	建物34(古)と重複。
64	F 9	(Ⅳb)	2.73 × 2.67	7.47	6.13	—	N−12°−E	×	○	×	×	
65	F10	(Ⅰb)	3.27 × 3.49	11.26	9.88	—	N−68°−E	×	○	×	×	建物17(新)と重複。火災。
66	E10	Ⅳa	2.63 × 2.91	7.75	6.78	—	N−28°−W	×	○	×	×	
67	E10	Ⅰb	3.69 × 3.55	13.25	12.15	—	N−18°−W	×	○	×	×	竪穴69(古)、建物14(新)と重複。
68	E10	(Ⅱ)	3.17 × 3.09	9.58	8.40	—	N−32°−W	×	○	×	×	竪穴69(古)と重複。火災。
69	E10	Ⅰb	4.31 × 4.20	(13.20)	(12.10)	4.08	N− 1°−E	○	○	×	×	竪穴67・68(新)と重複。
70	E10	—	3.00 × 2.88	8.73	(7.90)	—	N−30°−W	×	○	×	×	
71	E10	(Ⅱ)	3.48 × 4.60	16.20	15.24	—	N−60°−E	×	○	×	×	建物15(古)と重複。
72	E10	Ⅲa	3.60 × 3.84	13.33	(12.00)	—	N−53°−W	×	○	×	×	
73A	D10	Ⅱa	5.37 × 5.47	29.46	26.76	6.45	N−18°−W	○	○	×	×	建替。
B		—	—	—	—	4.42	—	○	○	×	×	
74	D11	Ⅱa	5.91 × 6.03	36.80	34.74	9.11	N−40°−W	○	○	×	×	
75	C10	Ⅲb	4.07 × 3.45	13.89	12.50	—	N−24°−W	×	○	×	×	火災。
76	C11	Ⅴ	3.60 × 3.93	13.32	11.40	—	N− 3°−E	×	○	×	×	
77	D10	Ⅲa	3.40 × 3.20	10.92	9.71	—	N−27°−W	×	○	×	×	
78A	E 9	Ⅰb	7.72 × 8.44	65.07	61.52	19.10	N−34°−W	○	○	×	×	建替
B		—	5.93 × 6.08	(34.58)	—	10.39	N−34°−W	○	○	×	×	
79	D 9	Ⅴ	3.21 × 2.93	9.29	7.93	—	N−11°−E	×	○	×	×	火災。
80	D 9	(Ⅲ)	3.64 × 3.77	14.22	12.31	—	N− 6°−W	×	○	×	×	

遺構	位置	時期	主軸×副軸 (m)	面積 (㎡) 確認面	床	内区	主軸方位	柱穴	カマド	炉	張出	備考 ※重複(新・古)は対象竪穴に対して
81	D 9	IVb	3.03 × 2.97	9.19	7.38	−	N−27°−E	×	○	×	×	
82	D 9	V	2.66 × 2.33	6.12	5.21	−	N−48°−E	×	○	×	×	火災。
83	D 9	V	4.17 × 3.26	13.24	12.70	−	(N−1°−W)	×	×	○	×	
84	D 9	IIIb	4.07 × 3.55	14.47	12.13	−	N−3°−E	×	○	×	×	
85	D 9	V	4.64 × 3.72	16.98	15.00	−	N−40°−E	×	○	×	×	
86	D 8	−	2.73 × 3.24	8.94	7.76	−	N−2°−E	×	○	×	×	
87A	E 8	IIa	6.76 × 7.13	47.81	43.91	14.36	N−34°−W	○	○	×	×	建替。火災。
B		−	−	−	−	8.44	−	○	○	×	×	
88	F 9	IVb	3.20 × 3.08	9.83	8.09	−	N−67°−E	×	○	×	×	
89	G 8	IIIa	3.87 × 3.91	15.09	12.34	−	N−35°−W	×	○	×	×	
90	G 8	IIb	3.25 × −	−	−	−	N−41°−W	×	○	×	×	
91A	F 8	IIa	7.07 × 6.73	47.83	44.97	14.99	N−28°−W	○	○	×	×	建替。火災？。
B		−	(5.40 × 5.30)	(28.00)	−	9.26	N−30°−W	○	○	×	×	
C		−	−	−	−	6.77	−	○	△	×	×	
92	F 8	IVa	3.47 × 3.47	12.24	10.27	−	N−32°−W	×	○	×	×	竪穴93(古)と重複。
93	F 8	(III)	3.53 × 3.53	11.53	9.88	−	N−30°−W	×	○	×	×	竪穴92(新)、建物03(不明)と重複。
94	D 8	V	4.91 × 4.21	19.24	17.66	−	N−20°−E	×	○	×	×	土坑15(不明)と重複？。火災。
95A	F 7	IIIa	5.00 × 5.32	26.86	24.36	6.67	N−50°−E	○	○	×	×	建替。火災。
B		−	−	−	−	5.45	−	○	△	×	×	
96	F 7	−	3.49 × 3.87	13.32	(10.98)	−	N−19°−E	×	○	×	×	
97	F 7	IIIa	4.08 × 4.17	17.18	14.80	5.98	N−9°−W	○	○	×	×	
98	F 7	V	(3.40 × 4.23)	(14.60)	(13.62)	−	N−1°−E	×	○	×	×	
99	E 7	VI	− × 2.76	−	−	−	(N−19°−E)	×	×	○	×	火災。
100A	F 7	IIIa	4.57 × 4.95	22.67	20.05	5.49	N−15°−W	○	○	×	×	建替。火災。
B		−	−	−	−	4.51	−	○	△	×	×	
101A	D 7	IIIa	4.91 × 5.43	26.94	24.53	6.71	N−71°−E	○	○	×	△	建替。
B		−	4.91 × 5.25	26.91	−	4.35	N−71°−E	○	○	×	○	
102	D 7	IIIb	3.69 × 3.84	13.94	11.87	−	N−8°−W	×	○	×	×	竪穴103(古)と重複。火災。
103	D 7	−	3.04 × 2.84	8.75	7.62	−	N−7°−E	×	○	×	×	竪穴102(新)と重複。
104A	D 7	IIIb	5.51 × 5.76	32.02	28.21	8.02	N−10°−W	○	○	×	×	建替。火災。
B		−	−	−	−	−	−	○	△	×	×	
105	E 6	IIa	4.59 × (2.30)	9.94	8.63	−	(N−63°−E)	×	○	×	×	建物08(新)と重複。
106	E 6	−	4.87 × 5.13	23.73	21.40	5.87	N−11°−W	○	○	×	×	
107	E 5	(IIa)	3.64 × 4.21	15.51	14.07	−	N−21°−W	×	○	×	×	火災。
108	D 5	Ib	5.55 × 5.66	28.02	25.64	7.42	N−18°−W	○	○	×	×	火災。
109	F 5	Ib	4.67 × 4.21	19.62	17.58	5.90	N−27°−W	○	○	×	×	
110	E 5	(IIa)	3.49 × 3.75	12.64	11.26	−	N−15°−W	×	○	×	×	
111	F 4	(V)	3.13 × 3.03	−	−	−	(N−87°−E)	×	×	×	×	土坑35(新)と重複。
112	E 4	IIIa	3.81 × 3.87	14.65	12.60	3.56	N−27°−E	○	○	×	×	
113	E 4	—	2.97 × 2.57	6.98	6.40	−	(N−65°−W)	×	×	×	×	
114	F 4	(IIIa)	4.53 × 4.48	19.94	17.72	4.25	N−11°−W	○	○	×	×	
115	E 4	IIb	3.87 × 3.76	14.00	12.21	−	N−25°−W	×	○	×	×	
116	D 3	IIIa	3.33 × 2.96	9.24	7.43	−	N−3°−W	×	○	×	×	
117	F 5	縄・前	4.20 × 3.76	12.29	11.41	−	−	△	×	○	×	
118	D 8	縄・中	4.32 × 4.21	15.07	13.47	−	−	△	×	○	×	

2　掘立柱建物跡

今回の調査で検出された掘立柱建物跡34は棟、建替を含めた総数では35棟である。

掘立柱建物の時期は、後述するが、かならずしも確定的ではない。ただし、竪穴住居跡との重複関係によるならば、奈良時代を中心とするものと考えられる。

規則性が認められないもの、周辺部に位置する掘形も、その掘立柱建物のＰ番号を付しているが、関連性を想定しているわけではない。なお、全掘立柱建物跡の概要については、第３表に一括まとめてある。

掘立柱建物01（第137図）　Ｆ13区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行３間(5.85m)×梁行２間(4.09m)　面積23.92㎡　　**主軸方位**　東西棟、Ｎ－55°－Ｅ　　**柱間寸法**　桁行1.95m等間　梁行1.0～1.52m　　**掘形**　隅丸方形、長方形を主とする。径70～90cm前後、深さ$P_1$31cm　$P_2$26cm　$P_3$37cm　$P_4$28cm　$P_5$29cm　$P_6$31cm　$P_7$39cm　$P_8$53cm　$P_9$57cm　P_{10}37cm　P_{11}47cm　P_{12}45cm

備考　竪穴住居33と重複。竪穴33は、確認調査時に本遺構を未確認のまま調査したため、新旧関係は明らかにできなかった。P_4は竪穴33床面に達していない。北西隅側は、確認調査坑である。小Pitが周辺部に認められるが、束柱と考えられるものはない。実測可能遺物なし。

掘立柱建物02（第137図）　Ｃ12区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　東西１間（2.44、2.28m）×南北１間（2.25、2.13m）　面積5.17㎡　**主軸方位**　正方形、Ｎ－71°－Ｅ（東西に棟をおくとして）　　**柱間寸法**　東西2.44、2.28m　南北2.25、2.13m　　**掘形**　円形、径70～90cm、深さ$P_1$54cm　$P_2$58cm　$P_3$53cm　$P_4$59cm

備考　北東側は、確認調査坑である。実測可能遺物なし。

掘立柱建物03（第137図）　Ｆ８区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行４間(7.21m)×梁行２間(4.50m)　面積32.45㎡　　**主軸方位**　東西棟、Ｎ－58°－Ｅ　　**柱間寸法**　桁行1.80m等間　梁行1.5mを基準に１：２に区分　　**掘形**　円形、径48～84cm、深さ$P_1$41cm　P_2土坑33　$P_3$60cm　$P_4$54cm　$P_5$90cm　$P_6$48cm　$P_7$60cm　$P_8$55cm　$P_9$53cm　P_{10}55cm　P_{11}68cm　P_{12}53cm

備考　竪穴住居93、土坑33と重複。竪穴93との重複関係は、接している部分が少なかったこともあり、明らかにすることができなかった。土坑33は、縄文時代土坑。P_2柱痕跡が不明確であったため、全体を掘り下げてしまった。中央に確認調査坑。実測可能遺物なし。

掘立柱建物04（第137図）　Ｄ７区

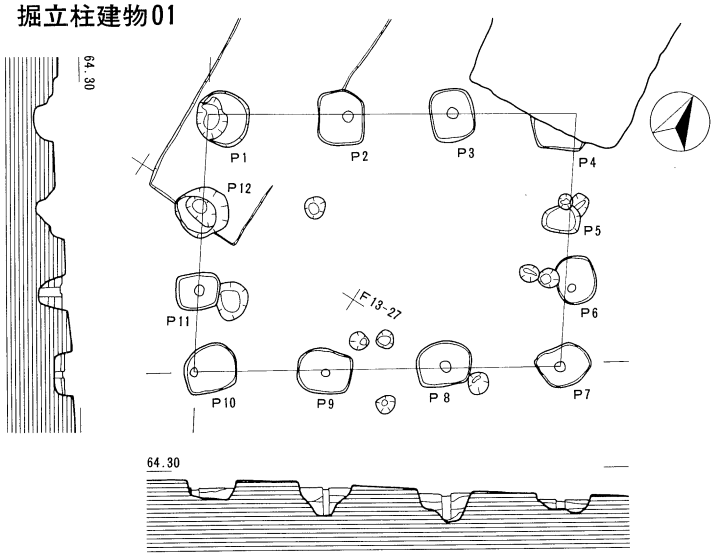
建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行２間（3.10m）×梁行１間（3.10m）　面積9.61㎡　　**主軸方位**　正方形、Ｎ－８°－Ｗ（南北に棟をおくとして）　　**柱間寸法**　桁行1.55m等間　梁行3.10m　　**掘形**　円形、径60～85cm、深さ$P_1$74cm　$P_2$69cm　$P_3$59cm　$P_4$95cm　$P_5$60cm　$P_6$74cm

備考　緩斜面西部に位置し、掘立柱建物05と並列する。掘形断面、柱痕部上層に、山砂状の砂質土（テフラ？）混合。実測可能遺物なし。

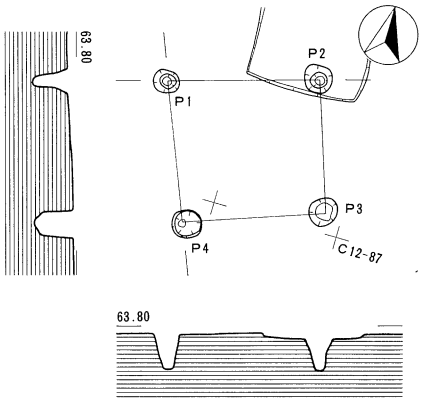
掘立柱建物05（第137図）　Ｄ７区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行２間（3.20m）×梁行１間（2.88m）　面積8.64㎡　　**主軸方位**　東西棟、Ｎ－83°－Ｅ　　**柱間寸法**　桁行1.60m等間　梁行2.88m　　**掘形**　円形、ないしは楕円形、

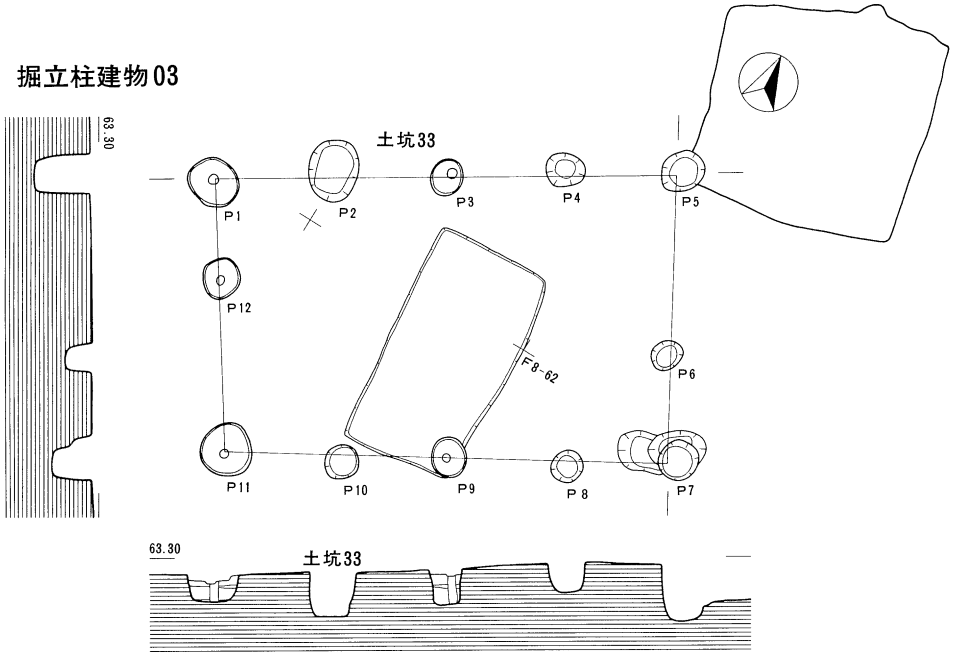
掘立柱建物01



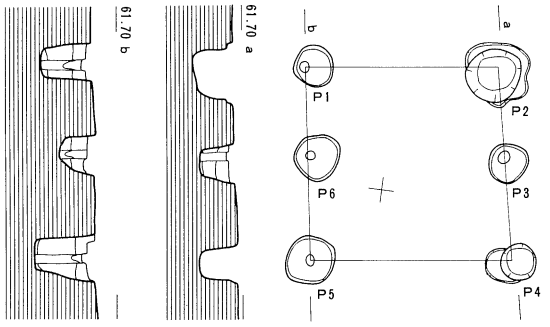
掘立柱建物02



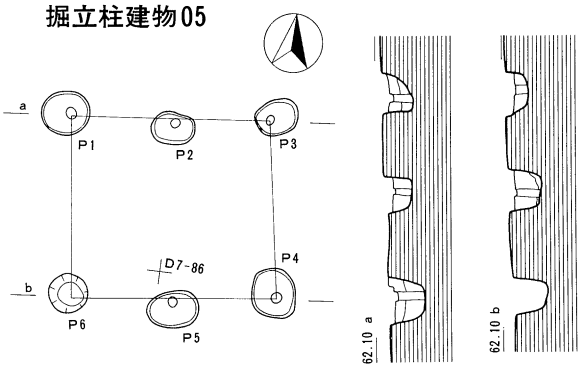
掘立柱建物03



掘立柱建物04



掘立柱建物05



0 5m

第137図　掘立柱建物(1)

径52～78cm、深さ$P_1$56cm　$P_2$52cm　$P_3$61cm　$P_4$41cm　$P_5$57cm　$P_6$55cm

備考　掘立柱建物04と並列し、南北側柱列を一致させる。実測可能遺物なし。なお桃の種子２点がP_5埋土より出土している(図版56)。

掘立柱建物06（第138・143・146図）　Ｄ６区

建替　なし？　**規模**　側柱建物　桁行３間(5.47m)×梁行３間(5.65m)　身舎桁行３間(5.47m)×梁行２間(4.38m)　面積30.91㎡　身舎23.96㎡　**主軸方位**　東西棟、Ｎ－70°－Ｅ　**柱間寸法**　桁行1.85m等間　梁行2.20m等間　**掘形**　楕円、円形、全体に不ぞろい、径0.80～1.53m、深さ$P_1$82cm　$P_2$57cm　$P_3$71cm　$P_4$64cm　$P_5$79cm　$P_6$65cm　$P_7$61cm　$P_8$73cm　$P_9$86cm　P_{10}88cm　P_{11}52cm　P_{12}46cm　P_{13}53cm　P_{14}43cm　P_{15}37cm　P_{16}46cm　P_{17}44cm　P_{18}20cm　P_{19}12cm　P_{20}17cm

備考　南面１間（1.27m）の庇が付く。緩斜西部に位置する。P_{15}～P_{20}については、本遺構との関係は不明。ただしP_{18}～P_{20}は建物07と柱筋をそろえているため、別の建物が考えられたが、明確にすることができなかった。掘立柱建物07・08と並列する。テフラ面を確認面としたため柱掘形の形状はやや不確実である。また一部掘形をみるかぎり、建替の可能性も考慮される。柱痕跡に山砂状の砂質土を含むものが認められる。須恵器杯底部が柱掘形より出土している。

掘立柱建物07（第138・143・146図）　Ｄ６区

建替　１回、Ａ・Ｂ　**規模**　側柱建物　Ａ桁行３間(4.60m)×梁行３間(4.10m)　Ｂ桁行３間(5.35m)×梁行３間(4.65m)　面積Ａ18.86㎡　Ｂ24.88㎡　**主軸方位**　東西棟、ＡＮ－79°－Ｅ　ＢＮ－71°－Ｅ　**柱間寸法**　Ａ桁行1.50m等間　梁行1.40m等間　Ｂ桁行1.80m前後、やや不ぞろい　梁行1.55m等間　**掘形**　円形を主とするが不整形、径42～93cm、Ｂがやや大形、深さ$P_1$42cm　$P_2$50cm　$P_3$41cm　$P_4$45cm　$P_5$19cm　$P_6$12cm　$P_7$38cm　$P_8$26cm　$P_9$18cm　P_{10}36cm　P_{11}62cm　P_{12}49cm　P_{13}50cm　P_{14}45cm　P_{15}60cm　P_{16}49cm　P_{17}61cm　P_{18}39cm　P_{19}45cm　P_{20}28cm　P_{21}39cm　P_{22}37cm　P_{23}32cm　P_{24}73cm　P_{25}52cm

備考　掘立柱建物06・08と並列する。Ｂは他２棟と方位をそろえている。Ａに対応する一部柱痕跡に山砂状の砂質土を含むものが認められる。第146図－３は、須恵器蓋であり、P_4より出土している。

掘立柱建物08（第138・143）　Ｄ６区

建替　なし　**規模**　側柱建物　桁行３間(4.65m)×梁行３間(4.10、4.45m)　面積19.86㎡　**主軸方位**　東西棟、Ｎ－71°－Ｅ　**柱間寸法**　桁行1.45～1.80m　梁行4.10～4.45m　**掘形**　円形、径45～80cm、70cm前後を主とする、深さ$P_1$31cm　$P_2$25cm　$P_3$37cm　$P_4$35cm　$P_5$27cm　$P_6$31cm　$P_7$41cm　$P_8$９cm(竪穴105床面より)　$P_9$９cm(竪穴105床面より)　P_{10}13cm(竪穴105床面より)　P_{11}30cm　P_{12}12cm

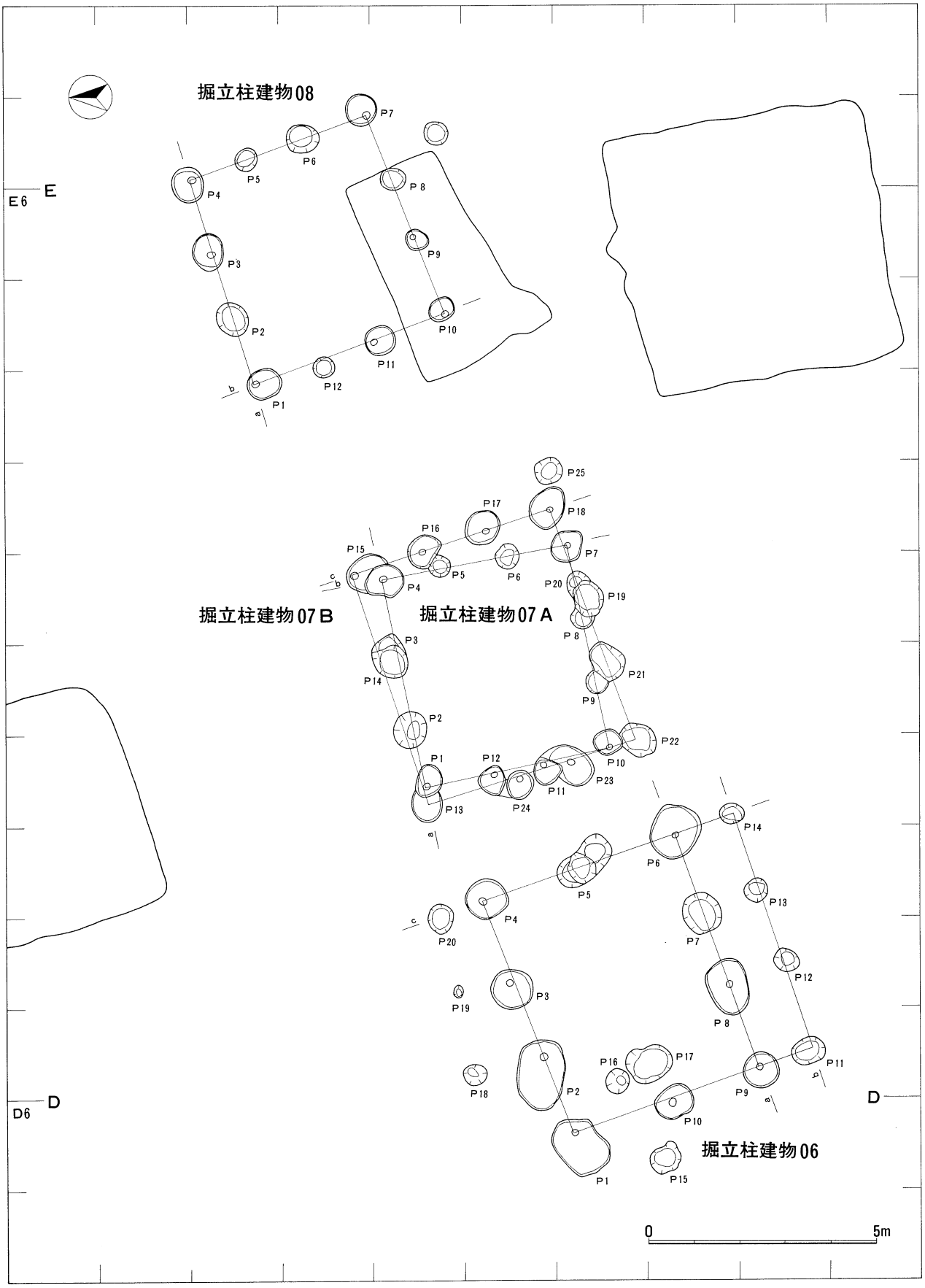
備考　竪穴住居105と重複。本遺構が新。掘立柱建物06・07と方位をそろえ並列。実測可能遺物なし。

掘立柱建物09（第141図）　Ｆ12区

建替　なし　**規模**　側柱建物　東西１間（3.30、3.02m）×南北１間（3.10、2.87m）　面積9.43㎡　**主軸方位**　正方形、Ｎ－47°－Ｗ(東西に棟をおくとして)　**柱間寸法**　東西3.30、3.02m　南北3.10、2.87m　**掘形**　円形、径47～63cm、深さ$P_1$54cm　$P_2$58cm　$P_3$53cm　$P_4$59cm　$P_5$41cm　$P_6$35cm

備考　土坑23と重複。本遺構が新。P_5は床束とも考えられる。中央に確認調査坑。実測可能遺物なし。

掘立柱建物10（第141・143図）　Ｅ11区



第138図　掘立柱建物(2)

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行１間(4.51m)×梁行１間(4.14m)　面積18.67㎡　　**主軸方位**　東西棟、N－70°－E　　**柱間寸法**　桁行4.51m　梁行4.14m　　**掘形**　円形、径76～90cm、深さ$P_1$91cm　$P_2$85cm　$P_3$77cm　$P_4$74cm

備考　大形の掘形をもつ。P_1・P_4部分は、確認調査坑。実測可能遺物なし。

掘立柱建物11（第141・143）　F11区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行１間(4.20m)×梁行１間(3.59m)　面積15.08㎡　　**主軸方位**　東西棟、N－79°－E　　**柱間寸法**　桁行4.20m　梁行3.59m　　**掘形**　円形、径93～108cm、深さ$P_1$39cm（竪穴40床面より）　$P_2$42cm　$P_3$24cm(竪穴41床面より)　$P_4$49cm

備考　竪穴住居40・41、掘立柱建物19と重複。竪穴40より新、竪穴41、建物19より古。掘立柱建物10と類似する構造をもつが、方位、柱筋等一致しない。実測可能遺物なし。

掘立柱建物12（第141・143・146図）　E11区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行３間(5.38m)×梁行２間(3.72m)　面積20.01㎡　　**主軸方位**　南北棟、N－29°－W　　**柱間寸法**　桁行2.38、1.50m　梁行2.10、1.65m　　**掘形**　円形、隅丸方形、径52～68cm、深さ$P_1$24cm　$P_2$35cm　$P_3$22cm　$P_4$29cm　$P_5$34cm　$P_6$35cm　$P_7$35cm　$P_8$29cm　$P_9$43cm　P_{10}33cm

備考　P_9埋土内より土師器杯出土。II期。

掘立柱建物13（第141・143図）　E11区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行２間(3.50m)×梁行２間(3.20m)　面積11.20㎡　　**主軸方位**　南北棟、N－22°－W　　**柱間寸法**　桁行2.38～1.50m　梁行2.10～1.65m　　**掘形**　円形、径40cm前径、深さ$P_1$50cm　$P_2$71cm　$P_3$74cm　$P_4$28cm　$P_5$33cm　$P_6$35cm　$P_7$35cm　$P_8$24cm

備考　南東側は道路跡である。全体として、掘形深さ等不ぞろい。実測可能遺物なし。

掘立柱建物14（第140・143図）　E11区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行６間(8.76m)×梁行３間(4.89m)　面積42.84㎡　　**主軸方位**　南北棟、N－39°－W　　**柱間寸法**　桁行1.65、1.20m　梁行1.63m等間　桁行各隅柱間があく　　**掘形**　円形、径44～78cm、深さ$P_1$103cm　$P_2$66cm(道路跡面より)　$P_3$79cm(竪穴67床面より)　$P_4$79cm(竪穴67床面より)　$P_5$53cm(竪穴67床面より)　$P_6$74cm　$P_7$91cm　$P_8$80cm　$P_9$88cm　P_{10}60cm(土坑06床面より)　P_{11}93cm　P_{12}93cm　P_{13}85cm　P_{14}103cm　P_{15}51cm　P_{16}92cm　P_{17}41cm　P_{18}77cm

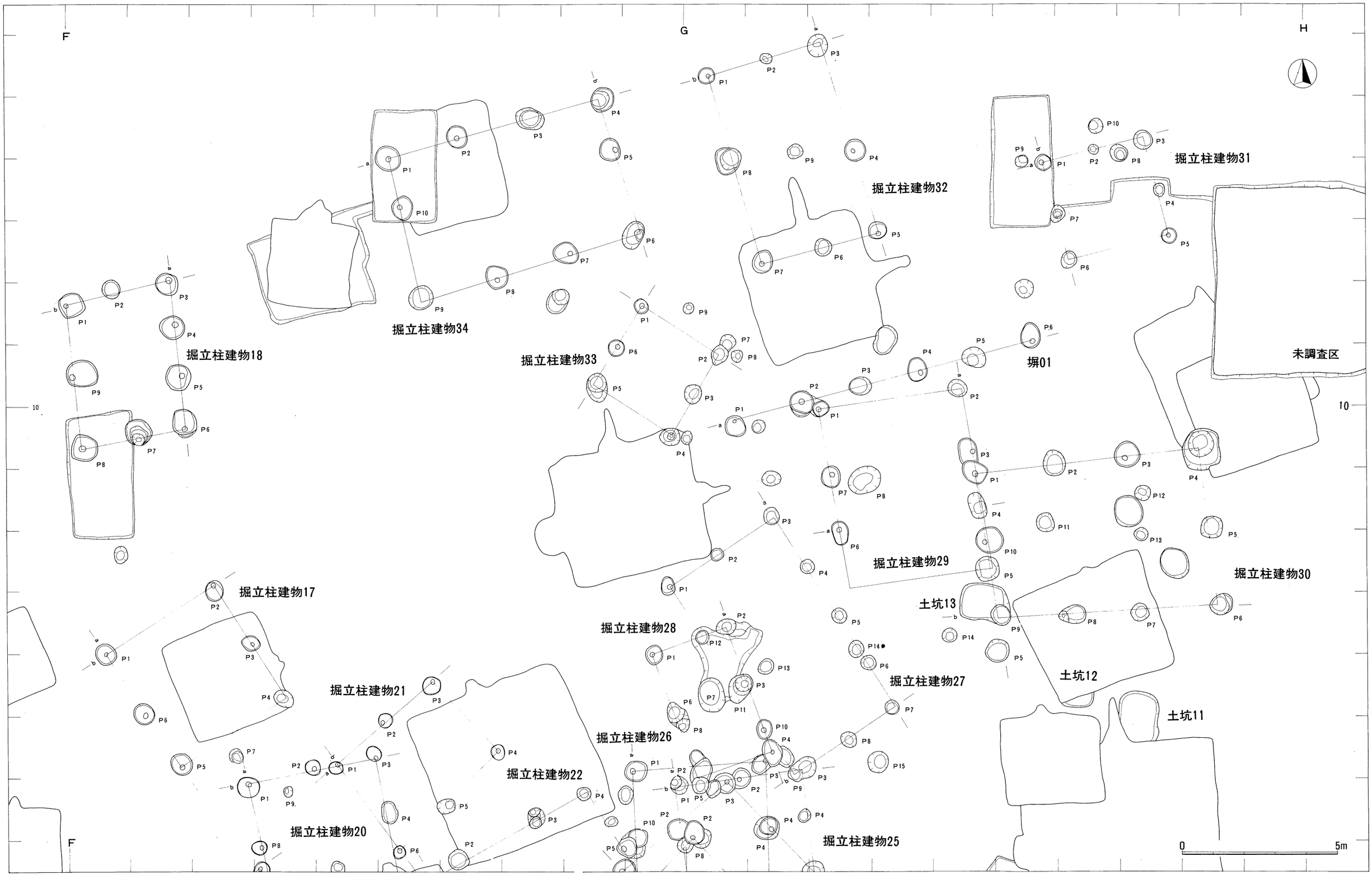
備考　竪穴住居67・69、土坑06と重複。竪穴67・69より新。土坑06との新旧関係は明らかにすることができなかった。柱痕跡上層部に、山砂状の砂質土を含むものがある。実測可能遺物なし。

掘立柱建物15（第140・143図）　E10区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　南北２間(3.68m)×東西２間(3.54m)　面積13.02㎡　　**主軸方位**　正方形、N－30°－W(南北に棟をおくとして)　　**柱間寸法**　南北1.84m等間　東西1.77m等間　　**掘形**　円形、径42～56cm、深さ$P_1$62cm　$P_2$57cm　$P_3$42cm　$P_4$40cm　$P_5$44cm　$P_6$38cm　$P_7$35cm　$P_8$16cm

備考　竪穴住居71と重複。本遺構が古。北東部は確認調査坑である。P_3・P_4間掘形は削平されてしまったものと考えられる。実測可能遺物なし。

掘立柱建物16（第140・143・146図）　F10区



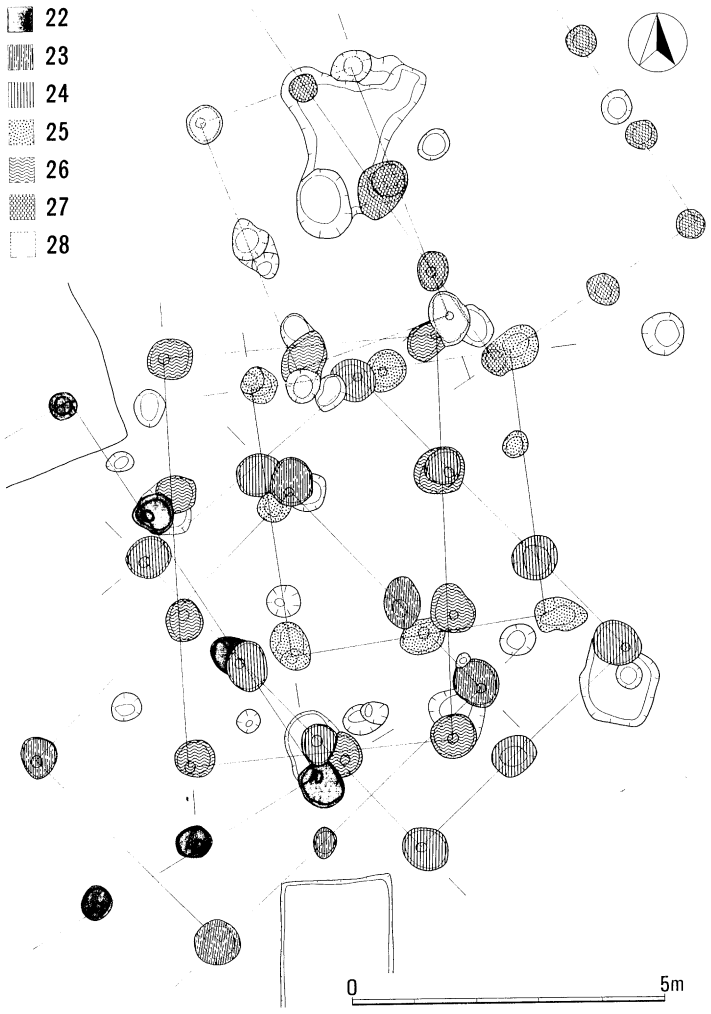
第139図　掘立柱建物(3)・塀

掘立柱建物15
掘立柱建物17
掘立柱建物20
掘立柱建物21
掘立柱建物16
掘立柱建物27
掘立柱建物28
掘立柱建物26
掘立柱建物25
土坑09
掘立柱建物22
掘立柱建物24
掘立柱建物23
掘立柱建物13
掘立柱建物14
土坑06
土坑08
土坑07
土坑05
土坑04
土坑03
掘立柱建物19
掘立柱建物12
F
G
11
0
5m

第140図　掘立柱建物(4)

掘立柱建物12
掘立柱建物13
掘立柱建物14
土坑06
土坑08
土坑07
土坑05
掘立柱建物16
掘立柱建物22
掘立柱建物24
掘立柱建物23
土坑04
土坑03
掘立柱建物19
掘立柱建物12
掘立柱建物11
掘立柱建物09
11
12
F
G
0
5m

第141図　掘立柱建物(5)



第142図　掘立柱建物対応図

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行4間(5.94m)×梁行3間(4.40m)　面積26.14m²　　**主軸方位**　南北棟、N－34°－W　　**柱間寸法**　桁行1.28～1.67m　梁行1.05、1.78m　　**掘形**　円形、径36～66cm、深さ$P_1$58cm　$P_2$58cm　$P_3$51cm　$P_4$68cm　$P_5$57cm　$P_6$74cm　$P_7$54cm　$P_8$96cm　$P_9$58cm　P_{10}61cm　P_{11}52cm　P_{12}58cm　P_{13}28cm　P_{14}84cm　P_{15}91cm　P_{16}55cm　P_{17}25cm　P_{18}40cm　P_{19}57cm　P_{20}54cm　P_{21}62cm　P_{22}65cm　P_{23}56cm　P_{24}29cm

備考　土坑18と重複。新旧関係は明らかにすることができなかった。P_{15}～P_{24}の関係は不明である。床束を含む可能性も考えられるが、特定することはできない。一部柱痕跡に山砂状の砂質土が認められる。P_{13}より土師器椀が出土している。

掘立柱建物17（第139・140・144図）　F10区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行2間(4.34m)×梁行1間(4.09m)　面積17.75m²　　**主軸方位**　南北棟、N－33°－W　　**柱間寸法**　桁行2.17m　梁行4.09m　　**掘形**　円形、径52～78cm、深さ$P_1$51cm　$P_2$62cm　$P_3$35cm(竪穴65床面より)　$P_4$53cm　$P_5$68cm　$P_6$36cm　$P_7$45cm

備考　竪穴住居65と重複。本遺構が新。掘立柱建物16と方位が対応し、建物17の西側柱列と建物16の東側柱列がほぼ柱筋をそろえる。実測可能遺物なし。

掘立柱建物18（第139・144図）　F9区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行3(2)間(4.81、4.66m)×梁行2間(3.42m)　面積16.19m²　　**主軸方位**　南北棟、N－6°－W　　**柱間寸法**　桁行1.60、2.33m　梁行1.58～1.84m　　**掘形**　円形ないし楕円形、径58～108cm、深さ$P_1$45cm　$P_2$16cm　$P_3$55cm　$P_4$39cm　$P_5$33cm　$P_6$62cm　$P_7$41cm　$P_8$41cm　$P_9$44cm

備考　桁行東西列は、2間および3間となる。南西部は確認調査坑である。柱痕跡が確認されたものは、すべて山砂状の砂質土を含む。実測可能遺物なし。

掘立柱建物19（第141・144図）　F11区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行2間(7.18m)×梁行1間(4.83m)　面積34.68m²　　**主軸方位**　南北棟、N－16°－W　　**柱間寸法**　桁行3.59m等間　梁行4.83m　　**掘形**　円形、42～98cm、深さ$P_1$83cm　$P_2$79cm　$P_3$13cm（竪穴49床面より）　$P_4$93cm　$P_5$73cm　$P_6$48cm　$P_7$33cm　$P_8$61cm　$P_9$56

cm　P_{10}46cm

備考　竪穴住居49、掘立柱建物11と重複。両者とも本遺構より古。山砂状の砂質土を柱痕に混合するものが認められる。P_7～P_{10}との関係は不明。実測可能遺物なし。

掘立柱建物20（第140・144図）　F10区

建替　なし　**規模**　側柱建物　桁行２間(4.16m)×梁行２行(3.82m)　面積15.89㎡　**主軸方位**　東西棟、N－79°－E　**柱間寸法**　桁行2.08m等間　梁行1.59～2.08m　**掘形**　円形、径43～72cm、深さ$P_1$33cm　$P_2$52cm　$P_3$50cm　$P_4$50cm　$P_5$55cm　$P_6$56cm　$P_7$60cm　$P_8$40cm　$P_9$31cm　P_{10}24cm

備考　竪穴住居59と重複。本遺構が古。P_9・P_{10}との関係は不明。実測可能遺物なし。

掘立柱建物21（第140・144図）　F10区

建替　なし　**規模**　側柱建物　桁行２間(4.51、4.08m)×梁行１間(3.43、3.10m)　面積14.02㎡　**主軸方位**　東西棟、N－47°－E　**柱間寸法**　桁行2.02～2.35m　梁行3.10、3.43m　**掘形**　円形、径40～65cm、深さ$P_1$23cm　$P_2$33cm　$P_3$52cm　$P_4$33cm(竪穴60床面より)　$P_5$50cm　$P_6$28cm

備考　竪穴住居60と重複。本遺構が新か。建物は全体としてややゆがむ。また掘形深さも異なることから、建物としてやや疑問が残る。実測可能遺物なし。

掘立柱建物22（第140・144図）　F10区

建替　なし　**規模**　側柱建物　桁行３間(7.24m)×梁行２間(5.96、5.67m)　面積42.10㎡　**主軸方位**　南北棟、N－30°－W　**柱間寸法**　桁行2.27～2.78m　梁行1.86～2.19m　**掘形**　円形、径50～82cm、深さ$P_1$30cm(竪穴59床面より)　$P_2$38cm　$P_3$30cm(竪穴60床面より)　$P_4$31cm(竪穴60床面より)　$P_5$79cm　$P_6$58cm　$P_7$60cm　$P_8$67cm　$P_9$68cm　P_{10}58cm　P_{11}74cm　P_{12}74cm　P_{13}21cm　P_{14}24cm

備考　竪穴住居58・59・60、掘立柱建物24・26と重複。各竪穴住居、建物24より古、建物26より新。P_2については、位置がややP_1に近接しており、他に存在した可能性もある。P_{13}、P_{14}については、当初束柱とも考えたが、不明である。実測可能遺存なし。

掘立柱建物23（第140・144図）　F10区

建替　なし　**規模**　側柱建物　桁行２(１)間(5.84m)×梁行２(１)間(4.12、4.37m)　面積24.79㎡　**主軸方位**　東西棟、N－43°－E　**柱間寸法**　桁行2.30、2.50m？　梁行2.60～1.75m？　**掘形**　P_1～P_4は円形、径70cm前後、深さ$P_1$51cm　$P_2$59cm　$P_3$54cm　$P_4$46cm　$P_5$46cm　$P_6$42cm

備考　掘立柱建物24・25と重複。本遺構が新。P_5・P_6との関係はやや疑問、北側柱列は、掘立柱建物26P_9と同位置か。実測可能遺物なし。

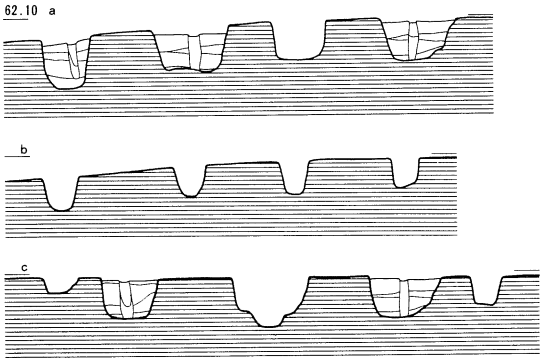
掘立柱建物24（第140・144図）　G10区

建替　なし　**規模**　側柱建物　桁行３間(6.32、6.06m)×梁行２間(4.48m)　面積27.73㎡　**主軸方位**　南北棟、N－42°－W　**柱間寸法**　桁行1.78～2.38m　梁行2.24m等間　**掘形**　円形、径70cm前後、深さ$P_1$70cm　$P_2$52cm　$P_3$73cm　$P_4$51cm　$P_5$63cm　$P_6$70cm　$P_7$53cm　$P_8$63cm　$P_9$47cm　P_{10}60cm

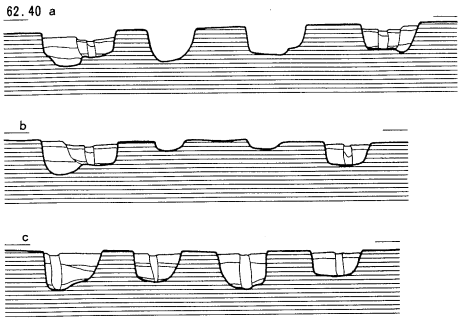
備考　掘立柱建物22・23・25・26、土坑09と重複。建物22・25・26、土坑09より新。山砂状砂質土を柱痕に含むものあり。実測可能遺物なし。

掘立柱建物25（第140・144図）　G10区

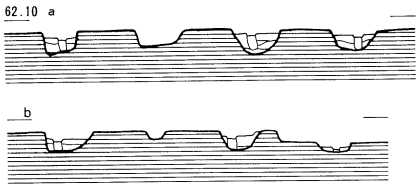
掘立柱建物06



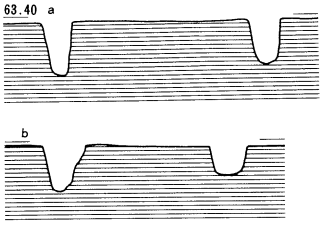
掘立柱建物07



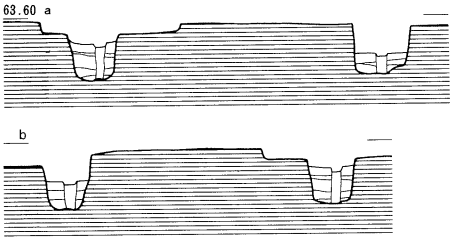
掘立柱建物08



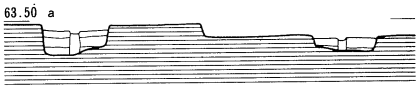
掘立柱建物09



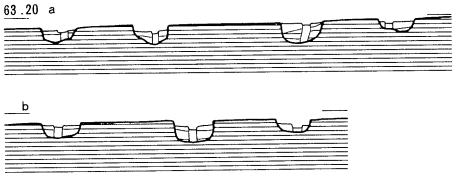
掘立柱建物10



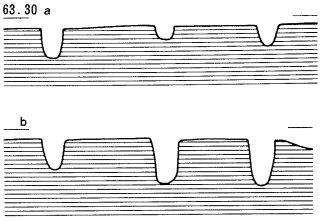
掘立柱建物11



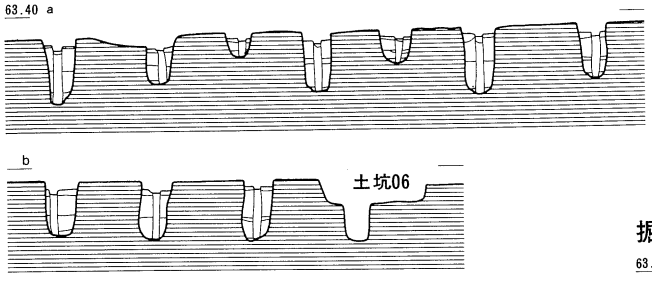
掘立柱建物12



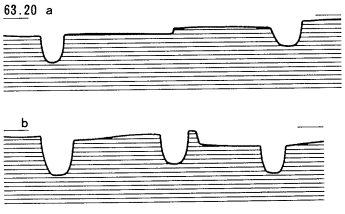
掘立柱建物13



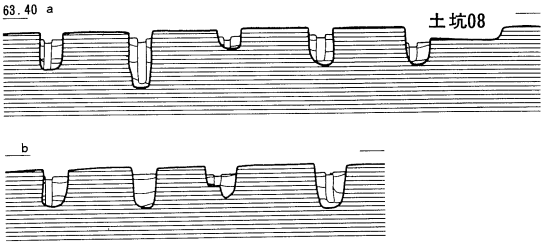
掘立柱建物14

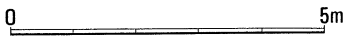


掘立柱建物15



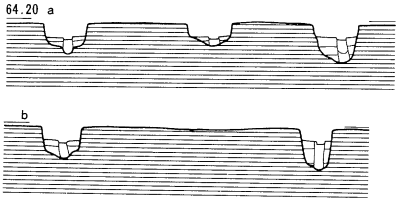
掘立柱建物16



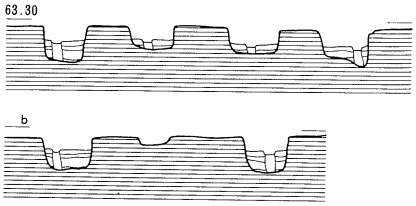


第143図　掘立柱建物(6)

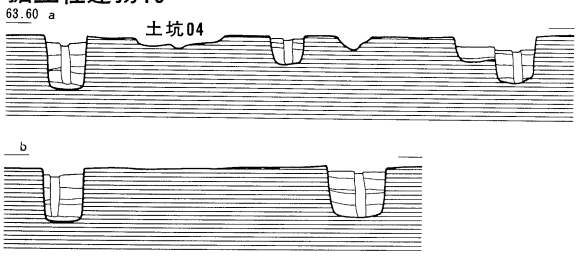
掘立柱建物17



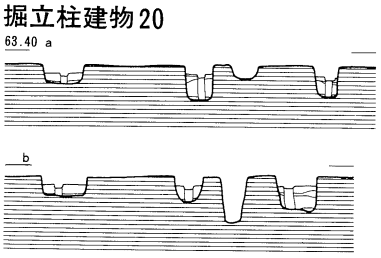
掘立柱建物18



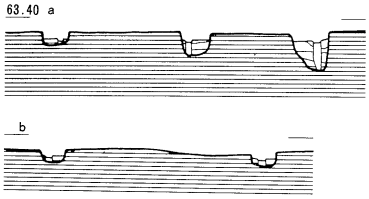
掘立柱建物19



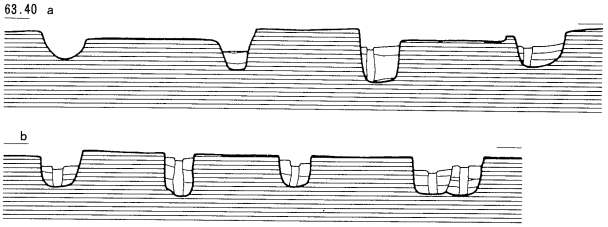
掘立柱建物20



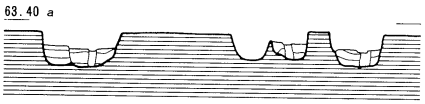
掘立柱建物21



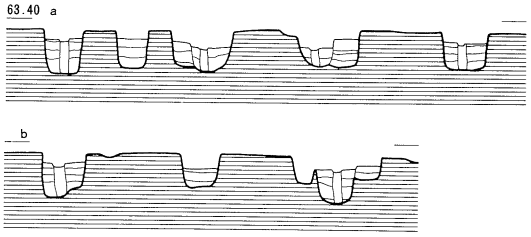
掘立柱建物22



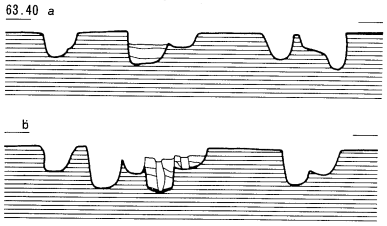
掘立柱 建物23



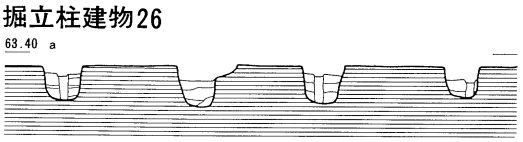
掘立柱建物24



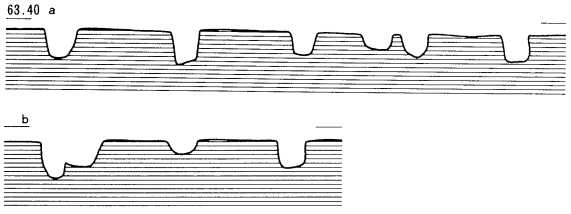
掘立柱 建物25



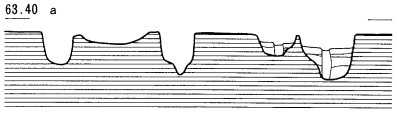
掘立柱建物26



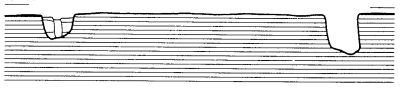
掘立柱建物27



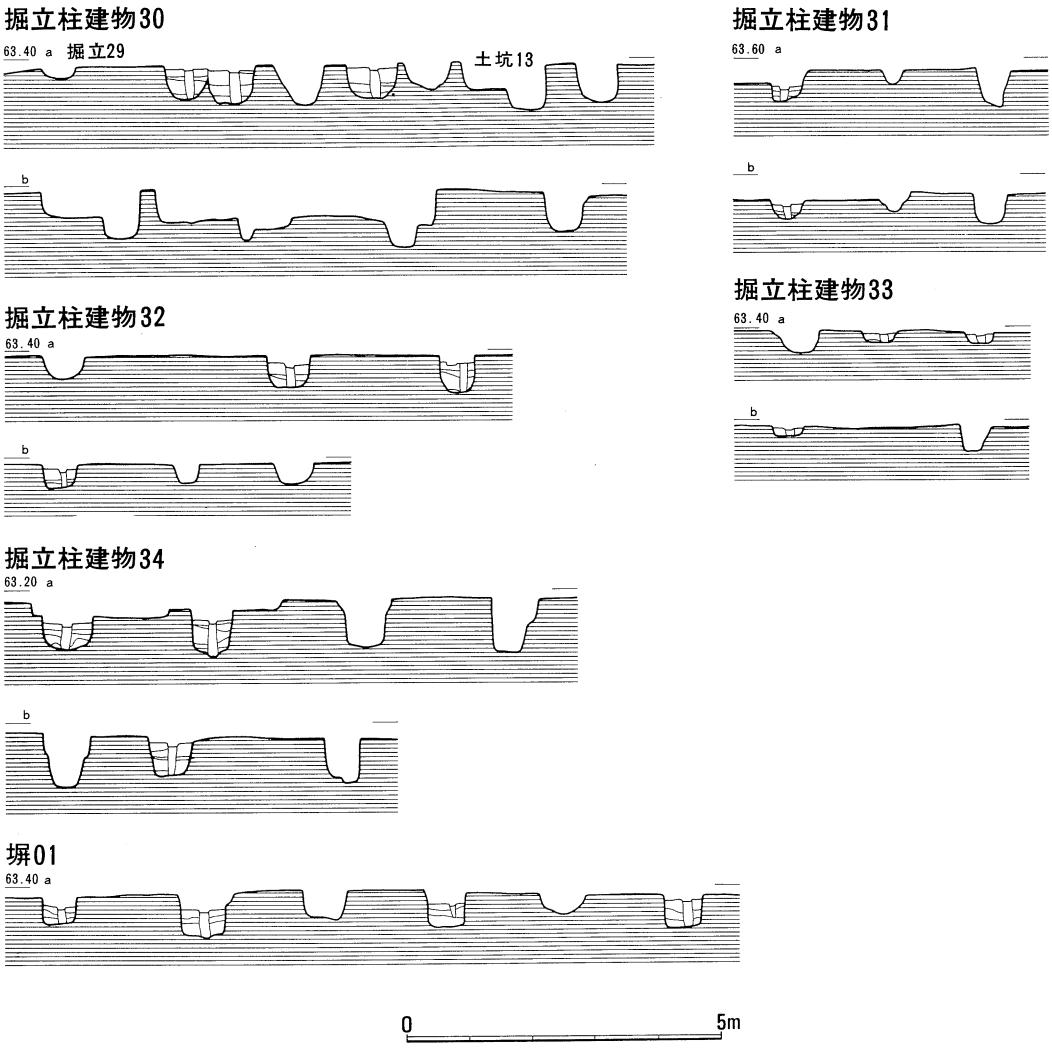
掘立柱建物28



掘立柱建物29



第144図　掘立柱建物(7)



第145図　掘立柱建物(8)・塀

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行２間(4.28m)×梁行２間(4.10m)　面積17.55㎡　　**主軸方位**　南北棟、N－7°－W　　**柱間寸法**　桁行1.48～2.38m　梁行2.05m等間　　**掘形**　円形ないしは楕円形、径52～91cm、深さ$P_1$41cm　$P_2$37cm　$P_3$38cm　$P_4$30cm　$P_5$46cm　$P_6$40cm　$P_7$55cm　$P_8$33cm　**備考**　掘立柱建物23・24・26・27と重複。建物23・24・26より古。建物27との新旧関係は不明。東西側柱列P_4・P_8はやや不明確。実測可能遺物なし。

掘立柱建物26（第140・144図）　G10区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行３間(6.50m)×梁行２間(4.21m)　面積27.37㎡　　**主軸方位**　南北棟、N－2°－W　　**柱間寸法**　桁行2.00～2.45m　梁行1.71～2.50m　　**掘形**　円形、径62～87cm、深さ$P_1$50cm　$P_2$49cm　$P_3$49cm　$P_4$51cm　$P_5$57cm　$P_6$52cm　$P_7$62cm　$P_8$48cm　$P_9$58cm　P_{10}51cm　P_{11}39cm　P_{12}38cm

備考　掘立柱建物22・24・25・27と重複。建物25より新、建物22・24・27より古。実測可能遺物なし。

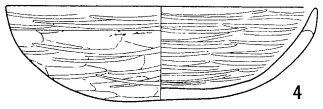
掘立柱建物27（第139・144図）　G10区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行４間(7.20m)×梁行２間(3.98m)　面積28.66㎡　　**主軸方位**　南北棟、N－33°－W　　**柱間寸法**　桁行1.80m前後等間　梁行1.85～2.10m　　**掘形**　円形、径45cm

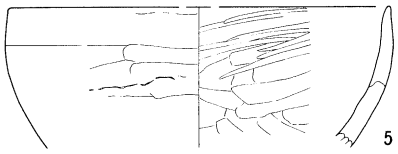
掘立柱建物06

掘立柱建物07

掘立柱建物12



掘立柱建物16



第146図　掘立柱建物06・07・12・16

程度、深さ$P_1$57cm　$P_2$13cm　$P_3$43cm　$P_4$52cm　$P_5$37cm　$P_6$38cm　$P_7$42cm　$P_8$20cm　$P_9$57cm　P_{10}40cm　P_{11}72cm　P_{12}47cm　P_{13}18cm　P_{14}22cm　P_{15}47cm

備考　掘立柱建物25・28と重複。新旧関係については、明らかにすることができなかった。実測可能遺物なし。

掘立柱建物28（第139・144図）　G10区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行2間(4.22m)×梁行1間(2.55m)　面積10.76m²　　**主軸方位**　南北棟、N－20°－W　**柱間寸法**　桁行1.90m～2.30m　梁行2.55m　　**掘形**　円形ないしは楕円形、径52～88cm、深さ$P_1$50cm　$P_2$54cm　$P_3$72cm　$P_4$61cm　$P_5$72cm　$P_6$68cm　$P_7$35cm　$P_8$55cm

備考　掘立柱建物26・27と重複。建物26より新、建物27との新旧関係は不明。P_7は束柱とも考えたが不明。北東隅側はカクランである。実測可能遺物なし。

掘立柱建物29（第139・144・145図）　G10区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行(3)間(5.86m)×梁行1間(4.67m)　面積27.37m²　　**主軸方位**　南北棟、N－10°－W　**柱間寸法**　桁行1.90m前後やや不ぞろい　梁行4.67m　　**掘形**　円形ないしは楕円形、径85～60cm、深さ$P_1$44cm　$P_2$32cm　$P_3$52cm　$P_4$65cm　$P_5$35cm　$P_6$33cm　$P_7$49cm　$P_8$46cm

備考　掘立柱建物30、塀01と重複。塀とは接している程度であり新旧不明。建物30より古。桁方向西側柱列が不明確。東側柱列は建物30P_{14}を含め4間になる可能性も考えられるが、対応する掘形は検出することができなかった。実測可能遺存なし。

掘立柱建物30（第139・145図）　G10区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行3間(7.16m)×梁行2間(5.04、4.68m)　面積34.80m²　　**主軸方位**　東西棟、N－84°－E　　**柱間寸法**　桁行2.39m等間　梁行2.34～2.52m　　**掘形**　円形、径約80cm前後、深さ$P_1$61cm　$P_2$87cm　$P_3$80cm　$P_4$73cm　$P_5$51cm　$P_6$58cm　$P_7$45cm(竪穴55床面より)　$P_8$24cm(竪穴55床面より)　$P_9$73cm　P_{10}53cm　P_{11}11cm　P_{12}5cm　P_{13}14cm　P_{14}60cm

備考　竪穴住居55・56・57、掘立柱建物29、土坑13と重複。竪穴55より古、建物29より新。竪穴56・57、土坑13との関係は不明。P_{11}～P_{13}は、本遺構に伴うものではない。実測可能遺物なし。

掘立柱建物31（第139・145図）　G9区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　東西2間(3.32m)×南北2間(3.24m)　面積10.76m²　　**主軸方位**　正方形、N－76°－E（東西に棟をおくとして）　　**柱間寸法**　東西1.66m　南北1.62m　　**掘形**　円形、径50cm前後、深さ$P_1$37cm　$P_2$24cm　$P_3$54cm　$P_4$11cm　$P_5$23cm　$P_6$47cm　$P_7$34cm　$P_8$56cm　$P_9$45cm　P_{10}37cm

備考　北西部は確認調査坑。また南半部はローム面まで掘り下げている。南側柱列P_5・P_6間掘形は検出することができなかったが一応2間を想定した。実測可能遺物なし。

掘立柱建物32（第139・145図）　G９区

建替　なし　　**規模**　総柱建物？　桁行２間(6.34m)×梁行２間(3.84m)　面積24.35㎡　　**主軸方位**　南北棟、N－16°－W　　**柱間寸法**　桁行2.66、3.68m　梁行1.92m等間　　**掘形**　円形、径68cm前後を中心として38～72cm、深さ $P_1$42cm　$P_2$38cm　$P_3$37cm　$P_4$52cm　$P_5$65cm　$P_6$23cm　$P_7$35cm　$P_8$76cm　$P_9$31cm

備考　竪穴住居62と重複。本遺構が古。実測可能遺物なし。

掘立柱建物33（第139・145図）　F９区

遺構	位置	柱間(間)	桁行(m)	梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	備考 ※重複(新・古)は対象掘立柱建物に対して
01	F 13	3 × 2	5.85	4.09	23.92	N－55°－E	竪穴33(不明)と重複。
02	C 12	1 × 1	2.44	2.25	5.17	N－71°－E	
03	F 8	4 × 2	7.21	4.50	32.45	N－58°－E	竪穴93(不明)、土坑32(古)と重複。
04	D 7	2 × 1	3.10	3.10	9.61	N－8°－W	
05	D 7	2 × 1	3.20	2.88	8.64	N－83°－E	
06	D 6	3 × 2	5.47	4.38	23.96	N－70°－E	南面庇。
07A	D 6	3 × 3	4.60	4.10	18.86	N－79°－E	建替新。
07B	D 6	3 × 3	5.35	4.65	24.88	N－71°－E	建替古。
08	D 6	3 × 3	4.65	4.45	19.86	N－71°－E	竪穴105(古)と重複。
09	F 12	1 × 1	3.30	3.10	9.43	N－47°－W	土坑23(古)と重複。
10	E 11	1 × 1	4.51	4.14	18.67	N－70°－E	
11	F 11	1 × 1	4.20	3.59	15.08	N－79°－E	竪穴40(古)、竪穴41、建物19(新)と重複。
12	E 11	3 × 2	5.38	3.72	20.01	N－29°－W	
13	E 11	2 × 2	3.50	3.20	11.20	N－22°－W	
14	E 11	6 × 3	8.76	4.89	42.84	N－39°－W	竪穴67・69(古)、土坑06(不明)と重複。
15	E 10	2 ×(2)	3.68	3.54	13.02	N－30°－W	竪穴71(新)と重複。
16	F 10	4 × 3	5.94	4.40	26.14	N－34°－W	土坑08(不明)と重複。
17	F 10	2 × 1	4.34	4.09	17.75	N－33°－W	竪穴65(古)と重複。
18	F 9	(3)× 2	4.81	3.42	16.19	N－6°－W	
19	F 11	2 × 1	7.18	4.83	34.68	N－16°－W	竪穴49、建物11(古)と重複。
20	F 10	2 × 2	4.16	3.82	15.89	N－79°－E	竪穴59(新)と重複。
21	F 10	2 × 1	4.51	3.43	14.02	N－47°－E	竪穴60(古)と重複。
22	F 10	3 × 2	7.24	5.96	42.10	N－30°－W	竪穴58・59・60(新)、建物26(古)・24(新)と重複。
23	F 10	(2)×(2)	5.84	4.37	24.79	N－43°－E	建物24・25(古)と重複。
24	G 10	3 × 2	6.32	4.48	27.73	N－42°－W	建物22・25・26、土坑09(古)、建物23(新)と重複。
25	G 10	2 × 2	4.28	4.10	17.55	N－7°－W	建物23・24・26(新)、27(不明)と重複。
26	G 10	3 × 2	6.50	4.21	27.37	N－2°－W	建物25(古)は、22・24・27(新)と重複。
27	G 10	4 × 2	7.20	3.98	28.66	N－33°－W	建物25・28(不明)と重複。26(古)。
28	G 10	2 × 1	4.22	2.55	10.76	N－20°－W	建物26(古)・27(不明)と重複。
29	G 10	(3)× 1	5.86	4.67	27.37	N－10°－W	建物30(新)、塀01(不明)と重複。
30	G 10	3 × 2	7.16	5.04	34.80	N－84°－E	竪穴55(新)、56・57(不明)、建物29(古)、土坑13(不明)と重複。
31	G 9	(2)×(2)	3.32	3.24	10.76	N－76°－E	
32	G 9	2 × 2	6.34	3.84	24.35	N－16°－W	総柱？。竪穴62(新)と重複。
33	F 9	2 × 1	3.00	2.98	8.94	N－32°－E	竪穴61(不明)と重複。
34	F 9	3 × 2	7.44	4.62	33.43	N－74°－E	竪穴63(新)と重複。

第３表　掘立柱建物跡一覧表

建替　なし　　**規模**　側柱建物　南北２間(3.00m)×東西２間(2.98m)　面積8.94㎡　　**主軸方位**　正方形、Ｎ－32°－Ｅ（南北に棟をおくとして）　　**柱間寸法**　南北1.50m等間　東西2.98m　　**掘形**　円形、径44～60cm、深さ$P_1$32cm　$P_2$16cm　$P_3$18cm　$P_4$40cm　$P_5$34cm　$P_6$52cm　$P_7$31cm　$P_8$42cm

備考　竪穴住居61と重複。新旧関係不明。掘形深さが不ぞろいであり、他の掘立柱建物と方位を異にする。実測可能遺物なし。

掘立柱建物34（第139・145図）　Ｆ９区

建替　なし　　**規模**　側柱建物　桁行３間(7.44m)×梁行２間(4.62m)　面積33.43㎡　　**主軸方位**　東西棟、Ｎ－74°－Ｅ　　**柱間寸法**　桁行2.40m前後等間　梁行1.63～3.12m　　**掘形**　円形、径75cm前後、深さ$P_1$69cm　$P_2$54cm　$P_3$58cm　$P_4$81cm　$P_5$62cm　$P_6$85cm　$P_7$73cm　$P_8$73cm　$P_9$81cm　P_{10}54cm

備考　竪穴住居63と重複。本遺構が古。梁行P_5・P_{10}は北側によっている。実測可能遺物なし。

3　掘立柱列

今回の調査で検出された掘立柱列は、塀01のみである。その方位は掘立柱建物31・32・34等と対応し、時期的にこれらの掘立柱建物群に伴うものと考える。

塀01（第139・145図）　Ｇ９区

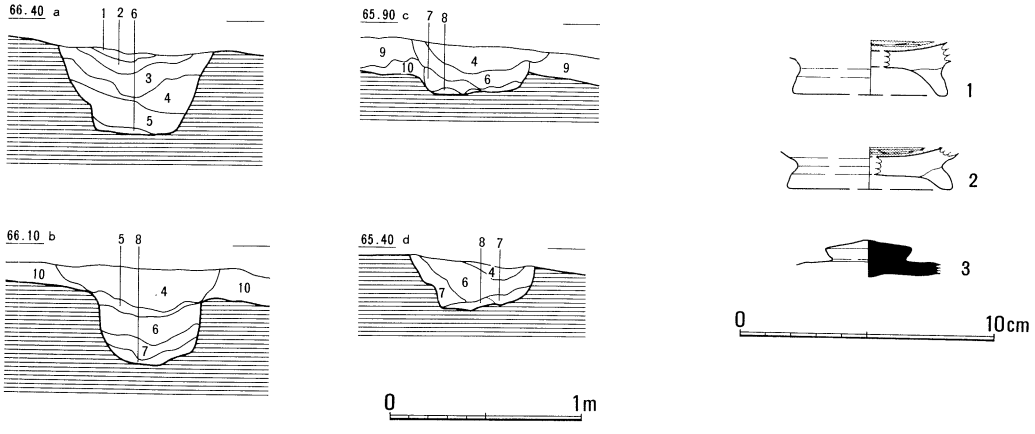
建替　なし　　**規模**　５間（9.93m）　　**方位**　Ｎ－75°－Ｅ　　**柱間寸法**　1.70～2.26m　　**掘形**　円形ないしは楕円形、径70cm前後、深さ$P_1$50cm　$P_2$75cm　$P_3$43cm　$P_4$60cm　$P_5$31cm　$P_6$52cm

備考　掘立柱建物29と重複。新旧関係不明。目かくし塀であろうか。

4　溝

溝01（第12・147図）

規模　75.5m（直線距離）　幅64cm、深さ33cm（断面ａ）　幅65cm、深さ38cm（断面ｂ）　幅55cm、深さ21cm（断面Ｃ）　幅50cm、深さ21cm（断面ｄ）　　**土層**　１層、焼土層　２層、黒褐色　３層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　４層、明黒褐色土、スコリア多　５層、黒褐色均質土　６層、黒褐色土、ロームブロック大小　７層、明黒褐色土、ロームブロック大小　８層、ロームブロック主体　９層、黒褐色土　10層、暗黄褐色土



第147図　溝01

遺物　土器小片のみ。破片では竪穴住居08と接合関係をもつ。

備考　流路としての痕跡は認められない。遺物はいずれも混在であるが、V・VI期以降の遺物はない。

5　土　坑

今回の調査で検出された土坑は35基であるが、その時期、性格については一様ではない。竪穴住居跡群、掘立柱建物跡群と時期的に対応すると考えられるものは土坑01～15である。

土坑01（第149図）C13区

形状　平面楕円形、床面は2段となる　**規模**　2.26(長軸)×1.12m　深さ54cm　**長軸方位**　N－16°－E

備考　東側はカクラン坑である。遺物は土師器小片が若干量出土したのみである。

土坑02（第44・148図）E12区

形状　平面楕円形か。床面はすり鉢状となる　**規模**　2.39m(最大幅)　深さ47cm　**長軸方位**　不明

備考　当初竪穴住居31張り出し部として調査したため、新旧関係は考慮しなかった。出土遺物を基準とするならば、本遺構が新。ただし平面形等は不明。出土遺物は、土師器甕3点、土師器杯1点、土師器甑1点である。いずれも覆土より出土している。他にスラグ小片が覆土より出土。

土坑03（第55・140図）F11区

形状　平面円形ないしは隅丸方形か　**規模**　1.85m(最大幅)　深さ12cm　**長軸方位**　不明

備考　竪穴住居40と重複。本遺構が古。実測可能遺物なし。

土坑04（第140図）F11区

形状　隅丸長方形、主軸線上に小Pit2基　**規模**　2.27(長軸)×1.51m　深さ21cm　Pit深さ8、12cm　**長軸方位**　N－80°－W

備考　竪穴住居40と重複。新旧関係不明。実測可能遺物なし。

土坑05（第140図）F11区

形状　隅丸長方形　**規模**　1.53(長軸)×1.22m　深さ9cm　**長軸方位**　N－73°－W

備考　遺物は土師器小片若干量のみ。

土坑06（第140図）F11区

形状　隅丸長方形　**規模**　1.74(長軸)×1.25m　深さ38cm　**長軸方位**　N－20°－E

備考　掘立柱建物14と重複。新旧関係不明。実測可能遺物なし。

土坑07（第140図）F11区

形状　隅丸方形、北壁側は周溝状を呈す、南辺部は若干階段状となりPitをもつ　**規模**　2.10(長軸)×2.03m　深さ23cm　Pit深さ19cm　**長軸方位**　N－22°－E

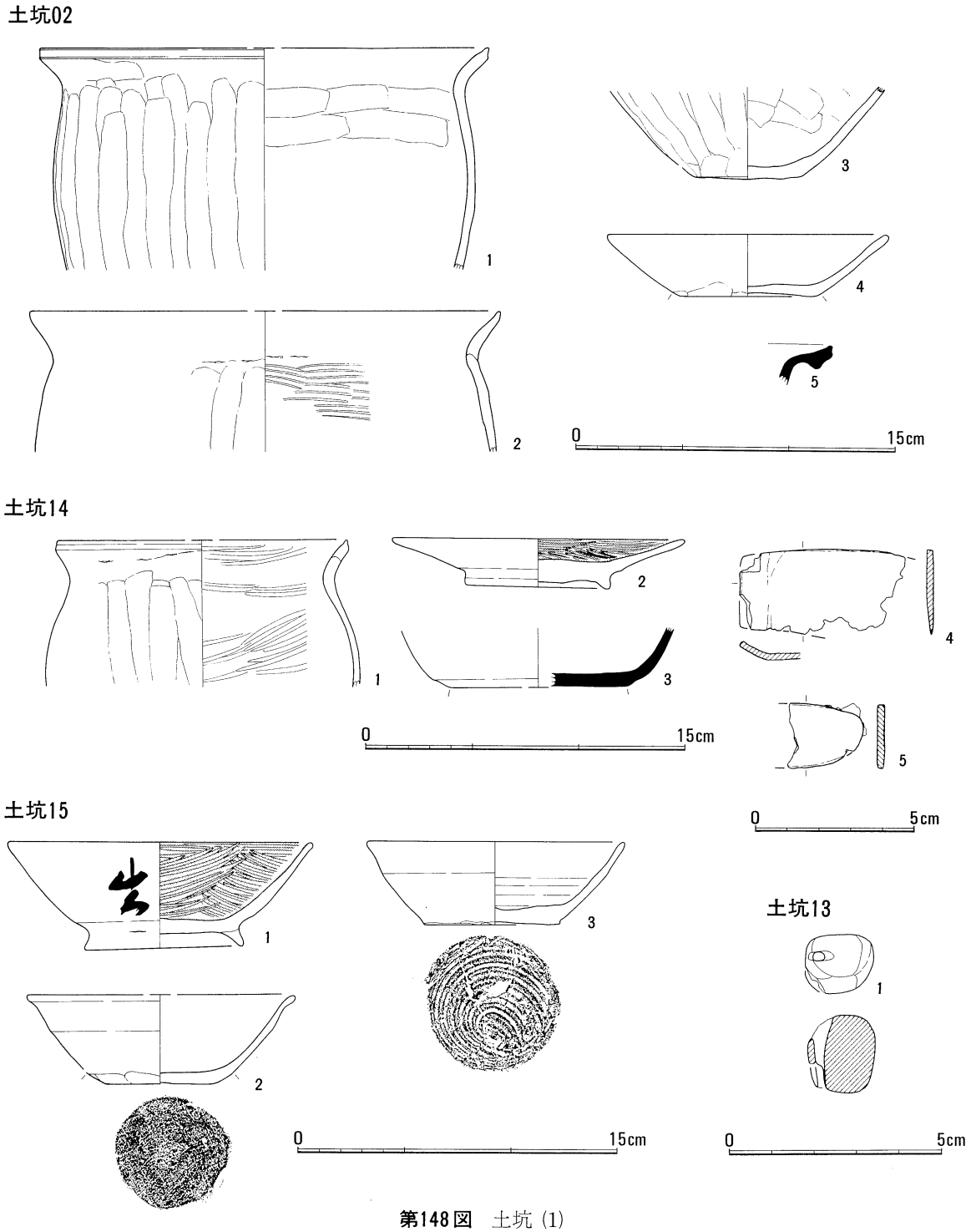
備考　遺物は土師器小片若干量のみ。

土坑08（第140図）F11区

形状　隅丸台形　**規模**　1.27(長軸)×1.16m　深さ24cm　**長軸方位**　N－74°－W前後

備考　掘立柱建物16と重複。新旧関係不明。実測可能遺物なし。

土坑09（第140図）G10区



第148図　土坑 (1)

形状　隅丸方形　　**規模**　1.20×1.20m　深さ23cm　　**長軸方位**　N－16°－E（南北を軸として）

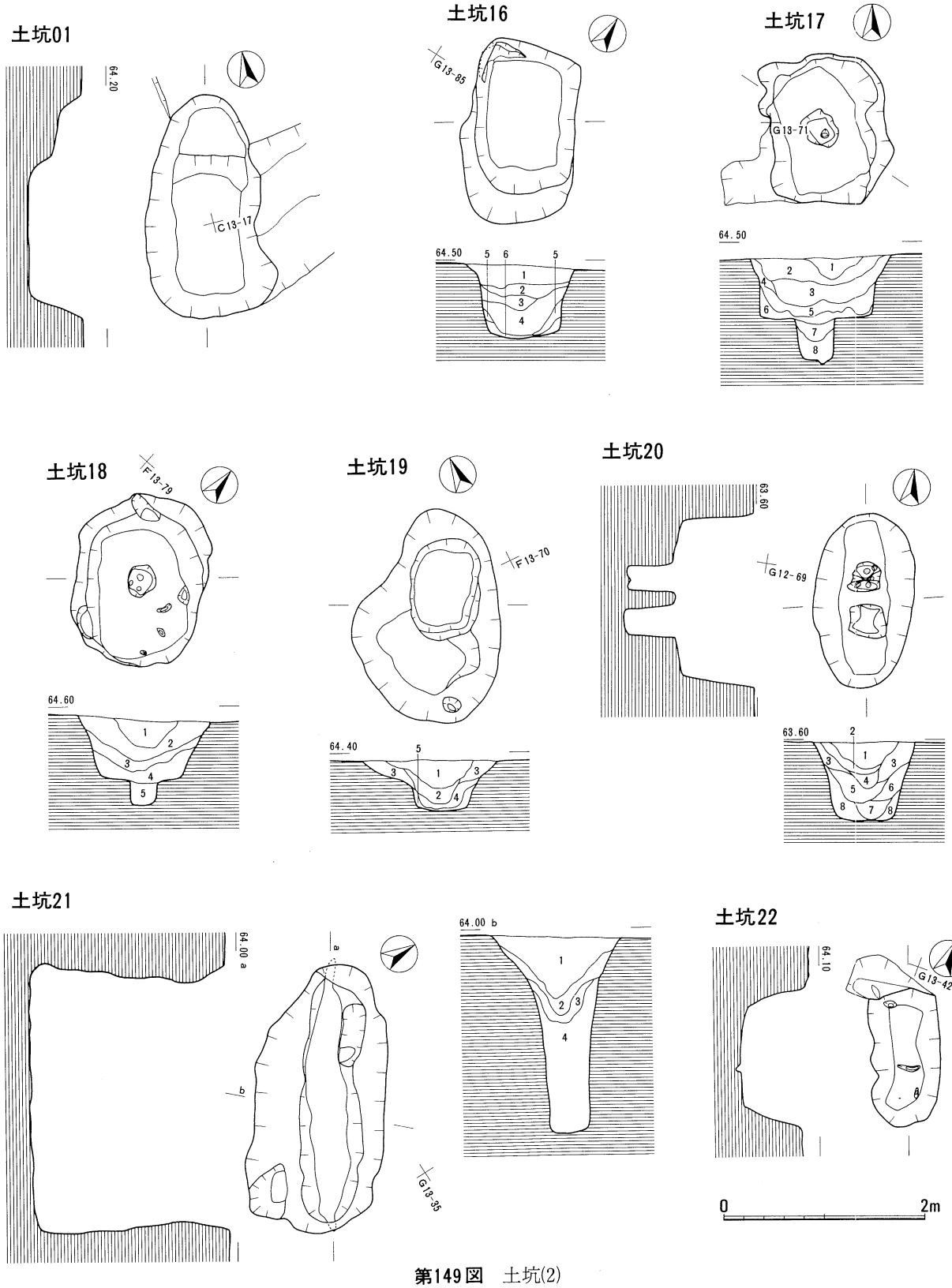
備考　掘立柱建物24と重複。本遺構が古。中央掘形については本遺構より新しいものであり、伴わない。実測可能遺物なし。

土坑10（第72図）　G10区

形状　長方形　　**規模**　1.94(長軸、現存長)×1.27m　深さ 8 ～22cm　　**長軸方位**　N－63°－W

備考　竪穴住居54と重複。遺物は土師器小片若干量のみ。

土坑11（第72・139図）　G10区


土坑01
64.20
C13-17
土坑16
G13-85
64.50
土坑17
G13-71
64.50
土坑18
F13-79
64.60
土坑19
F13-70
64.40
土坑20
63.60
G12-69
63.60
土坑21
64.00 a
a
b
64.00 b
G13-35
土坑22
64.10
G13-42
0
2m

第149図　土坑(2)

形状　隅丸長方形　　**規模**　1.61(長軸、現存長)×1.30m　深さ54cm　　**長軸方位**　N－7°－E

備考　竪穴住居54と重複。本遺構が古。土師器小片が出土している。

土坑12（第74・139図）G10区

形状　隅丸方形ないしは長方形　　**規模**　1.07m(現存最大幅)　深さ42cm　　**長軸方位**　不明

備考　竪穴住居55と重複。新旧関係不明。実測可能個体なし。

土坑13（第139図・148図）G10区

形状　隅丸方形　　**規模**　1.59(長軸)×1.20m　深さ42cm　　**長軸方位**　N－85°－W

備考　掘立柱建物30と重複。新旧関係不明。覆土より琥珀製の玉が１点出土している。加工面が若干みられるものの未製品か。重さ2.4ｇ

土坑14（第79図・148図）F10区

形状　隅丸方形　　**規模**　1.68(長軸)×1.54m　深さ55cm　　**長軸方位**　N－75°－E　　**土層**　9層、明黒褐色土、斑状に褐色土混合　10層、暗褐色土　11層、黒褐色土、スコリア多　12層、暗黄褐色土、ロームブロック主体

備考　竪穴住居61と重複。当初竪穴61張り出し部として掘り下げたが、本遺構が新。出土土器は土師器甕１点、土師器高台付皿１点、須恵器杯１点である。４・５は鉄製品である。４は鎌であり、現存長5.2cm、幅2.75cm、厚さ0.2cm、重量8.3ｇを測る。５は製品名は特定できない。刃部は認められない。現存長2.4cm、幅2.1cm、厚さ0.2cm、重量3.3ｇを測る。ともに覆土より出土している。

土坑15（第115図・148図）Ｄ８区

形状　円形ないしは隅丸方形　　**規模**　98(長軸)×89cm　深さ66cm　　**長軸方位**　N－45°－W

備考　竪穴住居94と重複。竪穴94に伴う可能性も考えられるが、その関係は明らかではない。出土土器は、土師器高台付杯１点、土師器杯２点であり、いずれも覆土下層より出土している。

土坑16（第149図）G13区

形状　隅丸長方形　　**規模**　1.81(長軸)×1.06m　深さ71cm　　**長軸方位**　N－29°－W　　**土層**　１層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　２層、黒褐色土　３層、明黒褐色土、１層に似る　４層、黒褐色均質土５層、黒褐色土とロームを粒状に混合　６層、ロームブロック主体

備考　落し穴か。出土遺物なし

土坑17（第149図）G13区

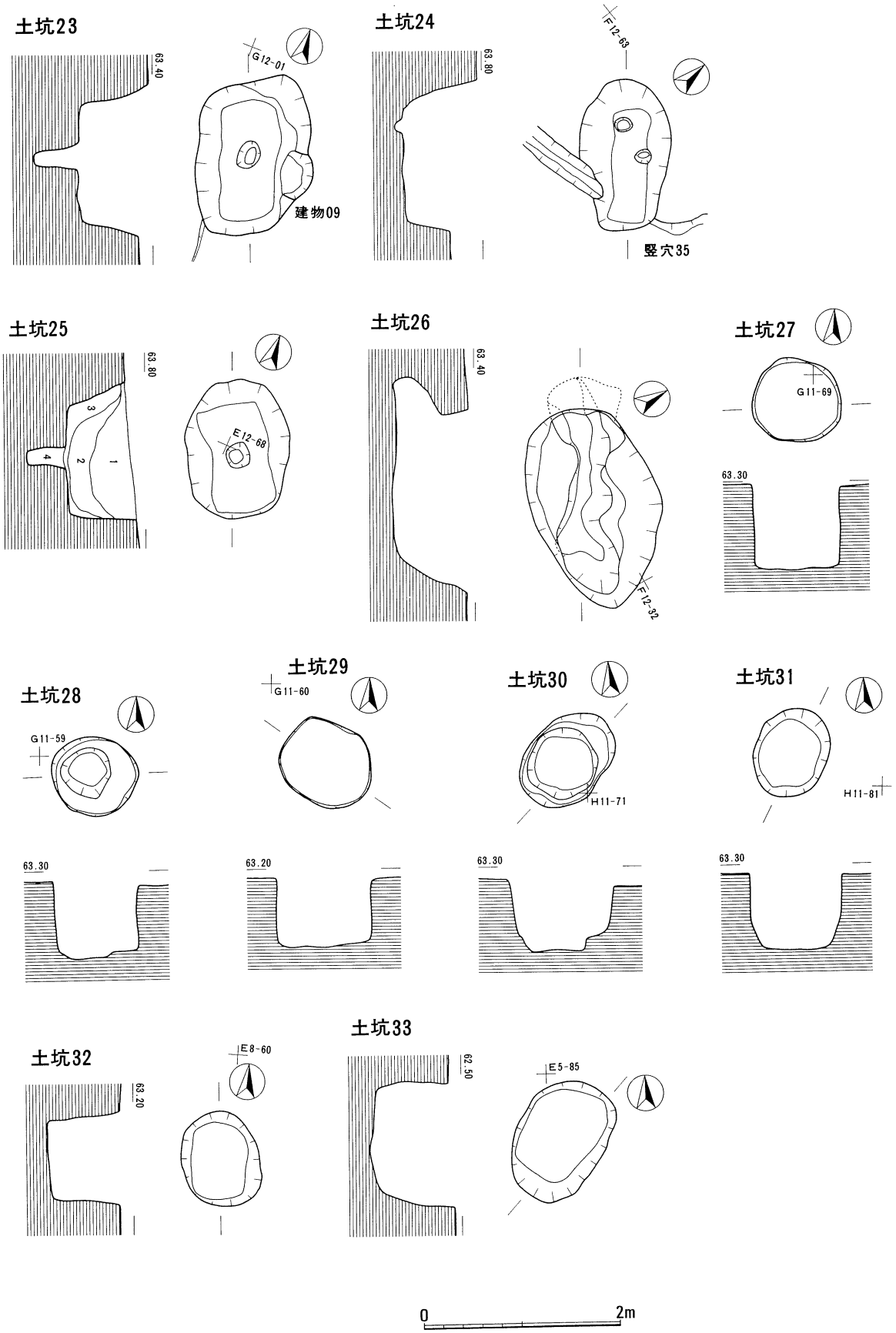
形状　不整長方形　　**規模**　1.56(長軸)×1.21m　深さ64cm　Pit深さ1.07m(確認面より)　　**長軸方位**　N－23°－W　　**土層**　１層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合　２層、明黒褐色土、１層より明、スコリア多　３層、黒褐色均質土　４層、暗黄褐色土、粒状　５層、黒褐色土、ロームブロック大小多　６層、暗黄褐色土、粒状

備考　落し穴か。周囲は若干掘りすぎている。出土遺物なし。

土坑18（第150図）F13区

形状　隅丸長方形　　**規模**　1.75(長軸)×1.33m　深さ71cm　Pit深さ96cm(確認面より)　　**長軸方位**　N－43°－W　　**土層**　１層、暗黄褐色土　２層、明黒褐色土　３層、黒褐色均質土　４層、明黒褐色土、ロームブロック大小　５層、暗黄褐色土、粒状

備考　落し穴か。中央Pitを掘形とする小柱痕跡が認められたが、断面では明瞭に確認することができ


土坑23
63.40
G12-01
建物09
土坑24
63.80
F12-63
竪穴35
土坑25
63.80
E12-68
土坑26
63.40
F12-32
土坑27
G11-69
63.30
土坑28
G11-59
63.30
土坑29
G11-60
63.20
土坑30
H11-71
63.30
土坑31
H11-81
63.30
土坑32
63.20
E8-60
土坑33
62.50
E5-85
0
2m

第150図　土坑(3)

なかった。他の小 Pit はいずれも深さ数cm程度のものである。出土遺物なし。

土坑19（第150図） F13区

形状 不整形、ただし本来の形状は中央北側の隅丸長方形部分か **規模** 外周2.12(長軸)×1.50m 内周1.04(長軸)×0.68m 深さ61cm **長軸方位** N－31°－E（内側隅丸長方形部を基準として） **土層** 1層、明黒褐色土、しみ状に褐色土、ローム混合 2層、黒褐色均質土 3層、暗黄褐色均質土 4層、暗黄褐色土、ロームブロック主体 5層、黒褐色土、ロームを粒状に混合

備考 落し穴か。出土遺物なし

土坑20（第149図） G12区

形状 楕円形 **規模** 1.77(長軸)×1.01m 深さ78cm Pit深さ1.26m(北) 1.30m(南)(確認面より) **長軸方位** N－9°－W **土層** 1層、黒褐色土、スコリア多 2層、黒褐色土、褐色土混合 3層、暗黄褐色土、ロームブロック主体 4層、明黒褐色均質土 5層、明黒褐色土、ロームブロック大小多 6層、暗黄褐色均質土 7層、黒褐色土、ロームブロックを全体に混合 8層、明黒褐色土、粒状

備考 落し穴か。小Pit柱痕跡は認められなかった。出土遺物なし。

土坑21（第149図） G13区

形状 長楕円形、底面は溝状となり、両端部は袋状を呈す **規模** 2.69(長軸、確認面)、2.78(長軸、底面)×1.34m 深さ1.99m **長軸方位** N－58°－W **土層** 1層、黒褐色均質土 2層、明黒褐色土、スコリア多 3層、暗黄褐色土、粒状 4層、未実測

備考 落し穴か。出土遺物なし。

土坑22（第149図） G14区

形状 隅丸長方形 **規模** 1.40(長軸)×0.72m 深さ68cm **長軸方位** N－21°－W

備考 竪穴住居03床下より検出。落し穴か。底面に小ピットが検出されたが、不整形であり、深さはいずれも数cm程度。

土坑23（第150図） G12区

形状 隅丸長方形 **規模** 1.57(長軸)×1.20m 深さ74cm Pit深さ1.19m（確認面より） **長軸方位** N－25°－W

備考 掘立柱建物09と重複。落し穴か。中央Pitを掘形とする小柱痕跡は認められなかった。出土遺物なし。

土坑24（第150図） F12区

形状 隅丸長方形 **規模** 1.56(長軸)×0.95m 深さ78cm **長軸方位** N－49°－W

備考 竪穴住居35と重複。本遺構が古。落し穴か。小Pitは、深さ10cm程度。出土遺物なし。

土坑25（第150図） E12区

形状 隅丸長方形 **規模** 1.41(長軸)×1.09m 深さ71cm Pit深さ1.11m **長軸方位** N－33°－W **土層** 1層、明黒褐色土、しみ状に褐色土混合 2層、黒褐色均質土、スコリア多 3層、暗黄褐色土、ロームブロック主体 4層、黒褐色均質土

備考 落し穴か。中央Pitを掘形とする小柱痕跡は認められなかった。出土遺物なし。

土坑26（第150図） F12区

形状　楕円形、底部は溝状となり屈曲する。西側は袋状となる　　**規模**　2.10(長軸、確認面)×1.35m　深さ1.90m

備考　竪穴住居36と重複。本遺構が古。落し穴か。出土遺物なし。

土坑27（第150図）G11区

形状　円形　　**規模**　径91～88cm　深さ90cm　　**長軸方位**　不明

備考　出土遺物なし

土坑28（第150図）G11区

形状　円形　底面は2段に掘りこまれる　　**規模**　径90～81cm　深さ81cm　　**長軸方位**　不明

備考　縄文土器小片が出土。時期を特定することはできない。

土坑29（第150図）G11区

形状　楕円形、袋状　　**規模**　径98～85cm　深さ71cm　　**長軸方位**　N－55°－W

備考　出土遺物なし

土坑30（第150図）G11区

形状　楕円形、底面は2段に掘りこまれる　　**規模**　径1.11×0.79m　深さ75cm　　**長軸方位**　N－46°－E

備考　出土遺物なし

土坑31（第150図）G11区

形状　円形　　**規模**　径96～77cm　深さ80cm　　**長軸方位**　不明

備考　出土遺物なし

土坑32（第150図）E8区

形状　楕円形　　**規模**　径99～82cm　深さ76cm　　**長軸方位**　N－8°－W

備考　掘立柱建物03と重複。落し穴か。出土遺物なし。

土坑33（第150図）E5区

形状　楕円形　　**規模**　径1.29～0.91m　深さ85cm　　**長軸方位**　N－34°－E

備考　出土遺物なし。

土坑34（第24図）E14区

形状　長方形　　**規模**　2.55(長軸)×2.01m　深さ40～44cm　　**長軸方位**　N－12°－W　　**土層**　10層、暗黄褐色土、粒状　11層、炭化物層　12層、ローム粒と焼土を全体に混合　13層、黒褐色土、炭焼土をブロック状に混合　14層、焼土層　15層、炭化物層　16層、焼土層　17層、明黒褐色土　18層、13層に似る　19層、10層に似る　20層、暗黄褐色土、焼土少

備考　竪穴住居10と重複。本遺構が新。2回の火床面があり、炭化物が多量に認められる。炭窯か。出土遺物なし。

土坑35（第130図）F4区

形状　隅丸方形　　**規模**　2.17(長軸)×2.07m　深さ30～44cm　　**長軸方位**　N－4°－E　　**土層**　1層、黒褐色土、2層、明黒褐色土、焼土、炭化物多　3層、焼土、炭とロームを粒状に混合

備考　竪穴遺構111と重複。本遺構が新。土坑34と類似するが、焼成面は認められなかった。性格不明。出土遺物なし。

第4表　土器観察表

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 / 器高	最大径 / 底径	容量A / 容量B
02	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部1/8	長石、石英、酸化粒他少	やや不良	にぶい橙色	(18.6) (5.7)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(下上、右左)、底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部器面状態不良。	床～カマド～覆土	胴部上半1/6、胴部下半2/3	長石他、細粒多	良	暗赤褐色	(11.9) (11.7)	13.1 6.3	 1021
	3	須恵器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り、外周回転ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。体部下半ヘラケズリ不明。	ロクロ調整。	床	底部1/2	黒色粒大小少	やや不良	明緑灰色	(12.5) 3.9	 7.7	 305
03	1	土師器	甕	胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	カマド	口縁部1/2、未接合片多	砂粒多	良	橙色	21.8 (7.6)		
04	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。頸部に指？ナデ再調整。煤付着なし。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。平滑。	床～覆土	体部1/2	長石、酸化粒他大小多	良	橙色	 (31.5)	(27.8) 8.1	 10716
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。胴部上半ミガキ状の再調整。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/3	大小砂粒多	やや不良	にぶい橙色 灰褐色	(16.7) (20.8)	(18.0)	
	3	土師器	甕	ヘラケズリ（上下)。	ヘラナデ（右左)。	覆土	胴部下半1/3	大小砂粒多	良	灰褐色 橙色	 (11.4)	 4.9	
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。肩部ミガキ状のヘラナデ。胴部中位煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	ほぼ完存	白色粒他細粒多	良	赤褐色 赤橙色	19.2 31.6	21.0 4.6	6410
	5	土師器	甕	ヘラケズリ（上下)。器面状態不良。	ヘラナデ（右左)。器面状態不良。	覆土	胴部下半1/3	酸化粒大小多	やや不良	橙色	 (15.5)	 8.9	
	6	土師器	甕	ヘラケズリ（左右)。	ヘラナデ。	覆土	胴部下半1/2	長石、石英他細粒多	良	にぶい赤褐色	 (12.5)	 6.6	
	7	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ナデ調整、暗文。	覆土	体部1/3	細粒多	良	淡橙色	(14.9) 5.6	(15.2)	 646
	8	土師器	杯	ミガキ。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	体部1/3	密	良	暗赤褐色	(12.6) (4.6)	 	
	9	土師器	杯	器面状態不良。	暗文。器面状態不良。	覆土	体部1/3	密	やや不良	赤色	(11.8) (4.5)	 	
	10	土師器	杯	口縁部は内傾し、受部をもつ。口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリののち粗いミガキ。	ミガキ。漆仕上か。	床～覆土	体部3/4	密	良	にぶい橙色 暗赤褐色	12.4 4.2	13.5	 290
	11	土師器	杯	口縁部は内傾し、受部をもつ。口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリののち粗いミガキ。	粗いミガキ。	床	口縁部1/3欠	密	良	赤橙色	11.8 3.7	13.3	250

04	12	土師器	杯	体部中位に若干の段。口縁部ミガキ、体部ヘラケズリ（右左）。漆仕上の可能性あり。	粗いミガキ。器面状態不良。漆仕上の可能性あり。	床	口縁部一部欠	酸化粒他細粒	良	橙色 にぶい橙色	12.4 3.7		224
05	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（下上、左右）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。下半部に炭化物の付着。	床～覆土	体部1/3	長石、石英、雲母他	良	赤褐色 にぶい橙色	(25.2) (15.5)		
	2	土師器	甕	口唇部面取り、沈線。口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ。	カマド	口縁部1/8	細粒他	良	橙色	(23.6) (5.0)		
	3	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。高台部ヨコナデ。底部切り離し、調整痕不明瞭。	ロクロ調整。	カマド	底部1/5	白色粒少	良	青灰色	(3.4)	(8.5)	
	4	(須恵器)	甕	平行タタキののち頸部ヨコナデ。	指頭状の当て具痕。	カマド	胴部上半1/8	黒色粒少	良	にぶい橙色 ～灰黄色	(7.8)		
06	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。器面状態不良。胴部下半煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	カマド～覆土	胴部上半1/8	大小砂粒他	良	赤褐色	(22.4) (23.5)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、左右）。	器面剝落。	床～カマド	胴部1/2欠	大小砂粒多	良	赤褐色 にぶい橙色	15.1 17.9	16.6 7.3	2227
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、右左）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	カマド～覆土	胴部上半1/2	白・黒色細粒多	良	にぶい橙色	12.6 (24.5)		
	4	土師器	短頸壺	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	カマド～覆土	体部1/3	細粒多	良	にぶい橙色 褐灰色	(9.8) (9.4)	(6.4)	
	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。底面器面状態不良。漆不明確。	粗いミガキ。漆仕上。	床	口縁部一部欠	酸化粒少	良	にぶい橙色 明褐色	16.2 4.7		530
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。	床	体部1/2	白・黒色粒大小多	良	にぶい橙色	14.0 4.1		316
07	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	器面状態不良。	覆土	口縁部1/8	大小砂粒多	やや不良	橙色	(24.8) (6.4)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。肩部煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	覆土	口縁部1/4	細粒多	良	灰褐色 にぶい橙色	(21.4) (6.5)		
	3	土師器	甕	口唇部外面に沈線。口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデか。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/10	細粒多	良	にぶい橙色	(20.4) (3.0)		
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（下上）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	覆土	胴部上半1/2	密	良	にぶい橙色 浅黄橙色	15.0 (8.3)	14.8	
	5	土師器	甕	胴部ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ（右左）。	覆土	胴部下半のみ	細粒多	良	にぶい赤褐色	(7.1)	5.7	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
07	6	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	器面状態不良。	覆土	胴部上半全周	細粒多	良	暗褐色	13.4 (9.4)	(13.8)	
	7	土師器	甕	口唇部面取り。口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ(右左)。	覆土	胴部上半1/4	細粒多	良	明赤褐色 にぶい赤褐色	(14.8) (5.2)		
	8	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床～覆土	口縁部一部欠	細粒多	良	橙色	12.4 4.8	6.3	290
	9	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部3/4欠	細粒多	良	橙色	13.4 4.9	7.3	335
	10	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端手持ち？ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/3	密	良	灰褐色 にぶい橙色	(12.6) (4.2)		
08	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	口縁部1/5周	白色粒他細粒多	良	灰褐色	23.0 14.2		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	器面状態不良。	カマド	胴部上半1/3	長石他細粒多	良	橙色	(21.7) (14.2)		
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、平滑。	カマド	口縁部1/6	細粒多	良	橙色	(24.8) (7.7)		
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、頸部横方向のヘラケズリ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～カマド～覆土	胴部1/2	白色粒他細粒多	良	赤色	21.5 (22.4)		
	5	土師器	甕	口唇部面取り、沈線。口縁部ヨコナデ、頸部横方向のヘラナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	口縁部1/3周	細粒多	良	にぶい橙色	(23.8) (7.8)		
	6	土師器	甑	ヘラケズリ（左右)。	ヘラナデ（右左)。	カマド	体部下半1/3	細粒多	良	灰赤色 淡赤橙色	(6.7)	(9.6)	
	7	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。頸部に煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。ヘラナデは明瞭な条線を残す。	カマド	胴部上半3/4欠	石英、酸化粒大小多	良	暗赤褐色	(12.8) 10.5	5.4	779
	8	土師器	甕	ヘラケズリ（左右)。	ヘラナデ（右左)。	カマド	底部のみ	白色粒他細粒多	良	橙色	(4.2)	6.1	
	9	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4	大小砂粒	良	橙色	(16.1) (4.9)	(8.2)	
	10	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。器面状態不良。	覆土	体部1/2	白色粒他大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 明赤褐色	(14.6) 4.9	(7.0)	

08	11	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整か。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4	細粒多	良	橙色	(15.2) 5.9	(7.6)	
	12	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。体部下端に条線が認められ、回転を利用した軽いヘラナデか。	ロクロ調整。	カマド	体部1/2	細粒多	良	にぶい橙色 にぶい赤褐色	(13.0) 4.7	6.4	315
	13	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	大小砂粒多	良	浅黄橙色 黄橙色	(2.9)	6.7	
	14	土師器	高台付皿	底面全面回転ヘラケズリ。高台部ヨコナデ。	粗いミガキ。黒色処理。	覆土	底部のみ	細粒多	良	橙色 黒褐色	(2.0)	7.0	
	15	(須恵器)	甕	口縁部ヨコナデ、胴部平行タタキ。	口縁部ヨコナデ、胴部指頭痕、指ナデ。	床～覆土	胴部上半1/8	細粒多	良	にぶい橙色 明褐灰色	(25.9) (7.5)		
09	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド～覆土	胴部上半1/3	酸化粒他大小砂粒多	良	明赤褐色	(22.0) 11.2		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(下上)。煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。口縁部煤付着。	カマド	胴部下半欠	白色粒他細粒多	良	橙色 明赤褐色	14.4 (13.3)	14.7	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。肩部に粗いミガキを加える。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。	床～覆土	胴部上半2/3欠	酸化粒大小	良	明褐灰色 にぶい橙色	(11.3) 11.0	(11.9) 5.6	738
	4	土師器	杯	口縁部ナデ調整、体部下半ヘラケズリ(一方向)。器面状態不良。	ナデ調整。器面状態不良。	カマド	体部1/3	白色細粒多	良	明赤褐色	(15.6) (4.7)		
	5	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底面全面回転ヘラケズリ（左右）高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	床	体部2/3欠、底部完	密	良	灰白色	15.8 4.5	11.1	481
10	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。粘土紐積み上げ休止部の肥厚部へヘラケズリ（左右）。	床～覆土	胴部1/3	大小砂粒多	良	にぶい赤橙色 橙色	(23.0) (31.3)	(21.1)	
	2	土師器	高杯	口唇部ヨコナデ、体部・脚部ヘラケズリ（右左、上下）。	一方向のミガキ。	床～カマド～覆土	杯部1/5	酸化粒大小多	良	灰褐色 にぶい褐色	17.1 (5.8)		581
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。漆仕上か。	床	体部1/4	密	良	橙色 赤黒色	(15.6) (3.2)		
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	床	体部1/4欠	細粒多	やや不良	にぶい橙色 灰赤色	10.3 5.1	11.5 4.5	304
11	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	胴部上半1/3	密	良	にぶい橙色	(20.5) (9.7)	(21.0)	
	2	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、左右）。	ヘラナデ（右左）。器面状態不良。	カマド	胴部下半ほぼ完	大小砂粒多	良	にぶい橙色	(19.0)	5.9	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
11	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、左右）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	カマド～覆土	胴部上半全周	長石、石英他細粒多	良	灰褐色 明赤褐色	14.3 (10.9)	15.8	
	4	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端（右左）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	完存	大小砂粒	良	橙色	12.9 4.5	6.3	280
	5	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端（右左）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	完存	長石、雲母他大小砂粒	良	明赤褐色	13.3 4.5	6.4	310
	6	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切りののち、体部下端（左右）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。焼成後刻線。	カマド	体部3/4欠	密	良	橙色	(13.7) 4.1	6.4	303
	7	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。器面状態不良。	カマド	体部一部欠	白色粒大小多	良	にぶい橙色	13.3 4.5	5.8	280
	8	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端（右左）、底面全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	完存	大小砂粒	良	にぶい赤褐色	13.2 4.5	5.6	270
	9	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端（左右）、底面全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	体部1/2欠	細粒多	良	にぶい橙色 灰赤色	(12.6) 4.0	5.5	234
	10	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端（左右）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4	細粒多	良	褐色	(11.8) 4.1	(5.4)	
	11	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り未調整。体部下端軽いヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	床～カマド	体部1/3	密	良	橙色	11.8 3.9	5.0	212
	12	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	粗いミガキ。半面黒化。	カマド	体部1/3欠	密	良	にぶい橙色	14.8 4.9	6.7	381
	13	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	粗いミガキ。黒色処理。焼成後刻線。	カマド	体部一部欠	大小砂粒	良	橙色 暗赤褐色	14.7 4.9	5.8	330
	14	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り未調整。体部下端ヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	カマド	体部1/3	大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 暗赤褐色	(12.9) 3.8	6.6	
	15	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端（左右）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	体部1/2欠	白・黒色粒大小多	良	にぶい橙色	12.7 4.1	5.9	242
	16	灰釉	長頸壺	ロクロ調整。施釉（オリーブ灰色）。	ロクロ調整。	カマド	胴部上半1/3	黒色粒少	良	灰色	(8.3)	(18.2)	
12	1	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	床～覆土	胴部上半1/4	長石、石英他細粒	良	にぶい橙色	(21.2) (13.9)		

12	2	土師器	杯	ロクロ調整。回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部下半全周	細粒少	良	橙色	(13.6) 5.1	6.6	392
	3	土師器	高台付杯	ロクロ調整。削り出し高台。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。高台部ヨコナデを加える。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	体部1/3欠	細粒少	良	にぶい橙色 黒色	13.9 4.5	7.7	324
	4	(須恵器)	甕	平行タタキ、胴部下半ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	カマド	底部ほぼ完	密	やや不良	橙色 にぶい黄橙色	(9.8)	14.8	
13	1	土師器	椀	ロクロ調整。底部下端(左右)、底部全面回転ヘラケズリ。体部回転利用の粗いミガキ。	ロクロ調整。ミガキ。暗文、黒色処理。	覆土	体部1/2欠	密	良	にぶい褐色 黒色	(15.8) 6.6	7.6	722
	2	須恵器	杯	ロクロ調整。底部下端(右左)、底部全面回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/8	白色粒	良	灰白色	(12.0) 3.1	(8.0)	
14	1	須恵器	蓋	ロクロ調整。天井部回転ヘラケズリ(左右)。口縁部はゆがんでいる可能性。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3、口縁部一部	白・黒色粒大小	良	浅黄色	(21.0) (3.5)		
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。口径やや疑問。	ヨコナデ、粗いミガキ。	床	体部1/6	細粒多	良	赤褐色 橙色	(11.6) 4.1	(4.5)	222
	3	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。口唇部全体にタール状付着物。	器面状態不良。口唇部全体にタール状付着物。	覆土	体部一部欠	酸化粒他大小砂粒	良	橙色	12.5 4.1	9.3	240
	4	土師器	甕	器面状態不良。	器面状態不良。	床	口縁部1/2	細粒多	やや不良	橙色～褐灰色	(12.4) (3.0)		
	5	土師器	甕	ヘラケズリ(左右)。底部木葉痕、ヘラケズリを加える。	ヘラナデ。	覆土	底部のみ	細粒多	良	にぶい赤橙色 橙色	(2.8)	7.7	
	6	灰釉	長頸壷	ロクロ調整。施釉。	ロクロ調整。	覆土	頸部1/6	密	良	オリーブ灰色 灰白色	(8.5)		
15	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(上下)。整形痕不明瞭。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部1/4	砂粒大小多	やや不良	にぶい赤褐色	(22.3) (8.0)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(上下)。整形痕不明瞭。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	胴部上半1/3	密	良	にぶい橙色	(17.2) (10.8)	(18.7)	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/6	白・黒色細粒多	良	橙色 にぶい赤褐色	(24.2) (5.4)		
	4	土師器	高杯	器面状態不良。	ミガキ。	覆土	体部1/3	白・黒色粒	良	にぶい橙色	(13.4) (3.8)		
	5	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリののち粗いミガキ。	器面状態不良。	床	口縁部1/6	細粒多	良	橙色	(10.9) 2.8		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
15	6	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ（右左）。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/6、底部完	白色粒他大小砂粒	良	灰白色	(16.0) 4.5	 10.9	 499
	7	須恵器	蓋	ロクロ調整。ヘラケズリは確認できない。	ロクロ調整。口縁部に沈線。	覆土	体部1/5	密	良	灰色	(10.7) (3.9)		
16	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、右左）。全体に煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。接合肥厚部にヘラケズリ（右左）。	覆土	口縁部一部、胴部下半1/3	長石、石英、雲母他多	良	にぶい橙色 橙色	(17.6) (24.0)	 5.9	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ状のヘラナデ（下上）。	床～覆土	胴部一部欠	長石他白色粒多	良	橙色	17.5 28.9	 5.4	 4000
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ。器面状態不良。	覆土	口縁部1/4	長石、石英、雲母他多	良	橙色	(20.8) (8.8)		
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、左右）。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。器面状態不良。	覆土	胴部上半全周	大小砂粒多	良	橙色	18.0 (15.0)		
	5	土師器		脚端部ヨコナデ。体部ヘラケズリ（下上）。	脚部ヘラナデ（左右）。底部は剝落面か。	覆土	脚部のみ	大小砂粒多	良	橙色	 (9.7)	 (9.9)	
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	覆土	体部1/4	酸化粒他大小	良	浅黄橙色	(11.8) 3.5		
17	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。ただし横位のヘラナデの可能性あり。胴部ヘラケズリ（上下、左右）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～覆土	胴部上半5/6	長石他大小砂粒	良	橙色	21.1 (13.2)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/4	細粒	良	黒褐色	(11.8) (3.6)		
	3	土師器	杯	ロクロ調整。	ミガキ。黒色処理。	覆土	体部1/8	長石細粒多	良	灰褐色 黒色	(14.6) (3.9)		
	4	土師器	高台付杯	ヨコナデ。	ミガキ。黒色処理。	カマド	底部1/3	密	良	にぶい橙色 黒色	 (1.3)	 (6.4)	
18	1	土師器	甕	口唇部面取り、沈線。口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。肩部煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	覆土	口縁部2/3	密	良	にぶい橙色	20.8 (10.8)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/5	長石、石英他大小多	良	橙色	(22.2) (8.0)		
	3	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。器面状態不良。	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床～覆土	口縁部全周	細粒多	やや不良	明赤褐色	21.3 (7.7)		

18	4	土師器	甕	口唇部肥厚。口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、右左）。	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ。粘土紐積み上げ痕を明瞭に残す。	覆土	体部1/5	大小砂粒多	良	にぶい橙色	(17.9) (18.6)	(20.0) 10.2	37776
	5	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床～覆土	口縁部一部欠	大小砂粒多	良	にぶい黄橙色	12.5 4.7	5.4	210
	6	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床	口縁部一部欠	白色粒大小多	良	橙色	11.6 4.0	4.7	190
	7	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部一部欠	長石、酸化粒他大小	良	橙色	13.6 4.9	5.6	280
	8	土師器	杯	ロクロ調整。器面状態不良。底部回転糸切り無調整か。	ロクロ調整。器面状態不良。	床	口縁部一部欠	密	良	淡橙色	11.7 4.2	5.4	
	9	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床～覆土	体部5/6欠	長石他細粒多	良	にぶい黄橙色	(12.5) 3.9	4.2	218
	10	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部5/6欠	密	良	にぶい橙色	(12.1) 4.4	4.4	220
	11	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3欠	酸化粒他	良	橙色 浅黄橙色	12.0 3.8	4.9	190
	12	土師器	杯	ロクロ調整。器面状態不良。体部下半底部全面？手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。器面状態不良。	床	完存	細粒多	良	橙色	11.7 4.1	5.5	200
	13	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切りののち全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部1/4	細粒多	良	橙色	(12.4) 3.6	(5.4)	213
	14	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。外面1/3気泡状アメ状。全体にゆがむ。	ロクロ調整。全体にゆがみ。	床～覆土	体部1/3欠	大小砂粒多	良	褐灰色～橙色	14.0 5.6	5.7	
	15	土師器	高台付杯	ロクロ調整。器面状態不良。全体にゆがみ。	ロクロ調整。器面状態不良。	床～覆土	1/6欠	大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 灰赤色	16.7 6.0	9.1	430
	16	土師器	高台付杯	ロクロ調整。高台部、底面ナデ調整。	ロクロ調整。粗いミガキ。	覆土	底部ほぼ完	細粒多	良	橙色	(3.5)	7.0	
	17	土師器	高台付杯	ロクロ調整。器面状態不良。体部下半手持ち？回転？ヘラケズリ(左右)。底部回転ヘラケズリ(左右)。削出し高台。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	床	体部3/4欠	細粒	良	橙色 黒褐色	(15.8) 5.4	7.4	492
	18	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。高台部周辺ナデ。	一方向のミガキ。黒色処理。	覆土	底部のみ	密	良	にぶい橙色 黒色	(1.4)	6.1	
	19	土師器	杯	ロクロ調整。墨書。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	体部1/5	細粒多	良	にぶい橙色 黒色	(12.8) (3.7)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
18	20	土師器	椀	指頭によるナデ、おさえ。	指頭によるナデ、おさえ。	覆土	ほぼ完存	白色細粒多	良	明褐灰色 にぶい橙色	6.6 5.1	7.8	120
	21	灰釉	長頸壷	把手一方向。ロクロ調整。胴部下半回転ヘラケズリ（右左）。高台、底部ナデ。施釉（浅黄色）。	ロクロ調整。施釉。	床～覆土	胴部ほぼ完	白・黒色粒大小	良	灰色	(32.9)	26.6 15.6	
	22	灰釉	長頸壷	把手一方向。ロクロ調整。胴部下半回転ヘラケズリ（右左）。高台、底部ナデ。施釉（オリーブ灰色）。	ロクロ調整。	床～覆土	口縁部、胴部一部欠	白・黒色粒大小	良	灰色	(19.3)	14.9 8.7	
	23	灰釉		ロクロ調整。胴部下半回転ヘラケズリ。高台、底部ナデ。施釉（オリーブ灰色）。	ロクロ調整。	覆土	胴部下半1/2	白・黒色粒大小多	良	灰色	(12.1)	(13.8) 7.5	
	24	灰釉	椀	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。高台部ナデを加える。施釉（浅黄色）。	ロクロ調整。施釉	床～覆土	体部1/3欠	黒色粒大小多	良	浅黄色	15.4 5.0	7.8	436
	25	灰釉	椀	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。高台部ナデを加える。施釉（浅黄色）。	ロクロ調整。底面を除き施釉。	床～覆土	口縁部一部欠	黒色粒大小多	良	淡黄色	14.3 4.8	7.2	360
	26	灰釉	椀	ロクロ調整。体部下半回転ヘラケズリ。施釉（オリーブ灰色）。	ロクロ調整。施釉。	覆土	口縁部1/6	黒色粒大小多	良	淡黄色	(13.8) 3.5		
	27	（須恵器）	甕	口縁部ロクロ調整。胴部平行タタキ。器面状態不良。	口縁部ロクロ調整。胴部平滑、当て具痕不明瞭。	床～覆土	胴部上半全周	大小砂粒多	やや不良	橙色	(14.0)		
	28	須恵器	甕	口縁部ロクロ調整。胴部平行タタキ。	口縁部ロクロ調整。胴部ナデ。当て具痕明瞭ではない。	床～覆土	頸部全周	密	良	灰色	23.7 16.0		
	29	（須恵器）	甕	器面状態不良。胴部平行タタキ？。胴部下半ヘラケズリ（左右）。	器面状態不良。	覆土	胴部下半1/3	大小砂粒	良	暗赤褐色 明赤灰色	(11.9)	14.9	
	30	須恵器	杯	ロクロ調整。ヘラケズリは確認できない。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/4	白色粒	良	灰色	(8.5) 2.9	(10.4)	
19	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部周辺粗いミガキ。	ミガキ。	覆土	体部1/3	密	良	浅黄橙色	(11.8) 4.0		220
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。	ミガキ。	覆土	体部1/6	細粒	良	褐灰色	(10.2) (2.5)		
20	1	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端、底部全面手持ちヘラケズリ。切り離しやりなおし。剝落面に糸切り痕。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/3欠	細粒多	良	暗赤褐色	(13.2) 4.5		291
	2	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端（左右）、底部全面手持ちヘラケズリ。粗略。	ロクロ調整。	床	体部2/3	密	良	暗赤褐色	13.2 4.3	6.2	270

20	3	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。粗略。焼成時に底面にきれつ。	ロクロ調整。	床	体部一部欠	細粒多	良	赤褐色	13.4 4.6	5.6	310
	4	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。粗略。	ロクロ調整。	床	体部一部欠	細粒多	良	橙色	13.1 4.5	6.2	270
	5	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床～覆土	体部3/5	長石他細粒	良	暗赤褐色	12.4 4.5	5.2	264
	6	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/2欠	細粒	やや不良	淡赤橙色	(13.1) 3.7	5.0	244
	7	土師器	甕	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	胴部1/3	酸化粒他細粒多	良	暗赤褐色	(8.0)		
	8	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。粗略。	ロクロ調整。	床	体部1/4欠	長石他細粒	良	赤褐色 赤黒色	12.8 4.1	6.4	260
	9	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(右左)、手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド～覆土	体部1/4	細粒多	良	橙色	(13.4) (4.0)		
	10	土師器	甑	ヨコナデ、ナデ。ケズリ痕不明瞭。円形のボタン状の把手。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	口縁部1/2	密	良	にぶい橙色			
21	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。	ミガキ。	覆土	体部1/3	大小砂粒	良	橙色	(11.6) (3.4)		
22	1	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	カマド	底部のみ	大小砂粒	良	にぶい橙色	(1.8)	6.6	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、頸部横方向のヘラナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部1/3	細粒多	良	にぶい橙色	(22.2) (8.7)		
	3	(須恵器)	甕	平行タタキ。胴部下半ヘラケズリ(左右)。胴部に沈線。底部ナデ、焼成前刻線「中」。	器面状態不良。	床	胴部下半のみ	白色粒大小多	良	にぶい黄色 灰褐色	(23.2)	16.4	
	4	(須恵器)	甕	平行タタキ。胴部下半ヘラケズリ。	器面状態不良。	床～カマド	胴部下半1/2	白色粒大小多	良	赤褐色	(12.1)	(17.6)	
23	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。	覆土	体部1/6	細粒多	良	灰褐色	(12.5) (3.5)	(13.5)	
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。	粗いミガキ。	覆土	口縁部1/8	酸化粒大小多	良	灰褐色 赤灰色	(12.5) (2.2)	(12.9)	
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。	ミガキ。	カマド	体部1/8	酸化粒大小多	良	橙色	(11.5) (2.4)	(12.0)	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
23	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ(左右)。	ミガキ。	覆土	体部1/6	酸化粒少	良	浅黄橙色	(11.4) 3.2	 (5.8)	
	5	土師器	杯	粗いミガキ。	ミガキ。	覆土	体部1/6	長石他細粒	良	にぶい橙色 褐灰色	(11.4) (3.7)		
	6	須恵器	蓋	ロクロ調整。天井部ナデ調整。	ロクロ調整。口唇部に沈線。	床	ほぼ完存	密	良	黄白色	10.2 3.1		
	7	須恵器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/8	黒色粒少	良	灰色	(10.0) (2.8)	(11.9)	
	8	土師器	高杯	ヘラケズリ（杯部下上、脚部上下）ののち杯部粗いミガキ。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ(左右)。	カマド	一部欠	密	良	黄橙色	18.8 12.4	 12.7	730
	9	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下、右左)。	杯部ミガキ。脚部ヘラケズリ（左右)。	床	胴部のみ	密	良	褐灰色	 (6.6)	 9.7	
	10	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下)。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ(右左)。	床	脚部上半のみ	密	良	にぶい橙色	 (5.3)		
	11	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下)。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ。	床	脚部のみ	密	良	橙色	 (6.7)		
	12	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	口縁部1/6	大小砂粒多	良	にぶい橙色 橙色	(21.0) (11.5)	(21.2)	
	13	土師器	甕	口唇部丸く肥厚。口縁部～頸部ナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床～カマド	胴部上半1/3	大小砂粒多	良	赤橙色	(19.7) (10.8)	(20.8)	
	14	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/4	大小砂粒多	良	赤橙色 にぶい橙色	(19.2) (11.7)		
	15	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/4	大小砂粒多	良	灰赤色 淡赤橙色	(22.6) (7.3)		
	16	土師器	（鉢）	甕転用か。口唇部焼成後面取りか。胴部ヘラケズリ（上下、左右)。底部木葉痕、ナデ。	ヘラナデ（右左)。	カマド	胴部下半全周	細粒多	良	にぶい橙色 明褐灰色	(15.8) 14.0	 5.1	 1342
	17	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。底部、胴部下半粗いミガキ。	ヨコナデ、ヘラナデののち粗いミガキ。	床～覆土	体部上半1/3欠	細粒多	良	にぶい橙色 赤灰色	12.6 8.5		500
	18	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（右左)。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床	体部上半1/4	細粒多	良	橙色	(10.8) (9.4)	(11.3)	

23	19	土師器	甕	ヘラケズリ（右左）。	ヘラケズリ（右左、下上）。	床	胴部下半のみ	細粒	良	にぶい橙色 赤灰色	(10.8)	12.9	
24	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。	ヨコナデ。	カマド	体部1/10	密	良	灰黄褐色	(12.4) (3.3)		
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、器面状態不良。	器面状態不良。	覆土	体部1/10	細粒多	良	橙色 にぶい褐色	(12.1) (2.2)		
25	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ、ヨコナデ。	覆土	口縁部1/3	長石、雲母、酸化粒他多	良	橙色 にぶい橙色	(24.4) (6.0)		
	2	土師器	椀	ヘラケズリ（左右）。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	覆土	体部下半2/3	大小砂粒多	良	赤橙色 橙色	(4.1)	7.0	
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ナデ、粗いミガキ。	床	体部1/8	細粒	良	にぶい赤褐色 褐灰色	(13.4) (3.6)	(9.2)	
	4	土師器	杯	ヨコナデ、ナデ。	ミガキ。	覆土	体部1/6	密	良	灰褐色	(13.3) (2.5)		
26	1	須恵器	長頸壷	ロクロ調整。胴部下半回転ヘラケズリ（左右）。高台部、底部ナデ。	ロクロ調整。	覆土	胴部下半1/3	白色粒大小多	良	赤灰色 灰色	(6.2)	(11.2)	
	2	土師器	高　杯	杯部ヘラケズリ。脚部ヘラケズリ（上下）ののち粗いミガキ。	杯部ミガキ、脚部ヘラケズリ。	覆土	接合部1/3	酸化粒大小	良	浅黄橙色	(6.3)		
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/8	長石、雲母他	良	にぶい赤褐色	(13.8) (3.4)		
	4	土師器	杯	底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	カマド	底部2/3	細粒多	良	赤橙色 淡赤橙色	(0.7)	6.4	
27	1	土師器	甕	口頸部、横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。頸部以下煤付着。	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ（右左）。	床	胴部上半1/2	細粒	良	にぶい橙色 橙色	(14.3) (5.4)		
	2	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	カマド	体部上半1/6	密	良	浅黄橙色	(13.8) (3.2)		
	3	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	床	体部上半1/6	長石他細粒多	良	にぶい赤褐色 橙色	(12.8) (3.5)		
	4	土師器	高　台 付　杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。高台部ヨコナデ。	ミガキ。黒色処理。	覆土	底部のみ	白色細粒多	良	にぶい橙色 黒色	(3.5)	5.8	
	5	(須恵器)	甕	口縁部ヨコナデ、胴部平行タタキ。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床	小片	白・黒色細粒少	良	にぶい橙色			

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
28	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。	カマド	口縁部1/6	細粒多	良	明赤褐色 橙色	(20.3) (6.3)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	口縁部1/4	大小砂粒多	良	橙色	(20.8) (4.2)		
	3	土師器	甕	ヘラケズリ（右左）。	ヘラナデ。器面状態不良。	床～カマド～覆土	胴部下半1/4	白・黒色細粒	良	赤褐色	(6.9) (16.0)		
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。肩部一部にナデを加える。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/3	長石他大小砂粒多	良	赤灰色 橙色	(10.1) (6.8)	(11.6)	
	5	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	覆土	胴部上半1/4	密	良	灰褐色 にぶい橙色	(12.8) (5.4)		
	6	須恵器	瓶	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床～カマド～覆土	胴部下半のみ	白・黒色粒	良	灰白色 灰色	(8.3)	5.7	
29	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、左右）。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床	口縁部1/3欠	大小砂粒	良	橙色	17.9 21.5	8.1	3530
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ（右左）。	覆土	胴部上半1/6	細粒	良	赤橙色 にぶい橙色	(12.6) (7.5)	(12.8)	
	3	土師器	甑	口縁部ヨコナデ、胴部平行タタキののち粗いヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ナデののち粗いミガキ。	覆土	体部上半1/6	細粒	良	橙色 浅黄橙色	(29.5) (10.3)		
	4	土師器	甕	口縁部、頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/3	長石、雲母他大小砂粒	良	灰褐色 にぶい橙色	(16.6) (6.2)		
	5	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。器面状態不良。	ヘラナデ、ヨコナデ。器面状態不良。	床	完存	大小砂粒多	良	にぶい橙色	14.1 7.2	14.8	610
	6	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、左右）。肩部以下煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	カマド	各部一部欠	大小砂粒多	良	にぶい橙色 橙色	22.4 32.2	5.8	4210
	7	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、左右）。	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ（右左）。積み上げ休止部ヘラケズリ（右左）。	カマド	各部一部欠	白色粒大小多	良	灰赤色 にぶい橙色	19.8 33.0	6.4	6000
	8	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	床～カマド	胴部上半全周	白色粒大小多	良	赤灰色 橙色	22.0 (23.3)		
	9	土師器	台付甕	口縁部ヨコナデ、胴部、脚台部ヘラケズリ（上下）。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。脚台部ヘラケズリ（右左）。器面状態不良。	床	各部一部欠	大小砂粒多	やや不良	赤色 にぶい褐色	15.9 20.4	11.5	1720

29	10	土師器	高　杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。粗いミガキを加える。器面状態不良。	ミガキ。漆仕上。	カマド	体部1/3	細粒多	良	にぶい橙色 灰褐色	(15.9) (4.3)		
	11	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。	床～覆土	口縁部一部欠	大小砂粒多	良	橙色	14.0 4.5		330
	12	土師器	杯	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。器面状態不良。	器面状態不良。	床	口縁部1/3欠	細粒多	良	にぶい橙色 橙色	12.5 4.4		260
	13	土師器	高　杯	ヘラケズリ（右左、上下)。	ミガキ。	床	接合部1/2	大小砂粒	良	にぶい橙色	(9.2)		
	14	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。	粗いミガキ。	覆土	体部1/8	大小砂粒多	良	黒色 明褐灰色	(14.2) (4.7)		
	15	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ミガキ。	床	完存	細粒多	良	橙色 褐灰色	11.0 4.0	11.4	210
	16	土師器	杯	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。漆仕上。体部下半不明瞭。	暗文。漆仕上。	覆土	体部1/3欠	大小砂粒多	良	浅黄橙色 灰褐色	11.9 4.5	12.1	250
	17	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリののち粗いミガキ。	ミガキ。	覆土	体部1/3	酸化粒大小	良	にぶい橙色	(10.1) (3.2)	(11.3)	
	18	土師器	杯	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	口縁部1/7	密	良	褐灰色	(11.0) (2.1)	(11.3)	
	19	須恵器	杯　蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4	密	良	灰色	(10.0) (2.0)		
	20	須恵器	杯	ロクロ調整。口縁部ヨコナデ、体部下半回転ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4	白・黒色粒多	良	灰色 灰黄色	(10.4) (2.4)	(12.2)	
	21	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下半指頭痕が若干観察できる。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4	黒色細粒多	良	灰白色	(13.8) (3.7)		
30	1	土師器	甕	横方向のヘラナデ、ヨコナデ。	ヨコナデ、頸部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/6	大小砂粒多	良	赤橙色	(24.7) (4.2)		
	2	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（上下)。	粗いミガキ。	覆土	体部上半1/6	酸化粒大小	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	(20.3) (5.8)		
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ヨコナデ、ミガキ。器面状態不良。	覆土	体部一部欠	酸化粒他大小砂粒多	良	にぶい橙色	13.2 5.0		440
	4	土師器	杯	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ（右左)。	斜格子暗文。左上りが新。	覆土	体部1/6	大小砂粒	良	にぶい橙色	(16.1) (3.6)	(11.7)	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 / 器高	最大径 / 底径	容量A / 容量B
30	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。	覆土	体部1/5	密	良	淡橙色	(11.8) (3.4)		217
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。底部刻線。	ミガキ。	床～覆土	体部1/2	細粒多	良	にぶい褐色 赤灰色	(3.2)	10.6	
	7	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/8	密	良	褐灰色	(16.0) (1.2)		
	8	須恵器	蓋	ロクロ調整。天井部軽い回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/3	黒色細粒	良	明褐灰色	(2.8)		
	9	須恵器	短頸壷	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4	黒色粒大小多	良	褐灰色 灰色	(7.2) 7.4	(11.0) 6.5	362
31	1	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。脚部ヘラケズリ（上下）ののち下半部ナデ。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ、ヘラケズリ（右左）。	カマド	杯部2/3欠	細粒多	良	黄橙色 にぶい橙色	(15.3) 10.8	11.5	421
	2	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下）。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ、ヘラケズリ。	覆土	脚部上半1/2	密	やや不良	橙色	(4.4)		
	3	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	体部1/2	密	良	浅黄橙色 灰褐色	(15.5) 5.1	(15.7)	545
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。屈曲部にミガキを加える。	ミガキ。	床	ほぼ完存	大小砂粒多	良	にぶい橙色	12.8 4.6		300
	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。粗いミガキを加える。	ミガキ。	カマド	体部上半1/3欠	細粒	良	橙色	13.0 4.7	3.5	300
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ(右左)。体部上半漆仕上か。	ミガキ。漆仕上。	覆土	体部1/3	細粒多	良	にぶい橙色 褐灰色	(11.4) 3.9	(11.6) (6.0)	232
	7	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。体部上半漆仕上か。	ヨコナデ。漆仕上か。	覆土	体部1/2	酸化粒少	良	褐灰色	(10.1) 3.5	(10.6)	150
	8	須恵器	杯？	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/8	密	良	黄灰色	(10.8) (2.7)		
	9	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ（右左）。高台部周辺ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	床～覆土	体部3/4欠	細粒	良	淡橙色 黒色	(15.0) 5.0	7.8	423
32	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、平滑。胴部下半積み上げ休止部ヘラケズリ（左右）。	カマド	体部1/3	酸化粒他大小	良	橙色 淡橙色	(20.8) 25.0	(5.9)	5209

32	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。胴部下半積み上げ休止部ヘラケズリ（右左）。	カマド	底部、胴部1/3欠	密	良	橙色	(20.4) (22.8)		(4590)
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、平滑。	カマド	胴部上半2/3	細粒	良	浅黄橙色	20.6 (20.9)		
	4	土師器	甕	口縁ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	胴部上半1/3	細粒多	良	赤褐色 赤橙色	(20.2) (18.7)		
	5	土師器	甕	口縁ヨコナデ、頸部横方向ヘラナデ、胴部ヘラナデ（上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（右左)。	カマド	胴部上半全周	密	良	にぶい橙色	21.0 (22.1)		
	6	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ。器面状態不良。	カマド	体部上半1/3	密	良	浅黄橙色	(21.2) (22.0)		
	7	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	口縁部1/3	密	良	にぶい橙色	(21.2) (6.0)		
	8	土師器	甕	ロクロ調整。底部回転糸切り。胴部下半(左右)、底部周辺手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。ナデ。	覆土	体部上半3/4欠	細粒多	良	灰赤色	(15.0) 12.6	6.8	1426
	9	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面ナデ状の手持ちヘラケズリ(右左)。底部周辺回転の可能性あり。	ロクロ調整。	床	ほぼ完存	酸化粒大小他	良	橙色	13.2 4.6	6.0	330
	10	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ(右左)。	ロクロ調整。	カマド	体部上半1/6	密	良	灰褐色	(12.8) (3.9)		
	11	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ(右左)。	ロクロ調整。	カマド	体部1/6	密	良	橙色	(12.6) 4.0	6.0	
	12	土師器	杯	ロクロ調整。墨書「丈」。	ロクロ調整。	覆土	小片	密	良	橙色			
33	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。肩部に煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部上半1/3	大小砂粒	良	にぶい橙色 にぶい赤褐色	(21.8) (11.0)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ(右左)。胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。条線を残す。	床	口縁部1/4	細粒多	良	明赤褐色	(23.1) (8.0)	(22.9)	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部1/8	細粒多	良	橙色	(21.2) (6.2)		
	4	土師器	台付甕	ヘラケズリ（上下)。	胴部ヘラナデ(左右)。脚部ヘラケズリ。	床	脚部のみ	大小砂粒少	良	にぶい橙色 橙色	(6.0)	8.1	
	5	土師器	甕	ヘラケズリ（方向不定)。	ヘラナデ（左右)。	覆土	底部3/4	大小砂粒	良	赤褐色 にぶい橙色	(1.4)	5.4	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
33	6	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下端、底部全面回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	口縁部一部欠	白色粒	良	灰黄色	12.3 3.7	7.1	370
	7	須恵器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り、周辺回転ヘラケズリ（右左）。火襷。	ロクロ調整。火襷。	床	口縁部一部欠	白・黒色細粒、酸化粒	良	灰白色～黒褐色	13.5 4.2	8.8	260
	8	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下端、底部全面回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部1/2	白色粒多	良	灰褐色	(12.4) 4.2	7.4	274
	9	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転糸切り、周辺回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床	体部1/2	白色粒少	良	暗青灰色	(11.2) 4.5	7.7	239
34	1	土師器	椀	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ（左右）。底部回転糸切りののち一部手持ちヘラケズリか。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	床	体部下半1/6	長石他細粒多	良	にぶい橙色 黒色	(3.2)	(8.9)	
	2	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床	体部1/8	酸化粒他細粒多	良	淡赤橙色 にぶい赤褐色	(12.6) (3.8)		
	3	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部下半1/6	黒色細粒	良	灰色	(16.1) (1.8)		
	4	須恵器	杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリか。	ロクロ調整。	覆土	体部1/8	白色粒若干	良	灰色	(13.0) 3.1	(9.0)	
35	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ（左右）。	ミガキ。	床	体部2/3	細粒多	良	にぶい橙色 橙色	12.6 4.3	7.2	315
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。漆仕上か。	ヨコナデ、粗いミガキ。漆仕上か。	床	体部上半1/8	酸化粒他若干	良	褐灰色	(13.9) (3.0)		
	3	土師器	杯	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。	粗いミガキ。	覆土	体部上半1/6	細粒	良	にぶい橙色	(9.9) (2.9)	(10.6)	
	4	土師器	高台付杯	ロクロ調整。高台部ナデ。	ロクロ調整。杯部粗いミガキ。黒色処理。高台部ヨコナデ。	覆土	体部下半のみ	大小砂粒	良	橙色 黒色	(4.3)	5.9	
	5	須恵器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/6	密	良	灰黄色	(13.6) (3.4)		
	6	須恵器	杯	ロクロ調整。高台付か。	ロクロ調整。	覆土	体部1/8	白色粒若干	良	灰色 灰白色	(13.0) (3.5)		
	7	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ（左右）。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	底部1/3	細粒	良	灰白色	(1.1)	(10.6)	

35	8	須恵器	蓋	ロクロ調整。体部上半回転ヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3	白色粒大小多	良	灰色	(15.6) (2.5)		
	9	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	床	体部下半1/6	密	良	灰色 灰白色	(10.7) (1.4)		
36	1	土師器	甕	口縁ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	口縁部1/5	細粒	良	にぶい橙色	(25.2) (9.1)		
	2	土師器	甕	ヨコナデ。	ヨコナデ。	覆土	口縁部1/6	密	良	浅黄橙色	(26.8) (6.0)		
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/6	大小砂粒多	良	暗赤褐色 暗赤色	(16.2) (9.0)	(19.9)	
	4	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、下上）。	ヘラナデ。	床	胴部下半1/3	大小砂粒多	良	にぶい黄橙色 褐灰色	(8.9)	5.4	
	5	土師器	高　杯	脚端部ヨコナデ、ヘラケズリ（上下）。	脚部ヘラナデ、ヘラケズリ（右左）。杯部ミガキ。	覆土	脚部1/3	酸化粒大小砂粒	良	黄橙色	(7.3)	11.8	
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。粗いミガキ？。	ヨコナデ、粗いミガキ。	床	体部1/4	密	良	赤黒色 にぶい橙色	(10.3) (4.5)	(11.5)	
	7	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。	ヨコナデ、粗いミガキ。	覆土	体部上半1/6	密	良	橙色	(12.5) (3.2)		
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。器面状態不良。	粗いミガキ。	覆土	体部上半1/8	細粒多	良	橙色	(11.5) (2.5)	(12.0)	
	9	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。屈曲部に粗いミガキ。底部刻線「＋」？。	ミガキ。	床	体部1/4	密	良	灰褐色 にぶい橙色	(11.6) 3.2	(6.8)	172
	10	須恵器	蓋	ロクロ調整。天井部回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	覆土	天井部1/2	白色粒少	良	灰白色	(2.2)		
	11	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	粗いミガキ。	床～覆土	体部上半1/2欠	酸化粒他大小砂粒	良	にぶい橙色	(15.9) 9.0	(17.5) 8.9	1341
37	1	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。胴部下半器面状態不良。	床～覆土	体部1/4	細粒	良	にぶい橙色 橙色	(16.5) (24.0)	(18.0)	
	2	土師器	甕	器面状態不良。	器面状態不良。	床	底部のみ	大小砂粒多	良	橙色	(5.4)	8.7	
	3	土師器	甑	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。一部ミガキか。	ヨコナデ、ヘラナデののち粗いミガキ。	覆土	体部1/3	酸化粒大小	良	淡赤橙色 にぶい黄橙色	(23.4) (19.5)	(7.9)	3998

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
37	4	土師器	甑	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	体部上半1/5	大小砂粒	良	橙色	(23.4) (9.9)		
	5	土師器	甕	ヘラケズリ（下上、右左）。	ヘラナデ（右左）。	覆土	底部のみ	大小砂粒多	良	にぶい橙色	 (3.3)	 7.4	
	6	土師器	甕	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	覆土	底部のみ	長石他	やや不良	淡褐色	 (1.7)	 5.2	
	7	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(左右)。粗いヘラナデ状のミガキを加える。	口縁部ヨコナデ。粗いミガキ。	床～覆土	体部上半1/4	密	良	橙色 灰褐色	(14.2) (5.8)		
	8	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。一部ミガキ状のヘラナデを加える。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床	体部上半1/4	細粒多	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	(11.6) (5.5)	(12.6)	
	9	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。粗いミガキを加える。	ヨコナデ、ナデ。粗いミガキを加える。	床	体部上半1/4	細粒多	良	赤灰色	(10.8) (3.9)	(12.0)	
	10	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。	ミガキ。漆仕上の可能性あり。	床	ほぼ完存	密	良	にぶい橙色	10.5 3.9		210
	11	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。	覆土	体部1/3	細粒	良	にぶい橙色	(10.8) (4.0)	(11.7)	
	12	土師器	高杯	口縁部、脚端部ヨコナデ。杯部(左右)、脚部(上下）ヘラケズリ。杯部粗いミガキ。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ、ヘラケズリ。脚端部ヨコナデ。	覆土	杯部3/3欠	酸化粒大小	良	にぶい橙色	(16.1) 13.1	(17.0) 12.2	 599
	13	土師器		指頭痕を残す。器面状態不良。	器面状態不良。	覆土	口縁部1/4欠	砂状	やや不良	にぶい橙色	6.1 3.2	 5.3	
	14	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	小片	白色粒	良	灰白色			
38	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部1/6	大小砂粒多	良	赤橙色 橙色	(24.2) (6.5)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下)。	ヘラナデ、ヨコナデ。	覆土	口縁部1/4	細粒多	良	にぶい赤橙色	(22.4) (4.1)		
	3	土師器	甕	ヘラケズリ（左右)。器面状態不良。	ヘラナデ。	カマド	胴部下半1/3	細粒多	やや不良	赤褐色 赤色	 (15.1)	 4.5	
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。頸部にミガキ状のヘラナデを加える。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド～覆土	胴部上半1/3	長石、石英、雲母他	良	にぶい赤色 灰褐色	(11.6) (5.9)		

38	5	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	器面状態不良。	カマド	底部のみ	細粒多	良	にぶい赤橙色 暗赤灰色	(4.0)	5.7	
	6	(須恵器)	甕	口縁部ロクロ調整、ナデ。胴部平行タタキ。一部凹線状のナデを加える。器面状態不良。	口縁部ロクロ調整、ナデ。胴部無文の当て具痕。器面状態不良。	床～カマド～覆土	胴部下半3/3欠	大小白色粒他	良	褐灰色 灰赤色	(25.0) (43.8)	43.1	
	7	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。底面刻線「井」。	ロクロ調整。	カマド	体部上半1/3欠	長石他細粒	良	橙色	15.0 4.7	7.0	423
	8	土師器	椀	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。粗いミガキ。	カマド～覆土	体部一部欠	密	良	橙色	16.1 4.6	7.2	590
	9	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。ミガキ。	カマド	口縁部1/4欠	細粒多	良	明赤褐色	15.0 4.3	6.7	400
	10	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	体部1/2	白色細粒	良	浅黄色	(13.0) 4.3	6.1	285
	11	灰　釉	長頸壷	ロクロ調整。胴部下半回転ヘラケズリ（右左）。施釉（暗灰黄色）。	ロクロ調整。	床	胴部1/3	白色粒少	良	灰色	(13.2)	(15.7)	
39	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。肩部から胴部中位煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。器面状態不良。	床	胴部一部欠	細粒多	良	橙色 明褐灰色	24.3 28.1	6.9	6150
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	口縁部全周、胴部上半1/2	長石、石英他細粒多	良	赤灰色 橙色	14.5 (11.9)	15.7	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	胴部上半1/3	細粒多	良	にぶい橙色 橙色	(13.8) (6.2)	(13.8)	
	4	土師器	台付短頸壷	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(下上)。脚部ヘラケズリ(上下)、指ナデ、オサエ。支脚に転用。	体部器面状態不良。脚部ヘラナデ。	カマド	胴部1/3欠	雲母他細粒	良	赤褐色 赤色	9.1 10.5	10.9 6.8	404
	5	土師器	台付甕	ヘラケズリ（下上、上下）。	胴部ヘラナデ、脚部指頭痕。	床	接合部のみ	細粒	良	赤橙色 橙色	(3.6)		
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ヨコナデ、ナデ。	覆土	体部上半1/8	細粒	良	赤黒色 橙色	(13.9) (3.5)		
	7	土師器	短頸壷	ロクロ調整。口縁部ヨコナデ。体部、底部ヘラケズリ痕跡不明確。器面状態不良。	ロクロ調整。口縁部ヨコナデ。	床	体部1/2	細粒多	良	にぶい橙色	(7.9)		276
	8	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下端(右左)。底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部1/3欠	白色粒大小多	良	灰色	13.4 4.4	8.2	360
	9	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ（右左）。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	体部一部欠	白色粒大小多	良	灰色	17.7 6.8	11.9	850

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
40	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床	胴部上半3/4欠	酸化粒他細粒	やや不良	にぶい橙色 橙色	(22.8) 28.5	(26.2) 7.3	 9362
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	床～覆土	胴部上半2/3欠	大小砂粒	やや不良	淡黄色	(19.6) 23.6	21.4 8.4	 5050
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、下上)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部2/3欠	大小砂粒多	やや不良	にぶい橙色	21.8 32.8	 5.6	 6944
	4	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、杯部下半、脚部ヘラケズリ。器面状態不良。	杯部ミガキ、黒色処理か。脚部ヘラナデ。	覆土	体部1/3	白色細粒多	良	灰褐色 黒色	(11.9) (12.5)		 197
	5	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下)。	杯部器面状態不良。脚部ヘラナデ（左右)。	覆土	脚部のみ	酸化粒大小他	良	橙色	 (7.6)	 11.0	
	6	土師器	高杯	口唇部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。一部粗いミガキ。脚部ヘラケズリ（上下)。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ、ヘラケズリ。	床～覆土	杯部2/3欠	酸化粒大小他	良	にぶい橙色	(15.2) (9.4)		 417
	7	土師器	高杯	ヘラケズリ。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ。	床	接合部のみ	雲母他大小砂粒	良	にぶい橙色 明赤褐色	 (4.0)		
	8	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリののち粗いミガキ。胴部中位蛇行する沈線一条。	ヨコナデ、ヘラナデ、体部上半粗いミガキ。	床	杯部上半1/6欠	砂状	良	赤褐色 灰赤色	15.0 (0.6)		400
	9	土師器	甑	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	ミガキか。器面状態不良。	覆土	胴部上半1/4	長石、石英他	良	赤橙色	(25.6) (12.2)		
	10	土師器	甕	器面状態不良。	ヘラナデ（下上)。	床	胴部下半のみ	密	良	浅黄橙色	 (5.4)	 7.1	
	11	土師器	甕	器面状態不良。	ヘラナデ（右左、左右)。	床	胴部下半全周	細粒	やや不良	明赤褐色 暗赤褐色	 (7.7)	 6.8	
	12	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。粗いミガキ。	口縁部ヨコナデ、粗いミガキ。	覆土	体部1/5欠	密	良	にぶい橙色	12.2 7.6	 5.4	410
	13	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	床	口縁部一部欠	酸化粒大小他	良	黄橙色	12.9 7.1	13.3 6.0	550
	14	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。一部粗いミガキ。	ミガキ。	覆土	体部1/6	酸化粒大小他	良	浅黄橙色	(13.3) (5.4)	(14.4)	
	15	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	床	体部2/3欠	酸化粒他細粒	良	橙色	(15.3) 5.0	 6.0	 425

40	16	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。粗いミガキ。	粗いミガキ。漆仕上か。	覆土	体部1/6	酸化粒大小他	良	にぶい橙色 灰褐色	(13.8) (3.8)		
	17	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデののち粗いミガキ。	ヨコナデ、ヘラナデののち粗いミガキ。	覆土	体部1/2	密	良	にぶい赤褐色 橙色	10.9 3.4	6.8	140
	18	土師器	杯	口唇部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ(右左)。粗いミガキを加える。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	体部1/6	酸化粒大小他	良	にぶい橙色	(12.0) (3.4)	(7.6)	
	19	土師器	杯	口縁部ミガキ。体部ヘラケズリののち一部ミガキ。	粗いミガキ。	覆土	杯部1/6	白色細粒多	良	赤褐色	(11.1) (3.1)	(11.8)	
41	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	胴部上半1/4	長石、石英他 細粒多	良	橙色	(19.8) (8.0)		
	2	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/2	細粒多	良	赤灰色	(13.6) 3.8	6.6	281
	3	須恵器	高台付杯(硯)	ロクロ調整。底部ヘラケズリ、高台部ヨコナデ。底面きわめて平滑化。転用硯。	ロクロ調整。	覆土	底部完存	白色細粒	良	灰黄色	(1.7)	9.7	
42	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。	粗いミガキ。	覆土	体部上半1/8	白色細粒多	良	にぶい橙色	(13.1) (3.3)		
	2	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ(左右)。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	底部1/4	黒色粒少	良	明褐灰色	(3.1)	(10.0)	
	3	須恵器	長頸壷	ロクロ調整。自然釉。	ロクロ調整。自然釉。	覆土	口縁部1/8	白・黒色粒多	良	オリーブ黒色	(9.6) (1.9)		
43	1	土師器	甕	ヨコナデ。	ヨコナデ。	覆土	口縁部1/8	酸化粒他細粒	良	にぶい橙色	(23.8) (3.0)		
	2	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、右左)。	ヘラナデ。黒色化。	覆土	底部完存	大小砂粒	良	にぶい橙色 赤黒色	(8.7)	9.8	
	3	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部、脚部ヘラケズリ(左右、上下)。器面状態不良。	杯部粗いミガキ。脚部ナデ。	カマド	杯部1/2	密	良	浅黄橙色 灰褐色	15.4 (7.1)		480
	4	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下)。脚端部ヘラナデを加える。	ヘラナデ、ヘラケズリ。	カマド～覆土	脚部下半2/3欠	長石、石英他 大小砂粒多	良	赤色	(12.9)	(11.8)	
44	1	土師器	甕	胴部ヘラケズリ（上下)。口縁部ヨコナデ。	ナデ。	床～覆土	口縁部1/6	長石、石英、 雲母他多	良	灰赤色 淡赤橙色	(19.0) (10.7)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/8	大小砂粒多	やや不良	橙色	(19.2) (8.5)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
44	3	土師器	甕	胴部ヘラケズリ（上下）。口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～カマド～覆土	口縁部1/3	大小砂粒多	良	にぶい橙色	(20.2) (7.3)		
	4	土師器	甑	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。	ヨコナデ。頸部に粗いミガキ。	覆土	口縁部1/5	細粒多	やや不良	橙色	(23.8) (6.3)		
	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部1/6	大小砂粒少	やや不良	橙色	(13.8) (6.6)		
	6	土師器	甕	胴部ヘラケズリ(上下)、口縁部ヨコナデ、胴部一部にミガキ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。	覆土	胴部上半1/5	白色粒他細粒多	良	明赤褐色 にぶい橙色	(12.7) (6.5)		
	7	土師器	椀	口縁部は内側へ屈曲。体部ヘラケズリ（右左）ののち体部上半ミガキ。	平滑なミガキ。	覆土	体部上半1/3	密	良	にぶい橙色 赤褐色	(16.5) (6.9)	(18.7)	
	8	土師器	椀	口縁部は内側へ屈曲。口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。口縁部に漆。	ヘラケズリ、ヨコナデののちミガキ。漆仕上。	床	体部1/4	酸化粒大小	良	にぶい橙色	(16.0) (17.5)	(6.5)	
	9	土師器	椀	ミガキ。漆仕上の可能性あり。	ミガキ。漆仕上の可能性あり。	覆土	体部1/8	細粒多	良	にぶい橙色	(14.6) (3.2)	(14.9)	
	10	土師器	椀	ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。漆仕上。	覆土	底部1/4	大小砂粒少	良	明褐灰色 灰褐色	(1.7)	(8.8)	
	11	土師器	杯	ヘラケズリ（左右）ののち粗いミガキ。全体的に平滑。	ヨコナデ、ミガキ。底面は一方向のミガキ。	覆土	体部1/3	密	良	灰黄褐色	(14.7) 4.3	(7.1)	457
	12	土師器	杯	口唇部軽い有段。口唇部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ヨコナデ、放射状暗文。	床下	体部1/5	酸化粒大小多	良	橙色	(13.5) (2.7)	(13.6)	
	13	土師器	杯	ヘラケズリ(右左)、口縁部ヨコナデ。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	体部上半1/4	密	良	明灰褐色	(10.8) (2.5)	(11.0)	
	14	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）ののち粗いミガキ。	ミガキ。	覆土	体部1/4	白色粒他細粒	良	暗赤灰色	(10.0) (3.1)		
	15	土師器	杯	ヘラケズリ、粗いミガキ。	ミガキ。黒色処理。	床下	底部のみ	密	良	にぶい橙色 黒褐色	(2.2)		
	16	土師器	高杯	杯部ヘラケズリ(右左)、脚部ヘラケズリ(上下)。	杯部ミガキ。脚部ヘラケズリ。	覆土	胴部上半1/2	酸化粒大小多	良	橙色	(6.8)		
	17	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。高台、底部周辺ヨコナデ。	同方向のミガキ。	覆土	底部のみ	密	良	橙色	(3.1)	6.8	

44	18	土師器	杯	口縁部屈曲。ヘラケズリ、ヨコナデののち口縁部ミガキ。	ミガキ。	覆土	体部1/6	細粒多	良	にぶい橙色 橙色	(11.1) (2.9)	(11.8)	
	19	土師器	杯	口縁部屈曲、浅い沈線。口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。口縁部一部に漆。	ミガキ。漆仕上。	床	体部2/3	大小酸化粒	良	浅黄橙色 明黄褐色	9.5 3.7	10.1	150
	20	須恵器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/8	白色細粒少	良	青灰色	(10.1) (2.2)	(11.4)	
	21	須恵器	高　杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。自然釉。	覆土	脚部1/2	大小砂粒少	良	灰白色 明オリーブ灰色	(4.3)		
45	1	須恵器		ロクロ調整。脚部下半回転ヘラケズリ（右左）。高台部ヨコナデ。底部指ナデ。	ロクロ調整。底面に自然釉。	床	胴部下半のみ	白色粒大小少	良	灰白色	(8.7)	(22.3) 14.3	
	2	須恵器		ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/3	黒色細粒少	良	灰白色 灰オリーブ色	(7.8) (3.6)		
46	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、右左）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	覆土	体部1/2	細粒	良	灰褐色 橙色	(16.8) 12.4	9.9	1616
	2	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキか。器面状態不良。	床～カマド	体部1/2	大小砂粒多	良	橙色	(18.6) 10.1	(19.0) (9.2)	1660
	3	土師器	盤	ヨコナデ、ヘラケズリののち粗いミガキ。赤彩。	ヨコナデ、ナデののち横方向のミガキ。さらに斜方向の暗文状のミガキ。暗文としては不明瞭。赤彩。	床	体部1/3欠	細粒多	良	赤橙色	21.3 2.9	16.7	562
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（下上、左右）。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。器面状態不良。	床	体部1/2	長石、石英他細粒	やや不良	橙色	13.5 13.0	6.9	1096
	5	土師器	高　杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	粗いミガキ。	覆土	杯部ほぼ完存	細粒	良	にぶい橙色	15.9 (5.1)		450
	6	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。粗いミガキ。	ヨコナデ、ヘラナデ、粗いミガキ。	覆土	体部上半1/4	細粒多	良	赤灰色 灰赤色	(12.2) (5.0)	(13.0)	
	7	土師器	高　杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。器面状態不良。	カマド	杯部1/3	大小砂粒	良	橙色	(16.4) (5.1)		
47	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	覆土	胴部上半1/6	長石他大小砂粒他	良	赤褐色 灰褐色	(19.0) (12.7)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床	口縁部1/4	長石、石英、酸化粒他多	良	にぶい赤褐色	(22.5) (6.1)		
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。一部ミガキ。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	床～覆土	体部1/4	酸化粒大小他多	良	灰褐色 にぶい橙色	(14.2) 4.5		386

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
47	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	体部上半1/4	長石、石英、酸化粒他多	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	(14.6) (3.8)		
	5	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ（左右）。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	自然細粒多	良	灰黄色	(18.8) 3.5	(13.9)	530
48	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。胴部下半煤付着。	口縁部ヨコナデ。	床～覆土	胴部上半2/3	大小砂粒多	良	灰赤色 灰褐色	21.2 (21.0)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	床	口縁部1/6	細粒多	やや不良	にぶい橙色	(18.5) (7.1)		
	3	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、右左）。	ヘラナデ、指ナデ。	床～覆土	底部のみ	細粒	良	灰褐色 にぶい橙色	(4.1)	5.9	
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。胴部上半煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	覆土	ほぼ完存	大小砂粒多	良	灰赤色 にぶい橙色	15.6 12.8	6.8	1300
	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。一部ハケ状の条線を残す。	床～覆土	胴部上半2/3	細粒多	良	明褐灰色 にぶい橙色	14.3 (10.8)	15.1	
	6	土師器	鉢	体部上半ヨコナデ、体部下半ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。	床～覆土	体部中位1/4	細粒多	良	にぶい橙色 にぶい褐色	(8.5)	(17.4)	
	7	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、粗いミガキ。	ヨコナデ、ナデ、粗いミガキ。	床	体部上半1/4	密	良	橙色	(18.1) (5.8)		
	8	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。一部粗いミガキを加える。	粗いミガキ。	床	体部上半1/3	細粒	良	灰赤色 灰褐色	(16.2) (5.9)		
	9	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。体部焼成前刻線「木」。	ミガキ。器面状態不良。	覆土	体部1/6	酸化粒他大小	良	浅黄橙色	(15.2) (5.4)		
	10	土師器	椀	体部ヘラケズリ（左右）。	ナデ。暗文。	覆土	底部1/4	密	良	にぶい橙色 灰赤色	(2.7)	(10.1)	
	11	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左、上下）ののち杯部粗いミガキ。	杯部ミガキ。脚部指ナデ。	床	体部上半1/4	密	良	にぶい橙色	(17.6) (9.3)		591
	12	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	床～覆土	体部上半1/3	酸化粒大小	良	橙色	(17.6) (5.2)		
	13	土師器	高杯	器面状態不良。	器面状態不良。	覆土	脚端部3/4	密	良	赤色	(1.7)	10.7	

48	14	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。	覆土	体部上半2/3欠	大小砂粒	良	淡橙色	(11.6) 5.0	(12.2)	366
	15	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。底部焼成前刻線。	ミガキ。	覆土	体部1/4	酸化粒他大小砂粒	良	にぶい橙色	(9.8) 3.6	(10.0)	160
	16	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。粗いミガキ。	粗いミガキ。器面状態不良。漆仕上の可能性あり。	床	ほぼ完存	大小砂粒	良	にぶい橙色 にぶい赤橙色	10.3 3.4		130
	17	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)、粗いミガキ。	粗いミガキ。	床	完存	密	良	橙色	10.5 3.8		160
	18	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。粗いミガキ。	ヨコナデ、粗いミガキ。	覆土	体部上半1/5	密	良	赤橙色	(10.7) (3.6)		
	19	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ。暗文。	床～覆土	体部一部欠	密	良	赤橙色	14.8 5.5		510
	20	土師器	杯	器面状態不良。	ヨコナデ。暗文。	覆土	体部1/3	酸化粒大小	良	赤橙色	(10.6) 3.9		185
	21	土師器	杯	器面状態不良。	器面状態不良。	覆土	体部上半1/4	密	良	赤橙色	(10.1) (3.2)		
	22	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ミガキ。	覆土	体部上半1/4	密	良	にぶい橙色	(10.8) (2.9)		
	23	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。	床	体部1/4	大小砂粒	良	橙色 にぶい橙色	(12.1) 3.8		209
	24	須恵器	高　杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/8	密	良	灰白色	(10.8) (3.7)		
	25	須恵器	甕	ロクロ調整。体部回転ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	覆土	体部下半1/3	黒色細粒	良	灰黄色	(4.0)	(8.9)	
49	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床～覆土	胴部下半欠	長石他細粒多	やや不良	赤橙色 にぶい橙色	18.6 (27.4)	20.6	
	2	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ナデ状のヘラケズリ（上下)。器面状態不良。胴部中位煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～カマド～覆土	胴部上半1/3	長石、石英他細粒多	良	にぶい橙色	(19.8) (15.9)	(22.2)	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	胴部上半1/6	細粒多	良	にぶい橙色	(16.1) (6.9)		
	4	土師器	椀	器面状態不良。	器面状態不良。暗文か。	カマド～覆土	体部上半1/4	細粒	良	赤色	(15.2) (5.5)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
49	5	土師器	椀	体部ヘラケズリ、一部粗いミガキ。	ミガキ。漆仕上。	覆土	体部1/6	細粒	良	にぶい橙色 赤黒色	(13.7) (3.0)	(13.9)	
	6	土師器	杯	口唇部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	覆土	体部1/4	長石、酸化粒他細粒	良	にぶい赤褐色 褐色	(12.0) 3.3	(5.6)	181
	7	土師器	杯	口唇部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	床～覆土	体部上半1/6	密	良	にぶい橙色 赤黒色	(11.4) (2.7)		
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。器面状態不良。	器面状態不良。	床	体部上半1/3	密	良	浅黄橙色	(9.8) (2.4)	(10.7)	
50	1	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。漆仕上の可能性あり。	ヨコナデ、ヘラナデ。粗いミガキ。漆仕上の可能性あり。	覆土	体部1/8	酸化粒大小	良	褐灰色	(16.8) (6.0)	(17.0)	
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部下半ヘラケズリ（右左)。	ヨコナデ、ヘラナデ。斜格子暗文。	床	体部1/4	細粒多	良	橙色 にぶい橙色	(15.7) (3.8)		
	3	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	底部1/3	密	良	にぶい橙色	(1.2)	(6.7)	
	4	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	底部1/3	細粒多	良	にぶい橙色	(1.7)	(6.6)	
	5	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	密	良	にぶい橙色	(1.1)	4.8	
51	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半1/3	密	良	浅黄橙色 にぶい褐色	(25.7) (13.1)	(29.2)	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半2/3	石英他大小砂粒	良	にぶい橙色	(22.0) (18.9)		
	3	土師器	甕	器面状態不良。	器面状態不良。	床	胴部上半1/3	長石他大小砂粒	やや不良	赤橙色	(14.8) (6.7)	(15.6)	
	4	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。一部ミガキ。沈線。脚部ヘラケズリ（上下)、端部ヨコナデ。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ(左右)。	床	杯部1/2欠	酸化粒大小多	良	にぶい赤褐色	(15.7) 11.6	11.3	341
	5	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。粗いミガキ。脚部ヘラケズリ（上下)。方形ないし長方形透孔4方向。	杯部粗いミガキ。脚部ヘラナデ。	床	口縁部一部、脚部下半欠	密	良	赤橙色	16.7 (6.7)		523
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。漆仕上か。	床	体部1/3	酸化粒大小	良	橙色 にぶい赤褐色	(9.9) 3.8	(10.4)	154

51	7	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。黒色処理。	床～覆土	体部2/3	白色粒、酸化粒大小	良	にぶい赤橙色 黒褐色	9.5 3.2	10.2	128
52	1	土師器	甕	口頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口頸部1/8	大小砂粒多	良	明赤褐色	(20.6) (9.3)	(23.0)	
	2	土師器	甕	口頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリか。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口頸部1/8	細粒多	良	にぶい赤褐色 黒褐色	(18.2) (4.9)		
	3	土師器	甕	ヨコナデ。	ヨコナデ。	覆土	口縁部1/8	長石多、全体に粗	良	黒褐色 橙色	(21.4) (1.9)		
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。一部ミガキか。器面状態不良。	ミガキ。	床下～覆土	体部上半1/2	長石、石英他細粒多	良	明赤褐色、口縁部黒化	(12.3) (11.1)	(12.9)	
	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ(右左)。口縁部弱い稜線。	ミガキ。器面状態不良。口唇部一部面取り。	覆土	体部一部欠	砂粒、酸化粒多	良	橙色	11.7 4.2		230
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ。一部にミガキ。口縁部弱い稜線。	ミガキ。漆仕上か。	カマド	体部上半1/4	酸化粒、細粒	良	にぶい橙色	(11.8) (3.4)		
	7	土師器	杯	口縁部屈曲。口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリののち一部ミガキ。	ミガキ。	覆土	体部上半1/8	細粒多	良	橙色	(11.8) (3.3)	(11.9)	
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部もナデか。口縁部稜線。	ミガキ。	床	体部上半1/8	酸化粒少	良	淡橙色	(10.2) (2.6)		
	9	土師器	鉢	口縁部は大きくななめに開口する。器面状態不良。	ヘラナデのち粗いミガキ。黒色処理。	床～覆土	体部1/3	細粒多	良	赤褐色 黒褐色	～16.0～ 4.5～	7.4	
53	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/6	密	良	にぶい橙色	(25.5) (8.5)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	床	胴部上半1/3	長石、石英他細粒多	良	赤褐色	(20.3) (6.0)		
	3	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部回転ヘラケズリ(方向不明)。	ロクロ調整。器面状態不良。黒色処理か。	床	体部1/8	石英他細粒	良	灰赤色 にぶい褐色	(18.1) (5.9)	(7.6)	
	4	土師器	甕	ヨコナデ、ナデ。ロクロ使用か。	ヨコナデ、ナデ。	覆土	胴部上半1/4	長石、石英他細粒	良	赤褐色 にぶい赤褐色	(12.4) (6.1)	(13.2)	
	5	土師器	甕	ヘラケズリ（左右)。	ヘラナデ。	床	底部1/2	細粒	良	橙色 にぶい橙色	(4.9)	(7.3)	
	6	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部1/4	密	良	赤橙色	(13.3) (3.6)	(5.7)	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
53	7	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	床	体部上半1/3	密	良	赤褐色	(12.6) (3.5)		
	8	土師器	高台付杯	ロクロ調整。高台部、底部ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	底部のみ	密	良	橙色 黒褐色	(1.7)	8.3	
54	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	胴部上半1/3	長石、石英他細粒	良	橙色 浅黄橙色	(22.5) (14.8)	(27.3)	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	胴部1/4欠	密	良	橙色 灰オリーブ色	13.6 13.8	16.1 8.3	1900
	3	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～カマド	胴部上半1/2	大小砂粒多	良	明赤褐色	(21.9) (17.3)		
	4	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、左右）。	ヘラナデ。	床～カマド	胴部下半2/3	大小砂粒多	良	赤褐色	(12.0)	6.8	
	5	土師器	高杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	杯部ミガキか。器面状態不良。脚部ヘラナデ。	カマド	口縁部一部、脚部下半欠	長石、石英、雲母他細粒	良	にぶい橙色 赤橙色	14.7 (7.0)		270
	6	土師器	高杯	ヘラケズリ。器面状態不良。	杯部器面状態不良。脚部ヘラナデ。	カマド	杯部上半欠	長石、石英、酸化粒他細粒多	良	淡橙色	(7.4)	9.1	
	7	土師器	高杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	脚部2/3	雲母、酸化粒他細粒	良	橙色	(5.8)	(8.2)	
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	杯部1/3	酸化粒大小多	良	橙色	(13.8) (4.4)		
	9	土師器	甕	ヘラケズリ（下上）。	ヘラナデ。	覆土	底部1/2	酸化粒大小他	良	浅黄橙色	(2.3)	7.0	
	10	土師器	甕	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	覆土	底部のみ	酸化粒大小他	良	橙色 淡橙色	(1.3)	6.1	
	11	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。黒色処理か。	カマド	杯部上半1/8	細粒多	良	にぶい橙色 黒褐色	(14.4) (3.1)		
	12	土師器		口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	口縁部1/5	白色粒大小多	良	赤褐色	(9.9) (4.1)	(10.8)	
	13	土師器	高台付杯	ロクロ調整。高台部、底部ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	底部1/3	密	良	橙色 黒褐色	(2.7)	(6.2)	

54	14	土師器	小　皿	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3欠	密	良	橙色 浅黄橙色	8.7 1.8	4.8	40
	15	土師器	小　皿	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	ほぼ完存	酸化粒大小	良	浅黄橙色	9.2 1.8	4.8	40
	16	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/8	黒色細粒	良	灰白色	(15.8) (1.8)		
	17	須恵器	高　台 付　杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	底部1/6	白色細粒	良	灰白色	(1.1)	(10.3)	
55	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部全周	細粒多	良	にぶい褐色	23.1 (14.5)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（右左）。	横方向のヘラナデ、ヨコナデ。	床	口縁部1/2	長石、石英、 雲母他細粒多	良	橙色	(21.2) (5.4)		
	3	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	横方向のヘラナデ、ヨコナデ。	床	口縁部1/4	細粒多	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	(22.8) (5.2)		
	4	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（下上）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半1/3欠	酸化粒大小多	良	暗赤褐色 橙色	13.1 13.2	14.8 7.4	1530
	5	須恵器	壷	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/3	細粒多	良	黒褐色 にぶい赤褐色	(23.2) (5.6)		
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ(左右)。	カマド	体部1/2、底部 完存	大小砂粒多	良	橙色	12.6 4.5	7.7	320
	7	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ。	床～覆土	底部2/3	酸化粒大小	良	にぶい橙色 赤橙色	(12.7) 3.9	7.1	288
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	覆土	体部1/2	細粒多	良	橙色	13.0 4.4	(5.1)	277
	9	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3	白色粒多	良	にぶい橙色 黒褐色	(14.0) 4.0	(8.4) (6.0)	
	10	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3	長石、石英、 酸化粒他細粒	良	褐灰色	(13.7) 4.1	7.0 8.7	357
	11	須恵器	杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリか。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	床～覆土	体部上半3/4欠	密	良	浅黄色	(12.8) 3.3	8.2	250
	12	(須恵器)	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	口縁部一部欠	長石、石英他 細粒多	良	にぶい橙色 明赤褐色	12.1 4.0	7.3	321

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
55	13	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ。	床	底部2/3	長石、雲母他細粒	良	にぶい赤褐色 橙色	(2.8)	6.6	
	14	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ（右左）。	覆土	底部のみ	酸化粒他細粒多	良	橙色	(1.9)	5.4	
56	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	床	体部1/6	酸化粒他大小砂粒	良	橙色	(14.8) (4.9)	(10.4)	524
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	体部1/3	密	良	赤橙色	(13.5) (4.1)	(9.1)	
	3	土師器	杯	体部ヘラケズリ（右左）。	器面状態不良。	覆土	体部1/6	酸化粒他大小砂粒	良	にぶい橙色 赤橙色	(13.3) (3.7)	(9.0)	
	4	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/8	白色細粒	良	灰色	(18.5) (1.4)	(19.1)	
	5	須恵器	杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ（右左）。火襷。	ロクロ調整。火襷。	床～覆土	体部一部欠	白色細粒	良	灰色	13.4 3.7	8.4	280
	6	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床	完存	白色細粒多	良	灰白色	12.6 3.9	7.9	260
	7	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	覆土	底部1/2、体部1/8	密	良	灰白色	(12.9) 3.3	8.1	238
	8	須恵器	杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ（右左）。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	床	底部1/4	密	良	灰白色	(2.9)	(8.6)	
57	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(左右)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床～カマド～覆土	体部2/3	長石、酸化粒細粒	良	浅黄橙色 暗褐色	15.1 3.7	11.8	322
58	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～覆土	胴部上半1/2	大小砂粒多	良	灰褐色 にぶい橙色	24.1 (12.9)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	口縁部1/2	大小砂粒	良	にぶい橙色	(21.5) (9.4)		
	3	土師器	甕	口縁部、頸部、横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、左右）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部下半欠	細粒	良	にぶい橙色 にぶい褐色	14.6 (13.4)	16.3	
	4	土師器	甕	ヘラケズリ（下上、左右）。	ヘラナデ（右左）。	床	底部のみ	細粒多	良	にぶい褐色	(5.7)	5.9	

58	5	(須恵器)		口縁部、頸部ヨコナデ、胴部平行タタキ。	口縁部ヨコナデ、胴部無文の当て具痕。	床	口縁部1/3	白色細粒	良	暗オリーブ褐色	(28.9) (9.5)	(29.5)	
	6	土師器	椀	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/8	細粒	良	褐灰色 にぶい橙色	(17.8) (5.8)		
	7	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床～カマド	体部3/5	長石他白色粒大小多	良	赤黒色	14.0 4.7	7.2	383
	8	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	カマド～覆土	体部1/3欠	密	良	灰褐色 にぶい橙色	12.2 3.6	7.2	240
	9	土師器	皿	ロクロ調整。体部下半(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。焼成前刻線「＋」。	ロクロ調整。粗いミガキ。	床～カマド	口縁部一部欠	密	良	にぶい橙色	14.1 2.9	6.9	200
	10	(須恵器)	杯	ロクロ調整。ヘラケズリ痕はみとめられない。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/4	白色粒大小多	良	褐灰色	(14.6) (3.6)		
59	1	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	口縁部1/2、胴部1/4	細粒多	良	にぶい赤褐色 橙色	(22.4) (18.0)		
	2	土師器	杯	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ(右左)。底部ヘラケズリののち粗いミガキ。	ヨコナデ、ヘラナデ、粗いミガキ。	床～カマド	体部1/3欠	白・黒粒大小多	良	赤褐色 赤色	12.3 5.0		298
	3	土師器	台付甕	ナデ。	胴部器面状態不良。脚台部ナデ。	床	接合部のみ	長石、雲母他細粒	良	にぶい赤褐色	(2.4)		
	4	須恵器	高　盤	ロクロ調整。	ロクロ調整。脚部ヘラケズリ。	床	杯部3/4、脚端部欠	白色細粒少	良	灰色 オリーブ灰色	(16.9) (10.1)		111
	5	(須恵器)	甕	口縁部平行タタキののちヨコナデか。胴部平行タタキ。凹線状のナデ。	ヨコナデ、ナデ。当て具痕不明瞭。	床	胴部上半1/2	白色細粒	良	明黒褐色	(14.5)	(27.4)	
60	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。	覆土	胴部上半1/3	長石、石英、雲母他細粒多	良	にぶい赤褐色 橙色	(20.6) (7.1)		
	2	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	体部3/4欠	細粒多	やや不良	赤褐色 橙色	(16.2) (11.7)	6.5	1106
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。	覆土	体部上半1/8	細粒多	良	橙色	(14.4) (3.0)		
	4	須恵器	高　台付　杯	ロクロ調整。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	カマド	高台部1/6周	白色粒少	良	灰白色	(1.0)	(10.0)	
	5	須恵器	蓋	ロクロ調整。自然釉。ヘラケズリ範囲不明。	ロクロ調整。	覆土	天井部のみ	白・黒色粒少	良	灰白色	(2.1)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
61	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	胴部上半1/4	白色粒他細粒多	良	暗赤褐色	(12.0) (5.6)	(13.8)	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/6	細粒多	良	暗赤褐色	(13.8) (5.3)		
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。	床	胴部上半1/4	細粒多	良	橙色 にぶい赤褐色	(11.7) (5.2)	(12.3)	
	4	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	器面状態不良。	床	底部1/2	酸化粒他大小砂粒	やや不良	暗赤褐色	(2.9)	5.3	
	5	土師器	椀	ロクロ調整。底部静止糸切り。体部下半（左右）、底部周辺手持ちヘラケズリ。底部刻線「×」。	ロクロ調整。ミガキ。	床	底部2/3	大小砂粒	良	にぶい橙色	(2.8)	9.5	
	6	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部下半1/8	密	良	灰色 オリーブ灰色	(14.2) (1.5)		
	7	（須恵器）	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部下半1/8	密	良	灰白色	(15.0) (1.5)		
	8	（須恵器）	甕	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/4	酸化粒大小多	良	橙色			
	9	（須恵器）	甑	口縁部ヨコナデ、胴部平行タタキ、沈線状のナデ。胴部下半ヘラケズリ（左右）。	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ。無文の当て具痕。全体凹凸がはげしい。ナデ。	カマド	体部1/2	細粒多	良	明赤褐色 褐灰色	(28.0) (22.2)		
	10	（須恵器）		平行タタキののちヘラケズリ（左右）。	ナデ。	床～カマド	胴部下半2/3	細粒多	良	橙色 褐灰色	(9.9)	15.4	
	11	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。体部下半回転ヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	床	体部1/6	密	良	褐灰色	(17.1) (5.0)		
	12	須恵器		ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	白色粒他大小砂粒	良	灰白色	(2.7)	7.0	
	13	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。底部、高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	底部1/2	長石他細粒	良	灰色	(2.0)	9.0	
	14	（須恵器）	杯	ロクロ調整。体部下半（左右）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	底部2/3	白色粒他細粒多	良	灰色	(2.1)	6.4	
	15	須恵器	水瓶	ロクロ調整。自然釉（緑灰色～暗オリーブ灰色）。	ロクロ調整。	床	頭部のみ	大小砂粒	良	灰色 灰オリーブ色	1.7 (5.1)		

61	16	(須恵器)	杯	ロクロ調整。底部回転ヘラ切り。体部下半（左右）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3欠	白色粒他細粒多	良	オリーブ黒色 黒褐色	12.9 3.9	6.6	210
62	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。	カマド	胴部上半1/2	密	良	にぶい橙色	20.1 (14.3)	20.8	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ(左右、上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。	カマド	胴部上半全周	酸化粒大小多	良	赤橙色	18.1 (14.6)	20.5	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	胴部上半全周	白色細粒、酸化粒	良	橙色 にぶい橙色	21.5 (11.7)	23.2	
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	旧カマド	胴部上半1/3	密	良	淡橙色	(21.5) (13.4)		
	5	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、左右)。	ヘラナデ。	覆土	胴部下半1/3	酸化粒大小多	良	橙色 赤色	(7.3)	6.4	
	6	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、左右)、器面状態不良。	ヘラナデ。	カマド	胴部下半のみ	大小砂粒	良	褐灰色 にぶい橙色	(7.0)	5.0	
	7	土師器	甕	ヘラケズリ（右左)。	ヘラナデ（右左)。	カマド	胴部下半1/2	密	良	灰赤色 にぶい褐色	(7.1)	5.4	
	8	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、左右)。煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	胴部1/2	白色細粒多	良	にぶい橙色	(22.0) (22.2)	(22.6)	
	9	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。胴部下半器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。ハケ状の条線を残す。	旧カマド	体部1/3	細粒多	良	赤橙色 橙色	(22.5) (22.5)		(5722)
	10	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。肩部以下煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～カマド	胴部上半1/2	白色細粒	良	にぶい橙色	(21.7) (22.3)	(22.3)	
	11	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	底部欠	密	良	橙色 にぶい橙色	20.7 (25.4)	20.9	(6020)
	12	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	旧カマド	口縁部2/3	酸化粒多細粒多	良	橙色	22.4 (10.0)		
	13	土師器	甕	ロクロ調整。胴部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	胴部下半のみ	白色粒、酸化粒	良	にぶい橙色 赤褐色	(6.1)	6.5	
	14	土師器	杯	ロクロ調整。底面回転糸切り、無調整。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	細粒多	良	明赤褐色 淡橙色	(1.9)	7.3	
	15	土師器	椀	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（左右)。	ロクロ調整。	覆土	体部上半2/3欠	長石、雲母、酸化他細粒	良	黒褐色 褐色	(17.8) 6.2	8.6	833

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
62	16	土師器	椀	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。底部刻線。	ロクロ調整。	覆土	体部下半のみ	白・黒色粒	良	橙色	(4.5)	8.4	
	17	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。底部焼成後刻線。	ロクロ調整。	覆土	底部2/3	白色粒、酸化粒他細粒	良	橙色	(1.4)	7.5	
	18	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(右左)、底部周辺手持ちヘラケズリ。底部焼成前刻線。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	酸化粒大小	良	橙色	14.9 5.6	7.7	510
	19	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	覆土	体部上半3/4欠	白色粒、酸化粒他細粒多	良	橙色	13.2 4.2	6.3	271
	20	土師器	杯	ロクロ調整。底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床～覆土	体部上半2/3欠	大小砂粒多	良	橙色	(12.5) 4.5	5.7	247
	21	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。底部焼成前刻線。	ロクロ調整。	覆土	体部1/6、底部1/2	白色粒	良	にぶい橙色	(12.2) 4.1	5.6	228
	22	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床～覆土	体部上半1/3欠	白・黒色細粒多	良	赤褐色	13.6 4.6	4.9	270
	23	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(右左)、底部全面？手持ちヘラケズリ。刻線？。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/3欠	白色粒大小多	良	暗赤褐色	13.7 4.5	6.0	320
	24	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部周辺手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	底部1/2、体部1/4	細粒多	良	にぶい赤褐色	13.6 4.5	6.6	304
	25	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/4欠	白色粒、雲母、酸化粒他	良	橙色	12.7 5.0	7.2	290
	26	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半ヘラケズリ。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	覆土	体部1/2	白・黒色細粒	良	橙色	13.2 4.2	6.1	302
	27	土師器	杯	ロクロ調整。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	覆土	体部一部欠	酸化粒大小多	良	黄橙色	12.4 5.1	6.9	300
	28	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/3	白色粒	良	橙色	(14.3) (4.5)		
	29	土師器	高台付杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。高台部ヨコナデを加える。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	体部1/3欠	細粒多	良	にぶい黄橙色 黒褐色	14.2 4.6	7.8	354
	30	須恵器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	白色粒大小多	良	灰色	14.3 5.2	6.0	364

62	31	(須恵器)	甕	ロクロ調整。	ロクロ調整。	床～覆土	口縁部2/3	白色細粒多	良	にぶい褐色	41.5 (6.2)		
	32	(須恵器)	甕	ヘラケズリ（左右）。	器面状態不良。	覆土	底部ほぼ完	白色粒、雲母他細粒	やや不良	にぶい黄橙色 灰白色	(9.1)	12.8	
	33	灰　釉	手付瓶	ロクロ調整。底部静止糸切り。底部周辺回転ナデ、施釉。	ロクロ調整。	カマド	口縁部、把手欠	密	良	黄色 淡黄色	(12.6)	8.5 6.5	
63	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、指頭痕。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（右左）。	床～覆土	胴部上半1/6	密	良	にぶい橙色 赤褐色	(20.8) (8.1)		
	2	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整か。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	覆土	体部1/4	酸化粒他大小砂粒	やや不良	橙色	(12.4) (3.8)	(5.8)	215
	3	土師器	高　台 付　杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。底部指ナデ。	覆土	底部のみ	長石、石英、雲母他細粒	良	にぶい赤褐色	(4.4)	(7.7)	
	4	土師器	高　台 付　杯	ロクロ調整。高台部、底部ヨコナデ、ナデ。	杯部ミガキ。黒色処理。	覆土	底部のみ	白色細粒	良	橙色 黒色	(1.1)		
	5	土師器	高　台 付　杯	ロクロ調整。高台部、底部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	高台部1/4	細粒多	良	にぶい橙色 灰褐色	(1.8)	(6.6)	
64	1	土師器	甕	口縁部、横方向のヘラナデ（右左）、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下左右）。	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ（右左）。	カマド～覆土	底部欠	大小砂粒	良	にぶい赤褐色	22.5 (22.4)		(5434)
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド～覆土	口縁部2/3	長石、酸化粒他細粒	良	にぶい橙色	(21.9) (8.7)		
	3	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ(左右)、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、左右)。	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ（左右)。	覆土	胴部上半2/3	長石、酸化粒他細粒	良	橙色 にぶい橙色	22.9 (16.9)		
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部2/3	長石、石英他細粒	良	にぶい赤褐色	14.1 (5.7)		
	5	(須恵器)	甑	把手一対。口縁部ヨコナデ。胴部平行タタキ。	口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ（左右)。当て具痕不明瞭。	カマド～覆土	胴部上半2/3	白色細粒多	やや不良	にぶい橙色 橙色	29.2 19.1		
	6	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4	白色細粒	良	橙色	(12.8) 3.8	6.0	
	7	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4	密	良	橙色 淡橙色	(12.2) 4.4	(6.1)	251
	8	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	酸化粒他	良	橙色	(2.6)	6.1	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
64	9	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面（左右）回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	白色細粒	良	橙色	(0.9)	5.5	
	10	土師器	皿	ロクロ調整。体部下半回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/4	細粒多	良	橙色	(13.9) (2.2)		
	11	土師器	甕	ヘラケズリ（上下）。	ヘラナデ。	覆土	胴部下半1/4	白色細粒多	良	赤褐色	(12.7)	5.7	
	12	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。器面状態不良。	ヘラナデ。	覆土	底部のみ	酸化粒大小	良	淡橙色	(4.1)	5.6	
	13	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ。	覆土	底部1/2	細粒多	良	橙色 灰褐色	(3.5)	5.3	
65	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下、左右）。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）。器面状態不良。	床～覆土	体部1/3	密	良	にぶい褐色 褐灰色	(21.6) (25.8)	(24.0)	
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	覆土	体部1/8	密	良	橙色	(13.5) (2.7)		
66	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。肩部煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～カマド	胴部上半1/4	長石、雲母他大小細粒多	良	橙色 にぶい褐色	(20.2) (13.9)		
	2	（須恵器）	甕	平行タタキ。胴部下半ヘラケズリ（左右）。	無文の当て具痕。胴部下半ヘラナデ（右左）。	床～カマド	胴部下半1/3	大小砂粒多	良	橙色 にぶい赤褐色	(12.5)	(11.6)	
	3	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3	白色細粒多	良	灰白色	(13.7) (3.9)		
	4	須恵器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/3	白色細粒多	良	暗青灰色	(12.4) (2.3)		
	5	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下半（左右）、底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	底部1/6	白色細粒多	良	暗青灰色	(2.5)	(7.2)	
	6	（須恵器）	甕	ロクロ調整。ヨコナデ。	ロクロ調整。ヨコナデ。	覆土	小片	大小砂粒多	良	褐灰色			
67	1	須恵器		ロクロ調整。	ロクロ調整。自然釉。	床	口縁部1/6	白色粒大小多	良	灰白色 明オリーブ灰色	(17.5) (3.6)		
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）。	粗いミガキ。	床	体部1/8	密	良	橙色 赤褐色	(10.7) (2.7)	(11.2)	

68	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。	床～カマド	体部1/2	大小砂粒多	良	赤橙色	(14.2) (3.3)		
69	1	土師器	杯	口唇部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。漆仕上の可能性あり。	ヨコナデ、ヘラナデ。漆仕上。	カマド	体部上半1/2	酸化粒多	良	にぶい橙色 灰褐色	12.7 (3.2)		217
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	床	体部上半1/6	密	良	にぶい橙色	(11.3) (2.4)	(12.4)	
71	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（下上）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	胴部上半1/5	大小砂粒	良	にぶい橙色	(11.4) (6.2)	(11.5)	
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ。器面状態不良。	覆土	体部1/8	酸化粒大小他細粒	良	橙色	(14.0) (3.8)		
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。	覆土	体部1/8	密	良	赤褐色 橙色	(13.4) (3.7)		
72	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	胴部上半1/3	長石、石英、雲母他細粒	良	にぶい橙色	(22.8) (9.5)		
	2	土師器	甕	ヘラケズリ（右左）。	ヘラナデ（右左）。器面状態不良。	床	胴部下半のみ	細粒多	良	にぶい橙色 赤褐色	(11.7)	7.3	
	3	土師器	甑	ヘラケズリ（右左）、器面状態不良。	ヘラナデ（右左）。	床	体部下半1/4	密	良	黄橙色	(9.3)	(11.5)	
	4	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部下半、底部ヘラケズリ。体部下半に粗いミガキ。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	床	体部1/6欠	細粒多	良	橙色	17.6 6.3	10.5	720
	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部下半(右左)、底部ヘラケズリ。底部刻線。	ミガキ。	床	体部1/2	細粒多	良	橙色	14.9 3.7	(7.2)	325
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部下半ヘラケズリ（右左）。	ミガキ。	覆土	体部1/7	密	良	赤橙色	(13.7) (3.0)		
73	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半3/4	密	やや不良	橙色 灰褐色	12.8 (8.5)	14.5	
	2	土師器	高　杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	床	杯部1/2	酸化粒大小	良	にぶい赤褐色 橙色	13.8 4.0		249
	3	土師器	高　杯	ヘラケズリ(上下)。一部ミガキ状。端部ヨコナデ。	ヘラナデ、ヘラケズリ（左右）。	床	脚部1/3	酸化粒大小	良	浅黄橙色	(4.7)	(9.6)	
	4	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリののちミガキ。	ミガキ。	覆土	体部上半1/6	酸化粒大小	良	橙色	(13.8) (3.1)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
73	5	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左、下上)。	ミガキ。漆仕上。	床	体部1/4	酸化粒大小	良	淡橙色	(13.8) (3.1)		
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ミガキ。	覆土	体部上半1/6	酸化粒大小	良	浅黄橙色	(9.3) (2.0)	(9.7)	
	7	須恵器	甕	ロクロ調整。	ロクロ調整。	床	小片	黒色細粒	良	灰色 灰白色			
74	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	胴部一部欠	酸化粒他大小	良	橙色	15.3 14.1	16.2 8.0	1730
	2	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ(上下、左右)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	胴部上半1/2	密	やや不良	赤橙色 にぶい橙色	(14.5) (11.9)	(16.5)	
	3	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	完存	酸化粒大小	良	淡赤橙色 赤橙色	12.9 9.7	 5.2	690
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。横方向のヘラナデ（左右）を加える。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。ミガキ痕の条線。	床	胴部1/6欠	密	良	黒褐色	12.7 13.3	 6.1	890
	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(下上、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	ほぼ完存	白色粒他大小	やや不良	赤灰色 赤黒色	13.8 13.9	14.4 8.0	1480
	6	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	ほぼ完存	長石、石英他細粒	良	赤褐色 赤灰色	23.3 30.2	 6.4	5820
	7	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。一部ミガキ状のヘラナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	ほぼ完存	長石他細粒	良	橙色	18.2 28.2	 7.2	4460
	8	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半1/3	大小砂粒多	良	にぶい赤褐色	(21.6) (13.3)		
	9	土師器	高杯	口縁部、脚端部ヨコナデ、体部(左右)、脚部(上下）ヘラケズリ。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ(左右)。	床	口縁部、脚端部一部欠	酸化粒他大小	良	橙色 にぶい褐色	16.4	 11.5	460
	10	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部（左右)、脚部（上下）ヘラケズリ。	杯部粗いミガキ、脚部ヘラナデ(右左)。	床	体部1/2、脚端部欠	細粒多	やや不良	褐灰色	(16.1) (9.7)		380
	11	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（下上)。	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ(右左)。一部ミガキ。	床	体部1/3	密	良	褐灰色	(13.5) (8.2)	(14.5)	
	12	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	放射状暗文。器面状態不良。	床	ほぼ完存	細粒多	良	橙色	14.8 5.9		540

74	13	土師器	杯	ミガキ。体部下半器面状態不良。漆仕上の可能性あり。	ヨコナデ。放射状の暗文。漆仕上。	床	口縁部一部欠	密	良	浅黄橙色 灰黄褐色	13.4 5.1		370
	14	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリののち粗いミガキ。	放射状暗文。	床	口縁部一部欠	密	良	にぶい橙色	13.6 5.2		380
	15	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)、粗いミガキ。	放射状暗文。漆仕上。	床	体部上半$\frac{2}{3}$欠	細粒多	良	にぶい橙色 灰赤色	12.6 4.7		312
	16	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。漆仕上。	放射状暗文。漆仕上。	床	体部上半一部欠	細粒多	良	灰褐色	13.6 5.0		410
	17	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。一部粗いミガキを加える。	ヨコナデ、ヘラナデ、粗いミガキ。黒色処理。	床	口縁部一部欠	密	良	橙色 黒色	12.9 5.1		350
	18	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。赤彩の可能性あり。	粗いミガキ。	覆土	体部上半一部欠	大小砂粒	良	橙色 にぶい橙色	12.3 4.8		310
	19	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（右左)。	ミガキ。	床	完存	密	良	灰褐色	11.4 4.3	11.6	250
	20	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。漆仕上。	床	口縁部一部欠	大小酸化粒	良	にぶい橙色 灰褐色	10.7 4.3	11.5	230
	21	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	床	口縁部一部欠	大小砂粒	良	橙色 灰褐色	12.3 4.5		250
	22	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、粗いミガキ。	粗いミガキ。	床	ほぼ完存	密	良	にぶい橙色 橙色	12.0 4.4		220
	23	土師器	杯	粗いミガキ。漆仕上の可能性あり。	粗いミガキ。漆仕上の可能性あり。	覆土	口縁部一部欠	酸化粒大小	良	浅黄橙色	10.3 3.6	4.2	150
	24	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ(右左)。	床	口縁部一部欠	細粒多	やや不良	灰褐色	12.2 4.5		290
	25	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ミガキ。漆仕上。	床	完存	大小砂粒多	良	橙色 赤褐色	12.2 5.3	12.5	340
	26	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。口縁部黒色処理。	ミガキ。黒色処理。	カマド	口縁部一部欠	酸化粒大小	良	浅黄橙色 黒色	10.3 3.4	10.5	120
	27	土師器	椀	口縁部指ナデ、ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床	完存	細粒	良	橙色	9.5 4.9	9.9	230
	28	須恵器	長頸壷	ロクロ調整。頸部ナデ。胴部回転ヘラケズリ(右左)。胴部上半自然釉。	ロクロ調整。	床	口縁部、体部一部欠	白色粒大小	良	灰色	(13.7)	13.3	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
74	29	須恵器	平瓶	ロクロ調整。胴部下半、底部全面回転ヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	床	胴部完存	白色粒大小	良	灰色 灰白色	 (12.6)	13.3 6.0	
75	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。胴部上半煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(下上)。	床	胴部上半1/3	密	良	にぶい赤橙色 赤橙色	(21.2) (13.2)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。	床	口縁部1/5	白色粒大小多	良	黒褐色	(22.2) (5.8)		
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	胴部上半2/3	細粒多	良	にぶい赤橙色 橙色	(14.3) (11.7)		
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ、ナデ。	床	ほぼ完存	細粒多	良	赤褐色	13.9 4.9	 6.8	320
	5	(須恵器)	杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3	酸化粒他大小	良	にぶい黄橙色	(13.0) 3.6	 (8.9)	
	6	(須恵器)	杯	ロクロ調整。体部下端(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部1/3	白色細粒多	良	暗青灰色 灰黄褐色	(12.1) (4.2)	 7.7	 275
76	1	土師器	鉢	体部ヘラケズリ（左右）ののち上半部ヨコナデ。	体部上半ヨコナデ。	カマド	体部上半1/3	細粒多	良	赤橙色 褐灰色	(22.2) (13.4)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)、一部ハケ状の条線。	覆土	胴部上半1/5	大小砂粒	良	橙色	(11.4) (3.8)		
	3	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/6	酸化粒大小	良	橙色	(13.2) 4.2	 (5.7)	
	4	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	完存	長石、石英他細粒多	良	明赤褐色	12.3 4.1	 5.5	 240
	5	土師器	杯	ロクロ調整。体部下端手持ちヘラケズリ(左右)。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3	長石他細粒多	良	暗赤褐色	(12.8) 4.0	 (6.2)	
	6	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ(左右)。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4	石英他細粒	良	赤褐色	(12.8) (4.2)		
	7	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/4	大小砂粒	良	橙色	(13.2) (3.9)		
	8	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り未調整。	ロクロ調整。	カマド	底部3/4	密	良	にぶい橙色 灰褐色	 (2.4)	 6.8	

76	9	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部ケズリ出し高台。高台部ヨコナデ。	ミガキ。黒色処理。	床	体部2/3	細粒多	良	にぶい橙色 黒色	(1.1)	6.6	
	10	(須恵器)	甕	口縁部ロクロ調整。胴部平行タタキ、一部ミガキ状のナデ。	口縁部ロクロ調整。胴部当て具痕不明瞭。一部ヘラナデ。	カマド～覆土	口縁部1/3	白色細粒多	良	灰赤色	(24.0) (9.8)		
77	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。器面状態不良。	ミガキ。	覆土	体部1/4	酸化粒大小	やや不良	浅黄色	(12.9) 3.6	(10.6)	285
78	1	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ(左右)。粗いミガキ。	ヨコナデ、ヘラナデ。放射状暗文。	床～覆土	体部1/4欠	酸化粒大小多	良	橙色	15.8 5.9		710
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。	ミガキ。黒色処理。	覆土	体部上半1/2	酸化粒大小多	良	浅黄橙色 赤黒色	(10.7) (2.5)		
	3	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。	ミガキ。	覆土	杯部1/4	石英他細粒多	良	橙色	(16.1) (4.7)		
	4	土師器	高杯	ヘラナデ（上下)。	杯部器面状態不良。脚部ヘラナデ。	床	脚部上半のみ	酸化粒他細粒	やや不良	橙色	(5.0)		
	5	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下)。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ(左右)、ヨコナデ。	覆土	脚部1/2	酸化粒他大小砂粒	良	橙色	(8.1)		
	6	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部上半2/3	長石、石英他大小砂粒多	良	橙色	18.4 (13.0)		
	7	土師器	杯	口唇部ヨコナデ、体部ヘラナデののち一部ミガキ。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上。	床	体部1/3	酸化粒大小多	良	にぶい橙色 にぶい褐色	(11.4) (3.7)	(7.4)	208
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。黒色処理。	口縁部ヨコナデ、ミガキ。黒色処理。	覆土	体部上半1/2	密	良	黒褐色	(9.2) (2.8)	(10.0)	
	9	須恵器	高杯	ロクロ調整。接合部ヨコナデ。脚部4方向、長三角形透孔。	ロクロ調整。	覆土	杯部上半3/4欠	白色細粒	良	オリーブ灰色	(17.2) 13.8	11.2	450
	10	須恵器	蓋	ロクロ調整。ヘラケズリは確認できない。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	白色細粒	良	オリーブ灰色	(8.9) (2.5)	(10.4)	
79	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左)。	カマド～覆土	胴部上半1/4	密	良	にぶい橙色	(21.8) (16.5)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部2/3	密	良	暗赤褐色 橙色	20.1 (8.5)	(20.2)	
	3	土師器	甕	ヘラケズリ（左右)。	ヘラナデ（右左)。	覆土	底部のみ	細粒多	良	暗赤褐色	(4.6)	8.3	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調(外/内)	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
79	4	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/4	長石、雲母他細粒多	良	赤褐色	(25.4) (6.9)		
	5	土師器	甕	ロクロ調整。	ミガキ。黒色処理。	覆土	体部1/3	長石他細粒多	良	にぶい橙色 黒色	(16.6) (6.2)		
	6	土師器	椀	ロクロ調整。体部下端手持ちヘラケズリ(左右)。底部回転糸切り、一部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。ミガキ。	カマド	体部下半1/3	細粒多	良	赤褐色 赤色	(4.7)	(6.4)	
	7	土師器	椀	ロクロ調整。底部回転糸切り未調整。体部下端手持ちヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	カマド	完存	密	良	にぶい橙色	13.3 4.8	6.5	330
	8	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/6	細粒多	良	黒褐色 赤褐色	(12.8) (3.9)		
	9	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/5	密	良	赤褐色	(12.7) (3.9)		
	10	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	細粒多	良	橙色 灰赤色	(2.4)	5.7	
	11	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	長石他細粒多	良	赤褐色	(1.3)	6.4	
	12	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	細粒	良	にぶい橙色	(1.3)	5.4	
	13	須恵器	瓶	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床～覆土	底部1/2	白・黒色細粒多	良	灰白色	(2.7)	5.9	
80	1	須恵器	長頸壷	ロクロ調整。胴部軽いヘラナデ？を加える。高台部、底部ヨコナデ。底部に指頭圧痕。	ロクロ調整。底部全面自然釉。	カマド～覆土	底部完存	白・黒色粒大小多	良	灰色	(9.6)	13.4	
	2	須恵器	高盤	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	脚部上半のみ	黒色粒、雲母他細粒	良	灰白色	(2.5)		
	3	土師器	台付甕	ヘラケズリ（上下)。	ヘラナデ。	カマド～覆土	胴部下半5/6	長石、石英他細粒多	良	にぶい赤褐色	(4.6)		
	4	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(左右)、底部外周手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	底部1/2	細粒	良	赤褐色	(1.2)	4.7	
81	1	土師器	鉢	ヨコナデ。	ヨコナデ。	床～カマド	体部上半1/4	密	良	にぶい赤褐色 橙色	(21.4) (7.8)		

81	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ状のケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半2/3	長石他細粒多	良	灰赤色 にぶい赤褐色	24.7 (10.7)	24.7	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、一部指頭圧痕。	カマド	口縁部1/5	長石、雲母他細粒	良	赤褐色	(19.5) (5.3)		
	4	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部下半完存	長石、石英、酸化粒他細粒多	良	暗赤色	(13.8) 4.0	6.2	289
	5	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整か。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4、底部欠	大小砂粒多	良	灰褐色 橙色	(13.0) 3.8	(5.8)	
	6	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	床	体部上半1/4	長石他細粒多	良	赤褐色 にぶい橙色	(12.6) (3.2)		
	7	土師器	椀	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(左右)、底部外周手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。ミガキ。漆仕上の可能性あり。	カマド～覆土	口縁部1/4、底部3/4	細粒多	良	黒褐色 暗赤灰色	(18.7) (6.0)	8.5	
	8	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。体部下端手持ちヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	カマド	底部2/3	密	良	暗赤褐色 にぶい橙色	(1.6)	7.6	
	9	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	底部ほぼ完存	密	良	にぶい橙色 橙色	(1.0)	6.0	
82	1	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	胴部下半1/2	細粒多	良	赤褐色 暗赤褐色	(8.0)	(14.1) 6.5	
	2	土師器	高台付杯	ロクロ調整。体部下半ヘラケズリ(左右)。底部回転糸切りののち高台部を含めナデ。	ロクロ調整。ミガキ。	床～カマド～覆土	体部下半1/2	長石他大小砂粒多	良	赤褐色	(4.0)	7.2	
	3	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	カマド	体部1/5	密	良	橙色	(12.2) (3.6)	(5.6)	
	4	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4	大小砂粒多	良	赤色	(11.6) (3.9)		
83	1	土師器	杯	ロクロ調整。底部静止糸切りか。体部下端（右左）、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部一部欠	細粒多	やや不良	灰褐色 暗赤褐色	13.1 4.0	6.3	260
	2	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ち？ヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	床	体部1/4	細粒多	良	赤褐色	14.0 4.5		
	3	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ(左右)。	ロクロ調整。	床	体部2/3	密	良	橙色	13.1 4.2		
84	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド～覆土	胴部上半1/8	細粒多	良	暗赤褐色	(21.8) (10.8)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
84	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	カマド	口縁部1/4	長石、石英他細粒多	良	赤褐色 にぶい橙色	(12.2) (4.0)	(12.4)	
	3	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ。	床	底部完存、胴部上半1/3	細粒多	良	にぶい橙色 赤色	(6.3)	6.2	
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床	体部1/3	密	良	赤褐色 赤橙色	(12.4) (3.9)	(8.9)	274
	5	(須恵器)	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	白色細粒	良	にぶい黄色	11.9 4.1	7.2	262
	6	(須恵器)	杯	ロクロ調整。体部下半(右左)、底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	白色細粒多	良	黒褐色 灰白色	12.4 4.3	7.8	
	7	(須恵器)	杯	ロクロ調整。器面凹部沈線状。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床	体部3/5	白色粒他大小砂粒多	良	暗赤褐色 褐灰色	12.6 3.8	7.7	267
	8	須恵器	甕	平行タタキ、体部下半ヘラケズリ（左右）。	ナデ。	覆土	底部1/5	長石他大小砂粒	良	褐灰色 灰色	(4.2)	14.0	
	9	(須恵器)	蓋	ロクロ調整。天井部回転ヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	白色細粒多	良	オリーブ灰色 にぶい褐色	(19.4) 4.4		
85	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～カマド～覆土	胴部上半1/2	密	良	橙色 にぶい橙色	21.4 (14.6)		
	2	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ。	覆土	胴部下半1/3	細粒	良	灰褐色 にぶい橙色	(5.3)	(5.1)	
	3	土師器	椀	ロクロ調整。体部下半(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	体部一部欠	大小砂粒多	良	にぶい褐色 黒褐色	15.9 6.1	4.9	550
	4	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ(左右)。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	体部1/4	白色粒大小多	良	赤褐色 黒褐色	(16.4) 5.2	(7.2)	
	5	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り、底部外周、高台部回転ヘラケズリ、ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。	カマド	体部1/5、底部2/3	長石、石英、雲母他細粒	良	赤色 赤褐色	(15.8) (5.4)	6.7	
	6	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転糸切り、高台部周辺ヨコナデ。	ロクロ調整。	床～覆土	ほぼ完存	細粒多	良	にぶい赤褐色	16.8 6.2	7.1	440
	7	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部、高台部ヨコナデ。器面状態不良。	ロクロ調整。黒色処理。	床	体部上半2/3欠	密	やや不良	にぶい橙色	14.6 5.8	7.3	407

85	8	土師器	杯	ロクロ調整。底部静止糸切り無調整。体部下半手持ちヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床～覆土	体部1/2	細粒多	良	にぶい赤褐色	(13.4) 4.2	5.9	251
	9	土師器	杯	ロクロ調整。切り離し面2面。	ロクロ調整。	床	体部1/3	細粒多	良	赤褐色	(13.6) (3.9)		
	10	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4欠	細粒多	良	赤橙色	13.0 4.3	5.3	260
	11	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り、体部下半(右左)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/3欠	大小砂粒多	良	にぶい橙色	12.7 4.0	5.6	240
	12	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	貯蔵穴	ほぼ完存	大小砂粒	良	橙色	13.0 4.4	5.7	260
	13	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床	体部1/3	酸化粒他大小多	良	橙色 にぶい橙色	(12.8) 4.1	6.0	
	14	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	カマド	体部1/4	白色粒大小多	良	赤褐色	(12.8) 3.8	(6.3)	
	15	土師器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	貯蔵穴～カマド～覆土	体部1/2	白色粒大小多	良	暗赤褐色	(13.2) (4.1)		
	16	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床	底部のみ	細粒多	良	にぶい橙色 赤灰色	(2.7)	6.4	
	17	(須恵器)	甕	口縁部ヨコナデ、胴部平行タタキ。	口縁部ヨコナデ、当て具痕不明瞭。	カマド	胴部上半1/3	長石、雲母他細粒多	良	赤橙色	(26.2) (10.8)		
	18	(須恵器)	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部平行タタキののち全体に横方向のナデを加える。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。無文の当て具痕。	床～貯蔵穴～カマド	胴部上半全周	白・黒色細粒多	良	赤褐色	18.2 (13.2)		
87	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部上半1/4	細粒多	良	にぶい褐色	(24.5) (12.4)	(26.0)	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	口縁部全周	長石他細粒多	やや不良	橙色 にぶい赤褐色	15.9 (7.1)	(16.6)	
	3	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/4	石英他細粒多	良	橙色	(15.2) (12.7)		
	4	土師器	甕	ヘラケズリ（左右）。	ヘラナデ。	カマド	底部のみ	長石他細粒多	良	赤褐色 橙色	(5.8)	7.7	
	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右左)ののちミガキ状のヘラナデ。	床～覆土	胴部上半1/3	大小砂粒	良	黄橙色 橙色	28.8 (22.9)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
87	6	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部一部欠	石英他大小砂粒多	良	にぶい橙色	16.0 21.8	21.0 8.2	4120
	7	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、平滑。	床～カマド～覆土	口縁部3/4、胴部上半1/4	長石、雲母他大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 赤褐色	18.5 (23.9)	(19.7)	
	8	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。胴部下半黒化。	カマド	胴部上半1/4	長石、石英、雲母他細粒多	良	にぶい橙色 にぶい黄橙色	(14.6) (10.5)	(16.8)	
	9	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド～覆土	口縁部2/3、底部欠	大小砂粒多	やや不良	暗赤褐色 暗赤灰色	(18.1) (24.8)	20.7	
	10	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左、下上)。	床	口縁部、底部一部欠	長石、雲母他大小砂粒多	良	暗褐色 赤褐色	19.9 27.9	 6.3	5290
	11	土師器	甕	口縁部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。胴部縦方向のヘラケズリ（下上）ののち横方向のナデ状のヘラケズリ（左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床	ほぼ完存	酸化粒他大小砂粒多	良	浅黄橙色	25.3 32.8	30.7 9.2	14970
	12	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部(右左)、底部周辺(左右)ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヘラナデ、ヨコナデ。胴部器面状態不良。	覆土	各部一部欠	長石他大小砂粒多	良	赤褐色 淡赤褐色	22.6 (32.8)	29.3 6.8	 12699
	13	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半全周	大小砂粒	良	赤褐色 にぶい橙色	15.5 (10.2)		
	14	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ、体部（左右)、脚部（下上）ヘラケズリ。脚端部横方向ヘラナデ、ヨコナデ。	杯部ミガキ、脚部ヘラナデ(右左)。	カマド	ほぼ完存	密	良	赤橙色	14.7 10.0	 9.5	350
	15	(土師器)	高杯	口縁部、脚端部ヨコナデ、体部、脚部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床	杯部一部欠	長石他細粒多	良	橙色 灰黄色	18.1 13.3	 11.8	650
	16	土師器	高杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	脚部ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	脚端部欠	密	良	浅黄橙色	16.8 (9.9)		 469
	17	土師器	高杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	杯部ミガキか。脚部ヘラナデ。器面状態不良。	床～覆土	杯部1/3	密	良	浅黄橙色	(14.3) (8.1)		 296
	18	土師器	高杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	杯部ミガキか。器面状態不良。	覆土	杯部1/3	密	やや不良	浅黄橙色	(15.3) (5.9)		 433
	19	土師器	高杯	ヘラケズリ（上下)。	杯部器面状態不良。脚部ヘラナデ（左右)。	覆土	脚部上半のみ	密	良	橙色 にぶい橙色	 (6.7)		
	20	(土師器)	高杯	ヘラケズリ(上下)。脚端部ヨコナデ。器面状態不良。	脚部ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	脚部1/3	密	良	赤橙色 灰色	 (5.2)	 (11.7)	

87	21	土師器	高　杯	ヘラケズリ（上下）。脚端部ヨコナデ。	杯部ミガキ。脚部ヘラナデ(左右)。	覆土	杯部、脚部下半3/4欠	酸化粒大小	良	浅黄橙色	(7.3)	(11.2)	
	22	土師器	台付甕	ヘラケズリ（上下）。脚端部ヨコナデ。	胴部ヘラナデ、脚部指ナデ、ヨコナデ。	覆土	脚台部3/4	細粒多	良	明赤褐色	(3.9)	9.9	
	23	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、ミガキ。器面状態不良。	覆土	体部上半1/2	密	良	橙色	(14.6) (8.9)	(17.6)	
	24	土師器	椀	口唇部ヨコナデ、体部ヘラケズリののち粗いミガキ。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	床	体部1/2	大小砂粒	良	にぶい橙色	21.7 8.0		1421
	25	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）ののち粗いミガキ。口縁部黒色処理。	ヨコナデ、ヘラナデののち粗いミガキ。黒色処理。	床～覆土	体部1/3	細粒	良	橙色 黒褐色	(13.8) 4.9	(13.9)	393
	26	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	カマド	口縁部一部欠	密	良	にぶい橙色 灰褐色	10.3 3.1	5.2	130
	27	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部下半、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	器面状態不良。	覆土	体部1/4	大小砂粒多	良	橙色	(13.8) (3.6)	(9.8)	
	28	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリののち粗いミガキ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。暗文。	床～覆土	体部上半1/4欠	密	良	橙色	10.8 4.0		190
	29	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）ののち一部ミガキ。	ミガキ。	覆土	体部1/3	密	良	赤橙色 赤褐色	(12.1) (5.7)	(12.3)	
	30	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部一部欠	密	良	橙色	12.1 3.3	5.0	210
	31	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/4欠	長石他細粒多	良	橙色	12.0 4.0	4.6	210
	32	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	体部上半1/2欠	密	良	橙色	11.4 4.1	4.2	195
	33	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	床	口縁部一部欠	長石他細粒多	良	橙色	12.2 4.0	4.8	210
	34	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部下半1/8	白色粒	良	灰色 灰白色	(10.2) (1.8)	(11.4)	
	35	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部下半1/6	白色粒	良	灰白色	(9.5) (1.8)	(10.8)	
	36	須恵器	長頸壺	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	頸部のみ	白色粒多	良	灰色 灰白色	(6.6)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調(外/内)	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
87	37	須恵器	甕	口縁部ロクロ調整、ヨコナデ。胴部細い平行タタキ。	口縁部ロクロ調整。胴部同心円状の当て具痕。	覆土	口縁部1/4	密	良	灰白色	(19.2) (6.6)		
	38	須恵器		ロクロ調整。体部下半、底部回転ヘラケズリ(右左)。	ロクロ調整。全面自然釉。	カマド	底部のみ	白色粒大小多	良	灰色	(5.0)	6.6	
	39	須恵器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部回転ヘラケズリ(右左)。	ロクロ調整。	覆土	底部1/2	白色粒大小多	良	灰色 灰白色	(1.9)	4.5	
	40	須恵器	甕	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	小片	密	良	灰色			
	41	須恵器	長頸壷	ロクロ調整。	ロクロ調整。自然釉。	覆土	小片	白色粒大小	良	灰白色 オリーブ灰色			
88	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。横方向はヘラナデ状。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	底部欠	白色細粒多	良	赤褐色 赤橙色	21.9 (21.9)		(4913)
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。肩部煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。	カマド	胴部2/3	密	良	橙色 にぶい橙色	23.8 (25.3)		(7245)
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右左、上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	胴部上半全周	長石、酸化粒他細粒	良	橙色 にぶい赤褐色	20.2 (16.2)	22.3	
	4	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ(上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～カマド	口縁部1/3	白色粒多	良	にぶい赤褐色 橙色	(13.2) (4.1)	(13.0)	
	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(左右)。ヘラナデは条線を残し簾状文風。	カマド	胴部1/3	密	良	にぶい橙色	(19.7) (22.6)		(4480)
	6	土師器	椀	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ(左右)。	ロクロ調整。	カマド	体部1/3	密	良	橙色 にぶい橙色	(17.5) (5.8)	(6.8)	
	7	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	カマド	体部1/4	大小砂粒	良	浅黄橙色 黒色	(14.1) (4.6)	(6.9)	
	8	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	カマド	完存	密	良	黄橙色	13.5 4.2	5.9	260
89	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	胴部上半1/3	細粒多	良	にぶい橙色 橙色	(22.4) (17.7)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右左)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/3	白色細粒多	良	灰褐色 にぶい赤褐色	(22.3) (6.9)		

89	3	土師器	台付甕	脚端部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（下上）。	胴部ヘラナデ、脚部ヨコナデ。	覆土	脚台部のみ	大小酸化粒多	良	明赤褐色 にぶい赤褐色	(4.6)	7.8	
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ。	カマド	体部1/5	白色細粒多	良	暗赤褐色	(14.8) (3.3)	(10.7)	
	5	土師器	高　杯	脚部ヘラケズリ。	ヘラナデ（左右）。	覆土	脚部上半1/2	白色細粒多	良	にぶい橙色	(5.3)		
	6	須恵器	蓋	ロクロ調整。天井部回転ヘラケズリ（左右）。	ロクロ調整。	覆土	完存	白色細粒	良	灰白色	15.4 4.2	15.7	
	7	須恵器	杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	カマド	体部1/7	白色細粒	良	灰色 灰白色	14.1 (3.3)		
	8	須恵器	高　台 付　杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/8	密	良	灰白色	(13.9) (2.8)		
	9	須恵器		ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。高台部周辺ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	底部1/8	白色細粒	良	灰色	(1.4)	(9.8)	
90	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	底部欠	白色粒	良	浅黄橙色 にぶい橙色	17.0 (11.4)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半2/3	白色細粒多	良	にぶい橙色	15.5 (9.8)		
	3	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。粗いミガキ。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	覆土	体部上半2/3欠	白色粒、酸化粒他細粒多	やや不良	にぶい橙色 にぶい赤褐色	14.2 3.6		293
91	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。胴部下半器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/2	大小砂粒多	良	暗赤褐色 にぶい赤褐色	19.8 (21.0)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～覆土	胴部上半1/4	長石他大小砂粒多	良	赤褐色 橙色	(17.8) (14.1)	(18.4)	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド～覆土	口縁部1/5、胴部下半1/3欠	大小砂粒多	良	暗赤褐色 灰褐色	(21.5) 32.0	6.8	6273
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。胴部下半煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部2/3	大小砂粒多	良	にぶい橙色	(29.3)	(20.8)	
	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部上半1/2	長石他大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 褐灰色	(18.5) (7.9)		
	6	土師器	高　杯	杯部器面状態不良。粘土紐積み上げ痕。脚部ヘラケズリ（上下）。	杯部ミガキ。漆仕上の可能性あり。ヘラナデ（左右）。	床	脚部下半欠	密	良	赤橙色	18.7 (11.1)		630

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
91	7	土師器	高杯	杯部ヨコナデ、ヘラケズリののち粗いミガキ。脚部ヘラケズリ。器面状態不良。	杯部ミガキ。漆仕上の可能性あり。器面状態不良。脚部ヘラケズリ（左右）。	覆土	体部上半1/5	雲母他細粒	良	にぶい橙色	(17.8) (9.4)		 606
	8	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（右左）。	口縁部ヨコナデ、ミガキ。黒色処理。	覆土	体部2/3欠	密	良	浅黄橙色 黒色	(17.6) 10.9	 7.7	 1313
	9	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。底部に木葉痕。漆仕上の可能性あり。	ヨコナデ、ヘラナデ。放射状暗文。	カマド～覆土	体部1/4欠	酸化粒大小多	やや不良	橙色 赤色	19.6 10.0	 6.6	1870
	10	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。粗いミガキを加える。	粗いミガキ。	床～覆土	体部上半1/2欠	密	良	赤橙色 赤色	11.9 9.5	13.6 6.8	 895
	11	土師器	甑	ボタン状の把手。口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	胴部1/4	白色細粒多	良	橙色	(29.8) (26.0)		
	12	土師器	甑	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（下上）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ（右左）ののち粗いミガキ。	覆土	胴部上半3/4	酸化粒大小他	良	橙色 浅黄橙色	28.0 (20.3)		
	13	土師器	高杯	脚部ヘラケズリ（上下）。	杯部ミガキ。漆仕上の可能性あり。脚部ヘラナデ（右左）。	覆土	脚部のみ	白色細粒	良	橙色	 (9.8)	 12.0	
	14	土師器	高杯	脚端部ヨコナデ、脚部ヘラケズリ（下上）。器面状態不良。	脚端部ヨコナデ、脚部ヘラナデ（左右）。	覆土	脚部のみ	密	良	橙色	 (7.0)	 12.6	
	15	土師器	高杯	ヨコナデ、ヘラケズリののち粗いミガキ。漆仕上。	ヨコナデ、ヘラナデののち粗いミガキ。	覆土	杯部1/2	密	良	にぶい赤褐色	15.0 (4.8)		
	16	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。一部ミガキ。	ミガキ。	床	体部上半1/3欠	密	良	橙色	13.0 6.0		 430
	17	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左）。	ヨコナデ、ヘラナデ。放射状暗文。	覆土	体部上半2/3欠	白色粒大小多	良	にぶい橙色 灰褐色	(15.8) 5.5		 612
	18	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右）漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	覆土	体部上半1/3	密	良	にぶい橙色 褐色	(15.5) (4.9)		
	19	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	ミガキ。漆仕上の可能性あり。器面状態不良。	覆土	体部上半2/3欠	密	良	橙色	(13.9) 4.6	 7.5	 305
	20	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（右左）。口縁部漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	覆土	体部上半1/4	白色細粒	良	にぶい橙色	13.5 4.7		 320
	21	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。一部ミガキ。漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	体部1/3	白色細粒	良	暗赤褐色 灰褐色	(12.2) (4.8)		

91	22	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ（右左）ののち粗いミガキ。口縁部器面状態不良。	ミガキ。漆仕上。	覆土	体部上半1/2	密	良	橙色	13.2 5.0	13.4 6.1	411
	23	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。粗いミガキ。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	床	口縁部一部欠	酸化粒大小	やや不良	浅黄橙色	13.3 4.0		260
	24	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ（左右）。粗いミガキ。	ミガキ。漆仕上の可能性あり。	覆土	体部2/3	白色細粒、酸化粒	良	橙色	13.2 4.7	13.7 6.0	414
	25	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。一部ミガキ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。放射状暗文。	カマド	体部上半1/4欠	白色粒、酸化粒大小多	やや不良	浅黄橙色 にぶい橙色	11.9 4.3		240
	26	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。口縁部漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	覆土	体部上半1/4	長石、雲母他細粒	良	にぶい橙色 灰褐色	(10.7) (3.7)		
	27	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右左)。口縁部漆仕上。	ヨコナデ、ヘラナデ。放射状暗文。漆仕上。	覆土	体部上半1/4	酸化粒大小多	良	にぶい橙色 灰褐色	(12.1) (3.4)		
	28	土師器	杯	ヨコナデ。粗いミガキ。器面状態不良。	ヨコナデ。	覆土	体部2/3	密	良	にぶい赤褐色	12.4 3.6		245
	29	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(左右)。口縁部漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	カマド	体部1/2	密	良	浅黄橙色 にぶい橙色	(10.6) 4.3	(11.2)	135
92	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	底部欠	密	良	橙色 にぶい赤褐色	19.5 (22.3)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。ハケ状の条線を残す。	床	口縁部1/3	密	良	赤褐色 にぶい橙色	(13.2) (4.5)		
	3	土師器	椀	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部1/3	白色細粒多	良	黒褐色 にぶい赤褐色	(17.0) 5.8	(7.7)	681
	4	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	床～覆土	体部1/4	細粒多	良	灰褐色 黒色	(13.0) 4.5	(6.3)	
	5	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（左右）。煤付着。	ロクロ調整。	床	体部一部欠	白色細粒	良	にぶい橙色	12.6 4.3	6.0	270
	6	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。胴部上半まで煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半2/3	密	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	20.1 (16.2)		
	7	土師器	椀	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。煤付着。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4欠	細粒多	良	灰褐色 にぶい橙色	19.2 7.3	7.4	1000
	8	土師器	椀	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。全体に煤付着。	ロクロ調整。口縁部に煤付着。	床	体部1/4欠	白色細粒多	良	にぶい橙色	15.3 5.1	7.4	470

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
92	9	土師器	杯	ロクロ調整。底部全面手持ちヘラケズリ。底部刻線「井」。	ロクロ調整。	床	体部1/3欠	細粒多	やや不良	灰褐色 にぶい褐色	15.2 5.3	 7.5	490
	10	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半、底部全面回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	覆土	体部1/5、底部2/3	細粒多	良	浅黄橙色	(13.3) 4.5	 7.2	 319
	11	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。底部刻線「井」?。器面状態不良。	ロクロ調整。	カマド	体部2/3欠	密	良	橙色	(13.8) 4.8	 6.9	 358
	12	土師器	杯	ロクロ調整。ツメ痕、ヘラ先か。体部上半は上方向、下半は下方向より。底部回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	覆土	完存	密	良	橙色	12.9 4.1	 7.0	260
	13	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。体部下端手持ちヘラケズリ（左右）。墨書「生」。	ロクロ調整。	覆土	体部一部欠	白色粒他細粒多	良	にぶい橙色 橙色	12.7 4.0	 5.4	250
	14	(須恵器)	甕	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/4	白色細粒	良	橙色 にぶい赤褐色	(21.4) (5.2)	 	
	15	(須恵器)	甑	尖頭状の把手。平行タタキ。体部下半ヘラケズリ（右左）。	ヘラナデ。当て具痕不明瞭。	覆土	体部中位1/8	白色細粒	良	にぶい赤褐色	(20.6)	 	
93	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/4	細粒	良	橙色 にぶい赤褐色	(22.0) (8.5)	 	
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	ヨコナデ。	覆土	口縁部1/2	酸化粒他大小砂粒	良	橙色	24.1 (4.8)	 	
94	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/8	密	良	橙色	(16.6) (4.8)	 	
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部上半1/4	酸化粒大小	良	明黄褐色 橙色	(11.9) (5.3)	 	
	3	土師器	杯	ロクロ調整。底部静止糸切り無調整。体部下半手持ちヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床	体部1/4	白色細粒多	良	赤色	(12.8) 4.6	 (6.1)	 277
	4	土師器	杯	ロクロ調整。底部静止糸切り無調整。体部下半手持ちヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	床	体部1/3	白色細粒多	良	黒褐色 暗赤褐色	(12.6) 4.1	 (5.6)	 246
	5	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	覆土	完存	白色細粒多	良	赤色	12.7 3.8	 6.0	270
	6	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ(右左)。	ロクロ調整。ミガキ。	覆土	体部1/8	密	良	橙色	(13.1) (4.4)	 	

94	7	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。体部下半(左右)、底部周辺手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	底部のみ	細粒	良	橙色	(2.1)	5.3	
	8	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	底部2/3	細粒	良	灰黄色 浅黄色	(11.8)	5.2	
	9	土師器	甕	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	カマド	体部下半1/3	細粒多	良	にぶい橙色 にぶい褐色	(3.1)	(8.1)	
95	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド～覆土	胴部上半1/2	白色細粒多	良	赤褐色 褐色	23.4 (16.9)		
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床～覆土	体部1/3欠	大小酸化粒	やや不良	浅黄橙色	15.8 3.9	11.3	424
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部（右左）ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	体部1/8	大小砂粒	良	にぶい黄橙色 赤色	(15.3) (3.2)	(9.5)	
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。粗いミガキを加える。	ミガキ。黒色処理。	覆土	体部1/3	密	良	橙色 黒褐色	11.7 3.4	7.2	186
	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。体部下半のみ斜格子暗文が観察できる。	床	体部上半3/4欠	白色粒他細粒多	良	赤色	(17.6) 4.6	12.4	612
	6	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/6	白色細粒	良	灰白色	(16.7) (2.0)	(17.1)	
	7	須恵器	蓋	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/6	密	良	灰色	(14.6) (1.9)	(15.0)	
96	1	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	口縁部1/8	白色細粒	良	赤橙色 橙色	(16.6) (4.1)	(17.9)	
	2	土師器	高　杯	ヨコナデ、ヘラナデ、粗いミガキ。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	杯部1/4	酸化粒他細粒多	良	にぶい橙色 褐灰色	(15.8) (4.1)		
97	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ(右左)、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（右左、下上)。胴部下半煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床～覆土	胴部上半2/3	長石、雲母、酸化粒他細粒	良	橙色	23.7 (24.8)		
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部浅いヘラケズリ。	ヨコナデ、ヘラナデ。斜格子暗文。器面状態不良。	覆土	体部1/8	白色細粒	良	橙色	(14.9) (3.8)	(9.2)	
	3	土師器	杯	ヨコナデ。一部ヘラケズリ。	ヨコナデ。	覆土	体部上半1/5	密	良	灰褐色 橙色	(14.8) (3.1)		
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部下半ヘラケズリ。	ヨコナデ、ヘラナデ、粗いミガキ。	覆土	体部1/8	密	良	灰褐色	(12.4) (2.3)		

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調(外/内)	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
98	1	土師器	甑	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	床～カマド	胴部上半1/4	細粒多	良	橙色	(31.5) (11.1)		
	2.	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	カマド	胴部上半1/6	白色細粒多	良	にぶい赤褐色	(21.1) (7.9)		
	3	(須恵器)	甕	ヘラケズリ。	ナデ。	床	底部のみ	密	良	橙色	(3.0)	14.9	
	4	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/3欠	密	良	にぶい橙色	13.7 4.6	6.4	320
	5	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	カマド	体部1/3	長石、石英他細粒多	良	赤褐色 黒色	(14.2) 4.8	(5.7)	350
	6	土師器	椀	ロクロ調整。	ロクロ調整。	カマド	体部1/6	白色細粒多	良	にぶい赤褐色	(16.8) (4.3)		
99	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	口縁部1/3	大小砂粒多、砂状	良	にぶい橙色	(22.1) (6.9)		
	2	土師器	高台付杯	ロクロ調整。ミガキ。高台部ヨコナデ。漆仕上か。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	床～覆土	体部1/2	白色細粒	良	褐色 黒色	(15.9) 6.2	(8.8)	613
	3	土師器	高台付杯	ロクロ調整。高台部周辺ヨコナデ。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	床	体部上半1/2欠	大小砂粒多	良	橙色 暗褐色	(14.5) 5.5	7.2	419
	4	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部、高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。漆仕上か。	床～覆土	体部上半1/2欠	密	良	橙色 黒色	12.2 4.5	6.6	240
	5	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転糸切り。高台部周辺ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。	覆土	底部のみ	白色細粒多	良	橙色	(2.5)	6.9	
100	1	土師器	鉢	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床	体部上半1/2	白色細粒	良	橙色 にぶい赤褐色	26.8 (14.8)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	体部上半1/3	大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	(24.8) (19.5)		
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（下上）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。口唇部に煤付着。	カマド	口縁部1/4	大小砂粒	良	暗赤褐色 にぶい橙色	(13.8) (7.2)	(14.6)	
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	ミガキ。器面状態不良。	カマド	体部1/2	密	良	にぶい橙色	15.3 3.2	10.4	353

100	5	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	ナデ。器面状態不良。体部に斜格子暗文、底部にラセン状暗文。	覆土	体部1/6、底部完存	白色粒大小多	やや不良	褐色 橙色	(14.9) 3.9	9.2	395
	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部下半(左右)、底部ヘラケズリ。	ミガキ。	覆土	体部1/3	密	良	浅黄橙色	(13.2) (3.6)	(7.7)	
	7	土師器	甕	脚端部ヨコナデ。ヘラケズリ（上下)。	脚端部ヨコナデ。ヘラナデ。	カマド	脚台部のみ	大小砂粒多	良	にぶい赤褐色	(4.1)	9.7	
	8	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半1/3	大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 暗赤褐色	(23.8) (20.2)		
101	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～カマド	胴部上半1/3下半2/3	酸化粒他大小多	良	にぶい赤褐色 暗赤褐色	(26.8) (27.1)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（右左)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	胴部上半1/3	酸化粒他大小多	良	赤橙色	(20.8) (8.8)		
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(左右)、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	口縁部一部欠	酸化粒大小多	良	にぶい橙色 橙色	15.1 3.3	9.3	320
	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ器面状態不良。	床	体部上半5/6欠	密	良	にぶい橙色	(14.9) 3.6	(11.1)	349
	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部下半ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	体部1/4	細粒多	良	橙色	(14.7) (3.1)	(10.9)	
	6	須恵器	高台付杯	ロクロ調整。	ロクロ調整。	覆土	体部1/10	密	良	灰色 灰白色	(14.1) (2.5)	(10.9)	
	7	須恵器	杯	ロクロ調整。底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	床	体部1/2	白色粒大小	良	灰白色	(14.1) 3.7	8.8	303
	9	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～カマド	胴部上半2/3	長石、石英他大小砂粒多	良	橙色	24.8 (16.2)		
	10	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床	胴部上半1/3	長石他細粒多	良	にぶい橙色	(22.8) (10.2)	(22.8)	
102	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド～覆土	口縁部1/3	白色細粒	良	にぶい橙色	(20.9) (7.0)		
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ。	覆土	体部1/4	酸化粒大小多	良	にぶい黄褐色 橙色	(13.2) 4.2	(9.1)	318
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(左右)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ。	カマド～覆土	体部上半1/3欠	密	良	にぶい橙色	(12.1) 4.1	8.4	234

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
102	4	(須恵器)	杯	ロクロ調整。底部ヘラケズリか。器面状態不良。	ロクロ調整。器面状態不良。	カマド	体部1/5	大小砂粒多	良	黒褐色	(14.0) 7.8	 3.5	
	5	須恵器	高盤	ロクロ調整。体部下半回転ヘラケズリ（右左）。	ロクロ調整。	カマド	体部下半のみ	白色細粒	良	灰色	 (2.8)		
104	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半2/3	細粒多	良	明赤褐色 褐色	25.0 (15.3)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/6	酸化粒大小	良	にぶい赤褐色	(21.2) (13.5)	(21.9)	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	口縁部1/4	細粒多	良	明赤褐色 橙色	(19.1) (8.0)		
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部上半1/4	密	良	にぶい赤褐色 淡赤橙色	(13.4) (4.1)	(14.0)	
	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	胴部上半1/3	白色粒大小	良	赤褐色	(11.8) (4.2)		
	6	土師器	台付甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。脚端部指頭痕。	口縁部ヨコナデ、胴部、脚部ヘラナデ（右左)。	床～覆土	胴部1/2欠	細粒多	良	にぶい赤褐色	(12.3) 13.3	13.8 8.3	 1089
	7	土師器	台付甕	ヘラケズリ（上下)。脚部指頭痕を残す。	ヘラナデ。	覆土	胴部下半のみ	細粒	良	赤褐色 橙色	 (8.6)	 8.2	
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。粗いミガキを加える。	ヨコナデ、ヘラナデ、粗いミガキ。	床	体部3/3底部欠	白色粒大小多	良	黒褐色 にぶい赤褐色	13.4 (4.3)	 9.6	
	9	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床～覆土	体部1/4	密	良	橙色	(12.3) 3.8	 (8.7)	 245
	10	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。ミガキ？。器面状態不良。	床	体部一部欠	密	やや不良	浅黄橙色	13.3 5.2	 9.6	 360
	11	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床～覆土	体部1/3	密	やや不良	橙色	(12.1) (3.8)	 (8.2)	
	12	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	覆土	体部上半3/4欠	酸化粒大小多	やや不良	橙色	(12.8) 4.1	 8.2	 281
	13	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ、ヘラナデ。	カマド	体部1/2	酸化粒大小	良	橙色	12.5 4.4	 7.9	 296

104	14	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(左右)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ、ヘラナデ。	覆土	体部一部欠	密	良	橙色	11.4 4.0	7.1	210
	15	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ器面状態不良。	覆土	体部上半1/3	酸化粒大小	良	橙色	12.0 (3.7)	7.7	
	16	須恵器	蓋	ロクロ調整。体部上半回転ヘラケズリ（左右)。天井部ヨコナデ。	ロクロ調整。	覆土	体部下半1/6	白色細粒多	良	灰色	(19.7) (3.1)	(20.0)	
	17	須恵器	杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	覆土	体部1/3	白色細粒	良	灰色 灰白色	(13.6) 3.5	9.8	
	18	須恵器	杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ（右左)。火襷。	ロクロ調整。火襷。	覆土	体部1/2	白色細粒	良	灰白色	14.0 3.7	8.1	341
	19	(須恵器)	杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/4	白色細粒多	良	橙色 灰色	(13.5) 3.9	(9.8)	
	20	須恵器	甕	ロクロ調整。器面状態不良。端部摩耗。	ロクロ調整。	覆土	口縁部1/4	雲母他細粒多	良	明褐灰色	(22.0) (4.5)		
	21	須恵器		ロクロ調整。	ロクロ調整。	カマド	口縁部1/6	長石、石英他細粒多	良	灰色	(17.2) (2.0)		
	22	須恵器	甕	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ（右左)。	ロクロ調整。	床～覆土	底部2/3	白色粒他大小砂粒	良	灰白色	(2.4)	12.5	
	23	須恵器	長頸壷	ロクロ調整。胴部下半回転ヘラケズリ（右左)。高台部周辺、底部ヨコナデ。肩部自然釉。	ロクロ調整。	床～覆土	口縁部、胴部1/4欠	白色粒大小	良	灰色	(21.1)	15.0 7.9	
	24	(須恵器)		ロクロ調整。	ロクロ調整。	床		白色細粒	良	褐灰色			
	25	須恵器		ロクロ調整。	ロクロ調整。	床		密	良	灰色			
105	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。器面状態不良。	床～カマド～覆土	底部欠	長石、石英、酸化粒他大小砂粒多	良	橙色	21.9 (26.7)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下)。胴部煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	底部欠	長石、石英他大小砂粒多	良	橙色 暗赤褐色	19.4 (26.6)	22.3	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床	完存	大小、酸化粒多	良	橙色 にぶい褐色	17.9 20.2	19.1 7.0	3610
	4	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、右左)。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床	胴部上半全周	大小砂粒	良	にぶい黄橙色	16.0 (14.2)	16.0	

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径/器高	最大径/底径	容量A/容量B
105	5	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床	口縁部一部欠	密	良	橙色 赤褐色	14.5 13.4	 6.6	1050
	6	土師器	甕、転用甑？	ヘラケズリ（上下)。	ヘラナデ（右左)。	床	胴部下半のみ	大小砂粒多	良	にぶい橙色	 (20.1)	19.3	
	7	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ミガキ。	床	口縁部一部欠	細粒多	良	暗褐色 明褐色	13.9 8.6	14.5 7.8	750
	8	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。器面状態不良。	ミガキ。器面状態不良。	床	体部上半1/3欠	細粒	良	にぶい橙色	13.4 6.7	 6.1	420
	9	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（左右)。	ヨコナデ、ヘラナデ、粗いミガキ。	床	口縁部一部欠	長石、石英他細粒多	良	にぶい褐色 褐色	12.6 5.0	 5.0	280
107	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下、右左)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部1/3	大小砂粒多	良	にぶい褐色 にぶい橙色	(22.2) 30.2	 6.2	5857
	2	土師器	杯	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。体部ヘラケズリ（右左)。	ミガキ。	床	体部上半1/6	細粒多	良	にぶい橙色	(16.4) (4.5)		
	3	土師器	甑	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。粗いミガキ。	床	胴部上半1/3	白色細粒多	やや不良	橙色 にぶい橙色	(34.4) (21.5)		
	4	土師器	高杯	ヘラケズリ（右左、下上)。	ミガキ。	覆土	杯部下半のみ	長石、雲母他細粒多	良	にぶい橙色	 (3.0)		
	5	土師器	甕	ヘラケズリ（上下、左右)。	ヘラナデ。器面状態不良。	床	胴部下半1/3	長石他細粒	良	赤橙色	 (8.8)	 7.0	
108	1	土師器	甑	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。器面状態不良。	床	体部上半1/2	密	やや不良	橙色	(30.9) (19.0)		
	2	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（右左)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	床～覆土	胴部上半1/2	密	良	橙色	(20.2) (14.5)	(26.0)	
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。頸部炭化物付着。	床～覆土	胴部一部欠	白色細粒多	良	橙色 にぶい橙色	13.9 14.5	14.5 5.1	1510
	4	土師器	無頸壺	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。	床～カマド～覆土	体部1/4欠	密	良	にぶい橙色 橙色	11.2 10.5	14.6	990
	5	土師器	高杯	杯部ヨコナデ、ヘラケズリ(右左)、粗いミガキ。脚部ヘラケズリ（上下)、粗いミガキ。	杯部ミガキ。脚部ヘラケズリ（左右)、ヨコナデ。	床～カマド	杯部1/3欠	密	良	橙色	17.4 13.0	 12.7	610

108	6	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。口縁部漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	床	口縁部1/3欠	酸化粒他大小砂粒	良	にぶい橙色 にぶい褐色	10.0 3.6	10.6	160
	7	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ヨコナデ、ヘラナデ。	床	口縁部一部欠	長石他細粒多	良	赤褐色 にぶい橙色	11.4 4.3		210
	8	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。	カマド	体部上半1/3欠	細粒多	良	にぶい褐色	11.3 3.3		157
	9	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	カマド	体部上半1/2	細粒多	やや不良	橙色	11.7 (3.9)		
109	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。口縁部漆仕上。	ヨコナデ、ヘラナデ。放射状暗文。漆仕上。	覆土	体部1/4	大小砂粒	良	にぶい橙色 にぶい赤褐色	(10.4) 3.6	(11.0)	175
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。口縁部漆仕上。	ミガキ。漆仕上。	床～覆土	体部上半1/3	密	良	橙色 黒褐色	(11.0) (4.0)	(11.5)	
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。口縁部漆仕上か。	ミガキ。漆仕上か。	覆土	体部1/4	密	良	橙色	(10.2) (3.2)	(10.4)	140
	4	土師器		ヘラナデ、指ナデ。	ヘラナデ、指ナデ。	覆土	体部1/2	酸化粒他細粒多	良	赤褐色	7.1 2.8	4.4	
110	1	土師器	杯	口唇部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。器面状態不良。	ミガキ。	覆土	体部1/3	密	良	橙色	(13.8) (4.7)		
	2	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)、粗いミガキ。	ミガキ。	覆土	体部上半1/5	密	良	にぶい橙色	(13.6) (2.8)		
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。粗いミガキ。	ミガキ。	覆土	口縁部1/6	密	良	にぶい橙色	(10.9) (2.7)	(11.4)	
111	1	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。ミガキ。	覆土	体部下半1/4	白色細粒	良	橙色	(2.5)	(5.5)	
	2	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	底部1/2	密	良	黒褐色	(1.6)	6.0	
112	1	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部(右左)、底部ヘラケズリ。	ヨコナデ。	カマド	体部1/3	密	良	橙色	(14.2) (3.9)	(10.2)	349
114	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～カマド	胴部上半2/3欠	長石、酸化粒他大小砂粒多	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	(23.2) 29.9	7.2	6661
115	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。ケズリ痕不明瞭、ナデ状。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部1/2	長石他大小砂粒多	良	赤褐色	(22.6) 33.0	6.9	6040

竪穴	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
115	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	底部、胴部一部欠	大小砂粒多	良	にぶい橙色	21.7 (29.3)		
	3	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	覆土	胴部上半1/2	密	やや不良	橙色	(19.8) (21.2)	(23.7)	
	4	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（下上、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床	口縁部一部欠	密	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	17.9 12.8	7.8	1640
	5	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（右左)。	ヨコナデ、ミガキ。	覆土	体部上半1/4欠	密	良	黄橙色	14.0 5.2	14.4	450
	6	土師器	杯	ヨコナデ、ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床	体部上半1/3欠	密	やや不良	浅黄橙色	14.4 4.4		290
116	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下)。胴肩部以下煤付着。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	カマド	胴部一部欠	白色細粒他多	良	灰褐色 にぶい橙色	23.9 27.4	7.1	5940
	2	土師器	鉢？	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(上下、左右)。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	床～覆土	胴部上半1/3	細粒多	良	にぶい赤褐色 にぶい橙色	(24.4) (13.7)		
	3	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部、底部ヘラケズリ。器面状態不良。	ヨコナデ、ヘラナデ。器面状態不良。	床	体部1/3	長石他細粒多	良	明赤褐色	(14.1) 3.8	9.7	326
	4	須恵器		ロクロ調整。体部下半、底部回転ヘラケズリ(右左)。	ロクロ調整。底部自然釉。	覆土	胴部下半1/3	白色粒大小	良	灰白色	(9.9)	5.2	

建物	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
06	1	須恵器	杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	埋土	底部1/5	白色細粒	良	灰白色 灰色	(10.3) (0.8)		
	2	須恵器	杯	ロクロ調整。底部全面回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	埋土	底部1/4	密	良	灰白色	(8.4) (0.7)		
07	3	須恵器	蓋	ロクロ調整。体部中位回転ヘラケズリ（左右)。	ロクロ調整。	埋土	天井部のみ	白色細粒	良	灰色	(1.4)		
12	4	土師器	杯	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(右左)。粗いミガキ。	粗いミガキ。	埋土	体部上半1/3欠	密	良	にぶい橙色	12.5 3.8		251
16	5	土師器	椀	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。器面状態不良。	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ(左右）ののち一部ミガキ。	埋土	体部上半1/3	酸化粒他細粒多	良	赤褐色 灰赤色	(15.4) (5.6)	(15.7)	

土坑	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
02	1	土師器	甕	口縁部横方向のヘラナデ、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(右左)。	覆土	胴部上半1/4	白・黒色粒大小多	良	橙色	(21.4) (10.7)		
	2	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ハケ状。	覆土	口縁部1/8	密	良	にぶい橙色 浅黄橙色	(22.4) (6.8)		
	3	土師器	甕	ヘラケズリ（下上、左右）、煤付着。	ヘラナデ。一部ハケ状の条線を若干残す。	覆土	底部のみ	大小砂粒含	良	灰赤色 にぶい橙色	(4.4)	5.2	
	4	土師器	皿	ロクロ調整。体部下端手持ちヘラケズリ(右左)。底部回転糸切りののち全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部1/2	長石、酸化粒他大小砂粒多	良	橙色	13.4 3.0	6.3	196
	5	(須恵器)		ヨコナデ。	ヨコナデ。	覆土	小片	白色粒多	良	赤灰色			
14	1	土師器	甕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（上下）。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。粗いミガキを加える。	覆土	口縁部1/4	密	良	橙色	(14.0) (7.1)		
	2	土師器	高台付皿	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ(右左)。高台部ヨコナデ。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	ほぼ完存	酸化粒少	良	淡橙色 黒色	14.0 2.4	6.9	110
	3	(須恵器)	杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。器面状態不良。火襷。	ロクロ調整。	覆土	底部1/3	白色細粒多	やや不良	暗褐色	(2.8)	(8.4)	
15	1	土師器	高台付杯	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。高台部周辺ヨコナデを加える。墨書「生」。	ロクロ調整。ミガキ。黒色処理。	覆土	口縁部一部欠	密	良	橙色 黒色	14.6 5.1	7.6	340
	2	土師器	杯	ロクロ調整。体部下半(左右)、底部全面手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	覆土	体部2/3欠	酸化粒他大小砂粒	良	赤色	(12.9) 4.3	5.1	260
	3	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	覆土	口縁部一部欠	密	良	赤橙色	12.3 4.0	6.5	210

溝	番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	出土位置	現存量	胎土	焼成	色調（外/内）	口径 器高	最大径 底径	容量A 容量B
01	1	土師器	高台付杯	ヨコナデ。	杯部ミガキ。黒色処理。	覆土	高台部1/3	細粒多	良	浅黄橙色 黒褐色	(2.2)	(6.2)	
	2	土師器	高台付杯	ヨコナデ。	杯部ミガキ。黒色処理。	覆土	高台部1/3	密	良	橙色 黒褐色	(1.7)	(6.6)	
	3	須恵器	蓋	ヨコナデ。		覆土	紐のみ	密	良	灰白色	(1.5)		

III　ま　と　め

文作遺跡では、今回の調査によって、竪穴住居跡118軒(建替を含めた総数で149軒)、掘立柱建物跡34棟(建替を含めた総数35棟)、掘立柱列１列、溝１条、土坑35基が検出された。このうち竪穴住居跡116軒（147軒)、掘立柱建物跡、掘立柱列、溝、土坑15基が古墳時代終末期(飛鳥時代)から奈良・平安時代に比定され、ほぼ継続的に経営されたことが想定される。集落としての範囲は、さらに南方へ展開すると考えられ、同時期の土器片の散布も認められるが、集落跡の調査例としては比較的まとまったものとなっている。ここでは本遺跡における古墳時代終末期から奈良・平安時代の集落の構成、およびその問題点について、若干の検討を加えておきたい。

時期区分

近年、千葉県では、とくに奈良・平安時代について土器編年作業が進展しており(1)、ここではこれらを参照し、集落分析の前提として若干の検討を加えておきたい。ただし今回は同時併存遺構の抽出を目的とするものではない。各住居跡の出土土器も全体として限られており、これをできるだけ網羅的に対象とするため、土器編年では指標的な定性的変化を取り上げ、器形的・技法的・法量的に特徴・基準を明示できるレベルでの大別的な枠組みにとどめておく。この地域では、古墳時代終末期については、形式構成が多様で、個々の型式変化、形式分化・集合も先鋭であり、鬼高式から真間式にいたる明確な土器様式の画期を認めることができる。また奈良・平安時代については現在提出されている編年案からするならば大別的であり、良好な個別一括資料を摘出し配列するならば、さらに細別は可能であるが、筆者の能力によるところもあり、今後資料として活用されることを期待したい。なお当センター石田広美ほか諸氏より種々の御教示をたまわっている。

Ⅰ　期

須恵器杯身・杯蓋模倣杯を主体とする段階であり、須恵器模倣杯を「鬼高式」の基準としておおまかにとらえるならば、その最終段階に相当する。

Ⅰ期は、ａ・ｂの２小期に区分される。指標とする竪穴住居跡は、Ⅰａ期が竪穴住居04、Ⅰｂ期が竪穴住居23・36・37・51・78・108などであるが、ともに資料的に限られている。Ⅰａ期須恵器杯身模倣杯は口径12cm前後、最大径13cm前後を測り、内向する口縁部と底部との境は、段状の稜により区画されている。竪穴住居04－12は須恵器杯蓋模倣杯の系列下にある。口径12.4cmを測り、口縁部と底部との境界は不明瞭化している。

Ⅰｂ期は杯法量が最も小形化する段階にあたり、口径11cm前後を基準とする。椀状の杯が増加し、須恵器杯身模倣杯口縁部と底部の境は、段状の稜、凹線をともなうものの他、単なる屈曲により鈍化しているものもみられる。また、口縁部は内向するものも存在するが、短く直立するものが大半を占め、椀状の杯を含め、範型としての須恵器杯身・杯蓋の区分は不明瞭である。なお平底化したものが散見される（竪穴住居40－17・18他)。Ⅰ期はこれに長胴・丸胴甕、内側に屈曲する口縁をもつ椀（無頸壺)、高杯を主要な器種構成とする。長胴甕については、Ⅰａ期の(口径＜胴部径)から、Ⅰｂ期(口径≦胴部径）への変化が認められる。なお、本遺跡では黒色処理をともなうものは明瞭ではない。ほかに「漆仕上」(2)土器が散見されるが、分析も経ておらず、土器観察表において「漆仕上か」、「漆仕上

第151図　文作遺跡Ⅰ期竪穴住居跡

の可能性あり」等の表現を使わざるをえなかったように、その同定についてなお問題がある。

Ⅰａ期に先行するものとしては、隣接する下ケ谷遺跡(3) 2・3（第6図）・4・5・6号住居跡出土土器がある。須恵器杯身模倣杯では口径13cm、最大径14.5cm前後する数値を示す。ただし、大別的枠組みとしては文作遺跡Ⅰａ期をこれに含め、Ⅰｂ期と区別することが妥当であろう。Ⅰｂ期は須恵器において身蓋の逆転期に対応し、ほぼ飛鳥藤原II期とその年代の1点を共有するものと考えられる。なお竪穴住居78－1は畿内暗文土器の模倣品と考えられ、胎土は在地のものである。口高指数(器高／口径×100）は37.3であり、ラセン文はみられない。

II　期

Ⅰ期に対して、明瞭な土器変化の画期を認めることができる。この段階もａ・ｂの2小期に区分される。指標とする竪穴住居跡は、IIａ期が竪穴住居29・48・74・87・91、IIｂ期が竪穴住居06・115などであるが、IIｂ期は資料が限られている。IIａ期杯は、須恵器模倣杯にかわり、半球状の器形を呈し、放射状暗文をともなうものが主体化する。また、Ⅰ期までが基本的に一器形一法量を原則とするのに対して、この半球状の杯は口高指数37前後を基準とし、同一の器形をとりながら、その容量が多様化する。口径においては、15cmをこえるものから10cm以下のものまで多様であり、規格的な区分は認めにくいが、容量（第159図）では、200ccと350ccに分布の中心が認められる。IIａ期には、Ⅰ期の系列下にある、屈曲する口縁をもつ杯も客体的に存在する。ただし口唇部外面に若干の段を表現するものの内面は椀状化しているもの、屈曲部に弱い稜線が認められるだけのものなど、その型式変化は明瞭である。また、椀は屈曲内向する口縁をもつものもみられるが、屈曲部は鈍化し、竪穴住居48－7～9のように、杯同様半球化を指向する。高杯は、容量の大形化、脚部の柱状化が指摘できる。伴出する須恵器は、竪穴住居74－28のようなフラスコ状の長頸壺など東海産が主体であると思われる。杯・蓋の出土例は限られているが、大形化は明瞭ではない。

IIｂ期は、杯口径が最も大形化する段階である。竪穴住居06－5・6は口径16.2、14.0cmを測る。この段階は、良好な資料が少なく、法量を組成的にとらえることはできなかった。ただし、IIａ期における多様化は一時的であり、「形式分化」として安定していないと考えられる。口高指数は30前後を示し、器高は低くなり、体部の腰が張り、平底化を指向する。竪穴住居95例などは本期との関係において問題を残す。なお、放射状暗文はこの時期においてすでに客体化している。この時期は須恵器杯・蓋も大形化し、竪穴住居15－6のような突出する底部をもつ高台付杯が伴出する。

II期における長胴甕は、口径比がさらに拡大し（口径＞胴部径）となる。また、丸胴甕・高杯はこの段階まで存在する。

III　期

ロクロ未使用の土師器杯を主体とし、底部と体部の境が明確化する段階である。この段階もａ・ｂの2小期に区分される。指標とする竪穴住居跡は、IIIａ期が竪穴住居09・72・95・100・101、IIIｂ期が竪穴住居33・55・56・84・102・104などである。IIIａ期・IIIｂ期の区分は主に杯の法量にもとずくものであり、IIIａ期は口径13.5cm前後以上、口高指数23前後、IIIｂ期は口径13cm前後、口高指数30前後を基準とする。IIIａ期にはII期の系譜をひく丸底椀状の杯が伴出すると考えられるが、個々の住居跡資料では出土量が少なく、その組成変化を問題とすることはできない。今回は丸底・平底を基準として単純化しているため、出土量の少ない住居跡の比定は、厳密には前後する可能性は否定できない。

第152図　文作遺跡II期竪穴住居跡

この問題は、非ロクロ、ロクロ使用杯を基準とするIII期、IV期にもあてはまる。IIIb期、ロクロ土師器の伴出は、竪穴住居55にみることができる。この段階には、非ロクロ土師器杯底部は、若干突出するものから、明確に平底化する。須恵器は、IIIa期において東海産を主とする段階から、永田・不入窯等市原産に転換し、IIIb期はこれに千葉産を伴出する。IIIb期、竪穴住居33では、6が千葉産、7が市原産、8が常陸産であろうか。甕については、III期において器高の減少がみられる。

坊作遺跡編年(4)によるならば、IIIa期が坊作B期・I－a期、IIIb期が坊作I－b期・II期におおよそ対応するものと思われる。

IV　期

逆台形を呈するロクロ土師器杯を基準とする時期であり、口底指数（底径／口径×100）が50以上を示す。この段階もa・bの2小期に区分される。指標とする竪穴住居跡は、IVa期が竪穴住居38・58・92、IVb期が竪穴住居08・62・88などである。IIIa期・IIIb期の区分は主に杯の法量および体部下半、底部の調整技法を基準とする。IIIa期は口径13cm前後以上、14cmをこえるものも認められ、口高指数は30前後を示す。ただし、口底指数は50～60と幅があり、また体部下半、底部の再調整として、回転ヘラケズリが一般的に認められるものの規格化されていない。ミガキが施されているものも認められる。

IIIb期は、口径13cm前後、口高指数35前後でおおよそ規格的である。ただし、竪穴住居62－25・27など、口径比の収縮にともない口高指数が40をこえるものも存在する。体部下半、底部の再調整はこれを欠くものがしだいに主体化する。この段階には、皿とともに高台付内面黒色処理の杯も存在が明確化してくる。III期須恵器については、甕・甑など、器形的に判断できるものを除き、識別可能なものはきわめて限られている。坊作遺跡編年によるならば、IVa期が坊作IV期、IVb期が坊作V・IV期におおよそ対応するものと思われる。

V　期

口底指数50以下のロクロ土師器杯を基準とする時期である。指標とする竪穴住居跡は、竪穴住居11・18・20・85などである。口径は13cm前後であり、IIIb期とほぼ一致するが、体部下半の手持ちヘラケズリが主体化することにより、体部下半が屈曲し、底部が小形化する。これにともない、容量自体もさらに小形化する。また同時に足高高台付杯、内面黒色処理の高台付椀・皿などが出現する。坊作遺跡編年による、IV期に対応する。竪穴住居18出土灰釉陶器は、黒笹第90号窯期に対応するものと考えられる。

VI　期

この段階は、高台付椀からなる竪穴住居99を基準とし、一応V期から区分しておく。

竪穴住居の変遷

本遺跡は、竪穴住居規模・規模構成が小形安定化し、また当該地域において掘立柱建物が普及する時期にあたり、その過程を問題とすることが可能である。

各時期の住居数は、I期19軒、II期25軒、III期31軒、IV期15軒、V期17軒、VI期1軒、不明8軒である。これは建替住居の場合その最終段階のもののみであり（第5表　総数a）、便宜的に建替住居をその時期に含めた場合（第5表　総数b）、I期27軒、II期37軒、III期38軒、IV期19軒であり、V期、

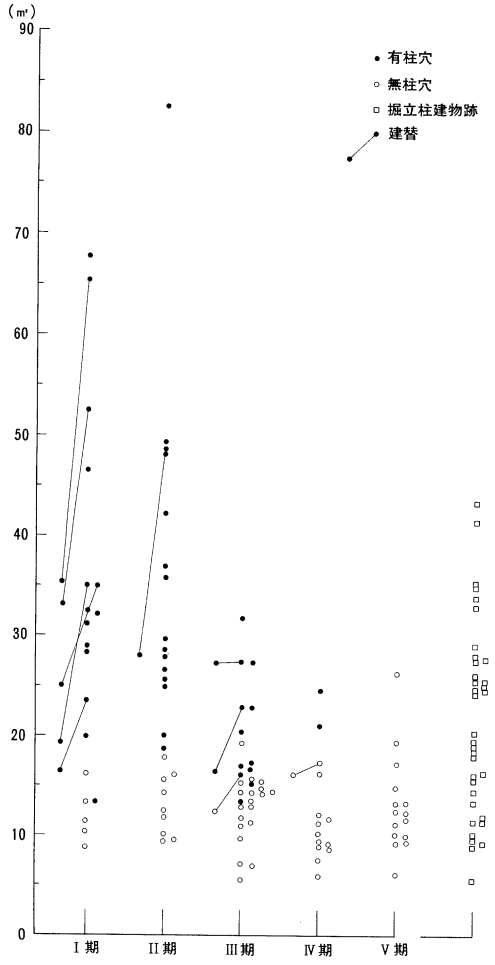
第153図　文作遺跡III期竪穴住居跡

VI期には建替住居は認められていない。

ここでは、同時併存住居の抽出を含む、具体的な変遷を目的とするのではなく、住居間の規則性など、各時期の「傾向」を若干問題としておきたい。

Ⅰ期は、住居規模が最も大きい段階であり、掘り込み面（確認面）平均面積は、29.79㎡を測る。これは、当該地域における鬼高式期集落の平均的な数値であり、これ以降小形化がすすむ。

Ⅰａ期は、竪穴住居04のみである。主軸方位について、Ⅰｂ期竪穴住居52とほぼ対応し、竪穴住居52が2回の建替を含むことから、同時併存の可能性も考えられる。Ⅱｂ期は、地域的に3単位の住居群に区分される。南東部の住居跡群は、主軸方位に関して竪穴住居40・43・51と、竪穴住居36・49、これに竪穴住居44・65を含めた住居群にさらに区分され、これは時期差を示すものと考えられる。北部は竪穴住居108・109により構成され、また南西部の住居群は、竪穴住居16・19・23・30が主軸をそろえ配列されている。なお、竪穴住居78については、Ⅱａ期の住居群と主軸方位が対応し、廃棄時期の相違を示すものと思われる。Ⅱａ期は、北部の住居群、竪穴住居105・107・110を除き、調査区中央部に散在する。これを、北側竪穴住居78（Ⅰｂ期）・87・91、南東側竪穴住居29・31・73・74などに区分することも可能ではあるが、最大の規模をもつ竪穴住居48と北側竪穴住居78・87・91の主軸方位の一致を考慮するならば、全体として集合・配置されていたことが考えられる。これに対してⅡｂ期の竪穴住居は、調査区南側に後退し、主軸方位に規則性が認められるものの散在化する。おそらくこの段階に、Ⅱａ期における大形竪穴住居群の集合化を前提として、掘立柱建物群が出現するものと思われる。この場合、竪穴住居47・54、竪穴住居46・60は掘立柱建物群と共存することが考えられる。



第154図　竪穴住居・掘立柱建物規模構成

このⅡｂ期からⅢ期にかけて竪穴住居規模、規模構成の小形安定化が明確となる。平均規模はⅢ期が15.15㎡、Ⅳ期が12.27㎡、Ⅴ期が13.12㎡である。なお、この段階以降、竪穴部分を内土間とし、外周部に住居空間を想定する見解もあるが、中世における一般農民層の掘立柱建物はこれとほぼ同規模であり、その規模から住居として不適当であるとは考えられない。またⅢ期以降、主軸方位にもとずく住居配置の規則性も不明確化する。Ⅳ期竪穴住居61・62にみられるように、その住居構造を含め同時併存が想定されるものもあり、また、Ⅲ・Ⅳ期では住居群が地域的に分立する傾向が認められるが、Ⅴ期になるとこの小住居跡群も不明瞭となり、全体に散在化していくのである。

現在、とくに奈良・平安時代については、同時併存住居の抽出が期待される程度まで、年代的に土器編年は細分されつつあり、そのような作業も提示されている。これにともない方法論自体をさらに整理・深化させていく

第155図　文作遺跡Ⅳ期竪穴住居跡

必要がある。土器編年にもとずく分類は、あくまでも土器編年の枠内における廃棄の同時性から類推されるところの同時併存であり、集落分析における便宜的な原則にすぎないのである。個々の住居単位の廃棄にいたる歴史、その集合としての、集合・拡大・分岐・離散といった、集落の動態を問題とするには、さらにこえなければならないハードルがある。主軸方位に示される住居間の規則性についても、厳密には同時併存とともに、分居、建替（異地点への）を考慮する必要がある。「群」として住居をとらえる視点は学史的に評価されなければならないが、小住居跡群（単位集団）を前提とし、これを区分することが目的であるならば集落論は戦後なんら前進していない。まず土器編年の客観化が不可欠であり、これを前提として住居間の関係を集落の動きの中で復元していかなければならない。

ここでは、住居規模が小形安定化すること、それと同時に、住居配置に規則性が認められなくなり、散在化していくことを指摘しておくにとどめたい。

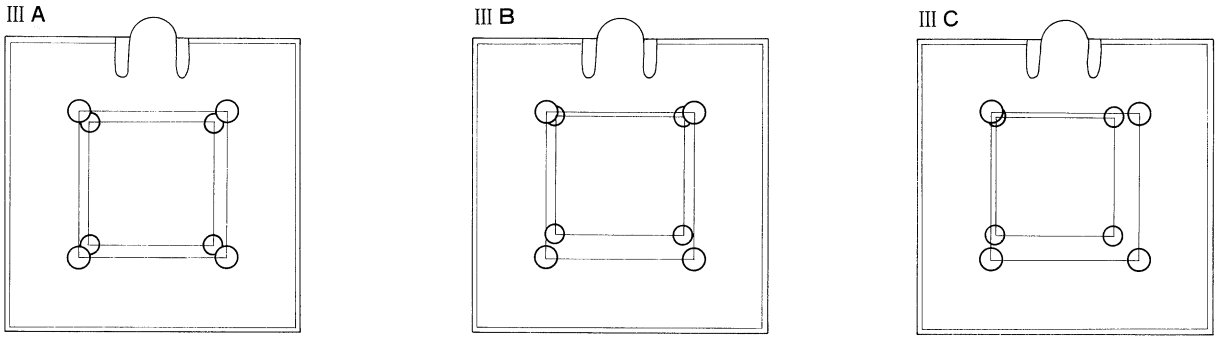
建替住居

住居個々の「歴史」を検討する素材として建替住居を取り上げることができる。用語として、「建替」は広義の「重複」に含まれるが、「建替」とは、具体的には、個々の竪穴住居跡において掘形あるいは周溝、主柱穴、梯子穴、カマド、貼り床等の住居内施設に規則的な重複が認められるものをさす。厳密に出土土器等によってその連続性を検証することは困難な場合が多く、古竪穴の埋没過程における落ち込みを利用して掘り直した場合、可能性として「建替」と狭義における「重複」を区分できないことも考えられる。ただし実際にはその識別は容易である。ただし、多くの場合主柱穴の重複を基準とするため、無柱穴、あるいは無柱穴から有柱穴への建替は確実に把握することは困難である。また「建替」には「同位置における建替」および「異地点における建替」が想定されるが、ここで主に問題とするのは前者である。

各期における状況は、第5表にもまとめてあるが、Ⅰ期19軒のうち7軒、II期25軒のうち8軒、III期31軒のうち7軒、IV期15軒のうち3軒に建替が認められる。建替率はしだいに低下する傾向にある。また、建替には「同規模」のもの、および「拡張」をともなう建替が認められる。部分的な埋め戻しを必要とする「縮小」は存在しない。第154図は竪穴掘形において旧竪穴の範囲が明らかなものを表示したが、その掘り込み面の拡張率は、Ⅰ期竪穴住居04ＡＢが144.3%、竪穴住居49ＡＢが183.3%、竪穴住居51ＡＢが141.1%、竪穴住居52ＡＣが158.4%、竪穴住居78ＡＢが188.2%、II期竪穴住居91ＡＢが170.8%、III期竪穴住居03ＡＢが129.4%、竪穴住居50ＡＢが141.3%、竪穴住居101ＡＢが100.1%、IV期竪穴住居62が100.2%である。

また、これを基準として主柱穴の重複関係をみると、「同規模」、「拡張」に対応し、いくつかのパターンが存在する（第157図）。（IIIＡ）はほぼ同位置ないしは対角線上外側に掘り直されているものであり、竪穴住居44・48などが例示できる。（IIIＢ）は柱穴2基、1辺を基準として1方向へ拡大するものであり、竪穴住居04・78などが例示できる。（IIIＣ）は柱穴1基、竪穴1コーナーを基準として拡張するものであり、竪穴住居49・54・87などが例示できる。なお（Ⅰ）類は無柱穴から無柱穴、（II）類は無柱穴から有柱穴、（III）類は有柱穴から有柱穴の建替としておく。このうち「拡張」に対応するものは（IIIＢ）、（IIIＣ）であり、「同規模」に対応するものは（IIIＡ）である。（II）については、基本的には「拡張」に対応すると考えられる。なお（IIIＡ）では、建替にともない掘り込み面（確認面）に対する内区の面積率の

第156図　文作遺跡Ⅴ・Ⅵ期竪穴作居跡



第157図　建替住居模式図

みが拡大することとなるが、下記住居跡における旧柱穴を基準とした掘り込み面に対する内区面積率は、最小で竪穴住居36Bの15%であり、建替の認められない住居跡により算出したものと矛盾せず、上屋の構架は可能であると考えられる。

これによるならば、前記の竪穴住居跡の含め、I期竪穴住居04・49・51・52・78、II期竪穴住居35・54・87・91、III期竪穴住居03・50が「拡張」、I期竪穴住居36・44、II期竪穴住居29・31・48・73、III期竪穴住居25・95・100・101・104、IV期竪穴住居61、およびおそらくIV期(I)の竪穴住居07・62が「同規模」と判断される。なお複数回建替がみられる住居では、拡張としたもののなかに同規模での建替を含む可能性もあるが、今回は考慮しなかった。また、つねに拡張される住居が存在する一方、本遺跡最大の規模をもつ竪穴住居48は2回の建替を同規模で行っている。中核的な存在としての機能をもつのであろうか。

以上の結果によるならば、I期が建替率とともに拡張率も高く、拡張もしだいに減少していくことがうかがわれる。

「拡張」は、居住員の増加を基本的な要因とする。居住員の増加をいかに処理するかにより、基本的な集団の紐帯を問題とすることが可能である。居住員の増加とは、婚姻および子の誕生、あるいは夫婦一方の死亡などにもとずく、破片的成員の再編成等が想定される。ただしその拡張率は、上記したように漸移的ではなく、この段階では、子の誕生を基本的な要因とすることはできないように思われる。本遺跡では明確に認められなかったが、鬼高式期大形住居では間仕切りなどの住居内施設も存在しており、夫婦関係を単位とし、大形住居では複数単位の同居が想定される。これが親子関係を基本的な紐帯とするならば、夫(父)方居住婚ないしは、妻(母)方居住婚ということになろうか。また、居住員の増加はつねに拡張にむすびつくのではなく、鬼高式期においても「分居」により処理される

時期	総数a軒	平均面積㎡	総数b軒	平均面積㎡	建替軒	建替率%	建替1回	建替2回	建替3回	建替I軒	建替II軒	建替IIIA軒	建替IIIB軒	建替IIIC軒	同規模軒	拡張軒	拡張%
I	19	29.79	27	28.88	7	36.8	6	1	0	0	0	2	3	2	2	5	71.4
II	25	27.20	37	27.23	8	32.0	5	2	1	0	0	4	1	3	4	4	50.0
III	31	15.15	38	15.44	7	22.6	7	0	0	0	3	4	0	0	5	2	28.6
IV	15	12.27	19	12.52	3	20.0	2	1	0	2	0	1	0	0	3	0	0
V	17	13.12	17	13.12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VI	1	−	1	−	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第5表　竪穴住居跡規模・建替

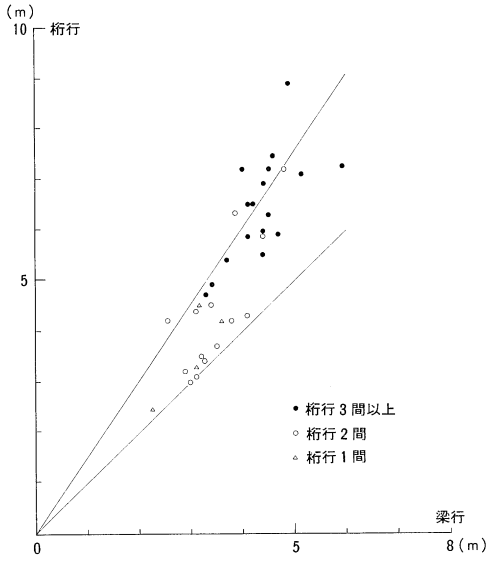
場合が別に想定され、III期以降はこれが主体となる。夫婦関係の相対的な安定化にともない、日常的な生活単位として、一夫婦と未婚子からなる核家族的な結合が一般化することが想定されるのである。

掘立柱建物跡

今回の調査により、掘立柱建物跡は建替を含め35棟が検出された。これは地点的に集合し、その配列にも規則性が認められる。竪穴住居跡との重複関係よりその時期を判断するならば、掘立柱建物11・14・17・19がⅠb期竪穴住居跡を、掘立柱建物08がⅡa期竪穴住居跡を、掘立柱建物21がⅡb期竪穴住居跡を切る。掘立柱建物22はⅡb期竪穴住居跡に切られているが、おおよそ掘立柱建物の時期的な中心がⅡ期以降にあることを示している。当該地域における掘立柱建物は、官衙関連施設が出現する本遺跡編年でのⅡb期以降に一般集落においても普及するようであり、本遺跡での上限もほぼこの段階にあると考えられる。また掘立柱建物20・22・30はⅢb期竪穴住居跡に、掘立柱建物11はⅣa期竪穴住居跡に、掘立柱建物32はⅣb期竪穴住居跡に、掘立柱建物63はⅤ期竪穴住居跡に切られており、本遺跡における掘立柱建物はⅡb期以降各期にわたるのではなく、ほぼⅡb・Ⅲ期を中心とすることがわかる。掘形埋土より出土した土器は、掘立柱建物16がⅡa期、掘立柱建物12がⅡb期に、掘立柱建物06・07がⅢ期に比定され、その上限期としては、竪穴住居跡との重複関係による結果と矛盾しない。

本遺跡では、G10区周辺部において最多5期にわたる重複が認められる。この重複関係および建物相互の規則性をもとに、建物群の変遷、構成を検討する必要がある。しかし、建替が不規則に行われていることもあり、単純に区分することができなかった。掘立柱列と掘立柱建物31・32・34など、部分的ではあるが、同時性を想定できるものもあり、今後改めて検討を加えてみたい。

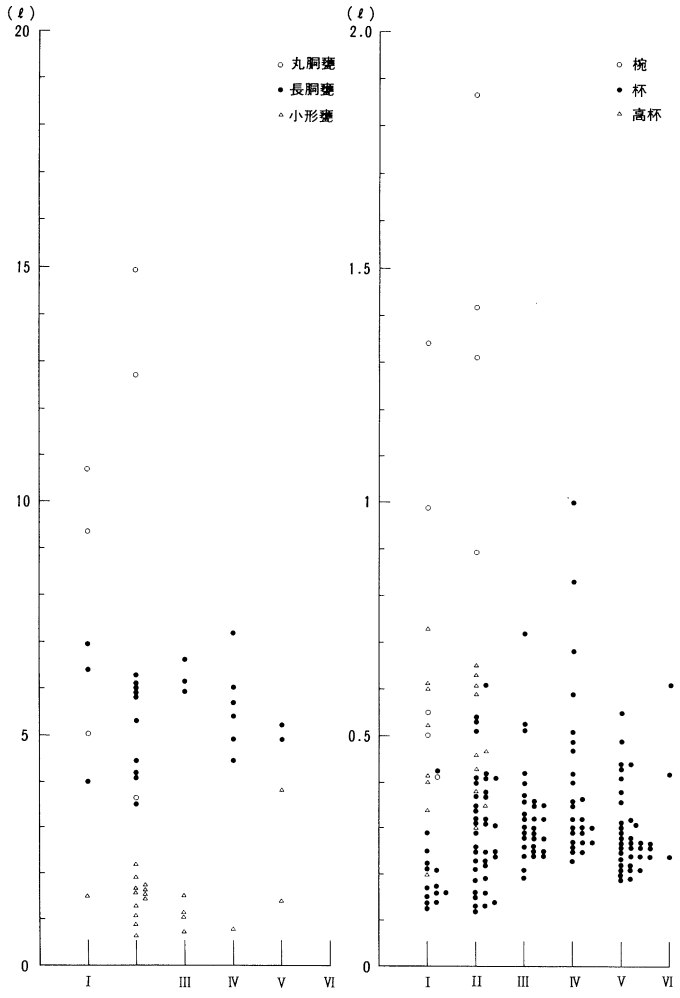
本遺跡における掘立柱建物は、最大6×3間面積42.84㎡から1×1間面積5.17㎡まで、総柱建物は明確ではないものの、その構成は多様である。その機能については、基本的に住居としてとらえる見解[5]がある一方、石田広美氏は、東金市山田水呑遺跡を対象として、高床住居、低床住居、内土間住居、倉庫、作業所、納屋に分類している[6]。その分類は、住居は3×2間以上の規模をもつこと、倉庫は2×2間、2×1間、1×1間、10㎡以下の、総柱ないしは側柱建物で、側柱建物では柱間2.5m以下の方形建物。作業所は2×2間を基本とし、15㎡以上の規模をもつもの、納屋は2×2間を基本とし、10～15㎡の規模をもつものを基準としている。これを文作遺跡にあてはめるならば、掘立柱建物01・03・06・07AB・08・12・14・16・18・22・24・26・27・30・34が住居、掘立柱建物02・04・05・33が倉庫、掘立柱建物17・20・23・25が作業所、掘立柱建物13・15・21・28・31が納屋、掘立柱建物09・10・11・19・29・32が不明ということになる。しかしこの場合、住居とした掘立柱建物の面積は16.19㎡～42.84㎡、平均27.70㎡となり、25㎡以上を基本とする大形建物に限定される傾向にある。これに対して、仮にすべてを住居とした場合、平均規模21.17㎡となり、II・III期竪穴住居



第158図　掘立柱建物規模構成

跡平均規模、規模分布(第154図)とほぼ対応する。またII・III期竪穴住居跡の20㎡以上未満(7)の比率は、II期13対10軒、III期6対25軒、II・III期19対35軒、有柱無柱では26対28軒、掘立柱建物20㎡以上未満は17対18棟、桁行3間以上未満17対18棟となる。相互の時期的な対応を明確にすることができないためやや不明瞭ではあるが、すくなくとも小形方形建物を住居以外の施設とすることは、掘立柱建物に特殊性を認めないかぎり不自然である。しかし、仮に倉庫を総柱建物に限定した場合、本遺跡ではこれを欠くことになる。同様の状況は八千代市村上遺跡(8)、八千代市権現後遺跡(9)などにもみられ、山田水呑遺跡においても52棟のうちの1棟にすぎないのである。側柱建物を基本的に住居としてとらえる視点については批判もある(10)。しかしこれは、静岡県以東南関東地方において、弥生時代以降一貫して倉庫の存在が不明確であることをあわせて説明しなければならないであろう。おそらく掘立柱建物の機能分化が明確化するのは、平安時代末から中世において、方形区画にもとずく屋敷地が一般化する段階以降であると考えられ、名主層では、室、土間といった建物内の分割化をともない、住居としての掘立柱建物はこの段階に大形化が認められるのである。

掘立柱建物の普及にともない、建物の機能が分化していく可能性は当然考慮しなければならないし、群馬県黒井峯遺跡(11)では多様な建物が検出されている。ただし時期的にやや異なるものの、黒井峯遺跡、あるいは大阪府小坂遺跡(12)の状況をみる限りでは、作業所などは簡易的な平地建物として現れるようである。いずれにせよ、掘立柱建物は、その遺構としてもつ内容が単純であり、一遺跡において結論を与えることはできない。今後の検討課題ということになろうか。



第159図　文作遺跡土器容量

土器容量

土器容量は、消費規模、消費生活を反映する基礎的な情報としてとらえることができる。とくに甕形土器については消費規模を問題とする上で、今後ともデータを集積していく必要がある。文作遺跡では計測可能資料が限られていたため、当該期における傾向を明確にみることはできなかった。器形的にはII期以降胴部径比の収縮、および器高の減少が認められるが、容量に反映しているかどうかは不明である。すくなくとも住居規模の変化に対応するような急激な変化は、ここでは認められない。なお、I・II期では10ℓをこえる丸胴甕が存在するが、III期以降には、今回計測可能土器が存在しなかったものの、須恵器甕がこれに対応する容量をもつ。

ただし、この段階では、丸胴甕、あるいは須恵器甕、長胴甕、小形甕が、その器形、容量において明確に区分されており、相対的な規格化が認められる。これに対してとくに和泉式以前については、器形的にも容量分布においても大中小といった明確な区分を設定することはできず、個々の住居単位の消費規模を反映する可能性も考えられる(13)。また杯・椀などの食卓用土器(共膳形態)も、II期において一時的な多様化を示すものの、これ以降器種構成は限定され、容量も安定する。椀などの共用器もしだいに減少する。食器構成の単純化、規格化は、土器の生産規模の大形化、生産体制の相対的な専業化に関連すると思われるが、これは同時に、同居共食にもとずく日常的な生活単位の縮小と密接な関係をもつ。

現在、土井義夫氏ら(14)による住居間の土器の接合が集落分析における一つの有効な手段として提示されている。これをいかに解釈するかは今後の問題ではあるが、廃棄・埋没にいたる集落のサイクルのなかで各住居跡とらえることが可能であろう。今回の整理作業では、整理場所の都合から、距離20m以内に限ったが、住居間の土器の接合を実施した。しかし整理期間が限られていたこともあり、重複住居跡間を除くと、竪穴住居07・08、竪穴住居93・100で確認できたにすぎなかった。ただし、今後とも整理作業において考慮していく必要があろう。

現状の「集落論」は土器編年作業における副産物である場合が多い。そのなかで同時併存遺構の摘出作業が盲目的な目的となっている。「同時性が摘出できれば何かがわかる」、あるいは「同時性が摘出できなければ何もわからない」のであろうか。集落論にはたして目的があるのか。漠然とした「社会」「社会構成」では、方法論の進歩もありえないような気がする。

以上、調査結果からいくつかの問題点を指摘してみた。現在竪穴住居跡は最も普遍的な遺構として日々量産されている。竪穴住居に対する問題意識は過去のものとなり、調査方法も簡略化されつつある。しかしその内包する情報量はまだまだ豊富であると思われる。今後の調査のなかでさらに問題点を掘り下げていきたい。

(1) 史館同人・市立市川考古博物館　1983『房総における奈良・平安時代の土器』
房総歴史考古学研究会　1987『房総における歴史時代土器の研究』

(2) 藤田典夫・永嶋正春　1987『稲荷塚・大野原』栃木県教育委員会
萩原恭一・小林信一・永嶋正春　1988『東金市久我台遺跡』財団法人千葉県文化財センター
「漆仕上」の名称については上記による。

(3) 浅利幸一　1987『下ケ谷台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第18集

(4) 田所　真　1987「市原市坊作遺跡（市原郡）」　註(1)

(5) 伊丹　徹　1985「奈良・平安時代相模国の掘立柱建物」『神奈川考古』第20号

(6) 石田広美　1977「掘立柱建物址の分析」『山田水呑遺跡』山田遺跡調査会

(7) 大村　直　1988「竪穴住居に住む人々」『考古学研究』第32巻第4号
上記では、25m²をおおよその基準として居住員構成の区分を問題としたが、ここではII a期竪穴住居跡、掘立柱建物の規模分布から(第154図)、20m²を基準としておきたい。

(8) 天野　努・谷　旬ほか　1974『八千代村上遺跡群』財団法人千葉県都市公社

(9) 阪田正一ほか　1984『八千代市権現後遺跡』財団法人千葉県文化財センター

(10) 萩原恭一　1986「千葉市大北遺跡の検討　－律令制下東国の一様相－」『千葉県文化財センター研究紀要』10

(11) 石井克己　1987「黒井峯遺跡の概要」『月刊文化財』288号

(12) 村上年生ほか　1987『小坂遺跡（その３）』財団法人大阪文化財センター

(13) 大村　直　1987『下鈴野遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第16集

(14) 土井義夫・塩野塚直子　1984『宇津木台遺跡群IV』八王子市教育委員会

(15) 第159図、甕形土器については計測可能資料すべてを示している。杯・高杯・椀については、Ⅰ期竪穴住居04（10、11、12）・23（８、17）・36（９、11）・37（10、12）・40（４、６、８、12、13、15、17）・51（４、５、６、７）・108（４、５、６、７、８）・109（１、３）、II期竪穴住居06（５、６）・48（11、14、15、16、17、19、20、23）・74（９、10、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27）・87（14、15、16、17、18、24、25、26、28）・91（６、７、８、９、10、16、17、19、20、22、23、24、25、28、29）、III期竪穴住居33（６、７、８、９）・55（６、７、８、10、11、12）・56（１、５、６、７）・72（４、５）・95（２、４、５）・100（４、５）・101（３、４、７）・104（９、10、12、13、14、18）、IV期竪穴住居38（７、８、９、10）・62（15、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、29、30）・92（３、５、７、８、９、10、11、12、13）、V期竪穴住居11（４、５、６、７、８、９、11、12、13、15）・18（５、６、７、９、10、11、12、13、15、17、24、25）・20（１、２、３、４、５、６、８）・85（３、６、７、８、10、11、12）、VI期竪穴住居99（２、３、４）による。なお覆土出土土器についても、明らかに時期が異なるものを除き含めてある。また高台付椀についてはその容量区分から杯として表示してある。